

SETSUNAN UNIVERSITY  
**SYLLABUS**

2016 外国語学部 授業  
計画  
外国語学科

**II**

外 国 語 学 部

(学部略号：L)

Faculty of Foreign Studies

外国語学科

(学科略号：L)

Department of Foreign Studies

## 外国語学部 教育目標

外国語学部外国語学科は、外国語と日本語によるコミュニケーション能力および異文化と日本の文化に対する理解を涵養し、人間力・実践力・統合力を身につけた、異文化接触の現場で活躍できる知的専門職業人を養成することを目的とする。

※**外国語学部 外国語学科Ⅱ**に掲載されているのは、目次:P.3～P.14、  
専門科目：P.513～P.1044 になります。

専門科目：P.15～P.512 は **I** に、基礎科目：P.1045～P.1132、教養科目：P.1133～P.1250、キャリア形成科目：P.1251～P.1274、教職科目：P.1275～P.1311 は **Ⅲ** に掲載されております。





# 授 業 計 画



科目名	担当者	ページ
<b>ア</b>		
アカデミック スタディーズ	マイケル ハーキー	17
Academic Writing	家 口 美智子	18
Academic Writing	杉 浦 秀 行	20
Academic Reading	フーバー トッド	22
Academic Reading	天 野 貴 史	23
朝日新聞社寄付講座「現代社会と向き合う」	荻 田 喜代一	1135
アジア文化論	森 田 良 成	24
アドバンスト イングリッシュ a	後 藤 一 章	25
アドバンスト イングリッシュ a	杉 浦 秀 行	27
アドバンスト イングリッシュ a	ニール カー	28
アドバンスト イングリッシュ a	皆 本 智 美	29
アドバンスト イングリッシュ a	東 野 厚 子	30
アドバンスト イングリッシュ a	マーティン オイクル	32
アドバンスト イングリッシュ b	俣 野 裕 美	34
アドバンスト イングリッシュ b	杉 浦 秀 行	35
アドバンスト イングリッシュ b	ニール カー	36
アドバンスト イングリッシュ b	皆 本 智 美	37
アドバンスト イングリッシュ b	東 野 厚 子	38
アドバンスト イングリッシュ b	マーティン オイクル	40
アドバンスト ライティング a	齋 藤 安以子	42
アドバンスト ライティング a	西 川 眞由美	43
アドバンスト ライティング a	マイケル ハーキー	44
アドバンスト ライティング a	天 野 貴 史	45
アドバンスト ライティング a	ダニエル マリンズ	46
アドバンスト ライティング b	齋 藤 安以子	49
アドバンスト ライティング b	西 川 眞由美	50
アドバンスト ライティング b	マイケル ハーキー	51
アドバンスト ライティング b	天 野 貴 史	52
アドバンスト ライティング b	ダニエル マリンズ	53
アメリカ史学	大原関 一 浩	56
アメリカ文化論	大原関 一 浩	57

<b>イ</b>		
ESP(English for Specific Purposes) a	家 口 美智子	58
ESP(English for Specific Purposes) a	中 島 直 嗣	59
ESP(English for Specific Purposes) a	西 川 眞由美	60
ESP(English for Specific Purposes) a	齋 藤 安以子	61
ESP(English for Specific Purposes) a	住 吉 誠	63
ESP(English for Specific Purposes) a	田 中 秀 毅	64
ESP(English for Specific Purposes) b	家 口 美智子	65
ESP(English for Specific Purposes) b	中 島 直 嗣	66
ESP(English for Specific Purposes) b	西 川 眞由美	67
ESP(English for Specific Purposes) b	神 崎 舞	68
ESP(English for Specific Purposes) b	住 吉 誠	69
ESP(English for Specific Purposes) b	田 中 秀 毅	70
異文化コミュニケーション論	門 脇 薫	71
異文化接触論	篠 原 愛 人	72
異文化ビジネス論	中 島 直 嗣	73
English for TOEFL	皆 本 智 美	75
English for TOEFL	大原関 一 浩	76

科目名	担当者	ページ
イングリッシュ プレゼンテーション I b	フーバー トッド	77
イングリッシュ プレゼンテーション I b	ダニエル マリンズ	78
イングリッシュ プレゼンテーション I b	ニール カー	80
イングリッシュ プレゼンテーション I b	マシュー ケーパー	81
イングリッシュ プレゼンテーション I b	マーティン オイクル	82
イングリッシュ プレゼンテーション I b	アレク ニール	83
English Language Teaching	齋 藤 安以子	84
インターンシップ I	石 井 三 恵	1136
インターンシップ II	石 井 三 恵	1137
Integrated Skills Training	鳥 居 祐 介	85
Integrated Skills Training	松 田 早 恵	86
インドネシア・マレー語圏概論	森 田 良 成	87
インドネシア・マレー語圏近現代史	森 田 良 成	88
インドネシア・マレー語圏の諸言語	山 口 真佐夫	89
インドネシア・マレー社会論	上 田 達	90
インドネシア語 I	山 口 玲 子	1047
インドネシア語 I	エニ レスタリ	1048
インドネシア語 II	エニ レスタリ	1049
インドネシア語 II	山 口 玲 子	1050
インドネシア語 II a	山 口 玲 子	91
インドネシア語 II b	エニ レスタリ	92
インドネシア語 III a	山 口 真佐夫	93
インドネシア語 III b	山 口 真佐夫	94
インドネシア語 IV a	浦 野 崇 央	95
インドネシア語 IV b	浦 野 崇 央	96
インドネシア語コムニカシ II a	エニ レスタリ	97
インドネシア語コムニカシ II b	エニ レスタリ	99
インドネシア語コムニカシ I a	エニ レスタリ	100
インドネシア語コムニカシ I b	エニ レスタリ	101
インドネシア語コムニカシ II a (1)	エニ レスタリ	102
インドネシア語コムニカシ II a (2)	エニ レスタリ	104
インドネシア語コムニカシ II b (1)	大 坪 紀 子	105
インドネシア語コムニカシ II b (2)	大 坪 紀 子	106
インドネシア語コムニカシ III a	大 坪 紀 子	108
インドネシア語コムニカシ III b	大 坪 紀 子	109
インドネシア語コムニカシ IV a	エニ レスタリ	110
インドネシア語コムニカシ IV b	エニ レスタリ	111
インドネシア語入門 a (1)	山 口 真佐夫	112
インドネシア語入門 a (2)	浦 野 崇 央	113
インドネシア語入門 b (1)	山 口 真佐夫	114
インドネシア語入門 b (2)	浦 野 崇 央	115
インドネシア語入門 b (3)	大 坪 紀 子	116
インドネシア語表現法	大 坪 紀 子	117
インドネシア語表現法 a	大 坪 紀 子	118
インドネシア語ボキャブラリー a	山 口 玲 子	119
インドネシア語ボキャブラリー b	大 坪 紀 子	120
インドネシアトピックス	大 坪 紀 子	121

<b>エ</b>		
エアラインビジネス論	塩 崎 裕 司	123
エアラインビジネス論 I	塩 崎 裕 司	125
エアラインビジネス論 II	塩 崎 裕 司	127

科目名	担当者	ページ
映画のスペイン語Ⅰ	物部 七穂 大塚 勉	129
映画のスペイン語Ⅰ	穂 原 三 佳	130
映画のスペイン語Ⅰ	物部 七穂 大塚 勉	131
映画のスペイン語Ⅰ	マツダイラ キーメル	132
映画のスペイン語Ⅱ	穂 原 三 佳	133
映画のスペイン語Ⅱ	物部 七穂 大塚 勉	134
映画のスペイン語Ⅲ	オラシオ ゴメス	135
映画のスペイン語Ⅲ	ディアス イバン	136
映画のスペイン語Ⅳ	ディアス イバン	137
映画のスペイン語Ⅳ	オラシオ ゴメス	138
英語Ⅰ	東 野 厚 子	1051
英語Ⅰ	関 初 海	1052
英語Ⅰ	小 川 一 美	1054
英語Ⅰ	クリストファー ジョンソン	1055
英語Ⅰ	曾 我 直 隆	1056
英語Ⅰ	ショーン マクガバン	1058
英語Ⅰ	鈴 木 大 介	1059
英語Ⅰ	フーパー トッド	1061
英語Ⅱ	高 橋 章 夫	1062
英語Ⅱ	関 初 海	1063
英語Ⅱ	小 川 一 美	1065
英語Ⅱ	クリストファー ジョンソン	1066
英語Ⅱ	曾 我 直 隆	1067
英語Ⅱ	ショーン マクガバン	1068
英語Ⅱ	鈴 木 大 介	1069
英語Ⅱ	フーパー トッド	1071
英語Ⅲ	表 谷 純 子	1072
英語Ⅳ	表 谷 純 子	1073
英語意味論・語用論	後 藤 一 章	139
英語科教育法Ⅰ	家 口 美智子	1277
英語科教育法Ⅱ	齋 藤 安以子	1278
英語科教育法Ⅲ	齋 藤 安以子	1280
英語科教育法Ⅳ	家 口 美智子	1282
英語学Ⅰ	家 口 美智子	140
英語学Ⅱ	後 藤 一 章	141
英語学Ⅲ	田 中 秀 毅	142
英語学概論	家 口 美智子	143
英語圏概論（北米・ヨーロッパ）	神 崎 舞	144
英語圏概論（北米・ヨーロッパ）	フーパー トッド	145
英語圏概論	神 崎 舞	146
英語圏概論	フーパー トッド	147
英語構造論	田 中 秀 毅	148
映像中国語 a	中 西 正 樹	149
映像中国語 b	中 西 正 樹	150
英米文学	皆 本 智 美	152
エコツアーリズム論	原 秀 禎	153
エリアスタディーズ（アフリカ）	伊 東 未 来	154
エリアスタディーズ（オセアニア）	杉 浦 秀 行	155
エリアスタディーズ（北アメリカ）	大原関 一 浩	156
エリアスタディーズ（東南アジア）	原 秀 禎	157
エリアスタディーズ（日本）	赤 澤 春 彦	158
エリアスタディーズ（東アジア）	瀬 戸 宏	159

科目名	担当者	ページ
エリアスタディーズ（ヨーロッパ）	林 田 敏 子	160
エリアスタディーズ（ラテンアメリカ）	北 條 ゆかり	161
エンプロイメントデザインⅠ	石 井 三 恵	1253
エンプロイメントデザインⅡ	水 野 武	1255

## オ

オーラル コミュニケーションⅠ a	田浦 アマンダ	162
オーラル コミュニケーションⅠ a	クロー オーエン	163
オーラル コミュニケーションⅠ a	アイビス ウィリアム	164
オーラル コミュニケーションⅠ a	ジョセフ シウンシ	165
オーラル コミュニケーションⅠ a	フーパー トッド	166
オーラル コミュニケーションⅠ a	リチャード ダイアース	167
オーラル コミュニケーションⅠ a	スコット ライリー	168
オーラル コミュニケーションⅠ a	アーサー ロリングスン	170
オーラル コミュニケーションⅠ a	宮久保 まゆみ	171
オーラル コミュニケーションⅠ a	中 道 英美子	172
オーラル コミュニケーションⅠ a	松 下 乃 垂	173
オーラル コミュニケーションⅠ a	久 田 歩	175
オーラル コミュニケーションⅠ a	ショーン マクガバン	176
オーラル コミュニケーションⅠ a	鈴 木 大 介	177
オーラル コミュニケーションⅠ b	田浦 アマンダ	178
オーラル コミュニケーションⅠ b	クロー オーエン	179
オーラル コミュニケーションⅠ b	アイビス ウィリアム	180
オーラル コミュニケーションⅠ b	ジョセフ シウンシ	181
オーラル コミュニケーションⅠ b	フーパー トッド	182
オーラル コミュニケーションⅠ b	リチャード ダイアース	183
オーラル コミュニケーションⅠ b	スコット ライリー	184
オーラル コミュニケーションⅠ b	アーサー ロリングスン	185
オーラル コミュニケーションⅠ b	宮久保 まゆみ	186
オーラル コミュニケーションⅠ b	中 道 英美子	187
オーラル コミュニケーションⅠ b	松 下 乃 垂	188
オーラル コミュニケーションⅠ b	久 田 歩	189
オーラル コミュニケーションⅠ b	ショーン マクガバン	190
オーラル コミュニケーションⅠ b	鈴 木 大 介	191
オーラル コミュニケーションⅡ a	スティーブ トマシェフスキー	192
オーラル コミュニケーションⅡ a	曾 我 直 隆	194
オーラル コミュニケーションⅡ b	スティーブ トマシェフスキー	195
オーラル コミュニケーションⅡ b	曾 我 直 隆	197
音声学	中 島 直 嗣	198

## カ

海外インターンシップ	岩 間 香	199
海外実習	マイケル ハーキー	200
海外実習	兪 鳴 蒙	201
海外実習	篠 原 愛 人	202
海外実習	北 條 ゆかり	203
海外実習	山 口 真佐夫	204
海外留学事前演習	住 吉 誠	205
海外留学事前演習	天 野 貴 史	207
海外留学事前演習	神 崎 舞	208
海外留学事前演習	後 藤 一 章	209
海外留学事前演習	西 川 真由美	211

科目名	担当者	ページ
海外留学事前演習	兪 鳴 蒙	212
海外留学事前演習	杉 浦 秀 行	213
海外留学事前演習	北 條 ゆかり	214
海外留学事前演習	安 達 直 樹	215
海外留学事前演習	浦 野 崇 央	216
海外留学事前演習	上 田 達	217
海外ワークキャンプ	浅 野 英 一	218
カレント イングリッシュ a	サトラー トニー	219
カレント イングリッシュ b	サトラー トニー	221
環境学	原 秀 禎	1139
観光中国語 a	孫 輝	222
観光中国語 b	孫 輝	223
韓国語 I	千 英 子	1074
韓国語 I	沈 明 姫	1075
韓国語 II	千 英 子	1076
韓国語 II	沈 明 姫	1077
韓国語 II a	千 英 子	224
韓国語 II a	沈 明 姫	225
韓国語 II b	千 英 子	226
韓国語 II b	沈 明 姫	227
韓国語 III a	北 島 由紀子	229
韓国語 III b	北 島 由紀子	230
韓国語 IV a	千 英 子	231
韓国語 IV b	千 英 子	232
歓待の哲学	森 本 誠 一	233

## キ

基礎演習 I	北 條 ゆかり	235
基礎演習 I	神 崎 舞	236
基礎演習 I	兪 鳴 蒙	237
基礎演習 I	赤 澤 春 彦	238
基礎演習 I	大原関 一 浩	239
基礎演習 I	神 崎 舞	240
基礎演習 I	田浦 アマンダ	241
基礎演習 I	フーバー トッド	242
基礎演習 I	中 島 直 嗣	243
基礎演習 I	兪 鳴 蒙	244
基礎演習 I	橋 本 正 俊	245
基礎演習 I	林 田 敏 子	246
基礎演習 I	マイケル ハーキー	247
基礎演習 I	門 脇 薫	248
基礎演習 I	西 川 眞由美	249
基礎演習 I	有 馬 善 一	250
基礎演習 I	住 吉 誠	251
基礎演習 I	門 脇 薫	252
基礎演習 II	フーバー トッド	253
基礎演習 II	天 野 貴 史	254
基礎演習 II	原 秀 禎	255
基礎演習 II	小 川 豊 生	256
基礎演習 II	松 田 早 恵	257
基礎演習 II	田浦 アマンダ	258
基礎演習 II	岩 間 香	259

科目名	担当者	ページ
基礎演習 II	門 脇 薫	260
基礎演習 II	浦 野 崇 央	261
基礎演習 II	大原関 一 浩	262
基礎演習 II	橋 本 正 俊	263
基礎演習 II	吉 村 征 洋	264
基礎演習 II	山 口 真佐夫	265
基礎演習 II	後 藤 一 章	266
基礎演習 II	大原関 一 浩	267
基礎演習 II	齋 藤 安以子	268
基礎演習 II	橋 本 正 俊	269
基礎演習 II	中 西 正 樹	270
基礎教養演習 II a	原 秀 禎	271
基礎教養演習 II b	赤 澤 春 彦	272
基礎ゼミナール	赤 澤 春 彦	273
基礎ゼミナール	浅 野 英 一	274
基礎ゼミナール	安 達 直 樹	275
基礎ゼミナール	天 野 貴 史	276
基礎ゼミナール	有 馬 善 一	277
基礎ゼミナール	上 田 達	278
基礎ゼミナール	門 脇 薫	279
基礎ゼミナール	神 崎 舞	280
基礎ゼミナール	後 藤 一 章	281
基礎ゼミナール	鈴 木 大 介	282
基礎ゼミナール	住 吉 誠	283
基礎ゼミナール	瀬 戸 宏	284
基礎ゼミナール	鳥 居 祐 介	285
基礎ゼミナール	中 島 直 嗣	286
基礎ゼミナール	橋 本 正 俊	287
基礎ゼミナール	林 田 敏 子	288
基礎ゼミナール	松 田 早 恵	289
基礎ゼミナール	皆 本 智 美	290
基礎マレー語 a	上 田 達	291
基礎マレー語 b	上 田 達	292
北河内を知る	尾 山 廣	1140
キャリアデザイン	亀 田 峻 宣	1257
キャリアプランニング	中 西 正 樹	1259
キャリアプランニング	田浦 アマンダ	1261
キャリアプランニング	赤 澤 春 彦	1263
教育課程論	大 野 順 子	1283
教育経営論	朝 日 素 明	1285
教育原理	小 山 裕 樹	1287
教育実習 I	大 野 順 子	1289
教育実習 II	朝 日 素 明	1291
教育実習 III	朝 日 素 明	1292
教育社会学	大 野 順 子	1293
教育心理学	吉 田 佐治子	1295
教育相談	吉 田 佐治子	1296
教育方法論	林 茂 樹	1297
教職実践演習 (中・高)	吉 田 佐治子	1299
教師論	朝 日 素 明	1301

科目名	担当者	ページ
<b>ク</b>		
暮らしの中の文化	林 田 敏 子	293
グラマー	杉 浦 秀 行	294
クリエイティブビジネス論	針 尾 大 嗣	295
Global Issues	大原関 一 浩	297
Global Issues	久 田 歩	298
Global Issues	田浦 アマンダ	299
グローバル経済論	野 口 義 直	300

<b>ケ</b>		
経済学入門	平 野 泰 朗	1141
経済のしくみ	平 野 泰 朗	1142
芸術論	岩 間 香	1143
芸能と文化	岩 間 香	301
芸能文化論	岩 間 香	302
健康科学	藤 林 真 美	1145
健康論	西 村 和 恵	1079
言語学	山 口 真佐夫	303
現代学術論	小 川 豊 生	304
現代社会と法	小 野 晃 正	1147
現代社会論	浦 野 崇 央	305
現代中国論	大 西 紀	306
現代東南アジア論	上 田 達	307
現代ラテンアメリカ論	北 條 ゆかり	308

<b>コ</b>		
国際関係の基礎理解	早 川 真 悠	309
国際関係論	早 川 真 悠	310
国際機構論	浅 野 英 一	311
国際協力論	浅 野 英 一	312
国際貢献実習演習	浅 野 英 一	313
国際社会論	有 馬 善 一	314
国際文化概論 I	有 馬 善 一	315
国際文化概論 II	赤 澤 春 彦	316
国際平和論	伊 東 未 来	317
国際ボランティア論	浅 野 英 一	318
ことばと意味	西 川 真由美	319

<b>シ</b>		
視覚芸術論	中 川 馨	320
時事インドネシア・マレー語 a	上 田 達	321
時事インドネシア・マレー語 b	浦 野 崇 央	323
時事問題 I	西 垣 有	1080
時事問題 I	堂 馬 隆 之	1081
時事問題 I	早 川 真 悠	1082
時事問題 I	伊 東 未 来	1083
時事問題 II	西 垣 有	1084
時事問題 II	堂 馬 隆 之	1085
時事問題 II	早 川 真 悠	1086
時事問題 II	伊 東 未 来	1087
自然科学の理解	青 笹 治	1149

科目名	担当者	ページ
自然科学の理解	坂 本 淳 二	1151
自然科学の理解	西 惠 理	1152
自然科学の理解	安 井 幸 則	1154
思想と文化	小 川 豊 生	324
実践インドネシア・マレー語 a	大 坪 紀 子	325
実践インドネシア・マレー語 b	上 田 達	326
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	1156
就職実践基礎	永 見 誠 二	1157
就職実践基礎	津 村 忠	1158
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	1159
生涯学習概論	橋 本 孝 成	327
生涯学習論	橋 本 孝 成	328
上級検定インドネシア語	山 口 玲 子	329
情報処理 I	星 山 幸 子	1088
情報処理 I	藤 木 健 史	1089
情報処理 I	星 山 幸 子	1090
情報処理 I	藤 木 健 史	1091
情報処理 II	星 山 幸 子	1092
情報処理 II	藤 木 健 史	1094
情報処理 II	星 山 幸 子	1095
情報処理 II	藤 木 健 史	1096
初級検定インドネシア語	山 口 玲 子	330
食品機能学	青 笹 治	1160
初年次ゼミナール	赤 澤 春 彦	331
初年次ゼミナール	浅 野 英 一	332
初年次ゼミナール	天 野 貴 史	333
初年次ゼミナール	有 馬 善 一	334
初年次ゼミナール	岩 間 香	335
初年次ゼミナール	浦 野 崇 央	336
初年次ゼミナール	大原関 一 浩	337
初年次ゼミナール	小 川 豊 生	338
初年次ゼミナール	門 脇 薫	339
初年次ゼミナール	神 崎 舞	340
初年次ゼミナール	篠 原 愛 人	341
初年次ゼミナール	杉 浦 秀 行	342
初年次ゼミナール	田 中 秀 毅	343
初年次ゼミナール	中 西 正 樹	344
初年次ゼミナール	橋 本 正 俊	345
初年次ゼミナール	林 田 敏 子	346
初年次ゼミナール	山 口 真佐夫	347
初年次ゼミナール	吉 村 征 洋	348
人体の構造と機能	松 浦 哲 郎	1161
心理学	吉 田 佐治子	1162

<b>ス</b>		
数的能力開発	山 岡 亮 太	1265
スキルズ トレーニング I a	吉 村 征 洋	349
スキルズ トレーニング I b	ショーン マクガバン	350
スキルズ トレーニング a	鳥 居 祐 介	351
スキルズ トレーニング a	神 崎 舞	352
スキルズ トレーニング a	田 中 秀 毅	353
スキルズ トレーニング a	松 田 早 恵	354

科目名	担当者	ページ
スキルズ トレーニング a	後藤 一章	355
スキルズ トレーニング a	吉村 征洋	356
スキルズ トレーニング b	松田 早恵	357
スキルズ トレーニング b	後藤 一章	358
スキルズ トレーニング b	鳥居 祐介	359
スキルズ トレーニング b	田中 秀毅	360
スキルズ トレーニング b	神崎 舞	361
スキルズ トレーニング b	大原 関一 浩	362
スキルズ トレーニング b	ショーン マクガバン	363
スピーキング I a	ジョセフ シウンシ	364
スピーキング I b	ジョセフ シウンシ	366
スピーキング II a	グラント パーミンハム	368
スピーキング II b	グラント パーミンハム	369
スピーキング&ライティング I a	マイケル ハーキー	370
スピーキング&ライティング I a	フーパー トッド	371
スピーキング&ライティング I a	マシュー クーパー	372
スピーキング&ライティング I a	アレン ニール	374
スピーキング&ライティング I a	ニール カー	375
スピーキング&ライティング I a	ジェーン パーメンター	376
スピーキング&ライティング I a	ダニエル マリンズ	377
スピーキング&ライティング I a	マーティン オイクル	378
スピーキング&ライティング I a	グラント パーミンハム	379
スピーキング&ライティング I a	ショーン マクガバン	380
スピーキング&ライティング I a	ジョセフ シウンシ	381
スピーキング&ライティング I b	マイケル ハーキー	382
スピーキング&ライティング I b	マシュー クーパー	383
スピーキング&ライティング I b	グラント パーミンハム	385
スピーキング&ライティング I b	マーティン オイクル	386
スピーキング&ライティング I b	ダニエル マリンズ	387
スピーキング&ライティング I b	ニール カー	388
スピーキング&ライティング I b	ジェーン パーメンター	389
スピーキング&ライティング I b	アレン ニール	390
スピーキング&ライティング I b	ショーン マクガバン	391
スピーキング&ライティング I b	リチャード ダイアース	392
スピーキング&ライティング I b	ジェフリー ベル	393
スピーキング&ライティング I b	フーパー トッド	394
スピーキング&ライティング I b	ジョセフ シウンシ	395
スピーキング&ライティング II a	マイケル ハーキー	396
スピーキング&ライティング II a	田浦 アマンダ	397
スピーキング&ライティング II a	フーパー トッド	398
スピーキング&ライティング II a	ブルース ライリー	399
スピーキング&ライティング II a	ジョン カール	400
スピーキング&ライティング II a	グラント パーミンハム	401
スピーキング&ライティング II a	プライアン スレーター	402
スピーキング&ライティング II a	アイビス ウイリアム	403
スピーキング&ライティング II b	マイケル ハーキー	404
スピーキング&ライティング II b	田浦 アマンダ	405
スピーキング&ライティング II b	フーパー トッド	406
スピーキング&ライティング II b	ブルース ライリー	407
スピーキング&ライティング II b	ジョン カール	408
スピーキング&ライティング II b	グラント パーミンハム	409
スピーキング&ライティング II b	プライアン スレーター	410

科目名	担当者	ページ
スピーキング&ライティング II b	アイビス ウイリアム	411
スペイン語 I	穂原 三佳	1097
スペイン語 I	ササド 七花 ダニエル 久	1098
スペイン語 I	マツダイラ キーメル	1099
スペイン語 II	ササド 七花 ダニエル 久	1100
スペイン語 II	マツダイラ キーメル	1101
スペイン語 II	穂原 三佳	1102
スペイン語 II a	穂原 三佳	412
スペイン語 II b	ササド 七花 ダニエル 久	413
スペイン語 III a	岡 あゆみ	414
スペイン語 III b	岡 あゆみ	415
スペイン語 IV a	ササド 七花 ダニエル 久	416
スペイン語 IV b	ササド 七花 ダニエル 久	417
スペイン語応用 I	磯野 吉美	418
スペイン語応用 I	酒井 真梨奈	419
スペイン語応用 I	西村 初美	420
スペイン語応用 II	酒井 真梨奈	421
スペイン語応用 II	西村 初美	422
スペイン語応用 II	磯野 吉美	423
スペイン語オラル II A	宮多良 ディスネル	424
スペイン語オラル II A	オラシオ ゴメス	426
スペイン語オラル I	オラシオ ゴメス	428
スペイン語オラル I	ササド 七花 ダニエル 久	430
スペイン語オラル I	宮多良 ディスネル	432
スペイン語オラル I	ディアス イバン	434
スペイン語オラル II	宮多良 ディスネル	436
スペイン語オラル II	ディアス イバン	438
スペイン語オラル II	オラシオ ゴメス	440
スペイン語オラル II	ササド 七花 ダニエル 久	442
スペイン語オラル III	トロヌ カルラ	444
スペイン語オラル III	宮多良 ディスネル	445
スペイン語オラル III	ササド 七花 ダニエル 久	446
スペイン語オラル IV	宮多良 ディスネル	447
スペイン語オラル IV	ササド 七花 ダニエル 久	448
スペイン語オラル IV	トロヌ カルラ	449
スペイン語オラル I A	オラシオ ゴメス	450
スペイン語オラル I A	宮多良 ディスネル	452
スペイン語オラル III A	トロヌ カルラ	454
スペイン語オラル III A	宮多良 ディスネル	455
スペイン語オラル III B	マツダイラ キーメル	456
スペイン語オラル IV A	宮多良 ディスネル	457
スペイン語オラル IV A	ササド 七花 ダニエル 久	458
スペイン語オラル IV B	マツダイラ キーメル	459
スペイン語オラル V	ディアス イバン	460
スペイン語オラル V	トロヌ カルラ	461
スペイン語オラル VI	トロヌ カルラ	462
スペイン語オラル VI	ディアス イバン	463
スペイン語オラル VII	オラシオ ゴメス	464
スペイン語オラル VIII	オラシオ ゴメス	465
スペイン語学	安達 直樹	466
スペイン語基礎 A	西村 初美	467
スペイン語基礎 A	岡 あゆみ	468

科目名	担当者	ページ
スペイン語基礎A	西村 初美	469
スペイン語基礎A	岡 あゆみ	470
スペイン語基礎A	北條 ゆかり	471
スペイン語基礎B	宮多良 ディスネル	472
スペイン語基礎B	篠原 愛人	473
スペイン語基礎B	宮多良 ディスネル	474
スペイン語基礎B	篠原 愛人	475
スペイン語基礎B	三浦 知佐子	476
スペイン語基礎C	安達 直樹	477
スペイン語基礎C	酒井 真梨奈	478
スペイン語基礎C	安達 直樹	479
スペイン語基礎C	酒井 真梨奈	480
スペイン語基礎C	穂原 三佳	481
スペイン語圏概論	篠原 愛人	482
スペイン語圏トピックスⅢ	林 安紀子	483
スペイン語圏トピックスⅣ	北條 ゆかり	484
スペイン語圏トピックスⅣ	林 安紀子	485
スペイン語圏の芸術	オラシオ ゴメス	486
スペイン語講読Ⅰ	宮多良 ディスネル	487
スペイン語講読Ⅰ	三浦 知佐子	488
スペイン語講読Ⅱ	三浦 知佐子	489
スペイン語講読Ⅱ	篠原 愛人	490
スペイン語総合A	北條 ゆかり	491
スペイン語総合A	西村 初美	492
スペイン語総合A	岡 あゆみ	493
スペイン語総合B	三浦 知佐子	494
スペイン語総合B	篠原 愛人	495
スペイン語総合B	宮多良 ディスネル	496
スペイン語通訳ガイドⅠ	安達 直樹	497
スペイン語通訳ガイドⅠ	篠原 愛人	498
スペイン語通訳ガイドⅡ	篠原 愛人	499
スペイン語通訳ガイドⅡ	安達 直樹	500
スペイン語トピックス	北條 ゆかり	501
スペイン語トピックス	林 安紀子	502
スペイン語入門A	北條 ゆかり	503
スペイン語入門A	西村 初美	504
スペイン語入門A	北條 ゆかり	505
スペイン語入門A	西村 初美	506
スペイン語入門A	岡 あゆみ	507
スペイン語入門B	三浦 知佐子	508
スペイン語入門B	宮多良 ディスネル	509
スペイン語入門B	三浦 知佐子	510
スペイン語入門B	宮多良 ディスネル	511
スペイン語入門B	篠原 愛人	512
スペイン語入門C	穂原 三佳	513
スペイン語入門C	安達 直樹	514
スペイン語入門C	穂原 三佳	515
スペイン語入門C	安達 直樹	516
スペイン語入門C	酒井 真梨奈	517
スペイン語文章構成Ⅰ	林 安紀子	518
スペイン語文章構成Ⅰ	安達 直樹	520
スペイン語文章構成Ⅰ	林 安紀子	522

科目名	担当者	ページ
スペイン語文章構成Ⅰ	安達 直樹	524
スペイン語文章構成Ⅰ	北條 ゆかり	526
スペイン語文章構成Ⅱ	安達 直樹	528
スペイン語文章構成Ⅱ	北條 ゆかり	529
スペイン語文章構成Ⅱ	安達 直樹	530
スペイン語文章構成Ⅱ	北條 ゆかり	531
スペイン語文章構成Ⅱ	林 安紀子	532
スペイン語文章構成Ⅲ	磯野 吉美	533
スペイン語文章構成Ⅲ	安達 直樹	534
スペイン語文章構成Ⅳ	安達 直樹	535
スペイン語文章構成Ⅳ	磯野 吉美	536
スペイン語翻訳	北條 ゆかり	537
スペインの社会と文化	安達 直樹	538
スペシャリストインドネシア・マレー語	山口 玲子	539
スポーツ科学実習Ⅰ	川野 裕姫子	1103
スポーツ科学実習Ⅰ	川野 裕姫子	1104
スポーツ科学実習Ⅰ	横山 喬之	1163
スポーツ科学実習Ⅱ	川野 裕姫子	1105
スポーツ科学実習Ⅱ	川野 裕姫子	1106
スポーツ科学実習Ⅱ	横山 喬之	1164
住まいとデザイン	北本 裕之	1165
住まいとデザイン	鄭 弼溶	1167

## セ

生活のなかの数学	小林 俊公	1169
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅野 英一	1170
生徒指導論	朝日 素明	1302
生命科学入門	大塚 正人	1171
生命と物質	松浦 哲郎	1173
世界の宗教	村上 司樹	540
世界の政治	森田 良成	1174
世界の地理	今野 泰三	541
世界の文化の比較	村上 司樹	543
世界の歴史	林田 敏子	544
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	橋本 正治	1175
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石田 裕子	1176
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	浅野 英一	1177
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	久保 貞也	1178
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	鶴坂 貴恵	1179
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	一色 美博	1181
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	田中 賢太郎	1182
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	鳥居 祐介	1183
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	天野 貴史	1184
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	栢木 紀哉	1185
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	安久 典宏	1186
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石井 信輝	1187
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	内 部 昭彦	1188
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	藤林 真美	1189
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	荻田 喜代一	1190
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	橋本 正治	1191
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石田 裕子	1192
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	浅野 英一	1193



科目名	担当者	ページ
摂南大学PBLプロジェクトII	久保貞也	1194
摂南大学PBLプロジェクトII	鶴坂貴恵	1195
摂南大学PBLプロジェクトII	一色美博	1197
摂南大学PBLプロジェクトII	田中賢太郎	1198
摂南大学PBLプロジェクトII	鳥居祐介	1199
摂南大学PBLプロジェクトII	天野貴史	1200
摂南大学PBLプロジェクトII	栢木紀哉	1201
摂南大学PBLプロジェクトII	安久典宏	1202
摂南大学PBLプロジェクトII	石井信輝	1203
摂南大学PBLプロジェクトII	内 部 昭 彦	1204
摂南大学PBLプロジェクトII	藤 林 真 美	1205
摂南大学PBLプロジェクトII	荻 田 喜代一	1206
専門日本語F I	中 岡 樹 里	1107
専門日本語F II	中 岡 樹 里	1108
専門日本語R	中 岡 樹 里	1109

## ソ

総合インドネシア語 a (1)	浦 野 崇 央	545
総合インドネシア語 a (2)	山 口 真 佐 夫	546
総合インドネシア語 b (1)	浦 野 崇 央	547
総合インドネシア語 b (2)	山 口 真 佐 夫	548
総合スペイン語 I	磯 野 吉 美	549
総合スペイン語 I	酒 井 真 梨 奈	550
総合スペイン語 II	酒 井 真 梨 奈	551
総合スペイン語 II	西 村 初 美	552
総合スペイン語 III A	北 條 ゆかり	553
総合スペイン語 III A	西 村 初 美	554
総合スペイン語 III B	三 浦 知 佐 子	555
総合スペイン語 III B	篠 原 愛 人	556
総合中国語 a	段 飛 虹	557
総合中国語 b	段 飛 虹	558
総合マレー語 a	上 田 達	559
総合マレー語 b	上 田 達	560
ソーシャル・イノベーション実務総論	石 井 三 恵	1207
組織と経営	西 之 坊 穂	1209
卒業研究 I	赤 澤 春 彦	561
卒業研究 I	浅 野 英 一	562
卒業研究 I	天 野 貴 史	563
卒業研究 I	有 馬 善 一	564
卒業研究 I	岩 間 香	565
卒業研究 I	上 田 達	566
卒業研究 I	浦 野 崇 央	567
卒業研究 I	小 川 豊 生	568
卒業研究 I	門 脇 薫	569
卒業研究 I	後 藤 一 章	570
卒業研究 I	齋 藤 安 以 子	571
卒業研究 I	篠 原 愛 人	572
卒業研究 I	ショーン マクガバン	573
卒業研究 I	住 吉 誠	574
卒業研究 I	瀬 戸 宏	575
卒業研究 I	田 浦 アマンダ	576
卒業研究 I	田 中 秀 毅	577

科目名	担当者	ページ
卒業研究 I	鳥 居 祐 介	578
卒業研究 I	中 島 直 嗣	579
卒業研究 I	中 西 正 樹	580
卒業研究 I	西 川 眞 由 美	581
卒業研究 I	橋 本 正 俊	582
卒業研究 I	林 田 敏 子	583
卒業研究 I	原 秀 禎	584
卒業研究 I	北 條 ゆかり	585
卒業研究 I	マイケル ハーキー	586
卒業研究 I	松 田 早 恵	587
卒業研究 I	皆 本 智 美	588
卒業研究 I	家 口 美 智 子	589
卒業研究 I	兪 鳴 蒙	590
卒業研究 I	吉 村 征 洋	591
卒業研究 I	山 口 真 佐 夫	592
卒業研究 II	赤 澤 春 彦	593
卒業研究 II	浅 野 英 一	594
卒業研究 II	天 野 貴 史	595
卒業研究 II	有 馬 善 一	596
卒業研究 II	岩 間 香	597
卒業研究 II	上 田 達	598
卒業研究 II	浦 野 崇 央	599
卒業研究 II	小 川 豊 生	600
卒業研究 II	門 脇 薫	601
卒業研究 II	後 藤 一 章	602
卒業研究 II	齋 藤 安 以 子	603
卒業研究 II	篠 原 愛 人	604
卒業研究 II	ショーン マクガバン	605
卒業研究 II	住 吉 誠	606
卒業研究 II	瀬 戸 宏	607
卒業研究 II	田 浦 アマンダ	608
卒業研究 II	田 中 秀 毅	609
卒業研究 II	鳥 居 祐 介	610
卒業研究 II	中 島 直 嗣	611
卒業研究 II	中 西 正 樹	612
卒業研究 II	西 川 眞 由 美	613
卒業研究 II	橋 本 正 俊	614
卒業研究 II	林 田 敏 子	615
卒業研究 II	原 秀 禎	616
卒業研究 II	北 條 ゆかり	617
卒業研究 II	マイケル ハーキー	618
卒業研究 II	松 田 早 恵	619
卒業研究 II	皆 本 智 美	620
卒業研究 II	家 口 美 智 子	621
卒業研究 II	兪 鳴 蒙	622
卒業研究 II	吉 村 征 洋	623
卒業研究 II	山 口 真 佐 夫	624

## タ

体験型特別実習 A	沖 中 美 喜	625
体験型特別実習 B	中 西 正 樹	626
大衆文化論	森 本 誠 一	627

科目名	担当者	ページ
ダイバーシティとコミュニケーション	石井三恵	1211
旅と観光の地理	原秀禎	629
旅の文学	小川豊生	630
多文化の共生	林田敏子	631

## チ

地域環境論	原秀禎	632
地域研究論	森田良成	633
地域と国際ビジネス	中島直嗣	634
地域と私	鶴坂貴恵	1213
地域連携教育活動Ⅰ	浅野英一	1215
地域連携教育活動Ⅱ	浅野英一	1216
チームビルディング	水野武	1217
中級検定インドネシア語	山口玲子	636
中国語Ⅰ	兪鳴蒙	1110
中国語Ⅰ	今中崇文	1111
中国語Ⅱ	兪鳴蒙	1112
中国語Ⅱ	今中崇文	1113
中国語Ⅱ a	兪鳴蒙	637
中国語Ⅱ a	今中崇文	638
中国語Ⅱ b	兪鳴蒙	639
中国語Ⅱ b	今中崇文	640
中国語Ⅲ a	欒玉璽	641
中国語Ⅲ b	欒玉璽	642
中国語Ⅳ a	今中崇文	643
中国語Ⅳ b	今中崇文	644
中国語 L L I a	馮艶	645
中国語 L L I b	馮艶	646
中国語 L L II a	馮艶	647
中国語 L L II b	馮艶	648
中国語科教育法Ⅰ	瀬戸宏	1303
中国語科教育法Ⅱ	中西正樹	1304
中国語科教育法Ⅲ	瀬戸宏	1306
中国語科教育法Ⅳ	兪鳴蒙	1307
中国語圏概論	今中崇文	649
中国語会話Ⅰ a	曹櫻	650
中国語会話Ⅰ b	曹櫻	651
中国語会話Ⅱ a	欒玉璽	652
中国語会話Ⅱ b	欒玉璽	653
中国語会話表現法Ⅰ a	曹櫻	654
中国語会話表現法Ⅰ b	曹櫻	655
中国語会話表現法Ⅱ a	孫輝	656
中国語会話表現法Ⅱ b	孫輝	657
中国語学Ⅰ	中西正樹	659
中国語学Ⅱ	兪鳴蒙	660
中国語研究	兪鳴蒙	661
中国語原書講読Ⅰ a	大西紀	662
中国語原書講読Ⅰ b	大西紀	663
中国語原書講読Ⅱ a	李英杰	664
中国語原書講読Ⅱ b	李英杰	665
中国語講読Ⅰ a	瀬戸宏	666
中国語講読Ⅰ b	瀬戸宏	667

科目名	担当者	ページ
中国語講読Ⅱ a	段飛虹	668
中国語講読Ⅱ b	段飛虹	669
中国語コミュニケーション a	李英杰	670
中国語コミュニケーション b	李英杰	671
中国語作文Ⅰ a	兪鳴蒙	672
中国語作文Ⅰ b	兪鳴蒙	673
中国語作文Ⅱ a	李英杰	674
中国語作文Ⅱ b	李英杰	675
中国語視聴専科 a	中西正樹	676
中国語視聴専科 b	中西正樹	677
中国語トピックス a	馮艶	679
中国語トピックス b	馮艶	680
中国語を書くⅠ a	兪鳴蒙	681
中国語を書くⅠ b	兪鳴蒙	682
中国語を書くⅡ a	李英杰	683
中国語を書くⅡ b	李英杰	684
中国語を聞くⅠ a	馮艶	685
中国語を聞くⅠ a	兪鳴蒙	686
中国語を聞くⅠ b	馮艶	687
中国語を聞くⅠ b	兪鳴蒙	688
中国語を聞くⅡ a	馮艶	689
中国語を聞くⅡ b	馮艶	690
中国語を話すⅠ a	曹櫻	691
中国語を話すⅠ a	中西正樹	692
中国語を話すⅠ b	曹櫻	693
中国語を話すⅠ b	中西正樹	694
中国語を話すⅡ a	欒玉璽	695
中国語を話すⅡ b	欒玉璽	696
中国語を読むⅠ a	瀬戸宏	697
中国語を読むⅠ b	瀬戸宏	698
中国語を読むⅡ a	段飛虹	699
中国語を読むⅡ b	段飛虹	700
中国史学	森川裕貫	701
中国地誌学	瀬戸宏	702
中国文学	瀬戸宏	703

## ツ

通訳・翻訳インドネシア・マレー語	山口真佐夫	704
ツーリズム論Ⅰ	原秀禎	705
ツーリズム論Ⅱ	塩崎裕司	706

## テ

ディスプレイ論	毛呂祐子	708
ディスプレイ論	毛呂祐子	709
ディベート	住吉誠	710
ディベート	ニールカー	711
ディベート	ジェフリーベル	712
哲学から学ぶ	有馬善一	1218

## ト

統計学	星山幸子	1219
道徳教育の研究	小山裕樹	1308

科目名	担当者	ページ
東南アジア史学	森田良成	713
東南アジア人類学	森田良成	714
東南アジア地誌学	原秀禎	715
東南アジア文化論	大坪紀子	716
特別活動の理論と方法	林茂樹	1310
トピック スタディーズI	アレン ニール	718
トピック スタディーズI	吉村征洋	719
トピック スタディーズI	ニール カー	720
トピック スタディーズI	サトラー トニー	721
トピック スタディーズI a	ニール カー	722
トピック スタディーズI a	プライアン スレーター	723
トピック スタディーズI a	サトラー トニー	725
トピック スタディーズI a	アレン ニール	726
トピック スタディーズI b	アレン ニール	727
トピック スタディーズI b	吉村征洋	728
トピック スタディーズI b	ニール カー	729
トピック スタディーズI b	サトラー トニー	730
トピック スタディーズII	ジョセフ シウンシ	731
トピック スタディーズII	谷脇康子	732
トピック スタディーズII	アーサー ロリングスン	734
トピック スタディーズII	アイビス ウイリアム	735
トピック スタディーズII a	フーパー トッド	736
トピック スタディーズII a	谷脇康子	737
トピック スタディーズII a	クロー オーエン	738
トピック スタディーズII a	リチャード ダイアース	739
トピック スタディーズII b	ジョセフ シウンシ	740
トピック スタディーズII b	谷脇康子	741
トピック スタディーズII b	アーサー ロリングスン	743
トピック スタディーズII b	アイビス ウイリアム	744
トピック スタディーズIII	皆本智美	745
トピック スタディーズIII	マイケル ハーキー	746
トピック スタディーズIII	松下乃亜	747
トピック スタディーズIII	中野華子	748
ドラマ	神崎舞	749
ドラマ	マーティン オイクル	750
ドラマ	ダニエル マリンズ	751
ドラマ	ニール カー	753
ドラマ	マシュー クーパー	754
ドラマI	神崎舞	755
ドラマI	マーティン オイクル	756
ドラマI	ダニエル マリンズ	757
ドラマI	ニール カー	759
ドラマI	マシュー クーパー	760
ドラマII	田浦アマンダ	761
ドラマII	吉村征洋	762
トランスレーション トレーニングa	久田歩	763
トランスレーション トレーニングa	湊由妃子	764
トランスレーション トレーニングa	瀧川宏樹	765
トランスレーション トレーニングa	内山知美	766
トランスレーション トレーニングa	鈴木三千代	767
トランスレーション トレーニングb	久田歩	768
トランスレーション トレーニングb	湊由妃子	769

科目名	担当者	ページ
トランスレーション トレーニングb	瀧川宏樹	770
トランスレーション トレーニングb	内山知美	771
トランスレーション トレーニングb	鈴木三千代	772
—		
日常の謎を解く心理学	牧野幸志	1220
日米関係論	有馬善一	773
日米比較文化	鳥居祐介	774
日米文化交流史	鳥居祐介	776
日中関係論	大西紀	778
日中観光文化と通訳法	中西正樹	779
日中翻訳法II a	曹櫻	781
日中翻訳法II b	曹櫻	783
日本語音韻論	橋本正俊	785
日本語会話F I	高井美穂	1114
日本語会話F II	高井美穂	1115
日本語会話R	高井美穂	1116
日本語学I	橋本正俊	786
日本語学II	橋本正俊	787
日本語学III	小川豊生	788
日本語教育実習演習	門脇薫	789
日本語教授法I	門脇薫	790
日本語教授法II	藤原京佳	791
日本語教授法III	宮崎玲子	792
日本国憲法	小野晃正	1221
日本語史概説	橋本正俊	793
日本語上級会話F I	高井美穂	794
日本語上級会話F II	高井美穂	795
日本語上級作文F I	中岡樹里	796
日本語上級作文F II	中岡樹里	797
日本語上級読解F I	古川由理子	798
日本語上級読解F II	古川由理子	799
日本語総合F I	古川由理子	1117
日本語総合F II	古川由理子	1118
日本語総合R	古川由理子	1119
日本語読解F I	中岡樹里	1223
日本語読解F II	中岡樹里	1120
日本語読解R	中岡樹里	1121
日本語能力開発I	澤野加奈	1266
日本語能力開発I	高嶋藍	1267
日本語能力開発I	田中教子	1268
日本語能力開発I	人形寺英利子	1269
日本語能力開発II	澤野加奈	1270
日本語能力開発II	高嶋藍	1271
日本語能力開発II	田中教子	1272
日本語能力開発II	人形寺英利子	1273
日本語表現作文F I	中岡樹里	1122
日本語表現作文F II	中岡樹里	1123
日本語表現作文R	中岡樹里	1124
日本語表現論	橋本正俊	800
日本語文法F I	中岡樹里	1125
日本語文法F II	中岡樹里	1126

科目名	担当者	ページ
日本語文法R	中 岡 樹 里	1127
日本史学	赤 澤 春 彦	801
日本史学	赤 澤 春 彦	1224
日本事情 F I	門 脇 薫	1128
日本事情 F II	門 脇 薫	1129
日本事情 R I	門 脇 薫	1130
日本事情 R II	門 脇 薫	1131
日本と世界の出会い	村 上 司 樹	802
日本の思想	中 村 翼	803
日本の歴史	赤 澤 春 彦	804
日本文学	小 川 豊 生	805
人間の探求	池 田 清	1225

## ハ

博物館概論	谷 直 樹	806
博物館学 I	谷 直 樹	808
博物館学 II	岩 間 香	810
博物館学 III	赤 澤 春 彦	811
博物館教育論	毛 呂 祐 子	812
博物館実習	赤 澤 春 彦	814
博物館情報・メディア論	中 川 馨	815
博物館資料保存論	赤 澤 春 彦	816
博物館資料論	岩 間 香	817
パブリックスピーキング a	ステイブ トマシェフスキー	819
パブリックスピーキング a	ショーン マクガバン	821
パブリックスピーキング b	ステイブ トマシェフスキー	822
パブリックスピーキング b	ショーン マクガバン	824
犯罪被害者の支援と法的救済	小 野 晃 正	1226

## ヒ

ビジネス イングリッシュ a	リチャード ダイアース	825
ビジネス イングリッシュ a	ジェフリー ベル	826
ビジネス イングリッシュ a	マーティン オイクル	827
ビジネス イングリッシュ a	ダニエル マリンズ	828
ビジネス イングリッシュ a	梅 田 尋 道	830
ビジネス イングリッシュ b	リチャード ダイアース	831
ビジネス イングリッシュ b	ジェフリー ベル	832
ビジネス イングリッシュ b	マーティン オイクル	833
ビジネス イングリッシュ b	ダニエル マリンズ	834
ビジネス イングリッシュ b	梅 田 尋 道	836
ビジネスインドネシア・マレー語	エニ レスタリ	837
ビジネス心理学	武 居 奈緒子	838
ビジネス中国語 II a	瀬 戸 宏	839
ビジネス中国語 II b	瀬 戸 宏	840
ビジネス中国語 III a	李 英 杰	841
ビジネス中国語 III b	今 中 崇 文	842
ビジネス中国語 a	大 西 紀	843
ビジネス中国語 b	大 西 紀	844
ビジネスマナー	仁 平 章 子	1228
美術の歩み	岩 間 香	845

科目名	担当者	ページ
<b>フ</b>		
風土と地理	原 秀 禎	847
武道論	横 山 喬 之	1230
Practical English Conversation	田浦 アマンダ	848
Practical English Conversation	アイビス ウイリアム	849
Practical English Conversation	アーサー ロリングスン	850
Practical English Conversation	ジョセフ シウンシ	851
フランス語 I	中 井 裕 之	1231
フランス語 II	中 井 裕 之	1232
フランス語 II a	中 井 裕 之	852
フランス語 II b	中 井 裕 之	853
フランス語 III a	藤 本 武 司	854
フランス語 III b	藤 本 武 司	855
フランス語 IV a	中 井 裕 之	856
フランス語 IV b	中 井 裕 之	857
プレゼンテーション	フーパー トッド	858
プレゼンテーション	ダニエル マリンズ	859
プレゼンテーション	ニール カー	861
プレゼンテーション	マシュー ケーパー	862
プレゼンテーション	マーティン オイクル	863
プレゼンテーション	アレン ニール	864
プレゼンテーションインドネシア・マレー語	エニ レスタリ	865
プレゼンテーション論	石 井 三 恵	1233
フレッシュマン イングリッシュ	田 中 秀 毅	866
文化演習 I	天 野 貴 史	867
文化演習 I	齋 藤 安以子	868
文化演習 I	住 吉 誠	869
文化演習 I	田浦 アマンダ	870
文化演習 I	田 中 秀 毅	871
文化演習 I	鳥 居 祐 介	872
文化演習 I	西 川 眞由美	873
文化演習 I	大原関 一 浩	874
文化演習 I	家 口 美智子	875
文化演習 I	篠 原 愛 人	876
文化演習 I	北 條 ゆかり	877
文化演習 I	上 田 達	878
文化演習 I	浦 野 崇 央	879
文化演習 I	山 口 眞佐夫	880
文化演習 I	赤 澤 春 彦	881
文化演習 I	浅 野 英 一	882
文化演習 I	有 馬 善 一	883
文化演習 I	岩 間 香	884
文化演習 I	門 脇 薫	885
文化演習 I	橋 本 正 俊	886
文化演習 I	林 田 敏 子	887
文化演習 I	後 藤 一 章	888
文化演習 I	中 島 直 嗣	889
文化演習 I	マイケル ハーキー	890
文化演習 I	松 田 早 恵	891
文化演習 I	皆 本 智 美	892
文化演習 I	吉 村 征 洋	893

科目名	担当者	ページ
文化演習 I	兪 鳴 蒙	894
文化演習 I	中 西 正 樹	895
文化演習 I	瀬 戸 宏	896
文化演習 I	小 川 豊 生	897
文化演習 I	神 崎 舞	898
文化演習 II	天 野 貴 史	899
文化演習 II	齋 藤 安以子	900
文化演習 II	住 吉 誠	901
文化演習 II	田浦 アマンダ	902
文化演習 II	田 中 秀 毅	903
文化演習 II	鳥 居 祐 介	904
文化演習 II	西 川 眞由美	905
文化演習 II	大原関 一 浩	906
文化演習 II	家 口 美智子	907
文化演習 II	篠 原 愛 人	908
文化演習 II	北 條 ゆかり	909
文化演習 II	上 田 達	910
文化演習 II	浦 野 崇 央	911
文化演習 II	山 口 真佐夫	912
文化演習 II	赤 澤 春 彦	913
文化演習 II	浅 野 英 一	914
文化演習 II	有 馬 善 一	915
文化演習 II	岩 間 香	916
文化演習 II	門 脇 薫	917
文化演習 II	橋 本 正 俊	918
文化演習 II	林 田 敏 子	919
文化演習 II	後 藤 一 章	920
文化演習 II	中 島 直 嗣	921
文化演習 II	マイケル ハーキー	922
文化演習 II	松 田 早 恵	923
文化演習 II	皆 本 智 美	924
文化演習 II	吉 村 征 洋	925
文化演習 II	兪 鳴 蒙	926
文化演習 II	中 西 正 樹	927
文化演習 II	瀬 戸 宏	928
文化演習 II	小 川 豊 生	929
文化演習 II	神 崎 舞	930
文化観光実習演習	原 秀 禎	931
文化人類学	西 垣 有	1235
文化と表現	橋 本 正 俊	932

## へ

平和の思想	西 垣 有	933
-------	-------	-----

## ホ

ボキャブラリー&グラマー a	松 田 早 恵	934
ボキャブラリー&グラマー a	後 藤 一 章	935
ボキャブラリー&グラマー a	中 島 直 嗣	936
ボキャブラリー&グラマー a	齋 藤 安以子	937
ボキャブラリー&グラマー a	鳥 居 祐 介	938
ボキャブラリー&グラマー a	西 川 眞由美	939
ボキャブラリー&グラマー a	家 口 美智子	940

科目名	担当者	ページ
ボキャブラリー&グラマー a	神 崎 舞	941
ボキャブラリー&グラマー a	皆 本 智 美	942
ボキャブラリー&グラマー a	杉 浦 秀 行	943
ボキャブラリー&グラマー a	田 中 秀 毅	944
ボキャブラリー&グラマー b	西 川 眞由美	945
ボキャブラリー&グラマー b	鳥 居 祐 介	946
ボキャブラリー&グラマー b	齋 藤 安以子	947
ボキャブラリー&グラマー b	家 口 美智子	948
ボキャブラリー&グラマー b	大原関 一 浩	949
ボキャブラリー&グラマー b	皆 本 智 美	950
ボキャブラリー&グラマー b	中 島 直 嗣	951
ボキャブラリー&グラマー b	天 野 貴 史	952
ボキャブラリー&グラマー b	田浦 アマンダ	953
ボキャブラリー&グラマー b	田 中 秀 毅	954
ボキャブラリー&グラマー b	松 田 早 恵	955
ボキャブラリー&グラマー b	後 藤 一 章	956
ボキャブラリー&グラマー b	杉 浦 秀 行	957
ホスピタリティ・インターンシップ	塩 崎 裕 司	958
ホスピタリティ演習	塩 崎 裕 司	959
ホスピタリティ論	沖 中 美 喜	961
ホスピタリティ論 I	沖 中 美 喜	962
ホスピタリティ論 II	沖 中 美 喜	963
ホテルビジネス論	塩 崎 裕 司	964
ホテルビジネス論 I	塩 崎 裕 司	966
ホテルビジネス論 II	塩 崎 裕 司	968
ボランティア論	浅 野 英 一	970
翻訳文化論	小 川 豊 生	971
翻訳文化論	小 川 豊 生	972

## マ

マーケティングと歴史	武 居 奈緒子	1236
マーケティング入門	鶴 坂 貴 恵	1237
マイノリティ論	有 馬 善 一	973
マスコミ論	上 島 誠 司	974
マレー語圏トピックス	ノレハ ビンティ	975

## ミ

身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中 沼 丈 晃	1239
ミュージアムコレクション論	岩 間 香	976
ミュージアムへの招待	谷 直 樹	977
ミュージアムマネジメント論	赤 澤 春 彦	979

## メ

メディア イングリッシュ a	里 井 真理子	980
メディア イングリッシュ a	中 道 英美子	981
メディア イングリッシュ a	アーサー ロングスン	982
メディア イングリッシュ a	俣 野 裕 美	983
メディア イングリッシュ a	クロー オーエン	984
メディア イングリッシュ b	里 井 真理子	985
メディア イングリッシュ b	中 道 英美子	986
メディア イングリッシュ b	アーサー ロングスン	987
メディア イングリッシュ b	俣 野 裕 美	988

科目名	担当者	ページ
メディア イングリッシュ b	クロー オーエン	989
メディア中国語 a	中 西 正 樹	990
メディア中国語 b	中 西 正 樹	991
メディアのスペイン語 I	宮多良 ディスネル	992
メディアのスペイン語 I	三 浦 知佐子	993
メディアのスペイン語 I	宮多良 ディスネル	994
メディアのスペイン語 I	三 浦 知佐子	995
メディアのスペイン語 I	酒 井 真梨奈	996
メディアのスペイン語 II	磯 野 吉 美	997
メディアのスペイン語 II	三 浦 知佐子	998
メディアのスペイン語 II	篠 原 愛 人	999
メディアのスペイン語 II	宮多良 ディスネル	1000
メディアのスペイン語 III	磯 野 吉 美	1001
メディア文化論	森 本 誠 一	1002
メディアリテラシー論	有 馬 善 一	1004

## モ

ものづくりインターンシップ基礎	奥 野 竜 平	1241
ものづくりインターンシップ基礎	川 野 常 夫	1243
ものづくりインターンシップ実践	奥 野 竜 平	1244
ものづくり海外インターンシップ	川 野 常 夫	1246

## ヤ

役立つ金融知力	陸 川 富 盛	1247
---------	---------	------

## ヨ

ヨーロッパ史学	林 田 敏 子	1006
ヨーロッパ思想	池 田 清	1007

## ラ

ライティング a	鈴 木 大 介	1008
ライティング b	スコット ライリー	1009
ライフサイエンスの基礎	西 矢 芳 昭	1249
ラテンアメリカ史学	篠 原 愛 人	1011
ラテンアメリカの社会と文化	北 條 ゆかり	1012
ラテンアメリカ文学	梶 原 三 佳	1013

## リ

リーディング I a	松 田 早 恵	1015
リーディング I a	瀧 川 宏 樹	1016
リーディング I a	湊 由 妃子	1017
リーディング I a	住 吉 誠	1018
リーディング I a	西 谷 継 治	1019
リーディング I a	中 野 阿 佐子	1020
リーディング I b	住 吉 誠	1021
リーディング I b	瀧 川 宏 樹	1022
リーディング I b	松 田 早 恵	1023
リーディング I b	西 谷 継 治	1024
リーディング I b	中 野 阿 佐子	1025
リーディング I b	湊 由 妃子	1026
リーディング I b	岩 橋 一 樹	1027
リーディング II a	木 村 ゆ み	1028

科目名	担当者	ページ
リーディング II a	湊 由 妃子	1029
リーディング II a	ショーン マクガバン	1030
リーディング II a	ジェーン パーメンター	1031
リーディング II a	ジェフリー ベル	1032
リーディング II b	木 村 ゆ み	1033
リーディング II b	湊 由 妃子	1034
リーディング II b	ショーン マクガバン	1035
リーディング II b	ジェーン パーメンター	1036
リーディング II b	ジェフリー ベル	1037
旅行インドネシア・マレー語	大 坪 紀 子	1038
旅行インドネシア語	大 坪 紀 子	1040

## レ

歴史に学ぶ	林 田 敏 子	1250
-------	---------	------

## ロ

ロマンス語研究 I	柱 本 元 彦	1042
ロマンス語研究 II	柱 本 元 彦	1043

專 門 科 目





科目名	スペイン語入門C	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	梶原 三佳

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>「スペイン語入門A、B」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門A、B」と合わせて受講すること。</li> <li>初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。</li> </ul>
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・過去形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。
授業方法と留意点	授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみることを。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1課	アルファベットと発音	個々の音
	2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法
	3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習
	4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け
	5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン
	6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用
	7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用
	8	これまでの総復習	練習問題の解答確認	配布された練習問題を予め解いておくこと
	9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる
	10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞
	11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形
	12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用
	13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用
	14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い
	15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	

関連科目	スペイン語入門A、C 総合スペイン語
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	<p>スペイン語入門A、Bと合わせて評価する。</p> <p>ある程度の単元を終えると、A、B、Cのいずれかで理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施(時期未定)</p>
----------	---

学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師控室)
----------	----------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。
----	------------------------------

科目名	スペイン語入門C	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>「スペイン語入門A、B」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門A、B」と合わせて受講すること。</li> <li>初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。</li> </ul>
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・過去形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。
授業方法と留意点	授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみることを。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1課	アルファベットと発音	個々の音
	2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法
	3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習
	4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け
	5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン
	6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用
	7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用
	8	これまでの総復習	練習問題の解答確認	配布された練習問題を予め解いておくこと
	9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる
	10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞
	11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形
	12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用
	13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用
	14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い
	15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	

関連科目	スペイン語入門A、C 総合スペイン語
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	<p>スペイン語入門A、Bと合わせて評価する。</p> <p>ある程度の単元を終えると、A、B、Cのいずれかで理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施(時期未定)</p>
----------	---

学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階(安達研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。
----	------------------------------

科目名	スペイン語入門C	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	梶原 三佳

授業概要・目的	<p>・「スペイン語入門A、B」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門A、B」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・過去形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみることを。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定6級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>第1課</td><td>アルファベットと発音</td><td>個々の音</td></tr> <tr><td>2</td><td>第2課</td><td>名詞と冠詞・形容詞</td><td>それぞれの形と用法</td></tr> <tr><td>3</td><td>第3課</td><td>直説法現在(規則活用)</td><td>これまでの確認と復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>第4課</td><td>serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞</td><td>主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け</td></tr> <tr><td>5</td><td>第5課</td><td>一般動詞の不規則活用(1)</td><td>不規則活用のパターン</td></tr> <tr><td>6</td><td>第6課</td><td>一般動詞の不規則活用(2)</td><td>よく使う動詞の意味、活用</td></tr> <tr><td>7</td><td>第7課</td><td>一般動詞の不規則活用(3)</td><td>よく使う動詞の意味、活用</td></tr> <tr><td>8</td><td>これまでの総復習</td><td>練習問題の解答確認</td><td>配布された練習問題を予め解いておくこと</td></tr> <tr><td>9</td><td>第8課</td><td>gustar型動詞 前置詞</td><td>表現パターンに慣れる</td></tr> <tr><td>10</td><td>第9課</td><td>再帰動詞</td><td>自動詞と他動詞</td></tr> <tr><td>11</td><td>第10課</td><td>命令文、不定詞、分詞</td><td>動詞の変形</td></tr> <tr><td>12</td><td>第11課</td><td>現在完了と点過去</td><td>点過去の規則活用</td></tr> <tr><td>13</td><td>第12課</td><td>点過去不規則変化 不定ごと否定語</td><td>点過去の不規則活用</td></tr> <tr><td>14</td><td>第13課</td><td>線過去、過去完了</td><td>点過去と線過去の違い</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>これまでの復習・確認テスト</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	第1課	アルファベットと発音	個々の音	2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法	3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習	4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け	5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン	6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用	7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用	8	これまでの総復習	練習問題の解答確認	配布された練習問題を予め解いておくこと	9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる	10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞	11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形	12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用	13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用	14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い	15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	第1課	アルファベットと発音	個々の音																																																																
2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法																																																																
3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習																																																																
4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け																																																																
5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン																																																																
6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用																																																																
7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用																																																																
8	これまでの総復習	練習問題の解答確認	配布された練習問題を予め解いておくこと																																																																
9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる																																																																
10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞																																																																
11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形																																																																
12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用																																																																
13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用																																																																
14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い																																																																
15	まとめ	これまでの復習・確認テスト																																																																	
関連科目	<p>スペイン語入門A、C 総合スペイン語</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>初級スペイン語文法</td><td>和佐敦子</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>西和中辞典</td><td>高垣ほか</td><td>小学館</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語入門A、Bと合わせて評価する。</p> <p>ある程度の単元を終えると、A、B、Cのいずれかで理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施(時期未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館2階(非常勤講師控室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		

科目名	スペイン語入門C	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹

授業概要・目的	<p>・「スペイン語入門A、B」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門A、B」と合わせて受講すること。</p> <p>・初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。</p>																																																																		
到達目標	<p>スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・過去形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみることを。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>スペイン語検定6級</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>第1課</td><td>アルファベットと発音</td><td>個々の音</td></tr> <tr><td>2</td><td>第2課</td><td>名詞と冠詞・形容詞</td><td>それぞれの形と用法</td></tr> <tr><td>3</td><td>第3課</td><td>直説法現在(規則活用)</td><td>これまでの確認と復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>第4課</td><td>serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞</td><td>主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け</td></tr> <tr><td>5</td><td>第5課</td><td>一般動詞の不規則活用(1)</td><td>不規則活用のパターン</td></tr> <tr><td>6</td><td>第6課</td><td>一般動詞の不規則活用(2)</td><td>よく使う動詞の意味、活用</td></tr> <tr><td>7</td><td>第7課</td><td>一般動詞の不規則活用(3)</td><td>よく使う動詞の意味、活用</td></tr> <tr><td>8</td><td>これまでの総復習</td><td>練習問題の解答確認</td><td>配布された練習問題を予め解いておくこと</td></tr> <tr><td>9</td><td>第8課</td><td>gustar型動詞 前置詞</td><td>表現パターンに慣れる</td></tr> <tr><td>10</td><td>第9課</td><td>再帰動詞</td><td>自動詞と他動詞</td></tr> <tr><td>11</td><td>第10課</td><td>命令文、不定詞、分詞</td><td>動詞の変形</td></tr> <tr><td>12</td><td>第11課</td><td>現在完了と点過去</td><td>点過去の規則活用</td></tr> <tr><td>13</td><td>第12課</td><td>点過去不規則変化 不定ごと否定語</td><td>点過去の不規則活用</td></tr> <tr><td>14</td><td>第13課</td><td>線過去、過去完了</td><td>点過去と線過去の違い</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>これまでの復習・確認テスト</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	第1課	アルファベットと発音	個々の音	2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法	3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習	4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け	5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン	6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用	7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用	8	これまでの総復習	練習問題の解答確認	配布された練習問題を予め解いておくこと	9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる	10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞	11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形	12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用	13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用	14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い	15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	第1課	アルファベットと発音	個々の音																																																																
2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法																																																																
3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習																																																																
4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け																																																																
5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン																																																																
6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用																																																																
7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用																																																																
8	これまでの総復習	練習問題の解答確認	配布された練習問題を予め解いておくこと																																																																
9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる																																																																
10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞																																																																
11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形																																																																
12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用																																																																
13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用																																																																
14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い																																																																
15	まとめ	これまでの復習・確認テスト																																																																	
関連科目	<p>スペイン語入門A、C 総合スペイン語</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>初級スペイン語文法</td><td>和佐敦子</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>西和中辞典</td><td>高垣ほか</td><td>小学館</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	西和中辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>スペイン語入門A、Bと合わせて評価する。</p> <p>ある程度の単元を終えると、A、B、Cのいずれかで理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施(時期未定)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館5階(安達研究室)</p>																																																																		
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。</p>																																																																		

科目名	スペイン語入門C	科目名(英文)	Introduction to Spanish Grammar C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	QR3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	酒井 真梨奈

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>「スペイン語入門A、B」と同じ教科書を使い、リレー式でスペイン語の論理(文法)を学ぶ。そのため、必ず「入門A、B」と合わせて受講すること。</li> <li>初習言語のマスターには語彙力の増強も大きな要素として欠かせないので、毎回、範囲を決めて単語テストを課す。</li> </ul>
到達目標	スペイン語の文法事項のうち、名詞とそれを修飾する冠詞・形容詞、および動詞の現在形・過去形の活用と用法をマスターする。基本語彙(約500語)を覚える。
授業方法と留意点	授業では文法説明および例文解説の後、練習問題を通して理解の確認をする。宿題として出された課題は必ず自力でチャレンジしてみることを。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定6級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1課	アルファベットと発音	個々の音
	2	第2課	名詞と冠詞・形容詞	それぞれの形と用法
	3	第3課	直説法現在(規則活用)	これまでの確認と復習
	4	第4課	serとestar(英語のbe動詞)とhay、疑問詞	主語になる代名詞、serとestarの活用;be動詞の使い分け
	5	第5課	一般動詞の不規則活用(1)	不規則活用のパターン
	6	第6課	一般動詞の不規則活用(2)	よく使う動詞の意味、活用
	7	第7課	一般動詞の不規則活用(3)	よく使う動詞の意味、活用
	8	これまでの総復習	練習問題の解答確認	配布された練習問題を予め解いておくこと
	9	第8課	gustar型動詞 前置詞	表現パターンに慣れる
	10	第9課	再帰動詞	自動詞と他動詞
	11	第10課	命令文、不定詞、分詞	動詞の変形
	12	第11課	現在完了と点過去	点過去の規則活用
	13	第12課	点過去不規則変化 不定ごと否定語	点過去の不規則活用
	14	第13課	線過去、過去完了	点過去と線過去の違い
	15	まとめ	これまでの復習・確認テスト	

関連科目	スペイン語入門A、B 総合スペイン語
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初級スペイン語文法	和佐敦子	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	<p>スペイン語入門A、Bと合わせて評価する。</p> <p>ある程度の単元を終えると、A、B、Cのいずれかで理解度確認テストをする。</p> <p>最終週に全既習範囲を対象とした到達度確認テストをする。</p> <p>平常点と合わせて評価する。その比重については初回授業時に説明する。</p> <p>配布する「基本単語集」をもとに、毎回、単語テストを行う。また、ボキャブラリ・コンテストも実施(時期未定)</p>
----------	---

学生へのメッセージ	最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき転びながらマスターしていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師控室)
----------	----------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。
----	------------------------------

科目名	スペイン語文章構成 I	科目名 (英文)	Spanish Composition I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 安紀子

授業概要・目的	文の要素と構造による種類をきちんと理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。後半はそれと並行し、与えられた共通テーマのもと、まず日本語で作文し、それをスペイン語に訳した短いスピーチ原稿を作成し、添削を受けた後、暗唱し発表する。これを後期に行うスピーチ・コンテストの試行体験と位置づける。
到達目標	語彙力をより豊かにしつつ、短くとも正確なスペイン語での文章表現ができるようになる。
授業方法と留意点	与えられた練習問題を必ず解いたうえで授業に臨み、受講生の板書に対する添削と説明を聴き、和文西訳に慣れる。「総合A」と「総合B」で学ぶ接続法はスペイン語で頻繁に用いられるため、本科目と密接に関連している。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定5級～4級 (4級合格には接続法の理解が必要です。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	文の要素	主部・述部、句・節、単文・複文・重文、目的語、補語の理解と判別	文法用語の確認と品詞ごとの特徴の整理
2	構造による文の種類	自動詞文、他動詞文、再帰文、無主語文、不定人称文	文の骨格を見抜くコツを練習問題によってつかむ。 作文問題を解いておく。
3	冠詞、所有詞、指示詞、数量詞の正しい用法	名詞の前に位置し、名詞の指す対象を何らかの形で限定するはたらきをする語について、不定語・否定語や分数・小数・倍数などを含め、正しく使えるようにする。	限定詞についての復習 作文問題を解いておく。
4	人称代名詞の使い方	格 (主格、前置格、目的格)、位置と重複表現	人称代名詞それぞれの6つの形の復習 作文問題を解いておく。
5	動詞の法・時制・アスペクト (相)	スペイン語の法、文の構造と法、直説法の時制体系、絶対時制、相対時制、推量・非現実を表す時制体系、接続法の時制体系、相についての整理と理解	動詞の非人称形 (不定詞、現在分詞、過去分詞) の復習をしておく。 作文問題を解いておく。
6	受動の表現、使役・放任の表現、知覚の表現	ser 受身と se 受身、受動文の主語、se 受身と不定人称、hacer, dejar の使役構文、知覚動詞の使い方	作文問題を解いておく。
7	条件の表現、譲歩の表現	現実的条件文、非現実的条件文、現実的譲歩文、非現実的譲歩文	「総合スペイン語 A・B」で学んでいる接続法 4 時制の確認 スピーチ原稿を日本語で準備する
8	願望・疑惑の表現、時間・空間の表現、原因・理由・結果の表現、目的の表現	Que + 接続法、Ojalá (que) + 接続法、quiza(s), tal vez, a lo mejor, acaso, igual 等、debido a, ya que, así que, de ahí que, por tanto, tal que, para que, de modo que 等	「総合スペイン語 A・B」で学んでいる接続法 4 時制の確認 スピーチ日本語原稿の練り直し 作文問題を解いておく。
9	比較の表現 理解度確認中間テスト	比較級と最上級	スペイン語技能検定 4 級過去問を解く。 スピーチ原稿のスペイン語訳を行う。 作文問題を解いておく。
10	語順	統語的基準と情動的基準	スペイン語技能検定 4 級過去問を解く。 スピーチ原稿のスペイン語訳を完成し提出する。 作文問題を解いておく。
11	文と文のつながり	関係詞と用法、関係代名詞、関係副詞、関係形容詞	スピーチ原稿の添削指導を受け、理解した上で完成原稿を作成する。 作文問題を解いておく。
12	話法	話法の種類、間接話法	スピーチ完成原稿を暗誦し、発表の練習をする。 作文問題を解いておく。
13	分詞構文	条件、理由、譲歩、時、様態	スピーチ完成原稿を暗誦し、発表の練習をする。 作文問題を解いておく。
14	スピーチの発表	同級生のスピーチを理解しようとするのと同時に、未知の語彙を聞きとり書きとめる。	事前に、スピーチ発表のための発音、イントネーション、表現力などの指導は行うが、「オラル」のネイティブ教員からも必ずアドバイスを受けておくこと。
15	これまでの学習内容の確認	目標到達度達成判定テスト	総復習

関連科目	スペイン語オラルⅢ、総合スペイン語 A・B
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (練習問題の予習・提出物・小テスト・スピーチの作成過程など) および目標到達度判定テスト
-----------	--

学生へのメッセージ	スペイン語で正しく文章が書けるようになるために、数多く作文練習を積み重ねましょう。毎回必ず、配布された練習問題を解く予習を欠かさないこと。 自分の主張や固有の体験を短くとも「聞かせる」日本語で書き、スペイン語に訳した原稿を暗唱し発表する、初めてのスピーチに挑みます。
-----------	--

担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師控室）
備考	語彙力を養うために、ボキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限活用してください。 事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	スペイン語文章構成 I	科目名 (英文)	Spanish Composition I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹

授業概要・目的	文の要素と構造による種類をきちんと理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。後半はそれと並行し、与えられた共通テーマのもと、まず日本語で作文し、それをスペイン語に訳した短いスピーチ原稿を作成し、添削を受けた後、暗唱し発表する。これを後期に行うスピーチ・コンテストの試行体験と位置づける。
到達目標	語彙力をより豊かにしつつ、短くとも正確なスペイン語での文章表現ができるようになる。
授業方法と留意点	与えられた練習問題を必ず解いたうえで授業に臨み、受講生の板書に対する添削と説明を聴き、和文西訳に慣れる。「総合A」と「総合B」で学ぶ接続法はスペイン語で頻繁に用いられるため、本科目と密接に関連している。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級(4級合格には接続法の理解が必要です。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	文の要素	主部・述部、句・節、単文・複文・重文、目的語、補語の理解と判別	文法用語の確認と品詞ごとの特徴の整理
2	構造による文の種類	自動詞文、他動詞文、再帰文、無主語文、不定人称文	文の骨格を見抜くコツを練習問題によってつかむ。作文問題を解いておく。
3	冠詞、所有詞、指示詞、数量詞の正しい用法	名詞の前に位置し、名詞の指す対象を何らかの形で限定するはたらきをする語について、不定語・否定語や分数・小数・倍数などを含め、正しく使えるようにする。	限定詞についての復習 作文問題を解いておく。
4	人称代名詞の使い方	格(主格、前置格、目的格)、位置と重複表現	人称代名詞それぞれの6つの形の復習 作文問題を解いておく。
5	動詞の法・時制・アスペクト(相)	スペイン語の法、文の構造と法、直説法の時制体系、絶対時制、相対時制、推量・非現実を表す時制体系、接続法の時制体系、相についての整理と理解	動詞の非人称形(不定詞、現在分詞、過去分詞)の復習をしておく。 作文問題を解いておく。
6	受動の表現、使役・放任の表現、知覚の表現	ser 受身と se 受身、受動文の主語、se 受身と不定人称、hacer, dejar の使役構文、知覚動詞の用い方	作文問題を解いておく。
7	条件の表現、譲歩の表現	現実的条件文、非現実的条件文、現実的譲歩文、非現実的譲歩文	「総合スペイン語A・B」で学んでいる接続法4時制の確認 スピーチ原稿を日本語で準備する
8	願望・疑惑の表現、時間・空間の表現、原因・理由・結果の表現、目的の表現	Que + 接続法、Ojala (que) + 接続法、quiza(s), tal vez, a lo mejor, acaso, igual 等、debido a, ya que, así que, de ahí que, por tanto, tal que, para que, de modo que 等	「総合スペイン語A・B」で学んでいる接続法4時制の確認 スピーチ日本語原稿の練り直し 作文問題を解いておく。
9	比較の表現 理解度確認中間テスト	比較級と最上級	スペイン語技能検定4級過去問を解く。 スピーチ原稿のスペイン語訳を行う。 作文問題を解いておく。
10	語順	統語的基準と情動的基準	スペイン語技能検定4級過去問を解く。 スピーチ原稿のスペイン語訳を完成し提出する。 作文問題を解いておく。
11	文と文のつながり	関係詞と用法、関係代名詞、関係副詞、関係形容詞	スピーチ原稿の添削指導を受け、理解した上で完成原稿を作成する。 作文問題を解いておく。
12	話法	話法の種類、間接話法	スピーチ完成原稿を暗誦し、発表の練習をする。 作文問題を解いておく。
13	分詞構文	条件、理由、譲歩、時、様態	スピーチ完成原稿を暗誦し、発表の練習をする。 作文問題を解いておく。
14	スピーチの発表	同級生のスピーチを理解しようと努めると同時に、未知の語彙を聞きとり書きとめる。	事前に、スピーチ発表のための発音、イントネーション、表現力などの指導は行うが、「オラル」のネイティブ教員からも必ずアドバイスを受けておくこと。
15	これまでの学習内容の確認	目標到達度達成判定テスト	総復習

関連科目	スペイン語オラルⅢ、総合スペイン語A・B
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(練習問題の予習・提出物・小テスト・スピーチの作成過程など)および目標到達度判定テスト
----------	--

学生へのメッセージ	スペイン語で正しく文章が書けるようになるために、数多く作文練習を積み重ねましょう。毎回必ず、配布された練習問題を解く予習を欠かさないこと。事前・事後学修に各1時間を要する。自分の主張や固有の体験を短くとも「聞かせる」日本語で書き、スペイン語に訳した原稿を暗唱し発表する、初めてのスピーチに挑みます。
-----------	---

担当者の	7号館5階(安達研究室)
------	--------------



研究室等	
備考	<p>語彙力を養うために、ボキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限活用してください。 事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。</p>

科目名	スペイン語文章構成 I	科目名 (英文)	Spanish Composition I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 安紀子

授業概要・目的	文の要素と構造による種類をきちんと理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。後半はそれと並行し、与えられた共通テーマのもと、まず日本語で作文し、それをスペイン語に訳した短いスピーチ原稿を作成し、添削を受けた後、暗唱し発表する。これを後期に行うスピーチ・コンテストの試行体験と位置づける。
到達目標	語彙力をより豊かにしつつ、短くとも正確なスペイン語での文章表現ができるようになる。
授業方法と留意点	与えられた練習問題を必ず解いたうえで授業に臨み、受講生の板書に対する添削と説明を聴き、和文西訳に慣れる。「総合A」と「総合B」で学ぶ接続法はスペイン語で頻繁に用いられるため、本科目と密接に関連している。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級(4級合格には接続法の理解が必要です。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	文の要素	主部・述部、句・節、単文・複文・重文、目的語、補語の理解と判別	文法用語の確認と品詞ごとの特徴の整理
2	構造による文の種類	自動詞文、他動詞文、再帰文、無主語文、不定人称文	文の骨格を見抜くコツを練習問題によってつかむ。作文問題を解いておく。
3	冠詞、所有詞、指示詞、数量詞の正しい用法	名詞の前に位置し、名詞の指す対象を何らかの形で限定するはたらきをする語について、不定語・否定語や分数・小数・倍数などを含め、正しく使えるようにする。	限定詞についての復習 作文問題を解いておく。
4	人称代名詞の使い方	格(主格、前置格、目的格)、位置と重複表現	人称代名詞それぞれの6つの形の復習 作文問題を解いておく。
5	動詞の法・時制・アスペクト(相)	スペイン語の法、文の構造と法、直説法の時制体系、絶対時制、相対時制、推量・非現実を表す時制体系、接続法の時制体系、相についての整理と理解	動詞の非人称形(不定詞、現在分詞、過去分詞)の復習をしておく。 作文問題を解いておく。
6	受動の表現、使役・放任の表現、知覚の表現	ser 受身と se 受身、受動文の主語、se 受身と不定人称、hacer, dejar の使役構文、知覚動詞の用い方	作文問題を解いておく。
7	条件の表現、譲歩の表現	現実的条件文、非現実的条件文、現実的譲歩文、非現実的譲歩文	「総合スペイン語A・B」で学んでいる接続法4時制の確認 スピーチ原稿を日本語で準備する
8	願望・疑惑の表現、時間・空間の表現、原因・理由・結果の表現、目的の表現	Que + 接続法、Ojala (que) + 接続法、quiza(s), tal vez, a lo mejor, acaso, igual 等、debido a, ya que, así que, de ahí que, por tanto, tal que, para que, de modo que 等	「総合スペイン語A・B」で学んでいる接続法4時制の確認 スピーチ日本語原稿の練り直し 作文問題を解いておく。
9	比較の表現 理解度確認中間テスト	比較級と最上級	スペイン語技能検定4級過去問を解く。 スピーチ原稿のスペイン語訳を行う。 作文問題を解いておく。
10	語順	統語的基準と情動的基準	スペイン語技能検定4級過去問を解く。 スピーチ原稿のスペイン語訳を完成し提出する。 作文問題を解いておく。
11	文と文のつながり	関係詞と用法、関係代名詞、関係副詞、関係形容詞	スピーチ原稿の添削指導を受け、理解した上で完成原稿を作成する。 作文問題を解いておく。
12	話法	話法の種類、間接話法	スピーチ完成原稿を暗誦し、発表の練習をする。 作文問題を解いておく。
13	分詞構文	条件、理由、譲歩、時、様態	スピーチ完成原稿を暗誦し、発表の練習をする。 作文問題を解いておく。
14	スピーチの発表	同級生のスピーチを理解しようと努めると同時に、未知の語彙を聞きとり書きとめる。	事前に、スピーチ発表のための発音、イントネーション、表現力などの指導は行うが、「オラル」のネイティブ教員からも必ずアドバイスを受けておくこと。
15	これまでの学習内容の確認	目標到達度達成判定テスト	総復習

関連科目	スペイン語オラルⅢ、総合スペイン語A・B
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(練習問題の予習・提出物・小テスト・スピーチの作成過程など)および目標到達度判定テスト
----------	--

学生へのメッセージ	スペイン語で正しく文章が書けるようになるために、数多く作文練習を積み重ねましょう。毎回必ず、配布された練習問題を解く予習を欠かさないこと。 自分の主張や固有の体験を短くとも「聞かせる」日本語で書き、スペイン語に訳した原稿を暗唱し発表する、初めてのスピーチに挑みます。
-----------	--

担当者の	7号館2階 (非常勤講師控室)
------	-----------------

研究室等	
備考	<p>語彙力を養うために、ボキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限活用してください。 事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。</p>

科目名	スペイン語文章構成 I	科目名 (英文)	Spanish Composition I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR 2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹

授業概要・目的	文の要素と構造による種類をきちんと理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。後半はそれと並行し、与えられた共通テーマのもと、まず日本語で作文し、それをスペイン語に訳した短いスピーチ原稿を作成し、添削を受けた後、暗唱し発表する。これを後期に行うスピーチ・コンテストの試行体験と位置づける。
到達目標	語彙力をより豊かにしつつ、短くとも正確なスペイン語での文章表現ができるようになる。
授業方法と留意点	与えられた練習問題を必ず解いたうえで授業に臨み、受講生の板書に対する添削と説明を聴き、和文西訳に慣れる。「総合A」と「総合B」で学ぶ接続法はスペイン語で頻繁に用いられるため、本科目と密接に関連している。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級(4級合格には接続法の理解が必要です。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	文の要素	主部・述部、句・節、単文・複文・重文、目的語、補語の理解と判別	文法用語の確認と品詞ごとの特徴の整理
2	構造による文の種類	自動詞文、他動詞文、再帰文、無主語文、不定人称文	文の骨格を見抜くコツを練習問題によってつかむ。作文問題を解いておく。
3	冠詞、所有詞、指示詞、数量詞の正しい用法	名詞の前に位置し、名詞の指す対象を何らかの形で限定するはたらきをする語について、不定語・否定語や分数・小数・倍数などを含め、正しく使えるようにする。	限定詞についての復習 作文問題を解いておく。
4	人称代名詞の使い方	格(主格、前置格、目的格)、位置と重複表現	人称代名詞それぞれの6つの形の復習 作文問題を解いておく。
5	動詞の法・時制・アスペクト(相)	スペイン語の法、文の構造と法、直説法の時制体系、絶対時制、相対時制、推量・非現実を表す時制体系、接続法の時制体系、相についての整理と理解	動詞の非人称形(不定詞、現在分詞、過去分詞)の復習をしておく。 作文問題を解いておく。
6	受動の表現、使役・放任の表現、知覚の表現	ser 受身と se 受身、受動文の主語、se 受身と不定人称、hacer, dejar の使役構文、知覚動詞の用い方	作文問題を解いておく。
7	条件の表現、譲歩の表現	現実的条件文、非現実的条件文、現実的譲歩文、非現実的譲歩文	「総合スペイン語A・B」で学んでいる接続法4時制の確認 スピーチ原稿を日本語で準備する
8	願望・疑惑の表現、時間・空間の表現、原因・理由・結果の表現、目的の表現	Que + 接続法、Ojala (que) + 接続法、quiza(s), tal vez, a lo mejor, acaso, igual 等、debido a, ya que, así que, de ahí que, por tanto, tal que, para que, de modo que 等	「総合スペイン語A・B」で学んでいる接続法4時制の確認 スピーチ日本語原稿の練り直し 作文問題を解いておく。
9	比較の表現 理解度確認中間テスト	比較級と最上級	スペイン語技能検定4級過去問を解く。 スピーチ原稿のスペイン語訳を行う。 作文問題を解いておく。
10	語順	統語的基準と情動的基準	スペイン語技能検定4級過去問を解く。 スピーチ原稿のスペイン語訳を完成し提出する。 作文問題を解いておく。
11	文と文のつながり	関係詞と用法、関係代名詞、関係副詞、関係形容詞	スピーチ原稿の添削指導を受け、理解した上で完成原稿を作成する。 作文問題を解いておく。
12	話法	話法の種類、間接話法	スピーチ完成原稿を暗誦し、発表の練習をする。 作文問題を解いておく。
13	分詞構文	条件、理由、譲歩、時、様態	スピーチ完成原稿を暗誦し、発表の練習をする。 作文問題を解いておく。
14	スピーチの発表	同級生のスピーチを理解しようと努めると同時に、未知の語彙を聞きとり書きとめる。	事前に、スピーチ発表のための発音、イントネーション、表現力などの指導は行うが、「オラル」のネイティブ教員からも必ずアドバイスを受けておくこと。
15	これまでの学習内容の確認	目標到達度達成判定テスト	総復習

関連科目	スペイン語オラルⅢ、総合スペイン語A・B
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(練習問題の予習・提出物・小テスト・スピーチの作成過程など)および目標到達度判定テスト
----------	--

学生へのメッセージ	スペイン語で正しく文章が書けるようになるために、数多く作文練習を積み重ねましょう。毎回必ず、配布された練習問題を解く予習を欠かさないうこと。事前・事後学修に各1時間を要する。自分の主張や固有の体験を短くとも「聞かせる」日本語で書き、スペイン語に訳した原稿を暗唱し発表する、初めてのスピーチに挑みます。
-----------	--

担当者の	7号館5階(安達研究室)
------	--------------

研究室等	
備考	<p>語彙力を養うために、ボキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限活用してください。 事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。</p>

科目名	スペイン語文章構成 I	科目名 (英文)	Spanish Composition I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	文の要素と構造による種類をきちんと理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。後半はそれと並行し、与えられた共通テーマのもと、まず日本語で作文し、それをスペイン語に訳した短いスピーチ原稿を作成し、添削を受けた後、暗唱し発表する。これを後期に行うスピーチ・コンテストの試行体験と位置づける。
到達目標	語彙力をより豊かにしつつ、短くとも正確なスペイン語での文章表現ができるようになる。
授業方法と留意点	与えられた練習問題を必ず解いたうえで授業に臨み、受講生の板書に対する添削と説明を聴き、和文西訳に慣れる。「総合A」と「総合B」で学ぶ接続法はスペイン語で頻繁に用いられるため、本科目と密接に関連している。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級(4級合格には接続法の理解が必要です。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	文の要素	主部・述部、句・節、単文・複文・重文、目的語、補語の理解と判別	文法用語の確認と品詞ごとの特徴の整理
2	構造による文の種類	自動詞文、他動詞文、再帰文、無主語文、不定人称文	文の骨格を見抜くコツを練習問題によってつかむ。作文問題を解いておく。
3	冠詞、所有詞、指示詞、数量詞の正しい用法	名詞の前に位置し、名詞の指す対象を何らかの形で限定するはたらきをする語について、不定語・否定語や分数・小数・倍数などを含め、正しく使えるようにする。	限定詞についての復習 作文問題を解いておく。
4	人称代名詞の使い方	格(主格、前置格、目的格)、位置と重複表現	人称代名詞それぞれの6つの形の復習 作文問題を解いておく。
5	動詞の法・時制・アスペクト(相)	スペイン語の法、文の構造と法、直説法の時制体系、絶対時制、相対時制、推量・非現実を表す時制体系、接続法の時制体系、相についての整理と理解	動詞の非人称形(不定詞、現在分詞、過去分詞)の復習をしておく。 作文問題を解いておく。
6	受動の表現、使役・放任の表現、知覚の表現	ser 受身と se 受身、受動文の主語、se 受身と不定人称、hacer, dejar の使役構文、知覚動詞の用い方	作文問題を解いておく。
7	条件の表現、譲歩の表現	現実的条件文、非現実的条件文、現実的譲歩文、非現実的譲歩文	「総合スペイン語A・B」で学んでいる接続法4時制の確認 スピーチ原稿を日本語で準備する
8	願望・疑惑の表現、時間・空間の表現、原因・理由・結果の表現、目的の表現	Que + 接続法、Ojala (que) + 接続法、quiza(s), tal vez, a lo mejor, acaso, igual 等、debido a, ya que, así que, de ahí que, por tanto, tal que, para que, de modo que 等	「総合スペイン語A・B」で学んでいる接続法4時制の確認 スピーチ日本語原稿の練り直し 作文問題を解いておく。
9	比較の表現 理解度確認中間テスト	比較級と最上級	スペイン語技能検定4級過去問を解く。 スピーチ原稿のスペイン語訳を行う。 作文問題を解いておく。
10	語順	統語的基準と情動的基準	スペイン語技能検定4級過去問を解く。 スピーチ原稿のスペイン語訳を完成し提出する。 作文問題を解いておく。
11	文と文のつながり	関係詞と用法、関係代名詞、関係副詞、関係形容詞	スピーチ原稿の添削指導を受け、理解した上で完成原稿を作成する。 作文問題を解いておく。
12	話法	話法の種類、間接話法	スピーチ完成原稿を暗誦し、発表の練習をする。 作文問題を解いておく。
13	分詞構文	条件、理由、譲歩、時、様態	スピーチ完成原稿を暗誦し、発表の練習をする。 作文問題を解いておく。
14	スピーチの発表	同級生のスピーチを理解しようと努めると同時に、未知の語彙を聞きとり書きとめる。	事前に、スピーチ発表のための発音、イントネーション、表現力などの指導は行うが、「オラル」のネイティブ教員からも必ずアドバイスを受けておくこと。
15	これまでの学習内容の確認	目標到達度達成判定テスト	総復習

関連科目	スペイン語オラルⅢ、総合スペイン語A・B
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(練習問題の予習・提出物・小テスト・スピーチの作成過程など)および目標到達度判定テスト
----------	--

学生へのメッセージ	スペイン語で正しく文章が書けるようになるために、数多く作文練習を積み重ねましょう。毎回必ず、配布された練習問題を解く予習を欠かさないこと。 自分の主張や固有の体験を短くとも「聞かせる」日本語で書き、スペイン語に訳した原稿を暗唱し発表する、初めてのスピーチに挑みます。
担当者の	7号館5階 (北條研究室)

研究室等	
備考	<p>語彙力を養うために、ボキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限活用してください。 事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。</p>

科目名	スペイン語文章構成Ⅱ	科目名(英文)	Spanish Composition II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹

**授業概要・目的**  
 ただ単に文法的に正しいスペイン語を書けるようになるだけでなく、スペイン語らしい発想にもとづいた文が書けるようになることをめざす。前半は構文習得のための文章作法を、後半はテーマ・場面別の作文練習を行うことで系統立った語彙力養成を中心に学習する。11月末に行うスペイン語スピーチコンテストの原稿作成に重点を置く。日本語原稿を夏休み前までに完成し、夏休み中にスペイン語訳に取り組み、後期初回の授業で提出する。10月半ばまでに添削を受け、音読と暗唱の練習を行う。詳しくは前期末に配布する実施要領を参照すること。

**到達目標**  
 これまでに取り組んできた英作文の問題がスペイン語でできることが到達目標のめやすである。

**授業方法と留意点**  
 日本語をスペイン語に表現した場合、唯一の答えはない。いつも様々な表現や可能性を追究しながら、表現力を豊かにしていくことが重要である。毎回必ず問題を解き(作文し)授業に臨まなければ、出席したことにはならない。テーマ別および品詞別に独自の語彙リストを作成することを、後期を通じての課題とする。  
 理解度やスピーチ・コンテストの日程により、授業内容の順番が入れ替わることもある。

**科目学習の効果(資格)**  
 スペイン語検定4級(6月に不合格であった者は、10月の受験で合格をめざす。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	比較表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	数詞の復習
2	無人称表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	再帰動詞の復習
3	現在分詞を用いた分詞構文	和文西訳 スピーチ原稿指導	現在分詞不規則形の確認
4	過去分詞を用いた分詞構文	和文西訳 スピーチ原稿指導	過去分詞不規則形の確認
5	受け身表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	日本語との表現方法の違いを理解する
6	婉曲表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	直接法過去未来の活用確認
7	関係詞を用いる文章表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	さまざまな関係代名詞、関係副詞の復習
8	テーマ別作文(大学生生活)	和文西訳 スピーチ原稿指導	大学生生活に関する語彙リスト作成
9	テーマ別作文(外国語と勉強)	和文西訳 スピーチ原稿指導	外国語とその文化を学ぶための語彙リスト作成
10	テーマ別作文(旅行・留学)	和文西訳 コンテスト直前スピーチ指導	旅行・留学に必要な語彙リスト作成
11	テーマ別作文(料理・食事)	和文西訳	料理文化に関する語彙リスト作成
12	テーマ別作文(人間関係)	和文西訳	人間関係、家族生活、感情表現に関する語彙リスト作成
13	テーマ別作文(エネルギー・環境問題)	和文西訳	エネルギー資源、環境問題に関する語彙リスト作成
14	テーマ別作文(通信手段)	和文西訳	通信手段に関する語彙リスト作成
15	学習事項の確認	到達目標達成度確認テスト	総復習

**関連科目**  
 スペイン語オラルⅣ、メディアのスペイン語Ⅱ、スペイン語圏トピックス、映画のスペイン語Ⅰ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法(基準)**  
 平常点(練習問題の予習・提出物・小テスト・スピーチの作成過程)および到達目標達成度判定テスト

**学生へのメッセージ**  
 前期に続いて、後期ではより内容の深いスピーチをめざし、日本語原稿作成・添削段階からスペイン語訳・添削、朗読練習を経て暗唱・発表をやり遂げてもらいます。夏休み前に配布する実施要領に従って準備を怠らないこと。全国レベルのスペイン語弁論大会への出場もめざしましょう。この作業を通じて、自分の経験や考えをスペイン語で表現できる喜びを味わってください。

**担当者の研究室等**  
 7号館5階(安達研究室)

**備考**  
 事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。



科目名	スペイン語文章構成Ⅱ	科目名(英文)	Spanish Composition II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	ただ単に文法的に正しいスペイン語を書けるようになるだけでなく、スペイン語らしい発想にもとづいた文が書けるようになることをめざす。前半は構文習得のための文章作法を、後半はテーマ・場面別の作文練習を行うことで系統立った語彙力養成を中心に学習する。11月末に行うスペイン語スピーチコンテストの原稿作成に重点を置く。日本語原稿を夏休み前までに完成し、夏休み中にスペイン語訳に取り組み、後期初回の授業で提出する。10月半ばまでに添削を受け、音読と暗唱の練習を行う。詳しくは前期末に配布する実施要領を参照すること。
到達目標	これまでに取り組んできた英作文の問題がスペイン語でできることが到達目標のめやすである。
授業方法と留意点	日本語をスペイン語に表現した場合、唯一の答えはない。いつも様々な表現や可能性を追究しながら、表現力を豊かにしていくことが重要である。毎回必ず問題を解き(作文し)授業に臨まなければ、出席したことにはならない。テーマ別および品詞別に独自の語彙リストを作成することを、後期を通じての課題とする。 理解度やスピーチ・コンテストの日程により、授業内容の順番が入れ替わることもある。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級(6月に不合格であった者は、10月の受験で合格をめざす。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	無人称表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	再帰動詞の復習
3	現在分詞を用いた分詞構文	和文西訳 スピーチ原稿指導	現在分詞不規則形の確認
4	過去分詞を用いた分詞構文	和文西訳 スピーチ原稿指導	過去分詞不規則形の確認
5	受け身表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	日本語との表現方法の違いを理解する
6	婉曲表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	直接法過去未来の活用確認
7	関係詞を用いる文章表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	さまざまな関係代名詞、関係副詞の復習
8	テーマ別作文(大学生生活)	和文西訳 スピーチ原稿指導	大学生生活に関する語彙リスト作成
9	テーマ別作文(外国語と勉強)	和文西訳 スピーチ原稿指導	外国語とその文化を学ぶための語彙リスト作成
10	テーマ別作文(旅行・留学)	和文西訳 コンテスト直前スピーチ指導	旅行・留学に必要な語彙リスト作成
11	テーマ別作文(料理・食事)	和文西訳	料理文化に関する語彙リスト作成
12	テーマ別作文(人間関係)	和文西訳	人間関係、家族生活、感情表現に関する語彙リスト作成
13	テーマ別作文(エネルギー・環境問題)	和文西訳	エネルギー資源、環境問題に関する語彙リスト作成
14	テーマ別作文(通信手段)	和文西訳	通信手段に関する語彙リスト作成
15	学習事項の確認	到達目標達成度確認テスト	総復習

関連科目: スペイン語オラルⅣ、メディアのスペイン語Ⅱ、スペイン語圏トピックス、映画のスペイン語Ⅰ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(練習問題の予習・提出物・小テスト・スピーチの作成過程)および到達目標達成度判定テスト
学生へのメッセージ	前期に続いて、後期ではより内容の深いスピーチをめざし、日本語原稿作成・添削段階からスペイン語訳・添削、朗読練習を経て暗唱・発表をやり遂げてもらいます。夏休み前に配布する実施要領に従って準備を怠らないこと。全国レベルのスペイン語弁論大会への出場もめざしましょう。この作業を通じて、自分の経験や考えをスペイン語で表現できる喜びを味わってください。
担当者の研究室等	7号館5階(北條研究室)
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	スペイン語文章構成Ⅱ	科目名(英文)	Spanish Composition II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹

授業概要・目的	ただ単に文法的に正しいスペイン語を書けるようになるだけでなく、スペイン語らしい発想にもとづいた文が書けるようになることをめざす。前半は構文習得のための文章作法を、後半はテーマ・場面別の作文練習を行うことで系統立った語彙力養成を中心に学習する。11月末に行うスペイン語スピーチコンテストの原稿作成に重点を置く。日本語原稿を夏休み前までに完成し、夏休み中にスペイン語訳に取り組み、後期初回の授業で提出する。10月半ばまでに添削を受け、音読と暗唱の練習を行う。詳しくは前期末に配布する実施要領を参照すること。
到達目標	これまでに取り組んできた英作文の問題がスペイン語でできることが到達目標のめやすである。
授業方法と留意点	日本語をスペイン語に表現した場合、唯一の答えはない。いつも様々な表現や可能性を追究しながら、表現力を豊かにしていくことが重要である。毎回必ず問題を解き(作文し)授業に臨まなければ、出席したことにはならない。テーマ別および品詞別に独自の語彙リストを作成することを、後期を通じての課題とする。 理解度やスピーチ・コンテストの日程により、授業内容の順番が入れ替わることもある。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級(6月に不合格であった者は、10月の受験で合格をめざす。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	無人称表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	再帰動詞の復習
3	現在分詞を用いた分詞構文	和文西訳 スピーチ原稿指導	現在分詞不規則形の確認
4	過去分詞を用いた分詞構文	和文西訳 スピーチ原稿指導	過去分詞不規則形の確認
5	受け身表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	日本語との表現方法の違いを理解する
6	婉曲表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	直接法過去未来の活用確認
7	関係詞を用いる文章表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	さまざまな関係代名詞、関係副詞の復習
8	テーマ別作文(大学生生活)	和文西訳 スピーチ原稿指導	大学生生活に関する語彙リスト作成
9	テーマ別作文(外国語と勉強)	和文西訳 スピーチ原稿指導	外国語とその文化を学ぶための語彙リスト作成
10	テーマ別作文(旅行・留学)	和文西訳 コンテスト直前スピーチ指導	旅行・留学に必要な語彙リスト作成
11	テーマ別作文(料理・食事)	和文西訳	料理文化に関する語彙リスト作成
12	テーマ別作文(人間関係)	和文西訳	人間関係、家族生活、感情表現に関する語彙リスト作成
13	テーマ別作文(エネルギー・環境問題)	和文西訳	エネルギー資源、環境問題に関する語彙リスト作成
14	テーマ別作文(通信手段)	和文西訳	通信手段に関する語彙リスト作成
15	学習事項の確認	到達目標達成度確認テスト	総復習

関連科目: スペイン語オラルⅣ、メディアのスペイン語Ⅱ、スペイン語圏トピックス、映画のスペイン語Ⅰ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(練習問題の予習・提出物・小テスト・スピーチの作成過程)および到達目標達成度判定テスト
学生へのメッセージ	前期に続いて、後期ではより内容の深いスピーチをめざし、日本語原稿作成・添削段階からスペイン語訳・添削、朗読練習を経て暗唱・発表をやり遂げてもらいます。夏休み前に配布する実施要領に従って準備を怠らないこと。全国レベルのスペイン語弁論大会への出場もめざしましょう。この作業を通じて、自分の経験や考えをスペイン語で表現できる喜びを味わってください。
担当者の研究室等	7号館5階(安達研究室)
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	スペイン語文章構成Ⅱ	科目名(英文)	Spanish Composition II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	ただ単に文法的に正しいスペイン語を書けるようになるだけでなく、スペイン語らしい発想にもとづいた文が書けるようになることをめざす。前半は構文習得のための文章作法を、後半はテーマ・場面別の作文練習を行うことで系統立った語彙力養成を中心に学習する。11月末に行うスペイン語スピーチコンテストの原稿作成に重点を置く。日本語原稿を夏休み前までに完成し、夏休み中にスペイン語訳に取り組み、後期初回の授業で提出する。10月半ばまでに添削を受け、音読と暗唱の練習を行う。詳しくは前期末に配布する実施要領を参照すること。
到達目標	これまでに取り組んできた英作文の問題がスペイン語でできることが到達目標のめやすである。
授業方法と留意点	日本語をスペイン語に表現した場合、唯一の答えはない。いつも様々な表現や可能性を追究しながら、表現力を豊かにしていくことが重要である。毎回必ず問題を解き(作文し)授業に臨まなければ、出席したことにはならない。テーマ別および品詞別に独自の語彙リストを作成することを、後期を通じての課題とする。 理解度やスピーチ・コンテストの日程により、授業内容の順番が入れ替わることもある。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級(6月に不合格であった者は、10月の受験で合格をめざす。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	無人称表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	再帰動詞の復習
3	現在分詞を用いた分詞構文	和文西訳 スピーチ原稿指導	現在分詞不規則形の確認
4	過去分詞を用いた分詞構文	和文西訳 スピーチ原稿指導	過去分詞不規則形の確認
5	受け身表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	日本語との表現方法の違いを理解する
6	婉曲表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	直接法過去未来の活用確認
7	関係詞を用いる文章表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	さまざまな関係代名詞、関係副詞の復習
8	テーマ別作文(大学生生活)	和文西訳 スピーチ原稿指導	大学生生活に関する語彙リスト作成
9	テーマ別作文(外国語と勉強)	和文西訳 スピーチ原稿指導	外国語とその文化を学ぶための語彙リスト作成
10	テーマ別作文(旅行・留学)	和文西訳 コンテスト直前スピーチ指導	旅行・留学に必要な語彙リスト作成
11	テーマ別作文(料理・食事)	和文西訳	料理文化に関する語彙リスト作成
12	テーマ別作文(人間関係)	和文西訳	人間関係、家族生活、感情表現に関する語彙リスト作成
13	テーマ別作文(エネルギー・環境問題)	和文西訳	エネルギー資源、環境問題に関する語彙リスト作成
14	テーマ別作文(通信手段)	和文西訳	通信手段に関する語彙リスト作成
15	学習事項の確認	到達目標達成度確認テスト	総復習

関連科目: スペイン語オラルⅣ、メディアのスペイン語Ⅱ、スペイン語圏トピックス、映画のスペイン語Ⅰ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(練習問題の予習・提出物・小テスト・スピーチの作成過程)および到達目標達成度判定テスト
学生へのメッセージ	前期に続いて、後期ではより内容の深いスピーチをめざし、日本語原稿作成・添削段階からスペイン語訳・添削、朗読練習を経て暗唱・発表をやり遂げてもらいます。夏休み前に配布する実施要領に従って準備を怠らないこと。全国レベルのスペイン語弁論大会への出場もめざしましょう。この作業を通じて、自分の経験や考えをスペイン語で表現できる喜びを味わってください。
担当者の研究室等	7号館5階(北條研究室)
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	スペイン語文章構成Ⅱ	科目名(英文)	Spanish Composition II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子

授業概要・目的	ただ単に文法的に正しいスペイン語を書けるようになるだけでなく、スペイン語らしい発想にもとづいた文が書けるようになることをめざす。前半は構文習得のための文章作法を、後半はテーマ・場面別の作文練習を行うことで系統立った語彙力養成を中心に学習する。11月末に行うスペイン語スピーチコンテストの原稿作成に重点を置く。日本語原稿を夏休み前までに完成し、夏休み中にスペイン語訳に取り組み、後期初回の授業で提出する。10月半ばまでに添削を受け、音読と暗唱の練習を行う。詳しくは前期末に配布する実施要領を参照すること。
到達目標	これまでに取り組んできた英作文の問題がスペイン語でできることが到達目標のめやすである。
授業方法と留意点	日本語をスペイン語に表現した場合、唯一の答えはない。いつも様々な表現や可能性を追究しながら、表現力を豊かにしていくことが重要である。毎回必ず問題を解き(作文し)授業に臨まなければ、出席したことにはならない。テーマ別および品詞別に独自の語彙リストを作成することを、後期を通じての課題とする。 理解度やスピーチ・コンテストの日程により、授業内容の順番が入れ替わることもある。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級(6月に不合格であった者は、10月の受験で合格をめざす。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	無人称表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	再帰動詞の復習
3	現在分詞を用いた分詞構文	和文西訳 スピーチ原稿指導	現在分詞不規則形の確認
4	過去分詞を用いた分詞構文	和文西訳 スピーチ原稿指導	過去分詞不規則形の確認
5	受け身表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	日本語との表現方法の違いを理解する
6	婉曲表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	直接法過去未来の活用確認
7	関係詞を用いる文章表現	和文西訳 スピーチ原稿指導	さまざまな関係代名詞、関係副詞の復習
8	テーマ別作文(大学生生活)	和文西訳 スピーチ原稿指導	大学生生活に関する語彙リスト作成
9	テーマ別作文(外国語と勉強)	和文西訳 スピーチ原稿指導	外国語とその文化を学ぶための語彙リスト作成
10	テーマ別作文(旅行・留学)	和文西訳 コンテスト直前スピーチ指導	旅行・留学に必要な語彙リスト作成
11	テーマ別作文(料理・食事)	和文西訳	料理文化に関する語彙リスト作成
12	テーマ別作文(人間関係)	和文西訳	人間関係、家族生活、感情表現に関する語彙リスト作成
13	テーマ別作文(エネルギー・環境問題)	和文西訳	エネルギー資源、環境問題に関する語彙リスト作成
14	テーマ別作文(通信手段)	和文西訳	通信手段に関する語彙リスト作成
15	学習事項の確認	到達目標達成度確認テスト	総復習

関連科目	スペイン語オラルⅣ、メディアのスペイン語Ⅱ、スペイン語圏トピックス、映画のスペイン語Ⅰ
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(練習問題の予習・提出物・小テスト・スピーチの作成過程)および到達目標達成度判定テスト
----------	--

学生へのメッセージ	前期に続いて、後期ではより内容の深いスピーチをめざし、日本語原稿作成・添削段階からスペイン語訳・添削、朗読練習を経て暗唱・発表をやり遂げてもらいます。夏休み前に配布する実施要領に従って準備を怠らないこと。全国レベルのスペイン語弁論大会への出場もめざしましょう。この作業を通じて、自分の経験や考えをスペイン語で表現できる喜びを味わってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師控室)
----------	----------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。
----	------------------------------

科目名	スペイン語文章構成Ⅲ	科目名(英文)	Spanish Composition III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	Q
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	磯野 吉美

授業概要・目的	テーマごとにプリントを用いてスペイン語の作文練習を行う。 語彙と表現の幅を広げる。文法の正確な知識を身につける。
到達目標	文法の基礎を確認し、正確な文章を作成すること。 語彙は、日常の私的領域に関わるものから、学術的、社会的な領域のものにまで広げる。 知識として蓄積されたものを正確に表出する練習。
授業方法と留意点	文法事項を復習しながら、和文西訳の練習を行う。授業は作文の添削から始めるので、必ず予習をし問題を解いたうえで授業に臨むこと。日本語との対照の視点を持つこと。日本語の文章を、文法的にも論理的にも正確に把握し、また表現することを常に心がけること。 文構造の把握と暗記が作文の基本であるので、知識として定着するまで何度も反復練習すること。
科目学習の効果(資格)	スペイン語の表現力を身につけること。日本語の理解を深めること。 応用の前提となる、暗記・暗唱(スピーチ)の力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要、評価基準について 既習文法事項の復習	1, 2 回生の学習事項の中で、特に難しいと感じた点を挙げること。
	2	関係代名詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	3	関係代名詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	4	再帰動詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	5	再帰動詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	6	受動態と無人称	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	7	受動態と無人称	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	8	前半のまとめ	既習項目の復習と中間テスト	和文西訳、新出語彙の整理
	9	叙法	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	10	叙法	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	11	単純時制と複合時制	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	12	単純時制と複合時制	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	13	動詞の非人称形	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	14	動詞の非人称形	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	15	後半のまとめ	既習項目の復習と期末テスト	和文西訳、新出語彙の整理

関連科目	スペイン語の科目、スピーチコンテスト
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	出席、授業態度、提出物、臨時試験(中間・期末)などを総合的に評価する。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	言語習得には、予習と復習が欠かせない。授業を、黒板の“模範解答”を写すだけの時間にしてしまわないこと。 語彙はもちろん、文型や構文、慣用表現を覚えることが第一である。1, 2 回生で学んだことを自分で整理して、基礎知識として定着させておくこと。 スピーチ原稿作成に関しては、年頭に配布する実施要領に従って準備を怠らないこと。 自己管理をきちんとし、主体的に勉学に取り組むこと。事前・事後学修に各1時間を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師控室)
----------	----------------

備考	15回の授業スケジュールはあくまでも一応の目安であり、状況に応じて大小の変更が生じる。
----	---

科目名	スペイン語文章構成Ⅲ	科目名(英文)	Spanish Composition III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	R
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹

授業概要・目的	テーマごとにプリントを用いてスペイン語の作文練習を行う。 語彙と表現の幅を広げる。文法の正確な知識を身につける。
到達目標	文法の基礎を確認し、正確な文章を作成すること。 語彙は、日常の私的領域に関わるものから、学術的、社会的な領域のものにまで広げる。 知識として蓄積されたものを正確に表出する練習。
授業方法と留意点	文法事項を復習しながら、和文西訳の練習を行う。授業は作文の添削から始めるので、必ず予習をし問題を解いたうえで授業に臨むこと。日本語との対照の視点を持つこと。日本語の文章を、文法的にも論理的にも正確に把握し、また表現することを常に心がけること。 文構造の把握と暗記が作文の基本であるので、知識として定着するまで何度も反復練習すること。
科目学習の効果(資格)	スペイン語の表現力を身につけること。日本語の理解を深めること。 応用の前提となる、暗記・暗唱(スピーチ)の力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要、評価基準について 既習文法事項の復習	1, 2 回生の学習事項の中で、特に難しいと感じた点を挙げる。
	2	関係代名詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	3	関係代名詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	4	再帰動詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	5	再帰動詞	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	6	受動態と無人称	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	7	受動態と無人称	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	8	前半のまとめ	既習項目の復習と中間テスト	和文西訳、新出語彙の整理
	9	叙法	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	10	叙法	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	11	単純時制と複合時制	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	12	単純時制と複合時制	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	13	動詞の非人称形	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	14	動詞の非人称形	文法問題、和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	15	後半のまとめ	既習項目の復習と期末テスト	和文西訳、新出語彙の整理

関連科目	スペイン語の科目、スピーチコンテスト
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	出席、授業態度、提出物、臨時試験(中間・期末)などを総合的に評価する。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	言語習得には、予習と復習が欠かせない。授業を、黒板の“模範解答”を写すだけの時間にしてしまわないこと。 語彙はもちろん、文型や構文、慣用表現を覚えることが第一である。1, 2 回生で学んだことを自分で整理して、基礎知識として定着させておくこと。 スピーチ原稿作成に関しては、年頭に配布する実施要領に従って準備を怠らないこと。 自己管理をきちんとし、主体的に勉学に取り組むこと。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階(安達研究室)
----------	--------------

備考	15回の授業スケジュールはあくまでも一応の目安であり、状況に応じて大小の変更が生じる。事前・事後に各60分の学修を要する。
----	---

科目名	スペイン語文章構成IV	科目名(英文)	Spanish Composition IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	Q
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹

授業概要・目的	前期に引き続き、テーマごとにプリントを用いてスペイン語の作文練習を行う。 語彙と表現の幅を広げる。文法の正確な知識を身につける。 各自それぞれのテーマでも作文し、暗唱する。
到達目標	文法の基礎を確認し、正確な文章を作成すること。 語彙は、日常の私的領域に関わるものから、学術的、社会的な領域のものにまで広げる。 知識として蓄積されたものを正確に表出する練習。
授業方法と留意点	文法事項を復習しながら、和文西訳の練習を行う。日本語との対照の視点を持つこと。日本語の文章を、文法的にも論理的にも正確に把握し、また表現することを常に心がけること。 文構造の把握と暗記が作文の基本であるので、知識として定着するまで何度も反復練習すること。
科目学習の効果(資格)	スペイン語の表現力を身につけること。日本語の理解を深めること。 応用の前提となる、暗記・暗唱(スピーチ)の力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要、評価基準について 既習文法事項の復習(無人称文など)	
	2	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	3	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	4	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	5	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	6	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	7	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	8	前半のまとめ	既習項目の復習と中間テスト	和文西訳、新出語彙の整理
	9	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	10	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	11	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	12	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	13	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	14	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	15	後半のまとめ	既習項目の復習と期末テスト	和文西訳、新出語彙の整理

関連科目	スペイン語の科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業態度、提出物(スピーチ原稿等)、臨時試験(中間・期末)、出欠を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	言語習得には、予習と復習が欠かせない。授業を、黒板の“模範解答”を写すだけの時間にしてしまわないこと。 語彙はもちろん、文型や構文、慣用表現を覚えることが第一である。 1, 2回生で学んだことを自分で整理して、基礎知識として定着させておくこと。 スピーチ原稿作成に関しては、年頭に配布する実施要領に従って準備を怠らないこと。 自己管理をきちんととして、主体的に勉学に取り組むこと。事前・事後学修の各1時間を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階(安達研究室)
----------	--------------

備考	15回の授業スケジュールはあくまでも一応の目安であり、状況に応じて大小の変更が生じうる。
----	--

科目名	スペイン語文章構成IV	科目名(英文)	Spanish Composition IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	R
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	磯野 吉美

授業概要・目的	前期に引き続き、テーマごとにプリントを用いてスペイン語の作文練習を行う。 語彙と表現の幅を広げる。文法の正確な知識を身につける。 各自それぞれのテーマでも作文し、暗唱する。
到達目標	文法の基礎を確認し、正確な文章を作成すること。 語彙は、日常の私的領域に関わるものから、学術的、社会的な領域のものにまで広げる。 知識として蓄積されたものを正確に表出する練習。
授業方法と留意点	文法事項を復習しながら、和文西訳の練習を行う。日本語との対照の視点を持つこと。日本語の文章を、文法的にも論理的にも正確に把握し、また表現することを常に心がけること。 文構造の把握と暗記が作文の基本であるので、知識として定着するまで何度も反復練習すること。
科目学習の効果(資格)	スペイン語の表現力を身につけること。日本語の理解を深めること。 応用の前提となる、暗記・暗唱(スピーチ)の力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要、評価基準について 既習文法事項の復習(無人称文など)	
	2	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	3	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	4	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	5	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	6	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	7	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	8	前半のまとめ	既習項目の復習と中間テスト	和文西訳、新出語彙の整理
	9	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	10	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	11	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	12	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	13	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	14	暗記と作文練習	和文西訳	和文西訳、新出語彙の整理
	15	後半のまとめ	既習項目の復習と期末テスト	和文西訳、新出語彙の整理

関連科目	スペイン語の科目、スピーチコンテスト
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業態度、提出物(スピーチ原稿等)、臨時試験(中間・期末)、出欠を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	言語習得には、予習と復習が欠かせない。授業を、黒板の“模範解答”を写すだけの時間にしてしまわないこと。 語彙はもちろん、文型や構文、慣用表現を覚えることが第一である。 1, 2回生で学んだことを自分で整理して、基礎知識として定着させておくこと。 スピーチ原稿作成に関しては、年頭に配布する実施要領に従って準備を怠らないこと。事前・事後学修に各1時間を要する。自己管理をきちんとし、主体的に勉学に取り組むこと。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師控室)
----------	----------------

備考	15回の授業スケジュールはあくまでも一応の目安であり、状況に応じて大小の変更が生じうる。
----	--



科目名	スペイン語翻訳	科目名(英文)	Spanish-Japanese Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	ラテンアメリカ諸国は19世紀に入りスペインやポルトガルから独立した後、文学の面でも独自の展開をしていく。やがて20世紀後半、欧米の文学の行き詰まりもあって、ラテンアメリカ文学は世界的なブームを巻き起こす。この授業では、現代ラテンアメリカ文学を代表する作家とその作品を精読し、ラテンアメリカ社会の抱える問題や人の生のありようの理解に役立てる。同時に、スペイン語で書かれた文章を筋の通った日本語に翻訳する力を培う。
到達目標	スペイン語の読解力を強化するとともに、正しい日本語に翻訳する能力を身につける。
授業方法と留意点	視聴覚教材を随時利用し、受講者に問いかけながら進める。なお、単元の順序が変わることがある。
科目学習の効果(資格)	スペイン語圏の社会、文化、歴史に関する理解が深まり、論理的かつリズム感のよい日本語の文章を書けるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方について。翻訳について。課題とするテキストのコピーの配布。	配布されたコピーのスペイン語文の翻訳
2	日本語を考える	2015年のセルバンテス賞(スペイン語圏のノーベル文学賞)受賞メキシコ人作家 Fernando del Paso の De la A a la Z por un poeta を読み、翻訳する。	各自、翻訳(日本語)文の検討、言葉遣いのチェック
3	日本語を考える	2015年のセルバンテス賞(スペイン語圏のノーベル文学賞)受賞メキシコ人作家 Fernando del Paso の De la A a la Z por un poeta を読み、翻訳する。	各自、翻訳(日本語)文の検討、言葉遣いのチェック
4	日本語を考える	2015年のセルバンテス賞(スペイン語圏のノーベル文学賞)受賞メキシコ人作家 Fernando del Paso の De la A a la Z por un poeta を読み、翻訳する。	各自、翻訳(日本語)文の検討、言葉遣いのチェック
5	日本語を考える	2015年のセルバンテス賞(スペイン語圏のノーベル文学賞)受賞メキシコ人作家 Fernando del Paso の De la A a la Z por un poeta を読み、翻訳する。	各自、翻訳(日本語)文の検討、言葉遣いのチェック
6	日本語を考える	2015年のセルバンテス賞(スペイン語圏のノーベル文学賞)受賞メキシコ人作家 Fernando del Paso の De la A a la Z por un poeta を読み、翻訳する。	各自、翻訳(日本語)文の検討、言葉遣いのチェック
7	日本語を考える	2015年のセルバンテス賞(スペイン語圏のノーベル文学賞)受賞メキシコ人作家 Fernando del Paso の De la A a la Z por un poeta を読み、翻訳する。	各自、翻訳(日本語)文の検討、言葉遣いのチェック
8	短編の翻訳	グアテマラ国籍で後にメキシコに定住した作家 Augusto Monterroso の短篇集を読み、翻訳する。原文と翻訳文の比較・検討。	各自、翻訳(日本語)文の検討、言葉遣いのチェック
9	短編の翻訳	グアテマラ国籍で後にメキシコに定住した作家 Augusto Monterroso の短篇集を読み、翻訳する。原文と翻訳文の比較・検討。	各自、翻訳(日本語)文の検討、言葉遣いのチェック
10	短編の翻訳	グアテマラ国籍で後にメキシコに定住した作家 Augusto Monterroso の短篇集を読み、翻訳する。原文と翻訳文の比較・検討。	各自、翻訳(日本語)文の検討、言葉遣いのチェック
11	短編の翻訳	グアテマラ国籍で後にメキシコに定住した作家 Augusto Monterroso の短篇集を読み、翻訳する。原文と翻訳文の比較・検討。	各自、翻訳(日本語)文の検討、言葉遣いのチェック
12	短編の翻訳	グアテマラ国籍で後にメキシコに定住した作家 Augusto Monterroso の短篇集を読み、翻訳する。原文と翻訳文の比較・検討。	各自、翻訳(日本語)文の検討、言葉遣いのチェック
13	短編の翻訳	グアテマラ国籍で後にメキシコに定住した作家 Augusto Monterroso の短篇集を読み、翻訳する。原文と翻訳文の比較・検討。	各自、翻訳(日本語)文の検討、言葉遣いのチェック
14	短編の翻訳	グアテマラ国籍で後にメキシコに定住した作家 Augusto Monterroso の短篇集を読み、翻訳する。原文と翻訳文の比較・検討。	各自、翻訳(日本語)文の検討、言葉遣いのチェック
15	初見のテキストの翻訳	短時間で正確な日本語に訳せるかどうかをチェックする。	—————

関連科目	「翻訳文化論」、「スペイン語」と冠した講義
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コピー配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代ラテンアメリカ文学併走	安藤哲行	松籟社
	2	ラテンアメリカ十大小説	木村榮一	岩波新書
	3	翻訳家の仕事	岩波書店編集部編	岩波新書

評価方法(基準)	予習・復習、提出物、15回目に行う短編の翻訳等を総合的に判断する。
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語文をたくさん読んで語彙力を高めてください。上記の作家以外の作品や重要な時事問題の論説を取り上げることもあります。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階(北條研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学修に各1時間を要する。
----	-------------------

科目名	スペインの社会と文化	科目名(英文)	Spanish Society and Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹

授業概要・目的	スペインの文化、社会についての講義であるが、現代のを知るためには歴史を見なければならぬ。 また、スペインはヨーロッパの国であるから、その歴史はヨーロッパという規模で考察する必要がある。つまり、ギリシア・ローマの世界の延長にあること、キリスト教という文明圏に属することも、当然考慮せねばならない。 スペイン語圏トピックスや概論など、他の科目と重複する題材を扱うこともあるが、本科目は以上のような視点から、スペインという国や民族を考えたい。
到達目標	スペインの文化、社会、歴史について知識を得ることを目標とする。
授業方法と留意点	テーマごとに、何らかの資料をプリントで配布する。受講者はそれに基づく予備知識を持って、講義に臨む。授業時間内に、質問や議論も行う。こちらが用意するもの以外の文献(書籍やニュース記事など)に、自ら目を通すこと。
科目学習の効果(資格)	講義内容(口頭での説明)を要約し書きとめる作業に慣れる。日本語でもスペイン語でも(英語でも)、文章を読むことに慣れる。自ら講義内容に関することについて、調べ、考え、知識を蓄えるという一連の習慣を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	科目概要の説明	どのように授業を進めるか。参考図書等の紹介。	西洋史等の本を読む。
	2	地理的に見たヨーロッパとスペイン	ヨーロッパという地域とスペインの位置等について。	西洋史等の本を読む。
	3	地理的に見たヨーロッパとスペイン	ヨーロッパという地域とスペインの位置等について。	西洋史等の本を読む。
	4	地理的に見たヨーロッパとスペイン	ヨーロッパという地域とスペインの位置等について。	西洋史等の本を読む。
	5	ローマ帝国と中世ヨーロッパ	ラテンの世界、キリスト教等について。	ローマ史等の本を読む。
	6	ローマ帝国と中世ヨーロッパ	ラテンの世界、キリスト教等について。	ローマ史等の本を読む。
	7	ローマ帝国と中世ヨーロッパ	ラテンの世界、キリスト教等について。	ローマ史等の本を読む。
	8	前半のまとめとテスト	ヨーロッパの歴史と地理の概要について。	関連する本を読む。
	9	ルネサンス、大航海時代	印刷技術、人文主義、宗教改革、大航海時代について。	ルネサンス等の本を読む。
	10	ルネサンス、大航海時代	印刷技術、人文主義、宗教改革、大航海時代について。	ルネサンス等の本を読む。
	11	ルネサンス、大航海時代	印刷技術、人文主義、宗教改革、大航海時代について。	ルネサンス等の本を読む。
	12	スペインの言語と文化	スペインおよびヨーロッパの多言語性について。	関連する本を読む。
	13	スペインの言語と文化	スペインの文化について。	関連する本を読む。
	14	スペインの言語と文化	スペインの文化について。	関連する本を読む。
	15	後半のまとめとテスト	ルネサンス以降のスペインの歴史と文化について。	関連する本を読む。

関連科目	スペイン語圏トピックス
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	試験(複数回になりうる)と平常の授業参加の度合いを総合して判断する。 授業の3分の2以上の出席を期末試験の受験条件とする(3分の1以上の欠席で落第とする)。 遅刻(15分)は欠席としてカウントする。内職・居眠り等は欠席扱いとする。
----------	---

学生へのメッセージ	とにかく、日ごろから読書を習慣づけること。ヨーロッパの歴史、文化、芸術、社会、文学について、高校までで体得していない基礎知識については、あらゆる授業の前提となるため、必ず自分で補うこと。時間はたくさんあるので、読むという行為に費やすこと。 予習・復習・自習を行うこと。予習・復習に各1時間必要。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階(安達研究室)
----------	--------------

備考	授業計画は、あくまで計画である。集団の様子を見て、進捗や内容を調整・変更する。
----	---

科目名	スペシャリストインドネシア・マレー語	科目名(英文)	Indonesian-Malay for Specific Purposes
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口 玲子, 上田 達

授業概要・目的	これまで学習してきたインドネシア語、マレー語の運用能力をさらに高める。そのために上級レベルの講読、論文の執筆、聞きとり及び内容に対する討論、プレゼンテーションを行う。
到達目標	インドネシア語、マレー語について高度な運用能力を獲得することができる。
授業方法と留意点	各自が授業に積極的に参加することが望まれる。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語、マレー語運用能力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方、授業全体の構成等について説明する。(上田・山口担当)	シラバスを読んでおくこと。
2	講読1	高度な内容の講読を行う。(山口担当)	予習をしておくこと。
3	講読2	高度な内容の講読を行う。(山口担当)	予習をしておくこと。
4	講読3	高度な内容の講読を行い、内容をまとめる。(山口担当)	予習を行った上、講読した文献の内容をまとめておくこと。
5	論文の執筆1	論文の執筆を行うための基礎知識を学習する。論文の執筆を行う。(山口担当)	学習した知識をもとに、予習をしておくこと。
6	論文の執筆2	論文の執筆を行う。(山口担当)	予習をしておくこと。
7	講読、論文の内容をまとめる。	論文を完成させる。(山口担当)	まとめ終わった内容をもとにプレゼンテーションの準備を完了しておく。
8	プレゼンテーション	プレゼンテーションを行う。(山口担当)	プレゼンテーションの練習をしておくこと
9	文献講読1	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
10	文献講読2	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
11	文献講読3	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
12	資料読解1	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
13	資料読解2	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
14	資料読解3	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
15	プレゼンテーション	受講者が選択した論文の内容について要約を行う。(上田担当)	図書館やウェブから課題文献を選択して、配付資料等の発表準備を十分に行うこと。

関連科目	インドネシア語・マレー語の全科目
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じてプリントを用意する。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜指示する。		
2				
3				

評価方法(基準)	それぞれの担当者の評価を総合する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師控室 7号館5階(上田研究室)
備考	

科目名	世界の宗教	科目名(英文)	World Religions
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村上 司樹

**授業概要・目的**  
この授業では宗教について学ぶが、「信じられるか信じられないか」という問いの立て方はしない。つまり宗教をそのような「選択問題」として扱うのではなく、世界の人びとの生活と行動をかたちづけてきた「文化現象」として考える。例えば、日曜日は休みなのか、サンタクロースとは何者なのか、日本人は本当に「無宗教」なのか、あるいは日本人はなぜ自分たちを「無宗教」だと信じるのか、祭りとは何か、神話と聖典の違いとは何か、など。その際、とくにキリスト教に焦点を合わせる。なぜならキリスト教は、その信者が世界人口の3割を占めるだけでなく、西洋文化のバックボーンとして現代日本にも深い影響を及ぼしているからである。キリスト教を手がかりに、他の世界宗教（イスラームや仏教など）や日本固有の宗教である神道と比較することで、宗教という「文化現象」について具体的・論理的に考えたい。

**到達目標**  
学んだことを、結論・理由・具体例に分けて簡潔に説明できるようにする。

**授業方法と留意点**  
暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。

**科目学習の効果(資格)**  
欧米文化の土台であり、それゆえ現代日本にも深く影響を与えているキリスト教を知り、またそこから他の宗教を比較文化的に理解する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	必ず出席するよう予定を調整する。
2	時間の区切り方	江戸時代までの日本人は日曜日を休日とは思っていなかった	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	時間の区切り方	週の休日は宗教によって違う	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	時間の区切り方	「クリスマスとバレンタインを祝うこと＝キリスト教を信仰すること」ではない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	時間の区切り方	「今年は2015年」に客観的根拠はない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	恋愛の考え方	江戸時代までの日本人に「同性愛＝アブノーマル」という発想はなかった	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
7	恋愛の考え方	性や愛に対する考え方は宗教によって決まる	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	恋愛の考え方	私たちが常識だと思っている恋愛観はキリスト教が生み出したもの	同上の課題に加えて小レポート。
9	恋愛の考え方	「欧米は性や愛に関して寛容」という思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
10	恋愛の考え方	寛容だったのは、むしろ日本の宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	神話か聖典か	現代日本人が「宗教」になじめない理由	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	神話か聖典か	神話の宗教と聖典の宗教、この2つを区別することが必要	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	神話か聖典か	祭りも芸能も宗教から始まった	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	神話か聖典か	日本人は一般に「空気を読む宗教」を信じてきた	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	修行と説教(結)	日本人が理解しづらいのは「ルールを明文化する宗教」	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

**関連科目**  
日本と世界の出会い

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法(基準)**  
ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト(40点)、②レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点+α)。第3に60点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。

**学生へのメッセージ**  
宗教をふくめ、人間の営みでは「すべてが表裏一体」です。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記事項としての宗教」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える宗教」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。

**担当者の研究室等**  
7号館2階(非常勤講師室)

**備考**

科目名	世界の地理	科目名(英文)	World Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	今野 泰三

授業概要・目的	本講義では、空間や場所、スケールといった地理学の概念を理解したうえで、都市や文化、観光といったテーマを、グローバル世界の中に位置づける。後半では具体的な事例について学習し、地理学的なアプローチを理解する。
到達目標	人文地理学の諸分野を概観しながら、地理学の基礎となる空間的な視点を習得していく。 現代世界の地理的事象を系統地理的な理解を図り、現代社会の多様性を把握・理解することで、相対的なものの見方や地理学的想像力の涵養が期待される。
授業方法と留意点	授業はパワーポイントで行う。毎回、資料を配布する。また、必要に応じて映像資料の活用も行う。 講義終了後、毎回、評価対象となる小レポート(リアクション・ペーパー)の提出を求める。 授業中の私語に対しては、厳しく対処し、退出を命じることもある。
科目学習の効果(資格)	中学社会・高校地理歴史教育職員免許関係科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義ガイダンス	講義の目的・方法・進め方	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	2	地理学の基礎的概念(1)	「空間」の概念について	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	3	地理学の基礎的概念(2)	「場所」の概念について	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	4	地理学の基礎的概念(3)	「スケール」について	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	5	都市	都市地理学の理論と事例の紹介	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	6	観光	観光地理学の理論と事例の紹介	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	7	文化	文化地理学の理論と事例の紹介	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	8	社会	社会地理学の理論と事例の紹介	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	9	リバブルシティ	住みやすいまちとは	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	10	ジェントリフィケーション	ジェントリフィケーションとは	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	11	エスニックコミュニティの形成	エスニシティとは	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	12	基地問題とオキナワ	基地問題について	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。 講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	13	捕鯨問題と日本	捕鯨問題について	次回話題となるトピックを紹介するので、各自大学図書館やインターネット等で事前に調べ、紹介した参考文献も確認しておくこと。

				講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	14	パレスチナ問題とスペシオサイド（空間の扼殺）	パレスチナ問題について	講義中に配布した資料や講義をまとめたノートを授業後にきちんと整理・復習しておくこと。
	15	講義まとめ	講義の総括、および定期試験に関する説明。	全講義の内容を復習しておくこと。
関連科目	地誌学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学	竹中克行・山村亜希・大城直樹・梶田 真編著	ミネルヴァ書房
	2	政治・空間・場所：「政治の地理学」に向けて	山崎孝史	ナカニシヤ出版
	3			
評価方法（基準）	定期試験 70%、毎回提出を求める小レポート（リアクション・ペーパー） 30%で評価する。			
学生へのメッセージ	ニュースで扱われる現象や身近な出来事を地理学的視点で見た場合にどのようなことがいえるのか、普段から敏感に考えるようにしてください。また、そこでの気づきをリアクションペーパーに活かしてください。			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	世界の文化の比較	科目名(英文)	Comparative Study of Cultures
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村上 司樹

授業概要・目的	グローバル化が進む現在、私たちは好き嫌いに関係なく、多文化社会のなかで生きていかなくてはならない。多様な文化を理解し、柔軟に対処できる感覚が必要である。理解は考察から始まり、考察は比較から始まる。日常生活の基礎を成す衣・食・住の3つの視点から、私たちの文化、他国・他地域の文化について理解を深めよう。
到達目標	学んだことを、結論・理由・具体例に分けて簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各單元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
科目学習の効果(資格)	他国・他地域の文化を具体的に知ると同時に、日本文化についても理解を深める。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	2	食べる	食の国際化が特徴	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	3	食べる	和食とは洋食の反対語	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	4	食べる	肉を食べるか魚を食べるか	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	5	食べる	日本のオリジナル調味料とは	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	6	食べる	世界一危うい食卓	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
	7	食べる	「洋食＝肉食」ではない	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
	8	食べる	便利と危険は表裏一体	同上の課題に加えて小レポート。
	9	着る	洋服の反対語は何か	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	10	着る	恰好よくて快適だから洋服を着たわけではない	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	11	着る	「洋服は気楽だが着物は窮屈」というウソ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	12	着る	日本人はどうして洋服を着るようになったか ー男性の場合ー	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	13	着る	日本人はどうして洋服を着るようになったか ー女性の場合ー	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	14	住む	東洋の家・西洋の家	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
	15	住む	現代的な家は50年前から	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト(40点)、②レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点+α)。第3に60点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。
----------	---

学生へのメッセージ	人間の文化では「すべては表裏一体」です。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記事項としての文化」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える文化」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)
------------	---------------

科目名	世界の歴史	科目名(英文)	World History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子

授業概要・目的	イギリスの歴史と文化を、現代社会とのつながりを重視しながら概観する。「サッカー発祥の地」、「紅茶とアンティークの国」など、われわれがイギリスに対して抱いているイメージには、歴史的根拠が存在する。「イギリス料理はなぜまずいのか」、「イギリス人はなぜ傘をささないのか」といった身近な問いを出発点にしながら、政治・経済・文化、あらゆる角度からイギリス社会を読み解いていく。
到達目標	ヨーロッパ、大英帝国など、複数の次元でイギリスをとらえたときの特徴を理解する。一国の歴史にとどまらない、広がりのある歴史解釈をするにはどうすればよいか、その方法論を身につける。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、図像史料を活用しながら、板書をまじえて授業をすすめる。
科目学習の効果(資格)	歴史学に関する基本的知識を身につけるとともに、「過去」を通して「現代」を見つめる視座を獲得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イギリスとは何か	国のなりたちと地理	「イギリス」の正式名称を調べてくる。
	2	イギリス人のナショナル・アイデンティティ	連合王国、帝国としてのイギリス	ユニオン・ジャックの由来について調べてくる。
	3	イギリスの歴史概観	古代から現代にいたるまでのイギリスの歴史を世界史のなかに位置づける。	年表づくりをおこなう。
	4	イギリスの社会構造	階級からみたイギリス史	貴族制の歴史についてまとめる。
	5	イギリス人はなぜ傘をささないのか?	ステイタス・シンボルとしての傘	傘以外のステイタス・シンボルについて調べる。
	6	イギリス料理はなぜまずいのか?	・食文化からみたイギリスの歴史 ・中間テストの実施	イギリスの国民性を歴史的に考察する。
	7	イギリス人は家が好き?	住宅とアンティークからみたイギリスの歴史	イギリスにおける文化財保護活動について調べてくる。
	8	ナショナル・トラストの歴史(中間テスト)	歴史的建造物の保護運動	イギリスの王室と日本の皇室を比較してみる。
	9	イギリスの王室と政治(中間テスト解説)	王室の果たす役割	王室の歴史についてまとめる。
	10	子ども・老人・女性	社会的マイノリティの歴史	ほかのマリノリティ集団について調べてくる。
	11	動物愛護の国「イギリス」? ~アニマル・スポーツの世界~	ウィリアム・ホガースの『残酷の4段階』を読む	事前に配布したプリントを予習してくる。
	12	イギリスとヨーロッパ	対立と協調のはざままで	イギリスとEUの関係の歴史を整理する。
	13	世界のなかのイギリス(1)	ひらかれた島国「イギリス」	「帝国」の遺産についてまとめる。
	14	世界のなかのイギリス(2)	多民族国家イギリスの歴史	イギリスにおける移民問題についてまとめる。
15	総括	小テストの実施と解説	全授業内容を復習してくる。	

関連科目	ヨーロッパ史学
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	第15回目に実施する到達確認テスト(80%)、中間テストおよび提出物(20%)を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	歴史学とは過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(林田研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。
----	------------------------



科目名	総合インドネシア語 a (1)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills a(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央

授業概要・目的	1年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の総合的な運用能力の一層の向上を目指す。
到達目標	本授業では、特に「読む」「書く」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行う。
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 a (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。授業時には辞書を必ず携行すること。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第2課	授業の進め方の説明 基礎力確認演習 (講読)	学んだことの再確認
	2	第4課	基礎力確認演習 (能動文と受動文)	学んだことの再確認
	3	第6課	文の種類2 単文 (講読)	学んだことの再確認
	4	第7課	文の種類3 重文と複文 (講読)	学んだことの再確認
	5	第8課	基礎力確認演習 (総合①)	学んだことの再確認
	6	第8課	基礎力確認演習 (総合②)	学んだことの再確認
	7	第10課	インドネシアの教科書の講読①	予習 学んだことの再確認
	8	第10課	インドネシアの教科書の講読③	予習 学んだことの再確認
	9	第10課	インドネシアの教科書の講読⑤	予習 学んだことの再確認
	10	第11課	雑誌に親しんでみよう	学んだことの再確認
	11	第12課	会話文の講読②	学んだことの再確認
	12	第12課	会話文の講読④	学んだことの再確認
	13	第14課	エッセイの講読①	予習 学んだことの再確認
	14	第14課	エッセイの講読③	予習 学んだことの再確認
	15	第14課	エッセイの講読⑤ 夏期課題指示	予習 学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 a (2)」)
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合インドネシア語 第3版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部
	2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (「総合インドネシア語」統一試験)、「積極的な授業参加」の度合いなどをもとに総合的に判断する。 詳細は、第1回目の授業で伝える。
-----------	--

学生へのメッセージ	インドネシア語をモノにするために一生懸命取り組みましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来て下さい。積極的な姿勢が大切です。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習課題欄を参考にして、毎週少なくとも30分程度以上の復習は欠かさず、指示がある時は予習もこなすこと。
----	--

科目名	総合インドネシア語 a (2)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills a(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 真佐夫

授業概要・目的  
 インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の総合的な運用能力の一層の向上を目指す。本授業では、特に「読む」「書く」「話す」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行なう。

到達目標  
 あらゆる文体のインドネシア語をマスターすること。

授業方法と留意点  
 本授業は、「総合インドネシア語 a (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。  
 授業時には辞書を必ず携帯すること。

科目学習の効果 (資格)  
 インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第3課	基礎力確認演習 (作文)	次週の予習および学んだことの再確認
3	第5課	文の種類1 疑問文 (講読)	次週の予習および学んだことの再確認
4	第5課	文の種類1 疑問文 (作文)	次週の予習および学んだことの再確認
5	第6課	文の種類2 単文 (作文)	次週の予習および学んだことの再確認
6	第7課	文の種類3 (作文)	次週の予習および学んだことの再確認
7	第9課	新聞に親しんでみよう	次週の予習および学んだことの再確認
8	第10課	インドネシアの教科書の講読②	次週の予習および学んだことの再確認
9	第10課	インドネシアの教科書の講読④	次週の予習および学んだことの再確認
10	第10課	インドネシアの教科書の講読⑥	次週の予習および学んだことの再確認
11	第12課	会話文の講読①	次週の予習および学んだことの再確認
12	第12課	会話文の講読③	次週の予習および学んだことの再確認
13	第13課	広告に親しんでみよう	次週の予習および学んだことの再確認
14	第14課	エッセイの講読②	次週の予習および学んだことの再確認
15	第14課	エッセイの講読④	学んだことの再確認

関連科目  
 インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 a(1)」)

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)  
 定期試験 (「総合インドネシア語」統一試験)、「積極的な授業参加」の度合いなどをもとに総合的に判断する。

学生へのメッセージ  
 インドネシア語をモノにするために一生懸命取り組みましょう。

担当者の研究室等  
 7号館5階 山口室

備考  
 授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習課題には十分な時間をかけること。

科目名	総合インドネシア語 b (1)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills b(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央

授業概要・目的	1年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) 運用能力の一層の向上を目指す。
到達目標	前期開講の「総合インドネシア語 a (1)」に引き続き、本授業では特に「読む」能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行う。
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 b (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。授業時には辞書を必ず携帯すること。

科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定
--------------	-------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第15課	手紙を書いてみよう①	学んだことの再確認
2	第15課	手紙を書いてみよう②	予習 学んだことの再確認
3	第16課	ことわざの表現③④	予習 学んだことの再確認
4	第16課	ことわざの表現⑤⑥	学んだことの再確認
5	第17課	映画を観てみよう	予習 学んだことの再確認
6	第18課	文学作品の講読①	予習 学んだことの再確認
7	第18課	文学作品の講読③	予習 学んだことの再確認
8	第18課	文学作品の講読⑤	予習 学んだことの再確認
9	第18課	文学作品の講読⑦	予習 学んだことの再確認
10	第18課	文学作品の講読⑧	学んだことの再確認
11	第20課	bahasa baku と bahasa sehari-hari②	予習 学んだことの再確認
12	第20課	bahasa baku と bahasa sehari-hari③	予習 学んだことの再確認
13	第21課	テレビを観てみよう	学んだことの再確認
14	第23課	新聞記事の講読②	予習 学んだことの再確認
15	第23課	新聞記事の購読③	予習 学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 b (2)」)
------	---------------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	総合インドネシア語 第3版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部
2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験 (「総合インドネシア語」統一試験)、「積極的な授業参加」の度合いなどをもとに総合的に判断する。詳細は、第1回目の授業で伝える。
-----------	--

学生へのメッセージ	インドネシア語をモノにするために一生懸命に取り組みましょう。質問があれば、いつでも研究室に来て下さい。積極的な姿勢が大切です。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)
----------	--------------

備考	「事前・事後学習課題」欄を参考に、毎週少なくとも30分程度以上の復習は欠かさず、指示のある時は予習をこなすこと。
----	--

科目名	総合インドネシア語 b (2)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills b(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 真佐夫

授業概要・目的  
インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の運用能力の一層の向上を目指す。前期開講の「総合インドネシア語 a (2)」に引き続き、本授業では特に「読む」「書く」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行なう。

到達目標  
あらゆる文体のインドネシア語をマスターすること。

授業方法と留意点  
本授業は、「総合インドネシア語 b (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。  
授業時には辞書を必ず携行すること。

科目学習の効果 (資格)  
インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第 15 課	手紙を書いてみよう	次週の予習および学んだことの再確認
2	第 16 課	ことわざの表現①②	次週の予習および学んだことの再確認
3	第 15 課	手紙を書いてみよう	次週の予習および学んだことの再確認
4	第 15 課	手紙を書いてみよう	次週の予習および学んだことの再確認
5	第 18 課	文学作品の講読②	次週の予習および学んだことの再確認
6	第 18 課	文学作品の講読④	次週の予習および学んだことの再確認
7	第 18 課	文学作品の講読⑥	次週の予習および学んだことの再確認
8	第 19 課	スピーチをしてみよう①	次週の予習および学んだことの再確認
9	第 19 課 単語力確認テスト	スピーチをしてみよう②	次週の予習および学んだことの再確認
10	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari①	次週の予習および学んだことの再確認
11	第 19 課	スピーチをしてみよう③	次週の予習および学んだことの再確認
12	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari④	次週の予習および学んだことの再確認
13	第 22 課	略語と借用語	次週の予習および学んだことの再確認
14	第 23 課	新聞記事の講読①	次週の予習および学んだことの再確認
15	第 23 課	新聞記事の講読④	学んだことの再確認

関連科目  
インドネシア語科目すべて  
(特に「総合インドネシア語 b(1)」)

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)  
定期試験 (「総合インドネシア語」統一試験)、「積極的な授業参加」の度合いなどをもとに総合的に判断する。

学生へのメッセージ  
インドネシア語をモノにするために一生懸命に取り組みましょう。

担当者の研究室等  
7号館5階 山口室

備考  
授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習課題には十分な時間をかけること。

科目名	総合スペイン語 I	科目名 (英文)	Integrated Spanish Skills I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	磯野 吉美

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、例文と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門 A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補って行く。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。学生のニーズを優先したい。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション アルファベット	この授業の目指すところ 日本人の苦手な音	スペイン語圏の国 アルファベットを覚える
2	発音 音節分け	日本人の苦手な音 音節分けの練習	発音練習
3	名詞の性と数 定冠詞・不定冠詞	名詞の性の区別 複数形から単数形へ	新出語彙の整理と発音練習
4	形容詞 主格人称代名詞	形容詞の語尾変化 人称とは何か	新出語彙の整理と発音練習
5	estar, ser 動詞の直説法現在 基数 1～15	動詞活用とは何か 活用形の徹底 estar 動詞と ser 動詞の違い	活用形を覚える
6	hay の用法 疑問詞 (1)	存在と所在の違い 疑問詞の使い方 疑問文と否定文	活用形を覚える
7	所有格人称代名詞 基数 16～30	所有格人称代名詞の種類と用法	名詞の性と数の復習
8	直説法現在：規則動詞	活用形から主語を知る	活用形を覚える
9	指示形容詞 tener 直説法現在 疑問詞 (2)	指示形容詞の種類と使い方 tener 直説法現在の活用と用法 疑問詞の使い方	活用形を覚える
10	直説法現在：語根母音変化動詞	不規則動詞の活用	活用形を覚える
11	目的格人称代名詞 形容詞女性形 + mente の副詞	目的格人称代名詞の種類と使い方	目的格人称代名詞を覚える
12	直説法現在：一人称単数形のみ不規則な動詞 時刻、日付、曜日、月、天候表現	不規則動詞の活用 曜日、月名	基数 1～30 の復習 活用形を覚える
13	男性単数名詞の前の形容詞・数詞の語尾脱落 al と del 直説法現在：ir, venir, decir, o?r	不規則動詞の活用	活用形を覚える
14	現在分詞 進行形 比較級と最上級 示小辞・示大辞	現在分詞の形と用法	形容詞の復習
15	確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目 スペイン語入門 A、B、C

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語の広場	Contigo en español	橋本定久 他
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 適宜、小テストを実施する。定期試験も実施する。ただし、理解度確認テストで合格レベルに達しておれば、定期試験は免除することがある。小テスト+理解度確認テスト

学生へのメッセージ 初めての外国語の勉強は大変です。毎日、少しずつでも勉強しましょう。予習と復習は不可欠です。事前・事後に各 1 時間の学修時間を要する。

担当者の研究室等 7 号館 2 階 (非常勤講師室)

備考

科目名	総合スペイン語 I	科目名 (英文)	Integrated Spanish Skills I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	酒井 真梨奈

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、例文と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門 A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補っていく。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。学生のニーズを優先したい。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	発音 音節分け	日本人の苦手な音 音節分けの練習	発音練習
3	名詞の性と数 定冠詞・不定冠詞	名詞の性の区別 複数形から単数形へ	新出語彙の整理と発音練習
4	形容詞 主格人称代名詞	形容詞の語尾変化 人称とは何か	新出語彙の整理と発音練習
5	estar, ser 動詞の直説法現在 基数 1～15	動詞活用とは何か 活用形の徹底 estar 動詞と ser 動詞の違い	活用形を覚える
6	hay の用法 疑問詞 (1)	存在と所在の違い 疑問詞の使い方 疑問文と否定文	活用形を覚える
7	所有格人称代名詞 基数 16～30	所有格人称代名詞の種類と用法	名詞の性と数の復習
8	直説法現在：規則動詞	活用形から主語を知る	活用形を覚える
9	指示形容詞 tener 直説法現在 疑問詞 (2)	指示形容詞の種類と使い方 tener 直説法現在の活用と用法 疑問詞の使い方	活用形を覚える
10	直説法現在：語根母音変化動詞	不規則動詞の活用	活用形を覚える
11	目的格人称代名詞 形容詞女性形 + mente の副詞	目的格人称代名詞の種類と使い方	目的格人称代名詞を覚える
12	直説法現在：一人称単数形のみ不規則な動詞 時刻、日付、曜日、月、天候表現	不規則動詞の活用 曜日、月名	基数 1～30 の復習 活用形を覚える
13	男性単数名詞の前の形容詞・数詞の語尾脱落 al と del 直説法現在：ir, venir, decir, o?r	不規則動詞の活用	活用形を覚える
14	現在分詞 進行形 比較級と最上級 示小辞・示大辞	現在分詞の形と用法	形容詞の復習
15	確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目	スペイン語入門 A、B、C
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語の広場 Contigo en español	橋本定久 他	大学書林
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	適宜、小テストを実施する。定期試験も実施する。ただし、理解度確認テストで合格レベルに達しておれば、定期試験は免除することがある。小テスト+理解度確認テスト
-----------	---

学生へのメッセージ	初めての外国語の勉強は大変です。毎日、少しずつでも勉強しましょう。予習と復習は不可欠です。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	総合スペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Integrated Spanish Skills II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	酒井 真梨奈

授業概要・目的	前期と同じように、例文と文法の練習問題をとおして理解を深めるとともに、語彙力の増強をめざす。習熟度別のクラス編成にする場合もある。
到達目標	「スペイン語基礎A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補っていく。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。ニーズに応えていきたい。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	前期の復習	直説法現在の規則活用と不規則活用の確認
2	再帰動詞(1)	自動詞と他動詞	形と用法
3	再帰動詞(2) 前置詞格人称代名詞 不定語と否定語	さまざまな用法をとおして、ニュアンスをつかむ	形と用法
4	過去分詞 直説法現在完了	過去分詞の形と用法 直説法現在完了の用法	活用形を覚える
5	gustar 型の動詞 関係代名詞(1)	gustar 型の動詞を使った文節とは 先行詞とは	間接目的格人称代名詞
6	直説法点過去	直説法点過去の規則活用と不規則活用	活用形を覚える
7	直説法点過去 不定詞	直説法点過去の用法 不定詞の用法	活用形を覚える
8	直説法線過去	直説法線過去の規則活用と不規則活用	活用形を覚える
9	直説法線過去	直説法点過去と直説法線過去の違い	活用形を覚える 点過去と線過去の使い分け
10	受身	受身表現の文	ser, estar 動詞の確認 過去分詞
11	直説法過去完了	直説法過去完了の用法	過去分詞 直説法過去完了、現在完了、点過去、線過去の使い分け
12	関係代名詞(2)(3) 関係副詞	定冠詞+que など 関係副詞とは	関係代名詞(1)の確認
13	直説法未来と直説法過去未来	直説法未来の規則活用と不規則活用、用法 直説法過去未来の規則活用と不規則活用、用法	未来と過去未来の使い分け
14	直説法未来完了と直説法過去未来完了	直説法未来完了と直説法過去未来完了の用法	過去分詞 未来、過去未来、未来完了、過去未来完了の使い分け
15	確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目	スペイン語基礎A、B、C
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語の広場 Contigo en español	橋本定久 他	大学書林
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	適宜、小テストを実施する。 定期試験も実施する。ただし、理解度確認テストなどで、十分に習得できていると判断されれば、定期試験は免除する。 小テスト+理解度確認テスト
----------	--

学生へのメッセージ	夏休みの間のさびを落として、心機一転、がんばりましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前・事後に各60分の学修を要する
----	-------------------

科目名	総合スペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Integrated Spanish Skills II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村 初美

授業概要・目的	前期と同じように、例文と文法の練習問題をとおして理解を深めるとともに、語彙力の増強をめざす。習熟度別のクラス編成にする場合もある。
到達目標	「スペイン語基礎A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する豊富な練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。
授業方法と留意点	日本人学習者にはすぐに理解しにくい箇所を集中的に学習し、文法科目を補っていく。分からなかったことを恥ずかしいと思わず、理解が完全でないと思えば、どんどん疑問をぶつけてほしい。ニーズに応じていきたい。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	前期の復習	直説法現在の規則活用と不規則活用の確認
2	再帰動詞(1)	自動詞と他動詞	形と用法
3	再帰動詞(2) 前置詞格人称代名詞 不定語と否定語	さまざまな用法をとおして、ニュアンスをつかむ	形と用法
4	過去分詞 直説法現在完了	過去分詞の形と用法 直説法現在完了の用法	活用形を覚える
5	gustar 型の動詞 関係代名詞(1)	gustar 型の動詞を使った文節とは 先行詞とは	間接目的格人称代名詞
6	直説法点過去	直説法点過去の規則活用と不規則活用	活用形を覚える
7	直説法点過去 不定詞	直説法点過去の用法 不定詞の用法	活用形を覚える
8	直説法線過去	直説法線過去の規則活用と不規則活用	活用形を覚える
9	直説法線過去	直説法点過去と直説法線過去の違い	活用形を覚える 点過去と線過去の使い分け
10	受身	受身表現の文	ser, estar 動詞の確認 過去分詞
11	直説法過去完了	直説法過去完了の用法	過去分詞 直説法過去完了、現在完了、点過去、線過去の使い分け
12	関係代名詞(2)(3) 関係副詞	定冠詞+que など 関係副詞とは	関係代名詞(1)の確認
13	直説法未来と直説法過去未来	直説法未来の規則活用と不規則活用、用法 直説法過去未来の規則活用と不規則活用、用法	未来と過去未来の使い分け
14	直説法未来完了と直説法過去未来完了	直説法未来完了と直説法過去未来完了の用法	過去分詞 未来、過去未来、未来完了、過去未来完了の使い分け
15	確認	理解度確認テスト	学習事項の総点検

関連科目	スペイン語基礎A、B、C
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語の広場 Contigo en español	橋本定久 他	大学書林
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	適宜、小テストを実施する。 定期試験も実施する。ただし、理解度確認テストなどで、十分に習得できていると判断されれば、定期試験は免除する。 小テスト+理解度確認テスト
----------	--

学生へのメッセージ	夏休みの間のさびを落として、心機一転、がんばりましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前・事後に各60分の学修を要する
----	-------------------



科目名	総合スペイン語ⅢA	科目名(英文)	Advanced Spanish Grammar IIIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。</li> <li>・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。</li> <li>・しばしば単語テスト、文法確認テストを実施する。</li> </ul>																																																																		
到達目標	命令形と接続法のマスター																																																																		
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合AとBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。 事前・事後学修に各1時間を要する。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>接続法現在の活用</td> <td>接続法現在の活用形の作り方</td> <td>直説法現在の活用形の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>命令文(1)</td> <td>Ud.に対する命令</td> <td>命令文の作り方</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>命令文(2)</td> <td>Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文</td> <td>命令形の活用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>命令文(3)</td> <td>2人称に対する命令文</td> <td>命令形</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>接続法(1)</td> <td>名詞節と接続法</td> <td>接続法を求める動詞</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>接続法(2)</td> <td>関係詞と接続法</td> <td>関係詞</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>接続法(3)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>かならず接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>接続法(4)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>場合によって接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ボキャコン</td> <td>ボキャコン</td> <td>つねに語彙力は必要</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>接続法(5)</td> <td>接続法現在完了</td> <td>活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>接続法(6)</td> <td>接続法過去</td> <td>点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>接続法(7)</td> <td>接続法過去完了</td> <td>接続法過去完了</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>接続法(8)</td> <td>仮定表現</td> <td>現実と仮定の差</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>接続法(9)</td> <td>隠れた仮定法</td> <td>どこに隠れた要素があるか</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td>学習事項の総点検</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習	2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方	3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用	4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形	5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞	6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞	7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞	8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞	9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要	10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い	11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用	12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了	13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差	14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか	15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習																																																																
2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方																																																																
3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用																																																																
4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形																																																																
5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞																																																																
6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞																																																																
7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞																																																																
8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞																																																																
9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要																																																																
10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い																																																																
11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用																																																																
12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了																																																																
13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差																																																																
14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか																																																																
15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スペイン語文法中級</td> <td>三好準之助</td> <td>白水社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験も実施する。ただし、平常点(授業参加・提出物)＋小テスト(単語テストやボキャブラリコンテストも含む)＋確認テストなどで合格点に達していると評価されれば、定期試験を免除する。 なお、あくまで目安であるが、定期試験以外の配分は、平常点2割；小テスト(ボキャコンを含む)3割；確認テスト5割																																																																		
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階(北條研究室)																																																																		
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。																																																																		

科目名	総合スペイン語ⅢA	科目名(英文)	Advanced Spanish Grammar IIIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西村 初美

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。</li> <li>・「総合 IIIA」と「総合 IIIB」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。</li> <li>・しばしば単語テスト、文法確認テストを実施する。</li> </ul>																																																																		
到達目標	命令形と接続法のマスター																																																																		
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合 IIIAと IIIBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>接続法現在の活用</td> <td>接続法現在の活用形の作り方</td> <td>直説法現在の活用形の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>命令文(1)</td> <td>Ud.に対する命令</td> <td>命令文の作り方</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>命令文(2)</td> <td>Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文</td> <td>命令形の活用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>命令文(3)</td> <td>2人称に対する命令文</td> <td>命令形</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>接続法(1)</td> <td>名詞節と接続法</td> <td>接続法を求める動詞</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>接続法(2)</td> <td>関係詞と接続法</td> <td>関係詞</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>接続法(3)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>かならず接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>接続法(4)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>場合によって接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ボキャコン</td> <td>ボキャコン</td> <td>つねに語彙力は必要</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>接続法(5)</td> <td>接続法現在完了</td> <td>活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>接続法(6)</td> <td>接続法過去</td> <td>点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>接続法(7)</td> <td>接続法過去完了</td> <td>接続法過去完了</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>接続法(8)</td> <td>仮定表現</td> <td>現実と仮定の差</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>接続法(9)</td> <td>隠れた仮定法</td> <td>どこに隠れた要素があるか</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td>学習事項の総点検</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習	2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方	3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用	4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形	5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞	6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞	7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞	8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞	9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要	10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い	11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用	12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了	13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差	14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか	15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習																																																																
2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方																																																																
3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用																																																																
4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形																																																																
5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞																																																																
6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞																																																																
7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞																																																																
8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞																																																																
9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要																																																																
10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い																																																																
11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用																																																																
12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了																																																																
13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差																																																																
14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか																																																																
15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スペイン語文法中級</td> <td>三好準之助</td> <td>白水社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験も実施する。ただし、平常点(授業参加・提出物)＋小テスト(単語テストやボキャブラリコンテストも含む)＋確認テストなどで合格点に達していると評価されれば、定期試験を免除する。 なお、あくまで目安であるが、定期試験以外の配分は、平常点2割：小テスト(ボキャコンを含む)3割；確認テスト5割																																																																		
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。 事前・事後学修に各1時間を要する。																																																																		

科目名	総合スペイン語ⅢB	科目名(英文)	Advanced Spanish Grammar IIIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦 知佐子

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。</li> <li>・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。</li> <li>・しばしば単語テスト、文法確認テストを実施する。</li> </ul>																																																																		
到達目標	命令形と接続法のマスター																																																																		
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合AとBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>接続法現在の活用</td> <td>接続法現在の活用形の作り方</td> <td>直説法現在の活用形の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>命令文(1)</td> <td>Ud.に対する命令</td> <td>命令文の作り方</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>命令文(2)</td> <td>Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文</td> <td>命令形の活用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>命令文(3)</td> <td>2人称に対する命令文</td> <td>命令形</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>接続法(1)</td> <td>名詞節と接続法</td> <td>接続法を求める動詞</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>接続法(2)</td> <td>関係詞と接続法</td> <td>関係詞</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>接続法(3)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>かならず接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>接続法(4)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>場合によって接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ボキャコン</td> <td>ボキャコン</td> <td>つねに語彙力は必要</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>接続法(5)</td> <td>接続法現在完了</td> <td>活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>接続法(6)</td> <td>接続法過去</td> <td>点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>接続法(7)</td> <td>接続法過去完了</td> <td>接続法過去完了</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>接続法(8)</td> <td>仮定表現</td> <td>現実と仮定の差</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>接続法(9)</td> <td>隠れた仮定法</td> <td>どこに隠れた要素があるか</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td>学習事項の総点検</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習	2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方	3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用	4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形	5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞	6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞	7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞	8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞	9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要	10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い	11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用	12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了	13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差	14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか	15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習																																																																
2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方																																																																
3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用																																																																
4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形																																																																
5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞																																																																
6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞																																																																
7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞																																																																
8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞																																																																
9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要																																																																
10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い																																																																
11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用																																																																
12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了																																																																
13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差																																																																
14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか																																																																
15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スペイン語文法中級</td> <td>三好準之助</td> <td>白水社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験も実施する。ただし、平常点(授業参加・提出物)＋小テスト(単語テストやボキャブラリコンテストも含む)＋確認テストなどで合格点に達していると評価されれば、定期試験を免除する。 なお、あくまで目安であるが、定期試験以外の配分は、平常点2割：小テスト(ボキャコンを含む)3割；確認テスト5割																																																																		
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師控室)																																																																		
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学修に各1時間を要する。																																																																		

科目名	総合スペイン語ⅢB	科目名(英文)	Advanced Spanish Grammar IIIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に積み残した文法項目を扱う。</li> <li>・「総合ⅢA」と「総合ⅢB」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。</li> <li>・しばしば単語テスト、文法確認テストを実施する。</li> </ul>																																																																		
到達目標	命令形と接続法のマスター																																																																		
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。 総合ⅢAとⅢBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>接続法現在の活用</td> <td>接続法現在の活用形の作り方</td> <td>直説法現在の活用形の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>命令文(1)</td> <td>Ud.に対する命令</td> <td>命令文の作り方</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>命令文(2)</td> <td>Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文</td> <td>命令形の活用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>命令文(3)</td> <td>2人称に対する命令文</td> <td>命令形</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>接続法(1)</td> <td>名詞節と接続法</td> <td>接続法を求める動詞</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>接続法(2)</td> <td>関係詞と接続法</td> <td>関係詞</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>接続法(3)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>かならず接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>接続法(4)</td> <td>副詞節と接続法</td> <td>場合によって接続法を求める接続詞</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ボキャコン</td> <td>ボキャコン</td> <td>つねに語彙力は必要</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>接続法(5)</td> <td>接続法現在完了</td> <td>活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>接続法(6)</td> <td>接続法過去</td> <td>点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>接続法(7)</td> <td>接続法過去完了</td> <td>接続法過去完了</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>接続法(8)</td> <td>仮定表現</td> <td>現実と仮定の差</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>接続法(9)</td> <td>隠れた仮定法</td> <td>どこに隠れた要素があるか</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>復習</td> <td>理解度確認テスト</td> <td>学習事項の総点検</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習	2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方	3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用	4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形	5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞	6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞	7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞	8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞	9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要	10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い	11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用	12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了	13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差	14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか	15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	接続法現在の活用	接続法現在の活用形の作り方	直説法現在の活用形の復習																																																																
2	命令文(1)	Ud.に対する命令	命令文の作り方																																																																
3	命令文(2)	Ud.に対する否定命令 2人称複数形、1人称複数形に対する命令文	命令形の活用																																																																
4	命令文(3)	2人称に対する命令文	命令形																																																																
5	接続法(1)	名詞節と接続法	接続法を求める動詞																																																																
6	接続法(2)	関係詞と接続法	関係詞																																																																
7	接続法(3)	副詞節と接続法	かならず接続法を求める接続詞																																																																
8	接続法(4)	副詞節と接続法	場合によって接続法を求める接続詞																																																																
9	ボキャコン	ボキャコン	つねに語彙力は必要																																																																
10	接続法(5)	接続法現在完了	活用形の確認 接続法現在と現在完了の違い																																																																
11	接続法(6)	接続法過去	点過去の活用形の総復習 接続法過去の活用																																																																
12	接続法(7)	接続法過去完了	接続法過去完了																																																																
13	接続法(8)	仮定表現	現実と仮定の差																																																																
14	接続法(9)	隠れた仮定法	どこに隠れた要素があるか																																																																
15	復習	理解度確認テスト	学習事項の総点検																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スペイン語文法中級</td> <td>三好準之助</td> <td>白水社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	スペイン語文法中級	三好準之助	白水社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験も実施する。ただし、平常点(授業参加・提出物)＋小テスト(単語テストやボキャブラリコンテストも含む)＋確認テストなどで合格点に達していると評価されれば、定期試験を免除する。 なお、あくまで目安であるが、定期試験以外の配分は、平常点2割：小テスト(ボキャコンを含む)3割；確認テスト5割																																																																		
学生へのメッセージ	いよいよ、スペイン語文法の仕上げ。しんどいけど、あと少しです。頑張りましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階(篠原研究室)																																																																		
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。 事前・事後学修に各1時間を要する。																																																																		

科目名	総合中国語 a	科目名 (英文)	Integrated Chinese Skills a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹

授業概要・目的	文法や文型を理解し、それを応用できる力をつけることは検定試験の長文や文法問題、翻訳問題などに対応するうえで必要なだけでなく、外国語によるコミュニケーションを成立させるためにも不可欠のものである。ただし、文法の分析や説明をそのまま記憶することは言葉の運用につながるものではなく、整理された文例をできるだけ多くインプットする過程を経てはじめて意味の理解やことばの産出が機能するようになる。そこで、この授業では検定試験形式の問題を大量に解くという方法を通して文法にかかわる応用力をやしなう。
到達目標	6月末に受験する中国語検定2級試験の文法問題に70%正解できるレベル程度の文法の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	毎回のテーマに関係する正誤問題や翻訳問題、空欄問題、長文問題を解く。3年生の各選択科目ではそれぞれ次の項目に重点を置いている。「中国語コミュニケーション」=リスニング、「日中翻訳法」=日文中訳、「原書講読」=読解、「総合」=文法。これら全てを履修することで偏りなく2級試験に合格する力をつけることができる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験2級合格。中国語コミュニケーション能力の向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1課	動詞類義語(1)	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	2	第2課	名詞類義語(1)	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	3	第3課	副詞類義語(1)	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	4	第4課	把構文(1)	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	5	第5課	状態補語	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	6	第6課	可能補語	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	7	第7課	複合方向補語	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	8	中間試験	第1課～第7課	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	9	第8課	方向補語派生義	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	10	第9課	結果補語	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	11	第10課	構造助詞	授業外の時間に、中国語検定試験の問題の中から授業で学んだ文法事項を探す作業を進める。
	12	第11課	前置詞類義語	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	13	第12課	複文とその補助成分(1)	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	14	第13課	複文とその補助成分(2)	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	15	期末試験	第8課～第13課	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。

関連科目	中国語の3年生科目すべて
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合中国語	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	中間テストと期末テストの成績と授業にとり組む積極性を基準に評価する。欠席回数が六回を超えた者に対しては単位は認めない。
----------	---

学生へのメッセージ	検定2級突破を目指して積極的に授業に取り組んでください。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	この科目で使用する教科書『総合中国語』は前後期を通じて使用する。
----	----------------------------------

科目名	総合中国語 b	科目名 (英文)	Integrated Chinese Skills b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹

授業概要・目的	文法や文型を理解し、それを応用できる力をつけることは検定試験の長文や文法問題、翻訳問題などに対応するうえで必要なだけでなく、外国語によるコミュニケーションを成立させるためにも不可欠のものである。ただ、文法の分析や説明をそのまま記憶することは言葉の運用につながるものではなく、整理された文例をできるだけ多くインプットする過程を経てはじめて意味の理解やことばの産出が機能するようになる。そこで、この授業では前期科目「総合中国語 b」で学んだ項目を定着させながら学習範囲をより広げて、検定 2 級試験の文法問題の中でも比較的難易度の高い問題にも対応できる力をやしなう。
到達目標	11 月末に受験する中国語検定 2 級試験の文法問題に 80% 正解できるレベル程度の文法の知識を身に付ける。
授業方法と留意点	毎回のテーマに関係する正誤問題や翻訳問題、空欄問題、長文問題を解く。3 年生の各選択科目ではそれぞれ次の項目に重点を置いている。「中国語コミュニケーション」=リスニング、「日中翻訳法」=日文中訳、「原書講読」=読解、「総合」=文法。これら全てを履修することで偏りなく 2 級試験に合格する力をつけることができる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 2 級合格。中国語コミュニケーション能力の向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 14 課	複文とその補助成分 (3)	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	2	第 15 課	複文とその補助成分 (4)	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	3	第 16 課	複文とその補助成分 (5)	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	4	第 17 課	成語 (慣用フレーズ)	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	5	第 18 課	比較表現	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	6	第 19 課	動詞類義語 (2)	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	7	中間試験	第 14 課～第 19 課	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	8	第 20 課	名詞類義語 (2)	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	9	第 21 課	可能補語	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	10	第 22 課	把構文 (2)	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	11	第 23 課	接続詞	授業外の時間に、中国語検定試験の問題の中から授業で学んだ文法事項を探し作業を進める。
	12	第 24 課	副詞類義語 (2)	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	13	第 25 課	疑問詞呼応	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	14	第 26 課	離合詞	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。
	15	期末試験	第 20 課～第 26 課	この授業で作るノートを利用して、他の中国語の授業で学んだ文法事項も整理しながら記入する。

関連科目	中国語の 3 年生科目すべて
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合中国語	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間テストと期末テストの成績と授業にとり組む積極性を基準に評価する。欠席回数が 6 回を超えた者に対しては単位は認めない。
-----------	---

学生へのメッセージ	検定 2 級突破を目指して積極的に授業に取り組んでください。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師控室
----------	------------------

備考	この科目で使用する教科書『総合中国語』は前後期を通じて使用する。
----	----------------------------------

科目名	総合マレー語 a	科目名 (英文)	Integrated Malay Skills a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上田 達

**授業概要・目的**  
マレー語の基礎的な事項を学習した者を対象として、マレー語運用能力の向上を目指す。配付資料に依拠しながら文法事項について説明する。また、新聞、雑誌、論文、映像資料など多様な媒体におけるマレー語に触れ、理解に努める。学習事項を踏まえて、表現能力を高めるため、受講者にはまとまった量の文章作成等を随時課す。

**到達目標**  
マレー語能力の向上。

**授業方法と留意点**  
課題を出すので、自分の到達度を鑑みて自主的に取り組むこと。特に、リスニングの課題は次回授業までに確実に取り組んでおくこと。

**科目学習の効果 (資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	既習事項について復習する。	既習事項の確認問題
2	文法1 (強勢語)	juga, pun, pula などの強勢語の意味や使用例について学習する。	既習事項の確認と演習課題
3	文法2 (語尾の表現)	lah, kah などの文末・語末に使われる語について学習する。	既習事項の確認と演習課題
4	文法3 (ialah, adalah)	マレー語でよく使用される kata pemerih (ialah と adalah) について学習する。	既習事項の確認と演習課題
5	復習1	第4講義までに学んだ内容について復習を行うとともに、理解度を問う確認テストを行う。	テストのために既習事項を確認する。
6	文法4 (感嘆語)	amboi, aduh などの感嘆語の使用について学習する。	既習事項の確認と演習課題
7	表現1 (ことわざと慣用句)	マレー語で使用されることわざと慣用句について、その文化的背景を踏まえて学習する。	既習事項の確認と演習課題 (ことわざと慣用句についてのサイトにアクセスして、課題に取り組む)
8	表現2 (聞き取り)	マレー語教材を用いて聞き取りを行う。	既習事項の確認と演習課題 (指定した動画ファイルを視聴して課題に取り組む)
9	表現3 (聞き取り)	マレー語放送を視聴して聞き取りを行う。 中高生向けに書かれた文章を取り上げて講読する。	練習問題と課題文にあるわからない単語について調べてくる。
10	復習2	第9講義までに学んだ内容について復習を行うとともに、理解度を問う筆記と聞き取りの確認テストを行う。	テストのために既習事項を確認確認する。
11	講読1	中高生向けに書かれた文章を取り上げて講読する。	既習事項の確認と演習課題。練習問題と課題文にあるわからない単語について調べてくる。
12	講読2	マレー語で書かれた雑誌の小記事を取り上げて講読する。	既習事項の確認と演習課題。練習問題と課題文にあるわからない単語について調べてくる。
13	表現1	地図、図表、写真などを見て、作文を完成させる。	作文のための資料収集と、文章の推敲。
14	復習3	第13講義までに学んだ諸表現について復習を行うとともに、理解度を問う確認テストを行う。	テストのために既習事項を確認する。
15	総合復習	確認テストについての講評を行うとともに、地図や図表等に関する受講者の作文を発表する。	作文の完成と既習事項の確認。

**関連科目**  
総合マレー語 b、時事インドネシア・マレー語 a、マレー語圏トピックスⅡ、実践インドネシア・マレー語 b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Kamus Dewan		Dewan Bahasa dan Pustaka
2	マレーシア語学習辞典	川上雄作	アジアのことばと辞書の会
3			

**評価方法 (基準)**  
確認テスト (60%) と発表や提出物等の授業への取り組み (40%) と併せて成績を判断する。詳細は第一回目の授業で指示する。

**学生へのメッセージ**  
日々の研鑽を怠らないようにしてください。

**担当者の研究室等**  
7号館5階(上田研究室)

**備考**  
参考書に挙げたマレー語辞書は、課題に取り組む際に大いに参考にすること。

科目名	総合マレー語 b	科目名 (英文)	Integrated Malay Skills b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田 達

授業概要・目的  
 基礎的な事項を学習した者を対象として、マレー語運用能力の向上を目指す。新聞、雑誌、論文、映像資料など多様な媒体におけるマレー語に触れ、理解に努める。学習事項を踏まえて、表現能力を高めるため、受講者にはまとまった量の文章作成やスピーチを随時課す。

到達目標  
 マレー語能力の向上。

授業方法と留意点  
 課題を出すので、自分の到達度を鑑みて自主的に取り組むこと。特に、リスニングの課題は次回授業までに確実に取り組んでおくこと。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	前期学習事項の確認を行う。	既習事項の確認と課題文のわからない単語について調べてくる。
2	文法 1	接続詞の用法について学ぶ。	既習事項の確認と演習問題
3	文法 2	接辞の多様な使用方法について学ぶ。	既習事項の確認と演習問題
4	講読 1	マレー文化についてマレー語で書かれた雑誌記事を講読する。あわせて、関連するトピックスに関連した映像資料を視聴する。	既習事項の確認と演習課題 (図書館やウェブからマレー語資料を収集してくる)
5	復習 1	第 4 講義までに学んだ内容について復習を行うとともに、理解度を問う確認テストを行う。	既習事項の復習
6	表現 1	マレー語ニュースを視聴して、内容を要約する。	既習事項の確認と演習課題 (マレー語ニュースにアクセスして、わからない表現や単語をピックアップしてくる)
7	表現 2	マレー語ニュースを視聴して、内容を要約する。	既習事項の確認と演習課題 (興味のあるトピックについて書かれたサイトを探して、わからない表現や単語をピックアップしてくる)
8	講読 2	インターネット上にある口語混じりの文章に触れる。	既習事項の確認と演習課題 (興味のあるトピックについて書かれたサイトを探して、わからない表現や単語をピックアップしてくる)
9	講読 3	マレー語で書かれた平易な本の一部を読む	既習事項の確認と演習課題 (本の該当箇所にあるわからない表現や単語を調べてくる)
10	復習 2	第 9 講義までに学んだ内容について復習を行うとともに、理解度を問う筆記と聞き取りの確認テストを行う。	既習事項の復習。
11	講読 4	マレー語で書かれた平易な本の一部を講読する。	既習事項の確認と演習課題 (本の該当箇所にあるわからない表現や単語を調べてくる)
12	表現 3	マレーシアのラジオ放送について概観を得た上で、口語表現を学修する。	既習事項の確認と演習課題 (マレーシアのラジオ放送を視聴する。わかった内容について報告する準備を行う)
13	演習	マレーシアの学生向けに作られた「国語 (マレー語)」問題に取り組む。	既習事項の確認と演習課題 (該当箇所にあるわからない表現や単語を調べてくる)
14	復習 3	第 13 講義までに学んだ諸表現について復習を行うとともに、理解度を問う確認テストを行う。	練習問題
15	総合復習	確認テストについての講評を行うとともに、学力試験の作文問題を発表する。	学習事項の復習

関連科目  
 総合マレー語 a、時事インドネシア・マレー語 a、マレー語圏トピックス;、実践インドネシア・マレー語 b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Kamus Dewan		Dewan Bahasa dan Pustaka
2				
3				

評価方法 (基準)  
 確認テスト (70%) と発表や提出物等の授業への取り組み (30%) と併せて評価する。詳細は第一回目の授業で指示する。

学生へのメッセージ  
 日々の研鑽を怠らないようにしてください。

担当者の研究室等  
 7 号館 5 階 (上田研究室)

備考  
 参考書に挙げたマレー語辞書は、課題に取り組む際に大いに参考にすること。



科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦

授業概要・目的	研究テーマ・課題を設定し、論文を作成する。これを通じ、学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	研究計画書に沿って、論文作成を進める。研究内容や論文作成の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究計画書を作成する（卒業研究のテーマに関する文献のレビューおよび調査方法の説明を含む）。</li> <li>・ 調査に着手する。</li> </ul>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	演習への出席、発言、口頭発表、調査への取り組み姿勢に基づいて行う。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	国際文化演習で行った課題を自らの研究テーマにあわせて資料収集し、それを調査しながら研究報告にまとめる。グループ・ゼミと個人ゼミを組み合わせながら指導を卒業研究レポートを完成させる。		
到達目標	下記の3つの能力を到達目標とする ①課題解決能力：与えられた課題を期限内に解決できる。 ②論理的記述能力：内容を論理的かつ簡潔に記述し、卒業研究レポートを完成させる。 ③社会的理解力：研究テーマの社会的意味や影響力を理解する。		
授業方法と留意点	(前期) 1回目：オリエンテーション 2回目以降：執筆までの各自のスケジュールを計画しそれを実行する		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】国際協調・国際理解の展望 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	研究活動、口頭発表、研究発表内容を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室		
備考			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	3年次の文化演習における議論をさらに発展させ、その成果を卒業研究レポートでまとめる。		
到達目標	英文で12枚以上の「卒論」を作成する。		
授業方法と留意点	卒論と就活を両立させる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>「卒業論文」について共通の理解を図る。</p> <p>前期・・・Poeを読む(金3)、個別指導(金4)          後期・・・Melvilleを読む(火3)、個別指導(金3・4)          (火3は3年次生との合同授業)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業における取り組みと卒業研究レポートを総合して評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館3F 天野研究室		
備考			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一

授業概要・目的	3年次に決定したテーマに基づいて卒業研究レポートの執筆を進める。		
到達目標	テーマに基づいた資料の収集・読解。 卒業研究のアウトラインの完成。		
授業方法と留意点	昨年度中に決定した「テーマ」の確認、発表、卒論の執筆、草稿段階での指導、最終的な完成という手順で進める。 序章、第1章の原稿は、早い時期に一度発表を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業研究を進めるための個別指導を中心とする。 昨年度に引き続き、卒業論文の作成を進める。 全体のプランについて、中間発表を行う。 卒業論文の作成に当って配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への参加態度・課題の達成 (100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階		
備考	事前事後学習時間 計60時間		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩間 香

授業概要・目的	卒業研究レポートを作成する。前期は研究テーマに関する文献を収集し、読み、基礎的な知識を身につける。またレポートの章立てを作る。ものの調べ方や文章を読み解く力をつける。																
到達目標	専門的な文献や資料の探索方法や論文を分析し批判する力を身につける。インターネットへの注意や論文の引用の仕方を学び研究倫理を身につける。論理の組み立てを学び実践する。的確な日本語の文章を書く。																
授業方法と留意点	教員の指示にしたがい個々に必要な作業を進める。発表を行う。毎回進捗状況をたがいに報告する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	主として美術や文化に関する問題から卒業研究レポートテーマを決める。 関連の論文・文献を収集する。 それらを読み、レポートにまとめる問題点を引き出す。 実地調査・アンケートなど必要な作業を行い、分析考察する。 章立てをまとめる。  <事前事後学習課題>自分で図書館やインターネットを利用して、必要な文献を集める。 文献を読んで分からないことは自分で調べる。 論文執筆は各自で行い、大学には家で書いてきたものを印刷して持ってくる。(必要な時間は週に6時間以上)																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	参加の態度 50% レポートの内容 50%																
学生へのメッセージ	卒業研究レポートは1年かけて行う大変な作業です。苦しいことも多々ありますが、大学で「これを学んだ」という自覚をもつことができます。充実した1年間になるよう、がんばりましょう。																
担当者の研究室等	7号館5階岩間研究室																
備考																	

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達

授業概要・目的	卒業研究レポートの作成を指導する。文化人類学という広い枠を設けるものの、受講者の関心からテーマを設定して、その研究を指導する。文献の調べ方、データの収集、文章表現など、卒業研究レポート作成のために必要な知識や能力を涵養する。各自の主題に関連する文献講読と、各自の調査主題の報告が授業の中心となる。			
到達目標	卒業研究レポートの作成。			
授業方法と留意点	卒業研究完成のために計画的に取り組むことができるよう、時期にあった指導を行う。前半は完成のための礎作りのための時期とし、後半は論文作成を意識する時期とする。 卒業研究を有意義なものにするためには、受講者の主体性が必要である。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まず、受講者の関心に基づいて、調査主題を設定する。そのうえで、関連するトピックについて書かれた文化人類学や社会学の文献の講読を進める。毎回報告者を指名するので、報告者は配付資料を用意して30分程度で内容について報告する。コメンテーターは5分程度のコメントをする。報告者とコメンテーターと聴衆のいずれの役割においても発言することが求められるので、指定された文献を精読してくる。各自の調査成果報告においても、同様の役割分担を行う。時間を有効に活用するため、授業時間外の作業の質と量が問われる。報告とディスカッションを経て、期末レポートを作成するための指導を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業への取り組みと発表内容、および期末レポートから総合的に判断する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央

授業概要・目的	現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象および社会現象がいかなる意味をもち、周りにどれほどの影響を与えているのか。3年次の「文化演習」で得た知見をベースにしつつ、各受講生が個別に選択したテーマについて、ディシプリンの見方を怠らずに、より深い考察を行っていく。		
到達目標	研究作業を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。また、日頃のゼミ活動を通じて、「目くばり」「気くばり」「心くばり」のできる人間になることを目標とする。		
授業方法と留意点	基本的には個人個人での取り組みとなるため、研究計画をきっちりと立て、積極的姿勢で進めていくこと。 なお、7月に卒論中間発表会を開催するので、留意のこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 各自が卒業研究レポート完成へ向けて、それぞれのテーマを設定し、取り組んでいく。  <b>【事前事後学習課題】</b> 文献資料・インターネット等を活用し、取り組んでいる研究を深化させること。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編
	2	「研究」を進めるために―研究資料ガイド2016―	浦野崇央編
	3		
評価方法 (基準)	毎月のレポートおよび積極的に研究を進めていくという受講態度で評価します。		
学生へのメッセージ	学生生活の集大成を立派な形として残すことができるように、一生懸命取り組んでいきましょう。		
担当者の研究室等	7号館4階 (浦野研究室)		
備考			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 豊生

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ(修正・変更可)にもとづき、各自の個別研究を深めていく。調査や整理、発表や討論、さらにレポート・原稿作成という一連の作業のプロセスを通じて、知識や思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら問題を設定し、文献を探求し、論点を論理的に整理し、まとめたレポートを制作する力を養成する。</li> <li>・発表力、聞く力、質問力、コメント力など社会人としての基礎的な力を涵養する。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>(前期) まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなう。次に各自、執筆までのスケジュールを立てる。必要な文献を多く読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえて、独自の「結論」を導き出すための問題を設定する。</p> <p>(後期) 各自の発表をふまえて執筆にとりかかる。論理的展開と明快な文章を心がけ、4年間の集大成をおこなう。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】 日本文学・日本文化・日本語をめぐる諸問題(海外との比較研究を含む)</p> <p>【内容】 各自がゼミにおいて設定したテーマを深め、発表する力、聴く力、書く力を養成する。また文献探索の方法や、論文の書き方について学ぶ。</p> <p>テーマの再確認または変更 参考文献の収集 文献の読解・分析 先行研究の分析 論の構想 論文の作成 共同討議 などを柱としてすすめる。</p> <p>【方法】 発表・討議をくりかえし、また個別指導を通じて、卒研レポートの完成をめざす。</p> <p>【事後・事前学習】 自己のテーマの深化・錬成、発表の準備とまとめ</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	口頭発表(討論含む)・卒業研究レポートを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる貴重な機会です。社会へ出るための最も重要な総合力を養成することをめざしましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階(小川研究室)																		
備考																			



科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的	<p>【テーマ】 日本語・日本語教育</p> <p>【授業概要・目的・到達目標】 3年次の文化演習で学んだことを基に、広い意味の「日本語教育」-----日本語学・第二言語習得・異文化コミュニケーション・教授法・多文化共生等-----に関して、各自が設定したテーマについて考察し、卒業研究レポートを完成する。</p>																
到達目標	<p>*スケジュールにしたがって、執筆作業を進めていくことができる。 *自分が設定したテーマに関して、自分なりに調査・分析・考察し、論理的な文章を書くことができる。</p>																
授業方法と留意点	各自が関心を持ったテーマについて、文献及び資料を収集する。資料収集・調査・分析等の研究方法や論文執筆の指導は個別に行うが、ゼミの学生同士の意見交換を通してよりよい研究論文を執筆する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 各自の研究テーマについてのディスカッション、論文執筆、論文添削</p> <p>【事前事後学習課題】 資料、文献収集、論文執筆、推敲</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	卒業研究への意欲、口頭発表、論文の内容等により総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館4階 (門脇研究室)																
備考																	

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章

授業概要・目的	言語や文化に関して興味のあるテーマを選択し、それについて卒業研究を作成していく。			
到達目標	卒業研究を執筆し、それについて発表することが出来るようになる。			
授業方法と留意点	4月：研究テーマの決め方、資料の集め方などを学ぶ。 5月～6月：資料を収集し、整理する。研究テーマを決定し、予備調査などを行う。 7月：中間報告を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】言語と文化 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	卒業研究の内容			
学生へのメッセージ	大学生生活も残りあとわずかです。悔いのないように頑張って下さい。			
担当者の研究室等	後藤研究室 (7号館5階)			
備考				

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子

授業概要・目的	<p>【テーマ】 英語圏および英語圏と関わりを持つ言語と文化</p> <p>【授業概要・目的・到達目標】 3年次の文化演習で学んだことを生かして、学生各自がテーマを設定し、卒業研究レポートを作成する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つの話題に関して複数の立場で判断する姿勢を身につける。</li> <li>・情報の精度や公平性を気に掛けるようになる。</li> <li>・社会人になってからも通用する、責任をもった調査やレポートの書き方を身につける。</li> </ul>																
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて資料を収集し、資料の調査・分析など情報のインプットの方法を学ぶ。さらに、論文の構成や発表方法など情報のアウトプットの方法を学び、最終的に卒業研究レポートを完成させる。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>英語圏の歴史・文化・文学や英語教育をテーマとするが、学生が個々に関心をもつテーマを選んでかまわない。</p> <p>ゼミの学生各自の発表と、リサーチや研究のルールの学習を、並行して行う。社会人として卒業後も活かせる知識や技術となるので、授業はもれなく全力で参加しよう。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	卒業研究に取り組む姿勢と卒業研究レポートの内容によって総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生の間におきたいことを、1つでもたくさんやってみましょう。</li> <li>・一生記憶に残るような良いレポートを仕上げましょう。</li> </ul>																
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																
備考																	

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	他の人に自信をもって見てもらえる卒業研究レポートに仕上げるために必要な文献探し、資料読み、まとめ方（カードやノートの取り方）、論文の構成、文章作法などを身につける。		
到達目標	共通のテーマのもとで論文執筆作法を学んだ後、各自のテーマに沿った卒業研究に着手する。		
授業方法と留意点	最初はゼミ生全員で共通のテーマについて、問題設定、資料読み、まとめ方を確認する。 それぞれが卒業研究の主題を決めれば、文献探し、読書計画、読み、まとめなどを個別に指導する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 文化史的な内容の文献を課題図書として選び、読み合わせていく。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 担当する個所についてレジュメを作り、発表する。レジュメの適不適について話し合い、より良い状態に仕上げる。</p>		
関連科目	スペイン語、スペイン語圏に関する科目全般。歴史系科目。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	レジュメの内容、授業での発表、受け答え。課題（小レポートを含む）。		
学生へのメッセージ	4年間の大学生活の集大成となる卒業研究レポートです。先輩たちのよい所を見習い、後輩たちの見本となるようなレポートを作成しましょう。		
担当者の研究室等	7号館5階（篠原研究室）		
備考			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ショーン マクガバン

授業概要・目的	各自の卒業研究を遂行する。自ら定めたテーマについて、文献の渉獵、データの収集、アンケート調査などを行いながら、筋道の通った論法で、自分の意見を述べる。最終的に、各自の成果をゼミでプレゼンテーションし、研究レポートにまとめる。		
到達目標	自ら定めたテーマに関する資料を収集し、考えを論理的にまとめ、意見を発信できるようになる。		
授業方法と留意点	毎回の授業で、担当教員との討論をするので、きちんと準備したうえで望むこと。全体的なスケジュールを常に念頭に置きながら、計画的に進めていくことが望まれる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究レポート指導 / 文献の読み込み、担当者との討論、データの収集などを行う		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	毎回の討論や、中間発表などを総合的に判断して評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階 McGovern 研究室		
備考			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	住吉 誠

授業概要・目的	学生それぞれのテーマや関心をもとに、ひとつトピックを設定し、文献の渉猟・読み込み、データ収集、考察などを進めながら、自らの意見を論理だてて述べ、それを自らの言葉に落とし込み、卒業研究を完成させる。		
到達目標	和文の場合、12000字以上の卒業研究を完成させる。		
授業方法と留意点	前期は特に文献の渉猟、読み込み、データ収集に力点を置く。きちんと毎回の授業で指定された作業をこなしてこることが望まれる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：現代英語の語法文法研究</p> <p>内容：文献の読み込み、データの収集などをもとに、指導教員との討議から、できるだけオリジナリティのある考えに到達できることを目指す。</p> <p>事前・事後学習課題：文献の渉猟・読み込み、データ収集などを含めて、卒業論文を少しずつ書き進める。事前・事後学習の総時間を30時間とする。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業研究の進捗状況を総合的に判断する。		
学生へのメッセージ	文献探しは卒業研究を作成するにあたって基本中の基本です。めんどくがらずに関係のないテーマの本でも読みこみましょう。違った分野のものでも、自分のテーマとの思わぬ関連性やヒントを得ることがあります。		
担当者の研究室等	7号館4階 住吉 誠 研究室		
備考			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸 宏

授業概要・目的	卒業研究のテーマの決定と参考文献の収集を行う。		
到達目標	卒業研究の方向性を決定し、草稿を書く。		
授業方法と留意点	これまでの文化演習での学習の蓄積を考慮して、研究テーマを考える。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業の最初に卒業研究のテーマを決めて、内容を詳細に検討する。 さらに参考文献の存在を確かめて、入手をどのようにするかを考える。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業研究への取り組みを総合的に判断する。		
学生へのメッセージ	一生記憶に残る卒業研究ができればいいなと思います。		
担当者の研究室等	7号館3階		
備考			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ

授業概要・目的	In this course, students will continue to research and learn about the topics introduced in 3rd year on tourism and hospitality in English. Cross cultural issues will be discussed to create an awareness of customer service in both Japan and overseas. Students will write further on their graduation thesis in English. Reading for pleasure will be encouraged, to expand vocabulary and improve all four skills - speaking, listening, reading and writing. Oral presentations of thesis material and discussions will take place to encourage confidence in English. Job skills - interviewing techniques and answers will be reviewed."																		
到達目標	Students should improve their four skills of reading, writing listening and speaking in this double period class where only English is used.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(First term) Thesis topics which have already been decided upon will be researched at length, typed out and a Part 1 copy handed in by the end of the term. Students will attend an English play during the year.</p> <p>Academic writing skills will continue to be studied to help in the process.</p> <p>(Second term) Students will continue to write their thesis papers (Part 2). Oral presentations on thesis topics will take place and hospitality related excursions will be organized with students researching locations. Students will participate in the speech and recitation contest. Second term will be the time for more intensive study in English.</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Tourism and Catering</td> <td>Neil Wood</td> <td>Oxford</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Language Note</td> <td>Richard McMahon</td> <td>languagenote.com</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Basic steps to writing research papers</td> <td>Kluge and Taylor</td> <td>Cengage</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Tourism and Catering	Neil Wood	Oxford	2	Language Note	Richard McMahon	languagenote.com	3	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	Tourism and Catering	Neil Wood	Oxford																
2	Language Note	Richard McMahon	languagenote.com																
3	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	Attendance, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and drama events.																		
学生へのメッセージ	Reading is the core of your English improvement, so be prepared to read lots. English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on trying, and studying outside class on a daily basis.																		
担当者の研究室等	田浦研究室 7号館 5階																		
備考																			



科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 秀毅

授業概要・目的	卒業研究レポートを作成するために、適切な研究テーマを選定し、参考文献の検索や言語データの収集の仕方、説得力のある議論の展開方法、読み手に親しい書き方などを修得する。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究の研究テーマを決定する。</li> <li>2. 参考文献や資料を検索し、その内容を分かりやすく要約する。</li> <li>3. 説得力のある論証方法を身につける。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>本科目は、研究テーマを問わず必要となる、研究レポートの構成や書式、MS ワードの操作法などの共通事項について学ぶ。詳しいスケジュールは別紙の「卒業研究指導計画」を参照のこと。</p> <p>留意点は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「卒業研究指導計画」に従って卒業研究を計画的に進めること。</li> <li>2. 個人面接の有無にかかわらず、主体的に、粘り強く研究に取り組むこと。</li> <li>3. 考察の範囲は欲張らず、一定の成果を得て余裕があれば広げるようにすること。</li> <li>4. 欠席はやむを得ない場合を除き極力避けること（本科目は授業であって、自由参加の勉強会ではない）。就活などで欠席した場合は、次の授業の前日までに課題や配付物について確認し、自分の責任で補完すること。</li> </ol>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマの決定と関連する概念の理解</li> <li>2. 参考文献の調査と要約</li> <li>3. 先行研究の評価（問題点、未解決の課題など）</li> <li>4. 研究論文の作法</li> <li>5. MS ワードの活用法（コンピューター・リテラシー）</li> </ol> <p>【事前事後学習課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 参考文献の調査と要約（卒業研究中間報告レポート）</li> <li>2. 卒業研究中間発表（プレゼン）</li> </ol>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜プリントを配付する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜プリントを配付する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜プリントを配付する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>論文の教室</td> <td>戸田山和久</td> <td>NHK ブックス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>英語論文表現辞典</td> <td>樋口昌幸ほか</td> <td>北星堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary, 8th revised ed. (Collins コウビルド英英辞典)</td> <td></td> <td>Collins COBUILD</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	論文の教室	戸田山和久	NHK ブックス	2	英語論文表現辞典	樋口昌幸ほか	北星堂	3	Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary, 8th revised ed. (Collins コウビルド英英辞典)		Collins COBUILD
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	論文の教室	戸田山和久	NHK ブックス																
2	英語論文表現辞典	樋口昌幸ほか	北星堂																
3	Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary, 8th revised ed. (Collins コウビルド英英辞典)		Collins COBUILD																
評価方法（基準）	卒業研究中間報告レポート、プレゼン、卒業研究の取り組み姿勢を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	卒業研究は、単なる専門知識の修得ではなく、論理的思考力を磨くための最大にして、最後の取り組みです。知識は分野によって変わりますが、思考力はさまざまな分野に応用でき、卒業後の人生を支えてくれるでしょう。そんな思考力を確実に会得できるように真剣に取り組みましょう。																		
担当者の研究室等	田中（秀）研究室（7号館4階） ※スチューデント・アワーは木曜5時限です。																		
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の分析では英英辞典を使用することが強く推奨される。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。</li> <li>2. 欠席は授業に出席しなかった場合（公欠・忌引き・病欠を含む）のすべてを対象とする（ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること）。欠席回数については初回授業で説明するので必ず確認すること。</li> <li>3. 遅刻は本人の授業理解度を低下させ、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。</li> </ol>																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介

授業概要・目的	3年次文化演習での蓄積をもとに各自の研究を進め、アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業論文（研究レポート）を完成に近づけます。																
到達目標	前期のうちに卒研の全体像が見えてくるところまで進める。例えば4章構成の卒研であれば、2つの章の下書きを書き終え、残りの2章にどのような資料を使って何を書くかという目途が立っている状態にする。																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>週2回の授業時間を分割し、各ゼミ生について隔週で30分程度のアポイントを取り、研究室で原稿の添削を受けたり、次のアポイントまでの進め方についての個別指導を受けてもらいます。個人面談とは違いますので、アポイントを取っている学生以外にも研究室を開放します。ゼミ仲間が受けている添削やアドバイスを聞いて自分の作業への参考にしたリ、研究室のPCと資料を使って自由に作業することができます。</li> <li>ゼミ生全員が集合し、各自の進行状況について報告し合う全体ミーティングも毎週30分程度行います。</li> <li>PCの基本操作には3年次のうちに完全に習熟する必要があります。経済的に困難でなければ、自分のノートPCを所有して下さい。</li> <li>就職活動と並行して進めなければなりませんので、覚悟してください。「内定が出るまでは何もできなくても仕方がない」と自分に甘い人は、たいていの場合就職活動も卒論も両方失敗します。</li> </ul>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b></p> <p>これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。</p> <p>「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ポカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』（1996）と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツNASCARの歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』 — グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b></p> <p>資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	ゼミ活動全体への貢献(50%)+卒業論文・研究レポートの進行状況(50%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館3階鳥居研究室																
備考																	

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣

授業概要・目的	言語・文化、国際ビジネスなどの分野に関する研究を進めていきます。(1) 参考文献や資料の収集とその活用法、(2) 論文の書式および参考文献等の表記法、(3) データに基づいた科学的論文の展開法などの習得も大切な授業目的になります。		
到達目標	各自で選んだテーマについて卒業研究レポートを作成することを目標とします。		
授業方法と留意点	各自の研究テーマおよびその進行状況に応じて指導を行っていきます。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b>          言語・文化、国際ビジネスなどの分野に関する研究を演習形式で進めていきます。          ・まず4～5月に、3年次末の第1回中間研究発表を踏まえて、それぞれの研究テーマを再確認します。          ・次に、論文の基本的な書式や展開について学ぶながら、参考文献や資料の収集を行っていきます。          ・その後、論文の骨子の作成に取りかかり、夏期休業中に論文の概要をまとめ、後期の作業につなげます。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 参考文献等で研究テーマについて調べて、要点を整理してみよう。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢と、卒業研究の進捗状況などによって総合的に評価します。		
学生へのメッセージ	就職活動との両立を心がけてほしいと思います。		
担当者の研究室等	7号館 4F 中島研究室		
備考			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹

授業概要・目的	文化演習で研究したテーマをもとにそれをより深く掘り下げるとともに、関連する問題を幅広く取り上げながら独自の見解を展開する。授業で調べた内容を逐次発表しながら、最終的には論文の形式にまとめる。		
到達目標	収集した資料から必要なものを選び出し、それを効果的に利用しながら議論を展開する能力を身につける。また、論文を作成する作業を通して、論理的に思考しそれを分かりやすい文章にまとめる力をやしなう。		
授業方法と留意点	授業では発表を重視する。レポート作成の過程では、章立てとそれを作成するスケジュールを自ら決め、その進捗状況をつねに指導教員に報告する。また、利用する可能性のある資料はすべて引用元を明らかにした状態で整理、管理する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	外国語による関西の観光情報の調査とその発信。		
関連科目	日中観光文化と通訳法		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ゼミへの取り組み、発表、卒業研究レポートの内容を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	就職活動で忙しい時期です。あわてることなく、でも着実に研究を進めましょう。		
担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)		
備考			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 真由美

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ（修正・変更可）にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。		
到達目標	テーマに関して、何を調べたいのかを常に確認しながら、自分の考えをまとめつつ少しずつ書き進めること。何度も読み返し、修正を加えながら、一つのまとまった論を作る努力を重ねてください。		
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない（「結論」の導き出せる）問い（問題）を設定すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> 各自が決めた内容に関し、それに関する本や文献に当たり、しっかり読み込んでまとめながら書き進めること。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	卒業研究レポートへの取り組みを総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートの作成は大変な作業ですが、頑張ってよいレポートを書いてください。		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室		
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> 卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊

授業概要・目的	3 年次文化演習 I・II で各自設定したテーマ及び研究の方向性に基づいて、卒業研究を進める。		
到達目標	卒業研究を進める。		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて、資料収集・調査及び分析等を行い、卒業研究を進める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究を作成する。 テーマに基づいて文献収集を行い、毎週報告する。 それにより、卒業研究のアウトラインを完成させる。 毎回、事前の文献収集とまとめ、事後の整理が必要である。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点 (卒論に取り組む姿勢) 100%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 4 階		
備考	事前事後学習時間 計 6 0 時間		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ（修正・変更可）にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。			
到達目標	卒業研究レポートの作成に必要な知識およびデータをすべて取得し、独創性のある章立てを考える。			
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない（「結論」の導き出せる）問い（問題）を設定すること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 西洋社会史の総合研究</p> <p>【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前事後学習の総時間数は約60時間。</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	口頭発表（討論含む）・卒業研究レポートを総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。			
担当者の研究室等	7号館4階 林田研究室			
備考				

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	原 秀禎

授業概要・目的	<p>・卒業研究では、3回生の文化演習で培った基礎を踏まえて、各自のテーマ・調査地域を決定して現地調査を行う。</p> <p>・現地調査・資料収集の方法や、収集した資料の整理・分析の方法、さらに論文の書き方や図化の方法など、ゼミ生のレベルや進度に応じた個人指導を行い、卒業研究レポートを完成させる。</p>																		
到達目標	<p>・調査地域の概要を把握する。</p> <p>・調査地域に関する文献を収集する。</p> <p>・文献読解を始める。</p>																		
授業方法と留意点	<p>・全授業の出席を基本とする。</p> <p>・各自のテーマに即して、個別指導を行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の内容で、授業を進めていく。</p> <p>①オリエンテーション                  ②卒業研究テーマ、調査地域の決定                  ③調査地域に関する文献目録の作成                  ④文献購読                  ⑤文献研究発表                  ⑥地図の利用法                  ⑦統計資料の分析                  ⑧郷土資料の収集法                  ⑨夏休み調査の方法</p> <p>などについて詳細に解説・指導する。</p>																		
関連科目	旅と観光の地理、東南アジア地誌学、中国地誌学																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>使用しない。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	使用しない。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	使用しない。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜紹介する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜紹介する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜紹介する。																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	受講状況、研究発表、レポートの内容を加味して、総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地理や観光、環境問題に興味があり、図書館や役所での資料集めが苦にならない人に適しています。																		
担当者の研究室等	7号館5階 原研究室																		
備考																			



科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	文化演習で学んだ知識をもとに、卒業研究のテーマを決定する。アンケートや聞き取り調査などを要する場合は、その準備・実施・分析を行い、それに基づき主体的に考察し、論理的な文章が書けるようになることをめざす。論文の構成と論旨についてゼミ生間で互いに建設的な批判や示唆を与えあうことが重要である。		
到達目標	研究テーマを決め、必要な文献・資料を収集し、先行研究を整理した上で、自分なりの視点と執筆目的を明らかにし、執筆に取り組む。		
授業方法と留意点	今日の多文化状況をめぐり、具体的な地域や国を対象として調べたことを発表する。その社会がグローバル化のなかで直面している諸相に着目し、ひとつのテーマに絞って、必要かつ確かな資料の収集と分析を進め、ゼミを報告の場とする。テーマによってはフィールドワークや聞き取り調査を積極的に実施してほしい。夏休み前に卒業研究レポートのアウトラインを作り、発表しあう。意見交換を重視する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】人の移動における「包摂と自律」 【事前事後学習課題】段階に応じた研究報告を毎回準備する。		
関連科目	専攻語科目、専攻言語圏に関する文化科目、マイノリティ論、社会学・政治哲学系科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	各自のテーマと研究対象地域に応じて指示する。	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	適宜紹介する。	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	問題意識を深める取り組みと研究報告によって評価する。		
学生へのメッセージ	思考の過程をしっかりと刻んだ卒業研究レポートを計画性をもって書き上げてください。		
担当者の研究室等	7号館5階 (北條研究室)		
備考			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー

授業概要・目的	Students will continue to develop their ideas started in 3rd year and compose a final thesis.		
到達目標			
授業方法と留意点	Students will collect documents on their topics, evaluate and analyze the information, and together with feedback from the instructor, compose their final research paper.		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	Individualized for each student.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	Students will be evaluated on the content, cohesion and clarity of thought in their graduation theses.		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館3F ハーキー研究室		
備考			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵

授業概要・目的	<p>3年次には英語圏に共通する「知っておくべき事柄」(文化知識)に焦点を当て、情報収集・発表を行ってきました。また新聞記事を使って、時事情報にも触れました。さらに、後期は、A Boy in the Striped Pajamas という本を輪読し、フィクションからのメッセージとその背景に重なる歴史も読み取りました。</p> <p>4年次は、3年次に築いた「英語圏の基礎知識」の土台の上に、「最近の」あるいは「今の」情報を加えていきます。また、A Long Way Gone というシェラレオネの元少年兵の回顧録を読み、内戦が繰り返される国とはどういうものなのかを考えます。</p> <p>最終的には、英語、日本語、文学、映画、教育、文化の中から2つ以上を結びつけた卒業研究テーマを掘り下げ、新たな視点を加えながら論文の作成にあたります。</p>																		
到達目標	卒業研究レポートとして扱うテーマを選び、資料収集、文献の読み込みを始めます。夏休みまでにはレポートの論理的なアウトラインができていること、最終的に完成度の高い論文を仕上げることを目標とします。																		
授業方法と留意点	卒業研究レポート執筆の手順、構成、テーマなどを確認します。文献・資料の収集を続ける傍ら、それを整理し、論文の大まかな構成を考えます。調査が必要ならその準備をし、実行します。指導を受けながら、情報の追加、削除、論理の修正など推敲を重ねます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 ライフストーリーで知る世界／卒業研究</p> <p>【事前事後学習課題】 輪読本に関しては、該当箇所を読み、ワークシートを作成します。卒業研究レポートは、それぞれが教員の指導とアドバイスを受けながら執筆を進めます。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	1年を通じての受講態度、口頭発表、論文への取り組み方、論文の内容などを見て、総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 松田研究室																		
備考	【学生へのメッセージ】 まだまだ学ぶべきことがいっぱいあるはず。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美

授業概要・目的	卒業研究レポート執筆を行う。 論文を書くための方法を学ぶ。		
到達目標	卒業研究レポートを仕上げるにあたり、問題理解力と調査・表現技能を身につける。		
授業方法と留意点	論文をたくさん読んで論文の書き方を学習する。 時間に余裕を持つために、早めに執筆に取りかかること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	個人指導とする。 毎回、課題を指示し、前回の課題の添削を行う。 適宜、学生間で研究内容の発表を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	適宜、指示する。	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業研究レポートの独創性・使用言語の習熟度・論理性により評価する。		
学生へのメッセージ	大学生生活の総括として、卒業研究に取り組んでください。前学習時間：2時間、事後学習時間：2時間を要する。		
担当者の研究室等	7号館4階皆本研究室		
備考			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家口 美智子

授業概要・目的	3年間で培った論理的思考を、研究テーマを選びリサーチし自分の論点を書くことで主張するという作業として完成させる。英語で書いても日本語で書いても、全力を尽くして何かを創造する喜びを味わってほしい。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 論理的な文章を書く</li> <li>* オリジナリティのある研究を行う</li> <li>* 日頃の疑問をはらす</li> <li>* じっくり考えて、実証して、自分の結論に責任を持つ</li> <li>* 引用の仕方を学ぶ</li> </ul>																
授業方法と留意点	個人指導を行う。ぎりぎりで書き上げるのではなく、時間に余裕を持つと推敲することができるので、より良いものが書ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b>            3年次に選んだテーマを掘り下げて、トピックを選ぶ。どんなリサーチが可能かを担当教員と話し合っ探る。            個人指導で文献を紹介したり、トピックについてディスカッションする。</p> <p>冬休み前に卒論発表会を実施する。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	卒業研究への取り組み、卒業研究の内容を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	計画を立てて根気よく頑張りましょう。																
担当者の研究室等	7号館 4F 家口研究室																
備考																	

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的	3年次の演習で習得した知識をベース、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を向上させる。																		
到達目標	ことわざと慣用句などを中心に比較研究を行うことによって、広い視野から国際理解を深め、言葉の感受性を豊かにし、中国語力を高めるのを目指す同時に、卒業研究レポート作成を指導し、研究能力を育成する。																		
授業方法と留意点	各自テーマを決め、収集した資料と検討を行った文章をパソコンディスプレイで提示しながら説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【テーマ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日中のことわざの比較</li> <li>・日英のことわざの比較</li> <li>・イディオムの日英比較</li> <li>・イディオムの日中英の比較</li> <li>・中国語の誤用分析</li> </ul> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 指示に従って、文献等で内容を調べたうえ、レポート草稿を作成して来る。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>英語ことわざ用法辞典</td> <td>曾根田憲三 他</td> <td>大学書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中国語ことわざ用法辞典</td> <td>金丸邦三・孫玄齡</td> <td>大学書林</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>英語聖書の修辭法と慣用句</td> <td>中野清治</td> <td>英宝社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	英語ことわざ用法辞典	曾根田憲三 他	大学書林	2	中国語ことわざ用法辞典	金丸邦三・孫玄齡	大学書林	3	英語聖書の修辭法と慣用句	中野清治	英宝社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	英語ことわざ用法辞典	曾根田憲三 他	大学書林																
2	中国語ことわざ用法辞典	金丸邦三・孫玄齡	大学書林																
3	英語聖書の修辭法と慣用句	中野清治	英宝社																
評価方法 (基準)	取り組む姿勢とレポートによって総合評価をする。																		
学生へのメッセージ	努力を惜しまなければ、成功につながります。																		
担当者の研究室等	7号館3階 (兪研究室)																		
備考																			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋

授業概要・目的	各自が設定したテーマについて研究を行い、卒業研究レポートを作成する。			
到達目標	各自が設定するテーマについて、論理的に表現できるようになる。 質の高い卒業研究レポートを作成する。			
授業方法と留意点	各自が設定したテーマについて、教員による指導および他のゼミ受講生からのアドバイスを受けながら、卒業研究レポートの作成を進める。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	先行研究を入念に行い、教員による指導を受けて、卒業研究レポートを作成する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	到達目標の達成状況、プレゼンテーション、卒業研究レポートを総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室			
備考				

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 真佐夫

授業概要・目的	3年次の文化演習で研究したテーマが、卒業研究のテーマとしてふさわしいか、再考する。そして、卒業研究としてのレベルを上げるためにさらに研究を行う。		
到達目標	後期の卒業研究Ⅱにおいて卒業研究レポートが完成できるようにする。		
授業方法と留意点	各自が指示された作業をしっかりと行うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自のテーマを確定した上で、計画に沿って研究を進めていく。なお、この授業では最終目的の卒業研究レポート執筆までのロードマップを指導教員とともに作成する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ロードマップ通り研究が進んでいるか、研究の内容の総合評価。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階 山口室		
備考			



科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦

授業概要・目的	研究テーマ・課題を設定し、論文を作成する。これを通じ、学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	研究計画書に沿って、論文作成を進める。研究内容や論文作成の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	調査を完了し、調査結果についての分析を進め、論文を完成させる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	演習への出席、発言、口頭発表、調査への取り組み姿勢、論文内容に基づいて行う。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	赤澤研究室(7号館4階)		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	国際文化演習で行った課題を自らの研究テーマにあわせて資料収集し、それを調査しながら研究報告にまとめる。グループ・ゼミと個人ゼミを組み合わせながら指導を卒業研究レポートを完成させる。		
到達目標	下記の3つの能力を到達目標とする ①課題解決能力：与えられた課題を期限内に解決できる。 ②論理的記述能力：内容を論理的かつ簡潔に記述し、卒業研究レポートを完成させる。 ③社会的理解力：研究テーマの社会的意味や影響力を理解する。		
授業方法と留意点	(後期) 1回目：中間報告 2回目以降：執筆開始		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】国際協調・国際理解の展望 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	研究活動、口頭発表、研究発表内容を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	3年次の文化演習における議論をさらに発展させ、その成果を卒業研究レポートでまとめる。		
到達目標	英文で12枚以上の「卒論」を作成する。		
授業方法と留意点	卒論と就活を両立させる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>「卒業論文」について共通の理解を図る。</p> <p>前期・・・Poeを読む(金3)、個別指導(金4)          後期・・・Melvilleを読む(火3)、個別指導(金3・4)          (火3は3年次生との合同授業)</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業における取り組みと卒業研究レポートを総合して評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館3F 天野研究室		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一

授業概要・目的	卒業研究Ⅰの続き。 各自が決めたテーマに基づいて、卒業研究を完成させる。		
到達目標	卒業研究を完成させる。		
授業方法と留意点	卒業研究についての個別指導を中心とする。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	原稿の完成とチェック。最終的なOKが出るまで。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加態度(30%)、卒業研究レポート(70%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階		
備考	事前事後学習 計60時間。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩間 香

授業概要・目的	卒業研究レポートを仕上げる。章立てに沿って、文章を書く。正しい日本語で論理的な文章を書く力をつける。また図版や表・グラフを適切に使用し、読み手に分かりやすいレポートの作成法を学ぶ。			
到達目標	適切な言葉を選び、論理的な文章が書けるようになる。図版や表・グラフを適切に使用できる。テーマに関して説明ができる。			
授業方法と留意点	文献検索、読み込み、発表、文章作成を連続して行う。文章は教員が添削指導する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	美術・文化に関する卒業研究レポートを執筆する。 前期にひきつづき本・論文などで幅広い知識を蓄える。 執筆は各自で行い、ゼミではその進捗状況を報告する。文章は印刷して持参する。 図・表・グラフを作り読む者に分かりやすく効果的なレポートの作成をめざす。 事前・事後にテーマについて論文を収集し、独自に読み進め、不明な点を調べる。(週に6時間以上)			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	卒業研究レポートの内容(50%) 参加態度(50%)			
学生へのメッセージ	1年間をかけてひとつのレポートを書きます。大変な仕事ですが、自分が何を学んだのか、何を知っているのか、何ができるのか、ということが社会に向かって堂々といえるようになります。がんばりましょう。			
担当者の研究室等	岩間研究室(7号館5階)			
備考				

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達

授業概要・目的	卒業研究レポートの作成を指導する。文化人類学という枠を設けるものの、受講者の関心に基づいて研究を指導する。文献の調べ方、データの収集、文章表現など、卒業研究レポート作成のために必要な知識や能力を涵養する。各自の主題に関連する文献講読と、各自の調査主題の報告が授業の中心となる。		
到達目標	卒業研究レポートの作成。		
授業方法と留意点	卒業研究完成のために計画的に取り組むことができるよう、時期にあった指導を行う。前半は完成のための礎作りのための時期とし、後半は論文を完成させる時期とする。 卒業研究を有意義なものにするためには、受講者の主体性が必要である。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まず、受講者の関心に基づいて、調査主題を設定する。そのうえで、関連するトピックについて書かれた文化人類学や社会学の文献の講読を進める。毎回報告者を指名するので、報告者は配付資料を用意して30分程度で内容について報告する。コメンテーターは5分程度のコメントをする。報告者とコメンテーターと聴衆のいずれの役割においても発言することが求められるので、指定された文献を精読してくこと。各自の調査成果報告においても、同様の役割分担を行う。時間を有効に活用するため、授業時間外の作業の質と量が問われる。報告とディスカッションを経て、主題についての知見を深めていき、卒業研究レポートの執筆ができるよう指導する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	毎回の授業への取り組みと、発表内容、完成した卒業研究レポートから総合的に判断する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階上田研究室		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央

授業概要・目的	現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象および社会現象がいかなる意味をもち、周りにどれほどの影響を与えているのか。3年次の「文化演習」で得た知見をベースにしつつ、各受講生が個別に選択したテーマについて、ディシプリンの見方を怠らずに、より深い考察を行っていく。																		
到達目標	研究作業を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。また、日頃のゼミ活動を通じて、「目くばり」「気くばり」「心くばり」のできる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	基本的には個人個人での取り組みとなるため、研究計画をきっちりと立て、積極的姿勢で進めていくこと。 なお、秋には3年ゼミと合同でのゼミ旅行を実施し、1月には卒論最終発表会を開催するので、留意のこと。 また、「卒業研究レポート」提出後に、『浦野ゼミ卒業論文集』としてまとめるので、その点も留意のこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 各自が卒業研究レポート完成へ向けて、それぞれのテーマを設定し、取り組んでいく。 ちなみに、2015年度生が取り組んだテーマ(卒業研究レポート題目)は次の通りである。 「中学校における英語教育の変遷—『学習指導要領』に焦点をあてて—」「ちりばめられたキーワード—現代における流行発信雑誌のキャッチコピーに着目して—」「子どもに向けたメッセージ—時代とともに変化する昔話の教訓—」</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 文献資料・インターネット等を活用し、取り組んでいる研究を深化させること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>浦野ゼミ卒業論文集各年版</td> <td></td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「研究」を進めるために—研究資料ガイド2016—</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	浦野ゼミ卒業論文集各年版		摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2016—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	浦野ゼミ卒業論文集各年版		摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2016—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
評価方法(基準)	積極的に研究を進めていくという受講態度および卒業研究レポートの内容(完成度)で評価します。なお、卒研レポートの完成度の判断については、審査段階における副査の先生のご意見も参考にします。																		
学生へのメッセージ	学生生活の集大成を立派な形として残すことができるように、一生懸命取り組んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)																		
備考																			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川 豊生

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ(修正・変更可)にもとづき、各自の個別研究を深めていく。調査や整理、発表や討論、さらにレポート・原稿作成という一連の作業のプロセスを通じて、知識や思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら問題を設定し、文献を探求し、論点を論理的に整理し、まとめたレポートを制作する力を養成する。</li> <li>・発表力、聞く力、質問力、コメント力など社会人としての基礎的な力を涵養する。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<p>(前期)</p> <p>まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなう。次に各自、執筆までのスケジュールを立てる。必要な文献を多く読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえて、独自の「結論」を導き出すための問題を設定する。</p> <p>(後期)</p> <p>各自の発表をふまえて執筆にとりかかる。論理的展開と明快な文章を心がけ、4年間の集大成をおこなう。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】 日本文学・日本文化・日本語をめぐる諸問題(海外との比較研究を含む)</p> <p>【内容】 各自がゼミにおいて設定したテーマを深め、発表する力、聴く力、書く力を養成する。また文献探索の方法や、論文の書き方について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 テーマの再確認または変更</li> <li>2 参考文献の収集</li> <li>3 文献の読解・分析</li> <li>4 先行研究の分析</li> <li>5 論の構想</li> <li>6 論文の作成・完成</li> <li>7 共同討議</li> </ol> <p>などを柱としてすすめる。</p> <p>【方法】 発表・討議をくりかえし、また個別指導を通じて、卒研レポートの完成をめざす。</p> <p>【事後・事前学習】 自己のテーマの深化・錬成、発表の準備とまとめ</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	口頭発表(討論含む)・卒業研究レポートを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる貴重な機会です。社会へ出るための最も重要な総合力を養成することをめざしましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階(小川研究室)																		
備考																			



科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的	<p>【テーマ】 日本語・日本語教育</p> <p>【授業概要・目的・到達目標】 3年次の文化演習で学んだことを基に、広い意味の「日本語教育」-----日本語学・第二言語習得・異文化コミュニケーション・教授法・多文化共生等-----に関して、各自が設定したテーマについて考察し、卒業研究レポートを完成する。</p>																		
到達目標	<p>*スケジュールにしたがって、執筆作業を進めていくことができる。 *自分が設定したテーマに関して、自分なりに調査・分析・考察し、論理的な文章を書くことができる。</p>																		
授業方法と留意点	各自が関心を持ったテーマについて、文献及び資料を収集する。資料収集・調査・分析等の研究方法や論文執筆の指導は個別に行うが、ゼミの学生同士の意見交換を通してよりよい研究論文を執筆する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 各自の研究テーマについてのディスカッション、論文執筆、論文添削</p> <p>【事前事後学習課題】 資料、文献収集、論文執筆、推敲</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>よくわかる卒論の書き方</td> <td></td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	よくわかる卒論の書き方		ミネルヴァ書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	よくわかる卒論の書き方		ミネルヴァ書房																
2																			
3																			
評価方法(基準)	卒業研究への意欲、口頭発表、論文の内容等により総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章

授業概要・目的	言語や文化に関して興味のあるテーマを選択し、それについて卒業研究を作成していく。		
到達目標	卒業研究を執筆し、それについて発表することが出来るようになる。		
授業方法と留意点	9月～12月：卒業研究を執筆する。 1月：卒業研究の最終発表を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】言語と文化 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	卒業研究の内容		
学生へのメッセージ	大学生生活も残りあとわずかです。悔いのないように頑張って下さい。		
担当者の研究室等	後藤研究室(7号館5階)		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子

授業概要・目的	<p>【テーマ】 英語圏および英語圏と関わりを持つ言語と文化</p> <p>【授業概要・目的・到達目標】 学生各自がテーマを設定し、卒業研究レポートを作成する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つの話題に関して複数の立場で判断する姿勢を身につける。</li> <li>・情報の精度や公平性を気に掛けるようになる。</li> <li>・社会人になってからも通用する、責任をもった調査やレポートの書き方を身につける。</li> </ul>																
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて資料を収集し、資料の調査・分析など情報のインプットの方法を学ぶ。さらに、論文の構成や発表方法など情報のアウトプットの方法を学び、最終的に卒業研究レポートを完成させる。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>英語圏の歴史・文化・文学や英語教育をテーマとするが、学生が個々に関心をもつテーマを選んでかまわない。</p> <p>ゼミの学生各自の発表と、リサーチや研究のルールの学習を、並行して行う。社会人として卒業後も活かせる知識や技術となるので、授業はもれなく全力で参加しよう。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	卒業研究に取り組む姿勢と卒業研究レポートの内容によって総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生の間におきたいことを、1つでもたくさんやってみましょう。</li> <li>・一生記憶に残るような良いレポートを仕上げましょう。</li> </ul>																
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																
備考																	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	卒業研究レポートの作成に向けての準備 12月10日をめどに下書きを完成させる。それまでに章ごとに下書きを提出する。		
到達目標	人に読んでもらえる文章を書く。論理的な構成と読みやすい文章のレポートを作成する。		
授業方法と留意点	個別指導になる。決められた日時に課題を仕上げて来ること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 個別のテーマによる。  <b>【事前事後学習課題】</b> 指定された文献を読んできて、その内容について報告できること。		
関連科目	スペイン語、スペイン語圏に関連する科目。 歴史系科目。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	提出された課題と、卒業研究レポートによる。		
学生へのメッセージ	いよいよラストスパートです。最後まで気を抜かず、良いレポートに仕上げましょう。		
担当者の研究室等	7号館5階(篠原研究室)		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ショーン マクガバン

授業概要・目的	各自の卒業研究を遂行する。自ら定めたテーマについて、文献の渉獵、データの収集、アンケート調査などを行いながら、筋道の通った論法で、自分の意見を述べる。最終的に、各自の成果をゼミでプレゼンテーションし、研究レポートにまとめる。		
到達目標	自ら定めたテーマに関する資料を収集し、考えを論理的にまとめ、意見を発信できるようになる。		
授業方法と留意点	毎回の授業で、担当教員との討論をするので、きちんと準備したうえで望むこと。全体的なスケジュールを常に念頭に置きながら、計画的に進めていくことが望まれる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究レポート指導 / 文献の読み込み、担当者との討論、データの収集などを行う		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	毎回の討論や、最終プレゼンテーション、完成した卒業研究レポート、査読者の意見などを総合的に判断して評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5F マクガバン研究室		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉 誠

授業概要・目的	学生それぞれのテーマや関心をもとに、ひとつトピックを設定し、文献の渉猟・読み込み、データ収集、考察などを進めながら、自らの意見を論理だてて述べ、それを自らの言葉に落とし込み、卒業研究を完成させる。		
到達目標	和文の場合、12000字以上の卒業研究を完成させる。		
授業方法と留意点	卒業研究Ⅱでは特にデータの分析や卒業研究の作成に力点を置く。きちんと毎回の授業で指定された作業をこなしてることが望まれる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：現代英語の語法文法研究</p> <p>内容：文献の読み込み、データの収集などをもとに、指導教員との討議から、できるだけオリジナリティのある考えに到達できることを目指す。</p> <p>事前・事後学習課題：文献の渉猟・読み込み、データ収集などを含めて、卒業論文を少しずつ書き進める。事前・事後学習の総時間を30時間とする。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	卒業研究の進捗状況を総合的に判断する。		
学生へのメッセージ	文献探しは卒業研究を作成するにあたって基本中の基本です。めんどくがらずに関係のないテーマの本でも読みこみましょう。違った分野のものでも、自分のテーマとの思わぬ関連性やヒントを得ることがあります。		
担当者の研究室等	7号館4階 住吉 誠 研究室		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸 宏

授業概要・目的	すでに決定した研究テーマに従い、執筆に入る。参考文献の取り入れ方にも注意しながら、書き進めてゆく。そして推敲を重ねて卒業研究を完成させる。		
到達目標	卒業研究の完成		
授業方法と留意点	執筆内容と研究テーマの矛盾がないか点検をしながら、卒業研究を完成させてゆく。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	学生とともに研究テーマ、内容、形式を整えてゆく。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	完成した卒業研究と、その取り組みを総合的に判断する。		
学生へのメッセージ	一生記憶に残る卒業研究になればいいと思います。		
担当者の研究室等	7号館3階		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ

授業概要・目的	<p>In this course, students will continue to research and learn about the topics introduced in 3rd year on tourism and hospitality in English.          Cross cultural issues will be discussed to create an awareness of customer service in both Japan and overseas. Students will write further on their graduation thesis in English.</p> <p>Reading for pleasure will be encouraged, to expand vocabulary and improve all four skills - speaking, listening, reading and writing.</p> <p>Oral presentations of thesis material and discussions will take place to encourage confidence in English. Job skills - interviewing techniques and answers will be reviewed.</p>																		
到達目標	<p>Students should improve their four skills of reading, writing listening and speaking in this double period class where only English is used.</p>																		
授業方法と留意点	<p>Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(First term) Thesis topics which have already been decided upon will be researched at length, typed out and a Part 1 copy handed in by the end of the term. Students will attend an English play during the year.</p> <p>Academic writing skills will continue to be studied to help in the process.</p> <p>(Second term) Students will continue to write their thesis papers (Part 2). Oral presentations on thesis topics will take place and hospitality related excursions will be organized with students researching locations. Students will participate in the speech and recitation contest. Second term will be the time for more intensive study in English.</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Tourism and Catering</td> <td>Neil Wood</td> <td>Oxford</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Language Note</td> <td>Richard McMahon</td> <td>languagenote.com</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Basic steps to writing research papers</td> <td>Kluge and Taylor</td> <td>Cengage</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Tourism and Catering	Neil Wood	Oxford	2	Language Note	Richard McMahon	languagenote.com	3	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	Tourism and Catering	Neil Wood	Oxford																
2	Language Note	Richard McMahon	languagenote.com																
3	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>Attendance, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and drama events.</p>																		
学生へのメッセージ	<p>Reading is the core of your English improvement, so be prepared to read lots.          English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on trying, and studying outside class on a daily basis.</p>																		
担当者の研究室等	<p>田浦研究室 7号館 5階</p>																		
備考																			



科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 秀毅

授業概要・目的	卒業研究レポートを作成するために、適切な研究テーマを選定し、参考文献の検索や言語データの収集の仕方、説得力のある議論の展開方法、読み手に親切な書き方などを修得する。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行研究を踏まえ、自論（主張と論証）を作成する。</li> <li>2. 序論と結論を作成する。</li> <li>3. 卒業研究レポートの体裁を整える。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	<p>本科目は、受講生の研究テーマに応じて個別指導を中心に進める。詳しいスケジュールは別紙の「卒業研究指導計画」を参照のこと。</p> <p>留意点は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「卒業研究指導計画」に従って卒業研究を計画的に進めること。</li> <li>2. 個人面接の有無にかかわらず、主体的に、粘り強く研究に取り組むこと。</li> <li>3. 考察の範囲は始めから欲張らず、一定の成果を得て余裕があれば広げるようにすること。</li> <li>4. 欠席はやむを得ない場合を除き極力避けること（本科目は授業であって、自由参加の勉強会ではない）。就活などで欠席した場合は、次の授業の前日までに課題や配付物について確認し、自分の責任で補完すること。</li> </ol>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自論（主張と論証）の作成</li> <li>2. 結論と序論の作成</li> <li>3. 卒業研究レポートの校正</li> </ol> <p>【事前事後学習課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究レポートのドラフト作成と指導教員のフィードバックをふまえた加筆・修正（卒業研究レポート）</li> <li>2. 卒業研究発表会（プレゼン）</li> </ol>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜プリントを配付する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜プリントを配付する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜プリントを配付する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>論文の教室</td> <td>戸田山和久</td> <td>NHK ブックス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>英語論文表現辞典</td> <td>樋口昌幸ほか</td> <td>北星堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary, 8th revised ed. (Collins コウビルド英英辞典)</td> <td></td> <td>Collins COBUILD</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	論文の教室	戸田山和久	NHK ブックス	2	英語論文表現辞典	樋口昌幸ほか	北星堂	3	Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary, 8th revised ed. (Collins コウビルド英英辞典)		Collins COBUILD
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	論文の教室	戸田山和久	NHK ブックス																
2	英語論文表現辞典	樋口昌幸ほか	北星堂																
3	Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary, 8th revised ed. (Collins コウビルド英英辞典)		Collins COBUILD																
評価方法(基準)	卒業研究レポート、プレゼン、卒業研究の取り組み姿勢を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	卒業研究は、単なる専門知識の修得ではなく、論理的思考力を磨くための最大にして、最後の取り組みです。知識は分野によって変わりますが、思考力はさまざまな分野に応用でき、卒業後の人生を支えてくれるでしょう。そんな思考力を確実に会得できるように真剣に取り組みましょう。																		
担当者の研究室等	田中(秀)研究室(7号館4階) ※スチューデント・アワーは木曜5時限です。																		
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の分析では英英辞典を使用することが強く推奨される。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。</li> <li>2. 欠席は授業に出席しなかった場合（公欠・忌引き・病欠を含む）のすべてを対象とする（ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること）。欠席回数については初回授業で説明するので必ず確認すること。</li> <li>3. 遅刻は本人の授業理解度を低下させ、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。</li> </ol>																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介

授業概要・目的	前期までの蓄積をもとに各自の研究を進め、アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業論文(研究レポート)を完成させます。																
到達目標	自分自身、指導教員、査読して下さる副査の先生の全員が満足できる卒業研究レポートを期限通りに提出し、プライドと達成感を持って本学を卒業すること。																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期同様、週2回の授業時間を分割し、各ゼミ生について隔週で30分程度のアポイントを取り、研究室で原稿の添削を受けたり、次のアポイントまでの進め方についての個別指導を受けてもらいます。個人面談とは違いますので、アポイントを取っている学生以外にも研究室を開放します。ゼミ仲間が受けている添削やアドバイスを聞いて自分の作業への参考にしたり、研究室のPCと資料を使って自由に作業することができます。</li> <li>・ゼミ生全員が集合し、各自の進行状況について報告し合う全体ミーティングも毎週30分程度行います。</li> <li>・PCの基本操作には3年次のうちに完全に習熟している必要があります。経済的に困難でなければ、自分のノートPCを所有して下さい。</li> <li>・卒論、卒業研究レポートは、大学での学業の締めくくりです。とにかく期限を守ること、連絡を欠かさないことが大事です。</li> </ul>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b>          これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。          「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ポカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツNASCARの歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』— グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b>          資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	ゼミ活動全体への貢献(50%)+卒業論文・研究レポート(50%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館3階 鳥居研究室																
備考																	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣

授業概要・目的	言語・文化、国際ビジネスなどの分野に関する研究を進めていきます。(1) 参考文献や資料の収集とその活用法、(2) 論文の書式および参考文献等の表記法、(3) データに基づいた科学的論文の展開法などの習得も大切な授業目的になります。																		
到達目標	各自で選んだテーマについて卒業研究レポートを完成させることを目標とします。																		
授業方法と留意点	各自の研究テーマおよびその進行状況に応じて指導を行っていきます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b>          言語・文化、国際ビジネスなどの分野に関する研究を演習形式で進めていきます。          ・まず、前期の研究成果に基づいて、論文の概要をまとめ、後期開始直後に第2回中間研究発表を行います。          ・その後、さらに論旨の整合性を高めながら、文体上の不備を修正していきます。          ・12月下旬までに卒業研究レポートの完成を目指します。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 参考文献等で研究テーマについて調べて、要点を整理してみよう。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	卒業研究レポートの完成度を軸とし、授業に取り組む姿勢を加味して総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ	計画的な研究活動を心がけてほしいと思います。																		
担当者の研究室等	7号館4F 中島研究室																		
備考																			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹

授業概要・目的	文化演習で研究したテーマをもとにそれをより深く掘り下げるとともに、関連する問題を幅広く取り上げながら独自の見解を展開する。授業で調べた内容を逐次発表しながら、最終的には論文の形式にまとめる。		
到達目標	収集した資料から必要なものを選び出し、それを効果的に利用しながら議論を展開する能力を身につける。また、論文を作成する作業を通して、論理的に思考しそれを分かりやすい文章にまとめる力をやしなう。		
授業方法と留意点	授業では発表を重視する。レポート作成の過程では、章立てとそれを作成するスケジュールを自ら決め、その進捗状況をつねに指導教員に報告する。また、利用する可能性のある資料はすべて引用元を明らかにした状態で整理、管理する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	外国語による関西の観光情報の調査とその発信。		
関連科目	日中観光文化と通訳法		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	ゼミへの取り組み、発表、卒業研究レポートの内容を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	有終の美を飾ってください。		
担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 真由美

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ(修正・変更可)にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。		
到達目標	テーマに関して、何を調べたいのかを常に確認しながら、自分の考えをまとめつつ少しずつ書き進めること。何度も読み返し、修正を加えながら、一つのまとまった論を作る努力を重ねてください。		
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない(「結論」の導き出せる)問い(問題)を設定すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> 各自が決めた内容に関し、それに関する本や文献に当たり、しっかり読み込んでまとめながら書き進めること。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	卒業研究レポートへの取り組みを総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートの作成は大変な作業ですが、頑張ってよいレポートを書いてください。		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室		
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> 卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊

授業概要・目的	卒業研究Ⅰの成果を継続し、各自設定したテーマ及び研究の方向性に基づいて、卒業研究を完成させる。			
到達目標	卒業研究を完成させる。			
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて、資料収集・調査及び分析等を行い、卒業研究を完成させる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究を完成させる。 テーマに基づいて文献収集、卒業研究執筆を行い、毎週報告する。 毎回、事前の文献収集とまとめ、事後の整理が必要である。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	平常点(卒論に取り組む姿勢)100%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館4階			
備考	事前事後学習時間 計60時間			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ(修正・変更可)にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。		
到達目標	4年間の集大成として、卒業研究レポートを書き上げる。		
授業方法と留意点	中間報告をまじえながら各自執筆にとりかかる。論理的展開と明快な文章を心がけ、4年間の集大成をおこなってほしい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 西洋社会史の総合研究  <b>【事前事後学習課題】</b> 授業中に適宜指示する。事前事後学習の総時間数は約60時間。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	口頭発表(討論含む)・卒業研究レポートを総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。		
担当者の研究室等	7号館4階 林田研究室		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	原 秀禎

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究では、3回生の文化演習で培った基礎を踏まえて、各自のテーマ・調査地域を決定して現地調査を行う。</li> <li>現地調査・資料収集の方法や、収集した資料の整理・分析の方法、さらに論文の書き方や図化の方法など、ゼミ生のレベルや進度に応じた個人指導を行い、卒業研究レポートを完成させる。</li> </ul>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休み調査のまとめをする。</li> <li>収集資料の分析を始める。</li> <li>分析内容を文章化する。</li> <li>卒業研究レポートを完成させる。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>全授業の出席を基本とする。</li> <li>各自のテーマに即して、個別指導を行う。</li> </ul>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>以下の内容で、授業を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①夏休み調査の中間発表</li> <li>②収集資料の整理</li> <li>③収集資料の分析</li> <li>④図化作業</li> <li>⑤調査研究中間発表</li> <li>⑥論文作成の方法</li> <li>⑦卒業研究レポートの完成</li> </ol> <p>などについて詳細に解説・指導する。</p>																		
関連科目	旅と観光の地理、東南アジア地誌学、中国地誌学																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>使用しない。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	使用しない。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	使用しない。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜紹介する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜紹介する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜紹介する。																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	受講状況、研究発表、レポートの内容を加味して、総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地理や観光、環境問題に興味があり、図書館や役所での資料集めが苦にならない人に適しています。																		
担当者の研究室等	7号館5階 原研究室																		
備考																			



科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	卒業研究レポートを執筆する過程で論理的思考力と文章力を養い、テーマを決めるに至った問題意識をつねに念頭におき、それへの答えを導き出す論文を書き上げる。		
到達目標	邦語文献だけに頼らず、専攻言語で培った力を十分に生かし、自分が選んだテーマに関する先行研究を押さえたうえで、オリジナリティのある論文を作成する。		
授業方法と留意点	夏期休業中の成果を後期の始めに報告しあい、論文の構成を明確に組み立てる。以後、各自が章・節ごとの発表を少しずつ行い、質疑応答を交わし合うなかで推敲を加え、論文を完成させる。ゼミ生間で建設的な批判や示唆を与え合うことが重要である。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】人の移動における「包摂と自律」 【事前事後学習課題】段階に応じた研究報告を毎回準備する。		
関連科目	専攻語科目、専攻言語圏に関する科目全般、マイノリティ論、社会学・政治哲学系科目。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	各自のテーマ、研究対象地域に応じて指示する。	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	適宜紹介する。	
	2		
	3		
評価方法(基準)	研究報告の積み重ねとそれらを自己の問題意識に沿っていかに論理的にまとめあげることができたかを評価する。		
学生へのメッセージ	思考の過程をしっかりと刻んだ卒業研究レポートを計画性をもって書き上げてください。		
担当者の研究室等	7号館5階(北條研究室)		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー

授業概要・目的	Students will continue to develop their ideas started in 3rd year and compose a final thesis.			
到達目標				
授業方法と留意点	Students will collect documents on their topics, evaluate and analyze the information, and together with feedback from the instructor, compose their final research paper.			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	Individualized for each student.			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	Students will be evaluated on the content, cohesion and clarity of thought in their graduation theses.			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館3F ハーキー研究室			
備考				

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵

授業概要・目的	<p>3年次には英語圏に共通する「知っておくべき事柄」(文化知識)に焦点を当て、情報収集・発表を行ってきました。また新聞記事を使って、時事情報にも触れました。さらに、後期は、A Boy in the Striped Pajamasという本を輪読し、フィクションからのメッセージとその背景に重なる歴史も読み取りました。</p> <p>4年次は、3年次に築いた「英語圏の基礎知識」の土台の上に、「最近の」あるいは「今の」情報を加えていきます。また、A Long Way Goneというシェラレオネの元少年兵の回顧録を読み、内戦が繰り返される国とはどういうものなのかを考えます。</p> <p>最終的には、英語、日本語、文学、映画、教育、文化の中から2つ以上を結びつけた卒業研究テーマを掘り下げ、新たな視点を加えながら論文の作成にあたります。</p>																		
到達目標	卒業研究レポートとして扱うテーマを選び、資料収集、文献の読み込みを始めます。遅くとも夏休みには本格的に執筆をはじめ、最終的に完成度の高い論文を仕上げることを目標とします。																		
授業方法と留意点	卒業研究レポート執筆の手順、構成、テーマなどを確認します。文献・資料の収集を続ける傍ら、それを整理し、論文の大まかな構成を考えます。調査が必要ならその準備をし、実行します。指導を受けながら、情報の追加、削除、論理の修正など推敲を重ねます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 ライフストーリーで知る世界／卒業研究</p> <p>【事前事後学習課題】 輪読本に関しては、該当箇所を読み、ワークシートを作成します。卒業研究レポートは、それぞれが教員の指導とアドバイスを受けながら執筆を進めます。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	1年を通じての受講態度、口頭発表、論文への取り組み方、論文の内容などを見て、総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 松田研究室																		
備考	【学生へのメッセージ】 まだまだ学ぶべきことがいっぱいあるはず。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	皆本 智美

授業概要・目的	卒業研究レポート執筆を行う。 論文を書くための方法を学ぶ。		
到達目標	卒業研究レポートを仕上げるにあたり、問題理解力と調査・表現技能を身につける。		
授業方法と留意点	論文をたくさん読んで論文の書き方を学習する。 時間に余裕を持つために、早めに執筆に取りかかること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	個人指導とする。 毎回、課題を指示し、前回の課題の添削を行う。 適宜、学生間で研究内容の発表を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	適宜、指示する。	
	2		
	3		
評価方法（基準）	卒業研究レポートの独創性・使用言語の習熟度・論理性により評価する。		
学生へのメッセージ	大学生生活の総括として、卒業研究に取り組んでください。		
担当者の研究室等	7号館4階皆本研究室		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家口 美智子

授業概要・目的	3年間で培った論理的思考を、研究テーマを選びリサーチし自分の論点を書くことで主張するという作業として完成させる。英語で書いても日本語で書いても、全力を尽くして何かを創造する喜びを味わってほしい。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 論理的な文章を書く</li> <li>* オリジナリティのある研究を行う</li> <li>* 日頃の疑問をはらす</li> <li>* じっくり考えて、実証して、自分の結論に責任を持つ</li> <li>* 引用の仕方を学ぶ</li> </ul>																
授業方法と留意点	個人指導を行う。ぎりぎりで書き上げるのではなく、時間に余裕を持つと推敲することができるので、より良いものが書ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b>          3年次に選んだテーマを掘り下げて、トピックを選ぶ。どんなリサーチが可能かを担当教員と話し合って探る。          個人指導で文献を紹介したり、トピックについてディスカッションする。</p> <p>冬休み前に卒論発表会を実施する。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	卒業研究への取り組み、卒業研究の内容を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	計画を立てて根気よく頑張りましょう。																
担当者の研究室等	7号館4F 家口研究室																
備考																	

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的	3年次の演習で習得した知識をベース、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を向上させる。																		
到達目標	ことわざと慣用句などを中心に比較研究を行うことによって、広い視野から国際理解を深め、言葉の感受性を豊かにし、中国語力を高めるのを目指す同時に、卒業研究レポート作成を指導し、研究能力を育成する。																		
授業方法と留意点	各自テーマを決め、収集した資料と検討を行った文章をパソコンディスプレイで提示しながら説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【テーマ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日中のことわざの比較</li> <li>・日英のことわざの比較</li> <li>・イディオムの日英比較</li> <li>・イディオムの日中英の比較</li> <li>・中国語の誤用分析</li> </ul> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 指示に従って、文献等で内容を調べたうえ、レポート草稿を作成して来る。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>英語ことわざ用法辞典</td> <td>曾根田憲三 他</td> <td>大学書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中国語ことわざ用法辞典</td> <td>金丸邦三・孫玄齡</td> <td>大学書林</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>英語聖書の修辭法と慣用句</td> <td>中野清治</td> <td>英宝社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	英語ことわざ用法辞典	曾根田憲三 他	大学書林	2	中国語ことわざ用法辞典	金丸邦三・孫玄齡	大学書林	3	英語聖書の修辭法と慣用句	中野清治	英宝社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	英語ことわざ用法辞典	曾根田憲三 他	大学書林																
2	中国語ことわざ用法辞典	金丸邦三・孫玄齡	大学書林																
3	英語聖書の修辭法と慣用句	中野清治	英宝社																
評価方法(基準)	取り組む姿勢とレポートによって総合評価をする。																		
学生へのメッセージ	努力を惜しまなければ、成功につながります。																		
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)																		
備考																			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋

授業概要・目的	各自が設定したテーマについて研究を行い、卒業研究レポートを作成する。			
到達目標	各自が設定するテーマについて、論理的に表現できるようになる。 質の高い卒業研究レポートを作成する。			
授業方法と留意点	各自が設定したテーマについて、教員による指導および他のゼミ受講生からのアドバイスを受けながら、卒業研究レポートの作成を進める。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	先行研究を入念に行い、教員による指導を受けて、卒業研究レポートを作成する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	到達目標の達成状況、プレゼンテーション、卒業研究レポートを総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室			
備考				

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 真佐夫

授業概要・目的	卒業研究レポートの執筆を始める。指導教員による添削を繰り返して、卒業研究レポートを完成させる。		
到達目標	卒業研究レポートの完成。		
授業方法と留意点	各自が指示された作業をしっかりと行うこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期の卒業研究Ⅰで作成したロードマップに従い、卒業研究レポートを完成させる。順調に卒業研究レポートを完成させるために、事前・事後の作業をしっかりと行うこと。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	卒業研究レポートで評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階 山口室		
備考			



科目名	体験型特別実習A	科目名(英文)	Experience-based Practicum A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	沖中 美喜

授業概要・目的	観光立国を目指す日本において、エアラインの役割はますます重要となってきた。 まず、交通インフラの拠点である空港の役割を把握する 航空機を運航するための機能と多様な職種の役割、協力を理解し、さらに、お客様満足「安全」「安心」「定時制」「快適性」「顧客満足」を得るための努力を理解する。 最後に空港見学により、知識を実際の目で確認する。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>エアラインの仕事の多様性を理解する。</li> <li>空港見学により、1機の飛行機を飛ばすために各部門がどのように連携し、どのような想いを持っているのか感じ取る。</li> <li>自らの将来像を描く</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p>本学内での事前・事後授業と関西空港見学(1日)及びテストによる 空港見学の際は、細かい身だしなみ基準に従うこと。</p> <p>空港見学以外は講義形式で行う。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1日目</p> <p>第1回 オリエンテーションとマナー</p> <p>第2回 エアラインの現状</p> <p>第3回 空港の役割</p> <p>2日目</p> <p>第4回 空港旅客スタッフ</p> <p>第5回 グランドハンドリング</p> <p>第6回 空港貨物</p> <p>3日目</p> <p>第7回 オペレーション</p> <p>第8回 運航乗務員</p> <p>第9回 客室乗務員</p> <p>4日目</p> <p>関西空港見学</p> <p>5日目</p> <p>まとめとテスト</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業の参加状況、レポート及びテストを通じて総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	空港の裏側は普段見ることができません。グランドスタッフや、CAがどのように働いているのか見てみませんか。ホスピタリティ産業の最前線の現場を知るいい機会です。																
担当者の研究室等	7号館4階(エアライン・ホスピタルプログラムルーム)																
備考																	

科目名	体験型特別実習B	科目名(英文)	Experience-based Practicum B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	中西 正樹

授業概要・目的	本学部のパッケージプログラムは、学生の主体性・自主性を喚起し、将来のキャリアについて体系的に学ぶことを目的としている。この「体験型特別実習 B」科目では、学生自身が主体的に計画、参加した社会的活動についてその活動内容や成果を日誌やプレゼン、レポートの形式（授業内容の項目で詳述）で事後に報告し、審査を経て単位を取得するが認定される。ここでいう社会的活動とは、上で述べたパッケージプログラムの趣旨に合致する授業外の研究活動やインターンシップ、ボランティア活動などを指す。事後申請型の科目なので事前に履修登録は行わない。																
到達目標	事前授業によってこの科目の趣旨と評価基準を十分理解したうえで、自ら立てた活動計画に基づいて活動できる自主性、積極性の獲得を目指す。さらにその活動内容とそこで得られたものについて詳細かつ分かりやすく表現できる力をつける。																
授業方法と留意点	学内で行われる事前授業や事後授業（実施日は追ってポータル等で案内する）には必ず出席すること。無断で欠席した場合には単位を与えない。単位申請の対象となるのは申請時から遡って2年以内の活動（ただし、本学在学中のものに限る）とする。また、事前授業や事後授業、単位申請の受け付け、審査、認定はすべて外国語学部が行うが、活動そのものには関与しないので、活動への申し込みや先方への問い合わせも学生自身が行い、主催団体等の規定やスケジュールに従いながら行動すること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業は以下の順に進める。単位申請は事前、事後すべての授業への参加を条件とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事前授業（4月～5月） 本科目の申請対象となる活動について、必要時間数や安全面での注意事項などについて理解する。科目の趣旨や到達目標、申請方法、評価の方法や基準、事後授業のスケジュール、さらに日誌ノートの書き方などについて学ぶ。</li> <li>活動への参加（時期は活動によって異なる） 主催団体等の広報資料を集めるなどして、自分で活動計画を立てたうえで、活動に必要な手続きを進める。主催団体等によるガイダンスや審査を経て活動に参加することになれば、現地での滞在期間に日誌を書く。</li> <li>事後授業（11月上旬予定） 審査のスケジュールや方法について学び、プレゼンテーションやレポート作成作業に備える。また、日誌など単位申請に必要な文書について確認し、不備があれば指導を受ける。</li> <li>事後授業2（11月下旬予定） 申請者が現地で活動した内容やその成果を示す写真や映像を用いながら報告を行う。中西および数名の学部教員が審査に当たる。このあと、参加した活動の内容やそこで得られた成果をテーマとして2,000字程度のレポートを指定された締め切り日までに提出する。なお、ここでのプレゼンテーションやレポートが活動を主催する団体が求めるとは別のものであることに注意。</li> <li>事後授業3（2月上旬予定） プレゼンテーションやレポートの審査にあたった教員が講評を行う。</li> </ol>																
関連科目	体験型特別実習A, 海外実習, 海外インターンシップなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	事前事後授業での取り組み、日誌、プレゼンテーション、レポートをもとに総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館3階（中西研究室）																
備考																	

科目名	大衆文化論	科目名(英文)	Popular Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一

授業概要・目的	私たちの身の回りにはさまざまなメディアがあふれかえています。みなさんはそうしたメディアをどれだけ理解し、使いこなせているでしょうか。この授業では、ワークショップを通じてさまざまなメディア技法を習得しつつ、これからの社会を生きていく上で求められるメディアリテラシーを涵養します。 (2015年度入学生には、メディアビジネスプログラム科目の一つです。)
到達目標	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 (1) メディアリテラシーが身につく (2) さまざまなメディアの特性について理解している (3) メディアを通じて情報を獲得したり発信したりするためのスキル(メディア技法)を身につけている
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。
2	メディアリテラシー	インターネットの登場により、私たちの生活は劇的に変化してきました。Line や Facebook、twitter といった SNS は私たちの人間関係にも大きな影響を及ぼしています。  私たちはこうした技術をどれだけ使いこなせているでしょうか。今回の授業では、情報社会にあつて必須の能力であるメディアリテラシーを涵養します。	授業中に指示します。
3	まわしよみ新聞を作る	インターネットの普及にともなつて、活字文化の衰退が危惧されます。新聞の発行部数も年々減り続ける一方です。  今回の授業では、ワークショップにより「まわしよみ新聞」を作ります。そのなかで、新聞や活字文化について学修します。	まわしよみ新聞について調べておきましょう。  まわしよみ新聞を作るために、1週間以内の新聞を持ってきましょう。
4	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)がどのようなものなのか学修します。	授業中に指示します。
5	SNSを使いこなす	SNSの特性を理解したうえで、SNSを使って情報を獲得したり発信したりする技術を身につけます。	授業中に指示します。
6	チラシを作る——広告デザインの作法	インターネット、SNSの普及にともなつて、新聞、雑誌など紙媒体のメディアが発行部数を減らす一方で、チラシやポスターは依然として身の回りにあふれています。  今回の授業では、ワークショップを通じてチラシを作ります。そのなかで、広告、デザインの作法について学修します。	あなたの好きなチラシを探して授業に持ってきましょう。
7	名刺を作る——自己をブランディングする	今回の授業では、ブランディングの基本について学修します。その上で、自分自身を効果的にアピールするための手段として、ワークショップにより名刺を作ります。	授業中に指示します。
8	中間のふり返り	前半の授業をふり返ります。不明な点があれば質疑応答により解決します。	授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがつて調査しましょう。
9	メディア文化史	メディア文化の歴史について学修します。	授業中に指示します。
10	映像を撮る——世界を切り取るということ	誰もが手軽に写真や動画を撮影できるようになりました。今回の授業では、動画の撮影を通じて、世界を切り取るということの意味について学修します。	授業中に指示します。
11	映像を編集する——切り取った世界を加工すること	動画を撮影することが世界を切り取ることであるとするならば、その編集は切り取った世界を加工することだと言えるでしょう。  今回の授業では、映像の編集を通じて、世界を加工することの意味について学修します。	授業中に指示します。

	12	映像制作論	今回の授業では、テレビ放送のドキュメンタリー番組がどのように作られるのかを確認しながら、映像制作の基本を学修します。	授業中に指示します。
	13	大衆文化と政治	テレビ、映画、アニメといったメディアは、これまで幾度となくプロパガンダとして政治的な宣伝に利用されてきました。 今回の授業では、映像資料を交えながら大衆文化と政治の関係について学修します。	授業中に指示します。
	14	メディアと権力	権力はしばしばメディアを利用します。メディアも権力におもねることが少なくありません。メディアと権力は、たいへん結びつきやすいものなのです。民主主義の社会にあって、私たちはこのことを十分に理解し、メディアと権力の両方を監視していく必要があります。 今回の授業では、メディアと権力の関係について学修します。	授業中に指示します。
	15	まとめ、全体のふり回り	これまでの授業をふり回りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。	これまでの授業で学修したことをしっかり復習して授業に参加しましょう。授業を受けたあとは改めて授業全体をふり回りながら期末試験に向けて準備をしましょう。
関連科目	メディアビジネスプログラム科目(2015年度入学生)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	この授業は、授業内課題(リフレクションシート)15%、ワークショップ30%、講義内容に関連する課題調査10%、期末試験45%で評価します。			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気での授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。			
担当者の 研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。  7号館2階 非常勤講師室  メールアドレス: xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)			
備考				

科目名	旅と観光の地理	科目名(英文)	Travel and Tourism Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原 秀禎

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の風土を観光という視点を通して見ていく。</li> <li>日本における観光地をさまざまな視点から分析し、その特色を明らかにする。</li> <li>観光地の定義を行った後、観光資源、観光流動、観光産業について分析を加える。</li> <li>観光地の諸特性を類型化し、観光調査の方法について説明したのち、観光開発の問題点を指摘する。</li> <li>多数の観光地に関するビデオやスライドを使用し、具体的な事例をあげながら理解を深めていく。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本における観光地の特色を理解する。</li> <li>日本の観光資源、外国人観光客の動向についても把握する。</li> </ul>
授業方法と留意点	配布プリントを中心に、ビデオ教材を毎回使用し、具体的な観光地について分析を行う。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本における観光地の特性を把握できる。</li> <li>旅行業界に就職を希望する学生諸君にとっては、地理的知識の修得につながる。</li> </ul>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	旅・観光の定義	旅・観光とは何か、その定義	観光・旅等の定義内容を整理する。
	2	研究の目的と方法	旅・観光研究の目的と方法	研究の目的と方法を整理し、理解を深める。
	3	観光発達史Ⅰ	外国における観光地の発達過程	ヨーロッパにおける観光地の歴史をまとめる。
	4	観光発達史Ⅱ	日本における観光地の発達過程	日本における観光地の歴史をまとめる。
	5	観光資源と観光流動	自然・人文観光資源の評価、観光の需要、観光圏の形成	観光の需要、観光圏の形成についてまとめ、理解を深める。
	6	観光産業	観光産業の構成と分布	観光産業の構成と分布をまとめ、理解を深める。
	7	第1回から第6回までのまとめと理解度確認テスト	第1回から第6回までのまとめを行った後、理解度を確保するためのテストを実施する。	テスト内容を確認し、理解できていない内容を復習する。
	8	観光地の特性Ⅰ	温泉観光地とその特色	温泉観光地とその特色をまとめる。
	9	観光地の特性Ⅱ	山岳観光地とその特色	山岳観光地とその特色をまとめる。
	10	観光地の特性Ⅲ	海岸観光地とその特色	海岸観光地とその特色をまとめる。
	11	観光地の特性Ⅳ	宗教・都市観光地とその特色	宗教・都市観光地とその特色をまとめる。
	12	観光調査法Ⅰ	資料の吟味と収集法、グーグルによる検索、観光統計の入手法	観光調査法の内容を復習する。
	13	観光調査法Ⅱ	アンケート調査、ヒヤリング調査、調査結果の整理法	アンケート調査、ヒヤリング調査項目を作成する。
	14	第8回から第13回までのまとめと理解度確認テスト	第8回から第13回までのまとめを行った後、理解度を確保するためのテストを実施する。	テスト内容を確認し、理解できていない内容を復習する。
15	理解度確認テストの結果を踏まえ、全体を総括する。	旅・観光のまとめ、日本における観光地の特性	日本における観光地の特性をまとめる。	

関連科目 エリアスタディズ、地域環境論、エコツーリズム論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	観光地理学	寺阪昭信	古今書院
	2	観光学	溝尾良隆	古今書院
	3	アーバンツーリズム	淡野明彦	古今書院

評価方法(基準) 2回の理解度確認テストの成績を中心に、授業参加、講義態度も加味して、総合的に評価する。

学生へのメッセージ 配布プリントの内容だけでなく、口頭で説明した内容やビデオの内容も要約して、しっかりノートにまとめる習慣を身に付けて下さい。事前・事後に各1時間の学修を要する。

担当者の研究室等 7号館5階(原研究室)

備考

科目名	旅の文学	科目名(英文)	Travel Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川 豊生

授業概要・目的	この講義では、日本人が長い時間をかけて培ってきた様々な文化(文学)の精髓を、(旅)を主なテーマとして紹介・解説する。あつかう時代は古代から現代まで。古代人の旅から現代の世界遺産の旅までは幅広く対象とする。また日本国内の旅にかぎらず、日本人の海外への旅の記録や、海外から日本への旅をも含めて扱う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅の文化がどのようにして生まれたのか、その経緯を認識する。</li> <li>・現代の旅と前近代の旅との違いについて認識を深める。</li> <li>・名所旧跡についての文化的な知識を養成する。</li> </ul>
授業方法と留意点	講義形式ですすめる。ただしあらかじめ読んでおくことを要求したり、授業時に作品を読んで問題に答えてもらったりする時間もしばしば設定する予定。
科目学習の効果(資格)	一部の資格試験に臨むための基礎的知識の養成。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	概説 文学は旅をする	旅や観光と文学との関わりについて考察し、全体の導入とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料でキーワードとなるものについての事前リサーチ</li> <li>・自分なりのノートの整理と問題点の再確認</li> </ul>
2	神々の旅(神話伝承の世界から) 1	人間にとって旅とは何か、日本や世界の神話にさかのぼって考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料でキーワードとなるものについての事前リサーチ</li> <li>・自分なりのノートの整理と問題点の再確認</li> </ul>
3	神々の旅(神話伝承の世界から) 2	引き続き、人間にとって旅とは何か、日本や世界の神話にさかのぼって考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料でキーワードとなるものについての事前リサーチ</li> <li>・自分なりのノートの整理と問題点の再確認</li> </ul>
4	古代の文学と旅(万葉の旅)	古代日本人の旅への思いを万葉集を題材に考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料でキーワードとなるものについての事前リサーチ</li> <li>・自分なりのノートの整理と問題点の再確認</li> </ul>
5	平安京の観光スポットと物語伝承 1	京都の観光スポットに残る物語伝承の世界を深く理解し、名所旧跡の成立の経緯について認識を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料でキーワードとなるものについての事前リサーチ</li> <li>・自分なりのノートの整理と問題点の再確認</li> </ul>
6	平安京の観光スポットと物語伝承 2	京都の観光スポットに残る物語伝承の世界を深く理解し、名所旧跡の成立経緯について認識を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料でキーワードとなるものについての事前リサーチ</li> <li>・自分なりのノートの整理と問題点の再確認</li> </ul>
7	大阪の観光スポットと物語伝承 1	大阪の観光スポットに残る物語伝承の世界を深く理解し、名所旧跡の成立経緯について認識を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料でキーワードとなるものについての事前リサーチ</li> <li>・自分なりのノートの整理と問題点の再確認</li> </ul>
8	大阪の観光スポットと物語伝承 2	大阪の観光スポットに残る物語伝承の世界を深く理解し、名所旧跡の成立経緯について認識を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料でキーワードとなるものについての事前リサーチ</li> <li>・自分なりのノートの整理と問題点の再確認</li> </ul>
9	世界遺産の旅と文学	世界遺産となっている土地に残る伝説を探求し、聖地の有する歴史的意義について認識を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料でキーワードとなるものについての事前リサーチ</li> <li>・自分なりのノートの整理と問題点の再確認</li> </ul>
10	江戸の観光と文学 1	芭蕉の旅をはじめ、「歌枕」を訪れる旅という視点から解説する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料でキーワードとなるものについての事前リサーチ</li> <li>・自分なりのノートの整理と問題点の再確認</li> </ul>
11	江戸の観光と文学 2	本格的な観光学の登場について、『東海道中膝栗毛』などを中心に考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料でキーワードとなるものについての事前リサーチ</li> <li>・自分なりのノートの整理と問題点の再確認</li> </ul>
12	旅行記の世界 1 ジパンへの旅	西洋人の日本発見の経緯を、「旅行記」を題材に考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料でキーワードとなるものについての事前リサーチ</li> <li>・自分なりのノートの整理と問題点の再確認</li> </ul>
13	旅行記の世界 2 西洋発見の旅	明治日本人の西洋発見の経緯をさまざまな旅行記をもとに考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料でキーワードとなるものについての事前リサーチ</li> <li>・自分なりのノートの整理と問題点の再確認</li> </ul>
14	現代の旅と文学	映画やアニメなど現代文化における旅の意味について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料でキーワードとなるものについての事前リサーチ</li> <li>・自分なりのノートの整理と問題点の再確認</li> </ul>
15	総括 (総合評価授業)	授業全体をまとめ、総合問題を解く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の整理とまとめ</li> </ul>

関連科目	文化観光に関する科目や日本文化にかかわる科目。
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	総合評価授業での総合問題、および各授業での確認問題・課題レポート等で総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	人間が(旅)することの意味を深く考えるきっかけにしてほしい。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	7号館4階(小川研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。
----	------------------------------------

科目名	多文化の共生	科目名(英文)	Multiculturalism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小川 豊生, 林田 敏子

授業概要・目的	グローバリゼーションと言われる変化は、われわれの社会にどのような影響を与えているのだろうか。 本講義では、社会の基層としての「文化」に着目して、文化の「間」において生じる様々な事象・問題を取り上げて、検討する。前半(小川担当)は、国家・民族・宗教といった領域をめぐり、多文化の共生について学ぶための基礎的知識を確保し、グローバルな時代における文化のあり方について考察する。後半(林田担当)は、ジェンダーの観点から多文化共生について考える。家庭や職場、あるいは電車のような公共空間においても、ジェンダーをめぐる社会問題はわれわれの周りにあふれている。同性婚や夫婦別姓など法的枠組みをめぐる議論も踏まえながら、身近な社会問題のなかに多文化共生の可能性をさぐる。
到達目標	前半は、国家、文化、エスニシティ、ナショナリズム、クレオールなど多文化の共生について学ぶための基礎概念を学ぶ。後半は、性別二元論を乗り越え、多様な性のありかたを認め合う社会を実現するために、どのような課題が残されているのかを理解する。
授業方法と留意点	プリントとパワーポイントを用いて授業をすすめる。必要に応じてコメントの提出を求める場合がある。
科目学習の効果(資格)	多文化共生に関する基礎的知識をもとに、さまざまな観点から社会問題をとらえる視座を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業の進め方についての説明 ・文化と共生、という授業のキーワードについての説明	「多文化の共生」とは何かについて、自分なりの意見まとめておく。
2	多文化と民族(1)	ナショナリズムの概念について認識する。	講義のキーワードについて調べておく。
3	多文化と民族(2)	ナショナリズムと文化の関係について、歴史上の事例をあげながら、検討する。	講義のキーワードについて調べておく。
4	多文化交流と宗教史(1)	一神教と多神教の相違がもたらす文化の諸問題について考察する。	一神教と多神教について調べておく。
5	多文化交流と宗教史(2)	民族紛争と宗教の問題について考える。	民族紛争と宗教の関係についてまとめてくる。
6	多文化交流と宗教史(3)	宗教の違いを乗り越えた文化の伝播について、具体例をあげながら考察する。	宗教の違いを超えた文化伝播の事例についてまとめてくる。
7	多言語と共生(1)	クレオールとは何かを考える。	講義のキーワードについて調べてくる。
8	多言語と共生(2)	東アジアと漢字文化圏について	東アジアの文化的共通点についてまとめてくる。
9	女性専用車両は男性差別か?	現代日本のジェンダー認識を他国との比較のなかでとらえる。	女性専用車両の是非について自分の考えをまとめてくる。
10	家庭とジェンダー	性別役割分担意識とDV(ドメスティック・バイオレンス)について考える。	DV に対する社会認識の変化と法的整備についてまとめる。
11	職場とジェンダー	賃金・昇進・セクハラ・マタハラについて考える	マタニティ・ハラスメントをめぐる新聞報道をネットで検索し、概要をまとめてくる。
12	衣服とジェンダー	異性装(男装・女装)の歴史と今について考える。	男性服と女性服の違いとは何か、自分がもっているイメージを文章化してくる。
13	ジェンダーとセクシュアリティ(その1)	近代以前と以後の性愛観を、日本を例に比較分析する。	近代以前の多様な性のありかたについてまとめる。
14	ジェンダーとセクシュアリティ(その2)	LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー)について考える。	LGBT をキーワードにネット検索をし、そのような問題が議論されているか調べてくる。
15	総括	小テストおよびディスカッションをおこなう。	全授業内容を復習してくる。

関連科目 本授業は文化論のマクロ面を扱うことを意識している。ミクロ面を扱う「暮らしの中の文化」と並行して受講することによって、より深い理解が可能になる。また、自然環境などとの関連では「風土と地理」も参考になる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	提出物(20%)と小テストおよびディスカッション(80%)を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	答えは一つではありません。多様な立場や考え方に触れながら、柔軟に考えてください。
担当者の研究室等	7号館4階(小川研究室) 7号館4階(林田研究室)
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約30時間。

科目名	地域環境論	科目名(英文)	Regional Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	原 秀禎

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、最も深刻な状況にある環境問題を取り上げ、その現状を分析していく。</li> <li>・ 早急に対策をとらねばならない「地球温暖化問題」について、その現状から対策にいたるまで、詳細に解説する。</li> <li>・ その他、オゾン層の破壊、熱帯林の減少、砂漠化問題、酸性雨問題、海洋汚染問題などを取りあげる。</li> <li>・ われわれが具体的に取り組まなければならない「保全・対策問題」について明らかにする。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地球環境問題の現状を理解する。</li> <li>・ さまざまな環境問題についてその解決法を検討する。</li> </ul>
授業方法と留意点	板書を中心に、適宜プリントを配布して解説する。また、ビデオ教材を毎回使用し、具体的な事例を示しつつ、環境問題の深刻さを浮き彫りにしたい。
科目学習の効果(資格)	世界のさまざまな環境問題についての認識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地球環境問題とは何か	環境問題をどのようにとらえるか、地球環境問題の概要	環境問題とは何かを整理する
2	環境変化のプロセス	環境変化の現状、環境変化に対する従来の提言	環境問題の現状をまとめる
3	地球温暖化 I	地球の温度と温室効果、温室効果ガス	温室効果ガスとは何かをまとめる
4	地球温暖化 II	北極圏の現状、永久凍土の融解、気温上昇と生態系の破壊	北極圏の現状を整理する
5	地球温暖化 III	南極の現状、氷河融解とその影響	南極大陸の現状を整理する
6	地球温暖化 IV	赤道地帯の現状、海面上昇と海岸侵食、水没と国土の保全	海面上昇の現状をまとめる
7	第1回から第6回までのまとめと理解度確認テスト	第1回から第6回までのまとめを行った後、理解度を確認するためのテストを実施する。	テストで解答できなかった内容を整理し、復習する
8	オゾン層破壊	オゾン層とフロン、その破壊のメカニズム、オゾン層破壊とその実態、その影響とフロン対策	オゾン層破壊の現状をまとめる
9	熱帯林破壊	世界の植生と熱帯林、熱帯林減少の要因、熱帯林減少とその影響、熱帯林の保全	熱帯林破壊の現状をまとめる
10	砂漠化	砂漠の分布とその現状、砂漠化の要因、砂漠化改善への対策	砂漠化の現状を整理する
11	大気汚染と酸性雨	酸性雨の現状、酸性雨の影響、酸性雨対策	酸性雨被害をまとめる
12	海洋汚染	海洋汚染の現状、富栄養化と赤潮、原油汚染、人工的有機物と無機物の汚染	海洋汚染の現状をまとめる
13	地球環境問題解決に向けて	現在における環境問題の現状と問題点	環境問題の現状を整理する
14	第8回から第13回までのまとめと理解度確認テスト	第8回から第13回までのまとめを行った後、理解度を確認するためのテストを実施する。	テストで解答できなかった内容を整理し、復習する
15	理解度確認テストの結果を踏まえ、全体を総括する。	地球環境問題の整理とまとめ	環境問題解決の方法をまとめる

関連科目	エコツアーリズム論、エアースタディズ、風土と地理
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	使用しない		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜紹介する		
2				
3				

評価方法(基準)	2回の理解度確認テストの成績を中心に、授業参加状況、講義態度も考慮して、総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	板書した内容だけでなく、口頭で説明した内容やビデオ内容も要約して、しっかりノートに取る習慣を身につけて下さい。事前・事後に各1時間の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階(原研究室)
----------	-------------

備考	
----	--



科目名	地域研究論	科目名(英文)	Regional Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森田 良成

授業概要・目的	歴史や文化が異なる様々な地域の、経済に関する事例を取り上げる。ここでの経済とは、広く人々の間で行われる物のやりとり全般を意味する。さまざまな地域の事例の比較・検討を通して、それぞれの社会に埋め込まれた独特の経済の合理性が、どのように変容していくのか・いかないのかを考える。																																																																		
到達目標	物事の真偽や可否を判断する際に私たちがふだん用いている論理や価値を相対化して、日常を新しくとらえ直し、現代世界を見る新たな視座を獲得する。																																																																		
授業方法と留意点	毎回、こちらが提示する質問についての考えや感想を作文してもらう。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「食べる」1</td> <td>食べものの生産、消費、廃棄の多様なあり方</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「食べる」2</td> <td>食べものの生産、消費、廃棄の多様なあり方</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「贈る」1</td> <td>社会に埋め込まれた経済</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「贈る」2</td> <td>浪費の力</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「正しい」1</td> <td>異なる経済的な正しさと、両者の関係</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「正しい」2</td> <td>異なる経済的な正しさと、両者の関係</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>「価値」1</td> <td>物の価値はどのように決まるのか</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>「貧しい」1</td> <td>「貧困」とはなにか</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>「貧しい」2</td> <td>「貧困」とはなにか</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>「自由」1</td> <td>市場主義と自由の拡大</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>「自由」2</td> <td>市場主義と自由の拡大</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>グローバル化 1</td> <td>包摂と接合</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>グローバル化 2</td> <td>包摂と接合</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ +テスト</td> <td>授業全体のまとめとテスト</td> <td>関連する文献を紹介するので読むこと。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。	2	「食べる」1	食べものの生産、消費、廃棄の多様なあり方	関連する文献を紹介するので読むこと。	3	「食べる」2	食べものの生産、消費、廃棄の多様なあり方	関連する文献を紹介するので読むこと。	4	「贈る」1	社会に埋め込まれた経済	関連する文献を紹介するので読むこと。	5	「贈る」2	浪費の力	関連する文献を紹介するので読むこと。	6	「正しい」1	異なる経済的な正しさと、両者の関係	関連する文献を紹介するので読むこと。	7	「正しい」2	異なる経済的な正しさと、両者の関係	関連する文献を紹介するので読むこと。	8	「価値」1	物の価値はどのように決まるのか	関連する文献を紹介するので読むこと。	9	「貧しい」1	「貧困」とはなにか	関連する文献を紹介するので読むこと。	10	「貧しい」2	「貧困」とはなにか	関連する文献を紹介するので読むこと。	11	「自由」1	市場主義と自由の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。	12	「自由」2	市場主義と自由の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。	13	グローバル化 1	包摂と接合	関連する文献を紹介するので読むこと。	14	グローバル化 2	包摂と接合	関連する文献を紹介するので読むこと。	15	まとめ +テスト	授業全体のまとめとテスト	関連する文献を紹介するので読むこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
2	「食べる」1	食べものの生産、消費、廃棄の多様なあり方	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
3	「食べる」2	食べものの生産、消費、廃棄の多様なあり方	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
4	「贈る」1	社会に埋め込まれた経済	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
5	「贈る」2	浪費の力	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
6	「正しい」1	異なる経済的な正しさと、両者の関係	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
7	「正しい」2	異なる経済的な正しさと、両者の関係	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
8	「価値」1	物の価値はどのように決まるのか	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
9	「貧しい」1	「貧困」とはなにか	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
10	「貧しい」2	「貧困」とはなにか	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
11	「自由」1	市場主義と自由の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
12	「自由」2	市場主義と自由の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
13	グローバル化 1	包摂と接合	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
14	グローバル化 2	包摂と接合	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
15	まとめ +テスト	授業全体のまとめとテスト	関連する文献を紹介するので読むこと。																																																																
関連科目	文化人類学など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への参加の度合い(30%、主に授業終了時に提出してもらおうコメント・感想から判断する)と、授業期間中に行うテスト(70%)から評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	関心をもった話題については自分で資料にあたり、考えを深めるようにしてください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	地域と国際ビジネス	科目名 (英文)	Regional and International Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムに位置づけられる授業です。よって、グローバルな視点と同時に、その国や地域の特徴にも注目しながら、社会とビジネスの関係について学ぶことを目的とします。
到達目標	国や地域によって異なる社会的慣習などについて、日本の場合と比較しながら理解を深めるとともに、国際ビジネスの現状や今後の展開について考察することを目標とします。
授業方法と留意点	グループワークを中心に行います。また、全グループに、研究発表（レポートまたはプレゼンテーション）を義務づけます。よって、行動力と協調性が重視されることを忘れないでください。
科目学習の効果（資格）	文化演習（3ゼミ）、卒業研究（4ゼミ）の研究にも役立つでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	国や地域の社会的慣習とビジネスについて（1）	いくつかの国や地域の特徴とビジネスについて、日本との違いに注目しながら具体例とともに学ぶ。	・ワークシートを作成する。 ・授業で扱ったテーマや事例についてさらに調べてみる。
3	国や地域の社会的慣習とビジネスについて（2）	いくつかの国や地域の特徴とビジネスについて、日本との違いに注目しながら具体例とともに学ぶ。	・ワークシートを作成する。 ・授業で扱ったテーマや事例についてさらに調べてみる。
4	研究発表の対象国（地域）とグループについて	・研究発表の対象となる国・地域と、その発表方法を考える。 ・研究グループ（メンバー）を決める。 ・グループごとに、今後の研究計画について検討する。	研究発表の対象となる国や地域について調べてみる。
5	・レポート・論文、ビジネス文書・企画書の書き方について ・グループの研究活動	・アカデミックなレポート・論文と、ビジネス文書・企画書を比較しながら、その書式や要点について学ぶ。	・ワークシートを作成する。 ・自分たちのグループの研究活動を進めていく。
6	・プレゼンテーションのスキルについて ・グループの研究活動	プレゼンテーションのスキルについて、具体例とともにその要点を整理する。	・ワークシートを作成する。 ・自分たちのグループの研究活動を進めていく。
7	・国や地域の社会的慣習とビジネスについて（3） ・グループの研究活動	いくつかの国や地域の特徴とビジネスについて、日本との違いに注目しながら具体例とともに学ぶ。	・ワークシートを作成する。 ・自分たちのグループの研究活動を進めていく。
8	・国や地域の社会的慣習とビジネスについて（4） ・グループの研究活動	いくつかの国や地域の特徴とビジネスについて、日本との違いに注目しながら具体例とともに学ぶ。	・ワークシートを作成する。 ・自分たちのグループの研究活動を進めていく。
9	研究発表と講評（1）	順番にグループによる研究発表（レポートまたはプレゼンテーション）を行うとともに、質疑応答により考察を深めていく。	・自分たちのグループの研究活動を進めていく。 ・他のグループの発表から参考になる点を取り入れる。
10	研究発表と講評（2）	順番にグループによる研究発表（レポートまたはプレゼンテーション）を行うとともに、質疑応答により考察を深めていく。	・自分たちのグループの研究活動を進めていく。 ・他のグループの発表から参考になる点を取り入れる。
11	研究発表と講評（3）	順番にグループによる研究発表（レポートまたはプレゼンテーション）を行うとともに、質疑応答により考察を深めていく。	・自分たちのグループの研究活動を進めていく。 ・他のグループの発表から参考になる点を取り入れる。
12	研究発表と講評（4）	順番にグループによる研究発表（レポートまたはプレゼンテーション）を行うとともに、質疑応答により考察を深めていく。	・自分たちのグループの研究活動を進めていく。 ・他のグループの発表から参考になる点を取り入れる。
13	研究発表と講評（5）	順番にグループによる研究発表（レポートまたはプレゼンテーション）を行うとともに、質疑応答により考察を深めていく。	・自分たちのグループの研究活動を進めていく。 ・他のグループの発表から参考になる点を取り入れる。
14	研究発表と講評（6）	順番にグループによる研究発表（レポートまたはプレゼンテーション）を行うとともに、質疑応答により考察を深めていく。	研究やレポート・プレゼンテーションの手法について整理する。
15	総括（まとめ）	・研究発表の総評と表彰式を行う。 ・これまで学んだ内容を振り返って総括する。	これまで学んだ内容の要点を整理する。

関連科目 「異文化ビジネス論」など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
2				

	3		
評価方法 (基準)	研究発表（グループワーク）の成果、ワークシート、授業に取り組む姿勢などを合わせて総合的に評価します。		
学生への メッセージ	社会人の仕事でもチームワークが重要です。この授業でも協調的な姿勢を大切にしてほしいと願っています。		
担当者の 研究室等	7号館4階（中島研究室）		
備考			

科目名	中級検定インドネシア語	科目名(英文)	Practice for Intermediate Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口 玲子

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験D級の過去問題に取り組み、D級レベルの語彙や文法を学習する。
到達目標	インドネシア語技能検定試験D級レベルの語彙や文法事項を学ぶことができる。
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験の過去問題を中心に、特に語彙と文法に重点をおき、授業を進める。また、適宜小テストを行う。辞書は必ず携帯すること。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	練習問題(1)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直す
2	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
3	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
4	練習問題(2)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
5	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
6	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
7	練習問題(3)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
8	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
9	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
10	練習問題(4)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
11	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
12	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
13	練習問題(5)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直し、次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
14	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
15	続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	次週の予習および新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への積極的参加度合、小テスト等による総合評価、なお、インドネシア語技能検定試験の結果も考慮する。
----------	--

学生へのメッセージ	検定試験合格を目指して、授業には積極的に参加しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習課題には十分な時間をかけること。半期中の事前・事後学習は30時間である。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。
----	---

科目名	中国語Ⅱa	科目名(英文)	Chinese IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	発音編 第1課 発音 1	ピンインと四声, 単母音, 子音①, 複母音①。	練習問題を解答する。
	2	第2課 発音 2	複母音②, 鼻母音, 子音②。	練習問題を解答する。
	3	第3課 発音 3	複母音③④, 子音③。	練習問題を解答する。
	4	第4課 発音 4	子音④⑤。	練習問題を解答する。
	5	本文編 第1課 お名前は?	☆単元テスト1 形容詞述語文, 疑問文, 副詞「很」。	練習問題を解答する。
	6	第1課 お名前は?	副詞「不」, 疑問詞疑問文, 名前の言い方。	練習問題を解答する。
	7	第2課 僕は日本人だ	「是」構文, 副詞「都」。	練習問題を解答する。
	8	第2課 僕は日本人だ	助詞「的」, 反復疑問文。	練習問題を解答する。
	9	第3課 君は大阪人だよ ね?	☆単元テスト2 動詞述語文, 終助詞「?」, 副詞「也」。	練習問題を解答する。
	10	第3課 君は大阪人だよ ね?	命令文, 同時進行の表現。	練習問題を解答する。
	11	第4課 おいくら?	動詞の重ね型, お金の言い方。	練習問題を解答する。
	12	第4課 おいくら?	こそあどの言い方, 単位の言葉「張」「個」。	練習問題を解答する。
	13	第5課 どの先生が好き?	前置詞「和」, 名詞述語文。	練習問題を解答する。
	14	第5課 どの先生が好き?	時間の言い方。	練習問題を解答する。
	15	おさらい	☆単元テスト3	練習問題を解答する。

関連科目	中国語Ⅱb
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法(基準)	授業参加と単元テストによる。
----------	----------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1.5時間ずつ要します。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	中国語Ⅱa	科目名(英文)	Chinese IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	今中 崇文

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	発音編 第1課 発音 1	ピンインと四声, 単母音, 子音①, 複母音①。	練習問題を解答する。
	2	第2課 発音 2	複母音②, 鼻母音, 子音②。	練習問題を解答する。
	3	第3課 発音 3	複母音③④, 子音③。	練習問題を解答する。
	4	第4課 発音 4	子音④⑤。	練習問題を解答する。
	5	本文編 第1課 お名前は?	☆単元テスト1 形容詞述語文, 疑問文, 副詞「很」。	練習問題を解答する。
	6	第1課 お名前は?	副詞「不」, 疑問詞疑問文, 名前の言い方。	練習問題を解答する。
	7	第2課 僕は日本人だ	「是」構文, 副詞「都」。	練習問題を解答する。
	8	第2課 僕は日本人だ	助詞「的」, 反復疑問文。	練習問題を解答する。
	9	第3課 君は大阪人だよ ね?	☆単元テスト2 動詞述語文, 終助詞「?」, 副詞「也」。	練習問題を解答する。
	10	第3課 君は大阪人だよ ね?	命令文, 同時進行の表現。	練習問題を解答する。
	11	第4課 おいくら?	動詞の重ね型, お金の言い方。	練習問題を解答する。
	12	第4課 おいくら?	こそあどの言い方, 単位の言葉「張」「個」。	練習問題を解答する。
	13	第5課 どの先生が好き?	前置詞「和」, 名詞述語文。	練習問題を解答する。
	14	第5課 どの先生が好き?	時間の言い方。	練習問題を解答する。
	15	おさらい	☆単元テスト3	練習問題を解答する。

関連科目	中国語Ⅱb
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法(基準)	授業参加と単元テストによる。
----------	----------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前事後の学修に各1時間要する。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	中国語Ⅱb	科目名(英文)	Chinese IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音に慣れてもらう。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第6課 今は3時5分前だ	「有」と「在」、疑問詞の使い方。	練習問題を解答する。
2	第6課 今は3時5分前だ	意見を求める言い方。	練習問題を解答する。
3	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	副詞「經常」、例示の言い方。	練習問題を解答する。
4	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答する。
5	第8課 小説は好きなの？	☆単元テスト1 前置詞「從」と「到」、副詞「太」と「不太」。	練習問題を解答する。
6	第8課 小説は好きなの？	前置詞「離」、前置詞「跟」、副詞「又」。	練習問題を解答する。
7	第9課 ファーストフード店は家から近い	副詞「就」、副詞「才」。	練習問題を解答する。
8	第9課 ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」、文型「一・・・就・・・」。	練習問題を解答する。
9	第10課 北京ダックを食べたことある？	☆単元テスト2 助動詞「過」、助動詞「要」。	練習問題を解答する。
10	第10課 北京ダックを食べたことある？	副詞「再」、副詞「別」。	練習問題を解答する。
11	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文、助動詞「会」、構造助詞「得」、副詞「只」。	練習問題を解答する。
12	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」、比較の「没有」、禁止表現「不要」。	練習問題を解答する。
13	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	助動詞「想」、仮定表現「要是」。	練習問題を解答する。
14	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	方向補語「来」。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト3	練習問題を解答する。

関連科目	中国語Ⅱa
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	撰南大学 中国語入門	撰南大学外国語学部編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
2	日中辞典			
3				

評価方法(基準)	授業参加と単元テストによる。
----------	----------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	中国語Ⅱb	科目名(英文)	Chinese IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	今中 崇文

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音に慣れてもらう。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第6課 今は3時5分前だ	「有」と「在」、疑問詞の使い方。	練習問題を解答する。
2	第6課 今は3時5分前だ	意見を求める言い方。	練習問題を解答する。
3	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	副詞「經常」、例示の言い方。	練習問題を解答する。
4	第7課 この前の土曜日映画を見に行った	文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答する。
5	第8課 小説は好きなの？	☆単元テスト1 前置詞「從」と「到」、副詞「太」と「不太」。	練習問題を解答する。
6	第8課 小説は好きなの？	前置詞「離」、前置詞「跟」、副詞「又」。	練習問題を解答する。
7	第9課 ファーストフード店は家から近い	副詞「就」、副詞「才」。	練習問題を解答する。
8	第9課 ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」、文型「一・・・就・・・」。	練習問題を解答する。
9	第10課 北京ダックを食べたことある？	☆単元テスト2 助動詞「過」、助動詞「要」。	練習問題を解答する。
10	第10課 北京ダックを食べたことある？	副詞「再」、副詞「別」。	練習問題を解答する。
11	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文、助動詞「会」、構造助詞「得」、副詞「只」。	練習問題を解答する。
12	第11課 一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」、比較の「没有」、禁止表現「不要」。	練習問題を解答する。
13	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	助動詞「想」、仮定表現「要是」。	練習問題を解答する。
14	第12課 もし彼と知り合いになりたいなら	方向補語「来」。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト3	練習問題を解答する。

関連科目	中国語Ⅱa
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	撰南大学 中国語入門	撰南大学外国語学部編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
2	日中辞典			
3				

評価方法(基準)	授業参加と単元テストによる。
----------	----------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。
-----------	-----------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	
----	--



科目名	中国語Ⅲ a	科目名 (英文)	Chinese IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	礫 玉璽

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語を基礎に、読む・聴く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。1年間で中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを旨とする。
到達目標	中国での買い物や移動に困らないレベルの聞く力、話す力を旨とする。
授業方法と留意点	毎回予習と復習を必ず行ってください。
科目学習の効果 (資格)	前期終了時に中国語検定試験4級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第13課(1)	是～的構文	課文、会話本文をノートに書き写す。
	2	第13課(2)	助動詞「打算」「準備」、前置詞「為了」「除了」	練習問題を解答する。
	3	第13課(3)	疑問代名詞「為什麼」、接続詞「因為」「所以」、可能補語	課文、会話本文をノートに書き写す。
	4	第13課(4)	会話	練習問題を解答する。
	5	復習、単元テスト	第13課	課文、会話本文をノートに書き写す。
	6	第14課(1)	動態助詞「着」、気象現象	練習問題を解答する。
	7	第14課(2)	存現文、兼語文	課文、会話本文をノートに書き写す。
	8	第14課(3)	使役文、被動文、複合方向補語	練習問題を解答する。
	9	第14課(4)	会話	課文、会話本文をノートに書き写す。
	10	復習、単元テスト	第14課	練習問題を解答する。
	11	第15課(1)	長文講読・新出単語	課文、会話本文をノートに書き写す。
	12	第15課(2)	文法・練習問題	練習問題を解答する。
	13	第16課(1)	長文講読・新出単語	指示に従い、復習する。
	14	第16課(2)	文法・練習問題	指示に従い、復習する。
	15	復習、単元テスト	第15課～第16課	指示に従い、復習する。

関連科目	中国語 Ia, 中国語 IIa, 中国語 Ib, 中国語 IIb, 中国語 IVa
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 Ib	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとにテストを行う。
-----------	--------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。また休講があれば、その都度進度は順次繰り延べられるので注意すること。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	中国語Ⅲb	科目名(英文)	Chinese IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	樂 玉璽

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語を基礎に、読む・聴く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。1年間で中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを旨とする。
到達目標	中国語ⅢIaで学んだ事項を定着させるとともに発展させ、比較的優しい新聞記事などを辞書を使って読めるレベルを目指す。
授業方法と留意点	予習と復習を必ず行ってください。事前・事後に各60分の学修を要する。
科目学習の効果(資格)	後期終了時に中国語検定試験4級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第17課(1)	長文講読・新出単語	課文、会話本文をノートに書き写す。
	2	第17課(2)	文法・練習問題	練習問題を解答する。
	3	第18課(1)	長文講読・新出単語	課文、会話本文をノートに書き写す。
	4	第18課(2)	文法・練習問題	練習問題を解答する。
	5	復習、単元テスト	第17課～第18課	課文、会話本文をノートに書き写す。
	6	第19課(1)	長文講読・新出単語	練習問題を解答する。
	7	第19課(2)	文法・練習問題	課文、会話本文をノートに書き写す。
	8	第20課(1)	長文講読・新出単語	練習問題を解答する。
	9	第20課(2)	文法・練習問題	課文、会話本文をノートに書き写す。
	10	復習、単元テスト	第19課～第20課	練習問題を解答する。
	11	第21課(1)	長文講読・新出単語	課文、会話本文をノートに書き写す。
	12	第21課(2)	文法・練習問題	練習問題を解答する。
	13	第22課(1)	長文講読・新出単語	指示に従い、復習する。
	14	第22課(2)	文法・練習問題	指示に従い、復習する。
	15	復習、単元テスト	第21課～第22課	指示に従い、復習する。

関連科目	中国語ⅢIa, 中国語Ⅳa, 中国語Ⅳb
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語Ⅲb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	単元ごとにテストを行う。
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。また休講があれば、その都度進度は順次繰り延べられるので注意すること。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	中国語IV a	科目名 (英文)	Chinese IVa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	今中 崇文

授業概要・目的	前年度の中国語科目では文法を中心に学んだが、この授業では陳述文を読んだり会話文で会話練習をすることでより実践的な中国語を学ぶ。また、すでに学んだ文法や単語は応用文を通して記憶に定着させるとともに応用力をつける。
到達目標	中国ドラマの簡単なセリフや新聞の記事を辞書を頼りに理解できるだけの力を目指す。
授業方法と留意点	ひとつの話題あたり5回の授業のペースで進めていく。文法や練習問題の部分でもそれがどのような場面で使われていたのかを思い出しながら授業に臨むことが望ましい。授業後の復習や授業前の予習が重要となる。事前・事後に各60分の学修を要する。
科目学習の効果(資格)	中国語を聞き話す能力が向上し、後期終了時点で中国語検定試験4級が受験できるだけの力がつく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1課(1)	本文	授業内容を復習する。
	2	第1課(2)	会話	授業内容を復習する。
	3	第1課(3)	文法(念書, 專業, 愛好, 對~感興趣, 為什麼?, 因為~所以~, 看來)	授業内容を復習する。
	4	第1課(4)	練習問題	授業内容を復習する。
	5	単元テスト(1)	第1課を範囲とする	授業内容を復習する。
	6	第2課(1)	本文	授業内容を復習する。
	7	第2課(2)	会話	授業内容を復習する。
	8	第2課(3)	文法(在~長大的, 考大學/考上大學, 才, 除了~以外, 當(老師), 忙得要命, 很少+動詞フレーズ, 發短信)	授業内容を復習する。
	9	第2課(4)	練習問題	授業内容を復習する。
	10	単元テスト(2)	第2課を範囲とする	授業内容を復習する。
	11	第3課(1)	本文	授業内容を復習する。
	12	第3課(2)	会話	授業内容を復習する。
	13	第3課(3)	文法(上(廁所), 「一節」と「第一節」, 「分」と「分鐘」, 我家離學校比較遠., 一個多小時, 我在減肥, 看看電視, 聽聽音樂, 我起得很早, 睡得不夠?, 雖然~, 但是~)	授業内容を復習する。
	14	第3課(4)	練習問題	授業内容を復習する。
15	単元テスト(3)	第3課を範囲とする	授業内容を復習する。	

関連科目	中国語 IIIa
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語中級 a	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	単元テストおよび授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	日本国内にも中国語圏からの観光客が増えています。この授業で身につけた中国語がいつかどこかで役に立つはずですよ。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	中国語IV b	科目名 (英文)	Chinese IVb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	今中 崇文

授業概要・目的	1年生の中国語科目では文法を中心に学んだが、この授業では陳述文を読んだり会話文で会話練習をすることで、より実践的な中国語を学ぶ。また、すでに学んだ文法や単語は応用文を通して記憶に定着させるとともに応用力をつける。
到達目標	中国ドラマの簡単なセリフや新聞の記事を辞書を頼りに理解できるだけの力を目指す。
授業方法と留意点	ひとつの話題あたり5回の授業のペースで進めていく。文法や練習問題の部分でもそれがどのような場面で使われていたのかを思い出しながら授業に臨むことが望ましい。授業後の復習や授業前の予習が重要となる。
科目学習の効果 (資格)	中国語を聞き話す能力が向上し、後期終了時点で中国語検定試験4級が受験できるだけの力がつく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第4課(1)	本文	授業内容を復習する。
	2	第4課(2)	会話	授業内容を復習する。
	3	第4課(3)	文法(如果~的話, 請假, 前置詞「向」, 請, 別, 前置詞「對」, 替)	授業内容を復習する。
	4	第4課(4)	練習問題	授業内容を復習する。
	5	単元テスト (1)	第4課を範囲とする	授業内容を復習する。
	6	第5課(1)	本文	授業内容を復習する。
	7	第5課(2)	会話	授業内容を復習する。
	8	第5課(3)	文法(叫 (Ni 久等了), 星期六還是星期天?, ni 看幾點合適?, 那就星期天 ba, 反正我沒什?事兒)	授業内容を復習する。
	9	第5課(4)	練習問題	授業内容を復習する。
	10	単元テスト (2)	第5課を範囲とする	授業内容を復習する。
	11	第6課(1)	本文	授業内容を復習する。
	12	第6課(2)	会話	授業内容を復習する。
	13	第6課(3)	文法(今年夏天比往年來得早, 熱起來, 一放假就動身, 趁)	授業内容を復習する。
	14	第6課(4)	練習問題	授業内容を復習する。
	15	単元テスト (3)	第6課を範囲とする	授業内容を復習する。

関連科目	中国語 IIIb
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語中級 a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元テストおよび授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	日本国内にも中国語圏からの観光客が増えています。この授業で身につけた中国語がいつかどこかで役に立つはず。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館2階 非常勤講師室
------------	--------------

科目名	中国語 LL I a	科目名 (英文)	Chinese LL I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	馮 艶

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『撰南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級または 4 級を受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	子音 (4), 子音 (5)	発音編 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	会話 1	第 1 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	会話 2	第 2 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	会話 3	第 3 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 1 課～第 3 課まとめ	第 1 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	会話 4	第 4 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	会話 5	第 5 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	会話 6	第 6 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	連動文	第 7 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	了 1, 了 2	第 8 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	結果補語, 介詞 6	第 9 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 7 課～第 9 課まとめ	第 3 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	会話 10	第 10 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	会話 11	第 11 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	会話 12	第 12 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I a	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	単元テストによる。
-----------	-----------

学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	中国語LLIb	科目名(英文)	Chinese LL Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	馮 艶

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験4級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末までに、中国語検定試験4級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話すIa」「中国語を読むIa」「中国語を聞くIa」「中国語を書くIa」のひとつで、『撰南大学中国語Ia』を使用して、週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験4級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	疑問代名詞「為什麼」、接続詞「因為」、「所以」、可能補語	第13課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	使役文、被動文、複合方向補語	第14課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	検定4級準備(1)リスニング	第15課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	検定4級準備(2)長文読解	第16課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	検定4級準備(3)長文読解	第17課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第15課～17課到達度確認	復習+第15課～17単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	検定4級準備(4)日文中訳	第18課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	検定4級準備(5)日文中訳	第19課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	検定4級準備(6)日文中訳	第20課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	長文読解と既習事項確認(1)教材音読	第21課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	長文読解と既習事項確認(2)日文中訳	第22課2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	長文読解と既習事項確認(3)語彙と発音	第23課1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第21課～23課到達度確認	復習+第21課～第23課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	長文読解と既習事項確認(4)中文日訳	第24課4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	長文読解と既習事項確認(5)教材音読	第25課3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話すIb」「中国語を読むIb」「中国語を書くIb」 「ビジネス中国語b」「映像中国語b」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語Ib	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	単元テストによる。
----------	-----------

学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	中国語 L L II a	科目名 (英文)	Chinese LL IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	馮 艶

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの4科目がリレー式に行われるので、4科目を履修していることを前提に進行する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第3回	第2話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第7回	第4話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第11回	第6話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第15回	第8話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第18回	第9話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第22回	第11話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第26回	第13話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第30回	第11話～第15話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第34回	第17話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第38回	第19話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第42回	第21話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第46回	第23話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第50回	第21話～第25話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第54回	第27話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第58回	第29話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIa」「中国語講読 IIa」「中国語作文 IIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各60時間の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等備考	非常勤講師室 (7号館2階)
------------	----------------

科目名	中国語LL II b	科目名 (英文)	Chinese LL IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	馮 艶

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級および2級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも7割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級・2級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第2回	第1話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第6回	第3話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第10回	第5話後半・第1回～第10回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第13回	第7話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	2年生暗唱コンテスト	狐假虎威	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第17回	第9話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第24回	第12話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第28回	第14話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第32回	第16話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第36回	第18話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第40回	第20話後半・第31回～第40回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第44回	第22話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第48回	第24話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第53回	第27話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第56回	第28話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIb」「中国語講読 IIb」「中国語作文 IIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各60時間の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等備考	非常勤講師室 (7号館2階)
------------	----------------



科目名	中国語圏概論	科目名(英文)	Introduction to Cultures of the Chinese-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	今中 崇文

授業概要・目的	中国のことばとその背景にある歴史や文化について広い視点で学ぶ。とくに、現在のような中国語がどのようにして形成されてきたのかを、中国という国家や社会の多様性を踏まえながら考える。
到達目標	中国の歴史や文化に関する事項は、中国語を学ぶ際に必ず出会うことであり、中国の人々と交流する際にも避けては通ることのできないものである。これらについて理解を深め、中国や中国語をめぐるさまざまな問題について意見を交わせるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	文字資料を中心としながら、画像や映像資料も併用し、講義形式で授業を進める。ただし、必要に応じて、調査や報告などのゼミ形式も取り入れる。
科目学習の効果(資格)	日本と関係の深い中国の社会を知ることにより、国際的な視野を広げ、今後の大学での学習における基礎力をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	中国語とは	「中国語」の概念、「普通話」と多様な方言、多様な漢字の存在などについて学ぶ。	プリント2
3	中国とは	中華人民共和国および台湾の地理的、政治的状況とその関係について概観する。	プリント3
4	社会主義国家としての中国	中華人民共和国の政治・経済体制について概観する。	プリント4
5	多民族国家としての中国	中国における「民族」の概況について学ぶ。	プリント5
6	中国の歴史①	先史時代から漢代までの歴史を学ぶ。	プリント6
7	中国の歴史②	三国時代から宋代までの歴史を学ぶ。	プリント7
8	中国の歴史③	元代から清代までの歴史を学ぶ。	プリント8
9	中国の歴史④	清末から抗日戦争までの歴史を学ぶ。	プリント9
10	中国の歴史⑤	中華人民共和国成立以降の歴史を学ぶ。	プリント10
11	漢字文化の広がり	中国と日本、朝鮮半島、ベトナムという漢字文化圏の歴史と現状を概観する。	プリント11
12	日本と中国	古代から始まる日本と中国の関係を歴史的に概観する。	プリント12
13	日本語と中国語	漢字を媒介にして行われてきた日本語と中国語の言語交流について学ぶ。	プリント13
14	中国語を学ぶために①	中国語を学ぶ際に用いる辞書などの工具書について学ぶ。	プリント14
15	中国語を学ぶために②	中国語を学ぶ際に有用な DVD やインターネットなど新しいメディアについて学ぶ。	プリント15

関連科目	1年次必修の中国語各課目・中国関連の講義科目。
------	-------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	授業の最後に行う小テストおよびレポートをもとに評価する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	授業中は私語などを慎み、集中して授業内容の理解に努めて下さい。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	中国語会話 I a	科目名 (英文)	Chinese Conversation Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験4級に出題される文法・語彙の80%を修得する。また同試験リスニング部分でも6割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。事前・事後に各60分の学修を要する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準4級および4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	複母音(2), 鼻母音(1)	発音編 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	文末助詞, 主述述語文	第1課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞 2	第2課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	文末助詞 2, 副詞 3	第3課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	数詞 2, 副詞 5	第4課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	時間詞, 名詞述語文	第5課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	動詞「在」, 副詞 6	第6課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第4課～第6課まとめ	第2回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	会話 7	第7課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	会話 8	第8課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	会話 9	第9課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	動量詞 2, 副詞 11	第10課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	疑問代名詞 4, 能願動詞 3	第11課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	進行文, 接続詞 1	第12課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第10課～第12課まとめ	第4回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	中国語会話 I b	科目名 (英文)	Chinese Conversation Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	是～的構文	第 13 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	動態助詞「着」、気象現象	第 14 課 1+第 13 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 13, 14 課文法と語彙の復習	第 13 課～14 復習課	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定 4 級準備 (1) 文法	第 15 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定 4 級準備 (2) 日文中訳	第 16 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定 4 級準備 (3) 日文中訳	第 17 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定 4 級準備 (4) 長文読解	第 18 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定 4 級準備 (5) 長文読解	第 19 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定 4 級準備 (6) 長文読解	第 20 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 語彙と発音	第 21 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 21 課到達度確認	復習+第 21 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認 (2) 中文日訳	第 22 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認 (3) 教材音読	第 23 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (4) 日文中訳	第 24 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 24 課～25 課到達度確認	復習+第 24 課～第 25 課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	中国語会話 II a	科目名 (英文)	Chinese Conversation IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	礫 玉璽

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの4科目がリレー式に行われるので、4科目を履修していることを前提に進行する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第1回	第1話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第5回	第3話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第9回	第5話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第13回	第7話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第20回	第6話～第10話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第24回	第12話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第28回	第14話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第32回	第16話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第36回	第18話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第40回	第16話～第20話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第44回	第22話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第48回	第24話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第52回	第26話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第56回	第28話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第60回	第26話～第30話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語講読 IIa」「中国語 LLIIa」「中国語作文 IIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)
------------	---------------

科目名	中国語会話 II b	科目名 (英文)	Chinese Conversation IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	礫 玉璽

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級および 2 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 7 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級・2 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 4 回	第 2 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第 8 回	第 4 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第 15 回	第 8 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第 19 回	第 10 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第 22 回	第 11 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第 26 回	第 13 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第 30 回	第 15 話後半・第 21 回～第 30 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第 34 回	第 17 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第 38 回	第 19 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第 42 回	第 21 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第 46 回	第 23 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第 50 回	第 25 話後半・第 41 回～第 50 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第 51 回	第 26 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第 58 回	第 29 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第 59 回	第 30 話前半・第 51 回～第 59 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語講読 IIb」「中国語 LLIIb」「中国語作文 IIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
------------	-------------------

科目名	中国語会話表現Ⅰa	科目名(英文)	Chinese Speaking Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻

授業概要・目的	この授業は習得した基礎文法を応用できるようにする中国語会話授業です。中国の「社会事情」「文化風習」といった身近な話題で、楽しく文法事項や表現を学習し、文法練習、会話練習とリスニング練習によって、中国語のコミュニケーション能力の向上を目指します。
到達目標	文法練習、会話練習とリスニング練習によって、会話を高める。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加する態度が望まれる。
科目学習の効果(資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話を付けること。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第一課 外国の祭りを祝う1	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第一課 外国の祭りを祝う2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第二課 ストレート1	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第二課 ストレート2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	会話	会話を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
	6	第三課 軍事訓練1	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第三課 軍事訓練2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第四課 レストラン1	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第四課 レストラン2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	会話	会話を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
	11	第五課 母親と息子1	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第五課 母親と息子2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第六課 病人の付き添い1	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第六課 病人の付き添い2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	総復習	全体の総括。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代中国12話	黄漢青/杉野元子	白帝社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	口頭および筆記による小テストを数回に分けて実施し、これらをもとに成績を評価する。
学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参加を望みたい。事前・事後に各60分の学修を要する。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	中国語会話表現法 I b	科目名 (英文)	Chinese Speaking Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻

授業概要・目的	この授業は習得した基礎文法を応用できるようにする中国語会話授業です。中国の「社会事情」「文化風習」といった身近な話題で、楽しく文法事項や表現を学習し、文法練習、会話練習とリスニング練習によって、中国語のコミュニケーション能力の向上を目指します。
到達目標	文法練習、会話練習とリスニング練習によって、会話を高める。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加する態度が望まれる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とコミュニケーションするのに必要な会話力をつけること。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第七課 ビザ 1	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第七課 ビザ 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第八課 待遇 1	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第八課 待遇 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
	6	第九課 北京の空 1	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第九課 北京の空 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第十課 ボイフレンド 1	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第十課 ボイフレンド 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
	11	第十一課 思いもよらなかった 1	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第十一課 思いもよらなかった 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第十二課 ベートーヴェンと模範劇 1	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第十二課 ベートーヴェンと模範劇 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	総復習	全体の総括	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代中国 12 話	黄漢青/杉野元子	白帝社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	会話・テスト
-----------	--------

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大な目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参加を望みたい。原則として事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
------------	-------------------

科目名	中国語会話表現法Ⅱ a	科目名 (英文)	Chinese Speaking Ila
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝

授業概要・目的	本講義は日本と中国、二つの国の人々の力を結び付けて成功したドラマ「大地の子」を教材にすることにより、出場人物の感情のこもった生の中国語に接し、その言葉遣い、口調、息遣いを肌で感じ取りながら、中国語表現能力、会話能力の向上を図る。また、ドラマのストーリーと出場人物の運命や喜怒哀楽を通じて、中国の文化や風土人情、中国人の価値観などを知ることができる。
到達目標	生きた中国語会話を身に付け、中国文化への理解を深める。
授業方法と留意点	ドラマを数回に分けて授業をするので、継続して授業に出ることが望ましい。
科目学習の効果(資格)	中国人との交流に必要な会話能力を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第1部 苦難の歲月 1 「父」と呼ぶ	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
3	2 初恋	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
4	まとめ1、総合練習、小テスト1	第1部のDVDの音声消して、学生がそのセリフを言う。 総合練習、小テスト	第1部の授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
5	第2部 労働改造農場 3 日本語を学ぶ	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
6	4 病気になる	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
7	5 直訴	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
8	6 父と子の再会	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
9	まとめ2、総合練習、小テスト2	第2部のDVDの音声消して、学生がそのセリフを言う。 総合練習、小テスト	第2部の授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
10	第3部 一家を成す 7 出合い	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
11	8 父と娘	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
12	9 長城に登る	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
13	10 出国の準備	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
14	まとめ3、総合練習、小テスト	第3部のDVDの音声消して、学生がそのセリフを言う。 総合練習、小テスト	第3部の授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
15	発表会	前期学ぶ内容を中心にして発表を行う。	発表内容を事前に準備する。

関連科目	中国語原書講読Ⅰ ab
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	単元ごとに試験をする。
----------	-------------

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大な目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参加を望みたい。事前・事後に各60時間の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--



科目名	中国語会話表現Ⅱ b	科目名 (英文)	Chinese Speaking IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝

授業概要・目的	前期同様講義は日本と中国、二つの国の人々の力を結び付けて成功したドラマ「大地の子」を教材にすることにより、出場人物の感情のこもった生の中国語に接し、その言葉遣い、口調、息遣いを肌で感じ取りながら、中国語表現能力、会話能力の向上を図る。また、ドラマのストーリーと出場人物の運命や喜怒哀楽を通じて、中国の文化や風土人情、中国人の価値観などを知ることができる。
到達目標	生きた中国語会話を身に付け、中国文化への理解を深める。
授業方法と留意点	ドラマを数回に分けて授業をするので、継続して授業に出ることが望ましい。
科目学習の効果 (資格)	中国人との交流に必要な会話能力を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第4部 親子の再会 11 兄と妹	前期の内容を復習してから、DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
2	12 追憶	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
3	13 訪問	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
4	14 心配	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
5	まとめ 4 総合練習、 小テスト	第4部のDVDの音声を消して、学生がそのセリフを言う。 総合練習、小テスト	第4部の授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
6	第5部 降りてわいた災難 15 焼香	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
7	16 書類紛失	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
8	17 冤罪	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
9	18 別れ	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
10	19 丹青との再会	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
11	まとめ 5、総合練習、 小テスト	第5部のDVDの音声を消して、学生がそのセリフを言う。 総合練習、小テスト	第5部の授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
12	第6部 大地に帰る 20 長江に遊ぶ	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
13	21 西蒙古に帰る	DVDを見ながら、セリフを聞き取る。 セリフの発音、意味の確認。 重要単語、文法、文型を解説する。	授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
14	まとめ 6、総合練習、 小テスト	第6部のDVDの音声を消して、学生がそのセリフを言う。 総合練習、小テスト	第6部の授業で習った単語、文法、文型の復習。 セリフを繰り返し朗読。 練習問題を解答してくる。
15	発表会	後期学ぶ内容を中心にして発表を行う。	発表内容を事前に準備する。

関連科目	中国語原書講読 I ab
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに試験をする。
-----------	-------------

学生への	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大な目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参加
------	---

メッセージ	を望みたい。原則として事前・事後に各 60 時間の学修を要する。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	

科目名	中国語学 I	科目名 (英文)	Chinese Linguistics I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹

授業概要・目的	中国語は地域的な広がり、及び歴史的な広がりにおいてきわめて多様な言語である。その多様性をつなぐのが漢字であるが、漢字は基本的には表意文字であるため、文字に含まれるそれぞれの部品の意味を知ること、文字全体の意味を解釈できる。本講義では藤堂明保著『漢字語源辞典』の単語家族に関する記述を参考にしながら、上古(周代)漢語の音韻体系と甲骨文字や金文を手がかりに、形と意味の関係を探り、古代人のものの見方や発想法について考える。
到達目標	日常使用する漢字について、それを構成する部品が何の象形なのか、どのような意味を担っているのか、それらを組み合わせることでは何を表現しているのかを説明できるようになることを目指す。また、未知の漢字に接した時もその意味や読みを推測できるようにする。
授業方法と留意点	一回の授業で4～5の漢字家族をとりあげ、その本来の意味や漢字の構成を考えていく。受講生にも意見を求める。
科目学習の効果(資格)	中国語教職科目(中国語の分野)。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	人体・姿勢	人・女・子・鬼・兄…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	2	身体部位 1	頭・毛・目・耳・口…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	3	身体部位 2	手・足…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	4	動物 1	牛・馬・羊…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	5	動物 2	犬・鹿・豚…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	6	動物 3	鳥・虫・蛇…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	7	天体・気象	日・月・水…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	8	鉱物	土・火・金…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	9	人工物	高・示…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	10	器具 1	方・網・工…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	11	器具 2	玉・父・車…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	12	器具 3	刀・辛・戈…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	13	動作	又・口・之…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	14	状態	束・阜・夂…	教材フォルダに置いてある講義資料のうち該当部分を印刷しておく。
	15	形状	字・王・弗…	—————

関連科目 中国語の語学科目を履修しておくこと。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	常用漢字コアイメージ辞典	加納喜光	中央公論社
	2			
	3			

評価方法(基準) 定期試験と授業に取り組む姿勢をもとに評価する。

学生へのメッセージ 講義の内容をノートする必要は言うまでもないが、試験では複数の語から1つの共通性を帰納する能力を評価する。語の音と意味がいかに密接に結びついているかを授業を通して理解してほしい。事前・事後学習に1.5時間ずつ要する。

担当者の研究室等 7号館3階(中西研究室)

備考

科目名	中国語学Ⅱ	科目名(英文)	Chinese Linguistics II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的	中国語学習において、混同しやすい類義語を使い分けることが非常に大切なことである。本講義は、日常での類義語、つまり中級段階でよく使われ、誤用が生じやすく、質問が集中するものを取り上げて、中国語の語彙力(分析力、理解力、運用力)を高めることを目的とする。
到達目標	中国語検定試験2級合格を目指す。
授業方法と留意点	授業では、2つ～3つのテーマについて口述解説とドリルを中心に行う。
科目学習の効果(資格)	中国語の能力の向上、中国語検定試験の合格などに役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	「一点、有点、一下」「次、遍」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 212-224
2	「也許、可能、大概、恐怕」「一定、肯定」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 196-210
3	「給、替、爲」「大概、一般、差不多」「像、好像」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 178-195
4	「又、再」「往、朝」「对、跟」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 160-177 指定した範囲を復習する。
5	「時間、時候、時」「男性、男人、男的、男」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。 ☆単元テスト1	テキスト p. 146-158
6	「送、寄、発」「去、走」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 8-19
7	「会、能」「看、看見、看得見」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 20-31
8	「在、有」「説、講、告訴」「幫、幫助、幫忙」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 32-49
9	「做、干」「見面、見、見到」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 50-61 指定した範囲を復習する。
10	「合格、及格、考上、考取」「変、変成、改變」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。 ☆単元テスト2	テキスト p. 62-76
11	「知道、明白」「想、覺得、以爲」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 78-89
12	「覺得、感覺、感得」「愛、喜歡」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 90-104
13	「好看、漂亮、美」「暖和、温暖、溫和」「可怕、害怕、怕」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 106-123
14	「放松、轻松」「必要、需要」「高興、開心、愉快」	混同しやすい中国語のニュアンスや使い方の違いを解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 124-144
15	まとめ	重要な部分をおさらいする。 ☆単元テスト3	指定した範囲を復習する。

関連科目	「中国語学Ⅰ」など。
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 類義語使い分けドリル	柴 森	NHK 出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	例文で覚える中国語類義語 1000	日本語版監修：平山邦彦	ASK
2				
3				

評価方法(基準)	単元テスト、授業参加、小レポートなどによる。
----------	------------------------

学生へのメッセージ	授業中は私語などを慎み、集中して授業内容の理解に努めて下さい。
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	中国語研究	科目名(英文)	Study of Chinese Language
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的  
前半は以前習った中国語の構文の仕組みに関する文法知識を深め、後半は複文を中心に文法事項を学びながら、中国語の学習能力と研究能力を身に付けることを目的とする。

到達目標  
中国語検定試験3級ないし2級合格を目指す。

授業方法と留意点  
新しい例文に出てくる単語も覚える必要がある。授業中、例題を通して文法力を高める。

科目学習の効果(資格)  
中国語の教職科目である。中国語教員免許の取得には欠かせないものである。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1、文の成分	ポイント解説と例題	p. 2～p. 7
2	2、連体修飾語と連用修飾語	ポイント解説と例題	p. 8～p. 13
3	3、動量補語と時量補語	ポイント解説と例題	p. 14～p. 19
4	4、様態補語と程度補語	ポイント解説と例題	p. 20～p. 25 ☆単元テストの準備。
5	5、単純方向補語と複合方向補語	ポイント解説と例題 ☆単元テスト1	p. 26～p. 31
6	6、結果補語と可能補語	ポイント解説と例題	p. 32～p. 37
7	7、比較文	ポイント解説と例題	p. 38～p. 43
8	8、連動文と兼語文	ポイント解説と例題	p. 44～p. 49
9	9、存現文と「有」構文	ポイント解説と例題	p. 50～p. 55 ☆単元テストの準備
10	10、「把」構文と感嘆文	ポイント解説と例題 ☆単元テスト2	p. 56～p. 61
11	11、並列・連続・累加の複文	ポイント解説と例題	p. 62～p. 67
12	12、選択・取捨・条件の複文	ポイント解説と例題	p. 68～p. 73
13	13、逆説・譲歩・因果の複文	ポイント解説と例題	p. 74～p. 79
14	14、緊縮文	ポイント解説と例題	p. 80～p. 85 ☆単元テストの準備
15	15、まとめ	☆単元テスト3	

関連科目  
2年次以上の中国語科目。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ぐんぐんのびる中国語②—構文で学ぶ初級中国語—	何 珍時	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	簡明中国語文法ポイント100	馬真・郭春貴	白帝社
2			
3			

評価方法(基準)  
授業参加と単元テストなどによる。

学生へのメッセージ  
中国語検定試験3級及び2級の受験対策にも役立ちます。事前・事後に各60分の学修を要する。

担当者の研究室等  
7号館3階(兪研究室)

備考

科目名	中国語原書講読 I a	科目名 (英文)	Reading Contemporary Chinese Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大西 紀

授業概要・目的	本授業は1-2年の中国語必修科目に続き、経済・法律・政治・産業から科学技術・文学・スポーツ・芸能まで、中国の現状を語る中国語文章を講読し、中国語を日本語に翻訳する技術を習得する。
到達目標	中国語検定2級、準1級合格を目指す。
授業方法と留意点	必修科目であることに注意。 単語の習得を重視し、語彙力を高める。新しい言葉を辞書で調べておくこと。
科目学習の効果 (資格)	通訳案内士試験の受験。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第1課 中国観光客、日本で爆買い (前半)	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	2	第1課 中国観光客、日本で爆買い (後半)	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p.93 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	3	第2課 「子供はもういない」が増加 (1)	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	4	第2課 「子供はもういない」が増加 (2)	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p.94 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	5	第3課 「習モ時代」(1)	講読と中文日訳。 ☆単元テスト1	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	6	第3課 「習モ時代」(2)	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p.95 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	7	第1-3 課 復習テスト	単語と文型の復習	総復習
	8	第4課 ゲーム大国 (1)	講読(元の新聞記事)。	練習問題 p.96 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	9	第4課 ゲーム大国 (2)	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	10	第5課 有史以来のトイレ革命	講読 (元の新聞記事)	練習問題 p.97 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	11	第5課 有史以来のトイレ革命	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	12	第6課 雲南に契丹ゆかりの小都市	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p.98 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	13	第6課 雲南に契丹ゆかりの小都市	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	14	第4-6課 復習テスト	講読 (元の新聞記事)。 ☆単元テスト2	総復習
15	検定試験対策	検定試験に向けての復習	前期の進出単語をノートにまとめる。	

関連科目	「中国語原書講読 I b」
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2016年度版 時事中国語の教科書 新常态	三瀨正道・陳祖 pei	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業参加と単元テストによる。 単元テストの成績は80%以上であること。 出席は8割を超えていること。 上記2項を最低条件とします。
学生へのメッセージ	必修科目なので欠席・遅刻は極力慎みましよう。 毎回、始業までに着席しているか、ノートを録っているかを確認し、捺印します。その捺印数が平常点の指標だと思ってください。事前・事後に各60時間の学修を要する。
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	

科目名	中国語原書講読 I b	科目名 (英文)	Reading Contemporary Chinese Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀

授業概要・目的	本授業は中国語原書講読 I に続き、経済・法律・政治・産業から科学技術・文学・スポーツ・芸能まで、中国の現状を語る中国語文章を講読し、中国語を日本語に翻訳する技術を習得する。
到達目標	中国語検定 2 級、準 1 級合格を目指す。
授業方法と留意点	必修科目であることに注意。 単語の習得を重視し、語彙力を高める。新しい言葉は辞書で調べておくこと。
科目学習の効果 (資格)	通訳案内士試験の受験。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 7 課 90 年代生まれ (1)	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	2	第 7 課 90 年代生まれ (2)	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p. 100 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	3	第 8 課 廃墟の落書きが人気に (1)	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	4	第 8 課 廃墟の落書きが人気に (2)	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p. 101 練習声を出して読んでおく。単語を覚える。
	5	第 9 課 スターバックス、国が変われば (1)	講読と中文日訳。 ☆単元テスト 1	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	6	第 9 課 スターバックス、国が変われば (2)	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p. 102 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	7	第 7-9 課復習	☆単元テスト I	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	8	第 10 課 オフィスで昼寝は OK? (1)	講読 (元の解説文)。	練習問題 p. 103 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	9	第 10 課 オフィスで昼寝は OK? (2)	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	10	第 11 課 4 億人が標準語を話せない (1)	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p. 104 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	11	第 11 課 4 億人が標準語を話せない (2)	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	12	第 12 課 暖房供給境界線で議論 (1)	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p. 105 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	13	第 12 課 暖房供給境界線で議論 (2)	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	14	第 10-12 復習	☆単元テスト II	練習問題 p. 106 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	15	総復習	実力確認テスト	総復習

関連科目	「中国語原書講読 I a」
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2016 年度 時事中国語の教科書 新常态	三瀨正道・陳祖 pei	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業参加態度と単元テストによる。 出席、単元テストの平均点はともに 8 割以上であることを最低条件とします。
-----------	---

学生へのメッセージ	始業前に着席していること。 ノートはきれいにまとめておくこと。 上記 2 項について毎回チェックし、捺印するので要注意。捺印個数が平常点の指標だと思ってください。 教科書は前期と同一なので、後期新たに購入することはありません。要注意。 事前・事後に各 60 時間の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	

科目名	中国語原書講読Ⅱ a	科目名 (英文)	Reading Contemporary Chinese IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	李 英杰

授業概要・目的	本授業は中国語原書講読Ⅰに続き、経済・法律・政治・産業から科学技術・文学・スポーツ・芸能まで、中国の現状を語る中国語文章を講読し、中国語を日本語に翻訳する技術を習得する。
到達目標	中国語検定2級、準1級合格を目指す。
授業方法と留意点	単語の習得を重視し、語彙力を高める。新しい言葉を辞書で調べておくこと。
科目学習の効果 (資格)	通訳案内士試験の受験。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第1課 連接亜欧大陸の新絲綢之路	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	2	第1課 連接亜欧大陸の新絲綢之路	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p.93 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	3	第2課 Ni 不得不知道的中國知能手機	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	4	第2課 Ni 不得不知道的中國知能手機	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p.94 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	5	第3課 春節花架	講読と中文日訳。 ☆単元テスト1	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	6	第3課 春節花架	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p.95 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	7	第4課 我在天國祝福 ni	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	8	第4課 我在天國祝福?	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p.96 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	9	第5課 粽子乎? 月餅乎?	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	10	第5課 粽子乎? 月餅乎?	講読 (元の新聞記事) ☆単元テスト2	練習問題 p.97 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	11	第6課 說說 90 後創業者的那些事	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	12	第6課 說說 90 後創業者的那些事	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p.98 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	13	第7課 城市花架	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	14	第7課 城市花架	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p.99 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	15	復習 (第1～7課)	第1～7課の復習 ☆単元テスト3	声を出して読んでおく。単語を覚える。

関連科目	「中国語原書講読Ⅱb」
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2015年度版 時事中国語の教科書 中国夢	三瀨正道・陳祖 pei	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業参加と単元テストによる。
-----------	----------------

学生へのメッセージ	最新の時事用語を覚えましょう。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	7号館3階 (兪研究室)
----------	--------------

備考	
----	--



科目名	中国語原書講読Ⅱ b	科目名 (英文)	Reading Contemporary Chinese IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	李 英杰

授業概要・目的	本授業は中国語原書講読Ⅰに続き、経済・法律・政治・産業から科学技術・文学・スポーツ・芸能まで、中国の現状を語る中国語文章を講読し、中国語を日本語に翻訳する技術を習得する。
到達目標	中国語検定2級、準1級合格を目指す。
授業方法と留意点	単語の習得を重視し、語彙力を高める。新しい言葉は辞書で調べておくこと。
科目学習の効果(資格)	通訳案内士試験の受験。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第8課 北京, 想説愛?不容易	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	2	第8課 北京, 想説愛 ni 不容易	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p. 100 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	3	第9課 用麻将, 築起新的和平長城	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	4	第9課 用麻将, 築起新的和平長城	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p. 101 練声を出して読んでおく。単語を覚える。
	5	第10課 中国老人生存之現状	講読と中文日訳。 ☆単元テスト1	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	6	第10課 中国老人生存之現状	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p. 102 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	7	第11課 景美魚肥俊巴村	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	8	第11課 景美魚肥俊巴村	講読 (元の解説文)。	練習問題 p. 103 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	9	第12課 中国将無人 ti 球	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	10	第12課 中国将無人球	講読 (元の新聞記事)。 ☆単元テスト2	練習問題 p. 104 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	11	第13課 讓大運河再活兩千年	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	12	第13課 讓大運河再活兩千年	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p. 105 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	13	第14課 制服話題二則	講読と中文日訳。	声を出して読んでおく。単語の練習帳を作る。
	14	第14課 制服話題二則	講読 (元の新聞記事)。	練習問題 p. 106 声を出して読んでおく。単語を覚える。
	15	復習 (第8~14課)	第8~14課の復習 ☆単元テスト3	

関連科目	「中国語原書講読Ⅱa」
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2015年度 時事中国語の教科書 中国夢	三瀨正道・陳祖 pei	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業参加と単元テストによる。
-----------	----------------

学生へのメッセージ	最新の時事用語を覚えましょう。原則として事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 (兪研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	中国語講読 I a	科目名 (英文)	Chinese Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸 宏

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	複母音(3), 鼻母音(4), 子音(3)	発音編 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	自己紹介, 疑問詞疑問文	第 1 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	副詞語順, 全否定, 部分否定, 疑問視疑問文	第 2 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	二重目的語, 副詞 4	第 3 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 1 課～第 3 課会話文から出題	復習 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	所有, 存在, 疑問代名詞 2	第 4 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	疑問代名詞 3, 介詞 1	第 5 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	指示代名詞 2	第 6 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	介詞 3, 量詞 3	第 7 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	7 課小テスト, 介詞 4, 動量詞	第 8 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	8 課小テスト, 状態補語, 介詞 5	第 9 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 7 課～第 9 課会話文から出題	復習 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	能願動詞 1	第 10 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	比較文, 能願動詞 4	第 11 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	疑問代名詞 5, 副詞 12	第 12 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階(瀬戸研究室)
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	中国語講読 I b	科目名 (英文)	Chinese Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸 宏

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	存現文、兼語文	第 14 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 13、14 課文法と語彙の到達度確認	第 13 課～14 単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定 4 級準備 (1) 日文中訳	第 15 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定 4 級準備 (2) リスニング	第 16 課 1+第 15 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定 4 級準備 (3) リスニング	第 17 課 1+第 16 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定 4 級準備 (4) 文法	第 18 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定 4 級準備 (5) 文法	第 19 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定 4 級準備 (6) 文法	第 20 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 日文中訳	第 21 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認 (2) 語彙と発音	第 22 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 22 課到達度確認	復習+第 22 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認 (3) 中文日訳	第 23 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (4) 教材音読	第 24 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認 (5) 日文中訳	第 25 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階(瀬戸研究室)
備考	

科目名	中国語講読Ⅱa	科目名(英文)	Chinese ReadingⅡa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹

授業概要・目的 一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級の合格を目指す。

到達目標 検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。

授業方法と留意点 これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語Ⅱa』を使う必修科目「中国語を話すⅡa」「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を書くⅡa」のひとつである。授業はこの4科目がリレー式に行われるので、4科目を履修していることを前提に進行する。

科目学習の効果(資格) 中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第4回	第2話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第8回	第4話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第12回	第6話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第16回	第8話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第19回	第10話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第23回	第12話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第27回	第14話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第31回	第16話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第35回	第18話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第39回	第20話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第43回	第22話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第47回	第24話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第51回	第26話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第55回	第28話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第59回	第30話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目 「中国語会話Ⅱa」「中国語LLⅡa」「中国語作文Ⅱa」「ビジネス中国語Ⅱa」「日中翻訳法Ⅰa」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅱa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 単元ごとに小テストを行う。

学生へのメッセージ 上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考

科目名	中国語講読 II b	科目名 (英文)	Chinese Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級および 2 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 7 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級・2 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 3 回	第 2 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第 7 回	第 4 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第 11 回	第 6 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第 14 回	第 7 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第 18 回	第 9 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第 21 回	第 11 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第 25 回	第 13 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第 29 回	第 15 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第 33 回	第 17 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第 37 回	第 19 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第 41 回	第 21 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第 45 回	第 23 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第 49 回	第 25 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第 54 回	第 27 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第 57 回	第 29 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIb」「中国語 LLIIb」「中国語作文 IIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する
-----------	--

担当者の研究室等備考	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
------------	-------------------

科目名	中国語コミュニケーション a	科目名 (英文)	Chinese Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	李 英杰

授業概要・目的	この授業は生の中国語を体感することにより、中国語表現能力を身に付けることが目的である。過去二年間習った中国語の基礎をかためながら、音読、聴き取り、繰り返しなどの口頭練習を重ね、やや高度なコミュニケーションの手段としての中国語能力、ことに発信型の中国語能力の強化を目指す。
到達目標	中国検定試験2級のリスニング問題に対応。
授業方法と留意点	授業には積極的な態度で臨むこと。
科目学習の効果(資格)	基礎会話を更に一步向上させることで、中国に滞在するのに必要なコミュニケーション能力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一課 計画去旅游 (1)	聞き取り、基本文型、会話文の日記、短文の聞き取り、応答練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
2	第一課 計画去旅游 (2)	練習問題の解説。 ＜旅行＞をテーマに会話。 短文の聞き取り、意味確認、基本文型。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読。
3	第二課 訂機票 (1)	前回短文の暗唱。 新しい会話文の聞き取り、基本文型、会話文の日記。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
4	第二課 訂機票 (2)	練習問題の解説。 ＜チケットの予約＞をテーマに会話。 短文の聞き取り、意味確認、基本文型。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読。
5	第三課 在上海浦東機場 (1)	前回短文の暗唱。 新しい会話文の聞き取り、基本文型、会話文の日記。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
6	第三課 在上海浦東機場 (2)	練習問題の解説。 ＜空港にて＞をテーマに会話。 短文の聞き取り、意味確認、基本文型。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読
7	第四課 在昆明機場出口 (1)	前回短文の暗唱。 新しい会話文の聞き取り、基本文型、会話文の日記。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
8	第四課 在昆明機場出口 (2)	練習問題の解説。 ＜税関にて＞をテーマに会話。 短文の聞き取り、意味確認。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読。
9	第五課 修理眼鏡 (1)	前回短文の暗唱。 新しい会話文の聞き取り、基本文型、会話文の日記。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
10	第五課 修理眼鏡 (2)	練習問題の解説。 ＜眼鏡修理の依頼＞をテーマに会話。	練習問題を解答してくる 短文の熟読。
11	第六課 換車 (1)	前回短文の暗唱。 新しい会話文の聞き取り、基本文型、会話文の日記。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
12	第六課 換車 (2)	短文練習問題の解説。 ＜乗り換え＞をテーマに会話。 短文の聞き取り、意味確認。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読。
13	第七課 買東西 (1)	前回短文の暗唱。 新しい会話文の聞き取り、基本文型、会話文の日記。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
14	第七課 買東西 (2)	短文練習問題の解説。 ＜買い物＞をテーマに会話。 短文の聞き取り、意味確認。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読。
15	総復習	全体の復習	練習問題を解答する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体感中国～初級からのステップアップ～	奈良行博 Tong 岩韓軍 大沼尚子	同学社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	単元ごとに試験をする
-----------	------------

学生へのメッセージ	中国語で互いにやりとりするから、意欲のある学生に履修してもらいたいです。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	中国語コミュニケーション b	科目名 (英文)	Chinese Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	李 英杰

授業概要・目的	前期同様、この授業は生の中国語に体感することにより、中国語の口頭表現能力のさらなる向上を目標とする。音読、聞き取り、繰り返し、暗唱などの口頭練習を重ね、やや高度なコミュニケーションの手段としての中国語能力の強化を目指す。
到達目標	中国検定試験 2 級のリスリング問題に対応。
授業方法と留意点	授業には積極的な態度で臨むこと。
科目学習の効果 (資格)	基礎会話力を更に一步向上させることで、中国に滞在するのに必要なコミュニケーション能力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第八課 看病 (1)	会話文の学習。 朗読、意味確認、日訳、文法、文型。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
	2	第八課 看病 (2)	練習問題の解説。 会話練習：＜診察＞。 短文の学習、聞き取り、発音と意味確認、訳、朗読。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読、暗記。
	3	第九課 迷路了 (1)	会話文の学習 朗読、意味確認、日訳、文法、文型。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
	4	第九課 迷路了 (2)	練習問題の解説 会話練習：＜道を尋ねる＞ 短文の学習、聞き取り、発音と意味確認、訳、朗読。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読、暗唱。
	5	第十課 与老朋友再会 (1)	会話文の学習。 朗読、意味確認、日訳、文法、文型。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
	6	第十課 与老朋友再会 (2)	練習問題の解説。 会話練習：＜親友との再会＞ 短文の学習 聞き取り、意味確認、訳、朗読。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読、暗唱。
	7	第十一課 送同事礼物 (1)	会話文の学習。 朗読、意味確認、日訳、文法、文型。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
	8	第十一課 送同事礼物 (2)	練習問題の解説。 会話練習：＜親友との再会＞ 短文の学習、聞き取り、朗読、意味確認、訳。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読、暗唱。
	9	第十二課 偶遇中国游客 (1)	会話文の学習 朗読、意味確認、日訳、文法、文型。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
	10	第十二課 偶遇中国游客 (2)	練習問題の解説。 会話練習：＜親友との再会＞ 短文の学習 聞き取り、朗読、意味確認。	練習問題を解答してくる。 短文の熟読、暗唱。
	11	成語物語 自相矛盾 (1)	音読、意味確認、文法、文型。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
	12	成語物語 自相矛盾 (2)	音読、意味確認、文法、文型。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習。
	13	成語物語 自相矛盾 (3)	＜自相矛盾＞の寸劇の作成。	寸劇の練習
	14	成語物語 自相矛盾 (4)	寸劇＜自相矛盾＞の発表。	練習問題を解答してくる。 解答後の練習問題を復習する
	15	総合復習	総合まとめ	練習問題を解答してくる。 解答後の練習問題を復習する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体感中国～初級からのステップアップ～	奈良行博 Tong 岩韓軍 大沼尚子	同学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに試験をする
-----------	------------

学生へのメッセージ	中国語で互いにやりとりするから、意欲のある学生に履修してもらいたいです。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	中国語作文 I a	科目名 (英文)	Chinese Composition Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『撰南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	四声, 単母音, 子音(1), 複母音(1)	発音編 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	形容詞述語文, 副詞 1, 変調	第 1 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	1 課小テスト, 是構文, 副詞 2, 構造助詞 1	第 2 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	2 課小テスト, 動目構造, 動詞重畳	第 3 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	数詞, 量詞 1	第 4 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	4 課小テスト, 数詞 3, 曜日	第 5 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	5 課小テスト, 方位詞, 不定代名詞, 量詞 2	第 6 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 4 課～第 6 課会話文から出題	復習 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	選択疑問文, 副詞 7	第 7 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	了 1 了 2, 副詞 8	第 8 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	副詞 9, 把字句	第 9 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	動態助詞「過」副詞 10	第 10 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	10 課小テスト, 能願動詞 2, 動量詞 3	第 11 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	11 課小テスト, 方向補語	第 12 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 10 課～第 12 課会話文から出題	復習 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	毎課の小テストと単元テストを行う。
-----------	-------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階 (兪研究室)
----------	-----------------

備考	
----	--



科目名	中国語作文 I b	科目名 (英文)	Chinese Composition Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験4級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末までに、中国語検定試験4級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『撰南大学中国語 Ia』を使用して、週4回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの4科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	会話	第13課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	会話	第14課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	検定4級準備 (1) 長文読解	第15課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定4級準備 (2) 文法	第16課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定4級準備 (3) 文法	第17課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定4級準備 (4) リスニング	第18課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定4級準備 (5) リスニング	第19課 1+第18課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定4級準備 (6) リスニング	第20課 1+第19課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第18課～20課到達度確認	復習+第18課～20単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 中文日訳	第21課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認 (2) 教材音読	第22課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認 (3) 日文中訳	第23課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認 (4) 語彙と発音	第24課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (5) 語彙と発音	第25課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認 (5) 中文日訳	第25課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I b	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法 (基準)	毎課の小テストと単元テストを行う。
-----------	-------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 (兪研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	中国語作文 II a	科目名 (英文)	Chinese Composition IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	李 英杰

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの4科目がリレー式に行われるので、4科目を履修していることを前提に進行する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第2回	第1話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第6回	第3話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第10回	第1話～第5話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第14回	第7話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第17回	第9話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第21回	第11話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第25回	第13話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第29回	第15話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第33回	第17話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第37回	第19話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第41回	第21話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第45回	第23話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第49回	第25話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第53回	第27話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第57回	第29話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIa」「中国語講読 IIa」「中国語 LIIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)
------------	---------------

科目名	中国語作文 II b	科目名 (英文)	Chinese Composition IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	李 英杰

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級および 2 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 7 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級・2 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 1 回	第 1 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第 5 回	第 3 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第 9 回	第 5 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第 12 回	第 6 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第 16 回	第 8 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第 20 回	第 10 話後半・第 11 回～第 20 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第 23 回	第 12 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第 27 回	第 14 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第 31 回	第 16 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第 35 回	第 18 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第 39 回	第 20 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第 43 回	第 22 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第 47 回	第 24 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第 52 回	第 26 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第 55 回	第 28 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIb」「中国語講読 IIb」「中国語 LLIIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIb	摂南大学外国語学	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
------------	-------------------

科目名	中国語視聴専科 a	科目名 (英文)	Practical Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹

授業概要・目的	映像と音声を通じて、中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク、タッチパネルディスプレイなどを利用して、発音のチェックや他の学生との情報共有、シャドーイングなどの活動を行う。この課程は1年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので、それらで学んだ事項を定着させることができる。
到達目標	中国語の音声を正確に判別し、既習の語彙やフレーズについて正しく発音したり漢字やピンインでディクテーションできることを目指す。中国語検定4級リスニング試験の形式やレベルの問題にも取り組み、同級合格レベルへの到達を具体的な目標とする。
授業方法と留意点	1. 必修の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し、しっかりと理解できるようにする。 2. さらにそれらを聞き取り理解できるようさまざまな訓練を行う。とくに1年次では発音の基礎と基本語彙の練習・運用に重点を置き、確実に聞き取れるように訓練する。
科目学習の効果 (資格)	中国語聞き取り能力が向上し、前期終了時には中国語検定試験准4級の受験が可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	中国語知識 (1)	地理・民族・人口	中国語を学ぶのに必要な中国に関する高等学校程度の知識を確認する。
	2	第1課	四声と基本的な母音、子音 四択練習問題四声と基本的な母音、子音 四択練習問題	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	3	第2課	鼻母音と発音しにくい子音。 四択練習問題。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	4	第3課	声調パタンの反復練習。 練習問題。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	5	第4課	「是」構文 名前の言い方に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	6	第5課	数量に関する表現と「有」構文に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	7	第6課	動詞述語文と職業に関する表現の置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	8	第7課	形容詞述語文と比較表現を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	9	第8課	前置詞と方位詞を使った表現の置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	10	第9課	「了」と結果補語を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	11	第10課	「了」と結果補語を使った置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	12	第11課	動作の進行、完了の表現に関する置き換え練習。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	13	第12課	「就」「才」を使った文および「在」のいくつかの用法。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	14	第13課	程度補語の使い方。	すでに必修科目の授業で学んだ内容を画像や音声を使って定着する。
	15	第14課	復習	

関連科目 必修中国語科目 (週4コマ) を必ず履修していること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 単元ごとに実施する小テストと3つの単元の到達度を測るテストなどをもとに評価する (中国語必修科目との共通テスト)。

学生へのメッセージ 選択科目なので、目的意識をしっかりと持って授業に臨んでほしい。事前・事後に各60分の学修を要する。

担当者の研究室等 7号館3階 (中西研究室)

備考 教科書は中国語必修科目用のものと共通。

科目名	中国語視聴専科 b	科目名 (英文)	Practical Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹

授業概要・目的	映像と音声を通じて、中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク、タッチパネルディスプレイなどを利用して、発音のチェックや他の学生との情報共有、シャドーイングなどの活動を行う。この課程は1年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので、それらで学んだ事項を定着させることができる。
到達目標	11月下旬の中国語検定4級試験受験までに、そのリスニング試験問題で6割以上の正答率を達成することを目標とする。12月以降は4級試験の長文読解問題レベルの文章を教材として、これを正しくディクテーションしたりシャドーイングすることを目指す。
授業方法と留意点	1. 必修の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し、しっかりと理解できるようにする。 2. さらにそれらを聞き取り理解できるようさまざまな訓練を行う。とくに1年次では発音の基礎と基本語彙の練習・運用に重点を置き、確実に聞き取れるように訓練する。
科目学習の効果(資格)	中国語聞き取り能力が向上し、11月に実施される中国語検定試験4級に合格することを可能とする。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	時をかける少女(2/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
3	時をかける少女(3/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
4	時をかける少女(4/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
5	時をかける少女(5/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
6	時をかける少女(6/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
7	時をかける少女(7/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
8	時をかける少女(8/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
9	時をかける少女(9/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
10	時をかける少女(10/12) 検定4級レベルリスニング問題	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
11	時をかける少女(11, 12/12)	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
12	サマーウォーズ(1/4) CALLシステムを利用したタイピング訓練	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
13	サマーウォーズ(2/4) CALLシステムを利用したタイピング訓練	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について25項目を取り上げ、Webベースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。

	14	サマーウォーズ(3/4) CALL システムを利用した タイピング訓練	映画を鑑賞しながら、映画のセリフのうち初級段階で学んでおかねばならない語彙や構文について 25 項目を取り上げ、Web ペースで作成された問題を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
	15	サマーウォーズ(4/4) 中国語検定 3 級模擬テスト	最新の試験問題を解きながら、6 月に受験する検定への対策を考える。	授業で理解できなかった部分は、自宅で教材にアクセスして復習する。
関連科目	必修中国語科目（週 4 コマ）を必ず履修していること。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	単元ごとに実施する小テストと 3 つの単元の到達度を測るテストなどをもとに評価する(中国語必修科目との共通テスト)。			
学生への メッセージ	選択科目なので、目的意識をしっかりと持って授業に臨んでほしい。事前・事後に各 60 分の学修を要する。			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階(中西研究室)			
備考	教科書は中国語必修科目用のものと共通。			

科目名	中国語トピックス a	科目名 (英文)	Chinese Topics a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	馮 艶

授業概要・目的	家庭、学校、職場などの場所での会話を題材として学習することにより、会話能力を高めるとともに、現代中国の文化・社会についての関心と理解を深めます。
到達目標	旅行や留学のさまざまな場面でスムーズにコミュニケーションができるだけの聞く力と話す力を習得します。
授業方法と留意点	音読、リスニング、文法練習と会話練習を通して、総合的な語学力を高めます。
科目学習の効果 (資格)	中国の文化・社会を理解し、中国語会話能力を身につけます。 実践的な会話練習を通して、コミュニケーション能力を高めます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第1課	彼はだれ？	予習・宿題
	2	第1課	文法練習・会話練習	予習・宿題
	3	第2課	文章を書く	予習・宿題
	4	第2課	文法練習・会話練習	予習・宿題
	5	第3課	助け合い	予習・宿題
	6	第3課	文法練習・会話練習	予習・宿題
	7	1～3課のまとめ	筆記・リスニング・会話	予習・宿題
	8	第4課	結婚相手を探す	予習・宿題
	9	第4課	文法練習・会話練習	予習・宿題
	10	第5課	転職	予習・宿題
	11	第5課	文法練習・会話練習	予習・宿題
	12	第6課	出張	予習・宿題
	13	第6課	文法練習・会話練習	予習・宿題
	14	4～6課のまとめ	筆記・リスニング・会話	予習・宿題
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	必修中国語科目を履修していること。
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト・筆記テスト・会話発表・授業に取り組む態度や積極性。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	授業に真面目に取り組めば、会話能力は確実に上がりますので、頑張りましょう。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	中国語トピックス b	科目名 (英文)	Chinese Topics b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	馮 艶

授業概要・目的	家庭、学校、職場などの場所での会話を題材として学習することにより、会話能力を高めるとともに、現代中国の文化・社会についての関心と理解を深めます。
到達目標	旅行や留学のさまざまな場面でスムーズにコミュニケーションができるだけの聞く力と話す力を習得します。
授業方法と留意点	音読、リスニング、文法練習と会話練習を通して、総合的な語学力を高めます。
科目学習の効果 (資格)	中国の文化・社会を理解し、中国語会話能力を身につけます。 実践的な会話練習を通して、コミュニケーション能力を高めます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第7課	息子と母親	予習・宿題
	2	第7課	文法練習・会話練習	予習・宿題
	3	第8課	別れの言葉	予習・宿題
	4	第8課	文法練習・会話練習	予習・宿題
	5	第9課	何を食べる	予習・宿題
	6	第9課	文法練習・会話練習	予習・宿題
	7	7~9課のまとめ	筆記・リスニング・会話	予習・宿題
	8	第10課	車を買う	予習・宿題
	9	第10課	文法練習・会話練習	予習・宿題
	10	第11課	幸せ	予習・宿題
	11	第11課	文法練習・会話練習	予習・宿題
	12	第12課	引越し	予習・宿題
	13	第12課	文法練習・会話練習	予習・宿題
	14	10~12課のまとめ	筆記・リスニング・会話	予習・宿題
	15	総復習	総合復習	復習

関連科目	必修中国語科目を履修していること。
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト・筆記テスト・会話発表・授業に取り組む態度や積極性。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	授業に真面目に取り組めば、会話能力は確実に上がりますので、頑張りましょう。原則として事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	



科目名	中国語を書く I a	科目名 (英文)	Chinese Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『撰南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	四声, 単母音, 子音(1), 複母音(1)	発音編 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	形容詞述語文, 副詞 1, 変調	第 1 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	1 課小テスト, 是構文, 副詞 2, 構造助詞 1	第 2 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	2 課小テスト, 動目構造, 動詞重畳	第 3 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	数詞, 量詞 1	第 4 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	4 課小テスト, 数詞 3, 曜日	第 5 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	5 課小テスト, 方位詞, 不定代名詞, 量詞 2	第 6 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 4 課～第 6 課会話文から出題	復習 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	選択疑問文, 副詞 7	第 7 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	了 1 了 2, 副詞 8	第 8 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	副詞 9, 把字句	第 9 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	動態助詞「過」副詞 10	第 10 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	10 課小テスト, 能願動詞 2, 動量詞 3	第 11 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	11 課小テスト, 方向補語	第 12 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 10 課～第 12 課会話文から出題	復習 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	毎課の小テストと単元テストを行う。
-----------	-------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階 (兪研究室)
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	中国語を書く I b	科目名 (英文)	Chinese Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す 1a」「中国語を読む 1a」「中国語を聞く 1a」「中国語を書く 1a」のひとつで、『摂南大学中国語 1 a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	会話	第 13 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	会話	第 14 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	検定 4 級準備 (1) 長文読解	第 15 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定 4 級準備 (2) 文法	第 16 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定 4 級準備 (3) 文法	第 17 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定 4 級準備 (4) リスニング	第 18 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定 4 級準備 (5) リスニング	第 19 課 1+第 18 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定 4 級準備 (6) リスニング	第 20 課 1+第 19 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 18 課～20 課到達度確認	復習+第 18 課～20 単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 中文日訳	第 21 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	長文読解と既習事項確認 (2) 教材音読	第 22 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認 (3) 日文中訳	第 23 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認 (4) 語彙と発音	第 24 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (5) 語彙と発音	第 25 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	長文読解と既習事項確認 (5) 中文日訳	第 25 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す 1b」「中国語を読む 1b」「中国語を聞く 1b」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法 (基準)	毎課の小テストと単元テストを行う。
-----------	-------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階 (兪研究室)
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	中国語を書く II a	科目名 (英文)	Chinese Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	李 英杰

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの4科目がリレー式に行われるので、4科目を履修していることを前提に進行する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第2回	第1話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第6回	第3話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第10回	第1話～第5話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第14回	第7話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第17回	第9話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第21回	第11話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第25回	第13話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第29回	第15話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第33回	第17話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第37回	第19話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第41回	第21話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第45回	第23話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第49回	第25話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第53回	第27話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第57回	第29話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIa」「中国語講読 IIa」「中国語 LIIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)
------------	---------------

科目名	中国語を書く II b	科目名 (英文)	Chinese Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	李 英杰

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級および 2 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 7 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。

科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級・2 級受験可能。
--------------	----------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第 1 回	第 1 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第 5 回	第 3 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 9 回	第 5 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 12 回	第 6 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 16 回	第 8 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 20 回	第 10 話後半・第 11 回～第 20 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 23 回	第 12 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 27 回	第 14 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 31 回	第 16 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 35 回	第 18 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 39 回	第 20 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 43 回	第 22 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 47 回	第 24 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 52 回	第 26 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 55 回	第 28 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIb」「中国語講読 IIb」「中国語 LLIIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIb	摂南大学外国語学	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	中国語を聞く I a	科目名 (英文)	Chinese Listening I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	馮 艶

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級または 4 級を受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	子音 (4), 子音 (5)	発音編 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	会話 1	第 1 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	会話 2	第 2 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	会話 3	第 3 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第 1 課～第 3 課まとめ	第 1 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	会話 4	第 4 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	会話 5	第 5 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	会話 6	第 6 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	連動文	第 7 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	了 1, 了 2	第 8 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	結果補語, 介詞 6	第 9 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第 7 課～第 9 課まとめ	第 3 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	会話 10	第 10 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	会話 11	第 11 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	会話 12	第 12 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元テストによる。
-----------	-----------

学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	中国語を聞く I a	科目名 (英文)	Chinese Listening I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『撰南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級または 4 級を受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	子音 (4), 子音 (5)	発音編 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	会話 1	第 1 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	会話 2	第 2 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	会話 3	第 3 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 1 課～第 3 課まとめ	第 1 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	会話 4	第 4 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	会話 5	第 5 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	会話 6	第 6 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	連動文	第 7 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	了 1, 了 2	第 8 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	結果補語, 介詞 6	第 9 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 7 課～第 9 課まとめ	第 3 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	会話 10	第 10 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	会話 11	第 11 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	会話 12	第 12 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元テストによる。
-----------	-----------

学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	兪研究室 (7 号館 3 階)
備考	

科目名	中国語を聞く I b	科目名 (英文)	Chinese Listening I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	馮 艶

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『撰南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	疑問代名詞「為什麼」、接続詞「因為」、「所以」、可能補語	第 13 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	使役文、被動文、複合方向補語	第 14 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	検定 4 級準備 (1) リスニング	第 15 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	検定 4 級準備 (2) 長文読解	第 16 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	検定 4 級準備 (3) 長文読解	第 17 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第 15 課～17 課到達度確認	復習+第 15 課～17 単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	検定 4 級準備 (4) 日文中訳	第 18 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	検定 4 級準備 (5) 日文中訳	第 19 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	検定 4 級準備 (6) 日文中訳	第 20 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 教材音読	第 21 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	長文読解と既習事項確認 (2) 日文中訳	第 22 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	長文読解と既習事項確認 (3) 語彙と発音	第 23 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第 21 課～23 課到達度確認	復習+第 21 課～第 23 課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (4) 中文日訳	第 24 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	長文読解と既習事項確認 (5) 教材音読	第 25 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元テストによる。
-----------	-----------

学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	中国語を聞く I b	科目名 (英文)	Chinese Listening I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『撰南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	疑問代名詞「為什麼」、接続詞「因為」、「所以」、可能補語	第 13 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	使役文、被動文、複合方向補語	第 14 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	検定 4 級準備 (1) リスニング	第 15 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	検定 4 級準備 (2) 長文読解	第 16 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	検定 4 級準備 (3) 長文読解	第 17 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第 15 課～17 課到達度確認	復習+第 15 課～17 単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	検定 4 級準備 (4) 日文中訳	第 18 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	検定 4 級準備 (5) 日文中訳	第 19 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	検定 4 級準備 (6) 日文中訳	第 20 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 教材音読	第 21 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	長文読解と既習事項確認 (2) 日文中訳	第 22 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	長文読解と既習事項確認 (3) 語彙と発音	第 23 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第 21 課～23 課到達度確認	復習+第 21 課～第 23 課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (4) 中文日訳	第 24 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	長文読解と既習事項確認 (5) 教材音読	第 25 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元テストによる。
-----------	-----------

学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7 号館 3 階 (兪研究室)
------------	-----------------



科目名	中国語を聞く II a	科目名 (英文)	Chinese Listening II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	馮 艶

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの4科目がリレー式に行われるので、4科目を履修していることを前提に進行する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第3回	第2話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第7回	第4話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第11回	第6話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第15回	第8話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第18回	第9話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第22回	第11話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第26回	第13話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第30回	第11話～第15話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第34回	第17話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第38回	第19話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第42回	第21話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第46回	第23話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第50回	第21話～第25話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第54回	第27話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第58回	第29話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIa」「中国語講読 IIa」「中国語作文 IIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各60時間の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等備考	非常勤講師室 (7号館2階)
------------	----------------

科目名	中国語を聞く II b	科目名 (英文)	Chinese Listening II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	馮 艶

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級および 2 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 7 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級・2 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第 2 回	第 1 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第 6 回	第 3 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 10 回	第 5 話後半・第 1 回～第 10 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 13 回	第 7 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	2 年生暗唱コンテスト	狐假虎威	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 17 回	第 9 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 24 回	第 12 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 28 回	第 14 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 32 回	第 16 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 36 回	第 18 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 40 回	第 20 話後半・第 31 回～第 40 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 44 回	第 22 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 48 回	第 24 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 53 回	第 27 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 56 回	第 28 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話 IIb」「中国語講読 IIb」「中国語作文 IIb」「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。原則として事前・事後に各 60 時間の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等備考	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
------------	-------------------

科目名	中国語を話す I a	科目名 (英文)	Chinese Speaking I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す I a」「中国語を読む I a」「中国語を聞く I a」「中国語を書く I a」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	複母音(2), 鼻母音(1)	発音編 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	文末助詞, 主述述語文	第 1 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞 2	第 2 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	文末助詞 2, 副詞 3	第 3 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	数詞 2, 副詞 5	第 4 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	時間詞, 名詞述語文	第 5 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	動詞「在」, 副詞 6	第 6 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第 4 課～第 6 課まとめ	第 2 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	会話 7	第 7 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	会話 8	第 8 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	会話 9	第 9 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	動量詞 2, 副詞 11	第 10 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	疑問代名詞 4, 能願動詞 3	第 11 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	進行文, 接続詞 1	第 12 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第 10 課～第 12 課まとめ	第 4 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読む I a」「中国語を聞く I a」「中国語を書く I a」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	中国語を話す I a	科目名 (英文)	Chinese Speaking I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	中西 正樹

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80%を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す I a」「中国語を読む I a」「中国語を聞く I a」「中国語を書く I a」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	複母音(2), 鼻母音(1)	発音編 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	文末助詞, 主述述語文	第 1 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞 2	第 2 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	文末助詞 2, 副詞 3	第 3 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	数詞 2, 副詞 5	第 4 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	時間詞, 名詞述語文	第 5 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	動詞「在」, 副詞 6	第 6 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 4 課～第 6 課まとめ	第 2 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	会話 7	第 7 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	会話 8	第 8 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	会話 9	第 9 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	動量詞 2, 副詞 11	第 10 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	疑問代名詞 4, 能願動詞 3	第 11 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	進行文, 接続詞 1	第 12 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 10 課～第 12 課まとめ	第 4 回単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読む I a」「中国語を聞く I a」「中国語を書く I a」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階(中西研究室)
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	中国語を話す I b	科目名 (英文)	Chinese Speaking I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	是～的構文	第 13 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	動態助詞「着」、気象現象	第 14 課 1+第 13 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 13, 14 課文法と語彙の復習	第 13 課～14 復習課	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定 4 級準備 (1) 文法	第 15 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定 4 級準備 (2) 日文中訳	第 16 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定 4 級準備 (3) 日文中訳	第 17 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定 4 級準備 (4) 長文読解	第 18 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定 4 級準備 (5) 長文読解	第 19 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定 4 級準備 (6) 長文読解	第 20 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 語彙と発音	第 21 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 21 課到達度確認	復習+第 21 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認 (2) 中文日訳	第 22 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認 (3) 教材音読	第 23 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (4) 日文中訳	第 24 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 24 課～25 課到達度確認	復習+第 24 課～第 25 課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	中国語を話す I b	科目名 (英文)	Chinese Speaking I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	是～的構文	第 13 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	動態助詞「着」、気象現象	第 14 課 1+第 13 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 13, 14 課文法と語彙の復習	第 13 課～14 復習課	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	検定 4 級準備 (1) 文法	第 15 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	検定 4 級準備 (2) 日文中訳	第 16 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	検定 4 級準備 (3) 日文中訳	第 17 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	検定 4 級準備 (4) 長文読解	第 18 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	検定 4 級準備 (5) 長文読解	第 19 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	検定 4 級準備 (6) 長文読解	第 20 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 語彙と発音	第 21 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 21 課到達度確認	復習+第 21 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	長文読解と既習事項確認 (2) 中文日訳	第 22 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	長文読解と既習事項確認 (3) 教材音読	第 23 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (4) 日文中訳	第 24 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 24 課～25 課到達度確認	復習+第 24 課～第 25 課単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階 (中西研究室)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	中国語を話す II a	科目名 (英文)	Chinese Speaking II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	礫 玉璽

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語 IIa』を使う必修科目「中国語を話す IIa」「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」のひとつである。授業はこの4科目がリレー式に行われるので、4科目を履修していることを前提に進行する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第1回	第1話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第5回	第3話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第9回	第5話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第13回	第7話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第20回	第6話～第10話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第24回	第12話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第28回	第14話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第32回	第16話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第36回	第18話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第40回	第16話～第20話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第44回	第22話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第48回	第24話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第52回	第26話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第56回	第28話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第60回	第26話～第30話まとめ・単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語講読 IIa」「中国語 LLIIa」「中国語作文 IIa」 「ビジネス中国語 IIa」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)
------------	---------------

科目名	中国語を話す II b	科目名 (英文)	Chinese Speaking II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	礫 玉璽

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物や Web サイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験 3 級および 2 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 7 割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話す IIb」「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語 IIb』をリレー式に使う。4 科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。

科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級・2 級受験可能。
--------------	----------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第 4 回	第 2 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第 8 回	第 4 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第 15 回	第 8 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第 19 回	第 10 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第 22 回	第 11 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第 26 回	第 13 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第 30 回	第 15 話後半・第 21 回～第 30 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第 34 回	第 17 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第 38 回	第 19 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第 42 回	第 21 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第 46 回	第 23 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第 50 回	第 25 話後半・第 41 回～第 50 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第 51 回	第 26 話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第 58 回	第 29 話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第 59 回	第 30 話前半・第 51 回～第 59 回テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語講読 IIb」「中国語 LLIIb」「中国語作文 IIb」 「ビジネス中国語 IIb」「日中翻訳法 Ia」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 IIb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
------------	-------------------



科目名	中国語を読む I a	科目名 (英文)	Chinese Reading I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸 宏

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す I a」「中国語を読む I a」「中国語を聞く I a」「中国語を書く I a」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	複母音 (3), 鼻母音 (4), 子音 (3)	発音編 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	自己紹介, 疑問詞疑問文	第 1 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	副詞語順, 全否定, 部分否定, 疑問視疑問文	第 2 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	二重目的語, 副詞 4	第 3 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第 1 課～第 3 課会話文から出題	復習 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	所有, 存在, 疑問代名詞 2	第 4 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	疑問代名詞 3, 介詞 1	第 5 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	指示代名詞 2	第 6 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	介詞 3, 量詞 3	第 7 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	7 課小テスト, 介詞 4, 動量詞	第 8 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	8 課小テスト, 状態補語, 介詞 5	第 9 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第 7 課～第 9 課会話文から出題	復習 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	能願動詞 1	第 10 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	比較文, 能願動詞 4	第 11 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	疑問代名詞 5, 副詞 12	第 12 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す I a」「中国語を聞く I a」「中国語を書く I a」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階 (瀬戸研究室)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	中国語を読む I b	科目名 (英文)	Chinese Reading I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸 宏

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	助動詞「打算」「準備」、前置詞「为了」「除了」	第 13 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	存現文、兼語文	第 14 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第 13、14 課文法と語彙の到達度確認	第 13 課～14 単元テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	検定 4 級準備 (1) 日文中訳	第 15 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	検定 4 級準備 (2) リスニング	第 16 課 1+第 15 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	検定 4 級準備 (3) リスニング	第 17 課 1+第 16 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	検定 4 級準備 (4) 文法	第 18 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	検定 4 級準備 (5) 文法	第 19 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	検定 4 級準備 (6) 文法	第 20 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 日文中訳	第 21 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	長文読解と既習事項確認 (2) 語彙と発音	第 22 課 1	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第 22 課到達度確認	復習+第 22 課小テスト	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	長文読解と既習事項確認 (3) 中文日訳	第 23 課 4	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (4) 教材音読	第 24 課 3	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	長文読解と既習事項確認 (5) 日文中訳	第 25 課 2	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに小テストを行う。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階(瀬戸研究室)
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	中国語を読むⅡ a	科目名 (英文)	Chinese Reading II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹

授業概要・目的 一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級の合格を目指す。

到達目標 検定試験が行われる6月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。

授業方法と留意点 これは中国語専攻クラスで統一教材『撰南大学中国語Ⅱa』を使う必修科目「中国語を話すⅡa」「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を書くⅡa」のひとつである。授業はこの4科目がリレー式に行われるので、4科目を履修していることを前提に進行する。

科目学習の効果(資格) 中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第4回	第2話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第8回	第4話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第12回	第6話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第16回	第8話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第19回	第10話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第23回	第12話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第27回	第14話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第31回	第16話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第35回	第18話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第39回	第20話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第43回	第22話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第47回	第24話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第51回	第26話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第55回	第28話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第59回	第30話	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目 「中国語会話Ⅱa」「中国語LLⅡa」「中国語作文Ⅱa」「ビジネス中国語Ⅱa」「日中翻訳法Ⅰa」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅱa	撰南大学外国語学部	撰南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 単元ごとに小テストを行う。

学生へのメッセージ 上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考

科目名	中国語を読むⅡb	科目名(英文)	Chinese Reading II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるて、それを応用しながら読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく発展させる。中国語の刊行物やWebサイトを辞書を使って読みこなせるレベルを目指すとともに中国語検定試験3級および2級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも7割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻クラスの必修科目「中国語を話すⅡb」「中国語を読むⅡb」「中国語を聞くⅡb」「中国語を書くⅡb」のひとつで、これらの授業では共通教材『摂南大学中国語Ⅱb』をリレー式に使う。4科目をすべて履修していることを前提として授業が進行することに注意。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級・2級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第3回	第2話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第7回	第4話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第11回	第6話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第14回	第7話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第18回	第9話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第21回	第11話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第25回	第13話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第29回	第15話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第33回	第17話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第37回	第19話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第41回	第21話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第45回	第23話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第49回	第25話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第54回	第27話後半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	第57回	第29話前半	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	「中国語会話Ⅱb」「中国語LLⅡb」「中国語作文Ⅱb」 「ビジネス中国語Ⅱb」「日中翻訳法Ⅰa」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語Ⅱb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	単元ごとに小テストを行う。
----------	---------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各60分の学修を要する
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)
------------	---------------

科目名	中国史学	科目名(英文)	Chinese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森川 裕貴

授業概要・目的	近年否定的側面が強調されることの多い日中関係だが、私たちの身の回りには中国製品があふれており、中国から日本を訪れる人々もかつてに比べて格段に増加した。日本と中国は切っても切り離せない関係に立っているのであり、中国について単に好きか嫌いかで語るのではなく、客観的に理解を深める必要性が高まっている。この講義では、今日そして今後の中国について理解を深める上で大きな意味を持っている中国の近現代の歴史に着目する。具体的にはまず清代から中華人民共和国までの中国の歩みを確認し、その上で今日のわれわれにも関わりのある身近な問題を手がかりに、中国の特色について考えていくこととしたい。
到達目標	中国近現代史に関する基本的知識を身につける。 それに基づき、自分の考えを明確かつ論理的に表現できるようにする。
授業方法と留意点	毎回レジュメを配布し、解説を加える。必要に応じて、スライドなども用いる。歴史上の中国のことだけではなく、今日の中国の状況についても適宜紹介・説明する。
科目学習の効果(資格)	中国近現代史、そしてこれからの中国を理解するための手がかりを得る。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	講義の目的と、進行・評価方法についての説明	中国近現代史について、関心を持っている事柄を整理する
	2	日本と中国の違い	日本と中国の政治や社会の差異	講義内容の復習と整理
	3	清朝の性格	清朝の基本的性格とその興隆	講義内容の復習と整理
	4	清朝の衰退	清朝を衰退させた内外の諸要因(アヘン戦争・太平天国の乱など)	講義内容の復習と整理
	5	北京政府時期の中華民国	1920年代半ばまでの中華民国の政治と社会(袁世凱の政治とその後)	講義内容の復習と整理
	6	南京国民政府時期の中華民国	1920年代半ば以降の中華民国の政治と社会(?介石の台頭)	講義内容の復習と整理
	7	中国共産党の成立	中国共産党成立の経緯とその特色	講義内容の復習と整理
	8	中華人民共和国の建国とその展開	中華人民共和国の成立とその統治の性格(毛沢東による政治)	講義内容の復習と整理
	9	改革開放にいたる道	文化大革命から改革開放までの中華人民共和国	講義内容の復習と整理
	10	中国近現代の留学	中国近現代に日本留学が盛んとなった背景とその特徴	講義内容の復習と整理
	11	中国近現代の男女関係	中国の男女関係とその近現代における変容	講義内容の復習と整理
	12	中国近現代の親子関係	中国の親子関係とその近現代における変容	講義内容の復習と整理
	13	中国近現代の身体をめぐる議論(1)	纏足を取り巻く問題	講義内容の復習と整理
	14	中国近現代の身体をめぐる議論(2)	辮髪・断髪を取り巻く問題	講義内容の復習と整理
	15	講義のまとめと確認テスト	講義内容の総括・確認テスト	講義から学んだことを整理する

関連科目: そのほかの中国関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準): 講義への継続的参加を前提に、リアクションペーパー・小テスト(40%)、確認テスト(60%)により評価する。

学生へのメッセージ: 今日の日本や中国と、歴史上の中国とを比較しながら講義を進める。中国や歴史全般に関心のある学生の受講を歓迎する。教科書は使用しないが、参考となる書籍を適宜紹介するので、実際に手に取ってみることを強く勧める。

担当者の研究室等: 7号館2階(非常勤講師室)

備考:

科目名	中国地誌学	科目名(英文)	Chinese Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸 宏

授業概要・目的	中国と韓国を中心とした東アジアの地域社会・文化の概要を学び、これらの地域への理解を深めます。
到達目標	中国と韓国を中心とした東アジアの歴史・文化の概要が理解できます。
授業方法と留意点	毎回の出席を重視します。
科目学習の効果(資格)	東アジアへの理解が深まります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	中国の現代社会①瀬戸	映画「きれいなお母さん」を鑑賞し、変化する中国社会を理解する。	二〇世紀末から二一世紀初めの中国社会について調べる。
2	中国の現代社会②瀬戸	映画「きれいなお母さん」の背景にある市場経済の浸透、学校教育のあり方について考える。	中国の障害者教育、母子家庭の現状について調べる。
3	中国の現代社会③瀬戸	映画「生きる」を鑑賞し、中華民国期から文化大革命までの中国社会の歩みを理解する。	中華民国から中華人民共和国への社会変化について調べる。
4	中国の現代社会④瀬戸	映画「生きる」の背景にある現代中国人の生き方について考える。	大躍進、文化大革命など中華人民共和国の歴史について調べる。
5	中国の伝統社会①瀬戸	映画「紅夢」を鑑賞し、旧時代の家庭の有り様を理解する。	旧中国の家庭制度、結婚制度について調べる。
6	中国の伝統社会②瀬戸	映画「紅夢」の背景にある封建家庭の構造、そこでの人々の思考について考える。	中国旧家庭の構造について調べる。
7	中国の伝統社会③瀬戸	映画「ヒーロー」を鑑賞し、古代の人々の状況を理解する。	中国古代の歴史について調べる。
8	中国の伝統社会④瀬戸	映画「ヒーロー」の背景にある中国古代社会の構造を考える。	中国古代の社会状況について調べる。
9	まとめ 瀬戸	これまでの授業で理解した中国社会と日本社会を比較し、その共通点と相違点を考える。	これまでの授業に関するレポートを書く。
10	新しい韓国文化①北島	韓流はどのように浸透したのか	近年の韓国文化の流れや日本への影響を知る
11	新しい韓国文化②北島	韓流の変化	韓流の変化を通して、日本における韓国文化について考える
12	古い伝承からみる朝鮮半島①北島	神話に登場する神々	朝鮮半島の説話を知る
13	古い伝承からみる朝鮮半島②北島	古代国家の建国神話	朝鮮半島の古代国家についてより深く知る
14	古い伝承からみる朝鮮半島③北島	昔話・動物説話	昔話にあらわれる文化的特徴をみる
15	伝承からみる日本との関わり 北島	日韓昔話比較の一例	日本との関連性を考える

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 出席およびレポートで評価します。

学生へのメッセージ いっしょに中国、韓国について勉強しましょう。

担当者の研究室等 7号館3階瀬戸研究室、7号館2階非常勤講師室

備考 授業の進行状況を見て、取り上げる作品などを変更することがあります。事前・事後に各60分の学修を要する。

科目名	中国文学	科目名(英文)	Chinese Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸 宏

授業概要・目的	中国文学の中で、中国現代文学・演劇・映画を中心とする中国現代文化を中心に講義する。清末から現在までの代表的な作家・作品や特徴的な文化事象をとりあげその背後にあるものを探る。
到達目標	中国現代文学・演劇の流れと主要作品の概要が理解できる。また、作品の背景にある現代中国の人々の思想・感情も理解できる。
授業方法と留意点	教室での講義を中心とするが、ビデオなど映像資料も随時使用する。
科目学習の効果(資格)	中国の現代文化の概況や現代中国の生きた姿が文学作品やビデオなどを通して楽しく理解できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	中国現代文化の内容およびそれ以前の中国伝統文化の特徴について概説する。	中国現代文学の流れをまとめる。
	2	清末・民初の文学・演劇運動	五四新文学に先立つ清末・民初の文学・演劇について考える。	辛亥革命前後の文学・演劇改良運動はな不徹底に終わったか考える。
	3	五四運動と魯迅	『呐喊』序を読みながら、魯迅の文学的生涯について考える。	魯迅はなぜ文学を志したか、考える。
	4	五四時期のその他の文学	五四時期のその他の作家について考える。	五四時期の特徴を考えてみる。
	5	曹禺 1	曹禺の生涯を概観した後、「雷雨」について映画を観ながらその内容について考える。	曹禺の生涯についてまとめてみる。
	6	曹禺 2	引き続き「雷雨」について考える。	「雷雨」の内容をまとめる。
	7	曹禺 3	「日の出」「原野」「北京人」など曹禺の主要作品について考える。	曹禺の戯曲を読んでみる。
	8	毛沢東と文芸講話	毛沢東『文芸講話』がその後の中国文学に与えた影響について考える。	「文芸講話」の内容をまとめてみる。
	9	老舎 1	「茶館」について上演ビデオを鑑賞しながらその内容とその作品が書かれた時代背景について考えていく。	「茶館」を読んでみる。
	10	老舎 2	引き続き「茶館」を鑑賞しながら、その意味について考えていく。	「茶館」の内容を読んでみる。
	11	文化大革命期の文学・演劇	革命模範劇など文革期の作品を鑑賞し、その特質を探る	文化大革命について調べてみる
	12	高行健	中国語で創作する作家として最初にノーベル文学賞を受賞した高行健の作品について考える。	高行健の戯曲「バス停」の内容をまとめてみる。
	13	改革開放後の文学(1)	文化大革命終結後 1989年までの中国文学の流れをふりかえる。	天安門事件について調べてみる。
	14	改革開放後の文学(2)	六四天安門事件以後の中国文学の流れを振り返る	北京オリンピック、上海万博の文化的意義について考えてみる。
	15	まとめ	中国現代文学の流れをもう一度振り返る	中国現代文学の流れをもう一度まとめてみる。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国のシェイクスピア	瀬戸 宏	松本公房
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点および定期試験
----------	------------

学生へのメッセージ	激動する現代中国の背景にある中国現代文化の状況を知りたい学生の参加を歓迎します。中国語を受講していない学生の受講も歓迎します。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階(瀬戸研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	通訳・翻訳インドネシア・マレー語	科目名(英文)	Indonesian-Malay Interpretation and Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ, 山口 真佐夫

授業概要・目的	インドネシア語における専門的知識と能力を持った人材になるための授業を行う。需要が多いが、使える人が少ないインドネシア語の専門的人材になるための通訳、翻訳の技術を養う。この授業を通してインドネシア語能力の充実を目指す。
到達目標	インドネシア語の通訳、翻訳を専門的に行うことができる能力の習得。
授業方法と留意点	すでに3年間インドネシア語を学んできた上で、さらなる能力の向上を目指すのであれば、各受講生は自分で十分準備をしてから授業に望んでほしい。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語検定。 実践的なインドネシア語能力の習得。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価についての説明。(エニ レスタリ・山口担当)	シラバスを読んでおくこと。
	2	翻訳 1	翻訳に関する基本的な知識の説明。(山口担当)	翻訳に必要なものは何か、考えておくこと。
	3	翻訳 2	翻訳の練習 1 インドネシア語から日本語への翻訳練習 1。(山口担当)	翻訳内容の予習をしておくこと。
	4	翻訳 3	翻訳の練習 2 インドネシア語から日本語への翻訳練習 2。(山口担当)	翻訳内容の予習をしておくこと。
	5	翻訳 4	翻訳の練習 3 インドネシア語から日本語への翻訳練習 3。(山口担当)	翻訳内容の予習をしておくこと。
	6	翻訳 5	翻訳の練習 4 日本語からインドネシア語への翻訳練習 1。(山口担当)	翻訳内容の予習をしておくこと。
	7	翻訳 6	翻訳の練習 5 日本語からインドネシア語への翻訳練習 2。(山口担当)	翻訳内容の予習をしておくこと。。
	8	翻訳 7	翻訳の練習 6 日本語からインドネシア語への翻訳練習 3。(山口担当)	翻訳内容の予習をしておくこと。
	9	ナレーションの通訳 ①	インドネシア語から日本語。(エニ レスタリ担当)	内容の復習。
	10	ナレーション通訳 ②	日本語からインドネシア語。(エニ レスタリ担当)	内容の復習。
	11	9回～10回までのまとめ	これまでに学んだことの復習通訳テスト。(エニ レスタリ担当)	内容の復習。
	12	実践的な会話場面の通訳	インドネシア語から日本語。(エニ レスタリ担当)	内容の復習。
	13	ニュースの通訳①	インドネシア語から日本語。(エニ レスタリ担当)	内容の復習。
	14	ニュースの通訳	日本語からインドネシア語	第9回から第13回の復習をしておくこと。
	15	12回～14回までのまとめ	これまでに学んだことの復習テスト。(エニ レスタリ担当)	この授業に関する質問を用意しておくこと。

関連科目	主言語インドネシア語の科目すべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	前半に2回提出する翻訳文、後半に2回行われる理解度テストおよび平常点と積極的な授業参加度の度合いなどを総合的に判断する。
学生へのメッセージ	4年間のインドネシア語学習の完成を目指して、努力をしてほしい。
担当者の研究室等	7号館5階 山口室 7号館2階 (非常勤講師室)
備考	指示された予習・復習には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。



科目名	ツーリズム論 I	科目名 (英文)	Tourism I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	原 秀禎

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコツーリズムの意味とその歴史的な発展過程を明らかにする。</li> <li>・海外におけるエコツーリズムの4つの事例を考察する。</li> <li>・日本におけるエコツーリズムの4つの事例を考察する。</li> <li>・エコツーリズムの効果と環境保全との関係を分析する。</li> <li>・グループでエコツアーの企画を行う。</li> </ul> <p>※2015年度入学生には、観光ホスピタリティプログラム科目の一つです</p>
到達目標	エコツーリズムの発展過程を理解し、エコツアーの実態を把握する。エコツアーと観光産業との関係を明らかにし、観光関連業界で働くにはどうしたら良いのか、どういう意識を持てば良いのか等就業意識を高める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布プリントを中心に、エコツアーについて解説する。</li> <li>・ビデオ教材を毎回使用し、具体的な地域像を把握できるように努めたい。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	観光業や観光産業を学習・理解することによって、将来の職業選択の材料として役立てることが出来る (旅行業務取扱管理者)。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション エコツーリズムとは何か	授業方法・到達点の説明。 エコツーリズムの定義。	エコツーリズムの定義をまとめる。
	2	エコツーリズムの歴史	エコツーリズムの歴史を明らかにし、その発展過程を考察する。	エコツーリズムの歴史をまとめる。
	3	海外におけるエコツーリズムの事例①	ガラパゴス諸島におけるエコツーリズムの事例を紹介し、その実態を明らかにする。	ガラパゴスにおけるエコツアーの実態をまとめる。
	4	海外におけるエコツーリズムの事例②	オーストラリアにおけるエコツーリズムの事例を紹介し、その実態を明らかにする。	オーストラリアにおけるエコツアーの実態をまとめる。
	5	海外におけるエコツーリズムの事例③	スイスにおけるエコツーリズムの事例を紹介し、その実態を明らかにする。	スイスにおけるエコツアーの実態をまとめる。
	6	海外におけるエコツーリズムの事例④	イギリスにおけるエコツーリズムの事例を紹介し、その実態を明らかにする。	イギリスにおけるエコツアーの実態をまとめる。
	7	日本におけるエコツーリズムの事例①	小笠原諸島におけるエコツーリズムの事例を紹介し、その実態を明らかにする。	小笠原諸島におけるエコツアーの実態をまとめる。
	8	日本におけるエコツーリズムの事例②	屋久島におけるエコツーリズムの事例を紹介し、その実態を明らかにする。	屋久島におけるエコツアーの実態をまとめる。
	9	日本におけるエコツーリズムの事例③	北海道知床におけるエコツーリズムの事例を紹介し、その実態を明らかにする。	知床におけるエコツアーの実態をまとめる。
	10	日本におけるエコツーリズムの事例④	沖縄県西表島におけるエコツーリズムの事例を紹介し、その実態を明らかにする。	西表島におけるエコツアーの実態をまとめる。
	11	エコツーリズムの効果と環境保全	エコツアーの種類とその例を類型化し、環境保全とどのように関係するか明らかにする。	環境保全の実情をまとめる。
	12	エコツーリズムの企画①	グループで企画を立てるツアー地の選定を行う。	ツアー地を選定する。
	13	エコツーリズムの企画②	エコツアー資料の収集法を解説する。	ツアー資料の収集を行う。
	14	エコツーリズムの企画③	エコツアー実施の方法と企画書の作成を行う。	ツアー企画書を作成する。
	15	エコツーリズムの企画発表	グループに分かれて企画案を発表する。	グループで発表する。

関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目 (～2014年度入学生) 観光ホスピタリティプログラム科目 (2015年度入学生)
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新観光地理学	山村順次	大命堂
	2	エコツーリズム推進法の解説	愛知和男・盛山正仁	ぎょうせい
	3	エコツーリズム	環境省	日本交通公社

評価方法 (基準)	小テストの成績、レポート評価を基本に、講義参加姿勢等も考慮して総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布プリントを中心に教科書を併用して、各国別に解説する。</li> <li>・ビデオ教材を毎回使用し、具体的な東南アジア像を把握できるように努めたい。</li> <li>・事前・事後に各1時間の学修を要する。</li> </ul>
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 (原研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	ツーリズム論Ⅱ	科目名(英文)	Tourism II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩崎 裕司

授業概要・目的	観光産業に関する基本的な事業知識やその実態について学習する。 また、世界遺産についても危機遺産や無形文化遺産などについて解説する。
到達目標	旅行業をはじめとする観光関連業界で働くための知識や、どういう意識を持てば良いのか等、就業意識や社会で働く力を高める事を目標とする。
授業方法と留意点	主にパワーポイントを使用する授業となる。 教科書は特に指定しないが、よく授業が理解できるように、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については随時受け付ける。また、授業終了時に毎回提出するレポートに質問を記入することも可。 受講に当たっては、日ごろから観光に関する報道(新聞、TVニュース等)に関心を払う事。
科目学習の効果(資格)	観光産業を学習、理解する事により、将来の進路決定をするにあたりひとつの判断材料として役立てることが出来る(特に公的資格には直接繋がらない)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などを説明する。	特になし。
2	観光資源(世界遺産)	世界遺産を深く理解していく。無形文化遺産、世界危機遺産や負の遺産と言われている世界遺産などについても詳しく解説する。	関連する新聞・ニュース報道等に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努めること。
3	観光資源の保護①	観光資源を如何にして保護していくのか。今までの経緯も含めて学習していく。 また、資源を保護するために制定された法律も学ぶ。 1. 自然、観光資源の保護の歴史的背景 2. 「自然公園法」による保護	関連する新聞・ニュース報道等に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努めること。
4	観光資源の保護②	前回到続き、観光資源の保護するために制定された法律や民間の活動も学ぶ。 3. 「文化財保護法」による保護 4. 歴史的景観の保護(「古都保存法」) 5. 景観保全(「景観法」) 6. 民間の活動	関連する新聞・ニュース報道等に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努めること。
5	日本の観光政策(歴史と課題)	成長戦略として期待される観光業の果たすべき役割と観光立国として目指すべき道について説明する。	関連する新聞・ニュース報道等に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努めること。
6	日本の観光政策(外客誘致)	少子高齢化が進み国内消費が振るわない中、訪日外国人を増やす方策と工夫が外貨獲得の大きな鍵となる。2020年の東京オリンピックに向けて、外国人にとって魅力ある観光地づくりについて講義する。	関連する新聞・ニュース報道等に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努めること。
7	日本の様々な観光旅行	修学旅行や新婚旅行など我が国特有の観光旅行や将来の旅行の在り方まで学習する。	関連する新聞・ニュース報道等に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努めること。
8	旅行業(旅行代理店の実態)	観光産業の主役である旅行業の実務について深く学習する。旅行業の役割と機能について説明し、旅行代理店の実態をわかりやすく解説する。	関連する新聞・ニュース報道等に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努めること。
9	旅行業(課題と将来)	旅行代理店の事例を取り上げ、直面している課題やその対応策を学習し、さらに旅行業の将来を展望する。	関連する新聞・ニュース報道等に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努めること。
10	リゾート法とテーマパーク	1987年に制定されたリゾート法が、観光産業にもたらした影響を学ぶ。また、東京ディズニーランドやユニバーサルスタジオリゾートなどテーマパークについても成功例、失敗例を解説する。	関連する新聞・ニュース報道等に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努めること。
11	観光関連産業(航空)	格安航空の就航が本格化してきた昨今の航空業界。最近の日本の航空情勢から将来のあり方までを説明する。	関連する新聞・ニュース報道等に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努めること。
12	観光関連産業(鉄道)	観光と深い関わりを持つ鉄道について、JRや私鉄の生き残りにかけての工夫や努力について深く解説する。また、世界遺産に登録されている鉄道も紹介。	関連する新聞・ニュース報道等に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努めること。
13	観光関連産業(クルーズ)	クルーズ後進国と言われる我が国において、その現状と課題について学習し、将来何をなすべきかを解説する。	関連する新聞・ニュース報道等に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努めること。
14	観光関連産業(バス・その他)	観光産業を支えるバス事業について歴史と現状について学習する。また、観光施設、観光土産品と土産品業など観光に関連する様々な産業の実態と課題について学習する。	関連する新聞・ニュース報道等に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努めること。
15	観光マーケティング	それぞれの観光関連産業が厳しい生存競争に生き残るために何をなさなければならないか、それぞれの分野のマーケティングについて議論する。	関連する新聞・ニュース報道等に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努めること。

関連科目	エアラインビジネス論 ホテルビジネス論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	観光読本	財団法人日本交通公社編	東洋経済社
	2	観光概論	今井成男他	ジェイティービー能力開発
	3	観光基礎学	羽田耕治監修	ジェイティービー能力開発
評価方法 (基準)	最低10回以上の出席を成績評価の条件とする。 定期試験、ミニテストの成績、小レポート評価を基本に、講義参加姿勢等も考慮して総合的に評価する。			
学生への メッセージ	訪日外国人の増加や2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、観光産業はますます重要な使命を担う産業となってきます。しかし、現状では環境問題や地域社会との融和もおおきなテーマとなっていることも事実です。 観光関連産業を将来の進路として考えている学生諸君はもちろん、そうでない学生諸君にも興味深く参考になる内容です。一緒に研究しましょう。 旅行が好きになる講義です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 (エアライン・ホスピタルプログラムルーム)			
備考				

科目名	ディスプレイ論	科目名(英文)	Museum Display Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	毛呂 祐子

授業概要・目的	この授業は、博物館における展示の歴史、展示メディア、展示関連の教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法を学びます。
到達目標	博物館の展示に関する基礎的な知識と技術を習得することを目標とします。
授業方法と留意点	博物館における展示の概要、歴史を学び、実際にどのような展示が行われているのか、各種博物館の展示例を紹介し、展示計画から完成、評価までの一連の流れで基本的に必要な要素を学び、最終的には各自で展示パネルを作り発表します。また、授業の中で現在行われている展覧会や、博物館施設などを紹介するようにします。日頃から博物館施設を訪れ、さまざまな展示を見るように努めてください。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格認定のため必修の科目となります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	博物館における展示の役割	博物館における展示の役割について講義します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。
2	博物館における展示と展示論の歴史	博物館における展示と展示論の歴史について講義します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。
3	展示の諸形態－館種別の展示例の紹介－	写真などを交えながら、博物館施設の展示例を紹介しします。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。
4	展示の諸形態－企画展例の紹介、他館との協力、展示業者など－	写真などを交えながら、さまざまな企画展を紹介しします。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。
5	展示の諸形態－博物館施設の見学－	実際に博物館施設の見学を行います。日程は最初の授業で発表します。	博物館施設への見学を行います。
6	展示設備－展示ケース、照明、展示備品について－	展示設備について紹介しします。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。その際、ケースや照明なども見るようにしてください。
7	展示設備－展示解説パネル、視聴覚装置、展示解説書などについて－	展示設備について紹介しします。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。その際、展示解説がどのように工夫されているか、視覚装置や音声ガイドはあるか、図録などの解説書はあるか、などについても気をつけて見てみてください。
8	展示設備－参加体験装置、人による解説について－	ワークショップなどの事例、ボランティア活動などの事例を紹介しします。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。その際、ワークショップなど参加できる事業を行っているか、ボランティアや展示解説員などがいるかなどについて見てみるとともに、可能なら参加するようにしてください。
9	新しい時代の展示－近年の潮流－	近年の展示について紹介しします。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。
10	展示パネルの製作	テーマを設定しますので、それについて調べます。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。その際、特に展示解説について考えてみてください。
11	展示パネルの製作	展示パネルに必要な情報を集め、どのようなパネルにするのかを考えます。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。その際、特に展示解説について考えてみてください。
12	展示パネルの製作	前回、企画した展示パネルをパソコンを使い形にしていきます。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。
13	展示パネルの展示	展示パネルの展示を行います。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。
14	展示パネルの展示	展示パネルの展示を行います。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。
15	総括。意見交換。	企画した展示パネルについて、意見の交換を行います。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。

関連科目	学芸員資格に必要な各科目。
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への出席、授業態度、レポートによって評価します。
----------	----------------------------

学生へのメッセージ	博物館の展示の様子は写真で紹介するだけではすべてはわかりません。多くの展示を鑑賞し、その空間を体感することが大事です。積極的に博物館施設を訪れ、その展示について考えるようにしてください。事前・事後に各1時間の学修時間を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	博物館施設の見学を行います。担当者は公益財団法人日本伝染織振興会で学芸員をしています。
----	---

科目名	ディスプレイ論	科目名(英文)	Concepts in Display
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	毛呂 祐子

授業概要・目的	この授業は、博物館における展示の歴史、展示メディア、展示関連の教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法を学びます。
到達目標	博物館の展示に関する基礎的な知識と技術を習得することを目標とします。
授業方法と留意点	博物館における展示の概要、歴史を学び、実際にどのような展示が行われているのか、各種博物館の展示例を紹介し、展示計画から完成、評価までの一連の流れで基本的に必要な要素を学び、最終的には各自で展示パネルを作り発表します。また、授業の中で現在行われている展覧会や、博物館施設などを紹介するようにします。日頃から博物館施設を訪れ、さまざまな展示を見るように努めてください。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格認定のため必修の科目となります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	博物館における展示の役割	博物館における展示の役割について講義します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。
2	博物館における展示と展示論の歴史	博物館における展示と展示論の歴史について講義します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。
3	展示の諸形態－館種別の展示例の紹介－	写真などを交えながら、博物館施設の展示例を紹介しします。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。
4	展示の諸形態－企画展例の紹介、他館との協力、展示業者など－	写真などを交えながら、さまざまな企画展を紹介しします。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。
5	展示の諸形態－博物館施設の見学－	実際に博物館施設の見学を行います。日程は最初の授業で発表します。	博物館施設への見学を行います。
6	展示設備－展示ケース、照明、展示備品について－	展示設備について紹介しします。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。その際、ケースや照明なども見るようにしてください。
7	展示設備－展示解説パネル、視聴覚装置、展示解説書などについて－	展示設備について紹介しします。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。その際、展示解説がどのように工夫されているか、視覚装置や音声ガイドはあるか、図録などの解説書はあるか、などについても気をつけて見てみてください。
8	展示設備－参加体験装置、人による解説について－	ワークショップなどの事例、ボランティア活動などの事例を紹介しします。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。その際、ワークショップなど参加できる事業を行っているか、ボランティアや展示解説員などがいるかなどについて見てみるとともに、可能なら参加するようにしてください。
9	新しい時代の展示－近年の潮流－	近年の展示について紹介しします。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。
10	展示パネルの製作	テーマを設定しますので、それについて調べます。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。その際、特に展示解説について考えてみてください。
11	展示パネルの製作	展示パネルに必要な情報を集め、どのようなパネルにするのかを考えます。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。その際、特に展示解説について考えてみてください。
12	展示パネルの製作	前回、企画した展示パネルをパソコンを使い形にしていきます。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。
13	展示パネルの展示	展示パネルの展示を行います。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。
14	展示パネルの展示	展示パネルの展示を行います。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。
15	総括。意見交換。	企画した展示パネルについて、意見の交換を行います。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れ、展示を鑑賞するようにしてください。

関連科目	学芸員資格に必要な各科目。
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業への出席、授業態度、レポートによって評価します。
----------	----------------------------

学生へのメッセージ	博物館の展示の様子は写真で紹介するだけではすべてはわかりません。多くの展示を鑑賞し、その空間を体感することが大事です。積極的に博物館施設を訪れ、その展示について考えるようにしてください。事前・事後に各1時間の学修時間を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	博物館施設の見学を行います。担当者は公益財団法人日本伝染病振興会で学芸員をしています。
----	---

科目名	ディベート	科目名(英文)	Debate
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	イロ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	住吉 誠

授業概要・目的	ディベートは「データや文献を根拠として」議論をする。授業ではあらかじめ用意された論題に対し、肯定と否定の両者の立場に別れ、試合形式でディベートを行う。事前に十分な下調べをし、証拠資料を集め、それらをまとめて発表に備える。また、発表の後では、相手からの反論を受付、その後に最終的な判定を行う。授業では下調べ、証拠資料の収集、調査の構築のプロセスを、特に丁寧に学び、英語でどのように論理的に事実や意見を述べる方法を身につける。
到達目標	与えられたトピックについて様々な点から考察し、そのトピックに対する賛成意見または反対意見を、データにもとづいて主張できる能力を身につける。 The aim of this course is for students to study a topic and be able develop an opinion and argue "for" or "against" this topic with another student or group of students.
授業方法と留意点	英字新聞の記事や海外のニュースなどに接して現代社会の諸問題を知り、批判的思考力を養う。 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	2	Exercises	pair work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Exercises	pair work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Exercises	pair work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises	project	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Exercises	group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Exercises	group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Exercises	group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises	project	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Exercises	group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Exercises	group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises	group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Exercises	self/peer evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Exercises	self/peer evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review	Feedback session	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを使用する。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業中に行うディベートのパフォーマンスを評価する。授業担当者だけでなく、受講者が行うディベート評価も総合評価に加える。
----------	---

学生へのメッセージ	グループでの作業が多くなるので、欠席してメンバーに迷惑をかけないようにすること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(住吉研究室)
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---

科目名	ディベート	科目名(英文)	Debate
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	ハニ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー

授業概要・目的	This is a topic-based debating course. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will debate a wide range of important current issues, selected from the areas of technology, science, culture, language, mobile communications and social issues.
科目学習の効果(資格)	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read up on the unit for the next class.
	2	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	3	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	4	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	5	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	6	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	7	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	8	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	9	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	10	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	11	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	12	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
	13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
	14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session.
15	Course review.	Feedback session	N/A	

関連科目	N/A
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Solutions: A Topic-based Communication and Discussion Text	Shawn Clankie, Yuki Maekawa, Masanobu Nakatsugawa, Tomohiro Endo	CENGAGE Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	Evaluation will be based on homework assignments, class participation and an end-of-semester presentation and debate.
----------	---

学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will achieve most from this course.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---

科目名	ディベート	科目名 (英文)	Debate
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	ホヘ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル

授業概要・目的	This course introduces a variety of topics for students to learn about, to discuss and debate. Students will think about and give their opinion on and debate things like: families, violence, friendship, dating, technology, vices, etc.
到達目標	The purpose of the course is to promote English fluency by having students think about and give their opinions in English.
授業方法と留意点	Students will do pair work, small group work, practice conversations, as well as listening exercises.
科目学習の効果 (資格)	The objective of the course is for students improve their fluency by considering topics and discussing their opinions about them with others in class.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction, class overview.	Self-Introductions, Text Intro	No preparation required.
	2	Unit 1. Elvis Is Alive	Conspiracy Theories	Pages 7-10
	3	Unit 3. Eating On The Train	Bad Manners In Public	Pages 15-18
	4	Unit 5. Tommy Has A Black-Eye	Bullying	Pages 23-26
	5	Unit 6. Are You A Pirate?	Illegal Downloading	Pages 27-30
	6	Unit 7. Is It OK To Watch?	Pornography	Pages 31-34
	7	Unit 8. How Much Did You Lose?	Gambling	Pages 35-38
	8	Unit 9. Are You Hungover?	Alcohol	Pages 39-42
	9	Unit 10. Wanna Try Some?	Illegal Drugs	Pages 43-46
	10	Unit 11. Are You Following Me?	Stalker	Pages 47-50
	11	Unit 12. Are You Free Tonight?	Sexual Harassment	Pages 51-54
	12	Unit 13. Sally Is Scared Of Mommy	Smacking Kids	Pages 55-58
	13	Unit 14. He Deserves To Die	Death Penalty	Pages 59-62
	14	Unit 15 Do You Like Boys Or Girls?	Gay	Pages 63-66
	15	Final Test.	Final Test.	Study for test.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Taboo Talk	Jonathan Lynch	CENGAGE Learning ISBN 978-4-86312-205-5
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書 Dictionary		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席授業参加態度 50% テスト 50%
-----------	-------------------------

学生へのメッセージ	To get a good grade active participation, a positive attitude towards learning and regular attendance is important..
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 7号館2階
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---



科目名	東南アジア史学	科目名 (英文)	Southeast Asian History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森田 良成

授業概要・目的	本講義では、タイやベトナムなど大陸部からインドネシアやマレーシアなど島嶼部に及ぶ広大な東南アジア地域の歴史を、先史時代から現代に至るまで通時的に概観する。
到達目標	複雑に展開してきた東南アジアの歴史を知ること、現代世界における東南アジア社会を理解するための基本的な視座を獲得する。
授業方法と留意点	プリントを配布する。映像資料を適宜用いる。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。
	2	東南アジアの基礎知識	東南アジアの地理的特徴、東南アジア諸国の政治・経済・文化的特徴	関連する文献を紹介するので読むこと。
	3	先史時代と初期の国家形成	交易国家の形成	関連する文献を紹介するので読むこと。
	4	諸王朝の盛衰 1	大陸部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。
	5	諸王朝の盛衰 2	島嶼部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。
	6	ヨーロッパ勢力の到来 1	交易の時代、港市国家の変容	関連する文献を紹介するので読むこと。
	7	ヨーロッパ勢力の到来 2	交易の時代、港市国家の変容	関連する文献を紹介するので読むこと。
	8	植民地支配の進行 1	オランダによる東インド支配	関連する文献を紹介するので読むこと。
	9	植民地支配の進行 2	イギリス植民地支配の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。
	10	植民地支配の進行 3	反植民地主義運動の展開	関連する文献を紹介するので読むこと。
	11	ナショナリズムの台頭と脱植民地化 1	独立と国家統合	関連する文献を紹介するので読むこと。
	12	ナショナリズムの台頭と脱植民地化 2	国民国家の誕生	関連する文献を紹介するので読むこと。
	13	東南アジアの現在 1	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。
	14	東南アジアの現在 2	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。
	15	まとめ +テスト	授業全体のまとめとテスト	関連する文献を紹介するので読むこと。

関連科目	国際文化概論 (アジア)、現代東南アジア論、アジア文化論など、東南アジアの社会・文化・歴史に関係するすべての科目。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『東南アジア史Ⅰ 大陸部』		山川出版社
	2	『東南アジア史Ⅱ 島嶼部』		山川出版社
	3			

評価方法 (基準)	授業の最終回に実施するテストから主に評価する。 そのほか、授業への積極的な参加・貢献などを総合的に評価し平常点として考慮する。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	東南アジア人類学	科目名(英文)	Anthropology in Southeast Asia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森田 良成

授業概要・目的	私たちの日常は、文化という意味の網の目に支えられてはじめて意味をもち、生きられるものとなっている。それゆえに、ある場所では疑う必要すら感じられない当たり前のことが、異なる文化を生きる人びとには驚きに満ちたものでありうる。文化人類学とは、このような文化について研究してきた学問である。この講義では、文化人類学が東南アジアを舞台として展開してきた議論を紹介していく。これらの議論を理解することで、東南アジアの生きた現実を新しくとらえなおすこと、さらに自分がこれまで慣れ親しんできたものの見方や考え方からいったん離れて、自らの文化と日常を新しくとらえなおすことを目指す。
到達目標	*現代東南アジアにおける文化や社会の動態についての視角を得る。 *文化人類学が提示してきた見方を事例の中で理解することができる。
授業方法と留意点	*講義形式で行う。授業の理解を助けるために映像資料を使用する。 *受講者にはペーパー等で適宜コメントを求める。ノートを写し、話を聞くだけではなくて、自分の考えたことを表現するよう努めること。
科目学習の効果(資格)	*異文化に対する眼差しを育てる。 *東南アジア地域の文化的な多様性についての知識を得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義概要を説明する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
2	文化人類学入門---その1	文化人類学の考え方と研究方法を説明する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
3	文化人類学入門---その2	文化人類学の考え方と研究方法を説明する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
4	政治---その1	主にインドネシアを事例として取り上げて、同国における政治の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
5	政治---その2	主にインドネシアを事例として取り上げて、同国における政治の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
6	経済---その1	主に東ティモールを事例として取り上げて、同国における経済の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
7	経済---その2	主に東ティモールを事例として取り上げて、同国における経済の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
8	復習---その1	第7講義までに取り上げた諸事例と文化人類学的なもの見方との関連を示すとともに、理解度を確かめる。	既習事項の確認
9	宗教---その1	主にタイを事例として取り上げて、同国における宗教文化の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
10	宗教---その2	主にタイを事例として取り上げて、同国における宗教文化の諸相を概観する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
11	民族---その1	東南アジア地域の諸民族集団の概観を得る。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
12	民族---その2	民族という概念を検討する。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
13	伝統と近代---その1	東南アジア地域の人々の「いま」について、いくつかの民族誌的事例から考える。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
14	伝統と近代---その2	東南アジア地域の人々の「いま」について、いくつかの民族誌的事例から考える。	参考資料の該当部分を読んでおくこと。
15	復習---その2	第14講義までに取り上げた諸事例と文化人類学的なもの見方との関連を示すとともに、理解度を確かめる。	既習事項の復習。

関連科目	「文化人類学」「地域研究論」など。
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加の度合い(30%。毎回提出してもらったコメント、質問に対する回答などから判断する)と、授業期間中に行うテスト(70%)から総合的に判断する。詳細は初回授業で指示する。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	東南アジア地誌学	科目名(英文)	Southeast Asian Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	原 秀禎

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの国について、歴史的背景、工業、農業、貿易、交通、人口、都市、村落、観光、宗教、民族等を解説する。</li> <li>現在の観光問題や日系企業の海外進出、現地生産の状況、民族独立問題などについても言及していく。</li> <li>特に、東南アジア各国の首都と世界遺産について詳細に解説する。</li> <li>毎回ビデオ教材を多数使用し、具体的な各国紹介を行う。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>東南アジア各国の現況を理解し、日本との関係を把握する。</li> <li>東南アジアの世界遺産と観光について理解する。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>配布プリントを中心に教科書を併用して、各国別に解説する。</li> <li>ビデオ教材を毎回使用し、具体的な東南アジア像を把握できるように努めたい。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	東南アジア各国の現況を把握できる。旅行業界に就職を希望する学生諸君にとっては、地理的知識の修得につながる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	東南アジアの地域区分	自然・人文環境による地域区分、各国の分布	地域区分を整理する
	2	メコンデルタの開発とベトナム	ベトナム戦争後の復興とドイモイ政策、エビ養殖の現状、世界遺産と観光	ベトナムの特色をまとめる
	3	内陸国ラオス	ラオスの農業と開放政策、熱帯林の伐採問題、世界遺産と観光	ラオスの特色をまとめる
	4	クメール文化とカンボジア	内戦の終結と地雷撤去問題、アンコールワットの観光問題、世界遺産と観光	カンボジアの特色をまとめる
	5	小乗仏教の国タイ	タイの工業化とエイズ問題、リゾート開発とブーケット、世界遺産と観光	タイの特色をまとめる
	6	ヒンズー文化とミャンマー	軍事政権とスーチャーさん問題、首都移転と経済	ミャンマーの特色をまとめる
	7	第1回から第6回までのまとめと理解度確認テスト	第1回から第6回までのまとめを行った後、理解度を確認するためのテストを実施する。	解答できなかった内容を復習する
	8	半島国マレーシアとプランテーション	ルックイースト政策と工業化、ペナン島・ランカウイ島の観光開発、世界遺産と観光	マレーシアの特色をまとめる
	9	ビジネスセンターとしてのシンガポール	工業化と観光、シンガポール開発とラッフルズホテル	シンガポールの特色をまとめる
	10	集団島嶼群フィリピン	出稼ぎ問題と工業化、日比混血児問題、世界遺産と観光	フィリピンの特色をまとめる
	11	石油国家ブルネイ	石油開発と市民生活、観光開発の現状	ブルネイの特色をまとめる
	12	回教徒の国インドネシア I	工業開発と東チモール問題、世界遺産と観光	インドネシアの特色をまとめる
	13	回教徒の国インドネシア II	バリ島の観光とテロ問題	バリ観光の特色をまとめる
	14	第8回から第13回までのまとめと理解度確認テスト	第8回から第13回までのまとめを行った後、理解度を確認するためのテストを実施する。	解答できなかった内容を復習する
	15	理解度確認テストの結果を踏まえ、全体を総括する。	東南アジア地域の特色と地域性	東南アジアの地域性を整理する

関連科目	風土と地理、地域環境論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2016・データブック・オブ・ザ・ワールド	二宮健二	二宮書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	東南アジアの自然	高谷好一	弘文堂
	2	東南アジアの自然と土地利用	岩田慶治・他	勁草書房
	3			

評価方法(基準)	2回の理解度確認テストの成績を中心に、授業参加、講義態度も加味して、総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	板書した内容だけでなく、口頭で説明した内容やビデオの内容もしっかり要約して、メモする習慣をつけてください。事前・事後に各1時間の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階(原研究室)
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	東南アジア文化論	科目名(英文)	Southeast Asian Cultural Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子

授業概要・目的	古来から現在に至るまで諸文化が交流するいっぽう、言語・音楽・舞踊・料理をはじめ、独自の文化と資源の豊かな地域が東南アジアである。本授業ではおもに東南アジアの諸国を代表する映画監督の作品やさまざまな映像をとりあげて鑑賞しつつ、作品内容の背景や作品をより理解するために必要な事項をとりあげる。 後半では大島渚監督の作品『戦場のメリークリスマス』をとりあげる。
到達目標	1. 東南アジア世界の多様性、言語をはじめとするさまざまな文化、近代史にかんする知識を得る。 2. 東南アジア世界と他地域間との関連を理解する。
授業方法と留意点	本授業は映像資料を多用するが単なる映画鑑賞会ではない。 受講生には課題が課され、随時、小レポートも課される。 積極的に知識を深めることも求める。 また疑問点については必ずメモをとり、調べることを。
科目学習の効果(資格)	東南アジア文化の多様性を理解する。 異文化理解や多文化共生に必要な相対的視野を養う。 論理的思考力、情報リテラシー能力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	プロローグ	授業の進め方や成績評価法、プレゼンテーションなど、留意点の説明を行なう。	授業の進め方に対する質問や要望を事前に考えておくこと。
2	映画『ILO ILO ぬくもりの記憶』1	1. シンガポール 2. 聞こえてくる言語、使われている言語 3. 「外国人」メイドをとりまく諸相	紹介した参考文献を読んでおくこと
3	映画『ILO ILO ぬくもりの記憶』2	アジア経済危機	紹介した参考文献を読んでおくこと
4	映画『牢獄処刑人』1	1. フィリピン 2. メジャーとインディペンデント 3. シネマラヤ	紹介した参考文献を読んでおくこと
5	映画『牢獄処刑人』2	1. ハリウッドとリメイク権 2. 刑務所とエンターテイメント	紹介した参考文献を読んでおくこと
6	映画『ブンミおじさんの森』1	1. タイ 2. イサーン地方 3. 死生観	紹介した参考文献を読んでおくこと
7	映画『ブンミおじさんの森』2	アートプロジェクト	紹介した参考文献を読んでおくこと
8	映画『消えた画 クメール・ルージュの真実』1	1. 東南アジアにおける人形劇 2. カンボジア	紹介した参考文献を読んでおくこと
9	映画『消えた画 クメール・ルージュの真実』2	1. プロバガンダ 2. 消失してしまった文化	紹介した参考文献を読んでおくこと
10	ヤスミン・アフマド監督のCM作品	1. マレーシア 2. さまざまな人びと 3. 聞こえてくる言語、使われている言語	紹介した参考連文獻を読んでおくこと
11	ケチャとウォルター・シュピース	1. インドネシア 2. パイ・ミュージカルティ 3. 日本とケチャ 4. 創造的音楽学習	紹介した参考文献を読んでおくこと
12	映画『戦場のメリークリスマス』1	1. 2. 26事件 2. 第二次世界大戦 3. インドネシア 4. 朝鮮人軍属	紹介した参考文献を読んでおくこと
13	映画『戦場のメリークリスマス』2	1. オランダ人従軍慰安婦 2. ジュネーヴ条約 3. 「トカゲ」	紹介した参考文献を読んでおくこと
14	映画『戦場のメリークリスマス』3	1. BC級戦犯 2. チャンギ刑務所 3. ルイス・マウントパッテン 4. 東南アジア	紹介した参考文献を読んでおくこと
15	プレゼンテーション	全授業の復習	全授業の復習

関連科目 東南アジア関連の科目、「地域研究論」「文化人類学」など社会学系の科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) プレゼンテーション(30%)  
小レポート(40%)

	課題(30%) 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生への メッセージ	積極的な態度で映画から「東南アジア」に近づいてみてください。 受講者各自でも文献や書籍、情報を探し求め、知見を深めてください。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	.授業時間外での質問や要望は、毎週木曜と金曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。

科目名	トピック スタディーズ I	科目名 (英文)	Topic Studies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アレク ニール

授業概要・目的	Teacher and students will select current news topics related to the USA and Japan. Students will have the choice in what find. One goal of this class is to improve the way students work in a team to edit what topics fit together.
到達目標	Teacher will bring in one topic a week and students bring in another related topic the following week. Student teams will decided by themselves what role they have in presening what their team found.
授業方法と留意点	It is expected that students will be able to find, list and discuss topics that are meaningful to them.
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	2	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	3	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	4	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	5	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	6	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	7	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	8	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	9	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	10	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	11	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	12	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	13	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	14	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	15	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Teacher worksheets and short news stories from Japan Today		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grades are based on team work presentations and teacher worksheets.
-----------	---

学生へのメッセージ	Student participation on their team are the keys to success in this class. You work on a team of three students. Who will have the job of finding? Who will have the job of showing the topic? Who will have the job of talking? You will have to decide what you do on your team.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---------------------------------------

科目名	トピック スタディーズ I	科目名 (英文)	Topic Studies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋

授業概要・目的	国内外の映画・ドラマ作品を英語で読解し、自分たちでアレンジを加えながらスクリプトを作成し、実際に演じる/演出して、オリジナルの英語ムービーを作成する。 インプット（リーディング・リスニング）・アウトプット（スピーキング・ライティング）連動型の授業を行う。																																																																		
到達目標	ただ漠然と対象作品を英語を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりするのではなく、自分たちが演じる/演出することを想定しながら、英文をインプット・アウトプットできるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	グループでの作業が多くなるので、協調性と責任感を持って、授業に臨むこと。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の実施方法や評価方法など</td> <td>既存のムービーを鑑賞する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>寸劇（1）</td> <td>演技や演出を学ぶ</td> <td>演技・演出法を予習・復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>寸劇（2）</td> <td>演技や演出を学ぶ</td> <td>演技・演出法を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>動画編集</td> <td>動画編集方法を学ぶ</td> <td>動画編集方法を予習・復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ペアで動画作成</td> <td>1, 2分程度の動画を制作する</td> <td>動画編集方法を予習・復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ショートムービーを制作する（1）</td> <td>5分程度の英語ムービー作品を制作する</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ショートムービーを制作する（2）</td> <td>5分程度の英語ムービー作品を制作する</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ショートムービーを制作する（3）</td> <td>5分程度の英語ムービー作品を制作する</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ショートムービー上映会</td> <td>自分や他人が制作したムービーを見て、振り返りを行う</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ムービー制作活動（1）</td> <td>10分程度の英語ムービー作品を制作する</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ムービー制作活動（2）</td> <td>10分程度の英語ムービー作品を制作する</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ムービー制作活動（3）</td> <td>10分程度の英語ムービー作品を制作する</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ムービー制作活動（4）</td> <td>10分程度の英語ムービー作品を制作する</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ムービー制作活動（5）</td> <td>10分程度の英語ムービー作品を制作する</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ムービー披露会を行う</td> <td>自分や他人が制作したムービーを見て、振り返りを行う</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の実施方法や評価方法など	既存のムービーを鑑賞する	2	寸劇（1）	演技や演出を学ぶ	演技・演出法を予習・復習する	3	寸劇（2）	演技や演出を学ぶ	演技・演出法を復習する	4	動画編集	動画編集方法を学ぶ	動画編集方法を予習・復習する	5	ペアで動画作成	1, 2分程度の動画を制作する	動画編集方法を予習・復習する	6	ショートムービーを制作する（1）	5分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	7	ショートムービーを制作する（2）	5分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	8	ショートムービーを制作する（3）	5分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	9	ショートムービー上映会	自分や他人が制作したムービーを見て、振り返りを行う	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	10	ムービー制作活動（1）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	11	ムービー制作活動（2）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	12	ムービー制作活動（3）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	13	ムービー制作活動（4）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	14	ムービー制作活動（5）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	15	ムービー披露会を行う	自分や他人が制作したムービーを見て、振り返りを行う	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の実施方法や評価方法など	既存のムービーを鑑賞する																																																																
2	寸劇（1）	演技や演出を学ぶ	演技・演出法を予習・復習する																																																																
3	寸劇（2）	演技や演出を学ぶ	演技・演出法を復習する																																																																
4	動画編集	動画編集方法を学ぶ	動画編集方法を予習・復習する																																																																
5	ペアで動画作成	1, 2分程度の動画を制作する	動画編集方法を予習・復習する																																																																
6	ショートムービーを制作する（1）	5分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
7	ショートムービーを制作する（2）	5分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
8	ショートムービーを制作する（3）	5分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
9	ショートムービー上映会	自分や他人が制作したムービーを見て、振り返りを行う	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
10	ムービー制作活動（1）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
11	ムービー制作活動（2）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
12	ムービー制作活動（3）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
13	ムービー制作活動（4）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
14	ムービー制作活動（5）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
15	ムービー披露会を行う	自分や他人が制作したムービーを見て、振り返りを行う																																																																	
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	ムービー制作活動 80% 課題 20%																																																																		
学生へのメッセージ	グループワークが基本になります。協調性を持って、クオリティーの高い作品を完成させましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室																																																																		
備考	授業以外にも、グループメンバーで集まってムービー制作活動を行う必要があります。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																																																																		

科目名	トピック スタディーズ I	科目名 (英文)	Topic Studies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー

授業概要・目的	This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果 (資格)	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read up on the unit for the next class.
	2	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	3	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	4	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	5	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	6	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	7	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	8	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	9	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	10	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	11	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	12	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
	13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
	14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session.
15	Course review.	Feedback session	N/A	

関連科目	N/A
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN' UN-DO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on homework assignments, class participation and quizzes.
-----------	--

学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will achieve most from this course.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---



科目名	トピック スタディーズ I	科目名 (英文)	Topic Studies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	サトラー トニー

授業概要・目的	四技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）を総合的に伸ばすことで英語運用能力の基礎を身につけます。
到達目標	日常、アカデミックなコミュニケーション活動に対応できる四技能の習得をめざします。
授業方法と留意点	Individually as well as in pairs/small groups, students will practice English listening, speaking, reading and writing skills. Students will also develop the skills needed in order to take greater responsibility for their own learning.
科目学習の効果（資格）	This is a beginner-low intermediate level class that will help students develop and improve their English listening, speaking, reading, writing, and thinking skills

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Course orientation, textbook preview, grammar/vocab check.	Students should buy the textbook
	2	Chapter 1 Food	Talking about food. Kinds of food in other countries.	Preview vocabulary
	3	Chapter 1 continued.	Agreeing and disagreeing with other's opinions.	Preview vocabulary
	4	Chapter 2 Festivals	Talking about festivals. Making and responding to suggestions. Review U1-2.	Preview vocabulary
	5	Chapter 3 Cities	Talking about cities. Good points and problems of cities.	Preview vocabulary
	6	Chapter 4 Jobs	Talking about jobs, both now and in the future. Review U3-4	Preview vocabulary
	7	Chapter 5 Music	Talking about music around the world.	Preview vocabulary
	8	Chapter 5 continued	Giving reasons using 'because'. Writing a song.	Preview vocabulary
	9	Mid-term exam	Mid-term exam	Review for exam
	10	Chapter 6 Journeys	Talking about travel and dream holidays. Review U5-6. Review mid-term exam.	Preview vocabulary
	11	Chapter 7 Family	Talking about families. Showing that one is interested.	Preview vocabulary
	12	Chapter 8 Nature	Talking about adventure travel. Talk about the pros and cons of different destinations. Review U7-8	Preview vocabulary
	13	Chapter 9 Happiness	Talking about happiness. Comparing and contrasting two things.	Preview vocabulary
	14	Chapter 10 Conservation	Talking about endangered species. Think about problems/solutions. Review 9-10. Preview final exam.	Preview vocabulary
	15	Final exam	Final exam	Review for exam

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Inspire Level 2 ISBN 978-1-133-96368-4	Pamela Hartmann, Nancy Douglas, Andrew Boon	Cengage Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Dictionary		
	2			
	3			

評価方法（基準）	Attendance/attitude/effort (30%), Mid-semester test (20%), End of semester test (30%), Homework, small tests and quizzes (20%)
----------	--

学生へのメッセージ	To get a good grade for this class, students should keep in mind the following: try to use English as much as possible, be courteous to one another and to the teacher and demonstrate a co-operative attitude to learning. Habitual lateness, sleeping in class, forgetting to bring the textbook, using cell phones other than as a learning aid, are examples of unacceptable behaviour and repeat offenders will receive a lower grade or may find it difficult to pass this course. If a student forgets to bring his/her textbook to class, the student should make a copy from someone else's textbook. Students are expected to do assigned homework at home, by themselves. Failure to submit homework when it is due will result in a lower grade. If a student is absent, it is their responsibility to find out whether there was any homework given that lesson, and to catch up what they missed. Before the lesson, students should prepare by previewing the textbook, using a dictionary to check unknown vocabulary. After each lesson, students are expected to review the material which they have studied, do any homework which they have been given, and use language learning strategies to improve their English language skills. This could include things such as watching English language movies, reading different kinds of English language reading materials, keeping a diary, speaking English with their friends. Attendance is a very important part of assessment and students with poor attendance may find it difficult to pass the course. Small quizzes and homework exercises will be given regularly.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする
----	---

科目名	トピック スタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー

授業概要・目的	This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果 (資格)	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read up on the unit for the next class.
	2	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	3	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	4	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	5	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	6	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	7	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	8	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	9	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	10	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	11	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	12	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
	13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
	14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session.
15	Course review.	Feedback session	N/A	

関連科目	N/A
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN' UN-DO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on homework assignments, class participation and quizzes.
-----------	--

学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will achieve most from this course.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---

科目名	トピック スタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アライオン スレーター

授業概要・目的	This course is designed to help students express their opinions individually and collectively in a group context. The focus will be on current topics and using critical thinking for self expression.
到達目標	The goal of this course is for students to improve their opinion forming and expressing abilities. This includes speaking English with more confidence and learning how to back-up opinions and beliefs with more passion.
授業方法と留意点	The course will be divided into coverage of specific units as outlined in the textbook "Solutions". Since there are many topics to choose from, students and teacher will choose the topics as a group and decide the best ones for detailed coverage in class.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to learn to express their own opinions through critical thinking.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introductions about the class and course.	Student and teacher self and group introductions.	Students should preview vocabulary for the unit.
	2	Lesson 1 'Should the university academic year begin in September?'	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	3	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	4	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	5	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	6	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	7	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	8	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	9	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	10	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	11	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	12	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	13	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.
	14	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit.

	15	Final Test	Students will select several topics and write about the advantages or disadvantages of each while supporting their opinions.	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Grading will be based on regular attendance, class participation and a final test.			
学生への メッセージ	We will learn to express our ideas about interesting topics such as cyber money, drinking and driving, etc. and learn strategies in forming original opinions.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 7号館2階			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	トピック スタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	サトラー トニー

授業概要・目的  
四技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）を総合的に伸ばすことで英語運用能力の基礎を身につけます。

到達目標  
日常、アカデミックなコミュニケーション活動に対応できる四技能の習得をめざします。

授業方法と留意点  
Each lesson students will read high-interest, authentic reading passages such as newspaper and magazine articles, personal essays, textbook chapters, book excerpts, and on-line discussions. Comprehension questions will check how well students understood the information in a reading. There are also discussion questions where students, either in pairs or small groups, will be asked to think about and discuss with each other the issues raised by the passage. In addition to the two exams, there will also be 10 small quizzes/tests throughout the course to measure students reading skills, and vocabulary/grammar knowledge.

科目学習の効果（資格）  
To improve students English reading, thinking, and speaking skills.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Course orientation, textbook preview, grammar/vocab check.	Students should buy the textbook
2	Chapter 1	Scanning, taking notes, synonyms.	Preview vocabulary
3	Chapter 2	Previewing, taking notes, suffixes (-ly). Quiz	Preview vocabulary
4	Chapter 3	Scanning, taking notes, learning word forms. Quiz	Preview vocabulary
5	Chapter 4	Previewing, using adjectives and adverbs, using direct and indirect objects. Quiz	Preview vocabulary
6	Chapter 5	Predicting, identifying cause and effect, using prefixes (re-). Quiz	Preview vocabulary
7	Chapter 6	Previewing, understanding the order of events, learn word forms, indefinite pronouns. Quiz	Preview vocabulary
8	Chapter 7	Predicting, using context clues, prefixes (un-), review for mid-term exam. Quiz	Preview vocabulary
9	Mid-term exam	Mid-term exam	Review for exam
10	Chapter 8	Review of exam. Identifying main ideas and details, learn word forms and signal words. Quiz	Preview vocabulary
11	Chapter 9	Previewing, understanding the order of events, learn word forms, time expressions. Quiz	Preview vocabulary
12	Chapter 10	Scanning, inferencing, using (ing) form of verbs, signal words. Quiz	Preview vocabulary
13	Chapter 11	Recognizing context clues, event order, signal words, inferencing. Quiz	Preview vocabulary
14	Chapter 12	Previewing, understanding event order, suffixes (-al, -ful, -ive), preview final exam	Preview vocabulary
15	Final exam	Final exam	Review for exam

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Select Readings Elementary 2nd Edition ISBN 978-0-19-433223-1	Linda Lee	Oxford Uni Press
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Dictionary		
2			
3			

評価方法（基準）  
Attendance/attitude/effort (20%), Mid-semester test (20%), End of semester test (30%), Homework, small tests and quizzes (30%)

学生へのメッセージ  
To get a good grade for this class, students should keep in mind the following: try to use English as much as possible, be courteous to one another and to the teacher and demonstrate a co-operative attitude to learning. Habitual lateness, sleeping in class, forgetting to bring the textbook, using cell phones other than as a learning aid, are examples of unacceptable behaviour and repeat offenders will receive a lower grade or may find it difficult to pass this course. If a student forgets to bring his/her textbook to class, the student should make a copy from someone else's textbook. Students are expected to do assigned homework at home, by themselves. Failure to submit homework when it is due will result in a lower grade. If a student is absent, it is their responsibility to find out whether there was any homework given that lesson, and to catch up what they missed. Before the lesson, students should prepare by previewing the textbook, using a dictionary to check unknown vocabulary. After each lesson, students are expected to review the material which they have studied, do any homework which they have been given, and use language learning strategies to improve their English language skills. This could include things such as watching English language movies, reading different kinds of English language reading materials, keeping a diary, speaking English with their friends.

担当者の研究室等  
7号館2階  
非常勤講師室

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする

科目名	トピック スタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アレン ニール

授業概要・目的	Teacher and students will select current news topics related to the USA and Japan. Students will have the choice in what find. One goal of this class is to improve the way students work in a team to edit what topics fit together.			
到達目標	Teacher will bring in one topic a week and students bring in another related topic the following week. Student teams will decided by themselves what role they have in presening what their team found.			
授業方法と留意点	It is expected that students will be able to find, list and discuss topics that are meaningful to them.			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	2	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	3	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	4	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	5	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	6	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	7	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	8	Current events collected from teams	Pair and Team work	
	9	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	10	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	11	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	12	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	13	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	14	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	15	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Teacher worksheets and short news stories from Japan Today and Japan Times.		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Current interesting events from the USA and Japan. The Japan Times, Asahi Shinbun and others.			
学生へのメッセージ	Student participation on their team are the keys to success in this class. You work on a team of three students. Who will have the job of finding? Who will have the job of showing the topic? Who will have the job of talking? You will have to decide what you do on your team.			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	Grades are based on team work presentations and teacher worksheets. 配布資料の読み込みなど、事前・事後学習はおおよそ15時間程度とする。			

科目名	トピック スタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アレン ニール

授業概要・目的	Teacher and students will select current news topics related to the USA and Japan. Students will have the choice in what find. One goal of this class is to improve the way students work in a team to edit what topics fit together.			
到達目標	Teacher will bring in one topic a week and students bring in another related topic the following week. Student teams will decided by themselves what role they have in presening what their team found.			
授業方法と留意点	It is expected that students will be able to find, list and discuss topics that are meaningful to them.			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	2	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	3	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	4	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	5	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	6	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	7	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	8	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	9	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	10	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	11	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	12	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	13	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	14	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
	15	Current events collected from teams	Pair and Team work	Selecting and editing this week's topic reports
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Teacher worksheets and short news stories from Japan Today		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Grades are based on team work presentations and teacher worksheets.			
学生へのメッセージ	Student participation on their team are the keys to success in this class. You work on a team of three students. Who will have the job of finding? Who will have the job of showing the topic? Who will have the job of talking? You will have to decide what you do on your team.			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	トピック スタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋

授業概要・目的	国内外の映画・ドラマ作品を英語で読解し、自分たちでアレンジを加えながらスクリプトを作成し、実際に演じる/演出して、オリジナルの英語ムービーを作成する。 インプット（リーディング・リスニング）・アウトプット（スピーキング・ライティング）連動型の授業を行う。																																																																		
到達目標	ただ漠然と対象作品を英語を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりするのではなく、自分たちが演じる/演出することを想定しながら、英文をインプット・アウトプットできるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	グループでの作業が多くなるので、協調性と責任感を持って、授業に臨むこと。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の実施方法や評価方法など</td> <td>既存のムービーを鑑賞する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>寸劇（1）</td> <td>演技や演出を学ぶ</td> <td>演技・演出法を予習・復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>寸劇（2）</td> <td>演技や演出を学ぶ</td> <td>演技・演出法を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>動画編集</td> <td>動画編集方法を学ぶ</td> <td>動画編集方法を予習・復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ペアで動画作成</td> <td>1, 2分程度の動画を制作する</td> <td>動画編集方法を予習・復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ショートムービーを制作する（1）</td> <td>5分程度の英語ムービー作品を制作する</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ショートムービーを制作する（2）</td> <td>5分程度の英語ムービー作品を制作する</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ショートムービーを制作する（3）</td> <td>5分程度の英語ムービー作品を制作する</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ショートムービー上映会</td> <td>自分や他人が制作したムービーを見て、振り返りを行う</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ムービー制作活動（1）</td> <td>10分程度の英語ムービー作品を制作する</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ムービー制作活動（2）</td> <td>10分程度の英語ムービー作品を制作する</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ムービー制作活動（3）</td> <td>10分程度の英語ムービー作品を制作する</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ムービー制作活動（4）</td> <td>10分程度の英語ムービー作品を制作する</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ムービー制作活動（5）</td> <td>10分程度の英語ムービー作品を制作する</td> <td>セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ムービー披露会を行う</td> <td>自分や他人が制作したムービーを見て、振り返りを行う</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の実施方法や評価方法など	既存のムービーを鑑賞する	2	寸劇（1）	演技や演出を学ぶ	演技・演出法を予習・復習する	3	寸劇（2）	演技や演出を学ぶ	演技・演出法を復習する	4	動画編集	動画編集方法を学ぶ	動画編集方法を予習・復習する	5	ペアで動画作成	1, 2分程度の動画を制作する	動画編集方法を予習・復習する	6	ショートムービーを制作する（1）	5分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	7	ショートムービーを制作する（2）	5分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	8	ショートムービーを制作する（3）	5分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	9	ショートムービー上映会	自分や他人が制作したムービーを見て、振り返りを行う	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	10	ムービー制作活動（1）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	11	ムービー制作活動（2）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	12	ムービー制作活動（3）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	13	ムービー制作活動（4）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	14	ムービー制作活動（5）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする	15	ムービー披露会を行う	自分や他人が制作したムービーを見て、振り返りを行う	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の実施方法や評価方法など	既存のムービーを鑑賞する																																																																
2	寸劇（1）	演技や演出を学ぶ	演技・演出法を予習・復習する																																																																
3	寸劇（2）	演技や演出を学ぶ	演技・演出法を復習する																																																																
4	動画編集	動画編集方法を学ぶ	動画編集方法を予習・復習する																																																																
5	ペアで動画作成	1, 2分程度の動画を制作する	動画編集方法を予習・復習する																																																																
6	ショートムービーを制作する（1）	5分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
7	ショートムービーを制作する（2）	5分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
8	ショートムービーを制作する（3）	5分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
9	ショートムービー上映会	自分や他人が制作したムービーを見て、振り返りを行う	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
10	ムービー制作活動（1）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
11	ムービー制作活動（2）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
12	ムービー制作活動（3）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
13	ムービー制作活動（4）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
14	ムービー制作活動（5）	10分程度の英語ムービー作品を制作する	セリフを覚え、演出等を考える 動画編集をする																																																																
15	ムービー披露会を行う	自分や他人が制作したムービーを見て、振り返りを行う																																																																	
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	ムービー制作活動 80% 課題 20%																																																																		
学生へのメッセージ	グループワークが基本になります。協調性を持って、クオリティーの高い作品を完成させましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室																																																																		
備考	授業以外にも、グループメンバーで集まってムービー制作活動を行う必要があります。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																																																																		



科目名	トピック スタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー

授業概要・目的 This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.

到達目標 Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.

授業方法と留意点 Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.

科目学習の効果 (資格) An improvement in analytical and debating skills.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read up on the unit for the next class.
	2	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	3	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	4	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	5	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	6	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	7	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	8	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	9	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	10	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	11	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class.
	12	Unit exercises.	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
	13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate.
	14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session.
15	Course review.	Feedback session	N/A	

関連科目 N/A

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN' UN-DO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) Evaluation will be based on homework assignments, class participation and quizzes.

学生へのメッセージ Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will achieve most from this course.

担当者の研究室等 非常勤講師室(7号館2階)

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トピック スタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	サトラー トニー

授業概要・目的	四技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）を総合的に伸ばすことで英語運用能力の基礎を身につけます。
到達目標	日常、アカデミックなコミュニケーション活動に対応できる四技能の習得をめざします。
授業方法と留意点	Individually as well as in pairs/small groups, students will practice English listening, speaking, reading and writing skills. Students will also develop the skills needed in order to take greater responsibility for their own learning.
科目学習の効果（資格）	This is a beginner-low intermediate level class that will help students develop and improve their English listening, speaking, reading, writing, and thinking skills

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Course orientation, textbook preview, grammar/vocab check.	Students should buy the textbook
	2	Chapter 1 Food	Talking about food. Kinds of food in other countries.	Preview vocabulary
	3	Chapter 1 continued.	Agreeing and disagreeing with other's opinions.	Preview vocabulary
	4	Chapter 2 Festivals	Talking about festivals. Making and responding to suggestions. Review U1-2.	Preview vocabulary
	5	Chapter 3 Cities	Talking about cities. Good points and problems of cities.	Preview vocabulary
	6	Chapter 4 Jobs	Talking about jobs, both now and in the future. Review U3-4	Preview vocabulary
	7	Chapter 5 Music	Talking about music around the world.	Preview vocabulary
	8	Chapter 5 continued	Giving reasons using 'because'. Writing a song.	Preview vocabulary
	9	Mid-term exam	Mid-term exam	Review for exam
	10	Chapter 6 Journeys	Talking about travel and dream holidays. Review U5-6. Review mid-term exam.	Preview vocabulary
	11	Chapter 7 Family	Talking about families. Showing that one is interested.	Preview vocabulary
	12	Chapter 8 Nature	Talking about adventure travel. Talk about the pros and cons of different destinations. Review U7-8	Preview vocabulary
	13	Chapter 9 Happiness	Talking about happiness. Comparing and contrasting two things.	Preview vocabulary
	14	Chapter 10 Conservation	Talking about endangered species. Think about problems/solutions. Review 9-10. Preview final exam.	Preview vocabulary
	15	Final exam	Final exam	Review for exam

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Inspire Level 2 ISBN 978-1-133-96368-4	Pamela Hartmann, Nancy Douglas, Andrew Boon	Cengage Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Dictionary		
	2			
	3			

評価方法（基準）	Attendance/attitude/effort (30%), Mid-semester test (20%), End of semester test (30%), Homework, small tests and quizzes (20%)
----------	--

学生へのメッセージ	To get a good grade for this class, students should keep in mind the following: try to use English as much as possible, be courteous to one another and to the teacher and demonstrate a co-operative attitude to learning. Habitual lateness, sleeping in class, forgetting to bring the textbook, using cell phones other than as a learning aid, are examples of unacceptable behaviour and repeat offenders will receive a lower grade or may find it difficult to pass this course. If a student forgets to bring his/her textbook to class, the student should make a copy from someone else's textbook. Students are expected to do assigned homework at home, by themselves. Failure to submit homework when it is due will result in a lower grade. If a student is absent, it is their responsibility to find out whether there was any homework given that lesson, and to catch up what they missed. Before the lesson, students should prepare by previewing the textbook, using a dictionary to check unknown vocabulary. After each lesson, students are expected to review the material which they have studied, do any homework which they have been given, and use language learning strategies to improve their English language skills. This could include things such as watching English language movies, reading different kinds of English language reading materials, keeping a diary, speaking English with their friends. Attendance is a very important part of assessment and students with poor attendance may find it difficult to pass the course. Small quizzes and homework exercises will be given regularly.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする
----	---

科目名	トピック スタディーズⅡ	科目名 (英文)	Topic Studies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ

授業概要・目的 This course will focus on stories of Japanese who became famous abroad. Students will gain an appreciation for the efforts of Japanese who contributed greatly to the world outside of Japan.

到達目標 The goal of this course is to facilitate the improvement of English grammar, vocabulary, and pronunciation.

授業方法と留意点 We will read about famous Japanese and do various grammar and vocabulary-based tasks as well as speak about the topics we read.

科目学習の効果 (資格)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Introduction	pre-read next chapter's story
	2	Revival of Indian Buddhism	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	3	Revival of Indian Buddhism	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	4	Fighting Illiteracy in Vietnam	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	5	Saving Tuvalu	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	6	Raising HIV Awareness through Music	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	7	The Father of Bhutan Agriculture	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	8	Courage and the War Photographer	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	9	The First Japanese Bull Rider	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	10	The "Miracle Worker" Ophthalmologist	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	11	Principal with Passion	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	12	Award-winning Gardener	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	13	Lessening Bereaved Families' Pain	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	14	In Pursuit of Life-like Prosthetics	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	15	Cooking with Zest and Zeal Review	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Making a Difference	Takayuki Ishii et al.	Nan'un-do
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 50% Participation (attendance, effort, classroom manners)  
50% performance (grammar and vocabulary based exercises and quizzes; speaking tasks)

学生へのメッセージ You will need your textbook and writing materials for this class. Come see me anytime you need my help with anything.

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トピック スタディーズⅡ	科目名(英文)	Topic Studies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷脇 康子

授業概要・目的	日本語の「体重が増えた」は英語では“I put on weight.” このように日英語の構文にみられる表現法の違いに着目し、正しい英語表現を身につけることを目標にします。
到達目標	正しい英語の語法を理解し使いこなせるようになること。正しい語法に基づいて自然でひきしまった英語表現が言えたり書けたりできるようになること。
授業方法と留意点	テーマに即した短い対話の聞き取りと読解。 正文・非文の判読クイズ。 語法練習問題と解答。 テーマに即した英作文演習。
科目学習の効果(資格)	TOEIC スコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	誤りやすい比較表限	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
3	誤りやすい関係詞の使い方	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
4	誤りやすい接続詞の使い方	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
5	1～4回授業の総復習 確認テスト(1)	1～4回の授業内容の質問 確認テスト	確認テストの事前勉強
6	誤りやすい前置詞の使い方	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
7	日英語 主語の違い	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
8	日英語 語順の違い	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
9	日英語 態の違い	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
10	6～9回授業の総復習 確認テスト(2)	6～9回授業内容の質問 確認テスト	確認テスト事前勉強
11	日英語 否定表現の違い	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
12	誤りやすい和製英語	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
13	日英語 イディオムの違い	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
14	日英語 身体表現の違い	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
15	11～14回授業の総復習 確認テスト(3)	11～14回授業内容の質問 確認テスト	確認テスト事前勉強

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	確認テスト 60%、授業中の態度 20%、提出物 20%			
学生への メッセージ	授業中に英作の練習問題をしますので、英和。和英対応の電子辞書必携			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控え室			
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	トピック スタディーズⅡ	科目名(英文)	Topic Studies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アーサー ロングスン

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果(資格)	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Introduction, overview.	No preparation required. 準備は必要ありません。
	2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Preview vocabulary for pages 2-5.
	3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9.
	4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13.
	5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17.
	6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21.
	7	Unit 6 Individualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz.
	8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29.
	9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33.
	10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37.
	11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41.
	12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45.
	13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49.
	14	Special Topic.	To be announced.	No preparation required.
15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz.	

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法(基準)	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please make a copy before the class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室.
----------	---------------

備考	学生は予習・復習のために約15時間確保すること。
----	--------------------------

科目名	トピック スタディーズⅡ	科目名(英文)	Topic Studies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム

授業概要・目的	This course introduces a range of topics from around the world?including food, festivals, music and journeys?that provoke interest, inspire discussion, and ultimately broaden one's view of our diverse, global society. Knowledge and understanding of the world can not only inspire you to improve your home region, but they also make you more appreciative of it.
到達目標	Students will learn about topics from around the world, improving their English skills.
授業方法と留意点	This is a listening and speaking course with a little reading designed to create a richer speaking experience. A mixture of scripted and authentic audio provides opportunities for listening practice. Students' communicative competence is developed through guided pair and group discussion activities. Activity types include interviews, surveys, class presentations and projects, and encourage students to take their learning beyond the classroom. National Geographic video offers additional opportunities for developing listening comprehension and inspires discussion about the wondrous diversity of our planet.
科目学習の効果(資格)	To improve reading, writing and speaking skills in English. To gain a better understanding, appreciation and enjoyment of the world we live in.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Talking about food	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan a restaurant!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	2	Talking about festivals	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Organise a festival!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	3	Review 1 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	4	Talking about your city	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Finding city solutions.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	5	Talking about jobs	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Interview someone about their job.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	6	Review 2 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	7	Talking about music	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Write a song!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	8	Talking about travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan an expedition!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	9	Review 3 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	10	Talking about famous families	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Family debate!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	11	Talking about adventure travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Make a public Service Announcement.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	12	Review 4 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	13	Talking about happiness	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. How to be happy!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	14	Talking about endangered species	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Give a persuasive presentation.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	15	Review 5 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	None

関連科目 Completion of Topics Studies I is not a necessary requirement for this course.

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Top Notch TV	Joan Saslow	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) Class participation - 10%  
3-5 Short presentations - 90%

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7号館2F 非常勤講師室

備考 学生は予習・復習で約15時間を確保すること。

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーパー トッド

授業概要・目的	This course will focus on the effect that culture has on communication. We will examine the differences and similarities between Japanese culture and the cultures of other countries.
到達目標	You will achieve the following goals: 1. You will improve your English speaking and writing skills. 2. You will improve your ability to support your ideas with evidence. 3. You will improve your critical thinking skills. 4. You will overcome stereotypes of cultural groups.
授業方法と留意点	Students will participate in discussions on cultural topics and will write short essays based on those discussions. This course will be conducted in English.
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction to the Course	Go over syllabus; Introduce typical activities in the class	Prepare materials for note taking
	2	Identity	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook homework
	3	Values	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook homework
	4	Culture Shock	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook homework
	5	Culture in Language	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook homework
	6	Body Language and Customs	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook homework
	7	Individualism	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook homework
	8	Test 1	Test on weeks 1-7	Review the notes for weeks 1-7
	9	Politeness	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook homework
	10	Communication Styles	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook homework
	11	Gender and Culture	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook homework
	12	Diversity	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook homework
	13	Social Change	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook homework
	14	Global Community	Individual Task, Pair Work or Group Work	Textbook homework
	15	Test 2	Test on weeks 9-14	Review the notes for weeks 9-14

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Identity	Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iida	Oxford
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Participation: 30% Homework: 24% Test 1: 23% Test 2: 23%
-----------	---

学生へのメッセージ	Let's discuss our ideas about culture and communication. Be ready to speak a lot in class.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3F
----------	-------

備考	You will need to bring a dictionary to this class. 予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---



科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷脇 康子

授業概要・目的	日本語の「今行くよ」は英語では“I'll come in a minute.” このように日英語の語彙にみられる表現法の違いに着目し、正しい英語表現を身につけることを目標にします。
到達目標	正しい英語の語法を理解し使いこなせるようになること。正しい語法に基づいて自然でひきしまった英語表現が言えたり書けたりできるようになること。
授業方法と留意点	テーマに即した短い対話の聞き取りと読解。 正文・非文の判読クイズ。 語法練習問題と解答。 テーマに即した英作文演習。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC スコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日英語 名詞表現の違い(2)	語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
3	誤りやすい冠詞の使い方(1)	対話の聞き取りと読解 正非文の判別	プリントの復習
4	誤りやすい冠詞の使い方(2)	語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
5	1～4回授業の装復習 確認テスト(1)	1～4回の授業内容の質問 確認テスト	確認テストの事前勉強
6	日英語 動詞表現の違い(1)	対話の聞き取りと読解 正非文の判別	プリントの復習
7	日英語 動詞表現の違い(2)	語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
8	誤りやすい時制の語法(1)	対話の聞き取りと読解 正非文の判別	プリントの復習
9	誤りやすい時制の語法(2)	語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
10	6～9回授業の装復習 確認テスト(2)	6～9回授業内容の質問 確認テスト	確認テスト事前勉強
11	誤りやすいV-0 連語	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
12	誤りやすい準動詞の語法	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
13	日英語 形容詞表現の違い(1)	対話の聞き取りと読解 正非文の判別	プリントの復習
14	日英語 形容詞表現の違い(2)	語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
15	11～14回授業の装復習 確認テスト(3)	11～14回授業内容の質問 確認テスト	確認テスト事前勉強

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	確認テスト 60%、授業中の取り組み 20%、提出物 20%
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	授業中に英作の練習問題をするので、英和・和英対応の電子辞書が必携
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控え室
----------	----------------

備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	---

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	クロウ オーエン

授業概要・目的	This course will focus on face-to-face interaction among students. Content will incorporate materials found in various fields and topics. Students will have the opportunity to communication with each other in English and in a wide variety of situations and contexts. This course will focus on production, although there will also be listening and video components.
到達目標	Upon completion of this course students will be able to do the following: ・ identify, summarise, and explain the main points of listening and video passages ・ argue for or support the opinions of speakers and writers as well as their own opinions ・ develop listening and note taking strategies to help with understanding academic content ・ sustain a discussion / presentation for 5 minutes ・ identify and incorporate new vocabulary and grammatical structures found in academic material
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction / Course Outline Unit 1 - Social Psychology	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	2	Unit 1 - Social Psychology	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	3	Unit 2 - Education	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	4	Unit 2 - Education	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	5	Review and Presentation	Interview and introduce a classmate / Plan a perfect school	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	6	Unit 3 - Cultural Studies	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	7	Unit 3 - Cultural Studies	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	8	Unit 4 - Sociology	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	9	Unit 4 - Sociology	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	10	Review and Presentation	Design a survey and interview a classmate / Have a group discussion about fun places in your area	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	11	Unit 5 - Architecture	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	12	Unit 5 - Architecture	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	13	Unit 6 - Health Sciences	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	14	Unit 6 - Health Sciences	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
	15	Review and Presentation	Design a home and give a presentation / Make and discuss a health survey	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Attendance - 30% Participation, Attitude - 40% Presentations - 30%
-----------	--

学生へのメッセージ	Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Just coming to class does not mean you are participating. Please bring your folder and a dictionary to each class.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---------------------------------------

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・ダイアス

授業概要・目的 To listen to and learn about Western classical music from the baroque, classical and romantic periods. To practice reading comprehension and creative writing in English.

到達目標 Students will have listened to and learned about pieces of music from the baroque, classical and romantic periods of Western classical music. Students will have practiced reading and writing English skills.

授業方法と留意点 Reading comprehension and creative writing as a response to classical music.

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
3	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
4	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
5	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
6	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
7	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
8	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
9	Romantic Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
10	Classical Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
11	Classical Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
12	Classical Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
13	Baroque Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
14	Baroque Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task
15	Baroque Music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Prints provided by teacher		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) Attendance 40%, Classwork 60%

学生へのメッセージ Please bring a dictionary.

担当者の研究室等 7号館2F 非常勤講師室

備考 予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トピック スタディーズⅡb	科目名(英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ

授業概要・目的 This course will focus on stories of Japanese who became famous abroad. Students will gain an appreciation for the efforts of Japanese who contributed greatly to the world outside of Japan.

到達目標 The goal of this course is to facilitate the improvement of English grammar, vocabulary, and pronunciation.

授業方法と留意点 We will read about famous Japanese and do various grammar and vocabulary-based tasks as well as speak about the topics we read.

科目学習の効果(資格)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Introduction	pre-read next chapter's story
	2	Revival of Indian Buddhism	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	3	Revival of Indian Buddhism	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	4	Fighting Illiteracy in Vietnam	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	5	Saving Tuvalu	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	6	Raising HIV Awareness through Music	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	7	The Father of Bhutan Agriculture	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	8	Courage and the War Photographer	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	9	The First Japanese Bull Rider	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	10	The "Miracle Worker" Ophthalmologist	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	11	Principal with Passion	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	12	Award-winning Gardener	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	13	Lessening Bereaved Families' Pain	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	14	In Pursuit of Life-like Prosthetics	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	pre-read next chapter's story
	15	Cooking with Zest and Zeal Review	Grammar, vocabulary, and pronunciation practice	

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Making a Difference	Takayuki Ishii et al.	Nan'un-do
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 50% Participation (attendance, effort, classroom manners)  
50% performance (grammar and vocabulary based exercises and quizzes; speaking tasks)

学生へのメッセージ You will need your textbook and writing materials for this class. Come see me anytime you need my help with anything.

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トピック スタディーズ II b	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷脇 康子

授業概要・目的	日本語の「体重が増えた」は英語では“I put on weight.” このように日英語の構文にみられる表現法の違いに着目し、正しい英語表現を身につけることを目標にします。
到達目標	正しい英語の語法を理解し使いこなせるようになること。正しい語法に基づいて自然でひきしまった英語表現が言えたり書けたりできるようになること。
授業方法と留意点	テーマに即した短い対話の聞き取りと読解。 正文・非文の判読クイズ。 語法練習問題と解答。 テーマに即した英作文演習。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC スコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	誤りやすい比較表限	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
3	誤りやすい関係詞の使い方	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
4	誤りやすい接続詞の使い方	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
5	1～4回授業の総復習 確認テスト(1)	1～4回の授業内容の質問 確認テスト	確認テストの事前勉強
6	誤りやすい前置詞の使い方	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
7	日英語 主語の違い	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
8	日英語 語順の違い	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
9	日英語 態の違い	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
10	6～9回授業の総復習 確認テスト(2)	6～9回授業内容の質問 確認テスト	確認テスト事前勉強
11	日英語 否定表現の違い	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
12	誤りやすい和製英語	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
13	日英語 イディオムの違い	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
14	日英語 身体表現の違い	対話の聞き取りと読解 正非文の判別 語法説明 英作演習	プリントの復習 英作問題提出
15	11～14回授業の総復習 確認テスト(3)	11～14回授業内容の質問 確認テスト	確認テスト事前勉強

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	確認テスト 60%、授業中の態度 20%、提出物 20%			
学生への メッセージ	授業中に英作の練習問題をしますので、英和。和英対応の電子辞書必携			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控え室			
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	トピック スタディーズⅡb	科目名(英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アーサー ロングソン

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果(資格)	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Introduction, overview.	No preparation required. 準備は必要ありません。
	2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Preview vocabulary for pages 2-5.
	3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9.
	4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13.
	5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17.
	6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21.
	7	Unit 6 Individualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz.
	8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29.
	9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33.
	10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37.
	11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41.
	12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45.
	13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49.
	14	Special Topic.	To be announced.	No preparation required.
15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz.	

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法(基準)	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please make a copy before the class.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室.
----------	---------------

備考	学生は予習・復習のために約15時間確保すること。
----	--------------------------

科目名	トピック スタディーズⅡb	科目名(英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム

授業概要・目的	This course introduces a range of topics from around the world?including food, festivals, music and journeys?that provoke interest, inspire discussion, and ultimately broaden one's view of our diverse, global society. Knowledge and understanding of the world can not only inspire you to improve your home region, but they also make you more appreciative of it.
到達目標	Students will learn about topics from around the world, improving their English skills.
授業方法と留意点	This is a listening and speaking course with a little reading designed to create a richer speaking experience. A mixture of scripted and authentic audio provides opportunities for listening practice. Students' communicative competence is developed through guided pair and group discussion activities. Activity types include interviews, surveys, class presentations and projects, and encourage students to take their learning beyond the classroom. National Geographic video offers additional opportunities for developing listening comprehension and inspires discussion about the wondrous diversity of our planet.
科目学習の効果(資格)	To improve reading, writing and speaking skills in English. To gain a better understanding, appreciation and enjoyment of the world we live in.

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Talking about food	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan a restaurant!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
2	Talking about festivals	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Organise a festival!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
3	Review 1 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
4	Talking about your city	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Finding city solutions.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
5	Talking about jobs	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Interview someone about their job.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
6	Review 2 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
7	Talking about music	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Write a song!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
8	Talking about travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan an expedition!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
9	Review 3 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
10	Talking about famous families	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Family debate!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
11	Talking about adventure travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Make a public Service Announcement.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
12	Review 4 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
13	Talking about happiness	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. How to be happy!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
14	Talking about endangered species	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Give a persuasive presentation.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation.
15	Review 5 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	None

関連科目	Completion of Topics Studies I is not a necessary requirement for this course.
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Top Notch TV	Joan Saslow	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	Class participation - 10% 3-5 Short presentations - 90%
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2F 非常勤講師室
----------	--------------

備考	学生は予習・復習で約15時間を確保すること。
----	------------------------



科目名	トピック スタディーズⅢ	科目名(英文)	Topic Studies III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美

授業概要・目的	本授業では、受講生が将来グローバルに活躍することを目指し、社会活動の中で運用する実践的な英語の修得を目的とする。予定する授業内容は授業計画の通りであるが、社会情勢を踏まえた旬な情報も積極的に取り入れていくため、内容等を調整することもある。
到達目標	ESP (English for Specific Purposes) 理論に基づき、様々な職業、場面で行われている英語コミュニケーションの種類(ジャンル)を理解し、その目的、情報の受け手、情報の内容、言語的特徴を分析・把握した上で、状況に応じた適切な英語コミュニケーションを行う能力を身に着ける。
授業方法と留意点	講義の他、グループワークを積極的に取り入れる。グループ単位での課題やレポートの作成にあたっては、授業外でも話し合いの機会を持ち、期日までにグループ毎にまとめること。
科目学習の効果(資格)	実社会で役立つ英語運用能力を、言語学的側面のみならず、社会的要素も考慮に入れて、社会人としての総合力を身に着けることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要、到達目標、授業計画、授業方法等の説明	—
2	多聴・多読(1)	Unit 1	予習、課題取組
3	多聴・多読(2)	Unit 2	予習、課題取組
4	多聴・多読(3)	Unit 3	予習、課題取組
5	多聴・多読(4)	Unit 4	予習、課題取組
6	多聴・多読(5)	Unit 5	予習、課題取組
7	多聴・多読(6)	Unit 6	予習、課題取組
8	復習(1)	Review (1)	予習、課題取組
9	多聴・多読(7)	Unit 7	予習、課題取組
10	多聴・多読(8)	Unit 8	予習、課題取組
11	多聴・多読(9)	Unit 9	予習、課題取組
12	多聴・多読(10)	Unit 10	予習、課題取組
13	多聴・多読(11)	Unit 11	予習、課題取組
14	多聴・多読(12)	Unit 12	予習、課題取組
15	復習(2)	Review (2)	予習、課題取組

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Intermediate Listening Comprehension Understanding and Recalling Spoken English	P. A. Dunkel/P. L. Lim	松柏社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	毎回の授業にのぞむ姿勢、課題、復習テストを総合して評価する。
学生へのメッセージ	多量の英文を聴いて読む授業ですから、予習と復習が欠かせません。必ず辞書を持参すること。
担当者の研究室等	7号館4階 皆本研究室
備考	レポート作成やプレゼンテーション準備にかかる時間や毎回の授業の事前事後学習の時間を合わせて15時間程度とする。

科目名	トピック スタディーズⅢ	科目名 (英文)	Topic Studies III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー

授業概要・目的	This course is an introduction to Film Studies. The class takes a genre-based approach. We will examine films from the documentary, melodrama, adventure and science fiction genres. Students will also make a short film on their smartphones.
到達目標	Students will learn how to analyze and appreciate English-language films. We will examine movies for their artistic, cultural and linguistic merits.
授業方法と留意点	Each class will feature short film clips supported by listening worksheets and readings. Students will view the clips, analyze and discuss the contents.
科目学習の効果 (資格)	Understanding spoken English. Watching movies without subtitles. Appreciating the technical aspects of movie making.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Elements of film analysis	Discussion and activities	Review class materials
	2	Documentary Films: Nanook of the North	Discussion and activities	Review class materials
	3	Documentary Films: Nanook of the North	Discussion and activities	Prepare for quiz
	4	Documentary Films: Nanook of the North	Discussion and activities	Review class materials
	5	Melodrama: The English Patient	Discussion and activities	Review class materials
	6	Melodrama: The English Patient	Discussion and activities	Prepare for quiz
	7	Melodrama: The English Patient	Discussion and activities	Review class materials
	8	Midterm Test	Midterm Test	Review class materials
	9	Adventure: Snow Walker	Discussion and activities	Review class materials
	10	Adventure: Snow Walker	Discussion and activities	Review class materials
	11	Adventure: Snow Walker	Discussion and activities	Review class materials
	12	Science Fiction: 2001	Discussion and activities	Prepare for quiz
	13	Science Fiction: 2001	Discussion and activities	Review class materials
	14	Science Fiction: 2001	Discussion and activities	Review class materials
15	Final Exam	Final Exam	Review class materials	

関連科目	Oral Communication, Speaking, Topic Studies. This course would be useful for students who are focussing on film or culture for a graduation thesis.
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Regular quizzes, midterm, final exam and student film project.
-----------	--

学生へのメッセージ	Movies are a wonderful way to improve English ability.
-----------	--

担当者の研究室等	Building 7, 3rd floor, Herke's office.
----------	--

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする
----	---

科目名	トピック スタディーズⅢ	科目名(英文)	Topic Studies III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松下 乃亜

授業概要・目的	大ヒット映画「プラダを着た悪魔」(The Devil Wears Prada)が教材です。英語特有の表現や発音に注意して映画を見ることによって、リスニング力、コミュニケーション力の向上を目指します。映画に出てくる重要な文法ポイントも取り上げます。面接や、商談、会議などの場面に注意して取り上げ、ビジネスで使える英語の習得を目指します。
到達目標	つながったり、消えたりする英語の音に慣れ、自然な英語の音声を理解できるリスニング力の獲得、ならびにコミュニケーション力の向上を目標とする。
授業方法と留意点	リスニング、スピーキング中心のクラスです。プレゼンテーションも行います。
科目学習の効果(資格)	聴解力とコミュニケーション能力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介、発表の担当決め	
	2	Unit 1 Job Interview 音の同化、過去完了形	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク	フレーズの復習、暗記
	3	Unit 2 First Day on the Job 音の連結、助動詞①	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク	フレーズの復習、暗記
	4	Unit 3 Hurricane on the Weekend 音の脱落、関係代名詞①	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク	フレーズの復習、暗記 発表のプリントの提出
	5	Unit 4 Andy's Makeover 音の同化、現在進行形	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク	フレーズの復習、暗記
	6	Unit 5 Andy Meets Christian 音の連結、助動詞②	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク	フレーズの復習、暗記
	7	Unit 6 Miranda's Request 音の脱落、分詞	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク	フレーズの復習、暗記
	8	Unit 7 Nate's Birthday 音の脱落、仮定法	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク	フレーズの復習、暗記 発表のプリントの提出
	9	Unit 8 Andy's Decision 音の脱落、現在完了形	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク	フレーズの復習、暗記
	10	Unit 9 Breakup with Nate 音の弱化、動名詞	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク	フレーズの復習、暗記
	11	Unit 10 The Dream Job can と can't の発音、受動態	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク	フレーズの復習、暗記
	12	Unit 11 Announcement at the Party 音の弱化、関係代名詞②	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク	フレーズの復習、暗記
	13	Unit 12 Andy's Final Choice 音の弱化、使役動詞	リスニング、語句学習、サマリー ペアワーク	フレーズの復習、暗記
	14	発表	発表	発表
15	Listening Day 発表	リスニング中心のクラス 発表	発表のフィードバックの提出	

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Communicate in English with The Devil Wears Prada	Aline Brosh McKenna	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
	2	辞書		
	3			

評価方法(基準)	授業への参加(毎回のdiscussion)40% ペアワーク 20% 発表(発表のプリント、Discussionのリード、他の発表のdiscussionへの参加、フィードバックの提出)40% 欠席は三回までを評価基準とします。遅刻は三回で欠席一回。居眠り、私語、携帯電話の使用などは教室に来ていても欠席扱いとします。
----------	---

学生へのメッセージ	当然ですが、日常生活で英語に触れる機会が増えれば、リスニング力が向上します。興味のあるニュースや音楽を見たり、聴いたりする機会を増やして下さい。楽しみながら学習しましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	トピック スタディーズⅢ	科目名 (英文)	Topic Studies III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中野 華子

授業概要・目的	アメリカでの留学生活はどのようなものでしょうか。この授業では留学生のみきの体験をDVDで観て、よくある状況に対処する方法を学び、役立つ言い回しを練習します。また学生が直面する問題について自分の意見を英語で言えるようになるために、ディスカッションを行います。授業内での発表は英語でして下さい。
到達目標	ナチュラルスピードの英語を聞き取れるようになること。 自分の考えを英語で言えるようになること。
授業方法と留意点	この授業はレクチャー式ではなく、アクティビティ中心です。積極的に英語で発話するようにしてください。内容に応じて課題を出しますので、必ず提出するようにしてください。最後にプレゼンテーションをしてもらいます。
科目学習の効果 (資格)	・リスニング力の向上 ・英語で自分の意見を伝える力を養う

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	アメリカ社会についての小論文を読む、クラス内での自己紹介の仕方	自己紹介を準備する
	2	Unit 1	自己紹介 内容の確認と会話練習、クラス内でのディスカッション	指定範囲を読み、語彙を調べる 課題
	3	Unit 2	内容の確認と会話練習、クラス内でのディスカッション	指定範囲を読み、語彙を調べる
	4	Unit 3	内容の確認と会話練習、クラス内でのディスカッション	指定範囲を読み、語彙を調べる
	5	Unit 4	内容の確認と会話練習、クラス内でのディスカッション	指定範囲を読み、語彙を調べる 課題
	6	Unit 5	内容の確認と会話練習、クラス内でのディスカッション	指定範囲を読み、語彙を調べる
	7	Unit 6	内容の確認と会話練習、クラス内でのディスカッション	指定範囲を読み、語彙を調べる
	8	Unit 7	内容の確認と会話練習、クラス内でのディスカッション	指定範囲を読み、語彙を調べる
	9	Unit 8	内容の確認と会話練習、クラス内でのディスカッション	指定範囲を読み、語彙を調べる 課題
	10	Unit 9	内容の確認と会話練習、クラス内でのディスカッション	指定範囲を読み、語彙を調べる
	11	Unit 10	内容の確認と会話練習、クラス内でのディスカッション	指定範囲を読み、語彙を調べる
	12	Unit 11	内容の確認と会話練習、クラス内でのディスカッション	指定範囲を読み、語彙を調べる
	13	Unit 12	内容の確認と会話練習、クラス内でのディスカッション	指定範囲を読み、語彙を調べる 課題
	14	発表	発表・評価	各自発表の準備を行う
15	発表	発表・評価	各自発表の準備を行う	

関連科目	スピーキング、オーラルコミュニケーション
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Campus Encounters: Understanding American University Life	大八木廣人、田浦昌子	マクミラン ランゲージハウス
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度 (ディスカッション) 45% プレゼンテーション30% 課題25%
-----------	---

学生へのメッセージ	DVDでの会話は普通のスピードなので難しいかもしれませんが、あきらめずに何回も聞いてみてください。聞き取りが上達すると発話も上達します。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---

科目名	ドラマ	科目名(英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。			
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。			
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。			
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation	No preparation required.
	2	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	3	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	4	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	5	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	6	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	7	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	8	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	9	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	10	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	11	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	12	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	13	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	14	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	15	Final performance.	Final performance.	Prepare for final performance.
関連科目	プレゼンテーション			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			
評価方法(基準)	平常点(授業態度、宿題、提出物、ドラマ上演等)の成績を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。			
担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	ドラマ	科目名(英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハニ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。			
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。			
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。			
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation	No preparation required.
	2	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	3	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	4	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	5	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	6	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	7	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	8	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	9	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	10	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	11	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	12	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	13	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	14	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	15	Final performance.	Final performance.	Prepare for final performance.
関連科目	プレゼンテーション			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	No textbook is required. Handouts will be given.		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			
評価方法(基準)	平常点(授業態度、宿題、提出物、ドラマ上演等)の成績を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	Students will learn and perform plays in this class. Active participation is expected, as well as good attendance.			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室。			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	ドラマ	科目名(英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホへ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction and explanation of assessment tasks.	Orientation and self introduction.	Decide upon a video for which you will write a voiceover track.
	2	Drama medium: Video voiceovers. Drama skill focus: Voiceovers.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	3	Drama medium: Video voiceovers. Drama skill focus: Expressing emotion through tone of voice.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	4	Drama medium: Video voiceovers. Drama skill focus: Sound effects.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	5	Drama medium: Video voiceover performances.	Peer evaluation of performances.	Reflect on individual peer performance evaluations.
	6	Drama medium: Short skits. Drama skill focus: Voice projection.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	7	Drama medium: Short skits. Drama skill focus: Timing and overlapping.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	8	Drama medium: Short skits. Drama skill focus: Gestures.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	9	Drama medium: Short skits. Drama skill focus: Facial expression.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	10	Drama medium: Short skit performances.	Peer evaluation of performances.	Reflect on individual peer performance evaluations.
	11	Drama medium: Large group/whole class play. Drama skill focus: Facing the audience.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	12	Drama medium: Large group/whole class play. Drama skill focus: Acting when not speaking.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	13	Drama medium: Large group/whole class play. Drama skill focus: Use of props.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	14	Drama medium: Large group/whole class play. Drama skill focus: Creating props.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	15	Drama medium: Large group/whole class play performances.	Combined classes performances, and peer performance evaluation.	Reflect on individual peer performance evaluations.

関連科目	プレゼンテーション								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名				
番号	書籍名	著者名	出版社名						

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点（授業態度、宿題、提出物、ドラマ上演等）の成績を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	Please try to come to every class. Missing classes will result in a low grade and possible failure of this class as it hinders other students' preparations for their performances. If you need help with anything, please contact me.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			



科目名	ドラマ	科目名 (英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	トチ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation	No preparation required.
	2	Activity 1: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	3	Activity 1 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	4	Activity 2: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	5	Activity 2 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	6	Activity 3: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	7	Activity 3 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	8	Activity 4: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	9	Activity 4 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	10	Activity 5: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	11	Activity 5 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	12	Activity 6: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	13	Activity 6 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	14	Activity 7: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	15	Activity 7: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.

関連科目	プレゼンテーション
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、提出物、ドラマ上演等) の成績を総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	Students will study and perform various drama activities in this class. Active participation is expected, as well as good attendance.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ドラマ	科目名 (英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リヌ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マシュー クーパー

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction: Clear Delivery	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	2	Exercises:Speech Recitation and Delivery (1)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Exercises:Speech Recitation and Delivery (2)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Exercises:Speech Recitation and Delivery (3)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises:Supportive Peer Evaluation (1)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Exercises:Supportive Peer Evaluation (2)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Exercises:Supportive Peer Evaluation (3)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Exercises:Skits and Peer Evaluation (1)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises:Skits and Peer Evaluation (2)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Exercises:Skits and Peer Evaluation (3)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Exercises:Plays and Peer Evaluation (1)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises:Plays and Peer Evaluation (2)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Exercises:Plays and Peer Evaluation (3)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Exercises:Plays and Peer Evaluation (4)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review	Individual task, pair work, and group work	...

関連科目	プレゼンテーション
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、提出物、ドラマ上演等) の成績を総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	話し方、動き、表情などを動員して、メッセージを豊かに伝えられるようになりましょう。 Anything goes on stage. Let's have fun!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ドラマ I	科目名 (英文)	Drama I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Sイあい
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。			
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。			
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。			
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation	No preparation required.
	2	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	3	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	4	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	5	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	6	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	7	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	8	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	9	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	10	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	11	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	12	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	13	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	14	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	15	Final performance.	Final performance.	Prepare for final performance.
関連科目	プレゼンテーション			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、提出物、ドラマ上演等) の成績を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。			
担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	ドラマ I	科目名 (英文)	Drama I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ろうえ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。			
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。			
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。			
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation	No preparation required.
	2	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	3	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	4	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	5	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	6	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	7	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	8	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	9	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	10	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	11	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	12	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	13	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	14	Study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	15	Final performance.	Final performance.	Prepare for final performance.
関連科目	プレゼンテーション			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	No textbook is required. Handouts will be given.		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、提出物、ドラマ上演等) の成績を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	Students will learn and perform plays in this class. Active participation is expected, as well as good attendance.			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室。			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	ドラマ I	科目名 (英文)	Drama I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハおか
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction and explanation of assessment tasks.	Orientation and self introduction.	Decide upon a video for which you will write a voiceover track.
	2	Drama medium: Video voiceovers. Drama skill focus: Voiceovers.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	3	Drama medium: Video voiceovers. Drama skill focus: Expressing emotion through tone of voice.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	4	Drama medium: Video voiceovers. Drama skill focus: Sound effects.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	5	Drama medium: Video voiceover performances.	Peer evaluation of performances.	Reflect on individual peer performance evaluations.
	6	Drama medium: Short skits. Drama skill focus: Voice projection.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	7	Drama medium: Short skits. Drama skill focus: Timing and overlapping.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	8	Drama medium: Short skits. Drama skill focus: Gestures.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	9	Drama medium: Short skits. Drama skill focus: Facial expression.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	10	Drama medium: Short skit performances.	Peer evaluation of performances.	Reflect on individual peer performance evaluations.
	11	Drama medium: Large group/whole class play. Drama skill focus: Facing the audience.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	12	Drama medium: Large group/whole class play. Drama skill focus: Acting when not speaking.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	13	Drama medium: Large group/whole class play. Drama skill focus: Use of props.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	14	Drama medium: Large group/whole class play. Drama skill focus: Creating props.	Students practice new drama skills/techniques in pairs or small groups, play drama games, and write/edit/practice performances.	Students should study the drama skills/techniques learnt in today's lesson and/or practice lines in preparation of their next performance.
	15	Drama medium: Large group/whole class play performances.	Combined classes performances, and peer performance evaluation.	Reflect on individual peer performance evaluations.

関連科目	プレゼンテーション			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(授業態度、宿題、提出物、ドラマ上演等)の成績を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	Please try to come to every class. Missing classes will result in a low grade and possible failure of this class as it hinders other students' preparations for their performances. If you need help with anything, please contact me.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	ドラマ I	科目名 (英文)	Drama I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニきく
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation	No preparation required.
	2	Activity 1: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	3	Activity 1 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	4	Activity 2: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	5	Activity 2 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	6	Activity 3: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	7	Activity 3 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	8	Activity 4: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	9	Activity 4 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	10	Activity 5: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	11	Activity 5 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	12	Activity 6: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	13	Activity 6 continued: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	14	Activity 7: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.
	15	Activity 7: study, rehearse, perform.	Pair work, group work, rehearsal and performance.	Study the vocabulary and lines for the next play.

関連科目	プレゼンテーション
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、提出物、ドラマ上演等) の成績を総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	Students will study and perform various drama activities in this class. Active participation is expected, as well as good attendance.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ドラマ I	科目名 (英文)	Drama I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホへけこさし
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マシュー クーパー

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	ドラマ上演を通じて、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	学期末にドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction: Clear Delivery	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	2	Exercises:Speech Recitation and Delivery (1)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Exercises:Speech Recitation and Delivery (2)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Exercises:Speech Recitation and Delivery (3)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises:Supportive Peer Evaluation (1)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Exercises:Supportive Peer Evaluation (2)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Exercises:Supportive Peer Evaluation (3)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Exercises:Skits and Peer Evaluation (1)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises:Skits and Peer Evaluation (2)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Exercises:Skits and Peer Evaluation (3)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Exercises:Plays and Peer Evaluation (1)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises:Plays and Peer Evaluation (2)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Exercises:Plays and Peer Evaluation (3)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Exercises:Plays and Peer Evaluation (4)	Drill and review Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review	Individual task, pair work, and group work	...

関連科目	プレゼンテーション
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、提出物、ドラマ上演等) の成績を総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	話し方、動き、表情などを動員して、メッセージを豊かに伝えられるようになりましょう。 Anything goes on stage. Let's have fun!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--



科目名	ドラマⅡ	科目名(英文)	Drama II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ

授業概要・目的	Students will perform Alice in Wonderland in pairs, small groups, and for a final performance. The aim of this course is to improve speaking skills through performance.
到達目標	By the end of the course, students will master how to present to an audience with eye contact, feeling, and pizzazz.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果(資格)	Improving your confidence in speaking in a friendly atmosphere.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introductions	Getting to know one another	Buy textbooks
	2	Alice in Wonderland- the story	Scene 1	Reading the story, writing and remembering the script
	3	Drama activities	Scene 1	Reading, writing and remembering the script
	4	Drama activities	Scene 2	Reading, writing and remembering the script
	5	Drama activities	Scene 2	Reading, writing and remembering the script
	6	Drama activities	Scene 3	Reading, writing and remembering the script
	7	Drama activities	Scene 3	Reading, writing and remembering the script
	8	Drama activities	Scene 4	Reading, writing and remembering the script
	9	Drama activities	Scene 4	Reading, writing and remembering the script
	10	Drama activities	Scene 5	Reading, writing and remembering the script
	11	Drama activities	Scene 5	Preparation of music, costumes, makeup, and positions on the stage.
	12	Drama activities	1st Rehearsal	Performance practice
	13	Drama activities	2nd Rehearsal	Performance practice
	14	Drama activities	3rd rehearsal	Performance practice
15	Final performance with other class	Performance - lights, camera, action in the Studio in Building 10, with music, costumes, and makeup.	100% attendance for the final performance	

関連科目	English performance skills, speaking and self-confidence in using English in a very enjoyable way
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Alices Adventures in Wonderland 1,620 yen	Lewis Carroll, adapted by Gina Clemen	Black Cat (Green Apple)
	2	Language Note writing exercise book 290 yen plus tax	Richard McMahon	Languagenote.com
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Alice in Wonderland movie with Johnny Depp		
	2			
	3			

評価方法(基準)	Last class drama performance in the studio with other classes (20%), Positive class atmosphere and willingness to use 100% English in the class (30%), on-time attendance (30%), Weekly readings/ comprehension of the Alice in Wonderland text (10%), Language note writing (10%).
----------	---

学生へのメッセージ	Enjoy the strange and funny imaginative world of Alice in Wonderland. This course is a good chance to use only English to improve your fluency and confidence and you will make friends acting together.
-----------	--

担当者の研究室等	Building 7, 5th floor koala poster on the door, Student hours Wed 3rd period
----------	--

備考	Move away from your desk - use body language and gestures while speaking - play some drama games - and enjoy English that is alive!
----	---

科目名	ドラマⅡ	科目名(英文)	Drama II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋

授業概要・目的	The speaking tasks in Drama II can include individual recitations, dialogues, and short plays or scenes from plays. They will present longer pieces and learn to incorporate more expressive intonation and gestures in their speech.
到達目標	Students are expected to improve their communication ability through drama activities.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果(資格)	英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	2	Exercises:Clear delivery(1)	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Exercises:Clear delivery (2)	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Exercises: Speech recitation (1)	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises: Speech recitation (2)	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Exercises : Skits in pairs (1)	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Exercises: Skits in pairs (2)	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Exercises: Skits in pairs (3)	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises: Plays in groups (1)	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Exercises: Plays in groups (2)	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Exercises: Plays in groups (3)	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Final presentation	Group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Final presentation	Group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	・・・	

関連科目	Drama I, English Presentation I&II, Speaking I&II
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	Daily Performance 60% Midterm and Final Performance 40%
----------	--

学生へのメッセージ	Active participation in all class activities is required. If you participate actively, you will learn more in this class. If you miss classes, it will lower your grade. Remember that you are responsible for any information you miss if you are absent. Late homework will get much lower grade in some cases.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	トランスレーション トレーニング a	科目名 (英文)	Translational Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	S
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩

授業概要・目的	英語と日本語の正確な理解をもとに、情報のイメージ化の練習を通して理解速度を速め、自然な訳出ができるように訓練を積む。相手にとってわかりやすい音声・文字による訳ができるように、文法への意識も高めながら演習を行う。
到達目標	英語と日本語の通訳・翻訳の基礎的な技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	必ず予習・復習をして授業に来ること。課題や発表、授業中の応答を重視する、演習形式で授業を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	3	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	4	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	5	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	6	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	7	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	8	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	9	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	10	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	11	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	12	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	13	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	14	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	英語科目一般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Write about Yourself	Manabu Miyata	三修社
	2	Solve the Mystery2	Toshiko Yoshimura 他	EIHOsha
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Longman Dictionary of Contemporary English, 6th ed. (ロングマン現代英英辞典第6版)		ロングマン
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<p>【定期試験を実施】</p> <p>定期試験, 課題・発表, 平常点から総合的に評価する。</p> <p>評価の対象 定期試験, 参加態度, 課題など</p> <p>試験の頻度 学期の最後</p> <p>評価に対する重み 定期試験 (65%), 課題・発表 (20%), 平常点 (15%)</p>
-----------	---

学生へのメッセージ	トランスレーションとは、単に「横書き (英文)」を「縦書き (和文)」に置き換えることではありません。各言語の特徴をふまえて、物事のとらえ方を転換する必要があります。これは決して容易なことではないので向上心をもって取り組みましょう。テキストは二冊とも必要です。事前に購入しておく事。(同じ物を後期にも使います) 楽しく、また実際に使えるような内容を重視しています。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師控室 (7号館2階)
----------	-----------------

備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 通年で履修することが望ましい。</li> <li>2. トランスレーションには良質の辞書が欠かせない。最低でも『ジーニアス英和辞典』のような学習用英和辞典を用意すること。英語の繊細なニュアンスを取りこぼさないように、参考書欄にあげた英英辞典の使用が強く推奨される。</li> <li>3. 電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。</li> <li>4. 欠席は授業に出席しなかった場合 (公欠・忌引き・病欠を含む) のすべてを対象とする (ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること)。欠席回数の限度については初回授業で説明するので必ず確認すること。</li> <li>5. 遅刻は本人の授業理解度を低下させ、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。</li> <li>6. 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。</li> </ol>
----	---

科目名	トランスレーション トレーニング a	科目名 (英文)	Translational Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	A B
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子

授業概要・目的	英語と日本語の正確な理解をもとに、情報のイメージ化の練習を通して理解速度を速め、自然な訳出ができるように訓練を積む。相手にとってわかりやすい音声・文字による訳ができるように、文法への意識も高めながら演習を行う。
到達目標	英語と日本語の翻訳の基礎的な技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	本授業では、翻訳を中心に行う。課題や小テスト、授業中の応答、発表の成果を重視するので、日頃からしっかりとやること。毎回辞書を必ず持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 翻訳とは?	ウォームアップテスト、文法、翻訳演習	翻訳例復習 教科書の予習
	2	Unit 1: William's Notting Hill & 'She' 日本語から英語へ	教科書 pp. 1-6 英作練習	教科書の復習・予習
	3	Unit 1: William's Notting Hill & 'She' 日本語から英語へ	教科書 pp. 1-6 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
	4	Unit 2: Surreal, But Nice 日本語から英語へ	教科書 pp. 7-12 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
	5	Unit 2: Surreal, But Nice 日本語から英語へ	教科書 pp. 7-12 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
	6	Unit 3: A Goddess Is A Movie Star 日本語から英語へ	教科書 pp. 13-18 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
	7	Unit 3: A Goddess Is A Movie Star 日本語から英語へ	教科書 pp. 13-18 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
	8	Unit 1-3 の復習 日本語から英語へ	映画を見る 小テスト 英作練習	小テスト対策
	9	Unit 4: Birthday Party 日本語から英語へ	教科書 pp. 19-24 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
	10	Unit 4: Birthday Party 日本語から英語へ	教科書 pp. 19-24 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
	11	Unit 5: A Date With Anna 日本語から英語へ	教科書 pp. 25-30 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
	12	Unit 5: A Date With Anna 日本語から英語へ	教科書 pp. 25-30 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
	13	Unit 4-5 までの復習 日本語から英語へ	映画を見る 小テスト 英作練習	小テスト対策
	14	前期内容の復習 英作練習	テスト準備 英作練習	課題
	15	前期まとめのテスト	前期の習熟度を見る	テスト対策

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画総合教材 Notting Hill	Richard Curtis 著、神谷久美子 / Kim R. Kanel 編著	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内総合評価 50% まとめのテスト 50% 詳しくは第1回目の授業で説明する。
-----------	---

学生へのメッセージ	映画のセリフを日本語に訳することによって、日本語の勉強をすることも心がけてください。また、3回生らしい英文がかかるよう、積極的に集中して授業に取りこんでください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---------------------------------------

科目名	トランスレーション トレーニング a	科目名 (英文)	Translational Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	C D
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀧川 宏樹

授業概要・目的  
英語と日本語の正確な理解をもとに、情報のイメージ化の練習を通して理解速度を速め、自然な訳出ができるように訓練を積む。相手にとってわかりやすい音声・文字による訳ができるように、文法への意識も高めながら演習を行う。

到達目標  
英語と日本語の翻訳の基礎的な技能を身につけることを目標とする。

授業方法と留意点  
本授業では、本文の翻訳を、第三者に分かりやすい日本語という点を心がけて行う。また本文に対する自分の意見を英語で発信する練習を行う。課題や小テスト、授業中の応答、発表の成果を重視するので、日頃からしっかりとやること。毎回辞書を必ず持参すること。

科目学習の効果 (資格)  
TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1 大学は秋入学にすべきである	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
3	Unit 2 高校の部活は厳しすぎる	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
4	Unit 3 授業の出欠には指紋認証を使うべきである	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
5	Unit 4 プロスポーツにもっと外国人選手を使うべきである	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
6	Unit 5 物よりも経験を 買う方が得である	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
7	Unit 6 初デートは男性がお金を払うべきである	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
8	Unit 7 消費税は15% に引き上げるべきである	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
9	Unit 8 女性アイドル グループは若い子に良い影響を及ぼさない	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
10	Unit 9 SNSは有益なメディアである	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
11	Unit 9 SNSは有益なメディアである	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
12	Unit 10 歩きスマホは違法にすべきである	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
13	Unit 10 歩きスマホは違法にすべきである	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
14	まとめ	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
15	確認テスト	期末試験	試験対策

関連科目  
英語科目全般

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)  
期末試験 50%  
課題、授業内課題、小テスト 50%

学生へのメッセージ  
他の人に理解してもらえるように訳すために、英語だけではなく日本語にも注意を払うよう、日常から心がけて下さい。

担当者の研究室等  
7号館2階 (非常勤講師室)

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トランスレーション トレーニング a	科目名 (英文)	Translational Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	E F
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内山 知美

授業概要・目的	英語と日本語の正確な理解をもとに、情報のイメージ化の練習を通して理解速度を速め、自然な訳出ができるように訓練を積む。相手にとってわかりやすい音声・文字による訳ができるように、文法への意識も高めながら演習を行う。英語と日本語の通訳・翻訳の基礎的な技能を身につけることを目標とする。
到達目標	二つの言語の間を行き来する鍛錬の中で、言葉とその背景および主題に関する理解を深めたい。
授業方法と留意点	小テストや授業中の応答、発表を重視するなど、演習形式の授業を行う。 身近な内容を簡潔な英語で綴ったテキストを隔回1課ずつ約10回、間に文学作品の翻訳を約4回（プリント配布）、を予定。日→英の練習もする。 予習前提で授業を進める。辞書は必携。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容についての説明 自己紹介 演習	テキスト1課に目を通しておく。 自己紹介の準備(2分内の日本語スピーチと10行内の英語ライティング)
	2	Interpretation & Translation	Exercises	小テスト対策&予習
	3	Interpretation & Translation	Exercises	小テスト対策&予習
	4	Interpretation & Translation	Exercises	小テスト対策&予習
	5	Interpretation & Translation	Exercises	小テスト対策&予習
	6	Interpretation & Translation	Exercises	小テスト対策&予習
	7	Interpretation & Translation	Exercises	小テスト対策&予習
	8	Interpretation & Translation	Exercises	小テスト対策&予習
	9	Interpretation & Translation	Exercises	小テスト対策&予習
	10	Interpretation & Translation	Exercises	小テスト対策&予習
	11	Interpretation & Translation	Exercises	小テスト対策&予習
	12	Interpretation & Translation	Exercises	小テスト対策&予習
	13	Interpretation & Translation	Exercises	小テスト対策&予習
	14	Interpretation & Translation	Exercises	テスト対策
	15	Interpretation & Translation	Feedback session	

関連科目	全英語科目
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Asking Why? The Science of Everyday Life. 日常の科学 Q&A	Shawn M. Clankie/中津川雅宣	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（小テスト、授業態度、課題提出）50%、まとめの試験50%の総合評価とする。 （詳しくは第1回目の授業で説明する）
学生へのメッセージ	楽しく英語を磨きましょう。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トランスレーション トレーニング a	科目名 (英文)	Translational Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	G H
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 三千代

授業概要・目的	英語と日本語の正確な理解をもとに、情報のイメージ化の練習を通して理解速度を速め、自然な訳出ができるように訓練を積む。相手にとってわかりやすい音声・文字による訳ができるように、文法への意識も高めながら演習を行う。英語と日本語の通訳・翻訳の基礎的な技能を身につけることを目的とする。
到達目標	練習問題や英字新聞なども取り上げ、さらなる自己英語力の向上を目指す。英語能力を向上させることで自己の可能性が広がることを実感して欲しい。
授業方法と留意点	正確な日本語と自然なトランスレーションを行うため、テキストで英文法や語法のおさらいをする。さらに英字新聞の読みやすい記事を取り上げて現代英語のトランスレーション訓練を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検ほか、英語関連の資格一般

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Unit 1: Introduction Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	3	Unit 2: Assignment Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	4	Unit 2: Assignment Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	5	Unit3: Put It into ACTION! Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	6	Unit3: Put It into ACTION! Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	7	Unit4: Forgiveness Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	8	Unit4: Forgiveness Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	9	Unit 5: Exposure Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	10	Unit 5: Exposure Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	11	Unit 6: Do It for Someone Else Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	12	Unit 6: Do It for Someone Else Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	13	Unit 7: Love and Courage Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	14	Unit 7: Love and Courage Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review and Test	Feedback session	...

関連科目	英語科目一般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Step Up with Movie English	井村 誠 他	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点(授業への取り組み、レポート・課題、小テスト):50%と授業内期末テスト50%を総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---

科目名	トランスレーション トレーニング b	科目名 (英文)	Translational Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	S
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩

授業概要・目的	英語と日本語の正確な理解をもとに、情報のイメージ化の練習を通して理解速度を速め、自然な訳出ができるように訓練を積む。相手にとってわかりやすい音声・文字による訳ができるように、文法への意識も高めながら演習を行う。
到達目標	英語と日本語の通訳・翻訳の基礎的な技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	必ず予習・復習をして授業に来ること。課題や発表、授業中の応答を重視する、演習形式で授業を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	3	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	4	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	5	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	6	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	7	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	8	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	9	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	10	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	11	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	12	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	13	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	14	Interpretation & Translation	Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	英語科目一般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Write about Yourself	Manabu Miyata	三修社
	2	Solve the Mystery2	Toshiko Yoshimura 他	EIHOSHA
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Longman Dictionary of Contemporary English, 6th ed. (ロングマン現代英英辞典第6版)		ロングマン
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<p>【定期試験を実施】</p> <p>定期試験, 課題・発表, 平常点から総合的に評価する。</p> <p>評価の対象 定期試験, 参加態度, 課題など</p> <p>試験の頻度 学期の最後</p> <p>評価に対する重み 定期試験 (65%), 課題・発表 (20%), 平常点 (15%)</p>
-----------	---

学生へのメッセージ	トランスレーションとは、単に「横書き (英文)」を「縦書き (和文)」に置き換えることではありません。各言語の特徴をふまえて、物事のとらえ方を転換する必要があります。これは決して容易なことではないので向上心をもって取り組みましょう。テキストは二冊とも必要です。後期のみ履修の者は事前に購入しておく事。楽しく、また実際に使えるような内容を重視しています。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師控室 (7号館2階)
----------	-----------------

備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 通年で履修することが望ましい。</li> <li>2. トランスレーションには良質の辞書が欠かせない。最低でも『ジーニアス英和辞典』のような学習用英和辞典を用意すること。英語の繊細なニュアンスを取りこぼさないように、参考書欄にあげた英英辞典の使用が強く推奨される。</li> <li>3. 電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。</li> <li>4. 欠席は授業に出席しなかった場合 (公欠・忌引き・病欠を含む) のすべてを対象とする (ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること)。欠席回数の限度については初回授業で説明するので必ず確認すること。</li> <li>5. 遅刻は本人の授業理解度を低下させ、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。</li> <li>6. 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。</li> </ol>
----	---



科目名	トランスレーション トレーニング b	科目名 (英文)	Translational Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	A B
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子

授業概要・目的	英語と日本語の正確な理解をもとに、情報のイメージ化の練習を通して理解速度を速め、自然な訳出ができるように訓練を積む。相手にとってわかりやすい音声・文字による訳ができるように、文法への意識も高めながら演習を行う。
到達目標	英語と日本語の翻訳の基礎的な技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	本授業では、翻訳を中心に行う。課題や小テスト、授業中の応答、発表の成果を重視するので、日頃からしっかりとやること。毎回辞書を必ず持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 6: She's Gone 日本語から英語へ	教科書 pp.31-36 英作練習	教科書の復習・予習
3	Unit 6: She's Gone 日本語から英語へ	教科書 pp.31-36 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
4	Unit 7: She's Back 日本語から英語へ	教科書 pp.37-42 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
5	Unit 7: She's Back 日本語から英語へ	教科書 pp.37-42 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
6	Unit 8: Awakening-Ain't Sunshine 日本語から英語へ	Rude No 教科書 pp.43-48 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
7	Unit 8: Awakening-Ain't Sunshine 日本語から英語へ	Rude No 教科書 pp.43-48 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
8	Unit6-8の復習 日本語から英語へ	映画を見る 小テスト 英作練習	小テスト対策
9	Unit 9: Like Me Again 日本語から英語へ	教科書 pp.49-54 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
10	Unit 9: Like Me Again 日本語から英語へ	教科書 pp.49-54 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
11	Unit10: The Right Decision-The Meaning Of My Life Is She 日本語から英語へ	教科書 pp.55-60 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
12	Unit10: The Right Decision-The Meaning Of My Life Is She 日本語から英語へ	教科書 pp.55-60 英作練習	前回授業の復習 教科書の予習
13	Unit 9-10 までの復習 日本語から英語へ	映画を見る 小テスト 英作練習	小テスト対策
14	後期内容の復習 英作練習	テスト準備 英作練習	課題
15	後期まとめのテスト	後期の習熟度を見る	テスト対策

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画総合教材 Notting Hill	Richard Curtis 著、神谷久美子 /Kim R. Kanel 編著	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業内総合評価 50% まとめのテスト 50% 詳しくは第1回目の授業で説明する。
-----------	---

学生へのメッセージ	映画のセリフを日本語に訳することによって、日本語の勉強をすることも心がけてください。また、3回生らしい英文がかかるよう、積極的に集中して授業に取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---------------------------------------

科目名	トランスレーション トレーニング b	科目名 (英文)	Translational Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	C D
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀧川 宏樹

授業概要・目的 英語と日本語の正確な理解をもとに、情報のイメージ化の練習を通して理解速度を速め、自然な訳出ができるように訓練を積む。相手にとってわかりやすい音声・文字による訳ができるように、文法への意識も高めながら演習を行う。

到達目標 英語と日本語の翻訳の基礎的な技能を身につけることを目標とする。

授業方法と留意点 本授業では、本文の翻訳を、第三者に分かりやすい日本語という点を心がけて行う。また本文に対する自分の意見を英語で発信する練習を行う。課題や小テスト、授業中の応答、発表の成果を重視するので、日頃からしっかりとやること。毎回辞書を必ず持参すること。

科目学習の効果 (資格) TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス Unit 11 i Phone は最高のスマートフォンである	ウォームアップテスト、文法、翻訳演習	テスト見直し
	2	Unit 11 i Phone は最高のスマートフォンである	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
	3	Unit 12 ゲームで遊ぶのは時間の無駄である	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
	4	Unit 13 外国のお祭りを祝うのは悪いことではない	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
	5	Unit 14 電車内でものを食べても構わない	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
	6	Unit 15 ラーメンは体に良くないので食べない方がよい	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
	7	Unit 16 朝食はご飯よりもパンである	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
	8	Unit 17 血液型で人の性格は正しく分類できる	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
	9	Unit 18 美容整形は悪いことではない	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
	10	Unit 19 ビアスはするべきではない	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
	11	Unit 19 ビアスはするべきではない	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
	12	Unit 20 香水をつけるのは悪いことではない	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
	13	Unit 20 香水をつけるのは悪いことではない	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
	14	まとめ	文法、翻訳演習	小テスト対策、課題
	15	確認テスト	期末試験	試験対策

関連科目 英語科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英語で考え、英語で発信する	Jonathan Lynch / Kotaro Shitori	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 期末試験 50%  
課題、授業内課題、小テスト 50%

学生へのメッセージ 他の人に理解してもらえるように訳すために、英語だけではなく日本語にも注意を払うよう、日常から心がけて下さい。

担当者の研究室等 7号館2階 (非常勤講師室)

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	トランスレーション トレーニング b	科目名 (英文)	Translational Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	E F
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	内山 知美

授業概要・目的	英語と日本語の正確な理解をもとに、情報のイメージ化の練習を通して理解速度を速め、自然な訳出ができるように訓練を積む。相手にとってわかりやすい音声・文字による訳ができるように、文法への意識も高めながら演習を行う。英語と日本語の通訳・翻訳の基礎的な技能を身につけることを目標とする。
到達目標	二つの言語の間を行き来する鍛錬の中で、言葉とその背景および主題に関する理解をさらに深めたい。
授業方法と留意点	小テストや授業中の応答、発表を重視するなど、演習形式の授業を行う。 身近な内容を簡潔な英語で綴ったテキストを隔回1課ずつ約10回、間に文学作品の翻訳を約4回（プリント配布）、を予定。日→英の練習もする。 予習前提で授業を進める。辞書は必携。

科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般
-------------	-----------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Interpretation & Translation	Exercises 文法説明	予習
	2	Interpretation & Translation	Exercises 文法説明	小テスト対策&予習
	3	Interpretation & Translation	Exercises 文法説明	小テスト対策&予習
	4	Interpretation & Translation	Exercises 文法説明	小テスト対策&予習
	5	Interpretation & Translation	Exercises 文法説明	小テスト対策&予習
	6	Interpretation & Translation	Exercises 文法説明	小テスト対策&予習
	7	Interpretation & Translation	Exercises 文法説明	小テスト対策&予習
	8	Interpretation & Translation	Exercises 文法説明	小テスト対策&予習
	9	Interpretation & Translation	Exercises 文法説明	小テスト対策&予習
	10	Interpretation & Translation	Exercises 文法説明	小テスト対策&予習
	11	Interpretation & Translation	Exercises 文法説明	小テスト対策&予習
	12	Interpretation & Translation	Exercises 文法説明	小テスト対策&予習
	13	Interpretation & Translation	Exercises 文法説明	小テスト対策&予習
	14	Interpretation & Translation	Exercises 文法説明	テスト対策
	15	Interpretation & Translation		

関連科目	全英語科目
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Asking Why? The Science of Everyday Life. 日常の科学 Q&A	Shawn M. Clankie/中津川雅宣	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（小テスト、授業態度、課題提出）50%、まとめの試験 50%の総合評価とする。 （詳しくは第1回目の授業で説明する）
----------	--

学生へのメッセージ	楽しく英語を磨きましょう。
-----------	---------------

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---

科目名	トランスレーション トレーニング b	科目名 (英文)	Translational Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	G H
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 三千代

授業概要・目的	英語と日本語の正確な理解をもとに、情報のイメージ化の練習を通して理解速度を速め、自然な訳出ができるように訓練を積む。相手にとってわかりやすい音声・文字による訳ができるように、文法への意識も高めながら演習を行う。英語と日本語の通訳・翻訳の基礎的な技能を身につけることを目的とする。
到達目標	練習問題や英字新聞なども取り上げ、さらなる自己英語力の向上を目指す。英語能力を向上させることで自己の可能性が広がることを実感して欲しい。
授業方法と留意点	正確な日本語と自然なトランスレーションを行うため、テキストで英文法や語法のおさらいをする。さらに英字新聞の読みやすい記事を取り上げて現代英語のトランスレーション訓練を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検ほか、英語関連の資格一般

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	<Night at the Museum> Unit 8: Introduction Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	3	Unit 9: Responsibility Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	4	Unit 9: Responsibility Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	5	Unit10: The First Night at the Museum Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	6	Unit10: The First Night at the Museum Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	7	Unit 11: Getting Prepared Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	8	Unit 11: Getting Prepared Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	9	Unit 12: Man on a Mission Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	10	Unit 12: Man on a Mission Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	11	Unit 13: Conspiracy Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	12	Unit 13: Conspiracy Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	13	Unit 14: Cooperation Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
	14	Unit 14: Cooperation Interpretation & Translation	Reading Focus, Scene Focus, Learning Strategy Exercises	Students should study the content of the day's lesson
		15	Review and Test	Feedback session

関連科目	英語科目一般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Step Up with Movie English	井村 誠 他	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点(授業への取り組み、レポート・課題、小テスト):50%と授業内期末テスト50%を総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	予習・復習を怠らないようにし、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---

科目名	日米関係論	科目名(英文)	Japan-US Relations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一

授業概要・目的	開国から冷戦後までの140年にわたる日米関係の歴史を振り返る。
到達目標	日本とアメリカの関係がどのような経緯を辿って、現在の日米同盟に至ったのかを理解する。 近代国家の国際関係を動かす力学とはいかなるものであるのかという点に関する理解を深める。 日本の今後進むべき道についての自分なりの考えを持つ。
授業方法と留意点	教科書を併用しながら、資料を配布して、解説を行う。教科書をあらかじめよく読んでくること。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本の歴史と地政学的位置	日本の歴史的な国家形成とアジアにおける地政学的な位置について 明治時代より以前と以後の日本の相違	講義内容を復習すること
3	アメリカ合衆国の歴史と外交政策	移民、アメリカ革命、デモクラシー モンロー主義と太平洋国家	紹介する資料を読んでくる 講義内容を復習すること
4	日米の遭遇と世界史への登場	日本の開国から明治期の日米関係について	教科書(第1章)を読んでくる 講義内容を復習すること
5	帝国主義時代の日本とアメリカの植民地政策(1)	日本の韓国併合、アメリカのハワイ、フィリピンへの進出 日露戦争後の日米の台頭	教科書(第2章)を読んでくる 講義内容を復習すること
6	帝国主義時代の日本とアメリカの植民地政策(2)	第一次世界大戦後の国際情勢 国際連盟の盟主としてのアメリカと日本	教科書(第3章)を読んでくる 講義内容を復習すること
7	日本の中国大陸侵出とアメリカの不承認	満州事変と日中戦争における日米関係の変化	教科書(第4章)を読んでくる 講義内容を復習すること
8	日本人のアメリカ移民の歴史	ハワイとアメリカ西海岸への日本人移民の歴史 第二次大戦中の日系人収容所 第二次大戦後の日系人社会	教科書(第5章)と資料を読んでくる 講義内容を復習すること
9	日米戦争と日本占領	ヨーロッパ戦線と日米戦争 真珠湾攻撃から沖縄戦・原爆投下に至るまで	教科書(第6章)を読んでくる 講義内容を復習すること
10	サンフランシスコ講和条約と戦後日本	朝鮮戦争と日本の安全保障	教科書(第7章)を読んでくる 講義内容を復習すること
11	日米安保条約と安保改定反対闘争	日米安保条約を巡る様々な動きについて学ぶ	講義内容を復習すること
12	東西冷戦下の日米同盟と沖縄返還	ベトナム戦争と基地沖縄問題と日米同盟について	教科書(第8章)を読んでくる 講義内容を復習すること
13	米中接近、日中国交回復の時代の日米関係	中ソの衝突と日米の対中戦略のズレ	教科書(第9章)を読んでくる 講義内容を復習すること
14	冷戦終結とグローバル時代の日米関係	湾岸戦争・イラク戦争と日米同盟の強化	教科書(第10章)を参考のこと 講義内容を復習すること
15	講義のまとめ	これまでの講義をまとめた上で、日米関係の将来を展望する	教科書(第11章)を参考にすること 講義内容を復習すること

関連科目	国際文化概論
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日米関係史	五十旗頭真編著	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本の外交	入江昭	中公新書
2	新・日本の外交	入江昭	中公新書	
3				

評価方法(基準)	授業内のレポート・平常点(40%)と授業後のレポート・記述試験(60%)により評価。受講生の多寡によっては評価方法を変更することもある。その場合は授業の中で指示する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館4階
備考	事前事後学習におよそ60時間必要。

科目名	日米比較文化	科目名(英文)	Comparative Cultures: America and Japan
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介

**授業概要・目的**

この授業では、19世紀から現在までのアメリカ人の日本人観、日本人のアメリカ人観が表れた両国の様々な文化表現を、映画と音楽を中心に見ていきます。両国の文化に何らかの本質的な違いを見つけて比較するのではなく、人々が互いに抱えてきたイメージと、その歴史的な変遷に注目し、背景にある国際政治、国内政治との関わりを考えます。日米間に限らず、現代世界の人種問題、民族問題について、またメディアを通じた異文化理解について、当事者意識を持って考えるきっかけにしましょう。

受講生の皆さんには、ただ教室に来て講義を聞くのではなく、スケジュール通りに資料を読んでから講義を聴き、講義の後には教材フォルダにアップされた講義ノートを読み返すことが要求されます。また、毎回の授業時間の終盤には、その日に理解できた内容を作文として提出してもらいます。ある程度高度な日本語を読む、書く、という文系の学生に必須の学習方法を習慣づけ、就職活動や卒論作成に対応可能な日本語力も身につけましょう。

**到達目標**

- 日本とアメリカ合衆国における人種問題、民族問題の歴史と現状についての基礎知識、基礎的理解を身につける。
- 就職活動や卒論作成に向けて日本語力、作文力を向上させる。
- テーマに基づいて読解と作文を繰り返す学習技法を習得する。

**授業方法と留意点**

- やや特殊な授業方法をとりますので、初回の授業で詳細な説明を行います。履修を検討している人は初回の授業に必ず出席して下さい。やむを得ない事情で欠席する(した)場合は、一兩日中に教員に連絡して欠席の事由を説明し、必要な指示を受けてから二回目の授業に臨んで下さい。連絡のあった受講生についてはできるだけの配慮をしますが、二回目以降の授業に何の準備もなく突然出席されても、他の受講生の迷惑になりますのでサポートはできません。
- 高度で難解なものも含む大量のプリント教材を、自分でスケジュールを確認しながら読んでもらい、授業時間内にコメントを作文してもらいます。コメントが書けなければその日の成績は0点です。最終課題も論述(レポート形式の試験)です。毎回出席する意思のない人や、文章を読みたいくない人、書きたくない人は、この授業を選択してはいけません。
- 座席は指定席制です。視力等の事情がある場合は配慮します。
- 教材の多くは教材フォルダを通じて電子配布されますので、定期的なPC操作が必要です。
- このシラバスに載っている15回のスケジュールは仮です。初回の授業でより詳しいスケジュールを配布し、さらに変更があれば随時授業で告知します。

**科目学習の効果(資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	受講に関する諸注意	受講に関する重要な説明と指示を初回授業でまとめて行います。	配付した資料の予習
2	相撲と minstrel show — 近代国民国家と「国民文化」	ベリー提督の日本来航時(1853-54)に描かれた絵図などを読み解く	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
3	「黄禍」としての日本人/日系人 その1	最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat (1915)を読み解く	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
4	「黄禍」としての日本人/日系人 その2	最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat (1915)を読み解く	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
5	日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ その1	1928年～1930年代の日本製「ジャズ」音楽を検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
6	日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ その2	池崎忠孝『世界を脅威するアメリカニズム』(1937)など検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
7	「人種戦争」としての第二次世界大戦その1	日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
8	「人種戦争」としての第二次世界大戦その2	日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
9	東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム その1	映画『サヨナラ』(1957)を検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
10	東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム その2	映画『サヨナラ』(1957)を検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
11	近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版その1	ウッドストック(1969)と1970年代の日本のロック/フォークフェス等を例に考える。	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
12	近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版その2	ウッドストック(1969)と1970年代の日本のロック/フォークフェス等を例に考える。	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
13	現代日本社会における人種差別告発と、戦後日本の「黒人」音楽 その1	戦後日本の「黒人音楽」の歴史的・現代的意義を検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
14	現代日本社会における人種差別告発と、戦後日本の「黒人」音楽 その2	戦後日本の「黒人音楽」の歴史的・現代的意義を検証	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
15	まとめ	期末レポートに向けて、学習内容を総括する。	自分がレポートに使う可能性のある全ての配布資料および教科書に目を通し、持参。

**関連科目** 日米文化交流史

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常の作文および質疑への貢献の評価 70% 最終授業終了後に提出の最終レポート 30%			
学生への メッセージ	最初から全部分からなくてもかまいません。まずは「よく分からないが何だか面白い!」と感じるところを探しましょう。今の自分にとって難しく感じるものを、敢えて背伸びをして読み、また書くことを楽しめるようになって下さい。			
担当者の 研究室等	7号館3階(鳥居研究室)			
備考				

科目名	日米文化交流史	科目名(英文)	History of Japan-US Intercultural Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介

授業概要・目的	<p>日米間の文化交流の歴史に関する英語文献を読み、内容を理解するための情報収集と教員との質疑応答を行い、理解できた内容を日本語で(または英語のまま)要約し、さらに自分なりのコメントを加えた作文をする、という一連の訓練を繰り返し行います。講義授業ではなく、英文の読解力と日本語の作文力を鍛える演習授業です。</p> <p>今年度のテーマは「パールハーバー、原爆と 9/11」とします。日本の真珠湾攻撃(1941)、アメリカの広島、長崎への原爆投下(1945)、アメリカで起きた 9.11 同時多発テロ事件(2001)という、アメリカと日本の多くの人々が相互に抱く両国のイメージ形成においてとりわけ重要な 3 つの歴史的事件について知識を高め、自分なりの歴史観を持ち、英語でも日本語でも冷静に意見を述べられるようになりましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の真珠湾攻撃(1941)、アメリカの広島、長崎への原爆投下(1945)、アメリカで起きた 9.11 同時多発テロ事件(2001)という 3 つの歴史的事件について、自分なりの歴史観を持ち、それを英語、日本語で表現できるようになる。</li> <li>就職活動と卒業研究に向けて、英語と日本語の読解力および作文力を向上させる。</li> <li>目的を持って資料を読み、読んだ内容を使って作文をする学習技法を身につける。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修を検討している人は初回の授業に必ず出席して下さい。やや特殊な授業方法をとりますので、初回の授業で詳細な説明を行います。やむを得ない事情で欠席する(した)場合は、一両日中に教員に連絡して欠席の事由を説明し、必要な指示を受けてから二回目の授業に臨んで下さい。連絡のあった受講生についてはできるだけの配慮をしますが、二回目以降の授業に何の準備もなく突然出席されても、他の受講生の迷惑になりますので授業時間中のサポートはできません。</li> <li>講義授業ではなく、演習授業です。毎回時間通りに出席する意思のない人や、英語や日本語の文章を読みたくない人、書きたくない人、辞書を持ち込むのが嫌な人は、この授業を選択してはいけません。受講生の皆さんには、毎回指示された資料を読み、不明の事柄や英語表現について情報検索を済ませて出席することが要求されます。授業中は座席を指定し、挙手や指名による質疑応答を行い、時間内に作文を仕上げ提出してもらいます。</li> <li>スマホが禁止されている授業もありますが、この授業では時間帯によって、スマホやタブレット PC 等による情報検索を許可します。</li> <li>座席は学籍番号に基づいた指定席制にします。視力等の事情がある場合は配慮します。</li> <li>配布教材のかなりの部分、それから済んだ授業のノートは教材フォルダを通じて電子配布されますので、定期的な PC 操作が必須です。</li> <li>このシラバスに載っている 15 回のスケジュールはあくまで仮です。最初の教材への受講生の反応を見て、随時変更します。授業時間内に告知します。</li> </ul>

科目学習の 効果(資格)	
-----------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	受講に関する諸注意	受講に関する重要な説明と指示を初回授業でまとめて行います。	配付した資料の予習
2	「戦争の文化」(Cultures of War) (1)	"EAA Interview with John Dower"他	配布プリントを予習の上、授業に持参。授業後は Webbox より授業中のノートを参照して復習、資料を整理、保管。
3	「戦争の文化」(Cultures of War) (2)	"EAA Interview with John Dower"他	配布プリントを予習の上、授業に持参。授業後は Webbox より授業中のノートを参照して復習、資料を整理、保管。
4	「パール・ハーバー」(1)	Dower, "The Innocence of 'Pearl Harbor'" (2001) 他	配布プリントを予習の上、授業に持参。授業後は Webbox より授業中のノートを参照して復習、資料を整理、保管。
5	「パール・ハーバー」(2)	Dower, "The Innocence of 'Pearl Harbor'" (2001) 他	配布プリントを予習の上、授業に持参。授業後は Webbox より授業中のノートを参照して復習、資料を整理、保管。
6	「パール・ハーバー」(3)	Dower, "The Innocence of 'Pearl Harbor'" (2001) 他	配布プリントを予習の上、授業に持参。授業後は Webbox より授業中のノートを参照して復習、資料を整理、保管。
7	原爆投下(1)	Robert P. Newman, "Truman and the Hiroshima Cult" (1995)他	配布プリントを予習の上、授業に持参。授業後は Webbox より授業中のノートを参照して復習、資料を整理、保管。
8	原爆投下(2)	Robert P. Newman, "Truman and the Hiroshima Cult" (1995)他	配布プリントおよび教科書を予習の上、授業に持参。授業後は資料を整理し、保管する。
9	原爆投下(3)	Robert P. Newman, "Truman and the Hiroshima Cult" (1995)他	配布プリントを予習の上、授業に持参。授業後は Webbox より授業中のノートを参照して復習、資料を整理、保管。
10	9/11 (1)	Matthew Green, "How 9/11 Changed America: Four Major Lasting Impacts" (2015)他	配布プリントを予習の上、授業に持参。授業後は Webbox より授業中のノートを参照して復習、資料を整理、保管。
11	9/11 (2)	Matthew Green, "How 9/11 Changed America: Four Major Lasting Impacts" (2015)他	配布プリントを予習の上、授業に持参。授業後は Webbox より授業中のノートを参照して復習、資料を整理、保管。
12	9/11 (3)	Matthew Green, "How 9/11 Changed America: Four Major Lasting Impacts" (2015)他	配布プリントを予習の上、授業に持参。授業後は Webbox より授業中のノートを参照して復習、資料を整理、保管。
13	「戦争の文化」(Cultures of War) (3)	Excerpts from Dower, "Cultures of War" (2010)他	配布プリントを予習の上、授業に持参。授業後は Webbox より授業中のノートを参照して復習、資料を整理、保管。
14	「戦争の文化」(Cultures of War) (4)	Excerpts from Dower, "Cultures of War" (2010)他	配布プリントを予習の上、授業に持参。授業後は Webbox より授業中のノートを参照して復習、資料を整理、保管。
15	まとめ	期末レポートに向けて、学習内容を総括する。	自分がレポートに使う可能性のある全ての配布資料に目を通し、持参。

関連科目	日米比較文化
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			



	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常の作文および質疑への貢献の評価 70% 最終授業終了後に提出するまとめのレポート 30%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館3階(鳥居研究室)			
備考				

科目名	日中関係論	科目名(英文)	Sino-Japanese Relations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大西 紀

授業概要・目的	日本と中国は、東アジアにおいて「一衣帯水」の隣国であり、両国の交流の歴史は悠久で多彩である。本授業では、2000年以上の歴史がある日中関係史を概観し、古代、近代、現代という三つの大きな時期に分けて講義する。日中関係は古くから政治、経済および文化などの多方面において深い交流がある一方、戦争、植民地支配という不幸の歴史もあった。その意味では、日中関係を考える際に、経済・文化の交流を見るだけでなく、歴史問題も正しく認識する必要がある。また、近年ますます拡大している日中の経済関係についても解説し、経済関係およびアジアの将来を中心に未来志向の新しい日中関係の構築を考えてみたい。																																																																		
到達目標	日本と中国が歴史上どのような関係があったのか正しい知識を習得、今後の日中関係に生かす。																																																																		
授業方法と留意点	プリントを利用した講義なので、単一方向の授業形式となりがちだが、受講生からの質問は随時受け付け、双方向の授業となるように努めたい。																																																																		
科目学習の効果(資格)	日本と中国の関係史を知り、今後の日中関係について自分なりの視角を持ち、思考することができる。就職試験に有効。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>古代の日中関係史Ⅰ</td><td>徐福の伝説</td><td>参考書とプリント資料を読んでください</td></tr> <tr><td>2</td><td>古代の日中関係史Ⅱ</td><td>金印の謎</td><td>参考書とプリント資料を読んでください</td></tr> <tr><td>3</td><td>古代の日中関係史Ⅲ</td><td>遣唐使</td><td>参考書とプリント資料を読んでください</td></tr> <tr><td>4</td><td>古代の日中関係史Ⅳ</td><td>鑑真、空海</td><td>参考書とプリント資料を読んでください</td></tr> <tr><td>5</td><td>古代の日中関係史Ⅴ</td><td>宋・元・明代の日中関係</td><td>参考書とプリント資料を読んでください</td></tr> <tr><td>6</td><td>近代の日中関係史Ⅰ</td><td>アヘン戦争、幕末期の日中関係</td><td>参考書とプリント資料を読んでください</td></tr> <tr><td>7</td><td>近代の日中関係史Ⅱ</td><td>日清戦争、日露戦争、台湾の植民地支配</td><td>参考書とプリント資料を読んでください</td></tr> <tr><td>8</td><td>近代の日中関係史Ⅲ</td><td>辛亥革命と日中関係</td><td>参考書とプリント資料を読んでください</td></tr> <tr><td>9</td><td>現代の日中関係史Ⅰ</td><td>満州事変</td><td>参考書とプリント資料を読んでください</td></tr> <tr><td>10</td><td>現代の日中関係史Ⅱ</td><td>日中戦争</td><td>参考書とプリント資料を読んでください</td></tr> <tr><td>11</td><td>現代の日中関係史Ⅲ</td><td>中華人民共和国の成立と日中関係</td><td>参考書とプリント資料を読んでください</td></tr> <tr><td>12</td><td>現代の日中関係史Ⅳ</td><td>日中の国交回復</td><td>参考書とプリント資料を読んでください</td></tr> <tr><td>13</td><td>現代の日中関係Ⅴ</td><td>靖国参拝からみた日中関係</td><td>参考書とプリント資料を読んでください</td></tr> <tr><td>14</td><td>現代の日中関係Ⅵ</td><td>日中の経済関係</td><td>参考書とプリント資料を読んでください</td></tr> <tr><td>15</td><td>現代の日中関係Ⅶ</td><td>日中関係の総括</td><td>参考書とプリント資料を読んでください</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	古代の日中関係史Ⅰ	徐福の伝説	参考書とプリント資料を読んでください	2	古代の日中関係史Ⅱ	金印の謎	参考書とプリント資料を読んでください	3	古代の日中関係史Ⅲ	遣唐使	参考書とプリント資料を読んでください	4	古代の日中関係史Ⅳ	鑑真、空海	参考書とプリント資料を読んでください	5	古代の日中関係史Ⅴ	宋・元・明代の日中関係	参考書とプリント資料を読んでください	6	近代の日中関係史Ⅰ	アヘン戦争、幕末期の日中関係	参考書とプリント資料を読んでください	7	近代の日中関係史Ⅱ	日清戦争、日露戦争、台湾の植民地支配	参考書とプリント資料を読んでください	8	近代の日中関係史Ⅲ	辛亥革命と日中関係	参考書とプリント資料を読んでください	9	現代の日中関係史Ⅰ	満州事変	参考書とプリント資料を読んでください	10	現代の日中関係史Ⅱ	日中戦争	参考書とプリント資料を読んでください	11	現代の日中関係史Ⅲ	中華人民共和国の成立と日中関係	参考書とプリント資料を読んでください	12	現代の日中関係史Ⅳ	日中の国交回復	参考書とプリント資料を読んでください	13	現代の日中関係Ⅴ	靖国参拝からみた日中関係	参考書とプリント資料を読んでください	14	現代の日中関係Ⅵ	日中の経済関係	参考書とプリント資料を読んでください	15	現代の日中関係Ⅶ	日中関係の総括	参考書とプリント資料を読んでください
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	古代の日中関係史Ⅰ	徐福の伝説	参考書とプリント資料を読んでください																																																																
2	古代の日中関係史Ⅱ	金印の謎	参考書とプリント資料を読んでください																																																																
3	古代の日中関係史Ⅲ	遣唐使	参考書とプリント資料を読んでください																																																																
4	古代の日中関係史Ⅳ	鑑真、空海	参考書とプリント資料を読んでください																																																																
5	古代の日中関係史Ⅴ	宋・元・明代の日中関係	参考書とプリント資料を読んでください																																																																
6	近代の日中関係史Ⅰ	アヘン戦争、幕末期の日中関係	参考書とプリント資料を読んでください																																																																
7	近代の日中関係史Ⅱ	日清戦争、日露戦争、台湾の植民地支配	参考書とプリント資料を読んでください																																																																
8	近代の日中関係史Ⅲ	辛亥革命と日中関係	参考書とプリント資料を読んでください																																																																
9	現代の日中関係史Ⅰ	満州事変	参考書とプリント資料を読んでください																																																																
10	現代の日中関係史Ⅱ	日中戦争	参考書とプリント資料を読んでください																																																																
11	現代の日中関係史Ⅲ	中華人民共和国の成立と日中関係	参考書とプリント資料を読んでください																																																																
12	現代の日中関係史Ⅳ	日中の国交回復	参考書とプリント資料を読んでください																																																																
13	現代の日中関係Ⅴ	靖国参拝からみた日中関係	参考書とプリント資料を読んでください																																																																
14	現代の日中関係Ⅵ	日中の経済関係	参考書とプリント資料を読んでください																																																																
15	現代の日中関係Ⅶ	日中関係の総括	参考書とプリント資料を読んでください																																																																
関連科目	講義中に指示する。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>プリント配布</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント配布			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プリント配布																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験は実施しない。 授業期間中複数回行うチェックテストおよび授業に取り組む姿勢等により総合評価する。 チェックテストの平均点が6割を超えていること；出席回数が10回を超えていることを最低条件とします。																																																																		
学生へのメッセージ	新聞を読むこと。特に日中関係に関わる記事には注目して欲しい。 授業中の私語は他の受講生の迷惑となるので慎んで欲しい。 チェックテストの平均点が6割を越えないもの、出席率が2/3を越えないものは、如何なる理由があれ単位は認定できない。履修の際はよく考慮して履修してください。特に卒業年次生は気を付けて履修しましょう。 事前・事後に各60分の学修を要する。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階講師控室																																																																		
備考																																																																			

科目名	日中観光文化と通訳法	科目名(英文)	Japan-China Tourism and Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹

授業概要・目的	大阪とその周辺の面白いところを自分の手で調べて原稿を作成する。さらにそれを発表する活動を通してプレゼンのスキルを身につける。この目標を達成するため、日本の事物を中国語で表現するだけの語彙や文法の知識とともに、日本の地理や歴史に関する情報を集め、原稿を作成する技術を学ぶ。
到達目標	京都、大阪、奈良など関西のおもな観光地、テーマパークなどで中国語を使った簡単な観光ガイドができることを目指す。
授業方法と留意点	数名のグループにわかれ、与えられた課題に沿ったプレゼンを行ったり映像作品を作ることを各単元の目的とする。その準備として、取材地の選定や写真、情報の収集、原稿の作成、発表の練習を行う。授業以外の日時に撮影会を実施することもある。
科目学習の効果(資格)	通訳案内士 中国語検定2級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的, 方法などを理解する。	1. 教師によるプレゼンの実例を見ながら、取材地の選定や作業分担, 素材や資料を集める手順を理解する。 2. 写真にアナウンスやBGMを付けた動画を制作する手順を理解する。 3. グループ分けをしたうえで次回の課題を出す。	写真撮影を担当する者は、次回の授業までにプレゼン用の写真を用意する。資料担当者は紙媒体の資料を調査しておく。
	2	大阪(1)	前回授業ですでに選定してある取材地, 取材施設について、写真、紙媒体およびeb上の記事をもとにプレゼンのための中国語原稿を作成する。原稿作成後は、プレゼンの分担を決めようえ練習を行う。	家庭でもプレゼンのための練習を行う。
	3	大阪(1)	1. グループ別にプレゼンを行う。 2. ビデオ作品の作成。 3. 次回の取材地について各グループで検討し、作業の分担を決める。	写真撮影を担当する者は、次回の授業までにプレゼン用の写真を用意する。資料担当者は紙媒体の資料を調査しておく。
	4	大阪(2)	前回授業ですでに選定してある取材地, 取材施設について、写真、紙媒体およびeb上の記事をもとにプレゼンのための中国語原稿を作成する。原稿作成後は、プレゼンの分担を決めようえ練習を行う。	家庭でもプレゼンのための練習を行う。
	5	大阪(2)	1. グループ別にプレゼンを行う。 2. ビデオ作品の作成。 3. 次回の取材地について各グループで検討し、作業の分担を決める。	写真撮影を担当する者は、次回の授業までにプレゼン用の写真を用意する。資料担当者は紙媒体の資料を調査しておく。
	6	大阪(3)	前回授業ですでに選定してある取材地, 取材施設について、写真、紙媒体およびeb上の記事をもとにプレゼンのための中国語原稿を作成する。原稿作成後は、プレゼンの分担を決めようえ練習を行う。	家庭でもプレゼンのための練習を行う。
	7	大阪(3)	1. グループ別にプレゼンを行う。 2. ビデオ作品の作成。 3. 次回の取材地について各グループで検討し、作業の分担を決める。	写真撮影を担当する者は、次回の授業までにプレゼン用の写真を用意する。資料担当者は紙媒体の資料を調査しておく。
	8	近畿全域(1)	前回授業ですでに選定してある取材地, 取材施設について、写真、紙媒体およびeb上の記事をもとにプレゼンのための中国語原稿を作成する。原稿作成後は、プレゼンの分担を決めようえ練習を行う。	家庭でもプレゼンのための練習を行う。
	9	近畿全域(1)	1. グループ別にプレゼンを行う。 2. ビデオ作品の作成。 3. 次回の取材地について各グループで検討し、作業の分担を決める。	写真撮影を担当する者は、次回の授業までにプレゼン用の写真を用意する。資料担当者は紙媒体の資料を調査しておく。
	10	近畿全域(2)	前回授業ですでに選定してある取材地, 取材施設について、写真、紙媒体およびeb上の記事をもとにプレゼンのための中国語原稿を作成する。原稿作成後は、プレゼンの分担を決めようえ練習を行う。	家庭でもプレゼンのための練習を行う。
	11	近畿全域(2)	1. グループ別にプレゼンを行う。 2. ビデオ作品の作成。 3. 次回の取材地について各グループで検討し、作業の分担を決める。	写真撮影を担当する者は、次回の授業までにプレゼン用の写真を用意する。資料担当者は紙媒体の資料を調査しておく。
	12	近畿全域(3)	前回授業ですでに選定してある取材地, 取材施設について、写真、紙媒体およびeb上の記事をもとにプレゼンのための中国語原稿を作成する。原稿作成後は、プレゼンの分担を決めようえ練習を行う。	家庭でもプレゼンのための練習を行う。
	13	近畿全域(3)	1. グループ別にプレゼンを行う。 2. ビデオ作品の作成。	写真撮影を担当する者は、次回の授業までにプレゼン用の写真を用意する。資料担当者は紙媒体の資料

			3. 次回の取材地について各グループで検討し、作業の分担を決める。	を調査しておく。																
	14	中国北京・上海	前回授業ですでに選定してある取材地、取材施設について、写真、紙媒体およびeb上の記事をもとにプレゼンのための中国語原稿を作成する。原稿作成後は、プレゼンの分担を決めたいえ練習を行う。	家庭でもプレゼンのための練習を行う。																
	15	中国北京・上海(1)	1. グループ別にプレゼンを行う。 2. ビデオ作品の作成。 3. 次回の取材地について各グループで検討し、作業の分担を決める。	写真撮影を担当する者は、次回の授業までにプレゼン用の写真を用意する。資料担当者は紙媒体の資料を調査しておく。																
関連科目	中国語主言語または共通言語2年生対象科目を修了していること。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	筆記試験は行わず、口頭発表の内容やそれへの貢献を評価の材料とする。																			
学生への メッセージ	参加型、発信型の授業です。したがって、授業への取り組みや貢献度をもとに成績評価を行います。																			
担当者の 研究室等	7号館3階中西研究室																			
備考																				

科目名	日中翻訳法Ⅱ a	科目名(英文)	Academic Writing in Chinese IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻

授業概要・目的	中級レベルの中国語作文を中心に文章技術のレベルアップを図ることが目的である。本講義では中国語表現の基本文型や関連語句を覚え、翻訳方法を学習する。実用的な文章が書けることを最終目標とする。
到達目標	中国語中級作文に欠かせない文法・文型・語彙を覚え、中文日訳・日文中訳の実力を高める。
授業方法と留意点	この科目が必修科目であることに注意が必要である。選択科目「総合中国語 a」「総合中国語 b」が中国語検定試験 2 級受験のための総合的内容であるのに対して、この科目は日文中訳に的を絞った内容である。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験 3～2 受験可能

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第一課 大学生の週末 2	基本文型と関連語句を使った練習。 例文中の日訳。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
3	第二課 北京の交通事情 1	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
4	第二課 北京の交通事情 2	基本文型と関連語句を使った練習。 例文中の日訳。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
5	第一、二課復習・練習	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
6	第三課 中国人の主食 1	基本文型と関連語句を使った練習。 例文中の日訳。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
7	第三課 中国人の主食 2	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
8	第四課 数字についての好み 1	基本文型と関連語句を使った練習。 例文中の日訳。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
9	第四課 数字についての好み 2	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
10	第三、四課復習・練習	基本文型と関連語句を使った練習。 例文中の日訳。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
11	第五課 大学生のアルバイト事情 1	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
12	第五課 大学生のアルバイト事情 2	基本文型と関連語句を使った練習。 例文中の日訳。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
13	第六課 集団生活のメリット 1	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
14	第六課 集団生活のメリット 2	基本文型と関連語句を使った練習。 例文中の日訳。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
15	総復習	前期内容の復習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	3年次の中国語科目：「総合中国語」「中国語コミュニケーション」「中国語原書講読Ⅰ」「中国語会話表現Ⅰ」「ビジネス中国語Ⅲ」「中国語トピックス」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	知っておきたい中国事情	吉田泰謙/相原里美	白水社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	試験は單元ごとに小テストを行います。
学生への メッセージ	翻訳、作文の実力を高めるために、中国語表現の基本文型を正確に理解することが大事です。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	

科目名	日中翻訳法Ⅱb	科目名(英文)	Academic Writing in Chinese IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻

授業概要・目的	前期と同様、中級レベルの中国語作文を中心に文章技術のレベルアップを図ることが目的である。本講義では中国語表現の基本文型や関連語句を覚え、翻訳方法を学習する。実用的な文章が書けることを最終目標とする。
到達目標	中国語中級作文に欠かせない文法・文型・語彙を覚え、中文日訳・日文中訳の実力を高める。
授業方法と留意点	この科目が必修科目であることに注意が必要である。選択科目「総合中国語a」「総合中国語b」が中国語検定試験2級受験のための総合的内容であるのに対して、この科目は日文中訳に的を絞った内容である。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験2級受験可能

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第七課 北京での買い物2	基本文型と関連語句を使った練習。 例文中の日訳。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
3	第八課 贈り物で気を付けること1	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
4	第八課 贈り物で気を付けること2	基本文型と関連語句を使った練習。 例文中の日訳。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
5	第七、八課の復習・練習	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
6	第九課 中国式結婚1	基本文型と関連語句を使った練習。 例文中の日訳。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
7	第九課 中国式結婚2	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
8	第十課 共働き家庭1	基本文型と関連語句を使った練習。 例文中の日訳。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。 ユニット5 内容の予習
9	第十課 共働き家庭2	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
10	第九、十課の復習・練習	基本文型と関連語句を使った練習。 例文中の日訳。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
11	第十一課 中国人の呼称1	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
12	第十一課 中国人の呼称2	基本文型と関連語句を使った練習。 例文中の日訳。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
13	第十二課 大学生が憧れる職業1	短文の日訳中 中文の聞き取り 基本文型、関連語句	短文の熟読 関連語句や文型の復習
14	第十二課 大学生が憧れる職業2	基本文型と関連語句を使った練習。 例文中の日訳。 練習問題日訳中。 基本文型を使った文作り。	短文の暗記。 練習問題を解答してくる。
15	総復習	後期内容の総復習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	3年次の中国語科目：「総合中国語」「中国語コミュニケーション」「中国語原書講読Ⅰ」「中国語会話表現Ⅰ」「ビジネス中国語Ⅲ」「中国語トピックス」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	知っておきたい中国事情	吉田泰謙/相原里美	白水社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	試験は單元ごとに小テストを行います。
学生への メッセージ	翻訳、作文の実力を高めるために、中国語表現の基礎文型を正確に理解することが大事です。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	



科目名	日本語音韻論	科目名(英文)	Japanese Phonology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊

授業概要・目的	「日本語音韻論(日本語学Ⅱ)」では日本語の音韻について学ぶ。 音韻というのは、日本語の「音」に関すること。発音やアクセントなどについて、具体的に考える。 外国語を学ぶ上でも重要な、日本語の音について正しく理解する。
到達目標	日本語の発音について、正確な知識をもとに説明することができる。
授業方法と留意点	板書と配布するプリントに基づいて講義する。講義後、コメントや課題を求める。
科目学習の効果(資格)	日本語に対する理解を深める。日本語を相対的に観察し、外国語と比較する視点が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方 日本語の「音」について、考えてみる	—————
2	言語体系の諸単位 調音器官	言語の要素について 調音器官について知る	日本語の音について各自考えておく
3	母音	母音をどのように発音しているか考える	日本語の音韻史について復習しておく
4	子音1	子音をどのように発音しているか考える	母音の調音を整理しておく
5	子音2	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
6	清音・濁音	清音・濁音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
7	前半のまとめ 《確認小テスト》	ここまでのまとめ 子音の発音の復習問題	子音・母音の調音について復習しておく
8	撥音・促音・長音 日本語の発音の諸問題	撥音・促音・長音について 日本語の発音の諸問題を取り上げる	拍の表を作成しておく
9	拍、音節 五十音図	日本語の拍と音節について考える 日本語の拍の一覧表を作成する	撥音・促音・長音について復習しておく
10	日本語のリズム	日本語が持つリズムの特徴について考える	拍の表に追加をしておく
11	アクセント1	高低アクセントと強弱アクセント アクセントの東西比較	日本語のリズムについての課題を作成しておく
12	アクセント2	アクセントの高低配分	関西と関東のアクセントの違いをまとめておく
13	アクセント3	活用語のアクセント イントネーションとアクセント	アクセントの法則をまとめておく
14	音の交替	母音交替・連濁	アクセントとイントネーションについて復習しておく
15	《最終確認テスト》 まとめ	復習テストを行う	これまでの復習

関連科目	音声学 2015年～入学生 日本語史概論、日本語語彙論、日本語文法論 ～2014年入学生 日本語学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	確認小テストと最終確認テスト(75%)、講義時の課題等(25%)により総合的に評価する。 単位認定には最終確認テストの受験を条件とする。
学生へのメッセージ	日頃何気なく発している日本語は、どのようにして発音されているのか。 実際に発音しながら、発音やアクセントについて考えてみましょう。
担当者の研究室等	7号館4階(橋本研究室)
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。

科目名	日本語学 I	科目名 (英文)	Japanese Linguistics I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊

授業概要・目的	全部で四教科開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語史概説（日本語学Ⅰ）」では日本語の諸問題について歴史的に学ぶ。 日本語の歴史を知ることが、現在の日本語を考察することにつながる。日本語は、文献が残されている時代からでも、発音も文字も文法も、ずいぶん変化している。どう変化したのか、なぜ変化したのか、という視点で、古代を中心に各時代の日本語の変化を考察する。
到達目標	日本語の文字、語彙、言葉遣いなどの特徴について、歴史的背景をもとに正確に説明することができる。
授業方法と留意点	配布するプリントに沿って講義する。講義の後、コメントを求めたり、課題を出す。
科目学習の効果（資格）	日本語の歴史の理解を通して、言葉に対する関心、理解が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の進め方、概説 日本の時代区分	———
2	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史 1 漢字の受容	時代区分を覚える
3	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史 2 ひらがなの成立	万葉仮名について整理する
4	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史 3 カタカナの成立	ひらがなの成立について整理する
5	山・やま・ヤマはどう違う？	漢字・ひらがな・カタカナの歴史 4 様々な文体 縦書き横書き混用の背景	カタカナの成立について整理する
6	《確認小テスト》 行列と行進	音読みについて学ぶ	文体についてまとめる
7	生きる・生まれる・生える	訓読みについて学ぶ	音読みについて整理する
8	たかが方言 されど方言	標準語と方言 1 標準語の成立	訓読みについて整理する
9	たかが方言 されど方言	標準語と方言 2 方言の分布・文法	標準語についてまとめる
10	たかが方言 されど方言	標準語と方言 3 方言の拡大と現代語	方言の分布について整理する
11	わたしだ・わしじゃ・わたくしですわ	様々な言葉遣いについて	方言の特徴を調べる
12	《確認小テスト》 「はひふへほ」と「びびぶべぼ」	発音の変化 1 古代の発音	言葉遣いについて考察する
13	「はひふへほ」と「びびぶべぼ」	発音の変化 2 変化の様子	古代の発音を整理する
14	恋・愛・恋愛	翻訳語について考える	発音の変化を整理する
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習テストを行う	これまでの復習

関連科目 日本語音韻論（日本語学Ⅱ）、日本語語彙論（日本語学Ⅲ）、日本語文法論（日本語学Ⅳ）、ことばに関する授業すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準） 確認小テスト・確認テスト（75%）と講義時の課題（25%）から総合的に評価する。  
最終週の《最終確認テスト》の受験を条件とする。

学生へのメッセージ 日本語の歴史を知ることが、現代の日本語の新たな一面が見えてくるはずです。

担当者の研究室等 7号館4階（橋本研究室）

備考 事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。

科目名	日本語学Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Linguistics II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊

授業概要・目的	「日本語音韻論(日本語学Ⅱ)」では日本語の音韻について学ぶ。 音韻というのは、日本語の「音」に関すること。発音やアクセントなどについて、具体的に考える。 外国語を学ぶ上でも重要な、日本語の音について正しく理解する。
到達目標	日本語の発音について、正確な知識をもとに説明することができる。
授業方法と留意点	板書と配布するプリントに基づいて講義する。講義後、コメントや課題を求める。
科目学習の効果(資格)	日本語に対する理解を深める。日本語を相対的に観察し、外国語と比較する視点が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方 日本語の「音」について、考えてみる	—————
2	言語体系の諸単位 調音器官	言語の要素について 調音器官について知る	日本語の音について各自考えておく
3	母音	母音をどのように発音しているか考える	日本語の音韻史について復習しておく
4	子音1	子音をどのように発音しているか考える	母音の調音を整理しておく
5	子音2	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
6	清音・濁音	清音・濁音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
7	前半のまとめ 《確認小テスト》	ここまでのまとめ 子音の発音の復習問題	子音・母音の調音について復習しておく
8	撥音・促音・長音 日本語の発音の諸問題	撥音・促音・長音について 日本語の発音の諸問題を取り上げる	拍の表を作成しておく
9	拍、音節 五十音図	日本語の拍と音節について考える 日本語の拍の一覧表を作成する	撥音・促音・長音について復習しておく
10	日本語のリズム	日本語が持つリズムの特徴について考える	拍の表に追加をしておく
11	アクセント1	高低アクセントと強弱アクセント アクセントの東西比較	日本語のリズムについての課題を作成しておく
12	アクセント2	アクセントの高低配分	関西と関東のアクセントの違いをまとめておく
13	アクセント3	活用語のアクセント イントネーションとアクセント	アクセントの法則をまとめておく
14	音の交替	母音交替・連濁	アクセントとイントネーションについて復習しておく
15	《最終確認テスト》 まとめ	復習テストを行う	これまでの復習

関連科目	音声学 2015年～入学生 日本語史概論、日本語語彙論、日本語文法論 ～2014年入学生 日本語学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	確認小テストと最終確認テスト(75%)、講義時の課題等(25%)により総合的に評価する。 単位認定には最終確認テストの受験を条件とする。
----------	---

学生へのメッセージ	日頃何気なく発している日本語は、どのようにして発音されているのか。 実際に発音しながら、発音やアクセントについて考えてみましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(橋本研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。
----	------------------------

科目名	日本語学Ⅲ	科目名(英文)	Japanese Linguistics III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小川 豊生

授業概要・目的	日本語学Ⅲでは、とくに日本語の語彙の成り立ちを中心に、その他文法・文章表現なども含めて、幅広く日本語についての知識や運用力を高めま
到達目標	・日本語の語彙を中心とした基礎的知識を身につける。 ・検定試験に臨むための基本的力を養成する。
授業方法と留意点	プリント・講義ノートに基づいてすすめます。日本語検定試験にも対応できる力を養成することを目指して、講義以外に、多くの練習問題を実施してまいります。その訓練に耐えられるよう、心がけてください。
科目学習の効果(資格)	日本語検定試験を積極的に受験することを薦めます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	語彙と文法・単語の性質①	語彙と文法とが文の中でどうかかわり合っていくかについて考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	2	語彙と文法・単語の性質②	単語のもつ性質について様々な角度から考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	3	単語の種類①	単語のもつ意味や機能について分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	4	単語の種類②	単語のもつ意味や機能について分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	5	語構成①	単純語・合成語・複合語・造語法について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	6	語構成②	単純語・合成語・複合語・造語法について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	7	語彙の体系	類義語・対義語・語根について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	8	日本的語彙①	日本的語彙の特質について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	9	日本的語彙②	日本的語彙の特質について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	10	意味の変化	時代とともに変化する語彙の歴史について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	11	比喩	比喩的意味の種々相について考察する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	12	慣用句	慣用句の成り立ちについて分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	13	文体的特徴	文体とは何か、日本文の構造から分析を加える。	配布した練習問題の回答とまとめ
	14	表記	送り仮名・仮名遣いなどの日本語表記について分析する。	配布した練習問題の回答とまとめ
	15	総合評価授業	授業全体のまとめをおこない、総合問題を解く。	総まとめ

関連科目	国際教養論(言語)・日本語学Ⅰ～Ⅲ
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	総合評価授業での総合問題、および練習問題・レポート等を総合して評価する。
----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	ここで学んだことを実際に使ってみることを心がけてください。またそれが可能となる講義を目指します。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(小川研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。
----	------------------------------------

科目名	日本語教育実習演習	科目名(英文)	Japanese Teaching Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的	外国人日本語学習者に実際に日本語を教えるために、具体的な日本語教授法について講義と実習を行います。初級・中級・上級の各コースにおいて、目的や対象などによって指導案及び教材を作成する方法を学び、教育実習期間には本学の外国人留学生を対象に受講者全員が日本語の授業を試みます。
到達目標	*日本語授業を行うための教案および教材作成ができる。 *外国人留学生を対象にした教育実習で日本語の指導ができる。
授業方法と留意点	授業では、講義に加えディスカッション、テキスト・教材分析、教案・教材作成等の作業、授業観察、模擬授業など、日本語を教えるために、より実践的に授業を行います。この科目を受講するには、必要単位数を取得しておかなければならないので、受講前に各自確認しておいてください。
科目学習の効果(資格)	本学の日本語教師養成課程の修了証

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	外国人学習者の学習段階(初級・中級・上級レベル)について、実習運営について	配布資料 熟読
2	日本語教師の役割	日本語教師に求められるもの	日本語教育関連資料収集
3	コースデザイン	コースデザインの方法、学習者別のコースデザイン	日本語教育関連資料収集
4	テキスト・教材分析①	初級のテキスト・教材分析	担当のテキスト分析
5	テキスト・教材分析②	中上級のテキスト・教材分析	レジュメ作成、発表準備
6	発表	各自レジュメに沿って発表	教科書 熟読
7	初級レベルの指導①	指導の実際、教案の書き方	教科書 熟読
8	初級レベルの指導②	指導の実際	教科書 熟読
9	初級レベルの指導③	指導の実際	教科書 熟読
10	初級レベルの指導④	日本語の授業観察	初級のテキスト分析、発表準備
11	初級レベルの指導⑤	日本語の授業観察	課題レポート作成
12	初級レベルの指導⑥	教室活動例、副教材、指導方法の考察	教材、教案作成
13	初級レベルの指導⑦	教室活動例、副教材、指導方法の考察	教材、教案作成、発表準備
14	模擬授業	グループ発表、ディスカッション	発表準備
15	模擬授業	グループ発表、ディスカッション	課題レポート作成
16	中級レベルの指導①	中級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	中級レベルの教材作成、発表準備
17	中級レベルの指導②	中級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	中級レベルの教材作成、発表準備
18	上級レベルの指導①	上級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	上級レベルの教材作成、発表準備、
19	上級レベルの指導②	上級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	上級レベルの教材作成、発表準備、
20	指導方法について発表	発表、ディスカッション	配布資料 熟読
21	日本語授業の実際(1)	授業観察	授業観察レポート作成
22	日本語授業の実際(2)	授業観察	授業観察レポート作成
23	日本語授業の実際(3)	授業観察	授業観察レポート作成
24	日本語授業の実際(4)	授業観察	授業観察レポート作成
25	実習準備(1)	日本語教育実習実施概要と留意点、	グループごとに課題
26	実習準備(2)	実習生及び外国人留学生とのグループディスカッション	グループごとに課題
27	教育実習(実習週)	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、指導教員による個別指導	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、
28	教育実習(実習週)	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、指導教員による個別指導	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、
29	実習の反省 自己評価	ディスカッション、発表	実習ノート作成、発表準備
30	作成教材発表、実習のまとめ	発表	実習ノート完成

関連科目 日本語教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、日本語学全般、英語科教育法、その他の「日本語教員養成課程」配当の科目。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	みんなの日本語初級Ⅰ 教え方の手引き		スリーエーネットワーク
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめての日本語教育2		アスク
2			
3			

評価方法(基準) 授業におけるタスク達成度・討論・発表、及び作成した教案・教材や実習ノート等から総合的に評価します。

学生へのメッセージ 外国人留学生に実際に日本語を教えることは貴重な経験になります。特に本学では、学内で教育実習ができる恵まれた環境で日本語教育について学べます。このチャンスを最大限生かして、多くのことを学んでください。

担当者の研究室等 7号館4階(門脇研究室)

備考

科目名	日本語教授法 I	科目名 (英文)	Japanese Teaching Methodology I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的 「日本語教授法 I・II・III」の中で、本授業では、外国語教授法、教科書・教材論、コースデザイン、日本語の文字・語彙・文法とその指導方法など、外国語としての日本語教育について広く概観する。

到達目標 教科書の前半内容に関する知識を習得する。

授業方法と留意点 授業は、講義の他にグループディスカッション、DVD視聴、課題、発表も含まれる。

科目学習の効果 (資格) 「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。「日本語教授法 II・III」の先行科目。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	教科書第1章第1節
2	日本語教育と外国語教育	日本語教育と国語教育、日本語教育と英語教育	教科書第1章第2節
3	日本語教育の歴史	時代区分別の日本語教育史	教科書第2章第1節
4	外国語教授法 (1)	外国語教授法の理論と実践	DVDを視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成
5	外国語教授法 (2)	外国語教授法の理論と実践	DVDを視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成
6	外国語教授法 (3)	外国語教授法の理論と実践	教授法理論のレポート作成、教科書第2章第2節
7	コースデザイン	コースデザイン、シラバスデザイン、ニューズアナリシス、評価	教科書及びその他資料による課題
8	日本語教育の目標	レベル別目標、日本語能力試験の目標	教科書及びその他資料の課題
9	教材・教具 (1)	日本語教育の教科書	課題 (教科書分析)
10	教材・教具 (2)	日本語教育の教材・教具	課題 (教材分析)、教科書第3章第1節
11	日本語学の基礎知識：文法	日本語教育のための日本語文法とその指導方法	教科書第3章第2節
12	日本語学の基礎知識：語彙	日本語の語彙の特徴、語彙の指導方法	教科書第3章第3節
13	日本語学の基礎知識：文字	文字の種類と指導方法	教科書第3章第4節
14	外国人学習者の日本語	外国人学習者との接触場面における学習者の日本語観察	教科書及びその他資料の課題
15	総復習・確認テスト	教科書の内容についての理解度確認	総復習

関連科目 日本語教授法 II・III、日本語学全般、日本語教育実習、その他の「日本語教員養成課程 (副専攻相当)」配当の選択科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 課題、レポート、授業への参加度、テスト等により総合的に評価する。

学生へのメッセージ 外国人を対象に外国語として日本語を教える面白さを皆で共有したいと思います。

担当者の研究室等 7号館4階(門脇研究室)

備考

科目名	日本語教授法Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Teaching Methodology II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳

授業概要・目的	初級レベルの文法項目を通覧し、多くの例文を文法的に分析する。
到達目標	日本語の文法知識と分析方法を習得する。 日本語学習者にとっての困難点を理解し、日本語という言語を客観的に捉えられる。
授業方法と留意点	授業は講義のほかに発表も含まれ、講義で得た知識をもとに自分の言葉で説明することが求められる。 授業への出席はもとより、主体的かつ積極的な参加を期待する。
科目学習の効果(資格)	日本語教員養成副専攻必須科目の一つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方	シラバスを読んでおく。
2	文法を教えるとは	文法を教える際に気をつけなければならないことについて知る。	文法を教える際の留意点を復習する。
3	文型	初級で扱われる主要な文型について知る。	日本語教育で扱われる文型とは何か、どのような文型があるか復習する。
4	動詞の分類	日本語教育で使われている動詞の分類について知る	動詞の分類のしかた(グループ分け)について復習する。
5	動詞の活用形	日本語教育で使われている活用形について知る。	動詞のさまざまな活用形と、その活用のルールについて復習する。
6	形容詞と名詞	形容詞の分類方法と形容詞・名詞の活用について知る。	形容詞・名詞の活用のしかたについて復習する。
7	指示詞	こ・そ・あの使い分けについて知る。	こ・そ・あのさまざまな用法の違いについて復習する。
8	格助詞	主に場所を表す格助詞について知る。	場所を表す格助詞(に・で・を)の違いを整理して復習する。
9	存在文	「います・あります」の使い分けについて知る。	存在文の形と使用される助詞について復習する。
10	授受表現	日本語の授受表現の特徴について知る	授受表現の使い分けについて復習する。
11	自動詞・他動詞	日本語の自動詞・他動詞の違いについて知る。	自動詞・他動詞の形と意味の違いを整理して復習する。
12	受身①	日本語の受身の特徴と分類について知る。	受身形の作り方と受身の分類について復習する。
13	受身②	日本語の受身の特徴と分類について知る。	日本語の受身の特徴について復習する。
14	敬語	日本語の敬語の体系について知る。	尊敬語・謙譲語の使用のしかたを復習する。
15	まとめ・確認	学習事項の確認として試験を行う。	これまでの学習事項を復習する。授業で学習したことをどのように今後生かすか考える。

関連科目	日本語教授法Ⅰ&Ⅱ、日本語学、日本語教育実習等
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加態度、課題達成、学期末試験などを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	普段何気なくつかっている日本語について分析的に捉え、日本語という言語を新たな視点で捉えてみましょう。また、この授業を通して日本語を学習している人たちにとってどういったことが難しいのかということも考えてみてください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	質問・相談は授業前または授業後に対応する。メールでも可。 授業の内容に関する課題は必ず行うこと。 毎回新しい文法事項を扱うので、毎授業後に30分から1時間程度の復習が必要。

科目名	日本語教授法Ⅲ	科目名(英文)	Japanese Teaching Methodology III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮崎 玲子

授業概要・目的	日本語を教えるときに必要となる基礎的知識・技能を身につける。
到達目標	日本語教員資格取得のための基礎力を身につける。
授業方法と留意点	授業は、講義の他にグループディスカッション、課題、発表も含まれる。事前に教科書を読んでくることが求められる。
科目学習の効果(資格)	日本語教員資格取得のための実力養成

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	オリエンテーション	第3章第4節「音声」を読む。
2	第3章第4節「音声」	日本語の音声の指導、学習について考える。	授業内容を復習する。 教科書の第4章第1節を読む。
3	第4章第1節「読むことに焦点を当てた指導の理論と実践」1	「読む」ことの指導方法について考える。	授業内容を復習する。
4	第4章第1節「読むことに焦点を当てた指導の理論と実践」2	「読む」ことの指導方法について考える。	授業内容を復習する。 教科書の第4章第2節を読む。
5	第4章第2節「聞くことに焦点を当てた指導の理論と実践」1	「聞く」ことの指導方法について考える。	授業内容を復習する。
6	第4章第2節「聞くことに焦点を当てた指導の理論と実践」2	「聞く」ことの指導方法について考える。	授業内容を復習する。 教科書の第4章第3節を読む。
7	第4章第3節「話すことに焦点を当てた指導の理論と実践」1	「話す」ことの指導方法について考える。	授業内容を復習する。
8	第4章第3節「話すことに焦点を当てた指導の理論と実践」2	「話す」ことの指導方法について考える。	授業内容を復習する。 教科書の第4章第4節を読む。
9	第4章第4節「書くことに焦点を当てた指導の理論と実践」1	「書く」ことの指導方法について考える。	授業内容を復習する。
10	第4章第4節「書くことに焦点を当てた指導の理論と実践」2	「書く」ことの指導方法について考える。	授業内容を復習する。 教科書の第4章第5節を読む。
11	第4章第5節「日本事情に焦点を当てた指導の理論と実践」	「日本事情」の指導方法について考える。	授業内容を復習する。 教科書の第5章第1節を読む。
12	第5章第1節「学習者の異文化体験」	異文化コミュニケーションについて考える。	授業内容を復習する。 教科書の第5章第2節を読む。
13	第5章第2節「留学生が経験する現実の接触場面」	現実の接触場面に必要な能力について考える。	授業内容を復習する。 教科書の第5章第3節を読む。
14	第5章第3節「日本語学習者の情意要因」	学習動機などの学習者の情意面について考える。	授業内容を復習する。
15	期末試験	筆記試験の実施	教科書・プリントを復習しておくこと。

関連科目 日本語教授法Ⅰ、日本語教授法Ⅱ、日本語学、日本語教育実習、その他の選択科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	課題、発表、授業への参加態度、期末試験などを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	前期に学んだ日本語教育や日本語に関する知識をもとに、自分自身の外国語学習経験も振り返りながら、外国人にとって分かりやすく楽しい日本語の教え方について共に考えましょう。また、今後日本語教育に関わるにあたり、大切なことは何か考えましょう。
担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)



科目名	日本語史概説	科目名(英文)	History of Japanese Language
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊

授業概要・目的	全部で四教科開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語史概説(日本語学Ⅰ)」では日本語の諸問題について歴史的に学ぶ。 日本語の歴史を知ることが、現在の日本語を考察することにつながる。日本語は、文献が残されている時代からでも、発音も文字も文法も、ずいぶんと変化している。どう変化したのか、なぜ変化したのか、という視点で、古代を中心に各時代の日本語の変化を考察する。
到達目標	日本語の文字、語彙、言葉遣いなどの特徴について、歴史的背景をもとに正確に説明することができる。
授業方法と留意点	配布するプリントに沿って講義する。講義の後、コメントを求めたり、課題を出す。
科目学習の効果(資格)	日本語の歴史の理解を通して、言葉に対する関心、理解が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の進め方、概説 日本の時代区分	———
2	山・やま・ヤマはどう違う?	漢字・ひらがな・カタカナの歴史 1 漢字の受容	時代区分を覚える
3	山・やま・ヤマはどう違う?	漢字・ひらがな・カタカナの歴史 2 ひらがなの成立	万葉仮名について整理する
4	山・やま・ヤマはどう違う?	漢字・ひらがな・カタカナの歴史 3 カタカナの成立	ひらがなの成立について整理する
5	山・やま・ヤマはどう違う?	漢字・ひらがな・カタカナの歴史 4 様々な文体 縦書き横書き混用の背景	カタカナの成立について整理する
6	《確認小テスト》 行列と行進	音読みについて学ぶ	文体についてまとめる
7	生きる・生まれる・生える	訓読みについて学ぶ	音読みについて整理する
8	たかが方言 されど方言	標準語と方言 1 標準語の成立	訓読みについて整理する
9	たかが方言 されど方言	標準語と方言 2 方言の分布・文法	標準語についてまとめる
10	たかが方言 されど方言	標準語と方言 3 方言の拡大と現代語	方言の分布について整理する
11	わたしだ・わしじゃ・わたくしですわ	様々な言葉遣いについて	方言の特徴を調べる
12	《確認小テスト》 「はひふへほ」と「ばびぶべぼ」	発音の変化 1 古代の発音	言葉遣いについて考察する
13	「はひふへほ」と「ばびぶべぼ」	発音の変化 2 変化の様子	古代の発音を整理する
14	恋・愛・恋愛	翻訳語について考える	発音の変化を整理する
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習テストを行う	これまでの復習

関連科目 日本語音韻論(日本語学Ⅱ)、日本語語彙論(日本語学Ⅲ)、日本語文法論(日本語学Ⅳ)、ことばに関する授業すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 確認小テスト・確認テスト(75%)と講義時の課題(25%)から総合的に評価する。  
最終週の《最終確認テスト》の受験を条件とする。

学生へのメッセージ 日本語の歴史を知ること、現代の日本語の新たな一面が見えてくるはずです。

担当者の研究室等 7号館4階(橋本研究室)

備考 事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。



科目名	日本語上級会話 F II	科目名 (英文)	Advanced Japanese Speaking FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高井 美穂

授業概要・目的	日本語会話 F I と同様、個人や社会の価値観にかかわるような話題について日本語で議論する能力を伸ばす。
到達目標	抽象的な話題について論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	統計数理研究所「日本人の国民性調査」の質問項目のなかから、前期に扱わなかった項目およびその結果について議論する。また、その過程で、意見を構成するために必要な語彙を学ぶ。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>トピック①</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>トピック②</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>トピック③</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>トピック④</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>トピック⑤</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>トピック⑥</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>中間テスト・復習</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>トピック⑦</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>トピック⑧</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>トピック⑨</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>トピック⑩</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>トピック⑪</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>トピック⑫</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>トピック⑬</td><td>議論</td><td>復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>インタビュー形式によるテスト</td><td>復習</td></tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	トピック①	議論	復習	2	トピック②	議論	復習	3	トピック③	議論	復習	4	トピック④	議論	復習	5	トピック⑤	議論	復習	6	トピック⑥	議論	復習	7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習	8	トピック⑦	議論	復習	9	トピック⑧	議論	復習	10	トピック⑨	議論	復習	11	トピック⑩	議論	復習	12	トピック⑪	議論	復習	13	トピック⑫	議論	復習	14	トピック⑬	議論	復習	15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	トピック①	議論	復習																																																														
2	トピック②	議論	復習																																																														
3	トピック③	議論	復習																																																														
4	トピック④	議論	復習																																																														
5	トピック⑤	議論	復習																																																														
6	トピック⑥	議論	復習																																																														
7	中間テスト・復習	インタビュー形式によるテスト	復習																																																														
8	トピック⑦	議論	復習																																																														
9	トピック⑧	議論	復習																																																														
10	トピック⑨	議論	復習																																																														
11	トピック⑩	議論	復習																																																														
12	トピック⑪	議論	復習																																																														
13	トピック⑫	議論	復習																																																														
14	トピック⑬	議論	復習																																																														
15	まとめ	インタビュー形式によるテスト	復習																																																														

関連科目	
------	--

教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	授業への取り組み、2回のインタビューテストから総合的に判断する。
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	国際交流センター (3号館4階)
----------	------------------

備考	
----	--

科目名	日本語上級作文F I	科目名(英文)	Advanced Japanese Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	様々な状況・場面における作文を通し、相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じた適切な文が書けるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	相手との関係や文を書く目的、使用する媒体に応じて適切な文が書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。																																																																		
科目学習の効果(資格)	相手との関係、書く内容、使用媒体に応じた適切な文章が書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する</td> <td>————</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Eメールの基本1</td> <td>Eメールの基本を学習する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Eメールの基本2</td> <td>Eメールの基本を学習する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Eメール1</td> <td>近況を知らせるメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Eメール2</td> <td>お知らせメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Eメール3</td> <td>お誘いメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Eメール4</td> <td>リマインドメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Eメール5</td> <td>問い合わせ/質問メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Eメール6</td> <td>依頼メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Eメール7</td> <td>アポイント/日程調整メール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Eメール8</td> <td>お礼のメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Eメール9</td> <td>断りメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Eメール10</td> <td>クレームのメール</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>手紙</td> <td>お礼状を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	————	2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習	3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習	4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習	5	Eメール2	お知らせメール	復習	6	Eメール3	お誘いメール	復習	7	Eメール4	リマインドメール	復習	8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習	9	Eメール6	依頼メール	復習	10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習	11	Eメール8	お礼のメール	復習	12	Eメール9	断りメール	復習	13	Eメール10	クレームのメール	復習	14	手紙	お礼状を書く	復習	15	総復習	総復習	復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用について学習する	————																																																																
2	Eメールの基本1	Eメールの基本を学習する	復習																																																																
3	Eメールの基本2	Eメールの基本を学習する	復習																																																																
4	Eメール1	近況を知らせるメール	復習																																																																
5	Eメール2	お知らせメール	復習																																																																
6	Eメール3	お誘いメール	復習																																																																
7	Eメール4	リマインドメール	復習																																																																
8	Eメール5	問い合わせ/質問メール	復習																																																																
9	Eメール6	依頼メール	復習																																																																
10	Eメール7	アポイント/日程調整メール	復習																																																																
11	Eメール8	お礼のメール	復習																																																																
12	Eメール9	断りメール	復習																																																																
13	Eメール10	クレームのメール	復習																																																																
14	手紙	お礼状を書く	復習																																																																
15	総復習	総復習	復習																																																																
関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業への参加度、課題などを総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な書き方を勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。																																																																		

科目名	日本語上級作文FⅡ	科目名(英文)	Advanced Japanese Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里

授業概要・目的	ビジネス場面でのメール交換について解説しながら、実践を通し、状況・目的に応じて適切なビジネスメールが書けるようになることを目指す。
到達目標	日本のビジネス場面やビジネス場面でのメール交換について理解し、状況や目的、相手に応じて適切なビジネスメールが書けるようになる。
授業方法と留意点	解説と書く練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	状況や目的、相手に応じた適切なビジネスメールが書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ビジネス場面のライティング	授業の説明、 ビジネス場面でのライティングについて学習する	—————
	2	就職活動1	就職活動について学習する 履歴書を書く	復習
	3	就職活動2	自己PRを書く	復習
	4	ビジネスマナー ビジネスコミュニケーション	ビジネスマナー、ビジネス場面でのコミュニケーションについて学習する	復習
	5	ビジネスメールの基本	ビジネスメールの基本を学ぶ	復習
	6	ビジネスメール1	挨拶メール	復習
	7	ビジネスメール2	報告メール	復習
	8	ビジネスメール3	通知メール	復習
	9	ビジネスメール4	案内メール	復習
	10	ビジネスメール5	確認メール	復習
	11	ビジネスメール6	依頼メール	復習
	12	ビジネスメール7	問い合わせ/回答メール	復習
	13	ビジネスメール8	アポイントを取るメール	復習
	14	ビジネスメール9	お詫び/お礼のメール	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	総合日本語、日本語読解、日本語会話、日本事情
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への参加態度、課題などを総合的に評価する。
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	日系企業や日本国内の会社で働く際に必要な知識やビジネスメールの書き方を勉強して、就職に備えた練習をしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)宿題(教員へのメール送信)は、授業中に適宜指示する。 (2)授業外の質問等には、メールで対応する。 (3)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語上級読解 F I	科目名 (英文)	Advanced Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る                  ②まとまった内容の文章の大意を把握する                  ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キーワード・キーセンテンスを探す</li> <li>2. 接続詞に注意する</li> <li>3. テキストの流れに注意する</li> <li>4. 予測して読む</li> <li>5. テキストをまとめる</li> </ol>																																																																
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。</li> <li>・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。</li> <li>・その成果を専門の文章の読解に応用する。</li> </ul> <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す (1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す (2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む (1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む (2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む (1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む (2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む (1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む (2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																														
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																														
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																														
関連科目	日本語表現作文																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室 (7号館2階) またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																

科目名	日本語上級読解 F II	科目名 (英文)	Advanced Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る</p> <p>②まとまった内容の文章の大意を把握する</p> <p>③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キーワード・キーセンテンスを探す</li> <li>2. 接続詞に注意する</li> <li>3. テキストの流れに注意する</li> <li>4. 予測して読む</li> <li>5. テキストをまとめる</li> </ol>																																																																
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。</li> <li>・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。</li> <li>・その成果を専門の文章の読解に応用する。</li> </ul> <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す (1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す (2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む (1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む (2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む (1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む (2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む (1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む (2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																														
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																														
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																														
8	説明文を読む (1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
9	説明文を読む (2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
10	論説文を読む (1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
11	論説文を読む (2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
13	小説を読む (1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
14	小説を読む (2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																														
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																														
関連科目	日本語表現作文																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室 (7号館2階) またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																

科目名	日本語表現論	科目名(英文)	Japanese Phraseology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊

授業概要・目的	<p>この科目は、外国語専門職プログラム科目です。 我々は日本語を用いて、何をどのように表現しているのだろうか、そして表現できるのだろうか。 この授業では、日本人が日本語を用いて、どのように表現してきたのか、そしてどのような表現が可能なのかを、様々な事例を通して考える。 それによって、言語に対する感覚を研ぎ澄まし、言葉にこだわる人間になることを目指す。</p> <p>この授業は、レポートなどに必要な「正しい」日本語を書く技能を身につける授業ではありません。日本語と格闘する授業です。</p>																																																																		
到達目標	<p>日本語の特徴について、具体的に説明できる。 日本語表現を客観的にとらえ、多様な視点から考えることができる。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>皆さんの意見も聞きながら講義を進行します。 毎回、コメントや課題が出ます。 全部で3節からなります。各節の最後にまとめのテストをします。 各節でレポートを課します。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入</td> <td>日本語はどのような言語か 多様な視点から考える</td> <td>授業の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>世界の中の日本語</td> <td>日本語は特殊な言語なのか考える</td> <td>授業の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1. 言葉にこだわる 1-1. 辞書の比較</td> <td>複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1-2. 助詞にこだわる</td> <td>助詞の使い方から日本語の特徴について考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1-3. 日本語のレトリック</td> <td>様々なレトリックを学ぶ</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1-4. まとめ</td> <td>第1節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>第1節の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>2. 日本語の感覚 2-1. 和歌に見る語感</td> <td>和歌を例に、日本語の表現法を知る</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>2-2. 俳句に見る語感</td> <td>俳句を例に、日本語の表現法を知る</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>2-3. 日本語のオノマトペ</td> <td>日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>2-4. コピー(広告文)の修辞</td> <td>街角で見られるコピーの修辞をもとに日本語を考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>2-5. まとめ</td> <td>第2節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>第2節の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>3. 表現の可能性 3-1. 一人称と三人称</td> <td>小説を例に、一人称と三人称の違いを考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>3-2. 現在形と過去形</td> <td>小説を例に、一人称と三人称の違いを考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>3-3. 表現の冒険</td> <td>小説を例に、日本語表現の可能性を探る</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>3-4. まとめ</td> <td>第3節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>第3節の内容を整理する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する	2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	授業の内容を整理する	3	1. 言葉にこだわる 1-1. 辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える	指示する課題に取り組む	4	1-2. 助詞にこだわる	助詞の使い方から日本語の特徴について考える	指示する課題に取り組む	5	1-3. 日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	指示する課題に取り組む	6	1-4. まとめ	第1節の内容をまとめる確認テスト	第1節の内容を整理する	7	2. 日本語の感覚 2-1. 和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む	8	2-2. 俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む	9	2-3. 日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える	指示する課題に取り組む	10	2-4. コピー(広告文)の修辞	街角で見られるコピーの修辞をもとに日本語を考える	指示する課題に取り組む	11	2-5. まとめ	第2節の内容をまとめる確認テスト	第2節の内容を整理する	12	3. 表現の可能性 3-1. 一人称と三人称	小説を例に、一人称と三人称の違いを考える	指示する課題に取り組む	13	3-2. 現在形と過去形	小説を例に、一人称と三人称の違いを考える	指示する課題に取り組む	14	3-3. 表現の冒険	小説を例に、日本語表現の可能性を探る	指示する課題に取り組む	15	3-4. まとめ	第3節の内容をまとめる確認テスト	第3節の内容を整理する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する																																																																
2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	授業の内容を整理する																																																																
3	1. 言葉にこだわる 1-1. 辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える	指示する課題に取り組む																																																																
4	1-2. 助詞にこだわる	助詞の使い方から日本語の特徴について考える	指示する課題に取り組む																																																																
5	1-3. 日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	指示する課題に取り組む																																																																
6	1-4. まとめ	第1節の内容をまとめる確認テスト	第1節の内容を整理する																																																																
7	2. 日本語の感覚 2-1. 和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む																																																																
8	2-2. 俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む																																																																
9	2-3. 日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える	指示する課題に取り組む																																																																
10	2-4. コピー(広告文)の修辞	街角で見られるコピーの修辞をもとに日本語を考える	指示する課題に取り組む																																																																
11	2-5. まとめ	第2節の内容をまとめる確認テスト	第2節の内容を整理する																																																																
12	3. 表現の可能性 3-1. 一人称と三人称	小説を例に、一人称と三人称の違いを考える	指示する課題に取り組む																																																																
13	3-2. 現在形と過去形	小説を例に、一人称と三人称の違いを考える	指示する課題に取り組む																																																																
14	3-3. 表現の冒険	小説を例に、日本語表現の可能性を探る	指示する課題に取り組む																																																																
15	3-4. まとめ	第3節の内容をまとめる確認テスト	第3節の内容を整理する																																																																
関連科目	<p>外国語専門職プログラム科目 日本語史概論、日本語音韻論、日本語語彙論、日本語文法論</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	<p>レポート全3回(60%) 3回すべての提出を単位認定の条件とする。 まとめテスト(20%) 授業参加度(コメント・課題など)(20%)</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>言葉に敏感になろう</p>																																																																		
担当者の研究室等備考	<p>7号館4階(橋本研究室)</p>																																																																		



科目名	日本史学	科目名(英文)	Japanese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	板書により講義を進めますが、プリント・スライドも用います。
科目学習の効果(資格)	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	復習
	2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	復習
	3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	復習
	4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	復習
	5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	復習
	6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	復習
	7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	復習
	8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	復習
	9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	復習
	10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	復習
	11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	復習
	12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	復習
	13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	復習
	14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	復習
	15	まとめ	論述試験を行います。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義最終日に行う論述試験(持ち込み可)、講義中に課す小レポートなどをもとに総合的に評価します。詳しくは講義第1回目に説明します。
----------	--

学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(赤澤研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。
----	------------------------

科目名	日本と世界の出会い	科目名(英文)	Encounters between Japan and Foreign Cultures
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹

授業概要・目的	世界との出会いを考える際、日本にとって画期となったのは、16世紀のヨーロッパとの接触だった。日本と欧米、両文化のファーストコンタクトを学ぶことは、中国やイスラーム圏も含めたさらに広い世界の認識にもつながる。先行きの見えない現在だからこそ、グローバル化の原点にさかのぼって日本と世界の出会いを理解することが意味をもつ。
到達目標	学んだことを、結論・理由・具体例に分けて簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各單元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。

科目学習の効果(資格)	世界との出会いを知ると同時に、日本についての理解も深まる。
-------------	-------------------------------

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	必ず出席するよう予定を調整する。
2	それは16世紀に	日本が「世界」と出会ったのは16世紀	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
3	それは16世紀に	地球規模の東西交流が始まったのも16世紀	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
4	それは16世紀に	日本とヨーロッパは似ていた	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
5	それは16世紀に	接点は戦争と宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
6	戦争と出会い	鉄砲伝来の交流史	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
7	戦争と出会い	「西洋は進んでいて東洋は遅れている」という思い込み	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。	
8	戦争と出会い	鉄砲に日本史を変えるほどの力はなかった	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。	
9	戦争と出会い	飛び道具を憎んだ西洋騎士、飛び道具を愛した日本武士	同上の課題に加えて小レポート。	
10	戦争と出会い	鉄砲の起源は東洋	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
11	宗教と出会い	キリスト教伝来の交流史	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
12	宗教と出会い	ザビエルをアシストした日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
13	宗教と出会い	西洋的教育機関に留学した最初の日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
14	宗教と出会い	ザビエルを日本に運んだのは中国の船	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	
15	宗教と出会い	布教は慈善事業やファッションとも結びついていた	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	

関連科目	世界の宗教
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト(40点)、②レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点+α)。第3に60点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。
----------	---

学生へのメッセージ	日本と世界の出会いを歴史的に読み解いていくと、「すべては表裏一体」ということに気づきます。実は、このことは授業そのものにも当てはまります。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)
------------	---------------

科目名	日本の思想	科目名(英文)	Japanese Thought
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中村 翼

授業概要・目的	本講義では、日本の思想の流れについて、アジアとの交流をテーマに考えていきます。 具体的には、世界各地でみられるように、自然界の様々なものに神をみいだしてきた日本列島の人々が、朝鮮・中国から仏教、ヨーロッパからのキリスト教と出会うなかで、どのような文化交流を経験し、どのような思想をつくりあげていったのかを紹介していきます。 アジアという環境のなかで、日本がどのような歴史を歩んだのかを考える機会にもなると考えています。
到達目標	同じ日本でも、時代が異なると、ものの考え方や社会の仕組みが全く違っていきます。現代とは異なる論理で動いている社会の考え方を理解しようとする試みは、外国語を学ぶこととはまた違った意味で、「異文化理解」の格好の訓練になるはずで、その訓練を通じて、日本の思想を多面的にとらえる力を身につけることを目標とします。
授業方法と留意点	毎回、講師が準備したプリントを中心に講義を進めます。特定の教材は定めませんので、テキスト等を購入する必要はありません。 ただし、 ①、末木文美士『日本宗教史』(岩波新書、2006年) ②、中村翼「もののけ姫」(藤川隆男・後藤敦史編『アニメで読む世界史』2、山川出版社、2015年) ・・・を読めば、理解が深まるはずで。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明します。	次回の講義に関する配布資料を読んでおいてください。
2	古代の神々と『古事記』	素朴な神への信仰と、『古事記』の編纂の関係を考えます。	次回の講義に関する配布資料を読んでおいてください。
3	古代日本の神と仏	日本に伝来した仏教はどのようなものと考えられていたのか、考えていきます。	次回の講義に関する配布資料を読んでおいてください。
4	中世社会と仏教―もののけ姫の世界から―	映画「もののけ姫」を素材に、日本の古代社会と中世社会の違いを紹介していきます。	映画を事前に観てきた方が、理解が深まると思います。
5	三国世界観と神国日本	仏教が浸透した時代に、日本では「世界」がどのようなものと考えられていたのかを紹介していきます。	次回の講義に関する配布資料を読んでおいてください。
6	鎌倉時代の仏教改革	鎌倉時代におこった仏教改革の動きについて、とくに法然を素材に考えてみます。	次回の講義に関する配布資料を読んでおいてください。
7	「中国」への憧れ	鎌倉時代の仏教改革は、東アジアに目を向けるきっかけとなりました。仏教を通じたアジアとの交流を紹介します。	次回の講義に関する配布資料を読んでおいてください。
8	「わび・さび」の発見	日本人の伝統的な美意識とされる「わび・さび」がどのようにみだされたのか、喫茶文化をてがかりに、アジアとの関わりをふまえて問います。	次回の講義に関する配布資料を読んでおいてください。
9	戦国時代と葬式仏教	戦国時代におけるサバイバルが人々の信仰におよぼした影響について、考えてみます。	次回の講義に関する配布資料を読んでおいてください。
10	キリスト教の伝来と広まり	宣教師をもっとも困らせたの質問の一つは、キリスト教の神が日本の仏と何がちがうのか?・・・でした。それはなぜか、を考えながら、キリスト教の伝来をとらえおします。	次回の講義に関する配布資料を読んでおいてください。
11	「神」になった天下人	キリスト教の弾圧をはじめとする宗教統制と、それと同じ時期にみられた秀吉・家康の「神」化について、紹介します。	次回の講義に関する配布資料を読んでおいてください。
12	武士の統治と儒教	戦国の世から、泰平の世へ。その時、武士に求められたものは何か。中国・朝鮮の儒教と近世日本の儒教の違いや共通点をふまえて、紹介します。	次回の講義に関する配布資料を読んでおいてください。
13	近世人の生活と倫理・道徳	生活の規範としての質素・儉約・親孝行から、体育会のルールまで、その根源を探ります。	次回の講義に関する配布資料を読んでおいてください。
14	まとめ	これまでの授業のまとめをします。	次回の講義に関する配布資料を読んでおいてください。
15	理解度確認テスト	今期の講義を総括し、「到達度確認テスト」を実施します。	今期の講義の復習を各自で行って下さい。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本宗教史(岩波新書)	末木文美士	岩波書店
	2	アニメで読む世界史2	藤川隆男・後藤敦史	山川出版社
	3			

評価方法(基準) 定期試験期間内の試験は行いませんが、最終講義日に、「到達度確認テスト」を行います。  
このテストと平常点で評価が決定しますが、出席が2/3に満たない場合は、成績をつけることができません。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7号館2階外国語学部非常勤講師室

備考

科目名	日本の歴史	科目名(英文)	Japanese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	板書により講義を進めますが、プリント・スライドも用います。
科目学習の効果(資格)	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	復習
2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	復習
3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	復習
4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	復習
5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	復習
6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	復習
7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	復習
8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	復習
9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	復習
10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	復習
11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	復習
12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	復習
13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	復習
14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	復習
15	まとめ	論述試験を行います。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	講義最終日に行う論述試験(持ち込み可)、講義中に課す小レポートなどをもとに総合的に評価します。詳しくは講義第1回目に説明します。																
学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。																
担当者の研究室等	7号館4階(赤澤研究室)																
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。																

科目名	日本文学	科目名(英文)	Japanese Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川 豊生

授業概要・目的	古代から現代にいたる日本文学の流れを具体的にたどり、自らの属する社会・文化の特質についての理解を深めることを目的とする。同時に、近代以降の作品の読解を通じて、作品を読む力、批評する力、論理的に書く力など、基礎的なリテラシーの養成に力点を置きたい。また、世界の文学との比較を通じて、国際社会において日本文化の特質を自らの言葉で明快に表現する力を養成することも目的の一つである。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまなテキストを読解し、その内容を論理的に把握する基本的な力を身につける。</li> <li>古代から現代にいたる日本文学史の流れを説明する力を身につける。</li> <li>日本文化についてその特質を自分なりに説明する力を養う。</li> </ul>
授業方法及び留意点	プリントにもとづく講義中心の授業。
科目学習の効果(資格)	各資格試験に臨むための前提となるリテラシーの基礎的養成。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	古代文学と神話の世界 1	『古事記』の神話をもとに、古代の人々の想像力の特徴を探求する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
2	古代文学と神話の世界 2	引き続き『古事記』の神話世界を探求する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
3	平安文学とモノガタリ 1	『竹取物語』や『源氏物語』をもとに、モノガタリとは何かについて考察する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
4	平安文学とモノガタリ 2	引き続き、『竹取物語』や『源氏物語』をもとに、モノガタリとは何かについて考察する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
5	説話文学の世界	『今昔物語集』について解説する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
6	軍記物語の世界	『平家物語』について解説する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
7	中世の伝承文学 1	御伽草子「鉢かぎ姫」について解説する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
8	中世の伝承文学 2	大阪に伝わる中世の伝承をとりあげ、信仰と文学との関わりについて考察する。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
9	江戸小説の世界 1	近松門左衛門の作品をとりあげ、大阪の文学について認識を深める。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
10	江戸小説の世界 2	江戸のユートピア小説とヨーロッパのそれとの比較考察	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
11	近代の文学 1 太宰治	太宰治の短編作品を読む。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
12	近代の文学 2 宮沢賢治	宮沢賢治の短編作品を読む。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
13	近代の文学 3 江戸川乱歩	江戸川乱歩の短編作品を読む。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
14	現代の文学 (吉本ばなな)	吉本ばななの短編作品を読む。	扱う内容にかかわるキーワードの事前リサーチ ・ノートの整理と要点の再確認
15	総合確認テスト	授業内テスト。	・ノート全体の整理と講義要点の総まとめ

関連科目 日本文化にかかわる諸科目。日本語教育にかかわる諸科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 中間テストと最終日に実施する総合確認テストを中心として、他に授業時に回収したコメント、課題レポートなどを加え、総合的に評価する。

学生へのメッセージ モノガタリや小説を読む楽しさを味わいつつ、日本語を適切に駆使する基本的な力を身につけてほしいと思います。

担当者の研究室等 7号館4階(小川研究室)

備考 事前・事後の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。

科目名	博物館概論	科目名(英文)	Introduction to Museology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷直樹

授業概要・目的	現在、歴史博物館・美術館・文学館・記念館・動物園・水族館など博物館とその類似施設は全国に5700館以上あります。かつて「博物館行き」という言葉は古くさいものの代名詞でしたが、今日、博物館はその姿を大きく変えています。カラフルなシンボル展示、IT技術を駆使した映像展示、実物大の家を再現した体感型展示、様々な参加型プログラムなど、おしゃれで楽しめる施設へと変化しつつあります。またミュージアムグッズも図録だけでなく、Tシャツ・ぬいぐるみ・菓子などオリジナル商品を豊富に揃えている館が少なくありません。博物館とは何か、これからどう変化していくのかを、その歴史や現状を学びながら考えていきましょう。
到達目標	博物館は現代社会と無縁ではありません。博物館が収集した様々なコレクションは、現代だけでなく未来社会の知的生産活動に様々なヒントを与えてくれます。受講生の皆さんも、単に博物館を見学に行くだけでなく、博物館資料の活用や、ボランティア活動などに参加して、さらに博物館を中心とした生涯学習の担い手に成長してほしいものです。
授業方法と留意点	パワーポイント・ビデオなどを随時使用して、臨場感にあふれたビジュアルな講義にします。また教室内だけでなく、実際に新しい魅力的な博物館を見学します。現地見学の交通費や入館料は受講者負担になります。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
授業計画	1	博物館とは何か	話題の博物館紹介。記憶に残る博物館・展覧会。資格取得の条件・諸注意。	旅先などで博物館や美術館の見学をする習慣をつけてください。
	2	日本の博物館 1	動物園ランキング(旭山動物園と天王寺動物園)、水族館ランキング(美ら海水族館と海遊館)	子どものころに行った動物園・水族館と、最近の動物園・水族館を比較してください。
	3	日本の博物館 2	美術館(近代美術館と現代美術館)、自然史系博物館(琵琶湖博物館と大阪市立自然史博物館)、歴史系博物館(大阪歴史博物館と大阪くらしの今昔館)	美術館の特別展をのぞいてみてください。
	4	日本の博物館 3	野外博物館(明治村、北海道開拓の村、四国村、おきなわ郷土村、まちぐるみ博物館)	町並み保存やまちおこしも野外博物館のヒントになります。
	5	日本の博物館 4	企業ミュージアム(月桂冠大倉記念館、横浜ラーメン博物館、インスタントラーメン発明記念館、くすりのまち道修町資料館、大学博物館など)。実際の博物館を見学します。詳細は講義の中で指示します。	近くにある企業ミュージアムを訪ねてください。
	6	博物館法を読む	博物館の定義と種類。博物館法、博物館法施行規則、公立博物館に関する法律。博物館の機能、展示資料による分類、設置者による分類、制度による分類	博物館法は事前事後によく読んでください。
	7	博物館をつくる 1	博物館構想の策定、資料の収集と保管、調査と研究、展示と学習	博物館に行ったら、展覧会を見るだけでなく、どんな仕事をしているのかよく観察してください。
	8	博物館をつくる 2	博物館の設計、博物館の空間(エントランス、展示室、収蔵庫、学習室、ミュージアムショップ、レストラン、学芸員室、事務室、駐車場、動線計画、設備計画)。博物館のバックヤード見学は講義の中で指示します。	博物館に行ったら、どんな部屋があるのか、案内図を確認してください。
	9	博物館の展示	常設展示の概要	博物館の展示(とくに常設展示)を時間かけて見学してください。
	10	博物館の展示	企画展示とは何か	最近話題になった特別展示を紹介しあい、一度は見学してください。
	11	博物館と生涯学習	こどもと博物館、高齢者と博物館、大学生と博物館、観光・まちづくりと博物館	地域社会における博物館の役割を考えてください。
	12	博物館の歴史	日本と世界の博物館ランキング。	友達どうして、これまでに見学した博物館の中で、面白かった博物館や展覧会を紹介しよう。
	13	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。
	14	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。
	15	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。

関連科目 博物館学Ⅱ・Ⅲ、教育原理、視覚芸術論、生涯学習論が学芸員資格の必修科目。その他の関連科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験(筆記)の成績(100%)で評価します。
学生への メッセージ	博物館に行っていないという人がいますが、それは間違いです。歴史資料館や美術館に行っていないことがなくても、動物園や水族館には行ったことがあるはず。実は、動物園も水族館も博物館なのです。これからの博物館は、知的な好奇心を満足させてくれる楽しいところを目指しています。この博物館を企画・運営している専門職員が学芸員です。少しでも博物館に興味があるなら、受講してください。学芸員資格を取るには、4年生で博物館実習を行う必要があります。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後に1時間の学修時間を要する。

科目名	博物館学Ⅰ	科目名(英文)	Museology I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷 直樹

授業概要・目的	現在、歴史博物館・美術館・文学館・記念館・動物園・水族館など博物館とその類似施設は全国に5700館以上あります。かつて「博物館行き」という言葉は古くさいものの代名詞でしたが、今日、博物館はその姿を大きく変えています。カラフルなシンボル展示、IT技術を駆使した映像展示、実物大の家を再現した体感型展示、様々な参加型プログラムなど、おしゃれで楽しめる施設へと変化しつつあります。またミュージアムグッズも図録だけでなく、Tシャツ・ぬいぐるみ・菓子などオリジナル商品を豊富に揃えている館が少なくありません。博物館とは何か、これからどう変化していくのかを、その歴史や現状を学びながら考えていきましょう。
到達目標	博物館は現代社会と無縁ではありません。博物館が収集した様々なコレクションは、現代だけでなく未来社会の知的生産活動に様々なヒントを与えてくれます。受講生の皆さんも、単に博物館を見学に行くだけでなく、博物館資料の活用や、ボランティア活動などに参加して、さらに博物館を中心とした生涯学習の担い手に成長してほしいものです。
授業方法と留意点	パワーポイント・ビデオなどを随時使用して、臨場感にあふれたビジュアルな講義にします。また教室内だけでなく、実際に新しい魅力的な博物館を見学します。現地見学の交通費や入館料は受講者負担になります。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	博物館とは何か	話題の博物館紹介。記憶に残る博物館・展覧会。資格取得の条件・諸注意。	旅先などで博物館や美術館の見学をする習慣をつけてください。
2	日本の博物館 1	動物園ランキング(旭山動物園と天王寺動物園)、水族館ランキング(美ら海水族館と海遊館)	子どものころに行った動物園・水族館と、最近の動物園・水族館を比較してください。
3	日本の博物館 2	美術館(近代美術館と現代美術館)、自然史系博物館(琵琶湖博物館と大阪市立自然史博物館)、歴史系博物館(大阪歴史博物館と大阪くらしの今昔館)	美術館の特別展をのぞいてみてください。
4	日本の博物館 3	野外博物館(明治村、北海道開拓の村、四国村、おきなわ郷土村、まちぐるみ博物館)	町並み保存やまちおこしも野外博物館のヒントになります。
5	日本の博物館 4	企業ミュージアム(月桂冠大倉記念館、横浜ラーメン博物館、インスタントラーメン発明記念館、くすりのまち道修町資料館、大学博物館など)。実際の博物館を見学します。詳細は講義の中で指示します。	近くにある企業ミュージアムを訪ねてください。
6	博物館法を読む	博物館の定義と種類。博物館法、博物館法施行規則、公立博物館に関する法律。博物館の機能、展示資料による分類、設置者による分類、制度による分類	博物館法は事前事後によく読んでください。
7	博物館をつくる 1	博物館構想の策定、資料の収集と保管、調査と研究、展示と学習	博物館に行ったら、展覧会を見るだけでなく、どんな仕事をしているのかよく観察してください。
8	博物館をつくる 2	博物館の設計、博物館の空間(エントランス、展示室、収蔵庫、学習室、ミュージアムショップ、レストラン、学芸員室、事務室、駐車場、動線計画、設備計画)。博物館のバックヤード見学は講義の中で指示します。	博物館に行ったら、どんな部屋があるのか、案内図を確認してください。
9	博物館の展示	常設展示の概要	博物館の展示(とくに常設展示)を時間かけて見学してください。
10	博物館の展示	企画展示とは何か	最近話題になった特別展示を紹介しあい、一度は見学してください。
11	博物館と生涯学習	こどもと博物館、高齢者と博物館、大学生と博物館、観光・まちづくりと博物館	地域社会における博物館の役割を考えてください。
12	博物館の歴史	日本と世界の博物館ランキング。	友達どうして、これまでに見学した博物館の中で、面白かった博物館や展覧会を紹介しよう。
13	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。
14	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。
15	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。

関連科目 博物館学Ⅱ・Ⅲ、教育原理、視覚芸術論、生涯学習論が学芸員資格の必修科目。その他の関連科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			



評価方法 (基準)	定期試験(筆記)の成績(100%)で評価します。
学生への メッセージ	博物館に行っていないという人がいますが、それは間違いです。歴史資料館や美術館に行っていないことでも、動物園や水族館には行ったことがあるはず。実は、動物園も水族館も博物館なのです。これからの博物館は、知的な好奇心を満足させてくれる楽しいところを目指しています。この博物館を企画・運営している専門職員が学芸員です。少しでも博物館に興味があるなら、受講してください。学芸員資格を取るには、4年生で博物館実習を行う必要があります。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後に1時間の学修時間を要する。

科目名	博物館学Ⅱ	科目名(英文)	Museology II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩間 香

授業概要・目的	博物館資料は博物館になくてはならないものである。本講義では、博物館資料の種類や特質、及び、その収集・整理・保管の理論や方法を具体的に講義する。美術、歴史、民俗、考古など博物館の多様な資料について、基礎的な知識を身に付けることが目的である。この授業では博物館資料が専門的な知識やデータの裏付けにより収集され展示されていることを学ぶことになる。これらの知識は博物館における仕事に不可欠であるほか、日本の文化を学んだり、美術品を鑑賞する上でも大変に役に立つ。
到達目標	多様な博物館資料に関する基礎的な知識を身につける。それらの特性を知り、保存上の注意についての基礎的な知識を身につける。博物館・美術館で実物に接して、その種類や特性が分かるようになる。
授業方法と留意点	毎回レジメを配布して、スライドを用いながら講義を進める。博物館・美術館における臨地講義も実施する。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格の取得(必修科目)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	博物館資料の種類	博物館資料にはどのような種類があるかを概説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
2	絵画資料について	油絵、日本画、水彩画、パステル画などの絵画資料の種類と特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
3	彫刻資料について	仏像、近代彫刻、インスタレーションなどの彫刻資料の素材、特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
4	工芸資料について	陶磁、漆芸、染織、金工、ガラスなどの工芸資料の種類と特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
5	民俗・民族資料について	民具、記録など民俗・民族資料の種類と特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
6	歴史資料について	古文書、遺跡、遺物などの歴史資料を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
7	考古資料について	発掘品、遺跡などの考古資料について解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
8	模型について	博物館における模型の種類と活用について解説する。	事前：WEBで博物館の模型の実例を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
9	映像について	博物館における映像資料の種類と活用について解説する。	事前：WEBで博物館の映像資料の実例を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
10	資料の収集	博物館のコレクションの成り立ちについて解説する。	事前：WEBで博物館の収集方法について調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
11	資料の分類・整理	博物館における資料の分類と整理の方法を解説する。	事前：WEBで博物館の資料の分類について調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
12	資料の活用	目録の作成、資料の貸出し、特別利用など多様な資料活用について解説する。	事前：WEBで博物館の資料活用について調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
13	資料の公開	出版やインターネットを介しての資料公開について解説する。	事前：WEBで博物館の資料公開について調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
14	博物館見学	博物館資料の展示・收藏について実地に見学する。	事前：WEBで見学先の博物館について調べる。(90分)	事後：レポートをまとめる。(90分)
15	博物館見学	博物館資料の展示・收藏について実地に見学する。	事前：WEBで見学先の博物館について調べる。(90分)	事後：レポートをまとめる。(90分)

関連科目	博物館科目
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	小レポート30% 定期試験70% 受講態度を加味する。
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	各地にさまざまな博物館があります。できるだけ多くの博物館に行き、実際に展示された資料を見てください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階(岩間研究室)
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	博物館学Ⅲ	科目名(英文)	Museology III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦

授業概要・目的	博物館経営に関する行財政制度を踏まえながら、さまざまな博物館の形態や多岐にわたる活動について講義する。今後の方向性を考えるとともに、学芸員に必要な博物館経営に関する基礎的知識の習得をめざす。
到達目標	博物館の現状と課題を認識しながら、博物館はどうあるべきかを考え、理想の博物館を実現するためには、どのようなミュージアムマネジメント(博物館経営)が必要であるのかを具体的に理解できる。
授業方法と留意点	配付資料やスライドを見ながら進め、適宜板書もする。 受講生が調べたり、考えたりする作業を行い、毎回レポートを課すので欠席しないようにしてください。また、受講生と相談の上、博物館の臨地講義も実施する予定である。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格の取得(必修科目)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	行財政制度と博物館	博物館に関係する法律や財務に関する制度について解説する。	配布資料や参考書で復習する。
3	博物館をめぐる行政改革	指定管理者制度、PFI法、独立行政法人制度など、博物館に関する近年の行政改革について解説し、その問題点を考える。	PFI法、指定管理者制度について、本やWEBで調べておく。
4	博物館の財務	博物館の基本的な歳入と歳出などを解説し、財務状況や入館料をめぐる問題点を考える。	博物館の予算的な問題について調べる。
5	博物館の立地と環境	博物館にふさわしい立地条件や自然及び社会的環境について具体的に解説する。	実際の博物館の立地・環境を調べる。
6	博物館の施設と設備	博物館にどのような施設と設備が必要であるかを解説し、館種による相違点を比較する。	配布資料や参考書で復習する。
7	博物館の組織と職員	一般的な博物館の組織と職員、学芸員の具体的な業務内容を説明する。	配布資料や参考書で復習する。
8	博物館事業のあり方	博物館の理念と目的を説明し、その達成のためにどのような事業計画が必要かを検討する。	博物館が実施している事業の具体例を調べておく。
9	博物館の評価	博物館を評価するにはどのような基準・方法があるかを解説し、評価により得られる効果を検討する。	行ったことのある博物館の評価をしてみる。
10	博物館の危機管理	博物館で想定されるさまざまな危機について解説し、その対策を具体的に検討する。	博物館にかかわる危機にはどのようなものがあるか考えておく。
11	博物館の広報活動	非営利組織のマーケティングリサーチと、博物館における広報活動の具体的な方法を解説する。	博物館のポスターやチラシなどを見ておく。
12	ミュージアムサービス	ミュージアムショップ、レストランなどに代表されるサービスの現状を説明し、今後の方向性を考える。	本やWEBで博物館のサービスの具体例を調べる。
13	市民参画をめざす博物館	友の会、ボランティアなどの支援組織や、市民参画を促す博物館事業について解説する。	WEBやリーフレットなどで、博物館の友の会などについて調べる。
14	博物館のネットワーク	いろいろな博物館のネットワークについて解説する。	WEBで、日本博物館協会、日本動物園水族館協会などのHPを見る。
15	対話と連携の博物館	博物館が目指す対話と連携を具体的に検討することで、これからの博物館の経営について考える。	配布資料や参考書で復習する。

関連科目	ほかの学芸員科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義最終日に行う筆記試験(持ち込み不可)、講義中に課すレポートをもとに評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	必ず毎回出席すること。また、本講義を受講する間、多くの博物館に訪れることを望みます。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(赤澤研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。
----	------------------------

科目名	博物館教育論	科目名(英文)	Museum as Learning Resources
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	毛呂 祐子

授業概要・目的	この授業では博物館における教育のありかたを学びます。今日の博物館の役割は多様化してきていますが、その中でも「教育」という側面は、重要性を増してきています。さまざまな教育向けのプログラムの事例を学びます。
到達目標	この授業を通し、博物館活動全体にわたって、教育的な意義を考えて行えるようになることを目指します。
授業方法と留意点	まず、博物館教育の特性について概説します。博物館ならではの学びのありかたとは何か、という問題意識を持ちつつ、博物館施設での教育の実践をみていきます。また、博物館教育を発展させていくための課題として、自ら教育プログラムを考え、お互いの内容についてディスカッションします。日頃から博物館施設を訪れ、さまざまな教育プログラムを見るように努めてください。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格認定のため必修の科目となります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	博物館における教育プログラムの歴史	博物館における教育プログラムの歴史について講義します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。
3	博物館教育の実例	写真、映像などを交えながら、博物館教育の実例を紹介しします。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。
4	博物館教育の実例	写真、映像などを交えながら、博物館教育の実例を紹介しします。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。
5	博物館教育の資料へ触れる	インターネットなどを通じ、博物館施設でどんなパンフレット、ワークシート、ワークショップの資料などが使われているのか、ダウンロードしたりして集めます。また、それらを実際に試してみます。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。ワークシートなどを見つけたら集めるようにしておいてください。
6	博物館教育の資料へ触れ、それらについて考察	インターネットなどを通じ、博物館施設でどんなパンフレット、ワークシート、ワークショップの資料などが使われているのか、ダウンロードしたりして集めます。また、それらを実際に試してみます。各々が試したものについて考察し、発表します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。ワークシートなどを見つけたら集めるようにしておいてください。
7	博物館教育の資料へ触れ、それらについて考察	インターネットなどを通じ、博物館施設でどんなパンフレット、ワークシート、ワークショップの資料などが使われているのか、ダウンロードしたりして集めます。また、それらを実際に試してみます。各々が試したものについて考察し、発表します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。ワークシートなどを見つけたら集めるようにしておいてください。
8	博物館施設の見学	博物館施設を訪れ、見学します。また、この施設に合わせたワークシートを後の授業で作りますので、それを前提に見学します。	訪れる博物館施設への行き方、概要など事前に調べておいてください。
9	博物館施設の見学	博物館施設を訪れ、見学します。また、この施設に合わせたワークシートを後の授業で作りますので、それを前提に見学します。	訪れる博物館施設への行き方、概要など事前に調べておいてください。
10	博物館教育の実例 小学校等との連携	博物館施設と学校との連携について、写真や映像などを交えながら講義します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。
11	博物館教育の実例 大学等との連携	博物館施設と大学との連携について、写真や映像などを交えながら講義します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。
12	博物館教育の実例 生涯学習	博物館施設での生涯学習、ボランティアとの連携などについて写真や映像を交えながら講義します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。
13	教材の作成	授業で訪れた博物館施設、これまでに訪れた博物館施設でどのような教育活動ができるかを考え、教材を作成します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。
14	教材の作成	授業で訪れた博物館施設、これまでに訪れた博物館施設でどのような教育活動ができるかを考え、教材を作成します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。
15	各自作った教材の発表	各自が作った教材について発表し、意見を交換します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。

関連科目 学芸員資格に必要な各科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への出席、授業態度、レポートによって評価します。
学生への メッセージ	博物館施設の教育プログラムの様子は写真で紹介するだけではわかりません。積極的に博物館施設を訪れ、可能ならワークショップなどへ参加するようにしてください。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	博物館施設の見学を行います。担当者は公益財団法人 日本伝染繊維振興会で学芸員をしています。 事前事後学修には15時間要する。

科目名	博物館実習	科目名 (英文)	Museum Management Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	岩間 香, 赤澤 春彦, 谷 直樹

授業概要・目的	博物館は展示物（歴史・美術・文学ほか）、設置母体（公立・民間）、目的（教育が主・研究が主・保存が主など）により、さまざまな種類のものがある。学芸員の仕事も館の性格により、多様で一概には規定できない。この授業では博物館・美術館の実際を知り、学芸員の仕事を理解するために、博物館を実地見学に出かける。また学内においては、博物館についての知識を深め、学芸員の作業の一部を体験する。
到達目標	博物館における作業の内容と意味を理解する。博物館において学芸員の仕事の一部を体験し理解する。
授業方法と留意点	本授業は(1)大学が課する実習、(2)実習館が課する館内実習の2種に分かれ、(1)はさらに①学内での前期の講義と作業、②学外での見学の2種に分かれる。(下記15回)また(2)の館内実習は、夏休みあるいは後期に行われる。いずれが欠けても単位取得は不可である。なお見学・実習には交通費や実費が必要である。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	オリエンテーション(谷・岩間・赤澤)	年間スケジュールの確認 博物館実習の取り組み方実習館の配属	事前：出身地にある博物館を見ておく(90分)	事後：ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
2	拓本1(谷・岩間)	拓本の道具を作り、小さなもので練習する	事前：拓本について調べておく(90分)	事後：ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
3	拓本2(谷・岩間)	近隣の神社や野外の石碑で拓本をとる練習をする。	事前：拓本の道具を作っておく(90分)	事後：ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
4	博物館の見学(岩間・谷・赤澤)	見学及びレクチャー	事前：見学する館について調べておく(90分)	事後：ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
5	美術品の扱い方1(岩間)	掛け軸、陶磁器の扱い方、箱の納入の仕方を、実物を用いて学ぶ。	事前：掛け軸陶磁器の扱い方を調べておく(90分)	事後：ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
6	美術品の扱い方2(岩間)	絵巻物、額縁の扱い方、箱の納入の仕方を、実物を用いて学ぶ。	事前：絵巻物などの扱い方を調べておく(90分)	事後：ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
7	美術館の見学(岩間)	見学及びレクチャー	事前：見学館について調べておく(90分)	事後：レポートをまとめる(90分)
8	美術品の調査・整理(岩間)	美術品の計測、撮影、資料カードの作成を実物を用いて行なう。	事前：美術品の計測について調べておく(90分)	事後：ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
9	歴史資料の調査・整理(谷)	調査の方法、資料カードの様々な様式、資料の整理法を学ぶ。	事前：歴史資料について調べておく(90分)	事後：ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
10	写真撮影の方法(谷)	美術写真・建築写真・記録写真の方法を、実例を見ながら学ぶ。	事前：建築写真について調べておく(90分)	事後：ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
11	博物館の見学(谷・岩間・赤澤)	見学及びレクチャー	事前：見学館について調べておく(90分)	事後：レポートをまとめる(90分)
12	博物館の教育・普及活動(谷)	各自でワークショップ、イベントの実例を収集し発表。パンフレット、ホームページの効果についても考える。	事前：博物館かんお活動についてWEBで調べておく(90分)	事後：ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
13	展覧会の企画1(岩間)	各自が具体的にテーマと場所を決めて展覧会を企画する。	事前：展覧会のテーマについて調べておく(90分)	事後：ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
14	展覧会の企画2(谷)	各自が具体的にテーマと場所を決めて展覧会を企画する。	事前：指摘された点を改善して企画書を作っておく(90分)	事後：ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
15	プレゼンテーションと講評 博物館・館内実習の指導(岩間・谷・赤澤)	各自が企画した展覧会について発表し、講評を行なう。博物館ノートの配布と書き方の指導・諸注意	事前：レジメを作り発表の練習をしておく(90分)	事後：指摘された点を改善してレポートを作る(90分)

関連科目 学芸員資格の必修科目およびその他の関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	レポート(見学2回、展覧会企画)30% 実習博物館による評価50% 受講への参加態度20%
----------	---

学生へのメッセージ 各地の博物館に赴いて行なう実習は3～8日間程度です。期間中は実習に集中し、摂南大学の学生として恥ずかしくない行動をとってください。

担当者の研究室等	岩間・・・7号館5階(岩間研究室) 谷・・・7号館2階(非常勤講師室) 赤澤・・・7号館4階(赤澤研究室)
----------	---

備考

科目名	博物館情報・メディア論	科目名(英文)	Museum Media Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中川 馨

授業概要・目的	現代社会では様々なかたちで映像メディアと接しているが、写真の歴史と表現を学ぶことにより、映像メディア登場以後の社会環境の変化について考察する。また写真をはじめとする視覚情報によって、人間の視覚認識はどのように変化したのか、現代の膨大な映像メディアによる情報との向き合い方についても考える。
到達目標	映像メディアと社会の関係を理解する。 映像メディアによる情報との向き合い方を身につける。 博物館における映像メディアの役割を理解する。
授業方法と留意点	講義中はスライドを使用する。提示する図は必要に応じてノートに描きとどめてもらいたい。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	映像イメージの発見	光の像の投影について カメラオプスキュラの誕生	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる
3	カメラオプスキュラの活用	カメラオプスキュラによる近世絵画表現の変化について	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる
4	写真のはじまり	写真技術の誕生について	初期の写真技術について本やWEBで調べる
5	肖像写真の時代	肖像写真の役割と社会への影響について	歴史上の人物の肖像写真について本やWEBで調べる
6	初期の写真表現	写真黎明期の芸術写真表現について	19世紀の写真表現について本やWEBで調べる
7	都市の記録	写真による都市表象について	19世紀の写真について本やWEBで調べる
8	写真と絵画の交わり 1	写真と西洋絵画における写実表現の関係 映像による視覚がどのように表現の変化をもたらしたかについて	近代絵画について本やWEBで調べる
9	写真と絵画の交わり 2	日本の近代絵画への写真の影響について 主に花鳥画における表現の考察	日本の近代絵画について本やWEBで調べる
10	近代写真の確立	ストレートフォトグラフィを中心に近代写真表現について	ストレートフォトグラフィについて本やWEBで調べる
11	時代の記録	報道写真について 報道写真の社会的な影響を考える	報道写真について本やWEBで調べる
12	カラー写真の登場	カラー写真による表現の変化について	カラー写真について本やWEBで調べる
13	現代写真表現 1	アメリカの現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やWEBで調べる
14	現代写真表現 2	日本の現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やWEBで調べる
15	まとめ	写真の歴史や表現から、21世紀の写真メディアの在り方を考える 博物館における映像の役割を考える	写真について復習する

関連科目	博物館科目
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	期末レポートを実施 受講態度を加味する
----------	------------------------

学生へのメッセージ	板書を写すだけでなく、講義の内容をノートすること。
-----------	---------------------------

担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)
------------	---------------

科目名	博物館資料保存論	科目名 (英文)	Preservation of Museum Collections
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦

授業概要・目的	博物館にとって資料はなくてはならないものです。資料がなければ博物館は成り立たないと言っても過言ではありません。したがって資料の収集、管理、保存は学芸員にとって最も重要な仕事の1つとなります。また、一口に「資料」といっても例えば考古、歴史、民俗など様々な種類があります。
到達目標	資料の種類、取り扱い方、整理・管理・保存・修復の方法などの基礎的な知識と技能を習得できる。
授業方法と留意点	基本的に座学ですが、教室での講義だけでなく、基礎的な技術を身につけたり、博物館を見学することも予定しています。学芸員資格を取得するための大事な講義です。したがって原則欠席は認めません。なお、初回の講義には必ず出席してください。
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格の取得 (必修科目)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	考古資料の保存 (1)	埋蔵文化財、考古資料の保存方法について講義します。	復習
3	考古資料の保存 (2)	遺物の接合実習をします。	復習
4	考古資料の保存 (3)	遺物の接合の続きと実測をします。	復習。実測図を完成させ、次週までに提出する。
5	民俗資料の保存	民俗資料の保存の方法について講義します。	復習
6	石造物の保存 (1)	石造物の保存方法について講義し、実測とスケッチをします。	復習
7	石造物の保存 (2)	石造物の実測、スケッチの続きをします。	復習。実測図、スケッチを完成させ、次週までに提出する。
8	歴史資料の保存 (1)	歴史資料の整理方法、保存方法について講義します。	復習
9	歴史資料の保存 (2)	古文書修復の実習をします。	復習
10	歴史資料の保存 (3)	和本の装丁の実習をします。	復習
11	燻蒸と I P M	虫損から資料を守る燻蒸と I P M (総合的有害生物管理) という 2 つの方法を比較検討します。	復習
12	資料保存の現実	博物館見学	3 コマ分です。日程は講義中に決めます。
13	資料保存の現実	博物館見学	3 コマ分です。日程は講義中に決めます。
14	資料保存の現実	博物館見学	3 コマ分です。日程は講義中に決めます。
15	まとめ	筆記試験を行います (持ち込み不可)	今までのノートをまとめておく。

関連科目	他の学芸員課程の講義。日本史学、日本美術史、日本文化史。
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義最終日に行う筆記試験 (持ち込み不可)、受講中に課すレポート、実技試験をもとに評価します。
-----------	---

学生へのメッセージ	学芸員を目指す方にとって必須の科目です。単に知識を得るだけでなく、私の経験をもとに資料保存の現実について一緒に考えたり、また保存に関わる基礎的な技能を身につけましょう。積極的な姿勢を望みます。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 (赤澤研究室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。課外学習の日程は天候などの要件によって変更する場合があります。
----	---



科目名	博物館資料論	科目名(英文)	Museum Collection Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩間 香

授業概要・目的	博物館資料は博物館になくなくてはならないものである。本講義では、博物館資料の種類や特質、及び、その収集・整理・保管の理論や方法を具体的に講義する。美術、歴史、民俗、考古など博物館の多様な資料について、基礎的な知識を身に付けることが目的である。この授業では博物館資料が専門的な知識やデータの裏付けにより収蔵され展示されていることを学ぶことになる。これらの知識は博物館における仕事に不可欠であるほか、日本の文化を学んだり、美術品を鑑賞する上でも大変に役に立つ。
到達目標	多様な博物館資料に関する基礎的な知識を身につける。それらの特性を知り、保存上の注意についての基礎的な知識を身につける。博物館・美術館で実物に接して、その種類や特性が分かるようになる。
授業方法と留意点	毎回レジメを配布して、スライドを用いながら講義を進める。博物館・美術館における臨地講義も実施する。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格の取得(必修科目)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	博物館資料の種類	博物館資料にはどのような種類があるかを概説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
2	絵画資料について	油絵、日本画、水彩画、パステル画などの絵画資料の種類と特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
3	彫刻資料について	仏像、近代彫刻、インスタレーションなどの彫刻資料の素材、特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
4	工芸資料について	陶磁、漆芸、染織、金工、ガラスなどの工芸資料の種類と特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
5	民俗・民族資料について	民具、記録など民俗・民族資料の種類と特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
6	歴史資料について	古文書、遺跡、遺物などの歴史資料を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
7	考古資料について	発掘品、遺跡などの考古資料について解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
8	模型について	博物館における模型の種類と活用について解説する。	事前：WEBで博物館の模型の実例を調べる。(90分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
9	映像について	博物館における映像資料の種類と活用について解説する。	事前：WEBで博物館の映像資料の実例を調べる。(90分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
10	資料の収蔵	博物館のコレクションの成り立ちについて解説する。	事前：WEBで博物館の収蔵方法について調べる。(90分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
11	資料の分類・整理	博物館における資料の分類と整理の方法を解説する。	事前：WEBで博物館の資料の分類について調べる。(90分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
12	資料の活用	目録の作成、資料の貸出し、特別利用など多様な資料活用について解説する。	事前：WEBで博物館の資料活用について調べる。(90分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
13	資料の公開	出版やインターネットを介しての資料公開について解説する。	事前：WEBで博物館の資料公開について調べる。(90分) 事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
14	博物館見学	博物館資料の展示・収蔵について実地に見学する。	事前：WEBで見学先の博物館について調べる。(90分) 事後：レポートをまとめる。(90分)
15	博物館見学	博物館資料の展示・収蔵について実地に見学する。	事前：WEBで見学先の博物館について調べる。(90分) 事後：レポートをまとめる。(90分)

関連科目	博物館科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小レポート30%、定期試験70%、受講態度を加味する。			
学生への メッセージ	各地にさまざまな博物館があります。できるだけ多くの博物館に行き、実際に展示された資料を見てください。			
担当者の 研究室等	7号館5階(岩間研究室)			
備考				

科目名	パブリックスピーキング a	科目名 (英文)	Public Speaking a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スティーブ トマシェフスキー

授業概要・目的	The course will focus on the necessary skills of public speaking in English. This will be achieved through use of materials and activities that hone skills of public oral presentation of ideas in a public English environment. Students will be expected to research various topics via print and electronic media and report the results in short presentations to fellow students using outlines and visual aids. Recitations will not be a part of this course. The activities are designed to reinforce and practice the specific skills introduced in the course.
到達目標	The students will be able to organize and present information in a clear and acceptable manner to an English speaking audience.
授業方法と留意点	・・・20% of the grade will be based upon the successful preparation for the class, 20% will be for active participation and involvement in the class and 60% will be based on the multiple presentations students will be expected to give in the class.
科目学習の効果 (資格)	・・・

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introductions	Course objectives, Outline construction, Self Introduction-Preparation / Discussion	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Discourse Organization	Weekly News Summary. Outlines Construction / Definition	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	3	Research / Outlining	Weekly News Summary. Informative Speech- Hometown / Area	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	4	Evaluation	Presentation - Informative Speech Hometown / Area	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	5	Research / Outlining layout	An Institution- History & physical Focus- Body Organization	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	6	Research / Outlining	Outline Production / Practice	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	7	Evaluation	Presentation - Informative Speech Institution - History & physical layout	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	8	Research / Outlining	Weekly News Summary. Informative Speech- Biography- Contemporary Person Focus - Conclusions	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	9	Research / Outlining	Weekly News Summary. Outline Production / Practice	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	10	Research / Outlining	Weekly News Summary. Outline Production / Practice	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	11	Presentation / Evaluation	Informative Speech- Biography- Contemporary Person	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	12	Research / Outlining	Weekly News Summary. Informative Speech- Geography- World Cities Focus - Integration of Outline Components	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	13	Research / Outlining	Weekly News Summary. Outline Production / Practice	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	14	Research / Outlining	Weekly News Summary. Outline Production / Practice	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	15	Presentation / Evaluation	Informative Speech- Geography- World Cities	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.

関連科目	・・・
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of Speech	David Harrington, Charles LeBeau	Macmillan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	An English to English Dictionary		Oxford, Cambridge or other respected publisher
	2			
	3			

評価方法	Grades will be based on student preparation, in-class performance and spoken presentations given during the course.
------	---

(基準)	
学生への メッセージ	・・・
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ15時間程度とする。

科目名	パブリックスピーキング a	科目名 (英文)	Public Speaking a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ショーン マクガバン

授業概要・目的	In this course you will learn and practice the set of skills needed for speaking to an audience.			
到達目標	The speaking part of the course will focus on pronunciation, intonation as well as effective posture, the use of gestures and eye-contact. The rhetorical and organizational part of the course will include learning how to research topics; how to include visual information; and extensive practice in writing and revising your presentation transcripts.			
授業方法と留意点	Classwork will include taking lecture notes, preparing and revising speaking transcripts and delivering a series of fluent presentations.			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Course overview	Be on time for class. Be prepared to actively participate in all the course activities.
	2	Organizing a presentation	Writing activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	3	Preparing speaking transcripts	Writing activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	4	Pronunciation and intonation	Speaking activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	5	Presentations	Memorized delivery	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	6	Researching a topic	Reading, writing and speaking preparation	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	7	Presentation preparation	Reading, research and writing with partners	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	8	Written presentation preparation	Reading, research and writing	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	9	Revising transcripts	Writing activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	10	Non-verbal communication	Presentation activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	11	Presentations	Outlined delivery	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	12	Using visuals	Principles of visual design	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	13	Presentation preparations	Reading, research and writing with partners	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	14	Presentation preparations	Interacting with partners and the audience	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	15	Pair presentations	Speaking and active listening	Finish up the work for the Spring term.
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prints and handouts		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Grades for this class will be based on regular attendance, that includes active class participation, 50% written presentation transcripts, 10%; and oral presentations, 40%.			
学生へのメッセージ	All the coursework will be done in English. Attend class every week and be on time. Be sure that you come to class prepared to actively participate in all the course activities.			
担当者の研究室等	7号館5F			
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	パブリックスピーキング b	科目名 (英文)	Public Speaking b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スティーブ・トマシェフスキー

授業概要・目的	The course will focus on the necessary skills of public speaking in English. This will be achieved through use of materials and activities that hone skills of public oral presentation of ideas in a public English environment. Students will be expected to research various topics via print and electronic media and report the results in short presentations to fellow students using outlines and visual aids. Recitations will not be a part of this course. The activities are designed to reinforce and practice the specific skills introduced in the course.
到達目標	The students will be able to organize and present information in a clear and acceptable manner to an English speaking audience.
授業方法と留意点	20% of the grade will be based upon the successful preparation for the class, 20% will be for active participation and involvement in the class and 60% will be based on the multiple presentations students will be expected to give in the class.
科目学習の効果 (資格)	...

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introductions	Course objectives, Outline construction, Self Introduction-Preparation / Discussion	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	2	Discourse Organization	Weekly News Summary. Review- Outlines - Construction / Definition	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	3	Research / Outlining	Weekly News Summary. Persuasive Speech- Comparison of 2 Electronic Products Focus- Topic Introductions / Visual Aids	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	4	Evaluation	Presentation - Persuasive Speech Comparison of 2 Electronic Products	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	5	Research / Outlining	Weekly News Summary. Ecology-Problems / Solutions Focus- Comparing Data	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	6	Research / Outlining	Weekly News Summary. Outline Production / Practice	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	7	Evaluation	Presentation - Persuasive Speech Ecology-Problems / Solutions	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	8	Research / Outlining	Weekly News Summary. Persuasive Speech- Biography- Historical Persons Focus - Compare /Contrast Accomplishments	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	9	Research / Outlining	Weekly News Summary. Outline Production / Practice	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	10	Research / Outlining	Weekly News Summary. Outline Production / Practice	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	11	Presentation / Evaluation	Persuasive Speech- Biography- Historical Persons Accomplishments	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	12	Research / Outlining	Weekly News Summary. Persuasive Speech- Topic - Product Comparison Focus - Providing Evidence	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	13	Research / Outlining	Weekly News Summary. Outline Production / Establishing Evidence	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	14	Research / Outlining	Weekly News Summary. Outline Production / Establishing Evidence	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.
	15	Presentation / Evaluation	Persuasive Speech - Product Comparison	Students should prepare outlines, study materials and practice their presentations before they come to class.

関連科目	...
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of Speech	David Harrington, Charles Lebeau	Macmillan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	An English to English Dictionary		Oxford, Cambridge or other respected publisher
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grades will be based on student preparation, in-class performance and spoken presentations given during the course.
学生への メッセージ	It is my hope that all of the students in this class will seriously work to improve their research, critical thinking and speaking skills in English.
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	配布資料の読み込みなど、事前事後学習にかかる総時間数をおおよそ15時間程度とする。

科目名	パブリックスピーキング b	科目名 (英文)	Public Speaking b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ショーン マクガバン

授業概要・目的	This course gives you practice in the skills needed for speaking to an audience.			
到達目標	The speaking part of the course focuses on pronunciation, intonation as well as effective posture, the use of gestures and eye-contact. The rhetorical and organizational part of the course is focused on learning how to research topics; how to include visual information; and extensive practice in writing and revising your presentation transcripts.			
授業方法と留意点	Classwork will include taking lecture notes, preparing and revising speaking transcripts. Emphasis in this second semester of the course will be on delivering fluent presentations.			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Review and introduction of new semester	Overview and new topics	Be sure to attend the first class and to arrive on time.
	2	Informative presentations	Writing activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	3	Researching the topic	Reading, writing and speaking preparation	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	4	Revising transcripts	Writing activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	5	Preparing visuals	Research and visual designing	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	6	Pronunciation and intonation	Speaking activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	7	Presentations	Speaking and active listening	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	8	Persuasive presentations	Writing activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	9	Researching the topic	Reading, writing and speaking preparation	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	10	Using supportive material	Research and visual designing	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	11	Intonation and inflection	Speaking activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	12	Including a personal point of view	Writing activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	13	Revising and preparing	Writing and speaking activities	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	14	Pair presentations	Speaking and active listening	Complete this week's classwork assignment and prepare for the next class.
	15	Individual presentations	Speaking and active listening	Finish up your work for the Fall term.
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Grades for this class will be based on regular attendance, that includes active class participation, 50% written presentation transcripts, 10%; and oral presentations, 40%.			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館5F			
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。			



科目名	ビジネス イングリッシュ a	科目名 (英文)	Business English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	S
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・ダイアス

授業概要・目的	Students will practice listening, reading writing and speaking in English in a business context.
到達目標	Students are also asked to comprehend the main ideas of various passages, analyze the data and contents, and give their opinions regarding the topics discussed in the reading materials.
授業方法と留意点	Students will do a variety of text book exercises in class.
科目学習の効果 (資格)	To improve English for use in a business environment

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	2	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	3	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	4	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review.
	5	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	6	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	7	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	8	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	9	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	10	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	11	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	12	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	13	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	14	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	15	Test	Test	None

関連科目	None
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Market Leader New Edition. Elementary Business Course Book	David Cotton	Pearson Longman
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Attendance 40%, participation 30% term end test 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	For students interested in improving their business English
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---------------------------------------

科目名	ビジネス イングリッシュ a	科目名 (英文)	Business English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	A B
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル

授業概要・目的	Business English is a global-minded course designed to prepare students to communicate confidently in everyday business situations, whether living and working in Japan or abroad.
到達目標	Students are also asked to comprehend the main ideas of various passages, analyze the data and contents, and give their opinions regarding the topics discussed in the reading materials.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	ToEIC のスコアアップやビジネス英語検定の取得

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	講義の進め方、評価方法などを説明	初回の授業時に説明します。
	2	教科書 Unit 1	First Meetings	課題
	3	教科書 Unit 1	cont'd	課題
	4	教科書 Unit 2	You & Your Company	課題
	5	教科書 Unit 2	cont'd	課題
	6	教科書 Unit 3	Visiting A Client	課題
	7	教科書 Unit 3	cont'd	課題
	8	教科書 Unit 4	Business Activities	課題
	9	教科書 Unit 4	cont'd	課題
	10	教科書 Unit 5	Fixing An Appointment	課題
	11	教科書 Unit 5	cont'd	課題
	12	教科書 Unit 6	Requests And Offers	課題
	13	教科書 Unit 6	cont'd	課題
	14	Unit 1-6	Review and Consolidation	課題
15	Term exam	Term exam	なし	

関連科目	ビジネスイングリッシュ b
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Business Venture 1 Student Book	Roger Barnard & Jeff Cady	Oxford (OUP) ISBN 978-0-19457817-2
	2	Business Venture Workbook	Barnard & Cady	OUP ISBN 978-0-19-457802-8
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Class participation and attendance 50% Term test 50%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---------------------------------------

科目名	ビジネス イングリッシュ a	科目名 (英文)	Business English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	C D
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル

授業概要・目的	このコースではビジネスの様々な場において使える英語を学んでいきます。学生はこれらのシーンで具体的に自分自身を表現する為の中級レベルの英語を学びます。This is a course in basic business English. Students will learn and use specific business English for the workplace, telephone and text messages, describing products and services, advertising, presenting figures, graphs and charts, etc. TOEIC will also be covered.
到達目標	Upon completion of this course, students should have a working knowledge of the English used in the various business situations presented in the text.
授業方法と留意点	ペアになっての会話の練習、小さなグループに分かれての討論、対話練習等が重点的になっていくだろう。 Students will use pair work, small group work, dialogue and listening practice.
科目学習の効果 (資格)	学生はビジネスのシーンにおいて、自分自身を表現する為の中級レベルの英語を学ぶことができます。 Students will learn language to express themselves in business situations up to pre-intermediate level.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Introduction and class overview.	No preparation required.
	2	Unit 1. Welcome to the company.	Welcoming a visitor, talking about the workplace.	Pages 1-3.
	3	Unit 1. Welcome to the company continued.	Describing things, place and people.	Pages 4-6.
	4	Unit 1. Welcome to the company continued.	Understanding cultural attitudes to time.	Pages 7-9.
	5	Unit 2. Business communication	Video conferences, communicating at work.	Pages 10-12.
	6	Unit 2. Business communication continued.	Computers and the Internet. Skype.	Pages 13-15.
	7	Unit 2. Business communication continued.	Telephone and text messages. TOEIC practice.	Pages 16-19.
	8	Unit 3. Products and services	Describing products and services. ASEAN countries, language and people.	Pages 20-22.
	9	Unit 3. Products and services continued.	Wearable technology. Stereotypes.	Pages 23-25.
	10	Unit 4. Targeting the customer.	Advertising. Talking about advertising.	Pages 26-28.
	11	Unit 4. Targeting the customer continued.	Advertising words. Easily confused words.	Pages 29-31.
	12	Unit 4. Targeting the customer continued.	An advertising trend. Formal and informal language in emails.	Pages 32-34.
	13	Unit 5. Achievements.	Presenting figures, graphs and charts. Personal achievement. TOEIC practice.	Pages 35-39.
	14	Unit 5. Achievements continued.	Successful Asian business people. Hand signals.	Pages 40-44.
	15	Test of units 1-5.	Test of units 1-5.	Prepare for test.

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Business Plus 2	Margaret Helliwell	Cambridge University Press ISBN: 9781107637641
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Term test: 30%, midterm vocabulary test: 20% 出席授業参加態度: 50%. Attendance, attitude and participation: 50%
-----------	--

学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、授業に参加すること、学びたいという姿勢、態度が大切です。もちろん出席することが重要です。This business course is a communication course, so students should try to use their English as much as possible. A good attitude towards learning and participating are important to getting a good grade. Attendance is also very important.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---------------------------------------

科目名	ビジネス イングリッシュ a	科目名 (英文)	Business English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	E F
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ

授業概要・目的	This is a topic-based business course that is an accessible introduction to key concepts in today's business world. Students will learn about key concepts whilst building their English skills. The textbook uses informative and up-to-date authentic material from the business magazine The Economist, to make the content authentic and relevant.
到達目標	Students are also asked to comprehend the main ideas of various passages, analyze the data and contents, and give their opinions regarding the topics discussed in the reading materials.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	ToEIC のスコアアップやビジネス英語検定の取得

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction and assessment details.	Self-introductions and course familiarisation.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	2	Unit 1: Contacts Working in a foreign country.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	3	Unit 1: Contacts Working in a foreign country.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	4	Unit 2: Teams Teams with bright ideas.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	5	Unit 2: Teams Teams with bright ideas.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	6	Unit 3: Companies Look east.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	7	Unit 3: Companies Look east.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	8	Unit 4: Offices The paperless office.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	9	Unit 4: Offices The paperless office.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	10	Unit 5: Events The office picnic.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	11	Unit 5: Events The office picnic.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	12	Unit 6: Money The business of giving.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	13	Unit 6: Money The business of giving.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	14	Unit 7: Projects Project analysis.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
15	Unit 7: Projects Project analysis.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	なし	

関連科目	ビジネスイングリッシュ b
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Intelligent Business Elementary Coursebook/CD Pack (ISBN: 9781408255988)	Nik Barrall & Irene Barrall	Pearson

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Class participation: 10% Unit tests: 90%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	ビジネス イングリッシュ a	科目名 (英文)	Business English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	G H
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅田 尋道

授業概要・目的	このクラスでは、ビジネスの場で必要となるような基本語彙や重要表現を学びます。また、様々なビジネスシーンを想定したダイアログなどを通して英語での実践的コミュニケーション力を磨きます。
到達目標	卒業後、英語を用いて仕事が行えるようになるための英語力を習得する。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	Toeic のスコアアップやビジネス英語検定の取得

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第1課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
3	第1課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
4	第2課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
5	第2課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
6	第3課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
7	第3課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
8	期間外試験 1	midterm exam	第1-3課の復習
9	第4課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
10	第4課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
11	第5課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
12	第5課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
13	第6課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
14	第6課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
15	期間外試験 2	final exam	第4-6課の復習

関連科目	ビジネスイングリッシュ b
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	lets get down to business	k. tsuji	macmillan languagehouse
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業活動への参加 10% 語彙テスト、提出物、発表等 30% 期間外テスト (2回) 60%
学生へのメッセージ	英語はもちろんのこと、実社会で問題となる様々なことについていっしょに考えてみたいと思います。学生の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	ビジネス イングリッシュ b	科目名 (英文)	Business English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	S
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・ダイース

授業概要・目的	Students will practice listening, reading writing and speaking in English in a business context.
到達目標	Students will increase their confidence in using general and business English.
授業方法と留意点	Students will do a variety of text book exercises in class.
科目学習の効果 (資格)	To improve English for use in a business environment

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	2	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	3	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	4	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review.
	5	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	6	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	7	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	8	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	9	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	10	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	11	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	12	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	13	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	14	Exercises	Writing, reading speaking and listening exercises	Review
	15	Test	Test	None

関連科目	None
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Market Leader New Edition Elementary Course Book	David Cotton	Pearson Longman
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Attendance 40%, participation 30% term end test 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	For students interested in improving their business English
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---------------------------------------

科目名	ビジネス イングリッシュ b	科目名 (英文)	Business English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	A B
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル

授業概要・目的	Business English is a global-minded course designed to prepare students to communicate confidently in everyday business situations, whether living and working in Japan or abroad.
到達目標	Students are also asked to comprehend the main ideas of various passages, analyze the data and contents, and give their opinions regarding the topics discussed in the reading materials.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	ToEIC のスコアアップやビジネス英語検定の取得

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	First Term Test Review	First Term Test Review
	2	教科書 Unit 7	Company and Personal History	課題
	3	教科書 Unit 7	cont'd	課題
	4	教科書 Unit 8	Making Plans	課題
	5	教科書 Unit 8	cont'd	課題
	6	教科書 Unit 9	Opinions & Preferences	課題
	7	教科書 Unit 9	cont'd	課題
	8	教科書 Unit 10	Directions & Invitations	課題
	9	教科書 Unit 10	cont'd	課題
	10	教科書 Unit 11	Entertaining	課題
	11	教科書 Unit 11	cont'd	課題
	12	教科書 Unit 12	Saying Goodbye	課題
	13	教科書 Unit 12	cont'd	課題
	14	Unit 7-12	Review and Consolidation	課題
	15	Term exam	Term exam	なし

関連科目	ビジネスイングリッシュ b
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Business Venture 1 Student Book	Roger Barnard & Jeff Cady	Oxford (OUP) ISBN 978-0-19457817-2
	2	Business Venture Workbook	Barnard & Cady	OUP ISBN 978-0-19-457802-8
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Class participation and attendance 50% Term test 50%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---------------------------------------



科目名	ビジネス イングリッシュ b	科目名 (英文)	Business English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	C D
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル

授業概要・目的	このコースではビジネスの様々な場において使える英語を学んでいきます。学生はこれらのシーンで具体的に自分自身を表現する為の中級レベルの英語を学びます。This is a course in basic business English. Students will learn and use specific business English for banks and services, job trends, dealing with complaints, socializing and meetings. TOEIC will also be covered.
到達目標	Upon completion of this course, students should have a working knowledge of the English used in the various business situations presented in the text.
授業方法と留意点	ペアになった会話の練習、小さなグループに分かれての討論、対話練習等が重点的になっていくだろう。Students will use pair work, small group work, dialogue practice and listening.
科目学習の効果 (資格)	学生はビジネスのシーンにおいて、自分自身を表現する為の中級レベルの英語を学ぶことができます。Students will learn language to express themselves in business situations up to pre-intermediate level.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 6. How would you like to pay?	Banks and services. Money.	Pages 45-47.
	2	Unit 6. How would you like to pay? continued.	Foreign currencies. Group buying.	Pages 48-50.
	3	Unit 6. How would you like to pay? continued. Unit 7. Future trends.	Report on a sales trip. TOEIC practice. Top jobs of the future.	Pages 51-55.
	4	Unit 7. Future trends continued.	Future trends. Work and jobs.	Pages 56-58.
	5	Unit 7. Future trends continued.	Tomorrows cities. Names and titles.	Pages 59-61.
	6	Unit 8. When things go wrong.	Dealing with complaints.	Pages 62-64.
	7	Unit 8. When things go wrong continued.	Apologies. Easily confused words.	Pages 65-67.
	8	Special topic.	Special topic.	No preparation required.
	9	Unit 8. When things go wrong continued.	Solving problems. Replying to a complaint by email.	Pages 68-70.
	10	Unit 9. Socializing.	Networking. Planning a social program. TOEIC practice.	Pages 71-75.
	11	Unit 9. Socializing continued.	Phrasal verbs. Polite phrases for socializing.	Pages 76-78.
	12	Unit 9. Socializing continued.	Gift taboos in Asia. Communication technology.	Pages 79-81.
	13	Unit 10. Next on the agenda.	Organizing a meeting. Meeting styles.	Pages 82-84.
	14	Unit 10. Next on the agenda continued.	Meeting etiquette in Japan. Writing an agenda.	Pages 85-88.
	15	Test of units 6-10.	Test of units 6-10.	Prepare for test.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Business Plus 2	Margaret Helliwell	Cambridge University Press ISBN: 9781107637641
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Term test: 30%, midterm vocabulary test: 20% 出席授業参加態度: 50%. Attendance, attitude and participation: 50%
-----------	--

学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、授業に参加すること、学びたいという姿勢、態度が大切です。もちろん出席することが重要です。This business course is a communication course, so students should try to use their English as much as possible. A good attitude towards learning and participating are important to getting a good grade. Attendance is also very important.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---------------------------------------

科目名	ビジネス イングリッシュ b	科目名 (英文)	Business English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	E F
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ

授業概要・目的	This is a topic-based business course that is an accessible introduction to key concepts in today's business world. Students will learn about key concepts whilst building their English skills. The textbook uses informative and up-to-date authentic material from the business magazine The Economist, to make the content authentic and relevant.
到達目標	Students are also asked to comprehend the main ideas of various passages, analyze the data and contents, and give their opinions regarding the topics discussed in the reading materials.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	ToEIC のスコアアップやビジネス英語検定の取得

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 8: Solutions Lighting up the world.	Self-introductions and course familiarisation.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	2	Unit 8: Solutions Lighting up the world.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	3	Unit 9: Products Playtime.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	4	Unit 9: Products Playtime.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	5	Unit 10: Competitors The shy architect.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	6	Unit 10: Competitors The shy architect.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	7	Unit 11: Location Over there.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	8	Unit 11: Location Over there.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	9	Unit 12: Careers The world of work.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	10	Unit 12: Careers The world of work.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	11	Unit 13: Ideas Lord of the rings.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	12	Unit 13: Ideas Lord of the rings.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	13	Unit 14: Travel More workers take a career break.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	14	Unit 14: Travel More workers take a career break.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	Complete homework task(s), review next unit and/or study for next unit test.
	15	Unit 15: Trends The phone of the future.	Business article group comprehension exercises. Individual and pair work tasks to practice business terms and expressions.	なし

関連科目	ビジネスイングリッシュ a
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Intelligent Business Elementary Coursebook/CD Pack (ISBN: 9781408255988)	Nik Barrall & Irene Barrall	Pearson

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Class participation 10% Unit tests 90%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。			

科目名	ビジネス イングリッシュ b	科目名 (英文)	Business English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	G H
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梅田 尋道

授業概要・目的	このクラスでは、ビジネスの場で必要となるような基本語彙や重要表現を学びます。また、様々なビジネスシーンを想定したダイアログなどを通して英語での実践的コミュニケーション力を磨きます。
到達目標	卒業後、英語を用いて仕事が行えるようになるための英語力を習得する。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	Toeic のスコアアップとビジネス英語検定の取得

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	講義の進め方、評価方法などを説明	初回の授業時に説明します。
2	第7課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
3	第7課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
4	第8課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
5	第8課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
6	第9課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
7	第9課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
8	期間外試験 1	midterm exam	第7-9課の復習
9	第10課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
10	第10課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
11	第11課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
12	第11課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
13	第12課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
14	第12課	リスニング、内容把握、語彙・文法練習問題、音読・ペアワーク、提出課題	vocabulary test の準備
15	期間外試験 2	final exam	第10-12課の復習

関連科目	ビジネスイングリッシュ a
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	lets get down to business	k. tsuji	macmillan languagehouse
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業活動への参加 10% 語彙テスト、提出物、発表 30% 期間外テスト (2回) 60%
学生へのメッセージ	英語はもちろんのこと、実社会で問題となる様々なことについていっしょに考えてみたいと思います。学生の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。  前期にビジネスイングリッシュ a (担当者: 梅田) を受講していない学生はできるだけ早い時期に書店で使用教科書の在庫を確認し、在庫がなければ自身で注文してください。

科目名	ビジネスインドネシア・マレー語	科目名(英文)	Business Indonesian-Malay
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ

授業概要・目的	インドネシアで仕事やビジネスに使われる、単語や表現や連絡の仕方の知識を高めるためです。
到達目標	インドネシアのビジネスの語彙を始め、様々なビジネスの場面を学習、知識をつける。
授業方法と留意点	事務所や工場での会話を学びます。映像資料も用いて会話の練習をします。
科目学習の効果(資格)	ビジネス知識を高める事が出来る。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション。	授業の内容や授業の仕方について。	授業の内容確認。
	2	自己紹介。	名刺、履歴書を作る。	会社の名称、職業などを調べる。
	3	自分の会社を紹介する。	会社の概要や組織を説明する。	授業の内容を復習する。
	4	秘書との会話やり取り	OA機器の名称。	事務所で使う器械の名前を覚える。
	5	秘書との会話	電話・伝言などに関する表現。	社内の会話を練習する。
	6	オフィス受付などの表現。	会社、役所、ホテルなどのやり取り。	授業の内容を復習する。
	7	経済情勢について語る	銀行関係の用語。	授業の内容を復習する。
	8	1回～7回まとめ(小テスト)。	復習・中間テスト。	1回から7回までに学んだことを再確認。
	9	商談。	貿易関係の用語・商業文。	授業の内容を会話で練習する。
	10	工場にて。	職員とのやり取り。	会話練習する。
	11	役所との連絡。	インドネシアの習慣。	授業の内容を復習する。
	12	ビジネスの手紙。	ビジネスで使う基本書式。	ビジネス手紙やメールを書く練習。
	13	現在のビジネスの情報収集①。	専門的な企業・技術の単語を調べる。	インターネットやメディアから情報を集める。
	14	現在のビジネスの情報収集②	専門的な企業・技術の単語を調べる	インターネットやメディアから情報を集める。
	15	9回～14回の復習・テスト。	復習・テスト	9回から14回までに学んだことを再確認。

関連科目	主言語インドネシア語科目のすべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	仕事に役立つインドネシア語	左藤 正範	大学 書林
	2	ビジネスインドネシア語	小笠原 健二 & V.R.クマラニングルム	東洋 書店
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への積極的な参加度合、中間テスト、理解度確認テスト等に基づき総合的に評価する。
学生へのメッセージ	専門用語以外に習慣、マナーを学んで、実践する。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	ビジネス心理学	科目名(英文)	Business Psychology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子

授業概要・目的	この科目は、国際ビジネスプログラム科目です。 近年、マーケティングの中で、消費行動研究の重要性が高まっています。この講義では、マーケティングの視点から、消費行動について基本的知識を身につけ体系的な理解を与えることを目的としています。日常の消費行動も、マーケティング的にみると新しい発見があるかもしれません。																																																																		
到達目標	消費行動論の基本的知識を修得し、活用できることを目指します。																																																																		
授業方法と留意点	講義が中心ですが、企業と消費行動の関連を追究していきます。																																																																		
科目学習の効果(資格)	消費行動をマーケティング的発想で考えることができます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>消費行動論の全体像を示します。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>マーケティングとは</td> <td>マーケティングの内容について、説明していきます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>マーケティング志向</td> <td>企業のマーケティング志向について、説明していきます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>マーケティングと消費行動</td> <td>マーケティングにおける消費行動の位置づけについて、説明していきます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>消費行動の心理学的アプローチ</td> <td>消費行動を心理学的に考察していきます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>消費行動と百貨店—大丸松坂屋百貨店の歴史的展開—</td> <td>外部講師による講演</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>消費行動とプロセス</td> <td>消費者の購買意思決定過程について、考えていきます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>マーケティング・リサーチ</td> <td>マーケティング・リサーチから、消費者のニーズを探る方策を考えていきます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>顧客満足</td> <td>企業の顧客満足への対応について取り上げます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>STPアプローチと消費行動</td> <td>消費者のニーズと STP アプローチについて、考察していきます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>高付加価値化と消費行動</td> <td>高付加価値化と消費行動の関連について取り上げます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>市場細分化と消費行動</td> <td>市場細分化と消費行動の関係について取り上げます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>製品ライフサイクルと消費行動</td> <td>製品ライフサイクルと消費行動の関係について考えます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>消費行動の歴史の変遷</td> <td>消費行動の歴史の変遷過程をマクロの視点から考察していきます。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>全体のまとめをします。</td> <td>文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	消費行動論の全体像を示します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。	2	マーケティングとは	マーケティングの内容について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。	3	マーケティング志向	企業のマーケティング志向について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。	4	マーケティングと消費行動	マーケティングにおける消費行動の位置づけについて、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。	5	消費行動の心理学的アプローチ	消費行動を心理学的に考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。	6	消費行動と百貨店—大丸松坂屋百貨店の歴史的展開—	外部講師による講演	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。	7	消費行動とプロセス	消費者の購買意思決定過程について、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。	8	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチから、消費者のニーズを探る方策を考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。	9	顧客満足	企業の顧客満足への対応について取り上げます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。	10	STPアプローチと消費行動	消費者のニーズと STP アプローチについて、考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。	11	高付加価値化と消費行動	高付加価値化と消費行動の関連について取り上げます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。	12	市場細分化と消費行動	市場細分化と消費行動の関係について取り上げます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。	13	製品ライフサイクルと消費行動	製品ライフサイクルと消費行動の関係について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。	14	消費行動の歴史の変遷	消費行動の歴史の変遷過程をマクロの視点から考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。	15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	消費行動論の全体像を示します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。																																																																
2	マーケティングとは	マーケティングの内容について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。																																																																
3	マーケティング志向	企業のマーケティング志向について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。																																																																
4	マーケティングと消費行動	マーケティングにおける消費行動の位置づけについて、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。																																																																
5	消費行動の心理学的アプローチ	消費行動を心理学的に考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。																																																																
6	消費行動と百貨店—大丸松坂屋百貨店の歴史的展開—	外部講師による講演	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。																																																																
7	消費行動とプロセス	消費者の購買意思決定過程について、考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。																																																																
8	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチから、消費者のニーズを探る方策を考えていきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。																																																																
9	顧客満足	企業の顧客満足への対応について取り上げます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。																																																																
10	STPアプローチと消費行動	消費者のニーズと STP アプローチについて、考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。																																																																
11	高付加価値化と消費行動	高付加価値化と消費行動の関連について取り上げます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。																																																																
12	市場細分化と消費行動	市場細分化と消費行動の関係について取り上げます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。																																																																
13	製品ライフサイクルと消費行動	製品ライフサイクルと消費行動の関係について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。																																																																
14	消費行動の歴史の変遷	消費行動の歴史の変遷過程をマクロの視点から考察していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。																																																																
15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。																																																																
関連科目	国際ビジネスプログラム科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%																																																																		
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。																																																																		
担当者の研究室等	11号館8階(武居教授室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	ビジネス中国語Ⅱa	科目名(英文)	Business Chinese IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸 宏

授業概要・目的	中国経済の発展に伴い、日中の経済的結びつきはますます強くなっている。このような状況の下、中国語を駆使するビジネスマンの役割はますます重要になっている。本学ではそのようなビジネス中国語の習得をを目指す学生のために、ビジネスに特化した中国語の講座を準備した。前期の授業は基礎知識、簡単な単語でのコミュニケーション、挨拶から質問のし方・答え方などビジネス場面で必要な会話を学ぶ。
到達目標	ビジネスの場面で交わされる会話を理解し、簡単な通信文の翻訳や作成ができることを目指す。

授業方法と留意点	ビジネス中国語Ⅱaではビジネス中国語Ⅰを基礎により具体的なビジネスシーンを想定した中国語の習得を目指す。
----------	--

科目学習の効果(資格)	ビジネス中国語検定試験など受験に有効。
-------------	---------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第1課① 考察工場	1. 介詞「向」 2. 「無論…還是…」 3. 「不但…而且…」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第1課② 考察工場	1. 介詞「向」 2. 「無論…還是…」 3. 「不但…而且…」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第2課① 洽談交易	1. 「一方面…一方面…」 2. 剛才 3. …才(能)	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第2課② 洽談交易	1. 「一方面…一方面…」 2. 動詞「？」 3. …才(能)	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第3課① 洽談价格	1. 動詞+過(動作を済ませる) 2. 要看 3. 「如果…的？」 4. 介詞「跟」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第3課② 洽談价格	1. 動詞+過(動作を済ませる) 2. 要看 3. 「如果…的？」 4. 介詞「跟」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	復習	復習チェックシート(1)	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第4課① ??	1. 我看好? 2. 有什問題 3. 介詞「関于」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第4課② ??	1. 我看好? 2. 有什問題 3. 介詞「関于」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第5課① 付款方式	1. 「非…不可」 2. 「以…為…」 3. 准备好	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第5課② 付款方式	1. 「非…不可」 2. 「以…為…」 3. 准备好	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第6課① 交貨	1. 「对…來說」 2. 最早 3. 介詞「？」了」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第6課② 交貨	1. 「对…來說」 2. 最早 3. 介詞「？」了」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第7課 復習	復習チェックシート(2)	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	補充	ビジネスシーンに必要な基本単語の学習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	主言語・共通言語2年次中国語
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス中国語Ⅱa	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	単元ごとに小テストを行う。
----------	---------------

学生へのメッセージ	選択科目ですからしっかり自覚をもって講義に臨んでください。事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階
----------	-------

備考	
----	--

科目名	ビジネス中国語Ⅱb	科目名(英文)	Business Chinese IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸 宏

授業概要・目的	後期の授業では、基礎となる文法、会社・組織についての表現、アポイントのとり方、社交の場での会話、商談など、ビジネス現場ですぐに活用できる表現や語彙力を学びます。具体的なビジネス・シーンを想定し、商談のシーンを再現します。
到達目標	ビジネスの場面で交わされる会話を理解し、簡単な通信文の翻訳や作成ができることを目指す。
授業方法と留意点	前期科目「ビジネス中国語Ⅱa」から引き続き具体的なビジネスシーンを想定し、よりビジネスの現場を体感する。
科目学習の効果(資格)	ビジネス中国語検定試験など

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第8課① 回扣	1「是不是」の用法 2「這樣」の用法 3 助動詞「会」の用法(～するのが上手だ)	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第8課② 回扣	1「是不是」の用法 2「這樣」の用法 3 助動詞「会」の用法(～するのが上手だ)	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第9課① 保険	1 助詞「之」の用法 2 介詞「根据」 3 文型「只有～才～」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第9課② 保険	1 助詞「之」の用法 2 介詞「根据」 3 文型「只有～才～」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第10課① 索赔	1 助詞「之」の用法 2 可能補語「～不了」 3 文型「既…又…」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第10課② 索赔	1 助詞「之」の用法 2 可能補語「～不了」 3 文型「既…又…」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	復習	復習チェックシート(1)	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第11課① 訂合同	1「記下来」(動詞+下来) 2「写进去」(動詞+?去) 3 代詞「本」 4 介詞「按」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第11課② 訂合同	1「記下来」(動詞+下来) 2「写进去」(動詞+?去) 3 代詞「本」 4 介詞「按」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第12課① 合資企業	1 文型「A是A」 2「為…起见」 3 接続詞「再说」の用法 4「做个市场调查」: 助数詞前の「一」の省略	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第12課② 合資企業	1 文型「A是A」 2「為…起见」 3 接続詞「再说」の用法 4「做个市场调查」: 助数詞前の「一」の省略	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第13課① 告别	1 過意不去 2 介詞「本着」 3 一定, 一定 4 助動詞「能」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第13課② 告别	1 過意不去 2 介詞「本着」 3 一定, 一定 4 助動詞「能」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第14課	復習チェックシート(2)	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	補充	ビジネスシーンに必要な基本単語の学習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	主言語・共通言語2年次中国語
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス中国語Ⅱb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	単元ごとに小テストを行う。
----------	---------------

学生へのメッセージ	選択科目ですからしっかり自覚をもって講義に臨んでください。原則として事前・事後に各60分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階
----------	-------

備考	
----	--



科目名	ビジネス中国語Ⅲ a	科目名 (英文)	Business Chinese IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	李 英杰

授業概要・目的	この授業はビジネス中国語Ⅰ、Ⅱの続きである。中国は2004年に、アメリカを抜いて、日本の最大の貿易相手国になった。近年でも、2014年には日本の対中貿易赤字が過去最高を記録するなど、日中間の経済的関係は順調に拡大しているといえる。また近年では、中国からの観光客が急増し、2014年には日本を訪れる中国人が240万人を超えて過去最多を記録するなど、新たな局面も迎えている。本授業では、ビジネスに関する知識を広げ、ビジネスや経済に関する様々な中国語の文章を読み、中国語の応用力に磨きをかけることを目的とする。なお、この1年間の授業をもって、1・2年次から続いたビジネス中国語の学習は終了となる。
到達目標	中国語のビジネスレターについて、その基本的な書式と常用される表現を習得する。
授業方法と留意点	文法の解説後、練習問題をこなし、特に中文和訳の精度を高めることを目指す。授業の難易度はそれほど高くないが、ビジネスや経済に興味をもつ必要がある。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス中国語検定試験2級が受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	概説1	中国語の取引文書の基本書式と構成	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	概説2	中国語の社交文書の基本書式と構成	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第1課	索求買价函	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第2課	社交賀年函	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	第3課	事務関係函	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	復習チェックシート(1)	—————	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第4課	联系洽談函	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第5課	建立貿易関係函	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第6課	索取商品函	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	復習チェックシート(2)	—————	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第7課	問价函	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第8課	答復函	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第9課	售后服务	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第10課	招募通告	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	復習チェックシート(3)	—————	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	ビジネス中国語Ⅰab・Ⅱab
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス中国語Ⅲ a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに試験を実施する。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	実務書類を扱うなど難しいところもあるが、実践的な内容なので、がんばって習得してほしい。事前・事後に各60時間の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	

科目名	ビジネス中国語Ⅲ b	科目名 (英文)	Business Chinese IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	今中 崇文

授業概要・目的	この授業はビジネス中国語Ⅰ、Ⅱの続きである。中国は2004年に、アメリカを抜いて、日本の最大の貿易相手国になった。近年でも、2014年には日本の対中貿易赤字が過去最高を記録するなど、日中間の経済的関係は順調に拡大しているといえる。また近年では、中国からの観光客が急増し、2014年には日本を訪れる中国人が240万人を超えて過去最多を記録するなど、新たな局面も迎えている。本授業では、ビジネスに関する知識を広げ、ビジネスや経済に関する様々な中国語の文章を読み、中国語の応用力に磨きをかけることを目的とする。なお、この1年間の授業をもって、1・2年次から続いたビジネス中国語の学習は終了となる。
到達目標	これまで学んできたビジネス中国語を、新聞記事といった実践的な教材を通して再確認し、実用的なレベルへと近づけていく。
授業方法と留意点	配布プリントをもとに授業を進める。単語や文法事項の解説後、練習問題をこなし、特に中文和訳の精度を高めることを目指す。授業の難易度はそれほど高くないが、ビジネスや経済に興味を持つ必要がある。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス中国語検定試験2級受験可能

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第1課	ビジネスニュース (日本) 1	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第2課	ビジネスニュース (日本) 2	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第3課	ビジネスニュース (日本) 3	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第4課	ビジネスニュース (日本) 4	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	復習	—————	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
	6	第5課	ビジネスニュース (中国) ①	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第6課	ビジネスニュース (中国) ②	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第7課	ビジネスニュース (中国) ③	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第8課	ビジネスニュース (中国) ④	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	復習	—————	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
	11	第9課	ビジネスニュース (国際) I	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第10課	ビジネスニュース (国際) II	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第11課	ビジネスニュース (国際) III	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第12課	ビジネスニュース (国際) IV	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	復習	—————	関連する日本語の新聞記事を講読してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	ビジネス中国語Ⅰab・Ⅱab
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	単元ごとに試験を実施する。
-----------	---------------

学生へのメッセージ	新聞記事の内容によっては難しいところもあるが、たいへん実践的な内容なので、がんばって習得してほしい。原則として事前・事後に各60時間の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	
----	--

科目名	ビジネス中国語 a	科目名 (英文)	Business Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大西 紀

授業概要・目的	中国経済の発展に伴い、日中の経済的結びつきはますます強くなっている。このような状況の下、中国語を駆使するビジネスマンの役割はますます重要になっている。本学ではそのようなビジネス中国語の習得をを目指す学生のために、ビジネスに特化した中国語の講座を準備した。前期の授業は基礎知識、簡単な単語でのコミュニケーション、挨拶から質問のし方・答え方などビジネス場面で必要な会話を学ぶ。
到達目標	ビジネスシーンで使われる表現を通して、関連する語彙や初歩的な構文を習得する。
授業方法と留意点	この科目が必修科目であることに注意。また、授業の内容は1年生中国語専攻クラスの他の必修科目を履修していることを前提としている。ただし、他学部、他大学、社会人による単科目の受講は可能である。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス中国語検定試験受験など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	中国経済の概況	改革開放前の計画経済体制から今日の市場経済体制への転換軌跡を説明し、中国の特色ある経済システムについて講義する。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第1課・第2課	発音 (1) (2) ビジネス時に使う中国語の単語を材料にして発音や声調を学習する。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第3課前半	(1) 判断文 (2) 疑問文 (1) 「～?」 (3) 副詞「也」 (4) 姓名の表現	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第3課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第4課前半	(1) 動詞述語文 (2) 疑問詞による疑問文 (3) 語気助詞「?」 (4) 副詞「好好儿」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第4課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第5課前半	(1) 形容詞述語文 (2) 反復疑問文 (3) 介詞「?」 (4) 比較の表現「A 比 B～」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第5課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第6課前半	(1) 動詞「有」(～に～がある・いる) (2) 動詞「在」 (3) 助動詞「要」 (4) 助動詞「想」 (5) 介詞「从」と「到」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第6課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第7課前半	(1) 年月日の言い方 (2) 動詞+「一下儿」 (3) 介詞「和」 (4) 動詞「有」(～が～を持っている)	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第7課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第8課前半	総合復習チェックシート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第8課後半	教養としての中国語の基礎語の学習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	総復習	第3課から第8課までの総復習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	主言語・共通言語1年次中国語
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス中国語 a	摂南大学外国語学部編	摂南大学外国語学部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	単元ごと的小テストを行う。平常点 (授業に取り組む姿勢、小テスト、発音など) 50 パーセント 単元テスト 50 パーセント
-----------	--

学生へのメッセージ	必修科目ですからしっかり自覚をもって講義に臨んでください。テストの平均点が6割以上、出席回数が三分の二を越えて、はじめて単位が認定されます。一時限開講科目ですが、30分を越えた遅刻は欠席扱いとなりますので、いつも時間に余裕を持って出席するようにお願いします。また、随時、始業と同時に復習テスト行います。遅刻、欠席の場合は受験できないのでご注意ください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前事後の学修に各1時間要する。
----	------------------

科目名	ビジネス中国語 b	科目名 (英文)	Business Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀

授業概要・目的	後期の授業は、基礎となる文法、会社・組織についての表現、アポイントのとり方、社交の場での会話、商談など、ビジネス現場ですぐに活用できる表現や語彙力を学ぶ。
到達目標	前期に引き続き、ビジネスシーンで使われる表現を通して、関連する語彙や初歩的な構文を習得する。
授業方法と留意点	この科目が必修科目であることに注意。また、授業の内容は1年生中国語専攻クラスの他の必修科目を履修していることを前提としている。ただし、他学部、他大学、社会人による単科目の受講は可能である。
科目学習の効果 (資格)	スコア式ビジネス中国語検定試験受験など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第8課前半	1「是不是」の用法 2「このように」の用法 3 助動詞「会」の用法 (～するのが上手だ)	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
2	第8課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
3	第9課前半	1 助詞「之」の用法 2 介詞「根据」 3 文型「只有～才～」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
4	第9課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
5	第10課前半	1 助詞「&00083f7;」の用法 2 可能補語「～不了」 3 文型「既…又…」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
6	第10課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
7	第11課前半	1「記下来」(動詞+下来) 2「写进去」(動詞+進去) 3代詞「本」 4 介詞「	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
8	第11課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
9	第12課前半	1 文型「A是A」 2「為…起見」 3 接続詞「再說」の用法 4「做个市場調查」: 助数詞前の「一」の省略	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
10	第12課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
11	第13課前半	1 過意不去 2 介詞「本着」 3 一定, 一定 4 助動詞「該」	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
12	第13課後半	関連表現 練習問題	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
13	第14課前半	復習チェックシート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
14	第14課後半	教養としての中国語の基礎語の学習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
15	総復習	第8課から第13課までを総復習する	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	主言語・共通言語1年次中国語
------	----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス中国語 b	摂南大学外国語学部編	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	単元ごと的小テストを行う。平常点5割 単元テスト5割を基準とします。 出席は10回以上していないと単位は認定されません。
-----------	---

学生へのメッセージ	必修科目ですからしっかり自覚をもって講義に臨んでください。 ビジネス中国語 a と同じく、遅刻、欠席は語学の授業では大きなロスとなりますから、慎んでください。 必ず教科書は購入してください。 事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)
------------	---------------

科目名	美術の歩み	科目名(英文)	Art History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩間 香

授業概要・目的	芸術は作者、時代、思想などさまざまな要素から成り立っている。この講義では各時代の代表的な作品を鑑賞しながら、どのような社会状況のもとに生み出されたのか、何に用いられたのか、主題はなにか、技法や技術の完成度はどうかなどを解説する。日本の美術や文化を知ることが、人生を豊かにするだけでなく、グローバル社会において自分を支える力になるだろう。
到達目標	日本美術の基本的な知識を修得する。教養として必要な程度の知識を身につけるとともに、美術や歴史への関心を高める。
授業方法と留意点	講義は常時スライドや教材表示装置を使用する。必要に応じノートに書き留めてもらいたい。
科目学習の効果(資格)	日本文化・美術に関する基本的な知識を身につける。学芸員資格に必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	奈良時代 飛鳥美術	法隆寺の美術	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、飛鳥時代の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
2	奈良時代 天平美術	興福寺・東大寺の仏像	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、天平時代の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
3	平安時代 密教美術	曼荼羅／密教彫刻	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、平安前期の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
4	平安時代 浄土教美術	平等院	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、平安後期の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
5	平安時代 四大絵巻物	源氏物語絵巻／信貴山縁起／伴大納言絵巻／鳥獣戯画	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、院政期の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
6	鎌倉時代 鎌倉彫刻	運慶	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、鎌倉時代の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
7	鎌倉時代 祖師絵伝絵巻	一遍聖絵／華嚴縁起	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、鎌倉新仏教について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
8	鎌倉時代 肖像画	似絵	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、金倉後期の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
9	室町時代 水墨画	雪舟	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、室町時代の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
10	桃山時代 金碧障壁画	狩野永徳	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、桃山時代の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
11	江戸時代 流派体制の確立	狩野探幽	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸初期の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
12	江戸時代 琳派の継承	俵屋宗達／尾形光琳	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸前期の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
13	江戸時代 浮世絵1	菱川師宣／鈴木春信	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、江戸後期の歴史について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
14	江戸時代 写生派	円山応挙	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、円山派について調べておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)
15	江戸時代 浮世絵2	歌麿／北斎／広重	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードし、作品を見ておく。(90分) 事後：ノートを整理し、分からないところを調べる。(90分)

関連科目	日本史・日本文化史、学芸員課程の科目
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	原色日本の美術		小学館
	2	人間の美術	梅原猛	学習研究社
	3			
評価方法 (基準)	定期試験			
学生への メッセージ	専用のノートを作り、毎回持参すること。博物館・美術館・寺・神社などに出かけて実際に美術を見に行ってください。			
担当者の 研究室等	7号館5階(岩間研究室)			
備考				

科目名	風土と地理	科目名(英文)	Climate and Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原 秀禎

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の風土を観光という視点を通して見ていく。</li> <li>日本における観光地をさまざまな視点から分析し、その特色を明らかにする。</li> <li>観光地の定義を行った後、観光資源、観光流動、観光産業について分析を加える。</li> <li>観光地の諸特性を類型化し、観光調査の方法について説明したのち、観光開発の問題点を指摘する。</li> <li>多数の観光地に関するビデオやスライドを使用し、具体的な事例をあげながら理解を深めていく。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本における観光地の特色を理解する。</li> <li>日本の観光資源、外国人観光客の動向についても把握する。</li> </ul>
授業方法と留意点	配布プリントを中心に、ビデオ教材を毎回使用し、具体的な観光地について分析を行う。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本における観光地の特性を把握できる。</li> <li>旅行業界に就職を希望する学生諸君にとっては、地理的知識の修得につながる。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	旅・観光の定義	旅・観光とは何か、その定義	観光・旅等の定義内容を整理する。
2	研究の目的と方法	旅・観光研究の目的と方法	研究の目的と方法を整理し、理解を深める。
3	観光発達史Ⅰ	外国における観光地の発達過程	ヨーロッパにおける観光地の歴史をまとめる。
4	観光発達史Ⅱ	日本における観光地の発達過程	日本における観光地の歴史をまとめる。
5	観光資源と観光流動	自然・人文観光資源の評価、観光の需要、観光圏の形成	観光の需要、観光圏の形成についてまとめ、理解を深める。
6	観光産業	観光産業の構成と分布	観光産業の構成と分布をまとめ、理解を深める。
7	第1回から第6回までのまとめと理解度確認テスト	第1回から第6回までのまとめを行った後、理解度を確保するためのテストを実施する。	テスト内容を確認し、理解できていない内容を復習する。
8	観光地の特性Ⅰ	温泉観光地とその特色	温泉観光地とその特色をまとめる。
9	観光地の特性Ⅱ	山岳観光地とその特色	山岳観光地とその特色をまとめる。
10	観光地の特性Ⅲ	海岸観光地とその特色	海岸観光地とその特色をまとめる。
11	観光地の特性Ⅳ	宗教・都市観光地とその特色	宗教・都市観光地とその特色をまとめる。
12	観光調査法Ⅰ	資料の吟味と収集法、グーグルによる検索、観光統計の入手法	観光調査法の内容を復習する。
13	観光調査法Ⅱ	アンケート調査、ヒヤリング調査、調査結果の整理法	アンケート調査、ヒヤリング調査項目を作成する。
14	第8回から第13回までのまとめと理解度確認テスト	第8回から第13回までのまとめを行った後、理解度を確保するためのテストを実施する。	テスト内容を確認し、理解できていない内容を復習する。
15	理解度確認テストの結果を踏まえ、全体を総括する。	旅・観光のまとめ、日本における観光地の特性	日本における観光地の特性をまとめる。

関連科目	エリアスタディズ、地域環境論、エコツーリズム論
------	-------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	観光地理学	寺阪昭信	古今書院
2	観光学	溝尾良隆	古今書院
3	アーバンツーリズム	淡野明彦	古今書院

評価方法(基準)	2回の理解度確認テストの成績を中心に、授業参加、講義態度も加味して、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	配布プリントの内容だけでなく、口頭で説明した内容やビデオの内容も要約して、しっかりノートにまとめる習慣を身に付けて下さい。事前・事後に各1時間の学修を要する。
担当者の研究室等	7号館5階(原研究室)
備考	

科目名	Practical English Conversation	科目名 (英文)	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。
到達目標	1年時に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文を応用しながら、英語を話すための実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson
8	Midterm Assessment Activity		
9	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Quiz "Individual Task, Pair Work or Group Work"	Students should study the content of the day's lesson
15	Final joint class role play presentation		

関連科目	Academic Reading, Academic Writing
------	------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Language Note (languagenote.com)	Richard McMahon	
	2	ホームステイ・イングリッシュ	Ozawa	英潮社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) と成果物の成績を総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	Don't be afraid to make mistakes - mistakes mean you remember for next time!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 田浦研究室 (Building 7, 5th floor, Koala poster on the door)
----------	---

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--



科目名	Practical English Conversation	科目名 (英文)	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。
到達目標	1年時に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文を応用しながら、英語を話すための実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson
	2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
	3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson
	6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson
	7	Mid semester review and assessment	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson
	8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson
	9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson
	10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson
	11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson
	14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson
	15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson

関連科目	Academic Reading, Academic Writing
------	------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Top Notch TV	Joan Saslow	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) と成果物の成績を総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	Practical English Conversation	科目名 (英文)	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アーサー ロングソン

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。
到達目標	1年時に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文を応用しながら、英語を話すための実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review	Feedback sessionk	•••

関連科目	Academic Reading, Academic Writing
------	------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) と成果物の成績を総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	Practical English Conversation	科目名 (英文)	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。
到達目標	1年時に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の例文を応用しながら、英語を話すための実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Introduction	
	2	Greetings and Conversation Starters	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
	3	Approaching a Stranger	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
	4	Making follow-up questions	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
	5	Making follow-up questions (continued)	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
	6	Extended Conversations Review	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
	7	Abruptly Ending a Conversation	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
	8	Changing a Topic	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
	9	Talking about Taboo Topics	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
	10	Asking Someone Out	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
	11	Practice for final role-play project	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
	12	Practice for final role-play project	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
	13	Practice for final role-play project	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
	14	Practice for final role-play project	Pronunciation and intonation practice; grammar and vocabulary building exercises	Homeork
15	Final role-play performance	Review		

関連科目	Academic Reading, Academic Writing
------	------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) と成果物の成績を総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	You will need a notebook and writing materials for this class. There is no textbook. Come see me anytime you need help with anything.
-----------	---

担当者の研究室等	
----------	--

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	フランス語Ⅱ a	科目名(英文)	French IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中井 裕之

授業概要・目的	本授業の目的はフランス語による基礎的コミュニケーション能力の育成にあります。挨拶、注文、道の尋ね方など、日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現をこの授業では学びます。
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。一例えば、日本に旅行に来ているフランス人に偶然、街で出会ったとします。その時フランス語で声をかけてみたくはないでしょうか？あるいはフランスに旅行に行つたとします。レストランで注文する時、店でショッピングをする時、直接フランス語でやりとりがしたくはないでしょうか？この授業を取ればそれが可能となります。
授業方法と留意点	基本的な表現を繰り返し口に出して練習する。リスニング、練習問題の解答、学生同士の練習を行なう。教科書を使用するので購入して教室に持ってくる。授業への積極的な参加を望みます。
科目学習の効果(資格)	仏検(実用フランス語技能検定試験)5級へ向けた学力の準備をする。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	フランス語会話(基礎)の学び方の説明 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書、辞書の説明	テキスト全体に目を通し、どういったことを学習するかイメージをつかんでおく
2	『話したくなるフランス語』導入(pp.2-3)	アルファベとその読み方	『話したくなるフランス語』導入部の予習復習
3	『話したくなるフランス語』第1課(pp.4-9)	物の名前を正確に言う 数字の読み方(1)	『話したくなるフランス語』第1課の予習復習、練習問題1
4	『話したくなるフランス語』第1課つづき	文法事項：男性名詞と女性名詞 名詞の複数形 つづり字と発音(1)	『話したくなるフランス語』第1課の予習復習、練習問題2
5	『話したくなるフランス語』第2課(pp.10-15)	基本的な動詞を使い、習慣になっている行為や仕事や仕事や住んでいる場所などについて話す 国、都市の名前	『話したくなるフランス語』第2課の予習復習、練習問題3
6	『話したくなるフランス語』第2課つづき	文法事項：否定文 つづり字と発音(2)	『話したくなるフランス語』第2課の予習復習、練習問題4、練習問題5
7	『話したくなるフランス語』第3課(pp.16-21)	好き嫌いの言い方 食べ物、飲み物の名前	『話したくなるフランス語』第3課の予習復習、練習問題6、練習問題7
8	『話したくなるフランス語』第3課つづき	文法事項：定冠詞、est-ce que を用いる疑問文 リエゾン・エリズイオン・アンシェヌマン 主語人称代名詞、-er動詞の変化	『話したくなるフランス語』第3課の予習復習、練習問題8
9	『話したくなるフランス語』第4課(pp.22-27)	人の身分や特徴の表現 国籍、職業の呼び方	『話したくなるフランス語』第4課の予習復習、練習問題9、練習問題10
10	『話したくなるフランス語』第4課つづき	文法事項：形容詞の男性形と女性形 ?treの変化	『話したくなるフランス語』第4課の予習復習、練習問題11、練習問題12
11	『話したくなるフランス語』第5課(pp.28-33)	動詞 avoir を使った表現 親族の名称	『話したくなるフランス語』第5課の予習復習、練習問題13、練習問題14
12	『話したくなるフランス語』第5課つづき	文法事項：不定冠詞、部分冠詞、否定の冠詞 avoirの変化 つづり字と発音(3)	『話したくなるフランス語』第5課の予習復習、練習問題15、練習問題16、練習問題17
13	『話したくなるフランス語』第6課(pp.34-39)	動詞 aller を使った表現 乗り物の言い方	『話したくなるフランス語』第6課の予習復習、練習問題18
14	『話したくなるフランス語』第6課つづき	文法事項：前置詞と定冠詞の縮約 指示形容詞 allerの変化	『話したくなるフランス語』第6課の予習復習、練習問題19、練習問題20
15	まとめ	前期学習内容の確認とまとめ	前期学習内容の理解のチェックと復習

関連科目	後期のフランス語Ⅱを合わせて履修することが望ましい
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対訳フランス語で読もう「異邦人」	アルベール・カミュ[著]、柳沢文昭[訳注]	第三書房
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト(50%)と平常点(授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題の提出など)(50%)
----------	--

学生へのメッセージ	楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をするの楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。
----	----------------------------------

科目名	フランス語Ⅱb	科目名(英文)	French IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中井 裕之

授業概要・目的	この授業では、前期に引き続き、フランス語の基礎的コミュニケーション能力の習得を目指します。挨拶、注文、道の尋ね方など日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現を学びます。フランス語で話す喜びを感じてください。楽しい授業を目指します。
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。基本的なフランス語の言いまわしやを繰り返し練習することで、単に頭で理解できているばかりでなく、場面・状況に応じた表現が自然と口をついて出るようになります。
授業方法と留意点	基本的な表現を繰り返し口に出して練習する。リスニング、練習問題の解答、学生同士の練習を行なう。教科書(『かたつむりの歌(Chanson des Escargots)』、『話したくなるフランス語(Un peu de fran?ais ?)』)を使用するので教室に持ってくる。授業への積極的な参加を望みます。
科目学習の効果(資格)	仏検(実用フランス語技能検定試験)5級に相当する学力を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	後期オリエンテーション	後期学習へ向けた示唆 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書の説明	テキストの後期学習範囲に目を通しておく
2	動詞活用表	さまざま動詞の活用 以降、適宜、『かたつむりの歌』を味読する	『話したくなるフランス語』巻末動詞活用表
3	『話したくなるフランス語』第7課(pp.40-45)	人、物をたずねる表現 フランス人の名前	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題21
4	『話したくなるフランス語』第7課つづき	文法事項：指示代名詞、直接目的語になる人称代名詞 つづり字と発音(4) conna?treの変化	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題22、練習問題23
5	『話したくなるフランス語』第8課(pp.46-51)	可能性、許可、依頼の表現 条件法を用いた表現	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題22、練習問題24
6	『話したくなるフランス語』第8課つづき	文法事項：pouvoirの変化 つづり字と発音(5) 条件法	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題25、練習問題26
7	『話したくなるフランス語』第9課(pp.52-57)	名詞を代名詞で受ける 頻度を表わす表現	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題27
8	『話したくなるフランス語』第9課つづき	文法事項：間接目的語になる人称代名詞 人称代名詞のまとめ	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題28、練習問題29
9	『話したくなるフランス語』第10課(pp.58-63)	未来の予定 時刻の言い方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題30
10	『話したくなるフランス語』第10課つづき	文法事項：代名動詞 未来の表わし方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題31
11	『話したくなるフランス語』第11課(pp.64-69)	過去の表現 月、曜日、日付の言い方	『話したくなるフランス語』ト第11課の予習復習、練習問題32、練習問題33、練習問題34
12	『話したくなるフランス語』第11課つづき	文法事項：複合過去 半過去	『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題35、練習問題36
13	発展的学習(1)	役に立つ表現と文法事項の補足(1) 会話練習(1)	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習
14	発展的学習(2)	役に立つ表現と文法事項の補足(2) 会話練習(2)	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習
15	まとめ	総まとめ	学習内容の理解のチェック

関連科目 前期のフランス語Ⅰを合わせて履修することが望ましい

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	かたつむりの歌(Chanson des Escargots)	田島宏[編], プレヴェール[著]	第三書房
2	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対訳フランス語で読もう「異邦人」	アルベール・カミュ[著], 柳沢文昭[訳注]	第三書房
2				
3				

評価方法(基準)	小テスト(50%)と平常点(授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題の提出など)(50%)
学生へのメッセージ	楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をするのの楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる

科目名	フランス語Ⅲ a	科目名(英文)	French IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤本 武司

授業概要・目的	フランス語Ⅰ a, Ⅰ bでの学習事項をもとに、フランス語の4技能(聞く・話す・読む・書く)を総合的に高めることを目的とする。
到達目標	フランス語の基本的文法を習得し、短い日常会話をすることができる。辞書を用いれば簡単な文章を読むことができる。
授業方法と留意点	口頭練習を重視すると同時に読むことにも力を入れる。フランス文化の諸相をさまざまな視聴覚教材を用いて紹介する。また、文法理解や単語、表現の習得度を確保するため、原則として毎回小テスト(筆記または口頭)を行う。
科目学習の効果(資格)	フランス語ⅠⅠⅠbとあわせて、仏検(実用フランス語検定)4級に相当する学力を到達目標とする。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	オリエンテーションとこれまでの学習内容の確認	—————
	2	第7課:日課をいう	代名動詞(1)	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	3	第7課:日課をいう	代名動詞(2)	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	4	第7課:日課をいう	疑問形容詞	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	5	第7課:日課をいう	非人称構文	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	6	第8課:人や物を言いかえる	目的語人称代名詞(1)	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	7	第8課:人や物を言いかえる	目的語人称代名詞(2)、中性代名詞	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	8	第8課:人や物を言いかえる	指示代名詞	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	9	第8課:人や物を言いかえる	代名詞のまとめ	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	10	第9課:過去を語る	複合過去(1)	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	11	第9課:過去を語る	複合過去(2)	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	12	第9課:過去を語る	代名動詞の複合過去	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	13	第9課:過去を語る	複合過去まとめ	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	14	第10課:人、ものについてくらべたり説明したりする	比較(1)	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	15	第10課:人、ものについてくらべたり説明したりする	比較(2)	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Au pas, camarade! オ・パ・カマラッド! 一足並みそろえて、フランス語— (改訂版)	藤本武司他	駿河台出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験は実施しない。授業時の口頭発表、小テスト、宿題等提出物、映画鑑賞後のコメント等から総合的に評価する。出席しているだけでは評価の対象にならないので注意のこと。
学生へのメッセージ	単に語学の勉強というだけでなく、フランスの様々な姿や、日本との違いを一緒に考えてみたいと思います。なお、皆さんのこれまでのフランス語学習内容等にあわせて、上記の計画は大幅に変更することもあります。
担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)

科目名	フランス語Ⅲb	科目名(英文)	French IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤本 武司

授業概要・目的	フランス語 IIIa に引き続き、フランス語の4技能(聞く・話す・読む・書く)を総合的に高めることを目的とする。本科目をもってひとりのフランス語文法の学習を完了させる
到達目標	フランス語の文法をひととおり習得し、辞書を用いればやや高度な内容の文章も読むことができる。
授業方法と留意点	口頭練習を重視すると同時に読むことにも力を入れる。フランス文化の諸相をさまざまな視聴覚教材を用いて紹介する。また、文法理解や単語、表現の習得度を確保するため、原則として毎回小テスト(筆記または口頭)を行う。
科目学習の効果(資格)	仏検(実用フランス語検定)4級に相当する学力を到達目標とする。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	これまでの学習の確認とオリエンテーション	———
	2	第10課:人・ものについてく らべたり説明したりする	関係代名詞(1)	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	3	第10課:人・ものについてく らべたり説明したりする	関係代名詞(2)	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	4	第11課:将来、未来を語る	直説法単純未来と前未来(1)	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	5	第11課:将来、未来を語る	直説法単純未来と前未来(2)	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	6	第11課:将来、未来を語る	現在分詞とジェロンディフ	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	7	第12課:思い出を語る	直説法半過去と大過去	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	8	第12課:思い出を語る	複合過去と半過去の違い	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	9	第12課:思い出を語る	受動態	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	10	第13課:仮定・願望を語る	条件法(1)	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	11	第13課:仮定・願望を語る	条件法(2)	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	12	第13課:仮定・願望を語る	話法	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	13	第14課:感情や希望を表現 する	接続法(1)	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	14	第14課:感情や希望を表現 する	接続法(2)	次回小テストの準備(内容はその都度指示する)
	15	補遺:過去を記述する	単純過去	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Au pas, camarade! オ・パ・カマラッド! 一足並み そろえて、フランス語一 (改訂版)	藤本武司他	駿河台出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験は実施しない。授業時の口頭発表、小テスト、宿題等提出物、映画鑑賞後のコメント等から総合的に評価する。出席しているだけでは評価の対象にならないので注意のこと。
学生へのメッセージ	単に語学の勉強というだけではなく、フランスの様々な姿や、日本との違いを一緒に考えてみたいと思います。なお、皆さんのこれまでのフランス語学習内容等にあわせて、上記の計画は大幅に変更することもあります。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	フランス語IV a	科目名 (英文)	French IVa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中井 裕之

授業概要・目的	意欲を持ってフランス語の能力を高め、実力をつけようと考えている学生のための上級クラスです。授業では特に会話練習に重点を置きつつ、読む、書く、話す、聞くの総合的なフランス語運用能力の伸長を目指します。また言葉を真に理解するためには、文法や単語の意味のみならず、背景となる文化の理解も欠かせません。そこで本授業では、語学的説明と同時に文化的解説を与えます。さらに受講生の希望に応じて仏検等の対策も盛り込んでいきたいです。楽しく、ためになる授業を目指します。
到達目標	授業を受けることで、学生はより高度なフランス語運用能力を身につけることができます。仏検3級以上のフランス語が読めて、書けて、話せて、聞けるようになることを目指します。
授業方法と留意点	演習形式。テキストを用いた会話練習を中心に、読解や仏作文の練習等も行う。教科書を使用するので購入して教室に持ってくる。授業への積極的な参加を望みます。
科目学習の効果 (資格)	仏検 (実用フランス語技能検定試験) 3級以上の学力を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	フランス語 (上級) の学習法の説明 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書、辞書の説明	テキスト全体に目を通し、どういったことを学習するかイメージをつかんでおく
2	フランス語の基礎的復習	受講生の苦手な部分を重点的に	文法事項のおさらいをしておく
3	『ピコティ・ピコタ2』第1課 (pp. 1-7) Faire connaissance-Parler de soi	自己紹介、趣味、過去の回想 (リスニング演習・講読演習を含む)	テキスト付属「文法メモ」第1課の1～18の通読、テキスト第1課の1～4の予習・復習
4	『ピコティ・ピコタ2』第1課つづき	第1課の文法・語彙・表現・文化的背景等の解説	テキスト第1課5～8と「ことばあそびうた」の予習・復習
5	『ピコティ・ピコタ2』第2課 (pp. 8-15) 《Commander ? domicile》	電話、注文、出前の感想 (リスニング演習・講読演習を含む)	テキスト付属「文法メモ」第2課の1～12の通読、テキスト第2課の1～3の予習・復習
6	『ピコティ・ピコタ2』第2課つづき	第2課の文法・語彙・表現・文化的背景等の解説	テキスト第2課4～6と「ことばあそびうた」の予習・復習
7	『ピコティ・ピコタ2』第3課 (pp. 16-23) 《Le cin?ma》	映画の話・感想、チケットの購入 (リスニング演習・講読演習を含む)	テキスト付属「文法メモ」第3課の1～13の通読、テキスト第3課の1～3の予習・復習
8	『ピコティ・ピコタ2』第3課つづき	第3課の文法・語彙・表現・文化的背景等の解説	テキスト第3課4～7と「ことばあそびうた」の予習・復習
9	『ピコティ・ピコタ2』第4課 (pp. 24-32) 《Faire son march?》	買物、食材、スーパーのちらし、商業広告 (リスニング演習・講読演習を含む)	テキスト付属「文法メモ」第4課の1～7の通読、テキスト第4課の1～3の予習・復習
10	『ピコティ・ピコタ2』第4課つづき	第4課の文法・語彙・表現・文化的背景等の解説	テキスト第4課4～7と「ことばあそびうた」の予習・復習
11	『ピコティ・ピコタ2』第5課 (pp. 33-39) 《Avoir mal, ?tre malade, se blesser》	痛み、病気、怪我、診察 (リスニング演習・講読演習を含む)	テキスト付属「文法メモ」第5課の1～11の通読、テキスト第5課の1～3の予習・復習
12	『ピコティ・ピコタ2』第5課つづき	第5課の文法・語彙・表現・文化的背景等の解説	テキスト第5課の4～7と「ことばあそびうた」の予習・復習
13	応用練習 (1)	上級文法と高度な表現の補足 (1) 会話練習 (1) 必要に応じて仏検のポイント解説	テキスト第1課～第5課の復習
14	応用練習 (2)	上級文法と高度な表現の補足 (2) 会話練習 (2) 必要に応じて仏検のポイント解説	テキスト第1課～第5課の復習
15	まとめ	前期学習内容のまとめ	前期学習内容の理解のチェックと復習

関連科目 フランス語科目すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ピコティ・ピコタ2 (Picoti, Picota 2)	Marie-Emmanuelle Muramatsu	駿河台出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対訳フランス語で読もう「異邦人」	アルベール・カミュ[著], 柳沢文昭[訳注]	第三書房
2				
3				

評価方法 (基準) 小テスト (50%) と平常点 (授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題など) (50%)

学生へのメッセージ しっかりと、また楽しくフランス語を学習しましょう。フランス語の実力をつけたい方、フランス文化に興味のある方、その他多くの方のみなさんの参加をお待ちしております。難しいと思わずにどしどし来てください。毎年このクラスでは、仏検などで成果を出している学生も多くいます。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。



科目名	フランス語IV b	科目名 (英文)	French IVb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中井 裕之

授業概要・目的	意欲を持ってフランス語の能力を高め、実力をつけようと考えている学生のための上級クラスです。本授業では、前期に引き続き、会話の練習に重点を置きつつフランス語の総合的な運用能力の育成を図ります。授業では語学的説明と同時に文化的な解説を与えるので、授業を通してフランス文化の諸側面に触れることができます。またフランス語学習にまつわる興味深いトピックを適宜提供していきます。仏検対策など受講者の要望も取り入れつつ、楽しく、ためになる授業を目指します。
到達目標	授業を受けることで、学生はより高度なフランス語運用能力を身につけることができます。仏検3級以上のフランス語が読めて、書いて、話せて、聞けるようになることを目指します。
授業方法と留意点	演習形式。テキストを用いた会話練習を中心に、読解や仏作文の練習等も行う。教科書『謎 (Qui sait ?)』、『ピコティ・ピコタ2 (Picoti, Picota 2)』を使用するので購入して教室に持ってくる。授業への積極的な参加を望みます。
科目学習の効果 (資格)	仏検 (実用フランス語技能検定試験) 3級以上の学力を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	後期オリエンテーション	後期学習へ向けた示唆 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書の説明	テキストに目を通し、どういったことを学習するかイメージをつかんでおく
2	フランス語文法の復習	文法事項の復習[受講生の苦手な部分を重点的に]	文法事項のおさらいをしておく
3	『ピコティ・ピコタ2』第6課 (pp. 40-51) 《Partir en vacances》	ヴァカンスの計画を語る、旅行の感想 (リスニング演習・講読演習を含む) 以降、適宜、モーパッサンの小説『謎 (Qui sait ?)』の文章を解説する	テキスト付属「文法メモ」第6課の1～18の通読、 テキスト第6課の1～2の予習・復習
4	『ピコティ・ピコタ2』第6課つづき	第6課の文法・語彙・表現・文化的背景等の解説	テキスト第6課の3～6と「ことばあそびうた」の予習・復習
5	『ピコティ・ピコタ2』第7課 (pp. 52-56) 《Chez le coiffeur》	美容院での会話 (リスニング演習・講読演習を含む)	テキスト付属「文法メモ」第7課の1～7の通読、 テキスト第7課の1～2の予習・復習
6	『ピコティ・ピコタ2』第7課つづき	第7課の文法・語彙・表現・文化的背景等の解説	テキスト第7課の3～5と「ことばあそびうた」の予習・復習
7	『ピコティ・ピコタ2』第8課 (pp. 57-63) 《 Faire des courses vestimentaires》	洋服を買う、売り場をきく、断る、友達のをほめる (リスニング演習・講読演習を含む)	テキスト付属「文法メモ」第8課の1～11の通読、 テキスト第8課の1～4の予習・復習
8	『ピコティ・ピコタ2』第8課つづき	第8課の文法・語彙・表現・文化的背景等の解説	テキスト第8課の5～8と「ことばあそびうた」の予習・復習
9	『ピコティ・ピコタ2』第9課 (pp. 64-68) 《Le logement》	住まいの話 (リスニング演習・講読演習を含む)	テキスト付属「文法メモ」第9課の1～5の通読、 テキスト第9課の1～2の予習・復習
10	『ピコティ・ピコタ2』第9課つづき	第9課の文法・語彙・表現・文化的背景等の解説	テキスト第9課の3～5と「ことばあそびうた」の予習・復習
11	『ピコティ・ピコタ2』第10課 (pp. 69-75) 《Le mariage》	結婚式の招待状を読む、結婚式を語る (リスニング演習・講読演習を含む)	テキスト付属「文法メモ」第10課の1～6の通読、 テキスト第10課の1～4の予習・復習
12	『ピコティ・ピコタ2』第10課つづき	第10課の文法・語彙・表現・文化的背景等の解説	テキスト第10課の5～9と「ことばあそびうた」の予習・復習
13	応用練習 (3)	上級文法と高度な表現の補足 (3) 会話練習 (3)	テキスト第6課～第10課の復習
14	応用練習 (4)	上級文法と高度な表現の補足 (4) 会話練習 (4)	テキスト第6課～第10課の復習
15	まとめ	必要に応じて仏検のポイント解説 総まとめ	学習内容の理解のチェック

関連科目	フランス語科目すべて
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	謎 (Qui sait ?)	モーパッサン (Maupassant) [著], 宮原信 [編注]	第三書房
2	ピコティ・ピコタ2 (Picoti, Picota 2)	Marie-Emmanuelle Muramatsu	駿河台出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対訳フランス語で読もう「異邦人」	アルベール・カミュ [著], 柳沢文昭 [訳注]	第三書房
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト (50%) と平常点 (授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題など) (50%)
-----------	---

学生へのメッセージ	しっかりと、また楽しくフランス語を学習しましょう。フランス語の実力をつけたい方、フランス文化に興味のある方、その他多くの方のみなさんの参加をお待ちしております。難しいと思わずにどしどし来てください。毎年、このクラスでは、仏検などで成果を出している学生も多くいます。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。
----	----------------------------------

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	A B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	フーパー トッド

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル (身振り、姿勢、話し方など) や発表構成 (導入・展開・結論) を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1. 1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報 (自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること) を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction to Presentations	Go over syllabus; Introduce typical activities in the class	Students should study the content of the day's lesson
	2	Presentations: Eye Contact	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Presentations: Gestures	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Presentations: Stage Position	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Presentation Planning and Visuals	Individual presentation preparation	Finish writing your presentation and practice it for next week
	6	Presentation 1	Present to the Class	Practice for your presentation
	7	Presentations: Projection	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Presentations: Enunciation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Presentations: Intonation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Presentations: Phrasing	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Presentation Planning and Visuals	Individual presentation preparation	Finish writing your presentation and practice it for next week
	12	Presentation 2	Present to the Class	Practice for your presentation
	13	Talks: Introduction and Preparation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Talks: Question and Answer Sessions	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Talk Presentations	Present to the Class	Practice for your talk

関連科目	ドラマ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Successful Presentations	Mark D. Stafford	Cengage Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、プレゼンテーション、宿題、提出物等) の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	You will gain confidence and experience as a public speaker. Be prepared to share your ideas with everyone in class.
担当者の研究室等	7号館3階 フーパー研究室
備考	You will need a dictionary in this class.

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1. 1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1: A new club member. Giving a presentation on another person.	Orientation and self introductions	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	2	Unit 1: A new club member. Giving a presentation on another person.	Posture and Eye Contact	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	3	Class presentations	Gestures	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	4	Unit 2: A favourite place. Giving a presentation on a favourite location.	Voice Inflection	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	5	Unit 2: A favourite place. Giving a presentation on a favourite location.	Effective Visuals	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	6	Class presentations	Explaining Visuals	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	7	Unit 3: A prized possession. Giving a presentation on an object that is dear to you.	Preparing your presentation	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	8	Unit 3: A prized possession. Giving a presentation on an object that is dear to you.	Making your presentation in the class	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	9	Class presentations	The Introduction	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	10	Unit 4: A memorable experience. Giving a presentation on a memorable event in your life.	The Body	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	11	Unit 4: A memorable experience. Giving a presentation on a memorable event in your life.	The Conclusion	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	12	Class presentations	Designing a presentation outline	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	13	Unit 5: Show me how. Demonstrating how to do/make/operate something.	Effective use of palm cards	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
	14	Unit 5: Show me how. Demonstrating how to do/make/operate something.	Rehearsing your presentation	Students should review the presentation tips and techniques taught in the class, and consider how they might make their own presentations more effective.
15	Final class presentations	Making your presentation in the class	・・・	

関連科目	ドラマ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Present Yourself Level 1 Student's Book Experiences 2nd Edition (ISBN: 9781107435636)	Gershon, S.	Cambridge University Press

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(授業態度、プレゼンテーション、宿題、提出物等)の成績を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Those who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will benefit most from this course.			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	You will need a dictionary in this class.			

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル (身振り、姿勢、話し方など) や発表構成 (導入・展開・結論) を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1. 1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報 (自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること) を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	2	Unit 1	Posture and Eye Contact	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Unit 2	Gestures	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Unit 3	Voice Inflection	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Unit 4	Effective Visuals	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Unit 5	Explaining Visuals	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Preparing for Presentation1	Preparing your presentation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Presentation1	Making your presentation in the class	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Unit 6	The Introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Unit 7	The Body	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Unit 8	The Conclusion	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Preparing for Presentation2	Preparing your presentation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Presentation2	Making your presentation in the class	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Preparing for Final Presentation	Preparing your presentation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Final Presentation	Making your presentation in the class	...	

関連科目	ドラマ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of Speech: Basic Presentation Skills for Beginners	David Harrington and Charles LeBeau	Macmillan Education
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、プレゼンテーション、宿題、提出物等) の成績を総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Those who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will benefit most from this course.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	You will need a dictionary in this class.
----	---

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マシュー クーパー

授業概要・目的  
 ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。

到達目標  
 CEFR-J [A1. 1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。

授業方法と留意点  
 学期末に、ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果（資格）  
 TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	2	Exercises : Structure	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Exercises : Structure	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Exercises : Structure	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises:Audience Analysis	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Exercises:Audience Analysis	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Exercises:Audience Analysis	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Exercises:Delivery	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises:Delivery	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Exercises:Delivery	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises:Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Exercises:Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review	Feedback session	•••

関連科目  
 ドラマ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Present yourself 1 2nd edition	Steven Gershon	Cambridge
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）  
 平常点（授業態度、プレゼンテーション、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。

学生へのメッセージ  
 英語での主張のために必要な証拠、事実について、それらの効果的な提示の方法について学びます。就職活動、仕事などに役立つ知識として身につけてほしいと思います。

担当者の研究室等  
 7号館2階 非常勤講師室

備考  
 You will need a dictionary in this class.

科目名	プレゼンテーション	科目名(英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料やICTを用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル(身振り、姿勢、話し方など)や発表構成(導入・展開・結論)を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報(自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること)を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトやICTを使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction.	Class overview. Introducing the physical message. DVD episode 1, The Informative Speech.	No preparation required.
	2	Informative Speech. Introducing your hometown.	Practice presenting the Informative Speech about your hometown.	Write a short speech about your hometown.
	3	Physical message in presentation 1: gestures.	The importance of using the body for communication. DVD episode 2, The Layout Speech.	Preview and learn unfamiliar vocabulary in the textbook.
	4	The Layout Speech.	Perform the Layout Speech.	Write a Layout Speech about a place you know.
	5	Physical message in presentation 2: voice inflection.	The importance in using voice inflection for emphasis in speech.	Preview and learn unfamiliar vocabulary in the textbook.
	6	The physical message in presentation 3: gestures and voice inflection.	DVD episode 3, The Demonstration Speech. Practice using gestures and voice inflection in explaining how to make a sandwich.	Preview and learn unfamiliar vocabulary in the textbook.
	7	The Demonstration Speech.	Perform the Demonstration Speech.	Write a Demonstration Speech about how to do something.
	8	The Visual Message 1: effective visuals.	DVD episode 4, Effective Visuals. Using visuals in presentation, such as charts, graphs, photos and diagrams.	Preview and learn unfamiliar vocabulary in the textbook.
	9	The Visual Message 2, explaining visuals.	DVD episode 5, Explaining visuals. Language to explain visuals in English. Practice explaining graphs.	Preview and learn unfamiliar vocabulary in the textbook.
	10	The Story Message.	Overview of Introduction, Body and Conclusion of the presentation.	Preview and learn unfamiliar vocabulary in the textbook.
	11	The Comparison Speech.	Perform the Comparison Speech.	Write a speech comparing two places with graphs.
	12	The Effective Introduction.	DVD episode 6, The Introduction.	Preview and learn unfamiliar vocabulary in the textbook.
	13	The Body of the Presentation.	DVD 7, The Body. Using evidence to prove your statements. Using transitions between main points.	Preview and learn unfamiliar vocabulary in the textbook.
	14	The Conclusion.	DVD episode 8, The Conclusion. Focus Points. Final Presentation topic and outline.	Final Presentation topic and outline.
	15	Final Presentation.	Perform the Final Presentation.	Write Final Presentation.

関連科目	ドラマ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of Speech by David Harrington and Charles LeBeau. MacMillan publishing. ISBN: 978-4-7773-6271-4		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Dictionary		
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、プレゼンテーション、宿題、提出物等)の成績を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	Learning about and giving presentations can be fun, and students can improve their confidence through giving speeches in English. Students can expect to write five presentations during the semester. Attendance is very important.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
----------	----------------

備考	You will need a dictionary in this class.
----	---

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アレン ニール

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料やICTを用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル(身振り、姿勢、話し方など)や発表構成(導入・展開・結論)を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1. 1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報(自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること)を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	学期末に、ハンドアウトやICTを使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	2	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Exercises: Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises: Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Exercises: Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Exercises: Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review	Feedback session	...

関連科目	ドラマ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Handouts distributed in class		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、プレゼンテーション、宿題、提出物等)の成績を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	The quality of your voice and pronunciation is just as important as the content of your speech. Audiences listen to passionate speakers. Let's present from the heart.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 Herke 研究室
----------	-----------------

備考	You will need a dictionary in this class.
----	---



科目名	プレゼンテーションインドネシア・マレー語	科目名(英文)	Indonesian Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ

授業概要・目的	Memberikan dasar-dasar metode dan teknik presentasi, dari penyusunan paper sampai praktek presentasi, agar mahasiswa memiliki kemampuan menyampaikan buah pikiran, hasil penelitian dsb, kepada audience.
到達目標	Dimulai dari sikap penyampaian, menyusun teks, penyusunan Power Point dan pelengkapannya, sehingga mahasiswa mempunyai kemampuan menyampaikan presentasi dengan baik.
授業方法と留意点	Penguasaan teori, penyusunan teks, latihan presentasi. Workshop class.
科目学習の効果(資格)	Mahasiswa mampu membuat naskah, menyajikan data dan mempresentasikan dengan baik.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientasi.	Penjelasan tentang materi perkuliahan, tujuan dan tugas akhir.	Memahami dan mengerti materi, tujuan dan tugas akhir.
	2	Persiapan fisik.	Postur dan kontak mata. Mempraktekkan di depan kelas.	Mengulang latihan.
	3	Persiapan fisik	Gerak-gerak dan tekanan suara..	Latihan dengan memperagakan berbagai macam gerak-gerak.
	4	Penyusunan naskah presentasi.	Penyusunan naskah, judul, isi, pembagian bab dll.	Mempersiapkan naskah.
	5	Power Point.	Penggunaan Power point dalam presentasi.	Mempersiapkan Power Point.
	6	Pemilihan data yang akan ditampilkan.	Cara menentukan pokok bahasan dalam tampilan, perumusan kalimat untuk tampilan.	Managemen data.
	7	Lay out dan desain.	Warna, typografi, dan lay out.	Menentukan lay out dan desain.
	8	Berbicara di depan kelas.1.	Presentasi Informasi	Latihan presentasi.
	9	Berbicara di depan kelas 2.	Mahasiswa mengajukan masing-masing satu hasil karya.	Presentasi test.
	10	Presentasi demonstrasi. 1.	Penjelasan tentang presentasi demonstrasi.	Mempersiapkan apa yang akan didemonstrasikan.
	11	.Presentasi demonstrasi 2.	Cara membuat deskripsi.	Membuat deskripsi barang yang akan didemonstrasikan.
	12	Presentasi demonstrasi 3	Penggunaan audio visual	Mempersiapkan Power Point
	13	Presentasi visualisasi.	Penyusunan visualisasi yang efektif. Pemilihan kata-kata panduan.	Pengecekan ulang.
	14	Pengecekan isi presentasi.	Memperlihatkan hasil karya.	Latihan presentasi.
15	Ujian menampilkan presentasi	Presentasi.	Presentasi akhir.	

関連科目	ビジネスインドネシア語・マレー語
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	Kedatangan dan aktivitas kelas 50% Tugas akhir 50%
----------	---

学生へのメッセージ	Kuliah dilaksanakan dengan metode workshop, sehingga mahasiswa harus berperan aktif. Selain mempresentasikan, mahasiswa juga ditugaskan untuk menilai presentasi mahasiswa lain.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	
----	--

科目名	フレッシュマン イングリッシュ	科目名(英文)	Freshman English
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 秀毅

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能(読む・書く・聞く・話すこと)への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト(筆記)」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			Students should study the content of the day's lesson
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Longman Dictionary of Contemporary English, 6th ed. (ロングマン現代英英辞典第6版)		ロングマン
2	Oxford Advanced Learner's Dictionary, 9th ed. (オックスフォード現代英英辞典第9版)		オックスフォード	
3				

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)、共通テスト(筆記)・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト(筆記)、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	語彙と文法は英語力を支える骨組みですからしっかり構築してください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	田中(秀)研究室(7号館4階) ※スチューデント・アワーは木曜5時限です。
----------	---------------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。			
到達目標	代表的なアメリカ文学作品を読みながら、「私の一冊」を探し当てる。			
授業方法と留意点	受講生による発表を中心に授業を進める。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は、翻訳を通して、アメリカ文学に慣れ親しむ。後期は、4年生と合同の授業で、Herman Melville の作品を読む。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席状況、積極性、発言内容、課題を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	「私の一冊」「私の作家」をいっしょに探しましょう。			
担当者の研究室等	7号館 3F 天野研究室			
備考				

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料調査、分析、プレゼンテーション、わかりやすい文章にまとめる、といった体験を通して、研究手法や考え方を学びます。</li> <li>グループやペアでの活動を通して、卒業後にも生かせる、人との関わり方のバリエーションを増やします。</li> </ul>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>多面的に物事を見る、もしくは見ようとする姿勢を身につける。</li> <li>想定する聴衆にとってわかりやすい情報の構成や見せ方を工夫できるようになる。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>実物を観察し、触れ、また何かを作る、といった作業を体験したあと、言語化する練習をします。</li> <li>新聞やニュースの記事（日本語・英語）、本などを用いて、調査・発表・議論をします。</li> </ul>																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 言語・文化、英術、コミュニケーションなどの分野に関する研究</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 授業で扱ったテーマについて、自分で直接現場に行って調べたり、インターネットとは違う情報源を探してみよう。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業での協働作業 30%</li> <li>プレゼンテーション 30%</li> <li>レポート 40%</li> </ul>																		
学生へのメッセージ	好奇心を覚醒させて、何でも見て、体験して、自分の感性を鍛えよう。																		
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																		
備考																			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	住吉 誠

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに、英語の語法や文法についてさらに深く学ぶ。基本的な文法事項も再確認しながら、英語の実証的な研究の一端に触れる。適時担当を決めて、英語の語法文法や英語の変化について発表を行う。4年次の卒業研究に向けてテーマ設定と資料収集を行う。																		
到達目標	本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や考え方を体得する。英語学に関する簡単な文献がある程度時間をかけながら理解できるようになる。英語の基本的な文法事項を整理確認する。																		
授業方法と留意点	文献の輪読や発表、プレゼンテーションを行う。そのような学びを通じて、4年次の卒業研究に向けてテーマ設定と資料収集を行う。日常使われる英語の表現や語法に関心をもつことが望まれる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ： 現代英語語法文法研究、英語の変容研究</p> <p>内容： 現代英語の語法や文法について学ぶ。英語の変化にも注意しながら、これまでの「定説」と違う例などがある場合は、なぜそのような形が使用されているのかといったことを考えながら、</p> <p>方法： 映画の英語や、インターネット上で使用される英語、新聞などの英語から、現代英語の実態を明らかにする実例を探して、討議する。またそのような作業を進めるうえで、基本的な英文法の事項を習得しておくことが前提であるので、毎回英語の文法語法について復習を兼ねたエクササイズを行う。</p> <p>事前・事後学習課題 配布された文献を読みこんでくる。また、グループでの発表のための準備。エクササイズの予習、復習など。総事前・事後学習課題は、発表の準備などを含め30時間とする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	発表や、レポートを総合的に判断する。																		
学生へのメッセージ	ちょっとした言葉の使い方に疑問を持ち、「なぜ」を追求する楽しさを実感してください。																		
担当者の研究室等	7号館4階 住吉 誠 研究室																		
備考																			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ

授業概要・目的	<p>Theme: Tourism and Hospitality</p> <p>We will look at on the job situations for cabin crew, airline ground staff and hotel staff, do tour-guiding and discuss the importance of good service.</p>																		
到達目標	<p>Students will attain better reading, and writing skills, with active study and increase speaking and listening skills in the class.</p>																		
授業方法と留意点	<p>Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(First term) We will concentrate on hospitality topics, and building up reading skills in the first term from newspaper articles and the textbook.</p> <p>Youtube will be used for study at home to build up vocabulary and listening skills. Thesis topics will be decided towards the end of this term, with research in the library encouraged.</p> <p>We will also study the play to be attended during the first term, looking at four skills - speaking, listening, reading and writing to build up those skills.</p> <p>(Second term) Academic writing skills will be studied to help students formulate their ideas on a thesis topic and tourism and travel will be the basis for weekly topics.</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English for International Tourism</td> <td>Iwonna Dubicka &amp; Margaret O'Keefe</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Language Note</td> <td>Richard McMahon</td> <td>languagenote.com</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Basic steps to writing research papers</td> <td>Kluge and Taylor</td> <td>Cengage</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Language Note	Richard McMahon	languagenote.com	3	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Language Note	Richard McMahon	languagenote.com																
3	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>Attendance, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and drama events.</p>																		
学生へのメッセージ	<p>English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on trying, and studying outside class on a daily basis.</p>																		
担当者の研究室等	<p>7号館5階 田浦研究室 (Building 7, 5th floor, Koala poster on the door)</p>																		
備考																			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 秀毅

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに、研究分野を選択します。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語学・言語学に関する専門知識（特に、統語論と意味論）を身につけ、専門的な考え方や研究手法に慣れる。</li> <li>2. 言語学的な視点から学校英文法をとらえ直す。</li> <li>3. レジュメを用いて効果的なプレゼンができる。</li> <li>4. データベースを活用して必要な研究論文の検索ができる。</li> <li>5. 英語語彙力を強化する。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<p>①専門知識の蓄積，②論理的思考力の強化，③表現力・伝達力の強化，の3本柱で授業を進める。</p> <p>留意点は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ①～③の知力のバランスを意識して取り組むこと。</li> <li>2. 指定箇所を相応の時間をかけて予習して授業に臨み、授業中のディスカッションを通じて疑問を解決できるようにすること。</li> <li>3. グループディスカッションでは積極的に発言すること。</li> <li>4. 積み上げ式に学習するので復習には十分時間をかけ、わからないことは早めに質問すること（ほかの受講生にも有益なのでできるだけ授業中に設ける質問時間を活用してほしい）。</li> </ol>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校英文法の洗い直し</li> <li>2. 英語学・言語学の専門知識と研究手法</li> <li>3. レジュメを用いたプレゼンスキル</li> <li>4. データベースを活用した研究論文の検索法</li> <li>5. 英単語の成り立ち</li> </ol> <p><b>【事前事後学習課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英単語を構成する要素についての理解を確認する。（単語小テスト）</li> <li>2. 指定された専門的な読み物を要約し、レジュメを用いて発表する。（プレゼン）</li> <li>3. 指定されたテーマについてレポートを作成する。（期末レポート）</li> </ol>																
関連科目	卒業研究 I, II																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>論文の教室</td> <td>戸田山和久</td> <td>NHK ブックス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>語彙力養成の総合英語</td> <td>Joe McKim</td> <td>英潮社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>【英英辞典がない人】Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary, 8th revised ed. (Collins コウビルド英英辞典)</td> <td></td> <td>Collins COBUILD</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	論文の教室	戸田山和久	NHK ブックス	2	語彙力養成の総合英語	Joe McKim	英潮社	3	【英英辞典がない人】Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary, 8th revised ed. (Collins コウビルド英英辞典)		Collins COBUILD
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	論文の教室	戸田山和久	NHK ブックス														
2	語彙力養成の総合英語	Joe McKim	英潮社														
3	【英英辞典がない人】Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary, 8th revised ed. (Collins コウビルド英英辞典)		Collins COBUILD														
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	評価の対象 期末レポート、プレゼン、単語小テスト、授業態度 評価に対する重み 期末レポート (50%)、プレゼン (20%)、単語小テスト (15%)、平常点 (15%)																
学生へのメッセージ	本科目は4年次の「卒業研究 I, II」の基礎になる科目です。土台が安定しなければ、充実した卒業研究ができないので真剣に取り組んでください。																
担当者の研究室等	田中 (秀) 研究室 (7号館4階) ※スチューデント・アワーは木曜5時限です。																
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の分析には英英辞典が不可欠なので、下記に示した英英辞典が電子辞書に入っていない人は教科書欄の英英辞典を購入すること。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。 <b>【英英辞典のリスト】</b> ・ロングマン現代英英辞典 (Longman Dictionary of Contemporary English) ・オックスフォード現代英英辞典 (Oxford Advanced Learner's Dictionary)</li> <li>2. 欠席は授業に出席しなかった場合 (公欠・忌引き・病欠を含む) のすべてを対象とする (ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること)。欠席回数については初回授業で説明するので必ず確認すること。欠席した場合には、次回の授業の前日までに課題や配布物について確認し、自分の責任で補完しておくこと。</li> <li>3. 遅刻は本人の授業理解度を低下させ、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。</li> </ol>																

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介

授業概要・目的	<p>アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業論文（研究レポート）を書くゼミです。各自、3年次終了時点で合計12000字(40字x30行で10ページ)以上のレポートを書くことを目標にします。4年次には、さらに研究を積み重ねて、これらのレポートを卒業論文に発展させることを目指します。</p> <p>各自の研究テーマは、アメリカ合衆国に関するものであれば幅広く選ぶことができます。過去のゼミ生に多いテーマは、映画や映画俳優について、音楽やミュージシャンについて、野球などのスポーツについてのものです。こうした一見カジュアルな題材を通じて、アメリカ社会の政治的、社会的、歴史的な問題点を考えるのが文化研究です。</p>																
到達目標	<p>前期のうちに、アメリカ合衆国についての基礎的な知識を増やし、各自の卒業研究の仮テーマを決め、資料を読み、文章を書く練習を始める。小さなレポートをいくつか積み重ね、合計で少なくとも6000字以上を提出する。</p>																
授業方法と留意点	<p>・最初の教週間は、全員で共通の資料を読み、アメリカ社会についての共通の理解事項を作ります。その後は、各自、自分のテーマに基づいた資料を手に入れ、読み、小さなレポートを書き、それをクラスに持ち寄って話し合う、という活動を繰り返します。</p> <p>・毎週文書をPCで作成し、学内ネットワークや電子メールを使ってやりとりをします。PCの基本操作は必須であり、自分のPCを所有しているか、好きな時に使えるPCを学内および自宅に確保しておく必要があります。</p>																
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b>          これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。          「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ボカホントス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』（1996）と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「白雪姫 — グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b>          資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	ゼミ活動への貢献(50%)+複数の小レポートの総量と質(50%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館3階鳥居研究室																
備考																	



科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 真由美

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	本授業を受けることによって、コミュニケーションとは何かを理論的に学ぶことができます。さらに、テキストを正確に読み、理解し、それについて多面的に考察し、自分の意見を述べるようになります。実際に何度も練習を行うことによって、コミュニケーション能力を高めることもできるようになります。																		
授業方法と留意点	毎回担当者を決めて発表をします。担当者だけでなく、参加者全員が予習範囲のテキストをしっかりと読んで理解して授業に臨んでください。コミュニケーションな方法だけでなく、その内容が大事です。日ごろから情報や知識の獲得を心がけてください。英語の文献も読みますので予習をしてきてください。毎回、スピーチをしてもらいますので準備をしてきてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b>          コミュニケーションの取り方を理論的・実践的に学びます。最も大切なのは、相手の気持ちに配慮し、伝えたいことを正しくきっちり伝えることです。          そのためには何度も練習しなければなりません。          そこで、読んで考え、聞いて話すことを繰り返し行うことが決定的に重要になります。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b>          文献・インターネット等で内容を調べてくる。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>コミュニケーション学入門</td> <td>植村 勝彦他</td> <td>ナカニシヤ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	コミュニケーション学入門	植村 勝彦他	ナカニシヤ出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	コミュニケーション学入門	植村 勝彦他	ナカニシヤ出版																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	研究や授業に取り組む姿勢を重視して、総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	失敗しながらも楽しくコミュニケーションを学びましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室																		
備考																			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大原 関 一浩

授業概要・目的	<p>「どうしたら異なるバックグラウンドの人たちとうまく暮らしていけるか?」「女性も男性も働きやすい社会にするにはどうしたらよいか?」日本でもこれらの課題について取り組まざるを得ない状況になりました。アメリカ合衆国は、「E Pluribus Unum (ラテン語: 多数から一つへ)」という建国の理念が示すとおり、多様性を認めながら国として一つのまとまりをめざしてきましたが、歴史をふりかえれば、現在に至るまで外国人、マイノリティ、女性に対する差別や偏見は形を変えて存在し、多文化共存や男女平等という国家目標に多くの課題を突きつけてきました。そうしたアメリカの取り組み(と失敗)をふりかえれば、多様化する日本の社会でよりよく生きるヒントが見つかるかもしれません。アメリカにも日本にもあるような課題について考え、意見交換できる「場」になればと思います。</p>																		
到達目標	<p>① アメリカの社会と文化、特に、ジェンダーやエスニシティに関する諸問題についての理解を深め、批判的に物事を理解できるようになる。 ② 基礎的なリサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションの力をつける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>① 毎日、一定の時間、読んだもの・考えたことについて「書く」ことが必要になる。 ② 協調性と積極性をもって、活動に参加すること。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[授業テーマ・内容・方法] 文献の輪読、発表、議論を中心に進める。</p> <p>[事前事後学習課題] ① 各自の役目(質問の用意、議論の司会、規定どおりのレポート作成)を果たすこと。 ② 研究ノート(初回に説明)は規定の分量を、定期的を書くこと。 課題、発表の準備、レポートの作成など合計約30時間。</p> <p>[予定] アメリカ社会文化に関するトピックを1つ選び、それについて調べ、プレゼンテーションを各自1回してもらい予定。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新時代アメリカ社会を知るための60章</td> <td></td> <td>明石書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新時代アメリカ社会を知るための60章		明石書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新時代アメリカ社会を知るための60章		明石書店																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業への貢献度、課題やレポートなどを総合して評価																		
学生へのメッセージ	このゼミは多様な見方に価値を置くので、「こんなことを言ったら笑われる」という心配はないです。お互いの話に耳を傾け、必要以上に批判的にならず、助け合おうという姿勢を重視します。																		
担当者の研究室等	大原関研究室7号館5階																		
備考																			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家口 美智子

授業概要・目的	<p>時事問題に詳しくなり、自分の意見を自分の言葉で論理的に言える人材となるために、毎回意見発表をしてもらいます。また英文を覚え、新聞を読むことにより、TOEIC のスコアをアップを目指します。自分の実力を上げるには、時間をたっぷり取って自分と向き合い、勉強することが大事です。求める人には担当教員も全力で与えられるものは与えたいと思います。</p>																		
到達目標	<p>*論理的思考を身に付けることで、どんなトピックをふられても論理的に話せるようになる。          *TOEIC のスコアを最低 100 はアップさせる。          *激動する世界・日本社会の中でどんな人生を歩みたいのかを決める。</p>																		
授業方法と留意点	<p>1. ①専門知識の蓄積と②論理的思考力の強化の 2 本柱で授業を進めるので知力のバランスを意識して取り組むこと。          2. グループディスカッションでは積極的に発言すること。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b></p> <p>以下の要領で授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近況報告</li> <li>2. 英文暗誦</li> <li>3. 時事事項報告</li> <li>4. 意見発表</li> <li>5. 新聞講読</li> <li>6. グループディスカッション</li> </ol> <p><b>【事前事後学習課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前に相応の時間をかけて予習をする。</li> <li>2. 指定されたテーマについてレポートを作成し、提出する。</li> </ol>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>評価の対象 レポート, 平常点          評価に対する重み 平常点 (70%), レポート(30%)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>*将来何がしたいのかを考え、自分の人生の設計を立てましょう。          *この1年が人生で一番大事な時期となります。目標を立ててしっかり達成しましょう。</p>																		
担当者の研究室等	7号館 4F																		
備考	授業の事前・事後に関わる学習時間は 1.5 時間程度である。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	しっかりした卒業研究レポートを書くことができるよう、参考文献を知り、読み、まとめ、レジユメの作るなどのノウハウを身につけるための授業です。		
到達目標	参考文献を調べ、それを読み、カードやノートを取り、レジユメを作れるようになる。		
授業方法と留意点	前期はゼミ生全員で共通課題図書を読み、レジユメを作ります。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 高階秀爾『ルネサンス夜話』を読み、レジユメを作る練習をする。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。</p>		
関連科目	歴史系科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	ルネサンス夜話	高階秀爾
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ゼミ活動への貢献(50%)+3年次終了時点までの小レポートの総量と質(50%)		
学生へのメッセージ	とにかく読書量を増やしましょう。		
担当者の研究室等	7号館5階 (篠原研究室)		
備考			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	<p>グローバリゼーションと移民をキーワードに、基本文献を輪読しつつ、テーマをめぐる基礎知識や共通認識を培う。その過程で、関心を持ったテーマについてさらに詳しい先行研究に当たり、考察を文章化する。 必要な資料の検索・収集方法、理論書の読解、レジメの書き方、論文執筆の基本ルールなどを指導する。</p>																		
到達目標	ゼミの基本文献を精読していきながら、卒業研究レポートで取り組みたいテーマを見出す。																		
授業方法と留意点	毎回担当者を決めて発表をする。全員が資料を熟読したうえでゼミに臨むこと。発表に傾聴し、的確な質問や批判を自分の言葉で伝える力を養いましょう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> グローバリゼーション・移民・多文化社会 基本文献を輪読し、基礎知識と共通認識を養う。レジメの作成になれると同時に、それをもとに議論を展開できるようになることが重要である。ときに学外での研修を行うこともある。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 文献を熟読し、そこから疑問点や論点を抽出し、さらに深く調べたり自分の考えを練ったりする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>移動から場所を問う：現代移民研究の課題</td> <td>伊豫谷登士翁</td> <td>有信堂高文社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	移動から場所を問う：現代移民研究の課題	伊豫谷登士翁	有信堂高文社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	移動から場所を問う：現代移民研究の課題	伊豫谷登士翁	有信堂高文社																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グローバリゼーションと社会学：モダニティ・グローバリゼーション・社会的公正</td> <td>宮島喬編</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>揺らぐ世界</td> <td>立花隆</td> <td>ちくまプリマー新書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>揺れる大欧州</td> <td>アンソニー・ギデンズ</td> <td>岩波書店</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	グローバリゼーションと社会学：モダニティ・グローバリゼーション・社会的公正	宮島喬編	ミネルヴァ書房	2	揺らぐ世界	立花隆	ちくまプリマー新書	3	揺れる大欧州	アンソニー・ギデンズ	岩波書店
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	グローバリゼーションと社会学：モダニティ・グローバリゼーション・社会的公正	宮島喬編	ミネルヴァ書房																
2	揺らぐ世界	立花隆	ちくまプリマー新書																
3	揺れる大欧州	アンソニー・ギデンズ	岩波書店																
評価方法 (基準)	発表への取り組みと内容、議論への参加等に基づき、総合的に評価する。 専攻外国語の力を伸ばし続けることは重要であるが、つねに日本語での読解力と論理的な文章構成力を問う。																		
学生へのメッセージ	日本語と専攻言語の両言語の力を伸ばし続けましょう。																		
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																		
備考	授業中に出された課題に取り組むのに要す十分な時間を事前事後学習に充てること。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達

授業概要・目的	本演習は、卒業研究を進めていく上での準備段階と位置づけている。自分で「調べる」という営みを始動することができるように演習を通じて指導を行っていく。前半は文化人類学者による調査に関する参考文献を講読する。文献の講読を通じて、人類学的なものの見方について学ぶ。後半は受講者自身による調査主題の設定に当てる。相互のディスカッションを通じて人類学的な「調べる」営みについて考えていき、卒業研究のための調査を指導することを目指す。			
到達目標	適切な調査テーマを設定するとともに、そのアプローチの仕方を知る。			
授業方法と留意点	前半は文化人類学に関する文献講読を行う。毎回の授業では文献に関する内容の理解を問う。後半はディスカッション等に当てる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「人類学的に調べる」が本演習の主題である。文献講読と相互のディスカッションが中心になる。発表担当者は文献の内容について30分程度で報告をする。コメント担当者は5分程度のコメントが求められる。聴衆は発表についての質問をすることが求められる。いずれの役割を担うにしても、ゼミの時間を有意義に使うために、授業の前後には指定された文献を精読しておくこと。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	演習への出席、発言、課題、口頭発表に基づいて行う。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館5階(上田研究室)			
備考				

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央

授業概要・目的	2年次までに培った基礎力をもとに、自身が取り組むテーマを検討する。このゼミにおいては、主に現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象や社会現象を取り上げることとする。具体的には、担当教員の指導のもと、本格的な文献検索や論文読解、資料調査、現地調査実習などを行い、研究方法や考え方を体得する。																		
到達目標	研究に対する考え方の整理を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。 また、日頃のゼミ活動を通してゼミ内外の人びとと接することを通じ、「気づき」「目くばり」「心くばり」ができる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	授業では積極的に発言を行い、切磋琢磨できるような刺激的な環境を作っていくよう努力すること。 なお、7月に行われる4年ゼミ生による「卒業論文中間発表会」への参加を必須としている。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b></p> <p>①研究方法論（研究テーマの設定法、文献資料の収集法、学術研究論文の構成や論理、研究発表や研究討論の進め方等）についての解説を行う。</p> <p>②受講生各自が関心をもつテーマについて、それがテーマとなり得るか否かを全員で討論し、各自がテーマの絞り込み作業を行う。</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b></p> <p>自身の関心のあるテーマについて、事前学習をすること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「研究」を進めるために—研究資料ガイド2016—</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>浦野ゼミの手引き—「卒業論文」を仕上げるまでの過程（タイムスケジュール）—</td> <td></td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2016—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	浦野ゼミの手引き—「卒業論文」を仕上げるまでの過程（タイムスケジュール）—		摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2016—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	浦野ゼミの手引き—「卒業論文」を仕上げるまでの過程（タイムスケジュール）—		摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3																			
評価方法（基準）	ゼミでは、積極性が特に重視されます。そこで、成績評価については、討論への積極的な参加状況、レポートの内容等により、総合的に判断します。 なお、1回目の授業で、今後のスケジュールや参考文献資料を記した小冊子（「参考書」欄に記載）を配布し、ガイダンスを行います。																		
学生へのメッセージ	「研究する」という行為は、実はとてもワクワクし、楽しいものです。大学生であることを自覚し、「研究」に勤めましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階（浦野研究室）																		
備考																			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 真佐夫

授業概要・目的	どのように研究テーマを設定するかについて指導する。研究方法、資料収集方法についても指導する。以上の指導に基づき、各自でテーマを決め発表を行う。		
到達目標	問題点を発見し、解決していく能力の獲得。		
授業方法と留意点	演習では、各自が作業を行うことが多い点に留意しておくように。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業の中で指示された作業を必ず行うこと。特に発表の際には事前に充分準備をすること。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点、発表による総合評価		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階 (山口研究室)		
備考	指示された予習・復習・発表の準備には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。		



科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦

授業概要・目的	日本の文化や歴史を中心に、各自テーマを設定し、報告、議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	前半は各自がテーマを複数考え、みなでディスカッションしながらテーマを絞り込む。また、文献の検索方法や研究の方法論について学ぶ。後半は絞り込んだテーマについて調べ、レポートにまとめ、報告、議論する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<b>【授業テーマ】</b> 歴史、文化とは何か 文献の検索と活用方法 テーマ設定 <b>【事前事後学習】</b> 自分の発表時はもちろん、他者が発表する前に報告者のテーマに関する文献を読み議論に備える。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	発表内容や発言、レポートをもとに評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	前期では、担当教員の指導のもと社会貢献活動などの学外活動による課題発見対処能力を高める。その活動の中で、社会問題を提起する。		
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。		
授業方法と留意点	このゼミは、「夢」を持ちそれに向かって全力投球したい学生のゼミであることから様々な課題を自分自身で課すことになる。課題発見解決能力の開発や、現場ですぐに役立つ実践力を高めるプログラムを実践する。また、幼稚園、小学校、中学校の教員を目指す学生には教員採用試験の過去問題や面接対策の勉強会を行う。OB・先輩・外国人との交流が多く、年間3～4回のゼミ合宿に必ず参加することを強く希望する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> 社会に貢献できる活動を実践することから、学外での活動が多い。		
	<p>【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べる。</p>		
	<p>計画に基づいた活動、活動発表、報告書を総合的に評価する。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	活動参加、協調性、企画力、コミュニケーション能力、発表力を総合的に判断する。		
学生へのメッセージ	一歩前進ではなく、半歩前進でも、前に進んだことになる。小さな成功体験の積み重ねが、エネルギーになることを実感すると、挑戦することが楽しくなります。		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室		
備考			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一

授業概要・目的	<p>テーマ「現代社会と人間」 現代社会の様々な問題を取り上げる。教科書を中心として、さらに参考資料を読み合わせ、ディスカッションやディベートを行うことを通じて、問題の本質に迫っていくことを目指す。 これと並行して、卒業研究レポートの準備を行う。テーマの選定、文献の蒐集と読解、またそれに必要なスキルを身につける。</p>																
到達目標	<p>現代社会の問題やそこで生きる人間のあり方について、自分なりに問題意識を涵養する。 人前で分かりやすく自分の意見を発表する力を身につける。 必要な文献の蒐集と読解をする。</p>																
授業方法と留意点	<p>ゼミ形式での発表とディスカッションを行うので積極的な参加が求められる。テーマ自体は幅広いものになるので、特にどのような問題を取り上げるかは、参加者と相談の上、決定する。</p> <p>卒業研究レポートについては、ゼミでの勉強を踏まえて、各自でテーマを決めてもらうが、個別に課せられた課題はしっかりとこなすことが必要。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【テーマ・内容】</b> 「現代社会と人間」 人間と社会そのものに対する近代的な見方はもはや成り立たなくなっているのが現代社会の特徴であろう。そのような現代社会の様々な問題を取り上げる。例えば、科学技術に対する信頼の崩壊（原発事故）、経済成長と人口の増加を前提に組み立てられてきた社会の危機（低成長と人口減少）、人々の価値観や倫理観の変化（権威に対する不信任感、無差別テロや理由なき殺人）、等々。</p> <p><b>【方法】</b> 資料を皆で読み合わせ、ディスカッションやディベートをする。また、その結果をまとめたレポートを書いてもらう。 個別に卒業研究レポートの準備を進める。文献の蒐集と発表をする。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 発表の準備、発表後のレポート作成 卒業研究レポートの文献蒐集と読解。さらにテーマの発表の準備 およそ 30 時間。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>レポート・論文の書き方入門 第三版</td> <td>河野哲也</td> <td>慶應義塾大学出版会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>これから「正義」の話をしよう</td> <td>サンデル</td> <td>早川書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	レポート・論文の書き方入門 第三版	河野哲也	慶應義塾大学出版会	2	これから「正義」の話をしよう	サンデル	早川書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	レポート・論文の書き方入門 第三版	河野哲也	慶應義塾大学出版会														
2	これから「正義」の話をしよう	サンデル	早川書房														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	参加[貢献]度、発表[プレゼンテーション]、レポートなどに基づいて評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館4階																
備考	事前事後学習におよそ 60 時間必要。																

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩間 香

授業概要・目的	文化・美術をテーマに、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得する。																		
到達目標	文化・美術に関する基礎的な知識を身につける。文献探索・調査の方法を身につける。正しい日本語での表現や、社会でのマナーを身につける。																		
授業方法と留意点	輪読、発表、討論を行う。絵画鑑賞や実地見学を随時行う。見学では入場料・交通費などの実費が必要である。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b></p> <p>&lt;前半&gt; 美術・文化に関する本・論文を輪読し討論する。本・論文は学生の興味を重視し、日本・海外の美術、工芸、建築、世界遺産、祭り、町おこし、博物館・美術館などの中から選ぶ。 見学・体験などを行う。小レポートで日本語の添削を行う。</p> <p>&lt;後半&gt; 美術・文化に関する本・論文を輪読し討論し、内容をまとめる。各自の興味に従ってテーマを設定し、研究発表を行い討論する。発表では分かりやすく効果的なレジメを作る。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 輪読では事前にテーマや分からない語句について調べておく。見学先をインターネットなどで調べておく。(90分) 事後は課されたレポートを資料にもとづいて作成する。(90分)</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ゼミへの参加状況と小レポート																		
学生へのメッセージ	積極的に展覧会、博物館、美術館、寺院、神社などに出かけ美術や文化に触れてください。また図書館にも美術に関するおもしろい本がたくさんあります。ゼミが充実し、楽しい学習の場になるかどうかは、皆さん取り組み方で大きく変わります。ぜひ積極的にゼミ活動に参加してください。またゼミは小さな社会です。思いやりや助け合いも実践しましょう。																		
担当者の研究室等	7号館5階 岩間研究室																		
備考																			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的	<p><b>【授業概要・目的・到達目標】</b>          外国人を対象にした「外国語としての日本語教育」について考察します。          単に「ひらがなをどのように教えるか」というような教授法だけでなく、広い意味の「日本語教育」としてとらえています。例えば次のようなことも含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*日本語学習者の言語習得</li> <li>*日本語の語用例からの日本語の文法や語彙の分析</li> <li>*外国人との接触場面での異文化間コミュニケーション</li> <li>*海外における日本語教育</li> <li>*在住外国人や留学生に関すること 等々です。</li> </ul> <p>海外や日本で起こっている様々な動きを、「日本語・日本語教育」そして自分自身に関連づけて考えることができるようになることを目指します。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>*専門的な知識を得る。</li> <li>*文献を批判的に読んで考察し、自分の意見をまとめて表現することができる。</li> <li>*テーマについて、レジュメを作成し、プレゼンテーションができる。</li> <li>*アカデミックライティングのスキルを身につける。</li> <li>*ゼミの活動を通して、コミュニケーション能力を向上させる。</li> <li>*卒業研究のテーマの設定を行う。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p><b>【授業方法と留意点】</b>          前半は、教員が指定した日本語・日本語教育・異文化間コミュニケーションをテーマにした文献を読み、知識を増やし、内容についてディスカッションを行う。更に考察を深めレポートにまとめる。後半は各自が設定したテーマについての発表および内容についてディスカッションを行う。授業後に考察を深め、レポートにまとめ、4年時の卒業研究につなげていく。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b>          毎回担当を決め、文献を読み、レジュメを作って発表する。          発表者は、資料収集、情報収集をしてレジュメを作成する。          発表後は、内容についてディスカッションを行う。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b>          授業の前に文献を読み、予習シートをまとめる。          授業後に考察した内容についてレポートを書く。          ゼミ生全員のレポートをお互いにチェックしてコメントを書く。</p>																
関連科目	「日本語教授法」「日本語学」「日本語教育実習演習」																
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>文献資料、プリントを配布する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	文献資料、プリントを配布する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	文献資料、プリントを配布する																
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業で指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業で指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	授業で指示する																
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度・発表・レポート・その他課題等によって総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	友達とのコミュニケーション・外国語学習・海外留学等々、様々なこれらの基になっているのは言語（日本語）です。また、大学在学中や社会人になってから、外国人（日本語を母語としない人）に日本語や日本文化について聞かれる場面はあると思います。このゼミでは、日本語は日本語教育について、皆で一緒に深く考えてみたいと思います。																
担当者の研究室等	門脇研究室（7号館4階）																
備考																	

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊

授業概要・目的	《世界の中の日本語・日本文化》 「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。 各自が取り上げたテーマを通して、関心を広げ、また深めることを目的とする。		
到達目標	文献を講読して理解し、考察する力を身につける。		
授業方法と留意点	各自が関心あるテーマに基づいて文献を取り上げ、発表する。 互いに意見を出し、議論する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。 およそ隔週で報告を行い、毎週他の学生の報告について積極的な発言が求められる。 十分に報告準備を行うこと。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点 (報告内容、参加態度、課題) 100%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階		
備考	事前事後学習時間 計60時間		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	方法論としての社会史の概要を理解し、自ら問題を発見する。																		
授業方法と留意点	前半は、西洋社会史関連の文献を読みながら、方法論について学んでいく。新たな史料として、小説や伝説、風刺画などの「読み解き」もおこなう。 後半は、文献収集や研究の進め方、発表や討論の仕方についてガイダンスをおこなった後、各自、社会史関連のテーマを一つ選び、関連文献を収集・整理し発表をおこなう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<b>【授業テーマ・内容・方法】</b> (1) 西洋史学の方法論、(2) 社会史とは何か、(3) 図像史料の可能性、(4) テーマ別討論  <b>【事前事後学習課題】</b> 授業中に適宜指示する。事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。																		
関連科目	文化演習 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	発表内容 (テーマの掘り下げ方・発表の仕方など)、討論 (積極的に発言しているかなど)、レポート (年度末に提出) を総合的に評価する。西洋の歴史 (世界史) に関する予備知識は必ずしも必要ではない。																		
学生へのメッセージ	夢中になって取り組める研究課題を見つけてください。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 林田研究室																		
備考																			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章

授業概要・目的	担当教員の指導のもと、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査等を行い、研究に必要な手法や考え方を体得します。		
到達目標	自分の関心のあるテーマについて文献を調べ、それを整理し、発表することができるようになる。		
授業方法と留意点	「ことば」に関する資料を読みながら、基本的な知識を身につけていく。その際、全体で意見を交換・共有しながら、各トピックに関する理解を深めていく。最終的に、自分の最も関心のあるテーマを絞りこみ、卒業研究へとつなげていく。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語学演習 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	出席状況、積極性、発言内容、課題を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	これから2年間、一緒に頑張っていきましょう。		
担当者の研究室等	後藤研究室 (7号館5階)		
備考			



科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。		
到達目標	グローバルな視点で物事を考える力を養うとともに、その礎となる国際教養を身につけることを目標とします。		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞やニュースの記事（英語）などを用いて、調査・発表・議論を軸とした演習形式で行います。また、学術的な研究とは何か、その特徴についても触れていきます。</li> <li>・積極的かつ協調的な取り組みを重視します。</li> </ul>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 言語、文化、国際ビジネスなどの分野に関する研究を演習形式で進めていきます。グローバルな視点で物事を考える力を養うとともに、そのテーマについて発表やグループディスカッションも行います。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 資料の収集、要点の整理など。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢、発表・プレゼンテーション、課題（レポート）などに基づいて総合的に評価します。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	明朗で、行動力と協調性のある学生の育成を目指します。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー

授業概要・目的	The purpose of this class is to choose a topic related to Canada that you are passionate about and deepen your understanding through reading and research. This is an ideal course for students currently studying abroad in Canada or who plan on doing so in the future.		
到達目標			
授業方法と留意点	The material will be presented through lecture, readings, and occasionally through video and audio. Students are expected to keep a notebook. There will be opportunity for class discussion and group work.		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	The focus of this seminar is Canada. Students will learn about contemporary Canadian society as well as important historical events and how they have shaped the country. Students will study and develop their research skills and will be expected to write and present regular reports.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	Tests, assignments, attendance, attitude.		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	Please bring a dictionary.		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵

授業概要・目的	<p>本を読むとき、映画を観るとき、人と話すとき、そのベースとなる背景知識を持っているか否かで話の理解度が大きく変わってきます。このゼミでは、英語圏に共通する「知っておくべき事柄」を学び、文化知識の土台作りをします。取り扱う分野は、文学、ことわざ&amp;イディオム、神話、音楽、芸術、建築物などです。</p> <p>また、ゼミとして多読活動に取り組みます。最初は自力で読める易しめの本を紹介しますが、後半には、映画化された児童文学作品を読んだり、実体験に基づくライフストーリーを読んだりして、豊かな表現に触れてもらうとともに、「今まで考えたこともなかった」ような、外の世界にも目を向けてもらいます。</p>		
到達目標	与えられたテーマに関して調べ、それをレジュメにまとめて発表できるようになることを目指します。また、多読は初心者で5万語、経験者で10万語を目標とします。		
授業方法と留意点	初日に決めたスケジュールに沿って、各自が当たったテーマを調べ、レジュメを作成してきます。授業中は発表と理解度チェックに充てます。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初日に一学期間のテーマと担当を決めます。また、レジュメのサンプルを見せます。次回からは、各人がスケジュールに沿って下調べをしレジュメを作成してきます。余力があるようなら、全員で読む本も一冊指定するかもしれません。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	課題準備、発表、理解度などを総合的に評価します。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階松田研究室		
備考			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	英書や和書の読解を通して、物事を深く理解し、自分の意見を表現できるようになることを目標とする。																		
授業方法と留意点	主な活動として、英書を読み、授業中に理解度を確認します。他の活動として、英語の技能を向上させるための練習や、西洋文化の理解を深めるための活動などを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 英語で本を読む。</p> <p><b>【内容・方法】</b> 共通の英書の指定部分を全員が事前に読み、授業中は互いに理解度を確認しあう。卒業研究の準備として、資料調査の実習を行う。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 授業中に適宜指示する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業初回の話し合いで決定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業初回の話し合いで決定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業初回の話し合いで決定する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業にのぞむ姿勢や態度、発表内容 (発表の仕方や積極性など)、レポート等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	前学習時間：2時間、事後学習時間：2時間を要する。																		
担当者の研究室等	皆本研究室																		
備考																			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋

授業概要・目的	国内外の映画・ドラマ・文学作品を英語で読解し、自分たちでアレンジを加えながらスクリプトを作成し、実際に演じる/演出して、オリジナルの英語ムービーを作成する。インプット（リーディング・リスニング）・アウトプット（スピーキング・ライティング）連動型の授業を行う。また4年次の卒業研究で扱うテーマを設定する。		
到達目標	ただ漠然と対象作品を英語を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりするのではなく、自分たちが演じる/演出することを想定しながら、英文をインプット・アウトプットできるようになる。		
授業方法と留意点	グループでの作業が多くなるので、協調性と責任感を持って、授業に臨むこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> クラスメイトと協同で、30分程度の英語ムービーを作成する。</p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b> 毎授業で目標を設定し、その目標を達成するための事前・事後学習を行う。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ショートムービー 50% グループワーク 30% 課題 20%		
学生へのメッセージ	グループワークが基本になります。協調性を持って、ゼミメンバーとクオリティーの高い作品を完成させましょう！		
担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的	いままで培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択し、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を体得する。																		
到達目標	異文化への理解を深めることは外国語学部の学生にとって大変重要なことである。ことわざと慣用句はそれぞれの国で昔から使われてきたものなので、その国の風俗、習慣、物の見方、考え方などをよく反映するネイティブ的な表現である。このゼミでは、日本語と中国語あるいは他言語のことわざ、慣用句や慣用表現の発想・特徴などを中心に比較研究を行うことによって、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養うのを目指す。同時に研究能力を育成する。																		
授業方法と留意点	授業では、各自テーマを決め、収集した資料などを持ち寄り、それらをパソコンディスプレイで提示しながら他のゼミ生や指導教員に説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】：ことわざと慣用句の比較・対照研究</p> <p>各授業において、前回はある言語のテーマを決め、意味と由来を調査した資料を提示する。次回は前テーマをめぐって他言語による検討をする。このローテーションで進む。</p> <p>【事前事後学習課題】 指示に従って、文献・インターネット等で内容を調べて来る。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「言いたいこと」から引ける慣用句・ことわざ・四字熟語辞典</td> <td>西谷裕子</td> <td>東京堂出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日英ことわざの比較文化</td> <td>奥津文夫</td> <td>大修館書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>よく似た英語と日本語の慣用句集</td> <td>名和田進</td> <td>文芸館</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「言いたいこと」から引ける慣用句・ことわざ・四字熟語辞典	西谷裕子	東京堂出版	2	日英ことわざの比較文化	奥津文夫	大修館書店	3	よく似た英語と日本語の慣用句集	名和田進	文芸館
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「言いたいこと」から引ける慣用句・ことわざ・四字熟語辞典	西谷裕子	東京堂出版																
2	日英ことわざの比較文化	奥津文夫	大修館書店																
3	よく似た英語と日本語の慣用句集	名和田進	文芸館																
評価方法 (基準)	出席、ゼミでの発言、提出物の内容などを総合して評価する。																		
学生へのメッセージ	もっと知りたいという好奇心を持ちましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)																		
備考																			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹

授業概要・目的	Web には、解説つきの写真や動画を誰もが投稿できるサイトがある (Google マップや YouTube など)。当ゼミでは手元の写真のうち公開可能なものに日本語や外国語で案内文を作成しそれを投稿する活動を行う。授業では、各自が持ち寄った日本語文の内容や外国語への翻訳が適切かどうかを全員で検討しながら完成度を高める。撮影地は通常自由だが、ゼミによる観光地取材も適宜行う。			
到達目標	自ら作成した観光案内をわかりやすい外国語に翻訳し、さらにそれを発表する能力を身につける。京都、大阪、奈良など関西の地理や歴史に対する知識を深めることも目指す。			
授業方法と留意点	個人またはグループでテーマを決め、予め書籍や Web などで調査したうえ現地へ行って写真やビデオの撮影を行う。さらにそれを素材として観光案内のための原稿を作成して授業で発表、必要な修正を加えて動画に編集したり Web サイトに登録するなどの作業を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	前期は主として写真を動画に仕立ててそれにナレーションを付ける形式の観光案内ビデオを作成する。			
関連科目	日中観光文化と通訳法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	発表・レポートによる総合評価			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	中西研究室 (7 号館 3 階)			
備考				

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬戸 宏

授業概要・目的	2年次につちかった関心やテーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。今年度は上海に焦点を絞って勉強します。			
到達目標	レポートの書き方、発表の仕方、資料調査の方法などが習得できます。また、上海を中心とした現代中国の動きが理解できます。			
授業方法と留意点	毎回、教科書の内容を分担してレポートしてもらいます。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 上海をめぐる諸問題 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	上海 都市生活の現代史	岩間一弘、金野純、朱珉、高綱博文	風響社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席状況・レポート提出の有無および担当時の発表内容等によって総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	いっしょに中国、上海に対する理解を深めましょう。			
担当者の研究室等	7号館3階瀬戸研究室			
備考				



科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小川 豊生

授業概要・目的	2年次に培った基礎力を踏まえて、各自の興味・関心をもとに研究分野を選択する。文献探索や論文講読、資料収集、現地調査等を行い、研究方法や考え方、現地での調査法を習得する。古代から現代にわたる日本の文化を中心として、諸外国との比較を通じて、そのさまざまな特質をあきらかにすることが目的であるが、同時に、発表資料の作成や発表の仕方、発表後のレポート作成など、実践的なリテラシーの習得も大切な目標である。																
到達目標	課題発見能力、発表力、聞く力、文献探求能力、書く力を総合的に養成する。																
授業方法と留意点	オリエンテーション、図書館の利用と文献検索、文献目録の作成方法、地形図に関する基礎作業、統計資料の収集法、統計資料の分析、グラフ・表の作成法、論文・レポートのまとめ方、文献研究発表などについて解説していく。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 日本文化をめぐる諸問題</p> <p>【内容・方法】 各テーマに関する文献などを読解し、問題点や研究方法を考える。大まかには以下の順序で行う。</p> <p>導入 研究の方法と目的について 発表テーマの設定 全員の発表と質疑応答 まとめのレポート作成</p> <p>【事前学習】 ・文献・インターネット等で配布資料について重要語や内容について調べてくる。 ・発表担当に向けて準備する。</p> <p>【事後学習】 ・各自の発表内容の推敲・錬成。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	出席、取り組む姿勢、発表内容などにより、総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	冷たい頭と熱いハート、この二つを演習を通じて鍛錬しよう。																
担当者の研究室等	7号館4階 (小川研究室)																
備考	事前事後学習時間の目安：資料探索・整理に50時間。その他10時間。																

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞

授業概要・目的	舞台芸術（演劇、ミュージカル、サーカス、ダンスなど）の映像資料の鑑賞や、作品のテキスト及び関連資料の輪読を通して、さまざまな舞台芸術に対する理解を深める。また、研究対象とする作品や劇団が生まれた社会的・文化的背景に関する知識の習得も目指す。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台芸術について、基礎的な知識を習得する。</li> <li>・卒業研究のテーマを定める。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業では、積極的に議論に参加すること。</li> <li>・実際に舞台を観に行く可能性がある。</li> </ul>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 舞台芸術研究 (Performing Arts Studies)</p> <p><b>【内容・方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台芸術作品あるいは劇団などについてリサーチし、発表及び小レポートとしてまとめる。</li> <li>・プレゼンテーションや議論を重ねることで、卒業研究のテーマを定め、レポートとしてまとめる。</li> </ul> <p><b>【事前・事後学習課題】</b> プレゼンテーションやレポートの準備など。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点（授業に取り組む姿勢など）、レポート、プレゼンテーションを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	日頃から舞台芸術に対する関心を持つようにして下さい。そして受講者が主体となって、楽しく活気あるゼミを作っていきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室																		
備考																			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。		
到達目標	代表的なアメリカ文学作品を読みながら、「私の一冊」を探し当てる。		
授業方法と留意点	受講生による発表を中心に授業を進める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は、翻訳を通して、アメリカ文学に慣れ親しむ。後期は、4年生と合同の授業で、Herman Melville の作品を読む。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	出席状況、積極性、発言内容、課題を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	「私の一冊」「私の作家」をいっしょに探しましょう。		
担当者の研究室等	7号館3F 天野研究室		
備考			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料調査、分析、プレゼンテーション、わかりやすい文章にまとめる、といった体験を通して、研究手法や考え方を学びます。</li> <li>グループやペアでの活動を通して、卒業後にも生かせる、人との関わり方のバリエーションを増やします。</li> </ul>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>多面的に物事を見る、もしくは見ようとする姿勢を身につける。</li> <li>想定する聴衆にとってわかりやすい情報の構成や見せ方を工夫できるようになる。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>実物を観察し、触れ、また何かを作る、といった作業を体験したあと、言語化する練習をします。</li> <li>新聞やニュースの記事(日本語・英語)、本などを用いて、調査・発表・議論をします。</li> </ul>																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 言語・文化、芸術、コミュニケーションなどの分野に関する研究</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 授業で扱ったテーマについて、自分で直接現場に行って調べたり、インターネットとは違う情報源を探してみよう。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業での協働作業 30%</li> <li>プレゼンテーション 30%</li> <li>レポート 40%</li> </ul>																		
学生へのメッセージ	好奇心を覚醒させて、何でも見て、体験して、自分の感性を鍛えよう。																		
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																		
備考																			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉 誠

授業概要・目的	前期に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに、英語の語法や文法についてさらに深く学ぶ。基本的な文法事項も再確認しながら、英語の実証的な研究の一端に触れる。適時担当を決めて、英語の語法文法や英語の変化について発表を行う。4年次の卒業研究に向けてテーマ設定と資料収集を行う。																		
到達目標	本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や考え方を体得する。英語学に関する簡単な文献がある程度時間をかけながら理解できるようになる。英語の基本的な文法事項を整理確認する。																		
授業方法と留意点	文献の輪読や発表、プレゼンテーションを行う。そのような学びを通じて、4年次の卒業研究に向けてテーマ設定と資料収集を行う。日常使われる英語の表現や語法に関心をもつことが望まれる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ： 現代英語語法文法研究、英語の変容研究</p> <p>内容： 現代英語の語法や文法について学ぶ。英語の変化にも注意しながら、これまでの「定説」と違う例などがある場合は、なぜそのような形が使用されているのかといったことを考えながら、</p> <p>方法： 映画の英語や、インターネット上で使用される英語、新聞などの英語から、現代英語の実態を明らかにする実例を探して、討議する。またそのような作業を進めるうえで、基本的な英文法の事項を習得しておくことが前提であるので、毎回英語の文法語法について復習を兼ねたエクササイズを行う。</p> <p>事前・事後学習課題 配布された文献を読みこんでくる。また、グループでの発表のための準備。エクササイズの予習、復習など。総事前・事後学習課題は、発表の準備などを含め30時間とする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	発表や、レポートを総合的に判断する。																		
学生へのメッセージ	ちょっとした言葉の使い方に疑問を持ち、「なぜ」を追求する楽しさを実感してください。																		
担当者の研究室等	7号館4階 住吉 誠 研究室																		
備考																			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ

授業概要・目的	<p>Theme: Tourism , Hospitality and Australian culture</p> <p>We will look at on the job situations for cabin crew, airline ground staff and hotel staff, do tour-guiding and discuss the importance of good service. Australia will also be a focus for tourist destinations.</p>																		
到達目標	<p>Students will attain better reading, and writing skills, with active study and increase speaking and listening skills in the class.</p>																		
授業方法と留意点	<p>Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(First term) We will concentrate on hospitality topics, and building up reading skills in the first term from newspaper articles and the textbook.</p> <p>Youtube will be used for study at home to build up vocabulary and listening skills. Thesis topics will be decided towards the end of this term, with research in the library encouraged.</p> <p>We will also study the play to be attended during the first term, looking at four skills - speaking, listening, reading and writing to build up those skills.</p> <p>(Second term) Academic writing skills will be studied to help students formulate their ideas on a thesis topic and tourism and travel will be the basis for weekly topics.</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English for International Tourism</td> <td>Iwonna Dubicka &amp; Margaret O'Keefe</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Language Note</td> <td>Richard McMahon</td> <td>languagenote.com</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Basic steps to writing research papers</td> <td>Kluge and Taylor</td> <td>Cengage</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Language Note	Richard McMahon	languagenote.com	3	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Language Note	Richard McMahon	languagenote.com																
3	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>Attendance, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and drama events. You will undertake a research project for your thesis in 2nd term.</p>																		
学生へのメッセージ	<p>English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on trying, and studying outside class on a daily basis.</p>																		
担当者の研究室等	<p>7号館5階 田浦研究室 (Building 7, 5th floor, Koala poster on the door)</p>																		
備考																			

科目名	文化演習 II	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 秀毅

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに、研究分野を選択します。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語学・言語学に関する専門知識（特に、統語論と意味論）を身につけ、専門的な考え方や研究手法に慣れる。（継続）</li> <li>2. 言語学的な視点から学校文法をとらえ直す。（継続）</li> <li>3. 英語語彙力を強化する。（継続）</li> <li>4. パワーポイントを用いて効果的なプレゼンができる。</li> <li>5. 言語コーパスを活用して、必要な言語データの収集ができる。</li> <li>6. 卒業研究レポートを念頭に置いて、関心のある研究テーマを明確にする。</li> </ol>			
授業方法と留意点	<p>①専門知識の蓄積、②論理的思考力の強化、③表現力・伝達力の強化、の3本柱で授業を進める。</p> <p>留意点は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ①～③の知力のバランスを意識して取り組むこと。</li> <li>2. 指定箇所を相応の時間をかけて予習して授業に臨み、授業中のディスカッションを通じて疑問をを解決できるようにすること。</li> <li>3. グループディスカッションでは積極的に発言すること。</li> <li>4. 積み上げ式に学習するので復習には十分時間をかけ、わからないことは早めに質問すること（ほかの受講生にも有益なのでできるだけ授業中に設ける質問時間を活用してほしい）。</li> </ol>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校英文法の洗い直し（文化演習 I の続き）</li> <li>2. 英語学・言語学の専門知識と研究手法（同上）</li> <li>3. 英単語の成り立ち（同上）</li> <li>4. パワーポイントによるプレゼンスキル</li> <li>5. 言語コーパスを活用したデータ収集法</li> <li>6. 研究論文の構成と論文スキル</li> </ol> <p><b>【事前事後学習課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英単語を構成する要素についての理解を確認する。（単語小テスト）</li> <li>2. 前期の期末レポートの内容をパワーポイントを用いて発表する。（プレゼン）</li> <li>3. 指定されたテーマについてレポートを作成する。（期末レポート）</li> </ol>			
関連科目	卒業研究 I, II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	論文の教室	戸田山和久	NHK ブックス
	2	語彙力養成の総合英語	Joe McKim	英潮社
	3	【英英辞典がない人】Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary, 8th revised ed. (Collins コウビルド英英辞典)		Collins COBUILD
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>評価の対象 期末レポート、プレゼン、単語小テスト、授業態度</p> <p>評価に対する重み 期末レポート (50%)、プレゼン (20%)、単語小テスト (15%)、平常点 (15%)</p>			
学生へのメッセージ	本科目は4年次の「卒業研究 I, II」の基礎になる科目です。土台が安定しなければ、充実した卒業研究ができないので真剣に取り組んでください。			
担当者の研究室等	田中 (秀) 研究室 (7号館4階) ※スチューデント・アワーは木曜5時限です。			
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の分析には英英辞典が不可欠なので、下記に示した英英辞典が電子辞書に入っていない人は教科書欄の英英辞典を購入すること。電子辞書については、学習用に適した辞書を内蔵している場合に限り使用を認める。液晶画面の小さいものや旅行用のポータブルタイプは不可。 <b>【英英辞典のリスト】</b> ・ロングマン現代英英辞典 (Longman Dictionary of Contemporary English) ・オックスフォード現代英英辞典 (Oxford Advanced Learner's Dictionary)</li> <li>2. 欠席は授業に出席しなかった場合 (公欠・忌引き・病欠を含む) のすべてを対象とする (ただし、やむを得ない事情と判断できる欠席については考慮するので申し出ること)。欠席回数については初回授業で説明するので必ず確認すること。欠席した場合には、次回の授業の前日までに課題や配布物について確認し、自分の責任で補完しておくこと。</li> <li>3. 遅刻は本人の授業理解度を低下させ、ほかの受講者の集中力を阻害するので避けること。また、携帯電話が授業中に鳴ると授業の進行の妨げになるので電源は授業開始までに切っておくこと。</li> </ol>			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介

授業概要・目的	<p>アメリカ合衆国の文化、歴史についての卒業論文(研究レポート)を書くゼミです。各自、3年次終了時点で合計12000字(40字x30行で10ページ)以上のレポートを書くことを目標にします。4年次には、さらに研究を積み重ねて、これらのレポートを卒業論文に発展させることを目指します。</p> <p>各自の研究テーマは、アメリカ合衆国に関するものであれば幅広く選ぶことができます。過去のゼミ生に多いテーマは、映画や映画俳優について、音楽やミュージシャンについて、野球などのスポーツについてのものです。こうした一見カジュアルな題材を通じて、アメリカ社会の政治的、社会的、歴史的な問題点を考えるのが文化研究です。</p>																
到達目標	前期からの通算で、合計少なくとも12000字以上のレポートを提出すること。																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自、自分のテーマに基づいた資料を手に入れ、読み、小さなレポートを書き、それをクラスに持ち寄って話し合う、という活動を繰り返します。</li> <li>毎週文書をPCで作成し、学内ネットワークや電子メールを使ってやりとりをします。PCの基本操作は必須であり、自分のPCを所有しているか、好きな時に使えるPCを学内および自宅に確保しておく必要があります。</li> </ul>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b></p> <p>これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。</p> <p>「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ポカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツNASCARの歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』— グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b></p> <p>資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	ゼミ活動への貢献(50%)+3年次終了時点までの小レポートの総量と質(50%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館3階鳥居研究室																
備考																	



科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 真由美

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	本授業を受けることによって、コミュニケーションとは何かを理論的に学ぶことができます。さらに、テキストを正確に読み、理解し、それについて多面的に考察し、自分の意見を述べるようになります。実際に何度も練習を行うことによって、コミュニケーション能力を高めることもできるようになります。																		
授業方法と留意点	毎回担当者を決めて発表をします。担当者だけでなく、参加者全員が予習範囲のテキストをしっかりと読んで理解して授業に臨んでください。コミュニケーションな方法だけでなく、その内容が大事です。日ごろから情報や知識の獲得を心がけてください。英語の文献も読みますので予習をしてきてください。毎回、スピーチをしてもらいますので準備をしてきてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b>          コミュニケーションの取り方を理論的・実践的に学びます。最も大切なのは、相手の気持ちに配慮し、伝えたいことを正しくきっちり伝えることです。          そのためには何度も練習しなければなりません。          そこで、読んで考え、聞いて話すことを繰り返し行うことが決定的に重要になります。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b>          文献・インターネット等で内容を調べてくる。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>コミュニケーション学入門</td> <td>植村 勝彦他</td> <td>ナカニシヤ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	コミュニケーション学入門	植村 勝彦他	ナカニシヤ出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	コミュニケーション学入門	植村 勝彦他	ナカニシヤ出版																
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	研究や授業に取り組む姿勢を重視して、総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	失敗しながらも楽しくコミュニケーションを学びましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室																		
備考																			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大原 関 一浩

授業概要・目的	インターネットの普及やグローバル化によって、日本の企業は日々激しい変化に対応することを迫られています。景気が良かった頃のやり方をくり返すだけでは十分ではありませんし、外国の人々と取引し、働く機会も増えています。こうした状況の中、言われた仕事をこなすだけではなく、自分で考え、分析し、意見を伝えられる人材はどの分野でも必要とされています。そこで役立つのが、リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションの力です。前期に学んだスキルと知識を使い、自分が関心のあることについて問題を設定し、それについて調べ、自分なりの意見を効果的に表現するための訓練をさらに積んでいきます。																		
到達目標	① 問題を設定し、それについて調べ、自分なりの意見を効果的に表現できる技術を身につける。 ② 効果的なアカデミック・コミュニケーション能力を身につける。 ③ 課題を発見し、卒業研究で取り組むテーマに関する基礎的な知識を得る。																		
授業方法と留意点	① 毎日、一定の時間、読んだもの・考えたことについて「書く」ことが必要になる。 ② 協調性と積極性をもって、活動に参加すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	[授業テーマ・内容・方法] 文献の輪読、発表、議論を中心に進める。  [事前事後学習課題] ① 各自の役目(質問の用意、議論の司会、規定どおりのレポート作成)を果たすこと。 ② 研究ノート(初回に説明)は規定の分量を、定期的に書くこと。  [予定] ・夏休み明けに仮トピック+読書リストを提出 ・後期～春休みまで、計画に従って読書とノート・テーキングを進める  【事前事後学習】 課題、発表の準備、レポートの作成など合計約30時間。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新時代アメリカ社会を知るための60章</td> <td>明石書店</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新時代アメリカ社会を知るための60章	明石書店		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新時代アメリカ社会を知るための60章	明石書店																	
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業への貢献度 50% 課題やレポート 50%																		
学生へのメッセージ	このゼミは多様な見方に価値を置くので、「こんなことを言ったら笑われる」という心配はないです。お互いのお話に耳を傾け、必要以上に批判的にならず、助け合おうという姿勢を重視します。																		
担当者の研究室等	大原関研究室 7号館5階																		
備考																			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家口 美智子

授業概要・目的	<p>時事問題に詳しくなり、自分の意見を自分の言葉で論理的に言える人材となるために、毎回意見発表をしてもらいます。また英文を覚え、新聞を読むことにより、TOEIC のスコアをアップを目指します。自分の実力を上げるには、時間をたっぷり取って自分と向き合い、勉強することが大事です。求める人には担当教員も全力で与えられるものは与えたいと思います。</p>																		
到達目標	<p>*論理的思考を身に付けることで、どんなトピックをふられても論理的に話せるようになる。          *TOEIC のスコアを最低 100 はアップさせる。          *激動する世界・日本社会の中でどんな人生を歩みたいのかを決める。</p>																		
授業方法と留意点	<p>1. ①専門知識の蓄積と②論理的思考力の強化の2本柱で授業を進めるので知力のバランスを意識して取り組むこと。          2. グループディスカッションでは積極的に発言すること。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b></p> <p>以下の要領で授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近況報告</li> <li>2. 英文暗誦</li> <li>3. 時事事項報告</li> <li>4. 意見発表</li> <li>5. 新聞講読</li> <li>6. グループディスカッション</li> </ol> <p><b>【事前事後学習課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前に相応の時間をかけて予習をする。</li> <li>2. 指定されたテーマについてレポートを作成し、提出する。</li> </ol>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>評価の対象 レポート, 平常点          評価に対する重み 平常点 (70%), レポート(30%)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>*将来何がしたいのかを考え、自分の人生の設計を立てましょう。          *この1年が人生で一番大事な時期となります。目標を立ててしっかり達成しましょう。</p>																		
担当者の研究室等	7号館4F																		
備考	授業の事前・事後にかかる学習時間は15時間程度である。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	しっかりした卒業研究レポートを書くことができるよう、参考文献を知り、読み、まとめ、レジユメを作るなどのノウハウを身につけるための授業です。		
到達目標	参考文献を調べ、それを読み、カードやノートを取り、レジユメを作れるようになる。		
授業方法と留意点	留学から帰ってきた人が加わるので、あらたに共通課題図書を決め、それを読みながら、どのようにレジユメを作るか。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b>          前期に作ったレジユメを反省しながら、同じ課題で類似の書物、論文を読み、レジユメを作る。          スペイン語の論文を読み、内容の把握と同時に、論文がどのようなものか知る。          卒業研究レポートの主題を決め、参考文献表を作る。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b>          資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。</p>		
関連科目	スペイン語、スペイン語圏に関する科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	プリント	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	ゼミ活動への貢献(50%)+3年次終了時点までの小レポートの総量と質(50%)		
学生へのメッセージ	かなりハードルが高いですが、くじけずがんばりましょう。		
担当者の研究室等	7号館5階(篠原研究室)		
備考			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	<p>グローバリゼーションと移民をキーワードに、基本文献を輪読しつつ、テーマをめぐる基礎知識や共通認識を培う。その過程で、関心を持ったテーマについてさらに詳しい先行研究に当たり、考察を文章化する。 必要な資料の検索・収集方法、理論書の読解、レジユメの書き方、論文執筆の基本ルールなどを指導する。</p>																		
到達目標	<p>文化演習Ⅰで得た国際社会学をめぐる基礎知識と、見つけた関心領域・対象をもとに、卒業研究レポートのテーマを決めるまでに至る。</p>																		
授業方法と留意点	<p>毎回担当者を決めて発表をする。全員が資料を熟読したうえでゼミに臨むこと。発表に傾聴し、的確な質問や批判を自分の言葉で伝える力を養いましょう。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> グローバリゼーション・移民・多文化社会 基本文献を輪読し、基礎知識と共通認識を養う。レジユメの作成になれると同時に、それをもとに議論を展開できるようになることが重要である。ときに学外での研修を行うこともある。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 文献を熟読し、そこから疑問点や論点を抽出し、さらに深く調べたり自分の考えを練ったりする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>グローバリゼーションと移民</td> <td>伊豫谷登士翁</td> <td>有信堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	グローバリゼーションと移民	伊豫谷登士翁	有信堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	グローバリゼーションと移民	伊豫谷登士翁	有信堂																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「アメリカ人」の境界とラティーン・エスニシティ</td> <td>村田勝幸</td> <td>東京大学出版会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「アメリカ人」の境界とラティーン・エスニシティ	村田勝幸	東京大学出版会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「アメリカ人」の境界とラティーン・エスニシティ	村田勝幸	東京大学出版会																
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>発表への取り組みと内容、議論への参加等に基づき、総合的に評価する。 専攻外国語の力を伸ばし続けることは重要であるが、つねに日本語での読解力と論理的な文章構成力を問う。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>日本語と専攻言語の両言語の力を伸ばし続けましょう。</p>																		
担当者の研究室等	<p>7号館5階 北條研究室</p>																		
備考	<p>授業中に与えられた課題に取り組むのに要す十分な時間を事前事後学習に充てること。</p>																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達

授業概要・目的	本演習は、卒業研究を進めていく上での準備段階と位置づけている。自分で「調べる」という営みを始動することができるように演習を通じて指導を行っていく。受講者自身が設定した調査主題に関連する文献の講読と、調査成果についての報告を行う。相互のディスカッションを通じて人類的な「調べる」営みについて考えていき、卒業研究のための調査を指導することを目指す。			
到達目標	主体的に「調べる」営みに取り組み、成果を適切な形でアウトプットする。			
授業方法と留意点	前半は文献講読を行う。 後半は調査報告とディスカッション等に当てる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「人類的に調べる」が本演習の主題である。文献講読とディスカッションが中心になる。 文献講読時は、演習の時間を有意義に使うために、授業の前に指定された文献を精読することが強く望まれる。成果報告時は配付資料の準備、その他関連資料の収集と提示など含めて一人30分程度の発表時間がある。発表者、コメンテーター、聴衆のいずれも発言することが求められるため、授業時間外に行う作業の質と量が問われる。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	演習への出席、発言、課題、口頭発表に基づいて行う。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央

授業概要・目的	2年次までに培った基礎力をもとに、自身が取り組むテーマを検討する。このゼミにおいては、主に現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象や社会現象を取り上げることとする。 具体的には、担当教員の指導のもと、本格的な文献検索や論文読解、資料調査、現地調査実習などを行い、研究手法や考え方を体得する。最終成果として、後期末に「3年次レポート」を作成、提出する。																		
到達目標	研究に対する考え方の整理を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。 また、ゼミ内外の人びとと接することを通じて、「気づき」「目くばり」「心くばり」ができる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	授業では積極的に発言を行い、切磋琢磨できるような刺激的な環境を作っていくよう努力すること。 なお、4年ゼミ生との合同ゼミ合宿(秋)および1月に行われる4年ゼミ生による「卒業論文発表会」への参加を必須としている。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 各自がテーマを設定し、個別発表を行う。その際には、レジメの作成法や研究発表の仕方等についても学ぶ。後期末には、一年間の総決算として、「3年次レポート」を作成する。 ちなみに、2015年度生が取り組んだテーマは次の通り。 「戦隊ヒーローが与えるイメージ」「人間の動物に対するイメージの変遷」「韓国の労働問題—労働問題における韓国女性の高学歴化—」「『笑い』の構造」「ディズニーランドの人気の秘密」「マンガに見るジェンダー—男性向けと女性向けの違い—」</p> <p><b>【事前、事後学習課題】</b> 文献資料・インターネット等を活用し、自身の研究を深化させる。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「研究」を進めるために—研究資料ガイド2016—</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2016—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2016—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3																			
評価方法(基準)	ゼミでは、積極性が特に重視されます。そこで、成績評価については、討論への積極的な参加状況、「3年次レポート」の成果等により、総合的に判断します。																		
学生へのメッセージ	ぜひ、楽しんで「研究」に取り組んでいきましょう。「研究」は、「お勉強」とは違って、必ずや、皆さんに満足感や達成感を与えるものとなることでしょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)																		
備考																			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 真佐夫

授業概要・目的	研究テーマについてどのように研究を進めるかについて指導する。収集した研究資料の分析についても指導する。以上の指導に基づき、各自でテーマを決め研究を進め研究成果を発表してもらい、最終的にレポートを作成する。		
到達目標	研究を進め、成果をまとめる能力の獲得。		
授業方法と留意点	演習では、各自が作業を行うことが多い点に留意しておくように。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業の中で指示された作業を必ず行うこと。特に発表の際には事前に充分準備をすること。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	平常点、発表、レポートによる総合評価		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階(山口研究室)		
備考	指示された予習・復習・発表の準備には充分時間をかけ、学習効果を上げるようにすること。		



科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦

授業概要・目的	日本の文化や歴史を中心に、各自テーマを設定し、報告、議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。来年の卒業論文にむけて準備をする。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	設定したテーマについて報告と討論を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<b>【授業テーマ】</b> 報告と討論を積み重ねることで、テーマにかかる理解を深め、卒業研究に向けて準備する。 <b>【事前事後学習】</b> 自分の発表時はもちろん、他者が発表する前に報告者のテーマに関する文献を読み議論に備える。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	発表内容や発言、レポートをもとに評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	後期では、前期の活動で提起した社会問題について、様々な角度から調査し、その原因や解決方法を導くプロセスを習得する。その中から、自分にあった卒業研究テーマを見つけ出す。		
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。		
授業方法と留意点	このゼミは、「夢」を持ちそれに向かって全力投球したい学生のゼミであることから様々な課題を自分自身で課すことになる。課題発見解決能力の開発や、現場ですぐに役立つ実践力を高めるプログラムを実践する。また、幼稚園、小学校、中学校の教員を目指す学生には教員採用試験の過去問題や面接対策の勉強会を行う。OB・先輩・外国人との交流が多く、年間3～4回のゼミ合宿に必ず参加することを強く希望する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 社会に貢献できる活動を実践することから、学外での活動が多い。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べる。</p> <p>計画に基づいた活動、活動発表、報告書を総合的に評価する。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	活動参加、協調性、企画力、コミュニケーション能力、発表力を総合的に判断する。		
学生へのメッセージ	一歩前進ではなく、半歩前進でも、前に進んだことになる。小さな成功体験の積み重ねが、エネルギーになることを実感すると、挑戦することが楽しくなります。		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室		
備考			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一

授業概要・目的	<p>テーマ「現代社会と人間」 現代社会の様々な問題を取り上げる。教科書を中心として、さらに参考資料を読み合わせ、ディスカッションやディベートを行うことを通じて、問題の本質に迫っていくことを目指す。 これと並行して、卒業研究レポートの準備を行う。テーマの選定、文献の蒐集と読解、またそれに必要なスキルを身につける。</p>																
到達目標	<p>現代社会の問題やそこで生きる人間のあり方について、自分なりに問題意識を涵養する。 人前で分かりやすく自分の意見を発表する力を身につける。 必要な文献の蒐集と読解をする。</p>																
授業方法と留意点	<p>ゼミ形式での発表とディスカッションを行うので積極的な参加が求められる。テーマ自体は幅広いものになるので、特にどのような問題を取り上げるかは、参加者と相談の上、決定する。</p> <p>卒業研究レポートについては、ゼミでの勉強を踏まえて、各自でテーマを決めてもらうが、個別に課せられた課題はしっかりとこなすことが必要。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【テーマ・内容】</b> 「現代社会と人間」 人間と社会そのものに対する近代的な見方はもはや成り立たなくなっているのが現代社会の特徴であろう。そのような現代社会の様々な問題を取り上げる。例えば、科学技術に対する信頼の崩壊（原発事故）、経済成長と人口の増加を前提に組み立てられてきた社会の危機（低成長と人口減少）、人々の価値観や倫理観の変化（権威に対する不信任、無差別テロや理由なき殺人）、等々。</p> <p><b>【方法】</b> 資料を皆で読み合わせ、ディスカッションやディベートをする。また、その結果をまとめたレポートを書いてもらう。 個別に卒業研究レポートの準備を進める。文献の蒐集と発表をする。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 発表の準備、発表後のレポート作成 卒業研究レポートの文献蒐集と読解。さらにテーマの発表の準備 およそ30時間。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>レポート・論文の書き方入門 第三版</td> <td>河野哲也</td> <td>慶應義塾大学出版会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>これから「正義」の話をしよう</td> <td>サンデル</td> <td>早川書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	レポート・論文の書き方入門 第三版	河野哲也	慶應義塾大学出版会	2	これから「正義」の話をしよう	サンデル	早川書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	レポート・論文の書き方入門 第三版	河野哲也	慶應義塾大学出版会														
2	これから「正義」の話をしよう	サンデル	早川書房														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加[貢献]度、発表[プレゼンテーション]、レポートなどに基づいて評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館4階																
備考	事前事後学習におよそ60時間必要。																

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩間 香

授業概要・目的	前期に引き続き、文化・美術の中から論文を講読する。また各自の興味のあるテーマに基づき、文章を書く練習をする。論文探索、資料調査、現地調査実習を行い、読み、考え、表現する力を養う。		
到達目標	専門的な文章を書くときに必要な論文探索の方法を身につける。的確な言葉を用い、正しい日本語の文章を書くことができるようになる。学内外で責任ある社会人としての行動をとることができる。卒業研究レポートのテーマを見つける。		
授業方法と留意点	12月末までに卒業研究のテーマを決め、1月にその基本的な問題点などについて発表する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 文化・美術 <b>【事前事後学習課題】</b> 事前：テーマに関して本・文献・インターネットで下調べをする。(90分) 事後：学んだことを整理する。(90分)		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	ゼミ活動での取り組みの姿勢 (50%) レポート (30%) 発表の内容 (20%)		
学生へのメッセージ	ゼミが充実し、楽しい学習の場になるかどうかは、皆さん取り組み方で大きく変わります。ぜひ積極的にゼミ活動に参加してください。またゼミは小さな社会です。思いやりや助け合いも実践しましょう。		
担当者の研究室等	岩間研究室 (7号館5階)		
備考			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫

授業概要・目的	<p><b>【授業概要・目的・到達目標】</b>          外国人を対象にした「外国語としての日本語教育」について考察します。          単に「ひらがなをどのように教えるか」というような教授法だけでなく、広い意味の「日本語教育」としてとらえています。例えば次のようなことも含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*日本語学習者の言語習得</li> <li>*日本語の語用例からの日本語の文法や語彙の分析</li> <li>*外国人との接触場面での異文化間コミュニケーション</li> <li>*海外における日本語教育</li> <li>*在住外国人や留学生に関すること 等々です。</li> </ul> <p>海外や日本で起こっている様々な動きを、「日本語・日本語教育」そして自分自身に関連づけて考えることができるようになることを目指します。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>*専門的な知識を得る。</li> <li>*文献を批判的に読んで考察し、自分の意見をまとめて表現することができる。</li> <li>*テーマについて、レジュメを作成し、プレゼンテーションができる。</li> <li>*アカデミックライティングのスキルを身につける。</li> <li>*ゼミの活動を通して、コミュニケーション能力を向上させる。</li> <li>*卒業研究のテーマの設定を行う。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p><b>【授業方法と留意点】</b>          前半は、教員が指定した日本語・日本語教育・異文化間コミュニケーションをテーマにした文献を読み、知識を増やし、内容についてディスカッションを行う。更に考察を深めレポートにまとめる。後半は各自が設定したテーマについての発表および内容についてディスカッションを行う。授業後に考察を深め、レポートにまとめ、4年時の卒業研究につなげていく。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b>          毎回担当を決め、文献を読み、レジュメを作って発表する。          発表者は、資料収集、情報収集をしてレジュメを作成する。          発表後は、内容についてディスカッションを行う。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b>          授業の前に文献を読み、予習シートをまとめる。          授業後に考察した内容についてレポートを書く。          ゼミ生全員のレポートをお互いにチェックしてコメントを書く。</p>																
関連科目	「日本語教授法」「日本語学」「日本語教育実習演習」																
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>文献資料、プリントを配布する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	文献資料、プリントを配布する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	文献資料、プリントを配布する																
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業で指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業で指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	授業で指示する																
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への参加度・発表・レポート・その他課題等によって総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	友達とのコミュニケーション・外国語学習・海外留学等々、様々なこれらの基になっているのは言語(日本語)です。また、大学在学中や社会人になってから、外国人(日本語を母語としない人)に日本語や日本文化について聞かれる場面はあると思います。このゼミでは、日本語は日本語教育について、皆で一緒に深く考えてみたいと思います。																
担当者の研究室等	門脇研究室(7号館4階)																
備考																	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊

授業概要・目的	<p>《世界の中の日本語・日本文化》  「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。  卒業研究のテーマを設定する。  各自が取り上げたテーマを通して、関心を広げ、また深めることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>文献を講読して理解し、考察する力を身につける。</p>		
授業方法と留意点	<p>各自が関心あるテーマに基づいて文献を取り上げ、発表する。  互いに意見を出し、議論する。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。  およそ隔週で報告を行い、毎週他の学生の報告について積極的な発言が求められる。  十分に報告準備を行うこと。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	平常点(報告内容、参加態度、課題) 100%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階		
備考	事前事後学習時間 計60時間		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。		
到達目標	先行研究を網羅(整理・批判)した上で、問いを立てる。		
授業方法と留意点	自らテーマを設定し、個別発表・討論をおこなう。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 文献収集、読解、レジユメの作成方法、討論の仕方等を指導する。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 授業中に適宜指示する。事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	発表内容(テーマの掘り下げ方・発表の仕方など)、討論(積極的に発言しているかなど)、レポート(年度末に提出)を総合的に評価する。西洋の歴史(世界史)に関する予備知識は必ずしも必要ではない。		
学生へのメッセージ	できるだけ多くの文献を読み、積極的にフィールドワークに出かけることで、広い視野をもって研究に取り組んでください。		
担当者の研究室等	7号館4階 林田研究室		
備考			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章

授業概要・目的	担当教員の指導のもと、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査等を行い、研究に必要な手法や考え方を体得します。		
到達目標	自分の関心のあるテーマについて文献を調べ、それを整理し、発表することができるようになる。		
授業方法と留意点	「ことば」に関する資料を読みながら、基本的な知識を身につけていく。その際、全体で意見を交換・共有しながら、各トピックに関する理解を深めていく。最終的に、自分の最も関心のあるテーマを絞りこみ、卒業研究へとつなげていく。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語学演習 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	出席状況、積極性、発言内容、課題を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	これから2年間、一緒に頑張っていきましょう。		
担当者の研究室等	後藤研究室(7号館5階)		
備考			



科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。		
到達目標	グローバルな視点で物事を考える力を養うとともに、その礎となる国際教養を身につけることを目標とします。		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究のテーマを考えながら、調査・発表・議論を軸とした演習形式で行います。また、学術的な研究とは何か、その特徴についても触れていきます。</li> <li>・積極的かつ協調的な取り組みを重視します。</li> </ul>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> 言語、文化、国際ビジネスなどの分野に関する研究を演習形式で進めていきます。グローバルな視点で物事を考える力を養うとともに、そのテーマについて発表やグループディスカッションも行います。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 資料の収集、要点の整理など。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業に取り組む姿勢、発表・プレゼンテーション、課題(レポート)などに基づいて総合的に評価します。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4F 中島研究室		
備考	明朗で、行動力と協調性のある学生の育成を目指します。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー

授業概要・目的	The purpose of this class is to choose a topic related to Canada that you are passionate about and deepen your understanding through reading and research. This is an ideal course for students currently studying abroad in Canada or who plan on doing so in the future.		
到達目標			
授業方法と留意点	The material will be presented through lecture, readings, and occasionally through video and audio. Students are expected to keep a notebook. There will be opportunity for class discussion and group work.		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	The focus of this seminar is Canada. Students will learn about contemporary Canadian society as well as important historical events and how they have shaped the country. Students will study and develop their research skills and will be expected to write and present regular reports.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	Tests, assignments, attendance, attitude.		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館3F ハーキー研究室		
備考	Please bring a dictionary.		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵

授業概要・目的	<p>本を読むとき、映画を観るとき、人と話すとき、そのベースとなる背景知識を持っているか否かで話の理解度が大きく変わってきます。このゼミでは、英語圏に共通する「知っておくべき事柄」を学び、文化知識の土台作りをします。取り扱う分野は、文学、ことわざ&amp;イディオム、神話、音楽、芸術、建築物などです。</p> <p>また、ゼミとして多読活動に取り組みます。最初は自力で読める易しめの本を紹介しますが、後半には、映画化された児童文学作品を読んだり、実体験に基づくライフストーリーを読んだりして、豊かな表現に触れてもらうとともに、「今まで考えたこともなかった」ような、外の世界にも目を向けてもらいます。</p>			
到達目標	与えられたテーマに関して調べ、それをレジュメにまとめて発表できるようになることを目指します。また、多読は初心者で5万語、経験者で10万語を目標とします。			
授業方法と留意点	初日に決めたスケジュールに沿って、各自が当たったテーマを調べ、レジュメを作成してきます。授業中は発表と理解度チェックに充てます。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初日に一学期間のテーマと担当を決めます。また、レジュメのサンプルを見せます。次回からは、各人がスケジュールに沿って下調べをしレジュメを作成してきます。余力があるようなら、全員で読む本も一冊指定するかもしれません。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	課題準備、発表、理解度などを総合的に評価します。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館5階松田研究室			
備考				

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	皆本 智美

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	英書や和書の読解を通して、物事を深く理解し、自分の意見を表現できるようになることを目標とする。																		
授業方法と留意点	主な活動として、英書を読み、授業中に理解度を確認します。他の活動として、英語の技能を向上させるための練習や、西洋文化の理解を深めるための活動などを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 英語で本を読む。</p> <p><b>【内容・方法】</b> 共通の英書の指定部分を全員が事前に読み、授業中は互いに理解度を確認しあう。卒業研究の準備として、資料調査の実習を行う。</p> <p><b>【事前事後学習課題】</b> 授業中に適宜指示する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業初回の話し合いで決定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業初回の話し合いで決定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業初回の話し合いで決定する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業にのぞむ姿勢や態度、発表内容(発表の仕方や積極性など)、レポート等を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋

授業概要・目的	国内外の映画・ドラマ・文学作品を英語で読解し、自分たちでアレンジを加えながらスクリプトを作成し、実際に演じる/演出して、オリジナルの英語ムービーを作成する。インプット(リーディング・リスニング)・アウトプット(スピーキング・ライティング)連動型の授業を行う。また4年次の卒業研究で扱うテーマを設定する。		
到達目標	ただ漠然と対象作品を英語を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりするのではなく、自分たちが演じる/演出することを想定しながら、英文をインプット・アウトプットできるようになる。		
授業方法と留意点	グループでの作業が多くなるので、協調性と責任感を持って、授業に臨むこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ・内容・方法】</b> クラスメイトと協同で、30分程度の英語ムービーを作成する。</p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b> 毎授業で目標を設定し、その目標を達成するための事前・事後学習を行う。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	ショートムービー 50% グループワーク 30% 課題 20%		
学生へのメッセージ	グループワークが基本になります。協調性を持って、ゼミメンバーとクオリティーの高い作品を完成させましょう！		
担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙

授業概要・目的	いままで培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択し、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を体得する。																		
到達目標	異文化への理解を深めることは外国語学部の学生にとって大変重要なことである。ことわざと慣用句はそれぞれの国で昔から使われてきたものなので、その国の風俗、習慣、物の見方、考え方などをよく反映するネイティブ的な表現である。このゼミでは、日本語と中国語あるいは他言語のことわざ、慣用句や慣用表現の発想・特徴などを中心に比較研究を行うことによって、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養うのを目指す。同時に研究能力を育成する。																		
授業方法と留意点	授業では、各自テーマを決め、収集した資料などを持ち寄り、それらをパソコンディスプレイで提示しながら他のゼミ生や指導教員に説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】：ことわざと慣用句の比較・対照研究</p> <p>各授業において、前回はある言語のテーマを決め、意味と由来を調査した資料を提示する。次回は前テーマをめぐって他言語による検討をする。このローテーションで進む。</p> <p>【事前事後学習課題】 指示に従って、文献・インターネット等で内容を調べて来る。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「言いたいこと」から引ける慣用句・ことわざ・四字熟語辞典</td> <td>西谷裕子</td> <td>東京堂出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日英ことわざの比較文化</td> <td>奥津文夫</td> <td>大修館書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>よく似た英語と日本語の慣用句集</td> <td>名和田進</td> <td>文芸館</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「言いたいこと」から引ける慣用句・ことわざ・四字熟語辞典	西谷裕子	東京堂出版	2	日英ことわざの比較文化	奥津文夫	大修館書店	3	よく似た英語と日本語の慣用句集	名和田進	文芸館
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「言いたいこと」から引ける慣用句・ことわざ・四字熟語辞典	西谷裕子	東京堂出版																
2	日英ことわざの比較文化	奥津文夫	大修館書店																
3	よく似た英語と日本語の慣用句集	名和田進	文芸館																
評価方法(基準)	出席、ゼミでの発言、提出物の内容などを総合して評価する。																		
学生へのメッセージ	もっと知りたいという好奇心を持ちましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)																		
備考																			

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹

授業概要・目的	Webには、解説つきの写真や動画を誰もが投稿できるサイトがある(GoogleマップやYouTubeなど)。当ゼミでは手元の写真のうち公開可能なものに日本語や外国語で案内文を作成しそれを投稿する活動を行う。授業では、各自が持ち寄った日本語文の内容や外国語への翻訳が適切かどうかを全員で検討しながら完成度を高める。撮影地は通常自由だが、ゼミによる観光地取材も適宜行う。																
到達目標	Webには、解説つきの写真や動画を誰もが投稿できるサイトがある(GoogleマップやYouTubeなど)。当ゼミでは手元の写真のうち公開可能なものに日本語や外国語で案内文を作成しそれを投稿する活動を行う。授業では、各自が持ち寄った日本語文の内容や外国語への翻訳が適切かどうかを全員で検討しながら完成度を高める。撮影地は通常自由だが、ゼミによる観光地取材も適宜行う。																
授業方法と留意点	個人またはグループでテーマを決め、予め書籍やWebなどで調査したうえ現地へ行って写真やビデオの撮影を行う。さらにそれを素材として観光案内のための原稿を作成して授業で発表、必要な修正を加えて動画に編集したりWebサイトに登録するなどの作業を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	後期は、前期のゼミで身につけた技術や経験を活かしながら、ビデオカメラによる撮影を現地で行い、これをつかっただ映像作品の作成を課題とする。また、外国人観光客へのインタビューも課題の一つとしたい。																
関連科目	日中観光文化と通訳法																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	発表・レポートによる総合評価																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等備考	中西研究室(7号館3階)																

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬戸 宏

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに、研究分野を選択します。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。		
到達目標	ゼミでの発表の仕方、資料調査の方法などが習得できます。上海を中心とした現代中国の動きについて理解できます。		
授業方法と留意点	前期に引き続き、教科書の内容を毎回分担してレポートしてもらいます。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 上海研究 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	上海 都市生活の現代史	岩間一弘、金野純、朱珉、高綱博文
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	発表内容、授業への積極性など、日常の授業態度および学年末レポートの内容で評価します。		
学生へのメッセージ	いっしょに上海、中国への認識を深めましょう。		
担当者の研究室等	7号館3階		
備考			



科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小川 豊生

授業概要・目的	文化演習Ⅰをうけて、さらに各自の研究テーマを深め、研究の楽しさと意義を体得する。 ひきつづき、文献探索や論文講読、資料収集、現地調査等を行い、研究手法や考え方、現地での調査法を習得する。古代から現代にわたる日本の文化を中心として、諸外国との比較を通じて、そのさまざまな特質をあきらかにすることが目的であるが、同時に、発表資料の作成や発表の仕方、発表後のレポート作成など、実践的なリテラシーの習得も大切な目標である。																
到達目標	課題発見能力、発表力、聞く力、文献探求能力、書く力を総合的に身に着ける。																
授業方法と留意点	オリエンテーション、図書館の利用と文献検索、文献目録の作成方法、地形図に関する基礎作業、統計資料の収集法、統計資料の分析、グラフ・表の作成法、論文・レポートのまとめ方、文献研究発表などについて解説していく。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>授業テーマ】</b> 日本文化をめぐる諸問題</p> <p><b>【内容・方法】</b> 各テーマに関する文献などを読解し、問題点や研究方法を考える。大まかには以下の順序で行う。</p> <p>導入 研究の方法と目的について 発表テーマの設定 全員の発表と質疑応答 まとめのレポート作成</p> <p><b>【事前学習】</b> ・文献・インターネット等で配布資料について重要語や内容について調べてくる。 ・発表担当に向けて準備する。</p> <p><b>【事後学習】</b> ・各自の発表内容の推敲・練成。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	出席、取り組む姿勢、発表内容などにより、総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	知は力なり。																
担当者の研究室等	7号館4階(小川研究室)																
備考																	

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	神崎 舞

授業概要・目的	舞台芸術（演劇、ミュージカル、サーカス、ダンスなど）の映像資料の鑑賞や、作品のテキスト及び関連資料の輪読を通して、さまざまな舞台芸術に対する理解を深める。また、研究対象とする作品や劇団が生まれた社会的・文化的背景に関する知識の習得も目指す。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台芸術について、基礎的な知識を習得する。</li> <li>・卒業研究のテーマを定める。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業では、積極的に議論に参加すること。</li> <li>・実際に舞台を観に行く可能性がある。</li> </ul>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業テーマ】</b> 舞台芸術研究 (Performing Arts Studies)</p> <p><b>【内容・方法】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台芸術作品あるいは劇団などについてリサーチし、発表及び小レポートとしてまとめる。</li> <li>・プレゼンテーションや議論を重ねることで、卒業研究のテーマを定め、レポートとしてまとめる。</li> </ul> </p> <p><b>【事前・事後学習課題】</b> プレゼンテーションやレポートの準備など。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	平常点（授業に取り組む姿勢など）、レポート、プレゼンテーションを総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	日頃から舞台芸術に対する関心を持つようにして下さい。そして受講者が主体となって、楽しく活気あるゼミを作っていきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室																		
備考																			

科目名	文化観光実習演習	科目名(英文)	Cultural Tourism Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦, 原 秀禎

授業概要・目的	本演習では、京都の町家の保全・活用の事例から、歴史地区における地域振興のあり方を学ぶ。京町家に関する資料の収集と見学、関係者への聞き取りを行い、地域振興・観光開発を実践的に学ぶことを目的とする。																		
到達目標	地域における文化、観光、地域振興といった多角的な問題を個別に解決するのではなく、それぞれを有機的に関連づけて考察できるようになる。 フィールドワークの基礎を習得できる。 ポスター作成、プレゼンテーションの方法を習得できる。																		
授業方法と留意点	教室での講義・成果発表のほかに、京町家を訪れ、その保全・利用の活動をしている方々からお話を伺う。この課外活動にも参加することが求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に必要な基礎知識として、講義と演習の形式を織り交ぜながら、地域政策と観光開発について学び、続いて京町家の歴史や建築形式、社会文化的価値について学習する。</li> <li>・実習では、京町家の保存・活用を通じた地域振興にたずさわる方々からお話を伺う。</li> <li>・学習成果をポスターにまとめ、最後に口頭発表を行う。</li> <li>・3回ほど校外実習を行うので必ず出席すること。</li> </ul>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	出席および校外実習への参加、成果発表を総合して評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	赤澤研究室(7号館4階)																		
備考	第1回目の講義で校外実習の日程を決めますので必ず出席してください。毎回必ず出席して下さい。																		

科目名	文化と表現	科目名(英文)	Cultural Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊

授業概要・目的	我々は日本語を用いて、何をどのように表現しているのだろうか、そして表現できるのだろうか。この授業では、日本人が日本語を用いて、どのように表現してきたのか、そしてどのような表現が可能なのかを、様々な事例を通して考える。そして、その表現と文化がどのように関わっているのかを考える。それによって、言語に対する感覚を研ぎ澄まし、言葉にこだわり、文化について深く考察できる人間になることを目指す。																																																																		
到達目標	日本語表現の特徴について、具体的に説明できる。 日本語表現について、表層的にはなく、文化的な視点から深く考えることができる。																																																																		
授業方法と留意点	皆さんの意見も聞きながら講義を進行します。 毎回、コメントや課題が出ます。 全部で3節からなります。各節の最後にまとめのテストをします。 各節でレポートを課します。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入</td> <td>日本語はどのような言語か 多様な視点から考える</td> <td>授業の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>世界の中の日本語</td> <td>日本語は特殊な言語なのか考える</td> <td>授業の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1. 言葉にこだわる 1-1. 辞書の比較</td> <td>複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1-2. 助詞にこだわる</td> <td>助詞の使い方から日本語の特徴について考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1-3. 日本語のレトリック</td> <td>様々なレトリックを学ぶ</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1-4. まとめ</td> <td>第1節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>第1節の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>2. 日本語の感覚 2-1. 和歌に見る語感</td> <td>和歌を例に、日本語の表現法を知る</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>2-2. 俳句に見る語感</td> <td>俳句を例に、日本語の表現法を知る</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>2-3. 日本語のオノマトペ</td> <td>日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>2-4. コピー(広告文)の修辞</td> <td>街角で見られるコピーの修辞をもとに日本語を考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>2-5. まとめ</td> <td>第2節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>第2節の内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>3. 表現の可能性 3-1. 一人称と三人称</td> <td>小説を例に、一人称と三人称の違いを考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>3-2. 現在形と過去形</td> <td>小説を例に、一人称と三人称の違いを考える</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>3-3. 表現の冒険</td> <td>小説を例に、日本語表現の可能性を探る</td> <td>指示する課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>3-4. まとめ</td> <td>第3節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>第3節の内容を整理する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する	2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	授業の内容を整理する	3	1. 言葉にこだわる 1-1. 辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える	指示する課題に取り組む	4	1-2. 助詞にこだわる	助詞の使い方から日本語の特徴について考える	指示する課題に取り組む	5	1-3. 日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	指示する課題に取り組む	6	1-4. まとめ	第1節の内容をまとめる確認テスト	第1節の内容を整理する	7	2. 日本語の感覚 2-1. 和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む	8	2-2. 俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む	9	2-3. 日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える	指示する課題に取り組む	10	2-4. コピー(広告文)の修辞	街角で見られるコピーの修辞をもとに日本語を考える	指示する課題に取り組む	11	2-5. まとめ	第2節の内容をまとめる確認テスト	第2節の内容を整理する	12	3. 表現の可能性 3-1. 一人称と三人称	小説を例に、一人称と三人称の違いを考える	指示する課題に取り組む	13	3-2. 現在形と過去形	小説を例に、一人称と三人称の違いを考える	指示する課題に取り組む	14	3-3. 表現の冒険	小説を例に、日本語表現の可能性を探る	指示する課題に取り組む	15	3-4. まとめ	第3節の内容をまとめる確認テスト	第3節の内容を整理する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する																																																																
2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	授業の内容を整理する																																																																
3	1. 言葉にこだわる 1-1. 辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える	指示する課題に取り組む																																																																
4	1-2. 助詞にこだわる	助詞の使い方から日本語の特徴について考える	指示する課題に取り組む																																																																
5	1-3. 日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	指示する課題に取り組む																																																																
6	1-4. まとめ	第1節の内容をまとめる確認テスト	第1節の内容を整理する																																																																
7	2. 日本語の感覚 2-1. 和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む																																																																
8	2-2. 俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	指示する課題に取り組む																																																																
9	2-3. 日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える	指示する課題に取り組む																																																																
10	2-4. コピー(広告文)の修辞	街角で見られるコピーの修辞をもとに日本語を考える	指示する課題に取り組む																																																																
11	2-5. まとめ	第2節の内容をまとめる確認テスト	第2節の内容を整理する																																																																
12	3. 表現の可能性 3-1. 一人称と三人称	小説を例に、一人称と三人称の違いを考える	指示する課題に取り組む																																																																
13	3-2. 現在形と過去形	小説を例に、一人称と三人称の違いを考える	指示する課題に取り組む																																																																
14	3-3. 表現の冒険	小説を例に、日本語表現の可能性を探る	指示する課題に取り組む																																																																
15	3-4. まとめ	第3節の内容をまとめる確認テスト	第3節の内容を整理する																																																																
関連科目	言語に関する科目すべて 日本語史概論、日本語音韻論、日本語語彙論、日本語文法論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	レポート全3回(60%) 3回すべての提出を単位認定の条件とする。 まとめテスト(20%) 授業参加度(コメント・課題など)(20%)																																																																		
学生へのメッセージ	言葉に敏感になろう																																																																		
担当者の研究室等	7号館4階(橋本研究室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	平和の思想	科目名(英文)	Ideas for Peace
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西垣 有

**授業概要・目的**  
この講義では、カール・ポランニー、ハンナ・アーレント、ミシェル・フーコーという三人の思想家の思想の検討を通じて、現代世界における平和について再考することを目的とする。ポランニーの平和論、ファシズム論、アーレントの全体主義論、フーコーの戦争論、権力論の検討を通じて、19世紀から20世紀にかけての世界史的な転換のなかでの戦争と平和をめぐる思考を確認し、21世紀において私たちが生きる現代世界の平和を考える導き糸としたい。

**到達目標**  
三人の思想家がそれぞれ何を問題にしていたのか、それを通じて戦争と平和についてどのように考えることができるのかをきちんと理解すること。

**授業方法と留意点**  
基本的に毎回、授業の内容について適宜小レポートを書いてもらい、それをもとに議論します。  
受講者で分担して、指示した文献・資料についての要約(レジュメ)を用意してもらうことがあります。その要約をもとに議論します。  
授業計画は目安であり、受講者の関心などに応じて授業の進度を変更します。

**科目学習の効果(資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、目的について説明する。	〈事後〉授業のまとめの小レポート
2	カール・ポランニー (1)	ポランニーとは誰か?について概説したのち、主著『大転換』について解説する。	〈事後〉授業のまとめの小レポート
3	カール・ポランニー (2)	『大転換』の内容を踏まえたうえで、ポランニーの平和論、ファシズム論について確認する。	〈事後〉授業のまとめの小レポート
4	カール・ポランニー (3)	『大転換』後のポランニーについて検討する。	〈事後〉授業のまとめの小レポート。
5	ハンナ・アーレント (1)	ハンナ・アーレントとは誰か?	〈事後〉授業のまとめの小レポート。
6	ハンナ・アーレント (2)	『全体主義の起源』について概説する。	〈事後〉授業のまとめの小レポート。
7	ハンナ・アーレント (3)	『人間の条件』について概説する。	〈事後〉授業のまとめの小レポート。
8	中間総括	ポランニーとアーレントの議論を比較検討する。	〈事後〉授業のまとめの小レポート。
9	ミシェル・フーコー (1)	フーコーとは誰か?	〈事後〉授業のまとめの小レポート。
10	ミシェル・フーコー (2)	『監獄の誕生』について概説する。	〈事後〉授業のまとめの小レポート。
11	ミシェル・フーコー (3)	講義録『社会は防衛しなければならない』の議論を概説する。	〈事後〉授業のまとめの小レポート。
12	ミシェル・フーコー (4)	講義録『安全・領土・人口』の議論を概説する。	〈事後〉授業のまとめの小レポート。
13	ミシェル・フーコー (5)	講義録『生政治の誕生』の議論を概説する。	〈事後〉授業のまとめの小レポート。
14	ポスト・フーコー	これまでの議論を踏まえたうえで、フーコー後の議論について概説する。	〈事後〉授業のまとめの小レポート。
15	総括と展望	これまでの授業を振り返り、三者の議論を比較検討する。	〈事後〉授業のまとめの小レポート。

**関連科目**

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法(基準)**  
小レポートおよび授業への参加態度(60%)、期末レポート(40%)

**学生へのメッセージ**  
授業中の私語、携帯電話の使用などで授業を妨害したものには退席を命じ、欠席扱いとします。大学生にふさわしい態度で授業にのぞんでください。

**担当者の研究室等備考**  
非常勤講師控室(7号館2階)

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階松田研究室
----------	------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			Students should study the content of the day's lesson
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3	BETTER GRAMMAR (5分間英文法ビフォーアフター)	豊永 彰	南雲堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	文法は英語力の土台になります。おろそかにせず、しっかり勉強して下さい。
-----------	-------------------------------------

担当者の研究室等	7号館5階 後藤研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	語彙と文法は言語習得の基礎です。 少しずつ、でもしっかり身につけていきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--



科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	言語の大事な要素を学び、それらを統合して使いこなすための練習をたくさんします。授業で学んだことは、他の授業や課外でも、くりかえし、いっぱい使ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			Students should study the content of the day's lesson
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 鳥居研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 西川研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家口 美智子

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	しっかりとがんばりましょう！
-----------	----------------

担当者の研究室等	7号館4階 家口研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	できるだけ沢山の語彙を学び、使いこなせるようにしましょう。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	7号館5階 神崎研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3	Grammar Clinic 5分間基本英文法	佐藤誠司	南雲堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	前学習時間：2時間、事後学習時間：2時間を要する。
-----------	---------------------------

担当者の研究室等	7号館4階 皆本研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ヌ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉浦 秀行

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3	English Locomotion	JACET 教材開発研究会	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	活動型授業で一緒に楽しみましょう！
-----------	-------------------

担当者の研究室等	7号館5階 杉浦研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 秀毅

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中highで学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Longman Dictionary of Contemporary English, 6th ed. (ロングマン現代英英辞典第6版)		ロングマン
2	Oxford Advanced Learner's Dictionary, 9th ed. (オックスフォード現代英英辞典第9版)		オックスフォード	
3				

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	語彙と文法は英語力を支える骨組みですからしっかり構築してください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	田中（秀）研究室（7号館4階） ※スチューデント・アワーは木曜5時限です。
----------	---------------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--



科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 眞由美

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3	Grammar Plus		南雲堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 西川研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階鳥居研究室
----------	------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			Students should study the content of the day's lesson
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	覚えた言葉や表現は、どんどん使ってください。頭の中にだけ置いておくなんてもったいない！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家口 美智子

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	言語の大事な要素を学び、それらを統合して使いこなすための練習をたくさんします。授業で学んだことは、他の授業や課外でも、くりかえし、いっぱい使ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階 家口研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大原 関 一浩

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中highで学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 大原関研究室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	皆本 智美

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中highで学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3	5分間 TOEIC テスト・サプリメント 文法・語法 A Shorter Course in TOEIC Test Grammar	小池直己	南雲堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 皆本研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			Students should study the content of the day's lesson
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 住吉研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--



科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3	Language Note	Richard McMahon	Languagenote.com	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	Don't be afraid of making mistakes because it is in making mistakes that you remember. Bring a positive attitude to class, and we will have a great class atmosphere.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 田浦研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマーb	科目名(英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 秀毅

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中highで学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能(読む・書く・聞く・話すこと)への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト(筆記)」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3	5分間 TOEIC テスト・サプリメント 文法・語法	小池直己	南雲堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Longman Dictionary of Contemporary English, 6th ed. (ロングマン現代英英辞典第6版)		ロングマン
2	『Oxford Advanced Learner's Dictionary, 9th ed. (オックスフォード現代英英辞典第9版)』		オックスフォード	
3				

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物等)、共通テスト(筆記)・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト(筆記)、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	語彙と文法は英語力を支える骨組みですからしっかり構築してください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	田中(秀)研究室(7号館4階) ※スチューデント・アワーは木曜5時限です。
----------	---------------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			Students should study the content of the day's lesson
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 松田研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	く
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3	GRAMMAR CLINIC (5分間基本英文法)	佐藤 誠司	南雲堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	文法は英語力の土台になります。おろそかにせず、しっかり勉強して下さい。
-----------	-------------------------------------

担当者の研究室等	7号館5階 後藤研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦 秀行

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。
到達目標	共通教材の基礎文法事項に加えて、必要に応じて別途、問題集やハンドアウトを使用し、幅広い文法事項の習得も目指す。語彙に関しては、指定されたテキストの語彙を習得する。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「ボキャブラリー&グラマー共通テスト（筆記）」と共通単語テストを実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3	English Locomotion - 参加して学ぶ総合英語	JACET 教材開発研究会	成美堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）、共通テスト（筆記）・共通単語テストや課題の成績を総合的に評価する。 ※共通テスト（筆記）、ならびに指定された語彙テキストに関する共通単語テストや課題の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
----------	---

学生へのメッセージ	活動型の授業で一緒に楽しみましょう！
-----------	--------------------

担当者の研究室等	7号館5階 杉浦研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	ホスピタリティ・インターンシップ	科目名 (英文)	Hospitality Business Internship
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	塩崎 裕司

授業概要・目的	エアラインホスピタリティプログラムの最終到達点としてプログラムで学んだ事を実践する。 ホスピタリティ・インターンシップの目的は、ホスピタリティ産業において実際の仕事の現場に接することにより、 ①社会における仕事の役割・意義 ②責任とやりがい ③ホスピタリティの本質を実感することである。																
到達目標	ホスピタリティ産業の現場で実務を体験することにより、仕事の厳しさ、楽しさ、やりがいなどを実感して、就業意識を高めることを目標とする。また、ここまで授業で学んできたホスピタリティの知識や感性を实际発揮する機会を得ること。																
授業方法と留意点	本学内での事前・事後授業と実習先での研修（3日～4週間）による。 事前・事後授業には必ず出席する事。 受け入れ企業に迷惑がかかるため、受講態度、マナーの悪いものには本プログラムへの参加を認めない。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(1) 事前事後学習 本学内で1～3回事前学習を実施し、それぞれの目標、目的を見直し、参加にあたっての心構えを作り上げる。</p> <p>(2) インターンシップ（前年の実施例、本年度は調整中）</p> <p>①空港業務訓練の体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空港旅客接客業務の新入訓練と同等の訓練の圧縮版を体験</li> <li>・3泊4日程度で実際の訓練と実務を体験</li> <li>・対象企業：ANA中部空港</li> </ul> <p>②国際貨物業務体験型インターンシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関西国際空港にて、国際貨物業務について必要な訓練を実施後、実務を体験する。</li> <li>・期間、5日間</li> <li>・対象企業：ANAカーゴ</li> </ul> <p>③ホテル業務訓練の体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテルでの新入訓練と同等の訓練の圧縮版を体験</li> <li>・4週間程度で実際の訓練と実務を体験</li> <li>・対象企業：ANAクラウンプラザ大阪</li> </ul> <p>④海外空港業務体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台北空港での空港旅客取扱業務の実践</li> <li>・4泊5日程度で実際の訓練と実務を体験</li> <li>・対象企業：ANA台北空港所</li> </ul> <p>(3) 事後指導 インターンシップ終了後、体験報告書作成について指導する。</p>																
関連科目	ホスピタリティ演習(必須)																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	各コースとも、現地研修先の評価とともに、事前・事後授業の参加状況、体験レポートを通じて総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	憧れのホスピタリティ産業。ここまで学んできた知識や感性が、実際の仕事を体験する中でどこまで通用するか実感することは今後の大きな収穫です。 是非、この機会に実際の職場にチャレンジして、自分との距離をぐっと縮めてみましょう。																
担当者の研究室等	7号館4階（エアライン・ホスピタリティプログラムルーム）																
備考	ホスピタリティ演習を受講し合格することが参加の条件になる。																

科目名	ホスピタリティ演習	科目名(英文)	Hospitality Business Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司

授業概要・目的	<p>エアライン・ホスピタリティプログラムで学んだ内容に関連して、各自が興味を持つホスピタリティ産業と呼ばれる旅行、航空、宿泊産業に関連したテーマを選定し、演習参加者で議論をして報告資料を作成し発表するグループ研究、発表の科目です。</p> <p>前年のテーマ選定例(本年は別途提示)</p> <p>①格安航空の実態とその将来性について研究し、報告する。</p> <p>②CAの本業業務と制服のありかたについて、歴史、保安業務、お客様へのサービスなどから論じる。</p> <p>③魅力ある旅行計画を作成する。世界遺産めぐり、グルメ、お宝観光資源発掘など。</p> <p>④各ホテルの成功例、失敗例などを調査して、集客力のあるホテルにするための条件を考察する。</p> <p>⑤急激に増加するアジアからの観光客の受け入れ態勢の現状と課題について研究し、将来の理想像を画策する。</p> <p>⑥ホスピタリティーって何？ホスピタリティーを考える。事例紹介など。</p>
到達目標	<p>ホスピタリティを学び、研究することにより、社会人として活躍するのに必要な心構え、業務遂行能力の基礎作りなど社会人即戦力となる能力を養うことを目標とする。</p> <p>課題のポイントをつかみ、分担する担当業務を果たす責任感、担当者間のチームワークや課題発表能力の向上を図ることで、企業説明会で主流となっているグループ面談で主導的役割を果たす力をつける。</p>
授業方法と留意点	<p>演習参加者を少人数のグループに分けます。グループ毎にテーマ選定、議論、報告資料作成を経て発表します。ひとつのテーマに3時間程度をかけて実施、1セメスターで3から4つのテーマを選択します。</p> <p>演習テーマ選定については受講者の自主性を重んじますが、明確な選定理由が必要です。</p> <p>課題発見も社会人として必要とされる能力です。</p> <p>議論をして作成された報告書を如何に効果的に発表するか、プレゼンテーション力を身につけることも重要です。</p> <p>発表の仕方についても丁寧に指導します。</p> <p>発表時には質疑応答の時間を設けます。問題点の指摘やそれに答える能力を習得します。積極的に議論に参画するよう取り組んでください。</p> <p>「ホスピタリティ演習」を受講するためには、原則として「ツーリズム論Ⅰ・Ⅱ」の2科目と「エアラインビジネス論Ⅰ」または「ホテルビジネス論Ⅰ」のいずれかの科目に合格しておかなければなりません。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>自らの責任においてテーマを選択し研究発表することによりプレゼンテーション能力を向上させることが出来る。また、共同作業実践の中で、組織での協調性を高め、チームワークによる仕事感覚を身につけることが出来るようになる。(特に公的資格取得には直接繋がらない)。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講師紹介、履修者自己紹介。演習についての説明。到達点の説明。評価方法、履修上の注意点を説明。	特になし。
	2	テーマの決定とグルーピング	各テーマの概略と到達点について講義し、今回の演習で取り上げるテーマを決定する。事例研究に向けてのグルーピングも決定する。	選択したテーマについて次回の事例研究(1)に備えて各自課題や問題点について学習する。
	3	第一回事例研究(1)	各グループに分かれてテーマに沿って議論し、到達点の確認をする。到達点に向けて、業務分担し次回の事例研究(2)に備える。	次回の事例研究(2)に備えて各自の分担分を完成させる。
	4	第一回事例研究(2)	事例研究発表に向けて、シナリオの完成。	事例研究発表に向けての事前準備。
	5	第一回事例研究発表	グループに分かれて研究内容を発表。質疑応答など。	発表準備。
	6	第一回事例研究フィードバック	研究発表についての講師からのコメント、次回へ向けての指導。第二回事例研究のテーマ選択、グルーピングの発表。	選択したテーマについて次回の事例研究(1)に備えて各自課題や問題点について学習する。
	7	第二回事例研究(1)	各グループに分かれてテーマに沿って議論し、到達点の確認をする。到達点に向けて、業務分担し次回の事例研究(2)に備える。	次回の事例研究(2)に備えて各自の分担分を完成させる。
	8	第二回事例研究(2)	事例研究発表に向けて、シナリオの完成。	事例研究発表に向けての事前準備。
	9	第二回事例研究発表	グループに分かれて研究内容を発表。質疑応答など。	発表準備。
	10	第二回事例研究フィードバック	研究発表についての講師からのコメント、次回へ向けての指導。第三回事例研究のテーマ選択、グルーピングの発表。	選択したテーマについて次回の事例研究(1)に備えて各自課題や問題点について学習する。
	11	第三回事例研究(1)	各グループに分かれてテーマに沿って議論し、到達点の確認をする。到達点に向けて、業務分担し次回の事例研究(2)に備える。	次回の事例研究(2)に備えて各自の分担分を完成させる。
	12	第三回事例研究(2)	事例研究発表に向けて、シナリオの完成。	事例研究発表に向けての事前準備。
	13	第三回事例研究発表	グループに分かれて研究内容を発表。質疑応答など。	発表準備。
	14	第三回事例研究フィードバック	研究発表についての講師からのコメント、レポート指導。	三回の事例研究を通じて得たものや反省点など各自レポート準備。
	15	まとめ	事例研究の内容、発表の仕方など反省点も含めて全員で議論。	この演習で自分はどうに成長したのか、課題を克服できたのかなど演習の成果を整理してディスカッションに望む。
関連科目	<p>ツーリズム論Ⅰ・Ⅱ、エアラインビジネス論Ⅰ、ホテルビジネス論Ⅰ ホスピタリティ・インターンシップ(希望する学生は必ずこのホスピタリティ演習を履修する事)</p>			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループ討論や作業が中心のため、出席重視します。最低 10 回以上の出席を成績評価の条件とします。 積極性、チームのとりまとめや発表能力等、演習参加姿勢等を考慮して総合的に評価する。			
学生への メッセージ	興味のある仕事について、知りたいことや疑問点などを自分で調べて研究し、答えを見つけ出すのも大きな喜びです。 常に問題意識を持って新聞やテレビニュースなどに接してください。グループディスカッションやプレゼンテーションなどは就職活動にも役立ちます。また、この後に続くホスピタリティ関連のインターンシップに参加する心構えも指導します。			
担当者の 研究室等	7号館 4階 (エアライン・ホスピタリティプログラムルーム)			
備考	「ホスピタリティ演習」を受講するためには、原則として「ツーリズム論Ⅰ・Ⅱ」の2科目と「エアラインビジネス論Ⅰ」 または「ホテルビジネス論Ⅰ」のいずれかの科目に合格しておかなければなりません。 また、ホスピタリティ・インターンシップを希望する学生は必ずこのホスピタリティ演習を履修し、合格しなければなりません。			



科目名	ホスピタリティ論	科目名(英文)	Hospitality
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沖中 美喜

授業概要・目的	<p>・現代社会では多種多様な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、ショッピング等、ホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。ホスピタリティというものに言語、文化そして、個人(消費者)からの視点など多角的にアプローチをし、ホスピタリティを生み出す為には何が求められるかについて考察し、理解を深めていく。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。</p> <p>※2015年度入学生には、観光ホスピタリティプログラム科目の一つである。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスピタリティについて学び、自ら考え、創造できるようになることを目指す。</li> <li>・コミュニケーション能力の向上</li> </ul>
授業方法と留意点	Power point と配布資料で授業を進めていき、適宜ディスカッション等も交えていく。授業の最後に、小レポートを課し提出。また、簡単な社会人としてのマナーの実習も行う。
科目学習の効果(資格)	ホスピタリティがいかに重要なものかを実感し、今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものとする。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	積極的な参加
2	ホスピタリティとは	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。	ホスピタリティとサービスの違いを考えてみる。
3	人間の感情とホスピタリティ	ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。
4	事例研究1「夢を叶えるレストラン」	ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
5	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。
6	産業の変化とホスピタリティ	サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。
7	ホスピタリティとマニュアル	お客様へ伝えるための留意点を考える。マニュアルとホスピタリティマインドについて考察する。	アルバイト先のマニュアルがどのようなものか考えてみる。
8	事例研究「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足 NO.1 のホテル例を取り上げ検証する	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験(スポーツ、アルバイトなど)を振り返る。
10	コミュニケーションの重要性	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる、
11	事例研究3「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
12	ホスピタリティマネジメント	ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。	新聞経済面を読む。
13	事例研究4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。
14	観光立国	日本の観光の現状はどうなっているのか	新聞で観光に関する記事を見つける。
15	まとめ	授業全体のまとめ	積極的な参加

関連科目  
 エアライン・ホスピタリティプログラム科目(～2014年度入学生)  
 観光ホスピタリティプログラム科目(2015年度入学生)

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
 参加度合い、毎回の小レポート、定期試験により総合的に評価する。

学生へのメッセージ  
 ・授業には適宜”社会人になる為の心得”も盛り込んでいきます。  
 ・自分の考えをまとめ、コミュニケーションを取ることは難しいと思います。誰も最初からできる人はいません。力まずに、まずは積極的に参加する!という気持ちを持って参加して下さい。する!という気持ちを大切に、受講して下さい。  
 ・この授業を終えた頃には、周りの様々なことに「気づく」ということが身についているはずです。

担当者の研究室等  
 7号館4階(坂下・沖中研究室)

備考

科目名	ホスピタリティ論 I	科目名 (英文)	Hospitality I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沖中 美喜

授業概要・目的	<p>・現代社会では多種多様な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、ショッピング等、ホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。ホスピタリティというものに言語、文化、そして、個人（消費者）からの視点など多角的にアプローチをし、ホスピタリティを生み出す為には何が求められるかについて考察し、理解を深めていく。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。</p> <p>※2015年度入学生には、観光ホスピタリティプログラム科目の一つである。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスピタリティについて学び、自ら考え、創造できるようになることを目指す。</li> <li>・コミュニケーション能力の向上</li> </ul>
授業方法と留意点	Power point と配布資料で授業を進めていき、適宜ディスカッション等も交えていく。授業の最後に、小レポートを課し提出。また、簡単な社会人としてのマナーの実習も行う。
科目学習の効果（資格）	ホスピタリティがいかに重要なものかを実感し、今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものとする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	積極的な参加
2	ホスピタリティとは	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。	ホスピタリティとサービスの違いを考えてみる。
3	人間の感情とホスピタリティ	ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。
4	事例研究1「夢を叶えるレストラン」	ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
5	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。
6	産業の変化とホスピタリティ	サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。
7	ホスピタリティとマニュアル	お客様へ伝えるための留意点を考える。マニュアルとホスピタリティマインドについて考察する。	アルバイト先のマニュアルがどのようなものか考えてみる。
8	事例研究「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足 NO.1 のホテル例を取り上げ検証する	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験（スポーツ、アルバイトなど）を振り返る。
10	コミュニケーションの重要性	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる、
11	事例研究3「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
12	ホスピタリティマネジメント	ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。	新聞経済面を読む。
13	事例研究4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。
14	観光立国	日本の観光の現状はどうなっているのか	新聞で観光に関する記事を見つける。
15	まとめ	授業全体のまとめ	積極的な参加

関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目（～2014年度入学生） 観光ホスピタリティプログラム科目（2015年度入学生）
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	参加度合い、毎回の小レポート、定期試験により総合的に評価する。
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業には適宜”社会人になる為の心得”も盛り込んでいきます。</li> <li>・自分の考えをまとめ、コミュニケーションを取ることは難しいと思います。誰しも最初からできる人はいません。力まずに、まずは積極的に参加する！という気持ちを持って参加して下さい。する！という気持ちを大切に、受講して下さい。</li> <li>・この授業を終えた頃には、周りの様々なことに「気づく」ということが身についているはずです。</li> </ul>
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階（坂下・沖中研究室）
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	ホスピタリティ論Ⅱ	科目名(英文)	Hospitality II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沖中 美喜

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ホスピタリティ」についての理解を更に深める。「ホスピタリティ」を発揮するための具体的な行動や組織・集団のあり方について考察する。</li> <li>ホスピタリティ産業に関係する事業や企業活動を取り上げながら、現代社会において「ホスピタリティ」が生み出す価値の重要性について理解する。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションの重要性を学ぶことで、その能力を高める。</li> <li>日常生活でホスピタリティを発揮するだけでなく、その分野でリードできる人材となる。</li> </ul>
授業方法と留意点	Power point と配布資料で授業を進めていき、適宜ディスカッション等も交えていく。授業の最後に、小レポートを課し提出。また、ホスピタリティを発揮するためのスキルを実習を通して学習する。
科目学習の効果(資格)	ホスピタリティがいかに重要なものかを実感し、今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものとする。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	積極的な参加
2	ホスピタリティとは?	ホスピタリティの意味を再確認する。また、ホスピタリティ産業の捉え方についても考えてみる。	ホスピタリティ1の内容を復習
3	ホスピタリティの発揮1	個人のホスピタリティの発揮について一人の人間としてどのようにあるべきなのかを考える。	ホスピタリティの高い人間について考えてみる。
4	ホスピタリティの発揮2	身だしなみ・表情など、ホスピタリティの発揮能力を更に高めていく方法について具体的な内容に触れていく。	他者とコミュニケーションをとることを意識してみる。
5	ホスピタリティの発揮3	立ち居振る舞い、言葉遣い、など、ホスピタリティの発揮能力を更に高めていく方法について具体的な内容に触れていく。	他者とコミュニケーションをとることを意識してみる。
6	ホスピタリティの発揮4	ホスピタリティの発揮と企業の間接的関係を考える。	ホスピタリティ産業について調べる。
7	ホスピタリティと評価	ホスピタリティの評価方法、評価尺度について考える。	顧客満足について調べる。
8	事例研究1「リゾートホテル」	ホスピタリティが発揮される瞬間・場面を企業側から考える。;	事例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。
9	ホスピタリティとマニュアル	ホスピタリティとマニュアルの関係について考える。	身近なお店について評価してみる。
10	事例研究2「ホテルの社員教育」	ホスピタリティを発揮するための企業の実例を見てみる。	事例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。
11	ホスピタリティとコミュニケーション	ホスピタリティを生み出すコミュニケーションとはどのようなものか、	今まで所属した組織について考えてみる。
12	事例研究3「スターバックス」	ホスピタリティ産業の中から例を取り上げ検証する。	事例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。
13	事例研究4「エンターテイメント企業」	ホスピタリティ産業の中から例を取り上げ検証する。	事例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。
14	ホスピタリティマネジメント	ホスピタリティを発揮するための全体マネジメントを考える。	ESについて調べる。
15	事例研究5「エアライン」	ホスピタリティ産業の中から例を取り上げ検証する。	事例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。

関連科目: ホスピタリティ論 ホテルビジネス エアラインビジネス

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	参加度合い、毎回の小レポート、プレゼンテーションにより総合的に評価する。
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホスピタリティ論Ⅰをもっと発展させ、ホスピタリティの発揮に重点を置きます。社会人になる前に是非、身に付けておいて欲しいことをしっかり体得してください。また、様々なホスピタリティ企業を研究してみましょう。</li> <li>力まずに、まずは積極的に参加する！という気持ちを持って受講して下さい。</li> </ul>
担当者の研究室等	7号館4階(坂下・沖中研究室)
備考	

科目名	ホテルビジネス論	科目名(英文)	Hotel Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司

授業概要・目的	ホテルに関心を持つ受講生に、その産業特性や歴史的経緯、日系・外資系ホテルの相違、現在の様々な課題について社会的・経済的背景を分かりやすく説明する。 また、事例を挙げながら、基礎的な事業知識や具体的な業務の実態について解説する。
到達目標	※2015年度入学生には、観光ホスピタリティプログラム科目の一つです。 ホテル業界での業務知識、日系・外資系ホテルの相違点などを学ぶことにより、ホテル業界で働くための知識や、どのような意識を持てば良いのか等、就業意識や社会で働く力を高める事を目標とする。
授業方法と留意点	主にパワーポイントと使用して授業する。指定する教科書はないが、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については随時受け付ける。また、授業終了時に毎回提出する小レポートに質問を記入する事も可。 日ごろからホテル関連の報道等に関心を持って接し、授業に臨んで欲しい。
科目学習の効果(資格)	観光産業に深く関わるホテル事業を学習、理解することにより、将来の進路の判断材料として役立てる事ができる (特に公的資格取得には繋がらない)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などを説明。	特になし。
2	世界の宿泊業の歴史	世界の宿泊業の歴史は古代ギリシャやローマの時代に遡る。そのような宿泊施設からホテルに発展し、その後様々な形に変化して現在に至るまでを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
3	日本の宿泊業の歴史(1)第二次世界大戦まで	日本のホテルはどのような背景で誕生し、その後発展していったのか、またその時代の社会や経済的情勢との関係を含めて、日本のホテルの歴史について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
4	日本の宿泊業の歴史(2)終戦から現代まで	前回は引き続き、太平洋戦争後から現在に至るまでのホテル歴史について、東京オリンピックや大阪万博など様々なエピソードを交えて説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
5	日本のホテル業界の現況	日本のホテル業界は、時代の変化と共に様々な問題が生じており、決して楽観視できるような環境ではない。こうした点について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
6	ホテルビジネスの特性	ホテル事業をより解り易く理解してもらうために、ホテル事業の「特性」について、様々な事例や他の事業との相違を交えながら説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
7	ホテルの経営方式	ホテルの経営についても様々な種類があり、他産業に比較し、独自の方式・形態も存在する。そうした方式・形態の特徴や問題点について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
8	チェーンビジネスの基本	ホテルは、何故チェーン化を進めるのか、またチェーンを統括する本部に必要な機能は、どのようなものなのかについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
9	世界のホテルチェーン	世界の主要なホテルチェーンの展開方式や現状を解説し、外資系ホテルチェーンの日本進出を読み解く。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
10	日本のホテルチェーン	日本にも多くのホテルチェーンが存在するが、世界のホテルチェーンとは様々な面で異なる特徴を持っている。そうした特徴や今後の方向性がどのように予測されるかを説明し、主要なホテルチェーンの概要についての説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
11	日本の宿泊産業	日本の宿泊施設には、ホテル、旅館、民宿やペンションなど実に多くの宿泊施設があり、それぞれの特徴や相違点などを説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
12	ホテルの収入構成と収益構造について	ホテルの収入構成で営業施設毎の比率・指数、ホテルの費用構成、収益構造を中心に講義を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
13	ホテルの組織と仕事(1)宿泊部門	ホテル全体の組織の説明のあと、部門別にそれぞれの組織、具体的な業務内容について講義する。今回は宿泊部門。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
14	ホテルの組織と仕事(2)料飲・宴会部門など	前回は引き続き、料飲部門、宴会部門、管理部門の組織と業務内容について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
15	まとめと特別講義	我が国の主要ホテルを例に貫かれたアイデンティティやホスピタリティに対する考え方について考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。

関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目(～2014年度入学生) 観光ホスピタリティプログラム科目(2015年度入学生)
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

  

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ホテル総論	財団法人日本ホテル教育センター	プラザ出版
	2	宿を支える女将たち	岩崎信也	柴田書店
	3	帝国ホテル物語	武内孝夫	現代書館

  

評価方法 (基準)	10回以上の出席がない場合、評価の対象とならない。 定期試験、小テストの成績やレポート評価を基本に講義参加姿勢も考慮して総合的に評価する。
学生への メッセージ	一見華やかに見えるホテル業界、その事業の実態と課題について学習します。 また、仕事の内容や求められる資質について考察します。将来の進路として考えている学生諸君にも参考になる内容です。一緒に研究しましょう。
担当者の 研究室等	7号館4階 (エアライン・ホスピタルプログラムルーム)
備考	

科目名	ホテルビジネス論 I	科目名 (英文)	Hotel Business I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司

授業概要・目的	ホテルに関心を持つ受講生に、その産業特性や歴史的経緯、日系・外資系ホテルの相違、現在の様々な課題について社会的・経済的背景を分かりやすく説明する。 また、事例を挙げながら、基礎的な事業知識や具体的な業務の実態について解説する。
到達目標	※2015年度入学生には、観光ホスピタリティプログラム科目の一つです。 ホテル業界での業務知識、日系・外資系ホテルの相違点などを学ぶことにより、ホテル業界で働くための知識や、どのような意識を持てば良いのか等、就業意識や社会で働く力を高める事を目標とする。
授業方法と留意点	主にパワーポイントと使用して授業する。指定する教科書はないが、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については随時受け付ける。また、授業終了時に毎回提出する小レポートに質問を記入する事も可。 日ごろからホテル関連の報道等に関心を持って接し、授業に臨んで欲しい。
科目学習の効果 (資格)	観光産業に深く関わるホテル事業を学習、理解することにより、将来の進路の判断材料として役立てる事ができる (特に公的資格取得には繋がらない)。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	世界の宿泊業の歴史	世界の宿泊業の歴史は古代ギリシャやローマの時代に遡る。そのような宿泊施設からホテルに発展し、その後様々な形に変化して現在に至るまでを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
3	日本の宿泊業の歴史(1) 第二次世界大戦まで	日本のホテルはどのような背景で誕生し、その後発展していったのか、またその時代の社会や経済的情勢との関係を含めて、日本のホテルの歴史について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
4	日本の宿泊業の歴史(2) 終戦から現代まで	前回は引き続き、太平洋戦争後から現在に至るまでのホテル歴史について、東京オリンピックや大阪万博など様々なエピソードを交えて説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
5	日本のホテル業界の現況	日本のホテル業界は、時代の変化と共に様々な問題が生じており、決して楽観視できるような環境ではない。こうした点について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
6	ホテルビジネスの特性	ホテル事業をより解り易く理解してもらうために、ホテル事業の「特性」について、様々な事例や他の事業との相違を交えながら説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
7	ホテルの経営方式	ホテルの経営についても様々な種類があり、他産業に比較し、独自の方式・形態も存在する。そうした方式・形態の特徴や問題点について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
8	チェーンビジネスの基本	ホテルは、何故チェーン化を進めるのか、またチェーンを統括する本部に必要な機能は、どのようなものなのかについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
9	世界のホテルチェーン	世界の主要なホテルチェーンの展開方式や現状を解説し、外資系ホテルチェーンの日本進出を読み解く。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
10	日本のホテルチェーン	日本にも多くのホテルチェーンが存在するが、世界のホテルチェーンとは様々な面で異なる特徴を持っている。そうした特徴や今後の方向性がどのように予測されるかを説明し、主要なホテルチェーンの概要についての説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
11	日本の宿泊産業	日本の宿泊施設には、ホテル、旅館、民宿やペンションなど実に多くの宿泊施設があり、それぞれの特徴や相違点などを説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
12	ホテルの収入構成と収益構造について	ホテルの収入構成で営業施設毎の比率・指数、ホテルの費用構成、収益構造を中心に講義を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
13	ホテルの組織と仕事(1) 宿泊部門	ホテル全体の組織の説明のあと、部門別にそれぞれの組織、具体的な業務内容について講義する。今回は宿泊部門。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
14	ホテルの組織と仕事(2) 料飲・宴会部門など	前回は引き続き、料飲部門、宴会部門、管理部門の組織と業務内容について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
15	まとめと特別講義	我が国の主要ホテルを例に貫かれたアイデンティティやホスピタリティに対する考え方について考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。

関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目 (～2014年度入学生) 観光ホスピタリティプログラム科目 (2015年度入学生)
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

  

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ホテル総論	財団法人日本ホテル教育センター	プラザ出版
	2	宿を支える女将たち	岩崎信也	柴田書店
	3	帝国ホテル物語	武内孝夫	現代書館

  

評価方法 (基準)	10回以上の出席がない場合、評価の対象とならない。 定期試験、小テストの成績やレポート評価を基本に講義参加姿勢も考慮して総合的に評価する。
学生への メッセージ	一見華やかに見えるホテル業界、その事業の実態と課題について学習します。 また、仕事の内容や求められる資質について考察します。将来の進路として考えている学生諸君にも参考になる内容です。一緒に研究しましょう。
担当者の 研究室等	7号館4階 (エアライン・ホスピタルプログラムルーム)
備考	

科目名	ホテルビジネス論Ⅱ	科目名(英文)	Hotel Business II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司

授業概要・目的	ホテル業をはじめとする宿泊産業に関心を持つ受講生に、ホテルマネジメント、ホテルマーケティングを大きなテーマとして取り上げ、宿泊業経営に関する知識、現状とその将来性について説明する。宿泊業経営を理解することで、経営の基礎、一般論を学ぶ。また世界中の有名なクラシックホテルについても紹介する。
到達目標	宿泊業について主として経営面から考察し、理解する。ホスピタリティー産業である宿泊業の経営を例に、「会社」という組織がどのような活動をしているか、経営の基礎を学び、課題認識を持って就業意欲を高めることを目標とする。
授業方法と留意点	主にパワーポイントを使用しての授業となる。教科書は特に指定しないが、授業が良く理解できるように、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。質問については随時受け付ける。また、授業終了時に毎回提出する小レポートに質問を記入することも可。最新の状況や事情を授業に取り入れて行くので、常にホテル関連の報道等に関心を持って接し、授業に臨んで欲しい。
科目学習の効果(資格)	ホテルという事業を例に企業の経営活動の概要を学習する。ホスピタリティー産業の代表ともいえるホテル事業の経営活動や業務内容を学び、そこで働く人材に求められる資質を考察することにより、各自の進路決定にあたり一つの判断材料に資することが出来る(特に公的資格には直接つながらない)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ホテル業の社会的な役割と意義-1(位置づけと役割)	第3次産業の中で宿泊産業はどのような位置づけにあるのか、また社会的にはどのような役割が期待されているのかを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
3	ホテル業の社会的役割と意義-2(ホテル業の意義)	ホテル業を取り巻く時代・社会的な環境変化がどのような影響をホテル経営に及ぼすのか、そしてホテル業の意義とはどのようなものかを解かり易く解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
4	ホテル業の課題	我が国のホテル業界は新しいニーズに応えられるのか、高齢者、女性、環境問題に対応できるのか、外客接遇の質は向上しているのかなど現代のホテル業界が抱える様々な課題を具体的に解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
5	ホテル業の将来性	近年、様々な新しい動きが見られるようになったホテル業界、新たなホテルの役割や価値を創出しようという試みのように見受けられる。ホテル業界は、今後どのような動向を示すのか説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
6	ホテル業の経営・事業	一般論として経営と事業の定義について解説し、ホテル業における経営特性や経営・事業資源について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
7	ホテルの組織と人事・労務管理-1(組織と人事管理)	ホテル業の組織を理解することにより、ホテル業における人事・労務管理面での特性を明らかにするとともに課題への対応策についても学習する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
8	ホテルの組織と人事・労務管理-2(労務管理と人材育成)	有用な人材を育成するためにどのような労務管理がなされているか所定労働時間や福利厚生についても解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
9	ホテル業の財務・会計管理	ホテルの売上と支出にはどのようなものがあり、原価管理・原価計算とはどのようなものなのか、財務管理と会計管理について基本的な事項を解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
10	仕入管理と施設管理	ホテル経営に対する効率化に重大な役割を果たす仕入管理と施設管理について解かり易く解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
11	防犯・防災・衛生管理	ホテルには利用者の生命・財産やプライバシーを守る社会的使命があり、そのために防犯・防災・衛生管理など管理業務が強化されており、それらの基本的な対応ポイントを学習する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
12	ホテルマーケティングの基本-1(企画から開業まで)	ホテルマーケティングを学ぶにあたり、その基本となる考え方やマーケティングの構成要因の概要などについて解説し、ホテル開業までのマーケティング活動について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
13	ホテルマーケティングの基本-2(開業後)	ホテルのセールス活動とはどのようなものか、またホテルの安定かつ発展的な経営の継続に必要な不可欠なホテル開業後のマーケティング活動のポイントとなる業務について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
14	顧客満足と従業員満足	顧客満足とは何か、顧客満足の最大化が企業にどのように貢献するのか、その最大化と従業員満足の関係について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。
15	ホテルの社会的責任	今、ホテル業界が問われている社会的責任とは何か、経済、社会、環境の観点か	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。



			ら論じる。	
関連科目	ツーリズム論Ⅰ・Ⅱ ホテルビジネス論Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代ホテル経営の基礎理論	岡本伸之	柴田書店
	2	ホテル	中村正人	産学社
	3	ホテルブランド物語	寺田直子	角川書店
評価方法 (基準)	定期試験、ミニテストの成績、適宜レポート評価を基本に、講義参加姿勢等も考慮して総合的に評価する。 最低10回以上の出席を成績評価の条件とする。			
学生への メッセージ	ホテルビジネス論Ⅰに比べてより経営の立場からの授業になります。 企業経営の概要を知ることはホテル業界に限らず、どの業界においても重要ですが、特にホスピタリティ産業の経営を知ることにより、求められる知識や資質を知ることは今後の進路選択の重要な要素となります。是非チャレンジしてください。			
担当者の 研究室等	7号館4階(エアライン・ホスピタルプログラムルーム)			
備考	ホテルビジネス論Ⅰを受講していることが望ましいが履修条件ではない。			

科目名	ボランティア論	科目名(英文)	Volunteerism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一

授業概要・目的	本講義では国際ボランティアを、一過性のイベントとしてとらえるのではなく、自分自身を見つけるチャンスとし、それを将来的に活用する。国際 NGO、NPO、JICA ボランティア 青年海外協力隊や民間ボランティア等の現場を素材にケーススタディを行い、国際的 社会常識と知識を深める。国際貢献プログラム科目。																																																																		
到達目標	ボランティアの定義・理念、ボランティア活動に関する基礎的知識を習得する。																																																																		
授業方法と留意点	ビデオ・スライドを多様してビジュアルに国際ボランティアの現状を知る。各講義の最後 15～20 分間は、質疑応答の時間とする。																																																																		
科目学習の効果(資格)	日本の立場を国際的な視野から見る。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクションと授業内容概要</td> <td>授業の目的や方針を確認し、全体の流れ(起承転結)を知る</td> <td>—————</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>(起-1) ボランティア</td> <td>ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>(起-2) 国際理解</td> <td>なぜ貧困に悩まされているのかを知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>(起-3) 国際協力</td> <td>国際協力とは何かを知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>(承-1) 貧困の現状把握</td> <td>貧困で悩んでいる国々の現状を知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>(承-2) 国際協力の現状把握</td> <td>どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア</td> <td>国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>(転-2) 国際ボランティア(青年海外協力隊)</td> <td>国際ボランティア(青年海外協力隊)になるにはどうしたら良いのかを知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>(転-3) 国際ボランティア(国連ボランティア)</td> <td>国際ボランティア(国連ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>(転-4) 国際ボランティア(NGO ボランティア)</td> <td>国際ボランティア(NGO ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって</td> <td>国際ボランティアとしての自覚と次へのステップ</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>(結-2) 自分に何ができるのか</td> <td>ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>(結-3) 更なる発展に向けて</td> <td>ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>今後の課題</td> <td>ボランティア活動の諸問題と克服について知る</td> <td>前回の復習と、次回への展開</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括的確認(必ず出席すること)</td> <td>これまでに学んできたことについて総合的判断を行う</td> <td>—————</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクションと授業内容概要	授業の目的や方針を確認し、全体の流れ(起承転結)を知る	—————	2	(起-1) ボランティア	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	前回の復習と、次回への展開	3	(起-2) 国際理解	なぜ貧困に悩まされているのかを知る	前回の復習と、次回への展開	4	(起-3) 国際協力	国際協力とは何かを知る	前回の復習と、次回への展開	5	(承-1) 貧困の現状把握	貧困で悩んでいる国々の現状を知る	前回の復習と、次回への展開	6	(承-2) 国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	前回の復習と、次回への展開	7	(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア	国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る	前回の復習と、次回への展開	8	(転-2) 国際ボランティア(青年海外協力隊)	国際ボランティア(青年海外協力隊)になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開	9	(転-3) 国際ボランティア(国連ボランティア)	国際ボランティア(国連ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開	10	(転-4) 国際ボランティア(NGO ボランティア)	国際ボランティア(NGO ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開	11	(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次へのステップ	前回の復習と、次回への展開	12	(結-2) 自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする	前回の復習と、次回への展開	13	(結-3) 更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	前回の復習と、次回への展開	14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	前回の復習と、次回への展開	15	総括的確認(必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	—————
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクションと授業内容概要	授業の目的や方針を確認し、全体の流れ(起承転結)を知る	—————																																																																
2	(起-1) ボランティア	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	前回の復習と、次回への展開																																																																
3	(起-2) 国際理解	なぜ貧困に悩まされているのかを知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
4	(起-3) 国際協力	国際協力とは何かを知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
5	(承-1) 貧困の現状把握	貧困で悩んでいる国々の現状を知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
6	(承-2) 国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
7	(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア	国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
8	(転-2) 国際ボランティア(青年海外協力隊)	国際ボランティア(青年海外協力隊)になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
9	(転-3) 国際ボランティア(国連ボランティア)	国際ボランティア(国連ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
10	(転-4) 国際ボランティア(NGO ボランティア)	国際ボランティア(NGO ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
11	(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次へのステップ	前回の復習と、次回への展開																																																																
12	(結-2) 自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする	前回の復習と、次回への展開																																																																
13	(結-3) 更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	前回の復習と、次回への展開																																																																
14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	前回の復習と、次回への展開																																																																
15	総括的確認(必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	—————																																																																
関連科目	国際貢献プログラム科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際協力国際交流ハンドブック 基礎から実践へ</td> <td>浅野英一</td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際協力国際交流ハンドブック 基礎から実践へ	浅野英一	実教出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	国際協力国際交流ハンドブック 基礎から実践へ	浅野英一	実教出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	記述式小テストや小レポートにより総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	前期の国際協力論を履修することでこの講義内容が理解しやすくなる。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	翻訳文化論	科目名(英文)	Translation and Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小川 豊生

授業概要・目的	<p>〈翻訳〉には、たんにある外国語から別の言語へと移し変えるということだけではなく、豊かな文化的な営みが含まれている。〈翻訳〉を〈文化〉の問題としてとらえ、日本で〈翻訳文化〉が登場する歴史的な流れや、新しい翻訳語創造のプロセス、名訳の誕生のいきさつなど、多角的に探究する。日本文化のなかで「翻訳」がいかに大切な問題であったかを深く理解してほしい。</p> <p>※2015年度入学生には、外国語専門職プログラム科目の一つである。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 翻訳によって形づくられてきた文化の様々な問題について知識を深める。</li> <li>・ 文化的な諸問題への関心を高めることによって外国語学習への意欲を促進する。</li> </ul>			
授業方法と留意点	講義とノートを中心にすすめる。外国語の修得を目的とした授業ではないことに留意してほしい。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「翻訳文化」とはなにか	〈翻訳〉を、文化の問題としてとらえる視点をもつことの大切さについて概説する。	・ 指示された重要語のリサーチ ・ ノート整理と自主課題提出
	2	翻訳のはじまり 1 中国文化の受容と翻訳	翻訳のはじまりについて古くさかのぼり歴史的に探求する。	・ 指示された重要語のリサーチ ・ ノート整理と自主課題提出
	3	翻訳のはじまり 2 キリシタンと翻訳	キリシタンがなった役割は翻訳文化という側面にとってもきわめて重要な意義がある。物語や辞書づくりのなかにその足跡をたどる。	・ 指示された重要語のリサーチ ・ ノート整理とポイントの明確化
	4	江戸の翻訳文化	前近代において〈翻訳〉はどのような形で生まれたか、江戸時代の具体的な事例(『解体新書』)をとりあげて探究する。	・ 指示された重要語のリサーチ ・ ノート整理と自主課題提出
	5	明治の翻訳文化 1	『西洋事情』や外国語辞書の誕生の問題をとりあげて、明治の翻訳文化の諸相を探究する。	・ 指示された重要語のリサーチ ・ ノート整理と自主課題提出
	6	明治の翻訳文化 2	日本の近代化にあたって、社会と文化に大きな影響を与えた明治期の翻訳について、多角的に学ぶ。明治の翻訳の事例を具体的にとりあげ、異文化遭遇の現場を検証する。	・ 指示された重要語のリサーチ ・ ノート整理と自主課題提出
	7	明治の翻訳文化 3	現代日本語に不可欠な翻訳語を取り上げ、その翻訳事情について追究する。	・ 指示された重要語のリサーチ ・ ノート整理とポイントの明確化
	8	外国人のみたイメージとしての「日本」 1	日本を海外に翻訳紹介した人々について「文化の翻訳」という観点から探求する。	・ 指示された重要語のリサーチ ・ ノート整理とポイントの明確化
	9	外国人のみたイメージとしての「日本」 2	日本を海外に翻訳紹介した人々について「文化の翻訳」という観点から探求する。	・ 指示された重要語のリサーチ ・ ノート整理と自主課題提出
	10	難語の翻訳	「日本らしさ」をいかに翻訳するか、いくつかの難語をテーマに考察する。	・ 指示された重要語のリサーチ ・ ノート整理とポイントの明確化
	11	映画字幕の世界	映画字幕の翻訳が生まれるプロセスを学び、現代のサブカルチャーにおける翻訳の意義について考察する。	・ 指示された重要語のリサーチ ・ ノート整理と自主課題提出
	12	歌詞と翻訳	歌詞がどのように翻訳されているか、事例をあげながら考察し、サブカルチャーにおける翻訳の意義について考える。	・ 指示された重要語のリサーチ ・ ノート整理とポイントの明確化
	13	翻訳と日本文学	俳句や古典作品、小説など名作の翻訳例を通して、翻訳文化の厚みと困難について認識を深める。	・ 指示された重要語のリサーチ ・ ノート整理と自主課題提出
	14	漫画の翻訳	翻訳テキストを例に、原文と訳文とのズレを発見・分析し、異文化理解のあり方について探究する。	・ 指示された重要語のリサーチ ・ ノート整理と自主課題提出
	15	総合評価授業	講義全体のまとめをおこない、修得度確認のための総合問題を解く。	—————
関連科目	学部で開講されている文化科目。 2015年度入学生には、特に外国語専門職プログラム科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『翻訳と日本文化』	芳賀徹編	山川出版社
	2			
	3			
評価方法(基準)	総合評価授業における総合問題、および自主課題レポート・ミニ確認問題などを総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	外国語を文化の問題としてとらえる目を養ってほしい。			
担当者の研究室等	7号館4階(小川研究室)			
備考	事前・事後の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。			

科目名	翻訳文化論	科目名(英文)	Translation and Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小川 豊生

授業概要・目的 (翻訳)には、たんにある外国語から別の言語へと移し変えるということだけではなく、豊かな文化的な営みが含まれている。(翻訳)を(文化)の問題としてとらえ、日本で(翻訳文化)が登場する歴史的な流れや、新しい翻訳語創造のプロセス、名訳の誕生のいきさつなど、多角的に探究する。日本文化のなかで「翻訳」がいかに大切な問題であったかを深く理解してほしい。なお、2015年度入学生については、この科目は外国語専門職プログラム科目です。

到達目標  
・翻訳によって形づくられてきた文化の様々な問題について知識を深める。  
・文化的な諸問題への関心を高めることによって外国語学習への意欲を促進する。

授業方法と留意点  
講義とノートを中心にすすめる。外国語の修得を目的とした授業ではないことに留意してほしい。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	「翻訳文化」とはなにか	(翻訳)を、文化の問題としてとらえる視点をもつことの大切さについて概説する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
2	翻訳のはじまり1 中国文化の受容と翻訳	翻訳のはじまりについて古くさかのぼり歴史的に探求する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
3	翻訳のはじまり2 キリシタンと翻訳	キリシタンがなった役割は翻訳文化という側面にとってもきわめて重要な意義がある。物語や辞書づくりのなかにその足跡をたどる。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理とポイントの明確化
4	江戸の翻訳文化	前近代において(翻訳)はどのような形で生まれたか、江戸時代の具体的な事例(『解体新書』)をとりあげて探究する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
5	明治の翻訳文化1	『西洋事情』や外国語辞書の誕生の問題をとりあげて、明治の翻訳文化の諸相を探究する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
6	明治の翻訳文化2	日本の近代化にあたって、社会と文化に大きな影響を与えた明治期の翻訳について、多角的に学ぶ。明治の翻訳の事例を具体的にとりあげ、異文化遭遇の現場を検証する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
7	明治の翻訳文化3	現代日本語に不可欠な翻訳語を取り上げ、その翻訳事情について追究する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理とポイントの明確化
8	外国人のみたイメージとしての「日本」1	日本を海外に翻訳紹介した人々について「文化の翻訳」という観点から探求する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理とポイントの明確化
9	外国人のみたイメージとしての「日本」2	日本を海外に翻訳紹介した人々について「文化の翻訳」という観点から探求する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
10	難語の翻訳	「日本らしさ」をいかに翻訳するか、いくつかの難語をテーマに考察する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理とポイントの明確化
11	映画字幕の世界	映画字幕の翻訳が生まれるプロセスを学び、現代のサブカルチャーにおける翻訳の意義について考察する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
12	歌詞と翻訳	歌詞がどのように翻訳されているか、事例をあげながら考察し、サブカルチャーにおける翻訳の意義について考える。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理とポイントの明確化
13	翻訳と日本文学	俳句や古典作品、小説など名作の翻訳例を通して、翻訳文化の厚みと困難について認識を深める。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
14	漫画の翻訳	翻訳テキストを例に、原文と訳文とのズレを発見・分析し、異文化理解のあり方について探究する。	・指示された重要語のリサーチ ・ノート整理と自主課題提出
15	総合評価授業	講義全体のまとめをおこない、修得度確認のための総合問題を解く。	—————

関連科目 外国語専門職プログラム科目(2015年度入学生)および学部で開講されている文化科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『翻訳と日本文化』	芳賀徹編	山川出版社
2				
3				

評価方法(基準) 総合評価授業における総合問題、および自主課題レポート・ミニ確認問題などを総合的に評価する。

学生へのメッセージ 外国語を文化の問題としてとらえる目を養ってほしい。

担当者の研究室等 7号館4階(小川研究室)

備考 事前・事後の学習は、それぞれ2時間ずつ、総時間60時間を目安とする。

科目名	マイノリティー論	科目名(英文)	Minority Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一

授業概要・目的	マイノリティーの問題について、様々な観点から、いくつかのトピックを取り上げて考察する。歴史的な観点、世界史的な観点からの考察と、現在の日本における問題の双方を取り上げる。
到達目標	マイノリティーの問題の多様性を理解する。 マイノリティーと差別の問題との関連性を理解する。 マイノリティーに対する自分自身の立場をはっきりさせ、差別のない社会を作るためにはどうしたらよいか、自分なりの考えを持つ。
授業方法と留意点	講義形式で行う。適宜、資料を配付する。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	マイノリティー問題の概括	マイノリティー問題を扱う理論的枠組み マイノリティー問題の2つのベクトル、差別と支配について	2回の授業内容をまとめる。
3	マイノリティー問題の原型としての「いじめ」問題	様々なレベルでの「いじめ」について考える。	「いじめ」問題に対する自分の考えをまとめる。
4	日本の差別問題(1)	日本において歴史的な背景の下に、どのような差別が行われてきたかについて、考える。 階級差別としての部落問題。 部落問題の歴史と現状。	差別問題に対する解決策について各自で掘り下げ、まとめる。
5	日本の差別問題(2)	ヤクザないしは暴力団の問題を考える。 国家権力とアウトローの衝突	事前に指示された映画を見る。 ヤクザ映画の人気はどこに理由があるのかを考えて、各自の意見をまとめる。
6	日本の差別問題(3)	在日コリアン、琉球、アイヌの人たちと「日本人」との関係について考える。	事前に指示された映画を見る。
7	ジェンダーの問題	ジェンダーとは何か。	身近にあるジェンダーの問題について取り上げて、自分の考えをまとめる。
8	セクシュアル・マイノリティーの問題(1)	LGBT(性的マイノリティー)とは何か LGBTに対する偏見と誤解の歴史 LGBTの現在	同性愛を扱った資料をあらかじめ見ておく。
9	セクシュアル・マイノリティーの問題(2)	日本におけるLGBTへの差別 世界におけるLGBTへの差別	授業内容をまとめておく。
10	セクシュアル・マイノリティーの問題(3)	LGBTと社会の関わり カミングアウトとLGBTの祭典	授業内容を整理して、LGBTへの差別に対する自分の考えをまとめる。
11	ユダヤ人問題(1)	ユダヤ人問題の社会的・経済的側面 近代におけるユダヤ人問題 ナチスとユダヤ人虐殺	授業内容を整理しておく。
12	ユダヤ人問題(2)	ユダヤ人問題の現在 アメリカにおけるユダヤ人勢力 差別から支配への転換 イスラエルの建国とユダヤ問題 民族紛争とマイノリティ	授業内容を踏まえた上で、ユダヤ人問題についてまとめる。
13	フランスにおけるマイノリティー問題	共和制の理念と現実の乖離 イスラム系移民の問題 極右勢力の伸張	授業内容を踏まえて、フランスの共和制の理念と現実との矛盾についてまとめる。
14	アメリカにおけるマイノリティーの問題	黒人問題 ネイティブ・アメリカン問題 黄色人種問題	授業内容を踏まえて、アメリカにおける人種差別の問題についてまとめる。
15	まとめ	人種・階級とマイノリティの関係についてまとめる。	これまでの授業内容をまとめておく。

関連科目	多文化の共生
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内でのレポート・平常点(40%)と授業後のレポート課題(60%)
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	マイノリティの問題は、突きつめると、人間らしく生きるということはどういうことなのかという問題に突き当たることを理解して欲しい。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階
----------	-------

備考	講義の内容・評価方法等は、受講生の数などに応じて変更する可能性がある。変更の際には、講義中に通知する。 事前事後学習におよそ60時間必要。
----	--

科目名	マスコミ論	科目名(英文)	Mass Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司

授業概要・目的	「マスコミとは何か」という基本的な問いかけを軸に、マスコミの役割や機能、個人や社会にもたらす影響などについて理解する。一方で、「報道とは何か」というジャーナリズムの根幹やその変遷について考え、マスコミの将来について考えたい。
到達目標	この科目はメディアビジネスプログラム科目です。 マスコミの基本的な役割を理解し、新聞記事やテレビニュース、ネット情報などを、メディアリテラシーに基づき、判断ができる能力の開発を目指す。
授業方法と留意点	一方的な講義型授業ではなく、学生との対話やグループディスカッションや作業などを重視した双方向型の授業を目指したい。毎回、課題を設定し、学生自らが考え、自説を発表したり、書いたりする学生参加型授業を実践する。
科目学習の効果(資格)	マスコミを理解することによって、事態をうのみにするのではなく、リテラシー能力を持って、自分の考えをつくることことができる。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	この科目の狙いや進め方、評価方法などを説明する。	新聞やテレビニュースなどに触れる。
2	マスコミって何だろう1	マスコミの現状を知る マスコミとマスメディア SNSはマスコミか	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。	
3	マスコミって何だろう2	新聞記事を基に5W1Hを考える	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。	
4	マスコミって何だろう3	ニュース記事を書いてみる 5W1Hを意識して書く 発信する責任 事実を考えるうえで主観と客観を意識する	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。	
5	振り返り	これまでの内容を振り返り、「マスコミとは何か」という自分の考えをまとめる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。	
6	報道を考える1	多面的報道型とオピニオン型の違いや新聞とテレビの違いを理解する。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。	
7	報道を考える2	客観報道の意味を考え、事実と真実の関係を理解する。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。	
8	報道を考える3	ジャーナリストはなぜ疑り深いのか、を考える。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。	
9	振り返り	これまでの内容を振り返り、マスコミに対する自分の意見をまとめる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。	
10	報道と情報1	ネット情報を読み解く。ネット情報は玉石混交、情報の確度を考える。 四つの疑問(①事実か印象か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。	
11	報道と情報2	誤報とやらせや「伝える」と「伝わる」を考える。 四つの疑問(①事実か印象か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。	
12	報道と情報3	informationとinteligencenの違い 四つの疑問(①事実か印象か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。	
13	報道と情報4	民主主義を守る報道、権力監視という役割を考える。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。	
14	振り返り	情報と報道の違いを意識して、論説文を書いてみる。	あらゆる媒体に触れ、自分の意見を構築してみる。	
15	全体のまとめ	学んだことを踏まえ、改めて「マスコミとは何か」という自分の考えをつくる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。	

関連科目	メディアビジネスプログラム科目
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題・レポート(70%)、授業への取り組みなど(30%)により、総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	巷にあふれる情報をいかに取り入れ、正しく判断するか、を考える機会にしたいと思っています。スマホなどのネット情報だけではなく、新聞、テレビ、雑誌など幅広い媒体に興味を持つきっかけにしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師控室) 学習支援センター
----------	-------------------------

備考	
----	--

科目名	マレー語圏トピックス	科目名(英文)	Topics in the Malay-speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ノレハ ビンティ

授業概要・目的	この講義では、マレー語、マレー文化、マレー系の人々について、具体的な生活場面を題材に取り上げながら学んでいきます。とくに現代を生きる「普通の人々」のライフスタイルや文化について詳しく紹介します。同時に、たんにマレーシアについての知識を増やすというだけではなく、マレー語の実践的な会話を身につけることも目指します。
到達目標	マレー語とその社会・文化的背景について理解する。
授業方法と留意点	授業は教員の講義と受講者とのやりとり(会話)という形式で進めます。やりとりはなるべくマレー語をもちいることで、受講者の会話力の向上をはかります。
科目学習の効果(資格)	マレー語の実践的な会話力とマレー文化についての詳しい知識が身につきます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	人と知り合う	1. 人と知り合うときに使う言葉(初対面の人の場合、年長者、男性、女性、同じ歳の人の場合)、 2. 人に尋ねる言葉(なにかを尋ねる言葉、人と知り合ったときの丁寧な言葉)を理解する。	既習事項の確認
2	マレーシアの新聞を読む	新聞を使ってマレーシアの社会状況について解説するとともに、ニュースのなかで使われる言葉を理解する。また、ニュースのカテゴリー、ニュースの説明のあり方について概説する。	練習問題
3	新聞で使われる言葉	マレーシアの新聞で使われている語彙を用いて、実際に短いニュースを書く。	練習問題
4	話し言葉	毎日の生活のなか(普通の人と話を、市場の言葉)でのマレー語の使用について理解する。また、地方の言葉について概観する。	練習問題
5	言葉の話し方・使い方	マレー社会における 1. 適切な話し言葉(言葉を使うさいの正しい発音、話すときの丁寧な言葉)、2. 慣習と言葉について理解する。	練習問題
6	雑誌の言葉づかい	マレーシアで発行されている女性雑誌、若者雑誌、イスラーム雑誌のそれぞれを読み、どのような言語が使われているかを知る。	練習問題
7	イスラームのなかのマレー語	1. イスラーム社会の言葉、2. アラビア語の影響、3. マレー社会のなかのイスラームについて概説する。	練習問題
8	多民族社会のなかのマレー語	1. マレー語とさまざまな言語との関連、2. マレーシアにおける毎日の生活での言葉づかい、3. 多民族社会での日常生活について解説する。	練習問題
9	手紙の言葉づかい	手紙を書くときにだけ使われる言葉や書式について概説したあと、実際に手紙を書いてみる。	練習問題
10	マレー料理で使われる言葉	マレーシアにおける毎日の食べ物や調理器具、調理方法についての語彙を紹介する。	練習問題
11	状況に応じた言葉づかい	マレー社会における喜怒哀楽の表現や、感情を表す婉曲的なマレー語表現について理解する。	練習問題
12	マレー語表現演習 1	マレー語作文の書式や修辭について概説した後、マレーシアの文化に関連する主題を設定して文章作成を行う。	練習問題
13	マレー語表現演習 2	作成した作文や用意したテキストを読み、内容を理解したうえで、内容について受講者相互で議論する。	練習問題
14	マレー語表現演習 3	受講者の将来の仕事、実現するための努力、家族のことなどをマレー語で表現し、相互に意見交換を行う。	練習問題
15	まとめ	これまでの授業をふまえて主題を設定して受講者間で討論	練習問題

関連科目 総合マレー語 a&b、時事インドネシア・マレー語 a、実践インドネシア・マレー語 b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 平常点とレポートで評価します。

学生へのメッセージ 積極的に授業に参加して下さい。この授業が皆さんにとって「知らない世界」への扉になることを望んでいます。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考

科目名	ミュージアムコレクション論	科目名(英文)	Studies on Museum Collections
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩間 香

授業概要・目的	博物館資料は博物館になくてはならないものである。本講義では、博物館資料の種類や特質、及び、その収集・整理・保管の理論や方法を具体的に講義する。美術、歴史、民俗、考古など博物館の多様な資料について、基礎的な知識を身に付けることが目的である。この授業では博物館資料が専門的な知識やデータの裏付けにより収集され展示されていることを学ぶことになる。これらの知識は博物館における仕事に不可欠であるほか、日本の文化を学んだり、美術品を鑑賞する上でも大変に役に立つ。
到達目標	多様な博物館資料に関する基礎的な知識を身につける。それらの特性を知り、保存上の注意についての基礎的な知識を身につける。博物館・美術館で実物に接して、その種類や特性が分かるようになる。
授業方法と留意点	毎回レジメを配布して、スライドを用いながら講義を進める。博物館・美術館における臨地講義も実施する。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格の取得(必修科目)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	博物館資料の種類	博物館資料にはどのような種類があるかを概説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
2	絵画資料について	油絵、日本画、水彩画、パステル画などの絵画資料の種類と特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
3	彫刻資料について	仏像、近代彫刻、インスタレーションなどの彫刻資料の素材、特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
4	工芸資料について	陶磁、漆芸、染織、金工、ガラスなどの工芸資料の種類と特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
5	民俗・民族資料について	民具、記録など民俗・民族資料の種類と特性を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
6	歴史資料について	古文書、遺跡、遺物などの歴史資料を解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
7	考古資料について	発掘品、遺跡などの考古資料について解説する。	事前：教材ホルダからプリントをダウンロードして語句の意味を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
8	模型について	博物館における模型の種類と活用について解説する。	事前：WEBで博物館の模型の実例を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
9	映像について	博物館における映像資料の種類と活用について解説する。	事前：WEBで博物館の映像資料の実例を調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
10	資料の収集	博物館のコレクションの成り立ちについて解説する。	事前：WEBで博物館の収集方法について調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
11	資料の分類・整理	博物館における資料の分類と整理の方法を解説する。	事前：WEBで博物館の資料の分類について調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
12	資料の活用	目録の作成、資料の貸出し、特別利用など多様な資料活用について解説する。	事前：WEBで博物館の資料活用について調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
13	資料の公開	出版やインターネットを介しての資料公開について解説する。	事前：WEBで博物館の資料公開について調べる。(90分)	事後：ノートの整理をして不明点を調べる。(90分)
14	博物館見学	博物館資料の展示・収蔵について実際に見学する。	事前：WEBで見学先の博物館について調べる。(90分)	事後：レポートをまとめる。(90分)
15	博物館見学	博物館資料の展示・収蔵について実際に見学する。	事前：WEBで見学先の博物館について調べる。(90分)	事後：レポートをまとめる。(90分)

関連科目	博物館科目
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小レポート30% 定期試験70% 受講態度を加味する。
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	各地にさまざまな博物館があります。できるだけ多くの博物館に行き、実際に展示された資料を見てください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階(岩間研究室)
----------	--------------

備考	
----	--



科目名	ミュージアムへの招待	科目名(英文)	Introduction to Museum Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷直樹

授業概要・目的	現在、歴史博物館・美術館・文学館・記念館・動物園・水族館など博物館とその類似施設は全国に5700館以上あります。かつて「博物館行き」という言葉は古くさいものの代名詞でしたが、今日、博物館はその姿を大きく変えています。カラフルなシンボル展示、IT技術を駆使した映像展示、実物大の家を再現した体感型展示、様々な参加型プログラムなど、おしゃれて楽しめる施設へと変化しつつあります。またミュージアムグッズも図録だけでなく、Tシャツ・ぬいぐるみ・菓子などオリジナル商品を豊富に揃えている館が少なくありません。博物館とは何か、これからどう変化していくのかを、その歴史や現状を学びながら考えていきましょう。
到達目標	博物館は現代社会と無縁ではありません。博物館が収集した様々なコレクションは、現代だけでなく未来社会の知的生産活動に様々なヒントを与えてくれます。受講生の皆さんも、単に博物館を見学に行くだけでなく、博物館資料の活用や、ボランティア活動などに参加して、さらに博物館を中心とした生涯学習の担い手に成長してほしいものです。
授業方法と留意点	パワーポイント・ビデオなどを随時使用して、臨場感にあふれたビジュアルな講義にします。また教室内だけではなく、実際に新しい魅力的な博物館を見学します。現地見学の交通費や入館料は受講者負担になります。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	博物館とは何か	話題の博物館紹介。記憶に残る博物館・展覧会。資格取得の条件・諸注意。	旅先などで博物館や美術館の見学をする習慣をつけてください。
2	日本の博物館 1	動物園ランキング(旭山動物園と天王寺動物園)、水族館ランキング(美ら海水族館と海遊館)	子どものころに行った動物園・水族館と、最近の動物園・水族館を比較してください。
3	日本の博物館 2	美術館(近代美術館と現代美術館)、自然史系博物館(琵琶湖博物館と大阪市立自然史博物館)、歴史系博物館(大阪歴史博物館と大阪くらしの今昔館)	美術館の特別展をのぞいてみてください。
4	日本の博物館 3	野外博物館(明治村、北海道開拓の村、四国村、おきなわ郷土村、まちぐるみ博物館)	町並み保存やまちおこしも野外博物館のヒントになります。
5	日本の博物館 4	企業ミュージアム(月桂冠大倉記念館、横浜ラーメン博物館、インスタントラーメン発明記念館、くすりのまち道修町資料館、大学博物館など)。実際の博物館を見学します。詳細は講義の中で指示します。	近くにある企業ミュージアムを訪ねてください。
6	博物館法を読む	博物館の定義と種類。博物館法、博物館法施行規則、公立博物館に関する法律。博物館の機能、展示資料による分類、設置者による分類、制度による分類	博物館法は事前事後によく読んでください。
7	博物館をつくる 1	博物館構想の策定、資料の収集と保管、調査と研究、展示と学習	博物館に行ったら、展覧会を見るだけでなく、どんな仕事をしているのかよく観察してください。
8	博物館をつくる 2	博物館の設計、博物館の空間(エントランス、展示室、収蔵庫、学習室、ミュージアムショップ、レストラン、学芸員室、事務室、駐車場、動線計画、設備計画)。博物館のバックヤード見学は講義の中で指示します。	博物館に行ったら、どんな部屋があるのか、案内図を確認してください。
9	博物館の展示	常設展示の概要	博物館の展示(とくに常設展示)を時間かけて見学してください。
10	博物館の展示	企画展示とは何か	最近話題になった特別展示を紹介しあい、一度は見学してください。
11	博物館と生涯学習	こどもと博物館、高齢者と博物館、大学生と博物館、観光・まちづくりと博物館	地域社会における博物館の役割を考えてください。
12	博物館の歴史	日本と世界の博物館ランキング。	友達どうして、これまでに見学した博物館の中で、面白かった博物館や展覧会を紹介しよう。
13	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。
14	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。
15	現地見学	講義の中で指示	大阪で話題の博物館を見学する。3コマ分なので欠席しないこと。日程は初回の講義で決めます。入館料は別途徴収。

関連科目 博物館学Ⅱ・Ⅲ、教育原理、視覚芸術論、生涯学習論が学芸員資格の必修科目。その他の関連科目。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 定期試験(筆記)の成績(100%)で評価します。

(基準)	
学生へのメッセージ	博物館に行ったことがないという人がいますが、それは間違いです。歴史資料館や美術館に行ったことがなくても、動物園や水族館には行ったことがあるはず。実は、動物園も水族館も博物館なのです。これからの博物館は、知的な好奇心を満足させてくれる楽しいところを目指しています。この博物館を企画・運営している専門職員が学芸員です。少しでも博物館に興味があるなら、受講してください。学芸員資格を取るには、4年生で博物館実習を行う必要があります。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後に1時間の学修時間を要する。

科目名	ミュージアムマネジメント論	科目名(英文)	Museum Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦

授業概要・目的	博物館経営に関する行財政制度を踏まえながら、さまざまな博物館の形態や多岐にわたる活動について講義する。今後の方向性を考えるとともに、学芸員に必要な博物館経営に関する基礎的知識の習得をめざす。
到達目標	博物館の現状と課題を認識しながら、博物館はどうあるべきかを考え、理想の博物館を実現するためには、どのようなミュージアムマネジメント(博物館経営)が必要であるのかを具体的に理解できる。
授業方法と留意点	配付資料やスライドを見ながら進め、適宜板書もする。 受講生が調べたり、考えたりする作業を行い、毎回レポートを課すので欠席しないようにしてください。また、受講生と相談の上、博物館の臨地講義も実施する予定である。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格の取得(必修科目)。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ミュージアムマネジメントとは	博物館には、効果的なマネジメントが要求される現状にあることを解説する。	配布資料や参考書で復習する。
	2	行財政制度と博物館	博物館に関する法律や財務に関する制度について解説する。	配布資料や参考書で復習する。
	3	博物館をめぐる行政改革	指定管理者制度、PFI法、独立行政法人制度など、博物館に関する近年の行政改革について解説し、その問題点を考える。	PFI法、指定管理者制度について、本やWEBで調べておく。
	4	博物館の財務	博物館の基本的な歳入と歳出などを解説し、財務状況や入館料をめぐる問題点を考える。	博物館の予算的な問題について調べる。
	5	博物館の立地と環境	博物館にふさわしい立地条件や自然及び社会的環境について具体的に解説する。	実際の博物館の立地・環境を調べる。
	6	博物館の施設と設備	博物館にどのような施設と設備が必要であるかを解説し、館種による相違点を比較する。	配布資料や参考書で復習する。
	7	博物館の組織と職員	一般的な博物館の組織と職員、学芸員の具体的な業務内容を説明する。	配布資料や参考書で復習する。
	8	博物館事業のあり方	博物館の理念と目的を説明し、その達成のためにどのような事業計画が必要かを検討する。	博物館が実施している事業の具体例を調べておく。
	9	博物館の評価	博物館を評価するにはどのような基準・方法があるかを解説し、評価により得られる効果を検討する。	行ったことのある博物館の評価をしてみる。
	10	博物館の危機管理	博物館で想定されるさまざまな危機について解説し、その対策を具体的に検討する。	博物館にかかわる危機にはどのようなものがあるか考えておく。
	11	博物館の広報活動	非営利組織のマーケティングリサーチと、博物館における広報活動の具体的な方法を解説する。	博物館のポスターやチラシなどを見ておく。
	12	ミュージアムサービス	ミュージアムショップ、レストランなどに代表されるサービスの現状を説明し、今後の方向性を考える。	本やWEBで博物館のサービスの具体例を調べる。
	13	市民参画をめざす博物館	友の会、ボランティアなどの支援組織や、市民参画を促す博物館事業について解説する。	WEBやリーフレットなどで、博物館の友の会などについて調べる。
	14	博物館のネットワーク	いろいろな博物館のネットワークについて解説する。	WEBで、日本博物館協会、日本動物園水族館協会などのHPを見る。
15	対話と連携の博物館	博物館が目指す対話と連携を具体的に検討することで、これからの博物館の経営について考える。	配布資料や参考書で復習する。	

関連科目	ほかの学芸員科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義最終日に行う筆記試験(持ち込み不可)、講義中に課すレポートをもとに評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	必ず毎回出席すること。また、本講義を受講する間、多くの博物館に訪れることを望みます。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(赤澤研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。
----	------------------------

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	里井 真理子

授業概要・目的 文字や映像による多様なソースを扱い、メディアの英語に触れる。さまざまな情報源から世界の情報を英語で入手する力を養う。

到達目標 メディア教材を通じて、現在世界で問題となっていることを理解しながら、英語の読解力を伸ばす。また、オーディオ教材から音声で情報の要点を聞き取れるようになる。

授業方法と留意点 Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.

科目学習の効果 (資格) TOEIC, TOEFL

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	Review	Feedback session	...

関連科目 . . .

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	VOA News Plus	Seisuke Yasunami 他	成美堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 授業態度 (30%) + 授業時の課題 (30%) + 小テスト (40%)

学生へのメッセージ 予習・復習は必ず行ってください。辞書を必ず持参すること。

担当者の研究室等 7号館2階 (非常勤講師室)

備考

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本で発信されているニュース時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提となる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	創造性を発揮してビジネスを起こす企業	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
3	ホスピタルクラウン、笑いを最良の薬として提供	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
4	人間と人工知能の共存	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
5	サイバー攻撃	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
6	過疎地で見つけたチャンス	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
7	英国、三人の親を認める方向へ	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
8	オバマとカストロ、歴史的会合	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
9	ネット検索結果の削除、知る権利とのバランス	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
10	「終末時計」午前零時に2分近づく	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
11	外国人観光客、味噌汁体験を楽しむ	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
12	ジェンダーの壁を飛び越える女性たち	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
13	フランス、痩せ過ぎモデル禁止へ	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
14	メルケル首相ダッハウ解放を記念した収容所生存者及び米国退役軍人の集会に参加	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
15	まとめとテスト		

関連科目	スピーキング&ライティング II a, リーディング II a, English for Specific Purposes a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World English through Newspaper	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アーサー ロングソン

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本で発信されているニュース時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提となる。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検
--------------	------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review	Feedback session	...

関連科目	スピーキング&ライティング II a, リーディング II a, English for Specific Purposes a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) の成績を総合的に評価する。
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	積極的な授業参加を望む。
-----------	--------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本で発信されているニュース時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提となる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法を説明	教科書全体に目を通しておくこと
2	サウジ女性、仕事に就くにもタブーを守る	単語テスト 読解、文法、演習問題	新出単語の暗記（単語は指定）
3	「成功」を求め移民はメキシコに向かう	単語テスト 読解、文法、演習問題	新出単語の暗記（単語は指定）
4	日本の災害ロボ、米予選大会を断トツで一位通過	単語テスト 読解、文法、演習問題	新出単語の暗記（単語は指定）
5	モロッコ・スペインの国境を越えて重荷を背負う女性たち	単語テスト 読解、文法、演習問題	新出単語の暗記（単語は指定）
6	電子タバコ、名称を変えて若者を誘因と専門家危機	単語テスト 読解、文法、演習問題	新出単語の暗記（単語は指定）
7	ニューヨークのきやりばみゅばみゅファン、「生きる意欲」を共有	単語テスト 読解、文法、演習問題	新出単語の暗記（単語は指定）
8	中間試験	単語テスト 今までの総復習 中間テスト	中間テストの準備
9	マララさん、地元パキスタンでは相反する反応	単語テスト 読解、文法、演習問題	新出単語の暗記（単語は指定）
10	中国の学校教育、外国から賞賛されるが、親・教師からは…	単語テスト 読解、文法、演習問題	新出単語の暗記（単語は指定）
11	民族紛争でミャンマーの国境地帯が無法状態で不安定化	単語テスト 読解、文法、演習問題	新出単語の暗記（単語は指定）
12	サッカー、ワールドカップ開催国ブラジルの英語事情	単語テスト 読解、文法、演習問題	新出単語の暗記（単語は指定）
13	ロシア人に「How are You?」と聞くな！	単語テスト 読解、文法、演習問題	新出単語の暗記（単語は指定）
14	日本に新世代の「革新者」出現！	単語テスト 読解、文法、演習問題	新出単語の暗記（単語は指定）
15	南スーダン、国のイメージ作りにファッションショー	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目	スピーキング&ライティング II a, リーディング II a, English for Specific Purposes a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	15章版：ニュースメディアの英語	高橋優身 他	朝日出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	さまざまなトピックが扱われているので、文章の読解を通じて海外への関心を高めてもらいたい。英米文化に興味を持つことが英語上達の一番の近道だと思います！
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	クロー オーエン

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本で発信されているニュース時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提となる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	スピーキング&ライティング II a, リーディング II a, English for Specific Purposes a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを使用する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--



科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	里井 真理子

授業概要・目的  
文字や映像による多様なソースを扱い、メディアの英語に触れる。さまざまな情報源から世界の情報を英語で入手する力を養う。

到達目標  
メディア教材を通じて、現在世界で問題となっていることを理解しながら、英語の読解力を伸ばす。また、オーディオ教材から音声で情報の要点を聞き取れるようになる。

授業方法と留意点  
Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.

科目学習の効果 (資格)  
TOEIC, TOEFL

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
15	Review	Feedback session	...

関連科目  
...

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	VOA News Plus	Seisuke Yasunami 他	成美堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)  
授業態度 (30%) + 授業時の課題 (30%) + 小テスト (40%)

学生へのメッセージ  
予習・復習は必ず行ってください。  
辞書を必ず持参すること。

担当者の研究室等  
7号館2階 (非常勤講師室)

備考

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本で発信されているニュース時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提となる。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検
--------------	------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	スターバックス、大学学費プログラム拡大へ	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
3	米国、人種問題緊張の中、キング牧師を思い出す	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
4	日本、「ゴールデンルート」以外で外国人観光客を魅了へ	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
5	雇用者に労働者の休暇取得を義務づけへ	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
6	耳の聞こえない子供が音を感知できる装置をテスト	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
7	大儀見のゴール、最後まで戦うまでしこを体現	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
8	さまざまなドーピング	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
9	鬼怒川氾濫	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
10	人工衛星打ち上げビジネス	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
11	格安航空会社	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
12	勇敢な猫、飼い主を救う	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
13	ドローンを使うレストラン	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
14	シドニーオペラハウス改築	リーディング、語彙、文法確認、リスニング、スピーキング	指定箇所を音読、語彙の確認を行う
15	まとめとテスト		

関連科目	スピーキング&ライティング II b, リーディング II b, English for Specific Purposes b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World English through Newspaper	Yasuhiko Wakaari	SEIBIDO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) の成績を総合的に評価する。
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アーサー ロングマン

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本で発信されているニュース時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提となる。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検
--------------	------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	スピーキング&ライティング II b, リーディング II b, English for Specific Purposes b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) の成績を総合的に評価する。
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	積極的な授業参加を望む。
-----------	--------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本で発信されているニュース時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提となる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法の説明	教科書に目を通しておくこと
2	松井秀喜選手引退	単語テスト 文章読解 復習テスト	新出単語の暗記（出題単語は事前に指定） 教科書の予習
3	中国の環境汚染、日本の取り組み	単語テスト 文章読解 復習テスト	新出単語の暗記（出題単語は事前に指定） 教科書の予習
4	日本の少子化を憂う	単語テスト 文章読解 復習テスト	新出単語の暗記（出題単語は事前に指定） 教科書の予習
5	アメリカが目指す日本の食品安全基準	単語テスト 文章読解 復習テスト	新出単語の暗記（出題単語は事前に指定） 教科書の予習
6	極地の氷が解ければ海面上昇	単語テスト 文章読解 復習テスト	新出単語の暗記（出題単語は事前に指定） 教科書の予習
7	最近 10 年は温暖化の停滞期？	単語テスト 文章読解 復習テスト	新出単語の暗記（出題単語は事前に指定） 教科書の予習
8	総まとめ・中間テスト	総まとめ 中間テスト	中間テストの準備
9	IT 帝国の落日	単語テスト 文章読解 復習テスト	新出単語の暗記（出題単語は事前に指定） 教科書の予習
10	水がタダになる日	単語テスト 文章読解 復習テスト	新出単語の暗記（出題単語は事前に指定） 教科書の予習
11	グローバル化の功罪	単語テスト 文章読解 復習テスト	新出単語の暗記（出題単語は事前に指定） 教科書の予習
12	オリンピックは来たけれど	単語テスト 文章読解 復習テスト	新出単語の暗記（出題単語は事前に指定） 教科書の予習
13	オリンピックを招致するということ	単語テスト 文章読解 復習テスト	新出単語の暗記（出題単語は事前に指定） 教科書の予習
14	「仕事を創る」という発想	単語テスト 文章読解 復習テスト	新出単語の暗記（出題単語は事前に指定） 教科書の予習
15	生きる力につながる芸術教育	単語テスト 文章読解 復習テスト	新出単語の暗記（出題単語は事前に指定） 教科書の予習

関連科目	スピーキング&ライティング II b, リーディング II b, English for Specific Purposes b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューヨークタイムズで高める英語と国際教養	小塚 良孝ほか	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点（授業態度、小テスト、宿題、提出物等）の成績を総合的に評価する。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	前期に引き続き、さまざまなトピックを扱った英文の読解を通して国際情勢や異文化に対する理解を深めます。読む分量も増えますので、しっかりと毎回予習をしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	--

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	クロー オーエン

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本で発信されているニュース時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提となる。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検
--------------	------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
	2	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Exercises	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Review	Feedback session	・・・

関連科目	スピーキング&ライティング II b, リーディング II b, English for Specific Purposes b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを使用する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、小テスト、宿題、提出物等) の成績を総合的に評価する。
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	積極的な授業参加を望む。
-----------	--------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	メディア中国語 a	科目名 (英文)	Media Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹

授業概要・目的	中国語圏のテレビ番組や映画作品のうち、主にアニメ作品を題材にしなが、理解できた細部を組み立てることで概要をつかむ」「概要から細部を類推する」というリスニングの技術習得し、それをもとに四技能の向上を図る。
到達目標	ストーリーの前後関係に基いて補充しながら聞き取る訓練をする。また、ネイティブスピーカの発話速度に適應することで、中国人とのコミュニケーション力を向上させる。
授業方法と留意点	既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定 3 級合格

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	崖の上のポニョ (崖上の波兒) 1/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
2	崖の上のポニョ (崖上の波兒) 2/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
3	崖の上のポニョ (崖上の波兒) 3/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
4	熊出没 (新隣居) 1/3	映像の中国語の音声をリピートするとともに字幕を見ながら日本語訳を作る。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
5	熊出没 (新隣居) 2/3	映像の中国語の音声をリピートするとともに字幕を見ながら日本語訳を作る。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
6	熊出没 (新隣居) 3/3	映像の中国語の音声をリピートするとともに字幕を見ながら日本語訳を作る。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
7	借りぐらしのアリエッティ (借物少女) 1/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
8	借りぐらしのアリエッティ (借物少女) 2/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
9	借りぐらしのアリエッティ (借物少女) 3/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
10	熊出没 (熊熊的歌声) 1/3	映像の中国語の音声をリピートするとともに字幕を見ながら日本語訳を作る。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
11	熊出没 (熊熊的歌声) 2/3	映像の中国語の音声をリピートするとともに字幕を見ながら日本語訳を作る。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
12	熊出没 (熊熊的歌声) 3/3	映像の中国語の音声をリピートするとともに字幕を見ながら日本語訳を作る。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
13	ハウルの動く城 (霍爾的移動城堡) 1/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
14	ハウルの動く城 (霍爾的移動城堡) 2/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
15	ハウルの動く城 (霍爾的移動城堡) 3/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。

関連科目 「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を話す IIa」「中国語を書く IIa」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	学期中に 5 回実施する小テストおよび授業に取り組む姿勢をもとに評価する。
学生へのメッセージ	映像を楽しみながらリスニング力をつけましょう。
担当者の研究室等	中西研究室 (7 号館 3 階)
備考	

科目名	メディア中国語 b	科目名 (英文)	Media Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹

授業概要・目的	中国語圏のテレビ番組や映画作品のうち、主にアニメ作品を題材にしなが、理解できた細部を組み立てることで概要をつかむ「概要から細部を類推する」というリスニングの技術を習得し、それをもとに四技能の向上を図る。
到達目標	ストーリーの前後関係に基づいて補完しながら聞き取る訓練をする。また、ネイティブスピーカーの発話速度に適應することで、中国人とのコミュニケーション力を向上させる。
授業方法と留意点	既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定 3 級～2 級合格

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	かぐや姫の物語 (輝耀姫) 1/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
2	かぐや姫の物語 (輝耀姫) 2/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
3	かぐや姫の物語 (輝耀姫) 3/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
4	熊出没 (水果炸彈) 1/3	映像の中国語の音声をリピートするとともに字幕を見ながら日本語訳を作る。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
5	熊出没 (水果炸彈) 2/3	映像の中国語の音声をリピートするとともに字幕を見ながら日本語訳を作る。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
6	熊出没 (水果炸彈) 3/3	映像の中国語の音声をリピートするとともに字幕を見ながら日本語訳を作る。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
7	時をかける少女 (時空少女) 1/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
8	時をかける少女 (時空少女) 2/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
9	時をかける少女 (時空少女) 3/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
10	熊出没 (智闖光頭?) 1/3	映像の中国語の音声をリピートするとともに字幕を見ながら日本語訳を作る。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
11	熊出没 (智闖光頭?) 2/3	映像の中国語の音声をリピートするとともに字幕を見ながら日本語訳を作る。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
12	熊出没 (智闖光頭?) 3/3	映像の中国語の音声をリピートするとともに字幕を見ながら日本語訳を作る。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
13	サマーウォーズ (夏日大作戦) 1/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
14	サマーウォーズ (夏日大作戦) 2/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
15	サマーウォーズ (夏日大作戦) 3/3	映像の日本語字幕と中国語音声をもとに中国語をディクテーションする。	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。

関連科目 「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を話す IIb」「中国語を書く IIb」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	学期中に 5 回実施する小テストおよび授業に取り組む姿勢をもとに評価する。
学生へのメッセージ	映像を楽しみながらリスニング力をつけましょう。
担当者の研究室等	中西研究室 (7 号館 3 階)
備考	

科目名	メディアのスペイン語 I	科目名 (英文)	Media Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	Q
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮多良 ディスネル

授業概要・目的	今までに学習したスペイン語の文法知識を十分に駆使して、新聞、雑誌、ウェブページなどの様々なメディアで用いられるスペイン語の文章をできるだけ多く読み、「メディアのスペイン語」に慣れる。 国内外のさまざまなニュースに敏感になる。
到達目標	スペイン語による様々な表現や文法知識の更なる習得を目指す。
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた新聞記事、雑誌記事、ウェブ記事をプリントにして配布します。 事前に配布されたプリントに目を通しておいてください。 また、関連記事やそれに限らない国内外でのニュースなどにも日頃から目を配っておきましょう。レポートや発表を課すことがあります。テーマが変わる場合もあります。

科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4,3 級
--------------	---------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方 メディアの多様性	授業の内容を理解しておくこと
	2	日本に関するスペイン語の記事 (1)	文化記事の訳読 1	授業の内容を理解しておくこと
	3	日本に関するスペイン語の記事 (2)	文化記事の訳読 2	授業の内容を理解しておくこと
	4	日本に関するスペイン語の記事 (3)	社会記事の訳読 1	授業の内容を理解しておくこと
	5	日本に関するスペイン語の記事 (4)	社会記事の訳読 2	授業の内容を理解しておくこと
	6	日本に関するスペイン語の記事 (5)	その他	授業の内容を理解しておくこと
	7	スペインに関するスペイン語の記事 (1)	スポーツ記事の訳読 1	授業の内容を理解しておくこと
	8	スペインに関するスペイン語の記事 (2)	スポーツ記事の訳読 2	授業の内容を理解しておくこと
	9	スペインに関するスペイン語の記事 (3)	文化記事の訳読 1	授業の内容を理解しておくこと
	10	スペインに関するスペイン語の記事 (4)	文化記事の訳読 2	授業の内容を理解しておくこと
	11	中南米諸国に関するスペイン語の記事(1)	記事の訳読	授業の内容を理解しておくこと
	12	中南米に関するスペイン語の記事 (2)	記事の訳読	授業の内容を理解しておくこと
	13	世界に関するスペイン語の記事(1)	国際的記事の訳読 1	授業の内容を理解しておくこと
	14	世界に関するスペイン語の記事 (2)	国際的記事の訳読 2	授業の内容を理解しておくこと
	15	まとめ	まとめ	—————

関連科目	メディアのスペイン語
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内の積極性や、課題、まとめテストの結果から、総合的に評価します。
-----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	文法事項ももう一度きちんと理論的に学習し、スペイン語のスキルアップにつなげましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	事前・事後学修に各1時間を要する。
----	-------------------



科目名	メディアのスペイン語 I	科目名 (英文)	Media Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	R
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	三浦 知佐子

授業概要・目的	今までに学習したスペイン語の文法知識を十分に駆使して、新聞、雑誌、ウェブページなどの様々なメディアで用いられるスペイン語の文章をできるだけ多く読み、「メディアのスペイン語」に慣れる。 国内外のさまざまなニュースに敏感になる。
到達目標	スペイン語による様々な表現や文法知識の更なる習得を目指す。
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた新聞記事、雑誌記事、ウェブ記事をプリントにして配布します。 事前に配布されたプリントに目を通しておいてください。事前・事後学修に各1時間を要する。 また、関連記事やそれに限らない国内外でのニュースなどにも日頃から目を配っておきましょう。レポートを課すことがあります。テーマが変わる場合もあります。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4,3 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方 メディアの多様性	授業の内容を理解しておくこと
	2	日本に関するスペイン語の記事 (1)	文化記事の訳読 1	授業の内容を理解しておくこと
	3	日本に関するスペイン語の記事 (2)	文化記事の訳読 2	授業の内容を理解しておくこと
	4	日本に関するスペイン語の記事 (3)	社会記事の訳読 1	授業の内容を理解しておくこと
	5	日本に関するスペイン語の記事 (4)	社会記事の訳読 2	授業の内容を理解しておくこと
	6	日本に関するスペイン語の記事 (5)	その他	授業の内容を理解しておくこと
	7	スペインに関するスペイン語の記事 (1)	スポーツ記事の訳読 1	授業の内容を理解しておくこと
	8	スペインに関するスペイン語の記事 (2)	スポーツ記事の訳読 2	授業の内容を理解しておくこと
	9	スペインに関するスペイン語の記事 (3)	文化記事の訳読 1	授業の内容を理解しておくこと
	10	スペインに関するスペイン語の記事 (4)	文化記事の訳読 2	授業の内容を理解しておくこと
	11	中南米諸国に関するスペイン語の記事(1)	記事の訳読	授業の内容を理解しておくこと
	12	中南米に関するスペイン語の記事 (2)	記事の訳読	授業の内容を理解しておくこと
	13	世界に関するスペイン語の記事(1)	国際的記事の訳読 1	授業の内容を理解しておくこと
	14	世界に関するスペイン語の記事 (2)	国際的記事の訳読 2	授業の内容を理解しておくこと
	15	まとめ	まとめ	—————

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内の積極性や、課題、まとめテストの結果から、総合的に評価します。
-----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	文法事項ももう一度きちんと理論的に学習し、スペイン語のスキルアップにつなげましょう。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館2階 (非常勤講師室)
------------	----------------

科目名	メディアのスペイン語 I	科目名 (英文)	Media Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	宮多良 ディスネル

授業概要・目的	辞書と習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を読みこなす力を身につけていくことを目指す。授業では主にスペイン語圏に関する文章を読み進めていくが、スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得と、単文のみならず複文を含めた長文の読解力を身に付ける。
授業方法と留意点	文章の読解をしていく。授業では、一文一文詳しく見ていく。また、指示語や代名詞、動詞の時制などの文法事項をひとつひとつ尋ねるので、答えられるように予習の段階で確認しておくこと。事前・事後学修に各1時間を要する。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4～5 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	SNS と余暇	第1課	授業で指示
3	SNS と余暇 (2)	第1課	授業で指示
4	ラファエル・ナダル	第2課	授業で指示
5	ラファエル・ナダル	第2課	授業で指示
6	世界でもっとも古いレストラン	第3課	授業で指示
7	世界でもっとも古いレストラン (2)	第3課	授業で指示
8	前半のまとめ	理解度確認テスト	授業で指示
9	ファッション	第4課	授業で指示
10	ファッション (2)	第4課	授業で指示
11	養子縁組	第5課	授業で指示
12	養子縁組 (2)	第5課	授業で指示
13	風力発電	第6課	授業で指示
14	風力発電 (2)	第6課	授業で指示
15	後半のまとめ	理解度確認テスト	授業で指示

関連科目	スペイン語の科目
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	授業参加度や試験 (2 度の理解度確認テスト) 結果等を総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	必ず予習の段階で自分なりに訳してみる。必ず予習をして授業に出席すること。また、辞書を持参すること。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館2階 (非常勤講師控室)
------------	-----------------

科目名	メディアのスペイン語 I	科目名 (英文)	Media Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR 2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦 知佐子

授業概要・目的	辞書と習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を読みこなす力を身につけていくことを目指す。授業では主にスペイン語圏に関する文章を読み進めていくが、スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。																																																																		
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得と、単文のみならず複文を含めた長文の読解力を身に付ける。																																																																		
授業方法と留意点	文章の読解をしていく。授業では、一文一文詳しく見ていく。また、指示語や代名詞、動詞の時制などの文法事項をひとつひとつ尋ねるので、答えられるように予習の段階で確認しておくこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4~5 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の進め方や評価基準について</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>2</td><td>SNS と余暇</td><td>第 1 課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>3</td><td>SNS と余暇 (2)</td><td>第 1 課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>4</td><td>ラファエル・ナダル</td><td>第 2 課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>5</td><td>ラファエル・ナダル</td><td>第 2 課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>6</td><td>世界でもっとも古いレストラン</td><td>第 3 課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>7</td><td>世界でもっとも古いレストラン (2)</td><td>第 3 課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>8</td><td>前半のまとめ</td><td>理解度確認テスト</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>9</td><td>ファッション</td><td>第 4 課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>10</td><td>ファッション (2)</td><td>第 4 課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>11</td><td>養子縁組</td><td>第 5 課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>12</td><td>養子縁組 (2)</td><td>第 5 課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>13</td><td>風力発電</td><td>第 6 課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>14</td><td>風力発電 (2)</td><td>第 6 課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>15</td><td>後半のまとめ</td><td>理解度確認テスト</td><td>授業で指示</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	授業で指示	2	SNS と余暇	第 1 課	授業で指示	3	SNS と余暇 (2)	第 1 課	授業で指示	4	ラファエル・ナダル	第 2 課	授業で指示	5	ラファエル・ナダル	第 2 課	授業で指示	6	世界でもっとも古いレストラン	第 3 課	授業で指示	7	世界でもっとも古いレストラン (2)	第 3 課	授業で指示	8	前半のまとめ	理解度確認テスト	授業で指示	9	ファッション	第 4 課	授業で指示	10	ファッション (2)	第 4 課	授業で指示	11	養子縁組	第 5 課	授業で指示	12	養子縁組 (2)	第 5 課	授業で指示	13	風力発電	第 6 課	授業で指示	14	風力発電 (2)	第 6 課	授業で指示	15	後半のまとめ	理解度確認テスト	授業で指示
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	授業で指示																																																																
2	SNS と余暇	第 1 課	授業で指示																																																																
3	SNS と余暇 (2)	第 1 課	授業で指示																																																																
4	ラファエル・ナダル	第 2 課	授業で指示																																																																
5	ラファエル・ナダル	第 2 課	授業で指示																																																																
6	世界でもっとも古いレストラン	第 3 課	授業で指示																																																																
7	世界でもっとも古いレストラン (2)	第 3 課	授業で指示																																																																
8	前半のまとめ	理解度確認テスト	授業で指示																																																																
9	ファッション	第 4 課	授業で指示																																																																
10	ファッション (2)	第 4 課	授業で指示																																																																
11	養子縁組	第 5 課	授業で指示																																																																
12	養子縁組 (2)	第 5 課	授業で指示																																																																
13	風力発電	第 6 課	授業で指示																																																																
14	風力発電 (2)	第 6 課	授業で指示																																																																
15	後半のまとめ	理解度確認テスト	授業で指示																																																																
関連科目	スペイン語の科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)</td> <td>中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco</td> <td>三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)	中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco	三修社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)	中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco	三修社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業参加度や試験 (2 度の理解度確認テスト) 結果等を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	必ず予習の段階で自分なりに訳してみる。必ず予習をして授業に出席すること。事前・事後学修に各 1 時間を要する。また、辞書を持参すること。																																																																		
担当者の研究室等備考	7 号館 2 階 (非常勤講師控室)																																																																		

科目名	メディアのスペイン語 I	科目名 (英文)	Media Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	酒井 真梨奈

授業概要・目的	辞書と習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を読みこなす力を身につけていくことを目指す。授業では主にスペイン語圏に関する文章を読み進めていくが、スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得と、単文のみならず複文を含めた長文の読解力を身に付ける。
授業方法と留意点	文章の読解をしていく。授業では、一文一文詳しく見ていく。また、指示語や代名詞、動詞の時制などの文法事項をひとつひとつ尋ねるので、答えられるように予習の段階で確認しておくこと。

科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4~5 級
--------------	---------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	授業で指示
2	SNS と余暇	第 1 課	授業で指示
3	SNS と余暇 (2)	第 1 課	授業で指示
4	ラファエル・ナダル	第 2 課	授業で指示
5	ラファエル・ナダル	第 2 課	授業で指示
6	世界でもっとも古いレストラン	第 3 課	授業で指示
7	世界でもっとも古いレストラン (2)	第 3 課	授業で指示
8	前半のまとめ	理解度確認テスト	授業で指示
9	ファッション	第 4 課	授業で指示
10	ファッション (2)	第 4 課	授業で指示
11	養子縁組	第 5 課	授業で指示
12	養子縁組 (2)	第 5 課	授業で指示
13	風力発電	第 6 課	授業で指示
14	風力発電 (2)	第 6 課	授業で指示
15	後半のまとめ	理解度確認テスト	授業で指示

関連科目	スペイン語の科目
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)	中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco	三修社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業参加度や試験 (2 度の理解度確認テスト) 結果等を総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	必ず予習の段階で自分なりに訳してみる。必ず予習をして授業に出席すること。また、辞書を持参すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師控室)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	メディアのスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Media Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	磯野 吉美

授業概要・目的	これまでに学んできたスペイン語知識を活用し、国内外の事柄を扱ったニュースに取り組みます。スペイン語で書かれた政治・経済・外交などを扱った文の聞き取りと翻訳を通じて、聞き取り能力と読解力の向上を図ります。
到達目標	国内外で話題になっている事柄に関する文を読むだけでなく、作成したり討論できるようになることを目指します。
授業方法と留意点	報道で使用されているスペイン語を聞き取り、翻訳する中で、時事スペイン語やメディア特有の表現について学びます。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	授業で指示
	2	ニュース(1)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	3	ニュース(2)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	4	ニュース(3)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	5	ニュース(4)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	6	ニュース(5)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	7	ニュース(6)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	8	ニュース(7)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	9	ニュース(8)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	10	ニュース(9)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	11	ニュース(10)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	12	ニュース(11)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	13	ニュース(12)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	14	ニュース(13)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	15	まとめと復習	既習項目の復習と期末テスト	授業で指示

関連科目	メディアのスペイン語
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業参加度)40%、臨時試験(期末)60%
----------	---------------------------

学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を望みます。国内外のニュースに敏感になってください。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後に各60分の学修を要する
----	-------------------

科目名	メディアのスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Media Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三浦 知佐子

授業概要・目的	辞書と習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を読みこなす力を身につけていくことを目指す。授業では主にスペイン語圏に関する文章を読み進めていくが、スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。																																																																		
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得と、単文のみならず複文を含めた長文の読解力を身に付ける。 後期はかなりスピードを早める。																																																																		
授業方法と留意点	文章の読解をしていく。授業では、一文一文詳しく見ていく。また、指示語や代名詞、動詞の時制などの文法事項をひとつひとつ尋ねるので、答えられるように予習の段階で確認しておくこと。事前・事後学修に各1時間を要する。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4~5級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>交通ルールの改正</td><td>第7課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>2</td><td>エラスムス留学制度</td><td>第8課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>3</td><td>ホンジュラスの交番</td><td>第9課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>4</td><td>スペインの観光政策</td><td>第10課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>5</td><td>移民</td><td>第11課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>6</td><td>闘牛反対運動</td><td>第12課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>7</td><td>ボキャブラリコンテスト</td><td>基礎語彙の復習</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>バレンシアの火祭り</td><td>第13課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>9</td><td>アカデミア辞書の改訂</td><td>第14課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>10</td><td>民衆の抗議</td><td>第15課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>11</td><td>時事問題(1)</td><td>インターネット記事から</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>12</td><td>時事問題(2)</td><td>インターネット記事から</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>13</td><td>時事問題(3)</td><td>インターネット記事から</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>14</td><td>時事問題(4)</td><td>インターネット記事から</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>15</td><td>理解度確認テスト</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	交通ルールの改正	第7課	授業で指示	2	エラスムス留学制度	第8課	授業で指示	3	ホンジュラスの交番	第9課	授業で指示	4	スペインの観光政策	第10課	授業で指示	5	移民	第11課	授業で指示	6	闘牛反対運動	第12課	授業で指示	7	ボキャブラリコンテスト	基礎語彙の復習		8	バレンシアの火祭り	第13課	授業で指示	9	アカデミア辞書の改訂	第14課	授業で指示	10	民衆の抗議	第15課	授業で指示	11	時事問題(1)	インターネット記事から	授業で指示	12	時事問題(2)	インターネット記事から	授業で指示	13	時事問題(3)	インターネット記事から	授業で指示	14	時事問題(4)	インターネット記事から	授業で指示	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	交通ルールの改正	第7課	授業で指示																																																																
2	エラスムス留学制度	第8課	授業で指示																																																																
3	ホンジュラスの交番	第9課	授業で指示																																																																
4	スペインの観光政策	第10課	授業で指示																																																																
5	移民	第11課	授業で指示																																																																
6	闘牛反対運動	第12課	授業で指示																																																																
7	ボキャブラリコンテスト	基礎語彙の復習																																																																	
8	バレンシアの火祭り	第13課	授業で指示																																																																
9	アカデミア辞書の改訂	第14課	授業で指示																																																																
10	民衆の抗議	第15課	授業で指示																																																																
11	時事問題(1)	インターネット記事から	授業で指示																																																																
12	時事問題(2)	インターネット記事から	授業で指示																																																																
13	時事問題(3)	インターネット記事から	授業で指示																																																																
14	時事問題(4)	インターネット記事から	授業で指示																																																																
15	理解度確認テスト																																																																		
関連科目	スペイン語の科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)</td> <td>中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco</td> <td>三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)	中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco	三修社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)	中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco	三修社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業での発表、単語テストや試験結果等を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	必ず予習の段階で自分なりに訳してみる。必ず予習をして授業に出席すること。 また、辞書を持参すること。 ほぼ毎回単語テストを実施する。																																																																		
担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		

科目名	メディアのスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Media Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	辞書と習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を読みこなす力を身につけていくことを目指す。授業では主にスペイン語圏に関する文章を読み進めていくが、スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。																																																																		
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得と、単文のみならず複文を含めた長文の読解力を身に付ける。 後期はかなりスピードを早める。																																																																		
授業方法と留意点	文章の読解をしていく。授業では、一文一文詳しく見ていく。また、指示語や代名詞、動詞の時制などの文法事項をひとつひとつ尋ねるので、答えられるように予習の段階で確認しておくこと。事前・事後学修に各1時間を要する。																																																																		
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4~5級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>交通ルールの改正</td><td>第7課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>2</td><td>エラスムス留学制度</td><td>第8課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>3</td><td>ホンジュラスの交番</td><td>第9課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>4</td><td>スペインの観光政策</td><td>第10課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>5</td><td>移民</td><td>第11課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>6</td><td>闘牛反対運動</td><td>第12課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>7</td><td>ボキャブラリコンテスト</td><td>基礎語彙の復習</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>バレンシアの火祭り</td><td>第13課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>9</td><td>アカデミア辞書の改訂</td><td>第14課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>10</td><td>民衆の抗議</td><td>第15課</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>11</td><td>時事問題(1)</td><td>インターネット記事から</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>12</td><td>時事問題(2)</td><td>インターネット記事から</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>13</td><td>時事問題(3)</td><td>インターネット記事から</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>14</td><td>時事問題(4)</td><td>インターネット記事から</td><td>授業で指示</td></tr> <tr><td>15</td><td>理解度確認テスト</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	交通ルールの改正	第7課	授業で指示	2	エラスムス留学制度	第8課	授業で指示	3	ホンジュラスの交番	第9課	授業で指示	4	スペインの観光政策	第10課	授業で指示	5	移民	第11課	授業で指示	6	闘牛反対運動	第12課	授業で指示	7	ボキャブラリコンテスト	基礎語彙の復習		8	バレンシアの火祭り	第13課	授業で指示	9	アカデミア辞書の改訂	第14課	授業で指示	10	民衆の抗議	第15課	授業で指示	11	時事問題(1)	インターネット記事から	授業で指示	12	時事問題(2)	インターネット記事から	授業で指示	13	時事問題(3)	インターネット記事から	授業で指示	14	時事問題(4)	インターネット記事から	授業で指示	15	理解度確認テスト		
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	交通ルールの改正	第7課	授業で指示																																																																
2	エラスムス留学制度	第8課	授業で指示																																																																
3	ホンジュラスの交番	第9課	授業で指示																																																																
4	スペインの観光政策	第10課	授業で指示																																																																
5	移民	第11課	授業で指示																																																																
6	闘牛反対運動	第12課	授業で指示																																																																
7	ボキャブラリコンテスト	基礎語彙の復習																																																																	
8	バレンシアの火祭り	第13課	授業で指示																																																																
9	アカデミア辞書の改訂	第14課	授業で指示																																																																
10	民衆の抗議	第15課	授業で指示																																																																
11	時事問題(1)	インターネット記事から	授業で指示																																																																
12	時事問題(2)	インターネット記事から	授業で指示																																																																
13	時事問題(3)	インターネット記事から	授業で指示																																																																
14	時事問題(4)	インターネット記事から	授業で指示																																																																
15	理解度確認テスト																																																																		
関連科目	スペイン語の科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)</td> <td>中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco</td> <td>三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)	中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco	三修社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)	中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco	三修社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業での発表、単語テストや試験結果等を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	必ず予習の段階で自分なりに訳してみる。必ず予習をして授業に出席すること。 また、辞書を持参すること。 ほぼ毎回単語テストを実施する。																																																																		
担当者の研究室等備考	7号館5階(篠原研究室)																																																																		

科目名	メディアのスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Media Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	QR3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	宮多良 ディスネル

授業概要・目的	辞書と習得した文法知識、そしてスペイン語圏に関する知識を余すところなく駆使して、スペイン語の長文を読みこなす力を身につけていくことを目指す。授業では主にスペイン語圏に関する文章を読み進めていくが、スペイン語の文章を正しく理解するために必要な文法事項を復習するだけでなく、スペイン語圏の国々に関する知識を修得することも併せて行う。
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得と、単文のみならず複文を含めた長文の読解力を身に付ける。 後期はかなりスピードを早める。
授業方法と留意点	文章の読解をしていく。授業では、一文一文詳しく見ていく。また、指示語や代名詞、動詞の時制などの文法事項をひとつひとつ尋ねるので、答えられるように予習の段階で確認しておくこと。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4~5級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	交通ルールの改正	第7課	授業で指示
	2	エラスムス留学制度	第8課	授業で指示
	3	ホンジュラスの交番	第9課	授業で指示
	4	スペインの観光政策	第10課	授業で指示
	5	移民	第11課	授業で指示
	6	闘牛反対運動	第12課	授業で指示
	7	ボキャブラリコンテスト	基礎語彙の復習	
	8	バレンシアの火祭り	第13課	授業で指示
	9	アカデミア辞書の改訂	第14課	授業で指示
	10	民衆の抗議	第15課	授業で指示
	11	時事問題(1)	インターネット記事から	授業で指示
	12	時事問題(2)	インターネット記事から	授業で指示
	13	時事問題(3)	インターネット記事から	授業で指示
	14	時事問題(4)	インターネット記事から	授業で指示
	15	理解度確認テスト		

関連科目	スペイン語の科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	La noticia de hoy(ニュースで学ぶ中級スペイン語)	中島聡子、佐藤佐知、David Tarranco	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業での発表、単語テストや試験結果等を総合的に評価します。
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	必ず予習の段階で自分なりに訳してみる。必ず予習をして授業に出席すること。事前・事後に各60分の学修を要する。 また、辞書を持参すること。 ほぼ毎回単語テストを実施する。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室)
------------	---------------



科目名	メディアのスペイン語Ⅲ	科目名(英文)	Media Spanish III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	磯野 吉美

授業概要・目的  
 これまでに学んできたスペイン語知識を活用し、国内外の事柄を扱ったニュースに取り組みます。スペイン語で書かれた政治・経済・外交などを扱った文の聞き取りと翻訳を通じて、聞き取り能力と読解力の向上を図ります。

到達目標  
 国内外で話題になっている事柄に関する文を読むだけでなく、作成したり討論できるようになることを目指します。

授業方法と留意点  
 報道で使用されているスペイン語を聞き取り、翻訳する中で、時事スペイン語やメディア特有の表現について学びます。

科目学習の効果(資格)  
 スペイン語検定3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	授業で指示
	2	ニュース(1)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	3	ニュース(2)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	4	ニュース(3)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	5	ニュース(4)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	6	ニュース(5)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	7	ニュース(6)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	8	ニュース(7)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	9	ニュース(8)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	10	ニュース(9)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	11	ニュース(10)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	12	ニュース(11)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	13	ニュース(12)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	14	ニュース(13)	聞き取り、翻訳	新出語彙の整理
	15	まとめと復習	既習項目の復習と期末テスト	授業で指示

関連科目  
 メディアのスペイン語

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)  
 平常点(授業参加度)40%、臨時試験(期末)60%

学生へのメッセージ  
 授業への積極的な参加を望みます。国内外のニュースに敏感になってください。

担当者の研究室等  
 7号館2階(非常勤講師室)

備考  
 事前・事後学修の各1時間を要する。

科目名	メディア文化論	科目名(英文)	Media Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一

授業概要・目的	私たちの身の回りにはさまざまなメディアがあふれかえっています。みなさんはそうしたメディアをどれだけ理解し、使いこなせているでしょうか。この授業では、ワークショップを通じてさまざまなメディア技法を習得しつつ、これからの社会を生きていく上で求められるメディアリテラシーを涵養します。 (2015年度入学生には、メディアビジネスプログラム科目の一つです。)
到達目標	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 (1) メディアリテラシーが身につく (2) さまざまなメディアの特性について理解している (3) メディアを通じて情報を獲得したり発信したりするためのスキル(メディア技法)を身につけている
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。
2	メディアリテラシー	インターネットの登場により、私たちの生活は劇的に変化してきました。LineやFacebook、twitterといったSNSは私たちの人間関係にも大きな影響を及ぼしています。  私たちはこうした技術をどれだけ使いこなせているでしょうか。今回の授業では、情報社会にあつて必須の能力であるメディアリテラシーを涵養します。	授業中に指示します。
3	まわしよみ新聞を作る	インターネットの普及にともなう、活字文化の衰退が危惧されます。新聞の発行部数も年々減り続ける一方です。  今回の授業では、ワークショップにより「まわしよみ新聞」を作ります。そのなかで、新聞や活字文化について学修します。	まわしよみ新聞について調べておきましょう。  まわしよみ新聞を作るために、1週間以内の新聞を持ってきましょう。
4	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)がどのようなものなのか学修します。	授業中に指示します。
5	SNSを使いこなす	SNSの特性を理解したうえで、SNSを使って情報を獲得したり発信したりする技術を身につけます。	授業中に指示します。
6	チラシを作る——広告デザインの作法	インターネット、SNSの普及にともなう、新聞、雑誌など紙媒体のメディアが発行部数を減らす一方で、チラシやポスターは依然として身の回りにあふれています。  今回の授業では、ワークショップを通じてチラシを作ります。そのなかで、広告、デザインの作法について学修します。	あなたの好きなチラシを探して授業に持ってきましょう。
7	名刺を作る——自己をブランディングする	今回の授業では、ブランディングの基本について学修します。その上で、自分自身を効果的にアピールするための手段として、ワークショップにより名刺を作ります。	授業中に指示します。
8	中間のふり返り	前半の授業をふり返ります。不明な点があれば質疑応答により解決します。	授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
9	メディア文化史	メディア文化の歴史について学修します。	授業中に指示します。
10	映像を撮る——世界を切り取るということ	誰もが手軽に写真や動画を撮影できるようになりました。今回の授業では、動画の撮影を通じて、世界を切り取るということの意味について学修します。	授業中に指示します。
11	映像を編集する——切り取った世界を加工すること	動画を撮影することが世界を切り取ることであるとするならば、その編集は切り取った世界を加工することだと言えるでしょう。  今回の授業では、映像の編集を通じて、世界を加工することの意味について学修します。	授業中に指示します。

	12	映像制作論	今回の授業では、テレビ放送のドキュメンタリー番組がどのように作られるのかを確認しながら、映像制作の基本を学修します。	授業中に指示します。
	13	大衆文化と政治	テレビ、映画、アニメといったメディアは、これまで幾度となくプロパガンダとして政治的な宣伝に利用されてきました。 今回の授業では、映像資料を交えながら大衆文化と政治の関係について学修します。	授業中に指示します。
	14	メディアと権力	権力はしばしばメディアを利用します。メディアも権力におもねることが少なくありません。メディアと権力は、たいへん結びつきやすいものなのです。民主主義の社会にあって、私たちはこのことを十分に理解し、メディアと権力の両方を監視していく必要があります。 今回の授業では、メディアと権力の関係について学修します。	授業中に指示します。
	15	まとめ、全体のふり回り	これまでの授業をふり回りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。	これまでの授業で学修したことをしっかり復習して授業に参加しましょう。授業を受けたあとは改めて授業全体をふり回りながら期末試験に向けて準備をしましょう。
関連科目	メディアビジネスプログラム科目(2015年度入学生)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	この授業は、授業内課題(リフレクションシート)15%、ワークショップ30%、講義内容に関する課題調査10%、期末試験45%で評価します。			
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気での授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。			
担当者の 研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。  7号館2階 非常勤講師室  メールアドレス: xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)			
備考				

科目名	メディアリテラシー論	科目名(英文)	Media Literacy
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一

授業概要・目的	この科目は、メディアビジネスプログラム科目の中の1科目である。 現代社会においては、インターネットの発達に伴い、メディアからの情報の量も質も大きく様変わりしている。文字通り、情報の洪水の奔流の中で、嘘と真実を見分ける能力が必要とされている。また、ソーシャルメディアを通じて、自ら情報発信をする機会も格段に増えており、情報を読みとる力と発信する力の両方が必要とされているのである。 この講義では、メディアの社会的特性を理解し、適切な情報読解と発信をするために必要な知識とスキルを修得することを目標とする。
到達目標	新聞・テレビの情報が歪んでしまうメカニズムを理解する。 インターネットの情報の真偽を見抜くためのスキルを修得する。 インターネットでの発信を正しく行うための倫理とスキルを身につける。
授業方法と留意点	講義方式で行う。適宜、資料を配布・紹介する。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	新聞とニュースについて(1)	新聞と世論形成 新聞の中立性と「偏向」	新聞各紙のニュースの取り上げ方の違いについて調べる。
3	新聞とニュースについて(2)	日本の新聞の経営面における問題 新聞とインターネット 新聞のデジタル化とニュースサイト	ニュースサイトのまとめと新聞記事の違いについて調べる。
4	テレビについて(1)	テレビの映像の特性 番組編集 「やらせ」の問題	テレビの「やらせ」の事例について、さらに各自で調べてみる。
5	テレビについて(2)	NHKと民放 テレビの番組編成・広告における問題 ニュース番組における報道の問題	NHKと民放の違いについて考えてみる。
6	メディアと広告	広告・CMの影響力と価値 産業としてのメディアと広告	テレビCMが喚起するイメージについて、各自で調べてみる。
7	メディアと(権力)	新聞・テレビの権力との関わり メディアの支配者としての(資本)	授業内容をまとめる。
8	携帯電話とスマートフォンについて	携帯電話・スマートフォンの身体性 携帯電話・スマートフォンのコミュニケーションと社会性	携帯電話・スマートフォンの使い方を各自で反省する。
9	インターネット社会について	インターネット社会の過去 インターネット社会の現在 インターネット社会の今後のあり方	授業内容をまとめる。
10	インターネットと倫理	ネット社会とリアル社会の倫理のズレ インターネットとプライバシー 著作権の問題 匿名性の問題	ネット社会での倫理的逸脱について各自で調べる。
11	ソーシャルメディアについて(1)	コミュニケーション空間としてのSNS 電子掲示板の問題 ブログ、ホームページ ネット炎上の問題	電子掲示板やブログでの炎上の事例を調べる。
12	ソーシャルメディアについて(2)	まとめサイト フェイスブック ツイッター ソーシャルメディアと情報の商業的利用	フェイスブック、ツイッターについて、各自の利用法について報告する。
13	メディアリテラシー教育	イギリスのメディア教育 カナダのメディア教育 アメリカのメディア教育	授業内容をまとめる。
14	メディアとしてのテーマパーク	イメージの帝国としてのディズニーランド メディアの記号論的な解説	記号論的に読み解ける対象を各自で探して、実地調査をする。
15	まとめ		

関連科目	メディアビジネスプログラム科目
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生のためのメディアリテラシートレーニング	長谷川・村田(編著)	三省堂
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内のレポート・平常点(40%)と授業後のレポート課題(60%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の 研究室等	7号館4階
備考	事前事後学習 計60時間

科目名	ヨーロッパ史学	科目名(英文)	European History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子

授業概要・目的	ヨーロッパ世界を中心に世界の歴史をたどる。ヨーロッパ諸国は、「大航海時代」以来、アジアやアフリカ、アメリカ世界と密接なかかわりをもってきた。時代によってその「中心」(覇権国)は刻々と変化するものの、ヨーロッパ世界は今日にいたるまで、ある種の一体性を有しながら発展してきたといえる。常に世界史上の重大局面にかかわってきたヨーロッパを中心に、世界の歴史を読み解くことで、現代社会を歴史的観点からとらえかえす。
到達目標	ヨーロッパ、ひいては(日本を含めた)アジアの未来に関する明確なビジョンをもつために、古代、中世、近世、近代の歴史的特質を把握する。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、図像史料を活用しながら、板書をまじえて授業をすすめる。
科目学習の効果(資格)	ヨーロッパを中心とする世界の歴史への知見を深め、歴史的思考を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	古代エジプト(1)	ピラミッドの「謎」と宗教	ピラミッドについて予習しておく。
	2	古代エジプト(2)	ミイラ信仰にみる古代の死生観	古代エジプトにおける王権についてまとめる。
	3	中世ヨーロッパにおける魔女狩り(1)	魔女狩りの時代差・地域差	魔女狩りと聞いてイメージすることを文章にしておく。
	4	中世ヨーロッパにおける魔女狩り(2)	魔女裁判の社会的・宗教的意義	魔女裁判が中世社会においてもった意義についてまとめる。
	5	「大航海時代」～アジアへの道～	ヨーロッパとアジアの「出会い」	「大航海時代」の新航路の開拓を地図上にまとめる。
	6	フランス革命～何が革命的だったのか～	ヨーロッパ社会に与えた影響	フランス革命に関する年表を作成する。
	7	ウィーン体制	ヨーロッパ新秩序の形成	ウィーン会議がドイツやイタリアに与えた影響についてまとめる。
	8	イギリス産業革命(中間テスト)	世界初の産業革命はいかにしておこったのか	イギリス以外の産業革命について調べてくる。
	9	膨張するヨーロッパ(1)(中間テスト解説)	帝国の拡大とアジア	ヨーロッパの植民地開拓が中国や日本に与えた影響について調べる。
	10	膨張するヨーロッパ(2)	帝国の拡大とアフリカ・インド	ヨーロッパの植民地開拓を地図上にまとめる。
	11	第一次世界大戦	総力戦と銃後の社会	第一次世界大戦に関する年表を作る。
	12	ナチズムの台頭	戦争国家と人種主義	ナチズムの台頭がヨーロッパ社会に与えた影響についてまとめる。
	13	第二次世界大戦	二つの世界大戦と20世紀	第一次世界大戦と第二次世界大戦の共通点と相違点についてまとめる。
	14	一体化する世界	EUの誕生と拡大するヨーロッパ	EUが抱えている課題についてまとめる。
	15	総括	小テストの実施と解説	全授業内容を復習しておく。

関連科目	世界の歴史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	第15回目の授業で実施する小テスト(80%)、中間テストおよび提出物(20%)を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	歴史学とは、過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(林田研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。
----	------------------------

科目名	ヨーロッパ思想	科目名(英文)	European Thought
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	池田 清

授業概要・目的	ヨーロッパ思想は、現代日本の社会及び個人のあり方に関して大きな影響を与えてきた。とりわけ、私(自我)という存在の中心性を基本としてきた。しかし、私=自我とは、どういう存在なのか。私という存在は、他者という存在とどのように関係しているのか。これを問題とする。後半では、映画『Alien』を観る。これを通して、私=自我の分裂、及びテキスト(映画)の生産性について分析する。																																																																		
到達目標	他者関係のあり方に関して、問題意識を有することができる。																																																																		
授業方法と留意点	テキストは使用しない。板所はかなりの量になるので、ノートは必ず準備すること。																																																																		
科目学習の効果(資格)	日常生活の中で気づかないながらも、基盤としている思考パターンを驚きと共に発見できます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業展望</td> <td>授業の進め方、レポートの書き方など。</td> <td>—————</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ヨーロッパ近代の歴史像</td> <td>事実としての歴史と物語としての歴史</td> <td>シラバスの熟読</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>—————</td> <td>ルネッサンスと宗教改革</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ヨーロッパ近代の社会像</td> <td>科学・経済・政治の近代、市民革命</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>—————</td> <td>産業革命と資本主義社会の誕生</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ヨーロッパ近代の人間像</td> <td>人間観と排除の意識、制度化と正常と異常の区別</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>—————</td> <td>男性中心主義とフェミニズム、人間主義の驕慢</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>—————</td> <td>視覚の優位性</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ヨーロッパ近代の世界像</td> <td>デカルトの近代合理主義</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>—————</td> <td>イギリス経験論の合理主義</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>—————</td> <td>ニーチェとニヒリズムの誕生</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>—————</td> <td>民主主義の可能性</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>私=自我の分裂</td> <td>『Alien』鑑賞</td> <td>前回のノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>私=自我の分裂</td> <td>『Alien』鑑賞及び分析</td> <td>これまでのノートの見直し</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>試験対策</td> <td>試験問題答案の書き方</td> <td>—————</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	授業展望	授業の進め方、レポートの書き方など。	—————	2	ヨーロッパ近代の歴史像	事実としての歴史と物語としての歴史	シラバスの熟読	3	—————	ルネッサンスと宗教改革	前回のノートの見直し	4	ヨーロッパ近代の社会像	科学・経済・政治の近代、市民革命	前回のノートの見直し	5	—————	産業革命と資本主義社会の誕生	前回のノートの見直し	6	ヨーロッパ近代の人間像	人間観と排除の意識、制度化と正常と異常の区別	前回のノートの見直し	7	—————	男性中心主義とフェミニズム、人間主義の驕慢	前回のノートの見直し	8	—————	視覚の優位性	前回のノートの見直し	9	ヨーロッパ近代の世界像	デカルトの近代合理主義	前回のノートの見直し	10	—————	イギリス経験論の合理主義	前回のノートの見直し	11	—————	ニーチェとニヒリズムの誕生	前回のノートの見直し	12	—————	民主主義の可能性	前回のノートの見直し	13	私=自我の分裂	『Alien』鑑賞	前回のノートの見直し	14	私=自我の分裂	『Alien』鑑賞及び分析	これまでのノートの見直し	15	試験対策	試験問題答案の書き方	—————
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業展望	授業の進め方、レポートの書き方など。	—————																																																																
2	ヨーロッパ近代の歴史像	事実としての歴史と物語としての歴史	シラバスの熟読																																																																
3	—————	ルネッサンスと宗教改革	前回のノートの見直し																																																																
4	ヨーロッパ近代の社会像	科学・経済・政治の近代、市民革命	前回のノートの見直し																																																																
5	—————	産業革命と資本主義社会の誕生	前回のノートの見直し																																																																
6	ヨーロッパ近代の人間像	人間観と排除の意識、制度化と正常と異常の区別	前回のノートの見直し																																																																
7	—————	男性中心主義とフェミニズム、人間主義の驕慢	前回のノートの見直し																																																																
8	—————	視覚の優位性	前回のノートの見直し																																																																
9	ヨーロッパ近代の世界像	デカルトの近代合理主義	前回のノートの見直し																																																																
10	—————	イギリス経験論の合理主義	前回のノートの見直し																																																																
11	—————	ニーチェとニヒリズムの誕生	前回のノートの見直し																																																																
12	—————	民主主義の可能性	前回のノートの見直し																																																																
13	私=自我の分裂	『Alien』鑑賞	前回のノートの見直し																																																																
14	私=自我の分裂	『Alien』鑑賞及び分析	これまでのノートの見直し																																																																
15	試験対策	試験問題答案の書き方	—————																																																																
関連科目	思想系の科目。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業参加、レポート結果、定期試験結果から総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	板書の量はかなりなものになるから、必ずノートを作成すること。また、思想は、常に知らない内に働いている生きものですから、今自分の周りで何が起きているか、これを知るために新聞などに目を通しておいて下さい。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	ライティング a	科目名 (英文)	Writing a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介

授業概要・目的	本演習では、伝達手段としての英語を通して、基礎的な運用能力及びコミュニケーション能力の向上を図る。英文からパラグラフまで、英語の構造を理解しながら、様々なタイプの演習を繰り返すことで、正しく読みやすい英語で書くための基本、さらには論理的な思考力を身につける。教科書では、現実的かつ具体的な場面や相手が想定され、その中で実際に用いられるような英文が豊富に含まれている。また、Common Errorsとして、似たような表現や類義語の使い分けに関する説明や例文が多いのが特長的であり、実際の場面で適切な表現を選択するための訓練にふさわしい内容となっている。
到達目標	Writingにおいて、英語の構造の仕組みを理解し、より英語らしい発想や表現を身につけることで、英作文の基礎となる能力の醸成を目指す。それに関し、最低限必要とされる実用的な語彙の習得も目標とする。
授業方法と留意点	Writingの技能を養うため、日常生活やビジネスで使われる語彙を幅広く学んで、それを繰り返し定着させることで実用的な英語の知識を一層確実なものとする。 授業ではほぼ毎回、小テストを実施するので、必ず前回の授業の復習とテスト対策をすること。また必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	実際の場面で適切な語彙選択ができること。 語彙や文法、Writingの基礎力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の進め方や予習・復習の仕方、評価方法などについて説明を行う。また、教科書の内容について導入を行う。	
2	Unit 1: Making Friends at College	教科書演習	Unitの予習、及び文法や教科書内容の復習
3	Unit 2: My Frantic Day	文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
4	Unit 3: Time Is Not Money	文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
5	Unit 4: Tokyo Disney Resort	文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
6	Unit 5: Overseas Travel	文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
7	Unit 6: Sugar Blamed for Increased Obesity Worldwide	文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
8	Exam: Unit 1-6	Unit 1-6の内容についてテストの実施とその解説	Unit 1-6のテスト勉強、及びテスト内容の復習
9	Unit 7: Making the Perfect Cup of Coffee	教科書演習	Unitの予習、及び文法や教科書内容の復習
10	Unit 8: The Statue of Liberty	文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
11	Unit 9: Opinion	文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
12	Unit 10: English Language Newspapers	文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
13	Unit 11: Managing Stress	文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
14	Unit 12: Writing Personal and Business Letters	文法小テスト及び教科書演習	Unitの予習と小テスト対策、及び文法や教科書内容の復習
15	Exam: Unit 7-12	Unit 7-12の内容についてテストの実施とその解説	Unit 7-12のテスト勉強、及びテスト内容の復習

関連科目 ライティング b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Get It Write	Yasuhiro Ichikawa, Peter Serafin	金星堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	出席は毎回とり、4回以上欠席した場合は単位を認定しない。授業への参加や貢献、小テスト、まとめのテストなどから総合的に評価を行う。
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近なテーマに関する英文をじっくりと考え、書いていきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館 5F
備考	スチューデントアワー：月曜日5時限 事前・事後学習の総時間数はおよそ1.5時間である。



科目名	ライティングb	科目名(英文)	Writing b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー

授業概要・目的	Writing b provides detailed instruction in the skills necessary for producing effective college level sentences, paragraphs and short essays. 具体的な場面と相手を想定した英語の文章を書く練習を行う。パラグラフ・ライティングの力を養う。
到達目標	Students will be expected to write paying attention to the reduction of significant grammar errors and to increase their level of sophistication in vocabulary and ideas appropriate for educated writers of English.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果(資格)	...

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			Students should study the content of the day's lesson
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	
2	Who am I? Email Writing	Individual Task, Pair Work or Group Work: Organising an email about yourself. Connecting Sentences.	Students should study the content of the day's lesson. Free Writing 1
3	Email writing	Individual Task, Pair Work or Group Work: Adding more information. Peer and Self editing	Students should study the content of the day's lesson Free Writing 2
4	An important place	Individual Task, Pair Work or Group Work: Learning to write a paragraph	Students should study the content of the day's lesson Free Writing 3 Submit email assignment
5	An important place	Individual Task, Pair Work or Group Work: Linking Paragraphs	Students should study the content of the day's lesson Free Writing 4
6	An important place	Individual Task, Pair Work or Group Work: Combing Sentences Peer and Self editing	Students should study the content of the day's lesson Free Writing 5
7	Getting to know each other	Individual Task, Pair Work or Group Work: Brainstorming ideas Writing interview questions	Students should study the content of the day's lesson Free Writing 6 Submit assignment 2
8	Getting to know each other	Individual Task, Pair Work or Group Work: Partner Interview. Word Web creation	Students should study the content of the day's lesson Free Writing 7
9	Getting to know each other	Individual Task, Pair Work or Group Work: Essay Format. Write first draft of essay.	Students should study the content of the day's lesson Free Writing 8
10	Getting to know each other	Individual Task, Pair Work or Group Work: Peer and self editing	Students should study the content of the day's lesson Free Writing 9
11	Writing a narrative	Individual Task, Pair Work or Group Work: Writing Sentences with the simple past	Students should study the content of the day's lesson Free Writing 10 Submit Assignment 3
12	Writing a narrative	Individual Task, Pair Work or Group Work: Combing Sentences with "and, so, but, because"	Students should study the content of the day's lesson Free Writing 11
13	Writing a narrative	Individual Task, Pair Work or Group Work: Writing Direct Speech into the story. Using Transition Words.	Students should study the content of the day's lesson Free Writing 12
14	Writing a narrative	Individual Task, Pair Work or Group Work: Peer and self editing	Students should study the content of the day's lesson Free Writing 13
15	Review: The essay writing process	Individual Task, Pair Work or Group Work: Review Activity	Submit Assignment 4

関連科目	文法、スキルズ トレーニング、イングリッシュ プレゼンテーション
------	----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Materials will be provided by teacher		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Writing assignment tasks・・・60% Textbook exercises and weekly free writing journal・・・40%
学生への メッセージ	In order to pass this course, you must: <ul style="list-style-type: none"> <li>- attempt all assignments</li> <li>- show evidence of prewriting and editing for each assignment</li> <li>- obtain an average of at least 60% for your best three assignments</li> <li>- not be absent for more than four lessons.</li> </ul> <p>Please use lined, B5 looseleaf writing paper (in a slim binder) for all notes and assignments.</p> <p>N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details.</p>
担当者の 研究室等	Part-time faculty lounge, Bldg. 7, 2F
備考	

科目名	ラテンアメリカ史学	科目名(英文)	Latin American History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人

授業概要・目的	ラテンアメリカの歴史、なかでもメキシコの歴史を、コロンブスとの接触以前からスペインによる征服・植民地時代まで概観する。それ以降の時代については「現代ラテンアメリカ論」がカバーする。 高校の世界史ではマヤ・アステカ・インカとスペインによる征服、独立がエピソード的に取り上げられるにすぎない分野である。しかし、現在の強国・大国中心の歴史でなく、500年以上も搾取されてきた国々の歴史を知り、そこから世界史を見直す作業も、今日のグローバリゼーションを考える上で欠かせない。複眼的視点で現代を捉えることができるようになれば、と願っている。
到達目標	先スペイン期のメソアメリカ文明の豊かさをメソアメリカ考古学の進展とともに把握する。 「アメリカ発見」の世界史的意味を理解する。
授業方法と留意点	講義形式。要点を板書するよう心がけるが、それだけに頼らずノート作りをすること。事前・事後学習に各1時間を要する。
科目学習の効果(資格)	言葉の背景にある文化・歴史を知り、異文化理解の一歩となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	先住民文明(1):メソアメリカの誕生	先古典期(オルメカ)文明 メソアメリカの共通文化要素	教科書 第1章
3	先住民文明(2):古典期の中央高原	テオティワカン、トルテカ	配布プリント・ノートの整理
4	先住民文明(3):マヤ文明	先古典期マヤ 古典期マヤ(ティカル、パレンケ、チチェンイツァ、ウシュマル)	配布プリント・ノートの整理
5	先住民文明(4):マヤ文明	DVD	DVD レポート
6	先住民文明(5)	アステカ文明	配布プリント・ノートの整理
7	確認テスト	先スペイン期のメソアメリカ	
8	大航海時代(1):14~15世紀のヨーロッパとポルトガルの海外発展	地球は皿状? 地球は丸い? なぜポルトガルはほかの国々より先に海外へ進出できたのか	教科書の関連ページ 配布プリント・ノートの整理
9	大航海時代(2):コロンブスの航海とアメリゴ・ヴェスプッチの航海	コロンブスは何を「発見」したのか	教科書の関連ページ
10	先住民国家(アステカ、インカ)の征服	なぜ少数のスペイン人が先住民の大国を征服できたのか?	教科書の関連ページ
11	植民地時代(1):先住民とスペイン人	インディアス論争:先住民は人間か?	教科書の関連ページ
12	植民地時代(2):もう一つの征服・精神的征服(1)	世俗と教会:なぜスペイン王室はキリスト教を布教したのか? 修道会と教区教会	教科書の関連ページ
13	植民地時代(3):もう一つの征服・精神的征服(2)	伝道は成果をあげたか? 先住民はキリスト教にどのような反応を示したか?	教科書の関連ページ
14	植民地時代(4):植民地時代の先住民	先住民人口の激減、混血化の過程、労働制度の変遷	教科書の関連ページ
15	植民地時代(5):17世紀のメキシコ	不況の世紀? 植民地の午睡? 自律へ?	配布プリント・ノートの整理

関連科目 現代ラテンアメリカ論、スペインの社会と文化、ラテンアメリカの社会と文化

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	毎回の質問表+レポート(教科書を使った課題を何度か出す)+テスト(中間テストと理解度確認テスト)
学生へのメッセージ	歴史を見れば、ラテンアメリカの500年は苦難の連続でした。今日の日本は比べものにならないくらい豊かで、恵まれています。その苦しいはずのラティーンノのほうに底抜けに明るいのはなぜなのでしょう。
担当者の研究室等	7号館5階(篠原研究室)
備考	毎回、数枚のプリントを配布するので、専用のファイルを用意すること。

科目名	ラテンアメリカの社会と文化	科目名(英文)	Latin American Society and Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり

授業概要・目的	ラテンアメリカは、古来先住民の文化的伝統を有しながらも、15世紀末以降のヨーロッパによる征服と植民地支配を3世紀以上にわたって経験した地域です。その後19世紀初頭にアジアやアフリカ諸国に比べてより早く植民地支配からの独立を遂げたこの地域がたどった歴史的独自性を知るだけでなく、隣接する北米のアングロアメリカとの歴史的関係と今後の共存のゆくえや日本とのより深い関係構築可能性について展望できるようにすることをめざします。同時に、6つのサブ・リージョンに分け、視覚教材を適宜用いることで具体像を持てるよう、各回の授業テーマの中に織り込みます。 地理的に日本からは遠隔地に位置しているが、ラテンアメリカ諸国と日本との関係はますます緊密化しており、親日的な国々と人々のことをもっと知りましょう。なお、ラテンアメリカで最も広く使われている言語はスペイン語です。
到達目標	広大なラテンアメリカという地域は、北米大陸から南米大陸にかけて、カリブ海地域を含めた33ヶ国から構成されています。この地域を多角的な視野から学際的かつ総合的に学ぶことで、異文化理解を深める一助となります。
授業方法と留意点	教材と参考文献一覧は授業で配布します。 毎回、質問票を書き提出してもらい、次の授業で解説を行います。
科目学習の効果(資格)	日本ではあまり知られていないラテンアメリカという地域の持つ固有の文化に親しむことで、グローバル社会の中で複眼的思考のできる視点を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ラテンアメリカの地理(1)	地域名称の由来 域内諸国の名称と位置の学習	地域を構成する33ヶ国・13非独立領を地図上で確認する
2	ラテンアメリカの地理(2)	地域の歴史的概要 産業と特産品	基礎統計資料一覧を読み解く ラテンアメリカ原産作物と資源について調べる
3	ラテンアメリカの地理(3)	世界文化遺産を通して見る多民族・多文化社会	ラテンアメリカの世界遺産について調べる
4	ラテンアメリカの歴史(1)	先住民古代文明	マヤ、アステカ、インカ文明のいずれかについて調べる
5	ラテンアメリカの歴史(2)	征服と植民地支配	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
6	ラテンアメリカの歴史(3)	独立とその後の近代化と従属化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
7	ラテンアメリカの歴史(4)	20世紀の革命と民主化過程	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
8	ラテンアメリカの文化(1)	美術・音楽	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
9	ラテンアメリカの文化(2)	文学・映画	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
10	ラテンアメリカの文化(3)	食文化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
11	ラテンアメリカの社会	階層社会の構造、民族文化と国民社会	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
12	ラテンアメリカの政治経済	政治体制の変遷 ラテンアメリカ経済の歴史の変容、現状と課題、地域統合	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
13	現代世界の中のラテンアメリカ	国際政治・経済の中のラテンアメリカの位置づけ	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
14	ラテンアメリカと日本の関係	移住と日系社会、政治・外交関係におけるラテンアメリカと日本	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
15	総括	達成度確認テスト	総復習

関連科目 1年次前期に「スペイン語圏概論」を履修することを推奨します。

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	達成度確認テストまたはレポートにより総合的に評価する。
学生へのメッセージ	日本から遠く離れた地域ですが、不思議な魅力にあふれる混沌とした世界です。そこへと分け入ることで、自分自身のこれまでのものの見方を相対化するきっかけとなるでしょう。
担当者の研究室等	7号館5階(北條研究室)
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	ラテンアメリカ文学	科目名(英文)	Latin American Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梶原 三佳

授業概要・目的	ラテンアメリカの近現代史を辿りながら、各地域の代表的な作家たちを知り、その作品に検討を加える。
到達目標	文学作品の検討を通してラテンアメリカ諸国の歴史、社会、文化に関する知識を深める。併せて、ラテンアメリカ諸国の作家の作品を読むことにより、スペイン語の多様性を知るとともに、より実践的なスペイン語能力の取得を目指す。
授業方法と留意点	視聴覚教材を随時利用し、受講者に問いかけながら進める。なお、単元の順序が変わることがある。
科目学習の効果(資格)	スペイン語圏の歴史および言語文化について理解が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	ラテンアメリカ史の概説(先コロンブス期から19世紀末まで)	授業中に指示した文献等に目を通して、ラテンアメリカの地理的特徴および19世紀までの歴史の流れを確認する。
	2	モデルニスモ	ルベン・ダリオの詩とマヌエル・ウガルテの短編を読む。	授業中に指示した文献等に目を通して、モデルニスモの運動の歴史的背景を理解し、各作品の特徴を見直しておく。
	3	前衛主義	ピセンテ・ウイドプロ他、ラテンアメリカの前衛主義の詩人たちの作品を読む。	授業中に指示した文献等に目を通して、前衛主義の運動が起こる背景となった20世紀初頭のヨーロッパ情勢について理解する。
	4	チリの詩人たち	ガブリエル・ミストラルとパブロ・ネルーダの詩を読む。	授業中に指示した文献等に目を通して、チリの歴史の概要を確認し、それぞれの作品が書かれた歴史的背景を理解する。
	5	ラプラタ幻想文学	ホルヘ・ルイス・ボルヘスとフリオ・コルタサルの短編小説を読む。	授業中に指示した文献等に目を通して、アルゼンチンの地理的特徴や文学的伝統について理解する。
	6	魔術的リアリズム	ミゲル・アンヘル・アストゥリアスの『グアテマラ伝説集』と『大統領閣下』を読む。	授業中に指示した文献等に目を通して、マヤの神話や伝説がアストゥリアスの作品にどのような影響を及ぼしたのか検討する。
	7	メキシコ革命	フアン・ルルフォの『ペドロ・パラモ』とロサリオ・カステリャノスの『バルン・カナン』を読む。	授業中に指示した文献等に目を通して、革命前後のメキシコの歴史の概要を確認し、各作品が書かれた背景を理解する。
	8	学習内容の確認	第7回までに扱ったテーマについて、受講生が各自検討を行い、発表する。その後、学習内容の理解度を確認する小テストを行う。	発表に先立って各自扱うテーマを決定し、提示用資料や発表原稿を準備するとともに、第7回までの学習内容を見直しておく。
	9	キューバ革命と作家たち	アレホ・カルペンティエル、レイナルド・アレナス、セネル・パス他、キューバの作家の作品を読む。	授業中に指示した文献等に目を通して、革命に至るキューバの歴史を見直すとともに、キューバ革命がラテンアメリカの作家たちに及ぼした影響について検討する。
	10	ラテンアメリカ文学「ブーム」の作家たち(1)	カルロス・フエンテスの短編小説を読む。	授業中に指示した文献等に目を通して、フエンテスの作品群の主要テーマといえるメキシコの歴史の概要を確認する。
	11	ラテンアメリカ文学「ブーム」の作家たち(2)	ガブリエル・ガルシア・マルケスの小説と新聞記事を読む。	授業中に指示した文献等に目を通して、ジャーナリストとしての経験がマルケスの創作活動にどのような影響を及ぼしたのか検討する。
	12	ラテンアメリカ文学「ブーム」の作家たち(3)	マリオ・バルガス・リョサの小説を読む。	授業中に指示した文献等に目を通して、リョサの多くの作品の舞台となっているペルーの地理的特徴と20世紀以降の歴史の概要を確認する。
	13	「ブーム」以後の作家たち	イサベル・アジェンデとルイス・セプルベダの小説およびエッセイを読む。	授業中に指示した文献等に目を通して、アジェンデとセプルベダが亡命に至るまでのチリの歴史の概要を確認し、その後の両作家の作品テーマの変遷について検討する。
	14	ラテンアメリカの作家と映画	マヌエル・プイグとマルセロ・フィグラスの小説およびエッセイを読む。	授業中に指示した文献等に目を通して、映画製作や作品批評といった活動が作家たちの創作にどのような影響を及ぼしたのか検討する。
15	学習内容の確認	第15回までに扱ったテーマについて、受講生が各自検討を行い、発表する。その後、学習内容の理解度を確認する小テストを行う。	発表に先立って各自扱うテーマを決定し、提示用資料や発表原稿を準備するとともに、第9回～15回までの学習内容を見直しておく。	

関連科目	「文学」という語の入っている講義
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代ラテンアメリカ文学併走	安藤哲行	松籟社
	2	ラテンアメリカ十大小説	木村榮一	岩波新書
	3	ラテン・アメリカを知る事典	大貫良夫他	平凡社

評価方法(基準)	授業での発表および確認小テストの成績に基づいて評価する。
----------	------------------------------

学生への メッセージ	各回に必要なテキストを指示、あるいはプリントを配布します。必ず読んで授業に参加すること。事前・事後学修に各1時間を要する。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師控室）
備考	毎回配布するプリントはその回限りで、後日、配布することはない。

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度が多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検
-------------	-----------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading for Speed and Fluency 1 (特注品)	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等)の成績を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 松田研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	瀧川 宏樹

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading for Speed and Fluency 1 (特注品)	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2	英語で学ぶ日本三選	Toshiyuki Sakabe / Noriaki Okajima / William Noel	南雲堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等)の成績を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--



科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホへ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度が多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading for Speed and Fluency 1 (特注品)	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2	Learn the Differences, Broaden Your World!	Nobumichi Kawada	Asahi Press
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等)の成績を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	授業ではマナーを守り、積極的かつ集中して参加してもらいたい。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	7号館4階 住吉研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	トチ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	住吉 誠

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading for Speed and Fluency 1 (特注品)	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
	2	プリントを使用する		
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等)の成績を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	リーディングはすべての英語力の基礎を作ります。しっかりやってください。
-----------	-------------------------------------

担当者の研究室等	7号館4階 住吉 誠 研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	リヌ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading for Speed and Fluency 1 (特注品)	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2	Let's Enjoy SF Short-Shorts 超短編SFで楽しく学ぶ読解・英作文	Takako Takamoto / Hiroshi Ikezono	開文社出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等)の成績を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中野 阿佐子

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading for Speed and Fluency 1 (特注品)	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2	Say It Right in English—ネイティブが気になる日本人の英語—	Mark Thompson and Toshihiro Tanioka	英宝社
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等)の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。根気よく辞書を引き、暗号を解読するつもりで、英文に取り組んでください。授業への積極的な参加を期待します。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	A B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉 誠

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J [A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib、ボキャブラリー&グラマー b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading for Speed and Fluency 1 (特注品)	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2	プリントを使用する			
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等)の成績を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	リーディングはすべての英語力の土台を作ります。しっかりやってください。英プロ学生はいろいろと勉強をすることも多いですが、多読も時間を見つけて取り組みましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階 住吉 誠 研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	瀧川 宏樹

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J [A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib、ボキャブラリー&グラマー b
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading for Speed and Fluency 1 (特注品)	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2	Discoveries & Findings	Patricia Ackert / Linda Lee 著、 竹内理 / 池田真生子 / 山中由香 / 近藤睦美 編著	松柏社
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等)の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J [A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度が多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib、ボキャブラリー&グラマー b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading for Speed and Fluency 1 (特注品)	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等)の成績を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 松田研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J [A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度が多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib、ボキャブラリー&グラマー b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading for Speed and Fluency 1 (特注品)	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
	2	Simply Shakespeare	Jim Knudsen, Takao Taguchi	南雲堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等)の成績を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--



科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中野 阿佐子

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J [A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib、ボキャブラリー&グラマー b
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading for Speed and Fluency 1 (特注品)	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2	Say It Right in English—ネイティブが気になる日本人の英語—	Mark Thompson and Toshihiro Tanioka	英宝社
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等)の成績を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J [A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib、ボキャブラリー&グラマー b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading for Speed and Fluency 1 (特注品)	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2	Life across the Waves	William A. O'Donnell 芝垣 哲夫	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等)の成績を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	授業ではマナーを守り、積極的かつ集中して参加してもらいたい。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩橋 一樹

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J [A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and Self-Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual Task, Pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib、ボキャブラリー&グラマー b
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Reading for Speed and Fluency 1 (特注品)	Paul Nation and Casey Malarcher	Compass Publishing
2	Eye on America Selected	小林敏彦、Shawn M. Clankie	三修社
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等)の成績を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	<p>英語の力は学習時間に比例して伸びてゆきます。根気よく辞書を引き、暗号を解読するつもりで、英文に取り組んでください。授業への積極的な参加を期待します。</p> <p>毎回の授業に必ず出席し、授業内容を予習・復習すること。          具体的には、長い文章など和訳しにくい箇所は一度文の構造(S, V, O, Cやthat節の始まりと終わり、関係節や先行詞など)を自分で確認して、自分で訳してみることに。          多読は成績評価の対象となるので毎回の授業前に図書館で多読用の本を借りてきて、それを授業に持ってくることに。          授業中に多読をしてもらいます。</p> <p>特に、教科書にある問題を事前に解いて、わからない単語の意味を調べておくことが望ましい。          TOEICを受験することを勧める。特に、繰り返し受験して出題形式に慣れるのが望ましい。</p>
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	リーディングⅡ a	科目名(英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木村 ゆみ

授業概要・目的	リーディングⅡでは、リーディングⅠより語彙数も多く、文章構造もやや複雑な英文を読む。ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成するとともに、速読や多読を通してパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	基本的な語彙だけでなく、多少高度な語彙や表現、構文などを含んだ英文の内容を正確に読み取る力を養う。状況に応じて、大意をつかんだり、精読して情報を理解したりできるようになる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
3	Exercises	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
4	Exercises	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
5	Exercises	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
6	Exercises	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
7	Exercises	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
8	Exercises	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
9	Exercises	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
10	Exercises	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
11	Exercises	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
12	Exercises	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
13	Exercises	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
14	Exercises	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
15	Review	Review of the lessons, Preparation for the final exam	Students should prepare for the final exam. (1h)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What Really Happened?	Frank Bailey, Miyo Notomi	開文社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	臨時試験の合計、提出物、宿題等 60% 授業参加、アクティビティー等 30% 授業外読書点 10%
----------	---

学生へのメッセージ	授業以外でもたくさん英文に触れ、リーディングを楽しみ、リーディング力を伸ばして行きましょう。授業は出席するだけでなく、積極的に参加してください。授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用などは即減点となります。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	事前・事後学習の総時間はおよそ15時間とする。
----	-------------------------

科目名	リーディングII a	科目名(英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子

授業概要・目的  
英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。

到達目標  
CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。

授業方法と留意点  
英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果(資格)  
TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目  
リーディングII b, スピーキング&ライティングII a, メディアイングリッシュ a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CNN Student News (4)	関戸冬彦 小暮正人 Jake Arnold Ken Ikeda 長和重	Asahi Press
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)  
平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等、単語学習課題)の成績を総合的に評価する。

学生へのメッセージ  
授業ではマナーを守り、積極的に、かつ集中して参加してもらいたい。

担当者の研究室等  
7号館2階 非常勤講師室

備考  
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	リーディングII a	科目名(英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ショーン マクガバン

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	リーディングII b, スピーキング&ライティングII a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prints and teacher-prepared materials		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等、単語学習課題)の成績を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	リーディングII a	科目名 (英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェン パーマンター

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	リーディングII b, スピーキング&ライティングII a, メディアイングリッシュ a
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Read This Intro	Daphne Mackey	Cambridge
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Students will use graded readers from the library.	Various	Oxford
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等、単語学習課題)の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	クラス内においては出来る限り英語を話すように努力して下さい。話していると口から英語が出てくるようになります。そしてミスを恐れず、わからないと言うことを恥ずかしがらずにどんどんと質問して下さい。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	リーディングII a	科目名(英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	リーディングII b, スピーキング&ライティングII a, メディアイングリッシュ a
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名	
				ISBN
1	Reading Pass (Intro)	Andrew E. Bennett	NAN' UN-DO	978-4-523-17720-3
2				
3				

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等、単語学習課題)の成績を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--



科目名	リーディングⅡb	科目名(英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木村 ゆみ

授業概要・目的	リーディングⅡでは、リーディングⅠより語彙数も多く、文章構造もやや複雑な英文を読む。ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成するとともに、速読や多読を通してパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	基本的な語彙だけでなく、多少高度な語彙や表現、構文などを含んだ英文の内容を正確に読み取る力を養う。状況に応じて、大意をつかんだり、精読して情報を理解したりできるようにする。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果(資格)	The objective of this class is for students to improve their reading comprehension, as well as to increase their vocabulary.

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit 8 Reading	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
3	Unit 8: Grammar	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
4	Unit 9: Reading	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
5	Unit 9: Grammar	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
6	Unit 10: Reading	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
7	Unit 10: Grammar	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
8	Unit 11 Reading	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
9	Unit 11: Grammar	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
10	Unit 12: Reading	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
11	Unit 12: Grammar	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
12	Unit 13: Reading	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
13	Unit 13: Grammar	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
14	Unit 14: Reading	Grammar understanding, Passage reading, Vocabulary reinforcement	Students should review the day's lesson and prepare for the next lesson. (1h)
15	Unit 14: Grammar, Review	Review of the lessons, Preparation for the final exam	Students should prepare for the final exam.

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What Really Happened?	Frank Baily, Miyo Notomi	開文社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	臨時試験の合計、提出物、宿題等 60% 授業参加、アクティビティー等 30% 授業外読書点 10%
----------	---

学生へのメッセージ	前期より、レベルアップした英文をさらに多く読んで、リーディング力をつけましょう。 授業は出席するだけでなく、積極的に参加してください。 授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用などは即減点とします。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	授業の事前・事後の学習の総時間はおおよそ15時間である。
----	------------------------------

科目名	リーディングII b	科目名(英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スピーキング&ライティングII b, メディアイングリッシュ b
------	----------------------------------

番号	書籍名	著者名		出版社名
1	CNN Student News (4)	関戸冬彦	小暮正人	Asahi Press
2		Arnold	Ken Ikeda	
3			長和重	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等、単語学習課題)の成績を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	授業ではマナーを守り、積極的に、かつ集中して参加してもらいたい。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	リーディングII b	科目名(英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ショーン マクガバン

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スピーキング&ライティングII b, メディアイングリッシュ b
------	----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prints and teacher-prepared materials		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等、単語学習課題)の成績を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	リーディングII b	科目名(英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェンパーマン

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スピーキング&ライティングII b, メディアイングリッシュ b
------	----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Read This Intro	Daphne Mackey	Cambridge
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers	Various	Oxford
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等、単語学習課題)の成績を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	クラス内においては出来る限り英語を話すように努力して下さい。話していると口から英語が出てくるようになります。そしてミスを恐れず、わからないと言うことを恥ずかしがらずにどんどんと質問して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	リーディングII b	科目名(英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Introduction	Students should study the content of the day's lesson
2	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
3	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
4	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
5	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
6	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
7	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
8	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
9	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
10	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
11	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
12	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
13	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
14	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson
15	Exercises	Individual work, pair work, group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スピーキング&ライティングII b, メディアイングリッシュ b
------	----------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名	
				ISBN
1	Reading Pass (Intro)	Andrew E. Bennett	NAN' UN-DO	978-4-523-17720-3
2				
3				

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、多読活動等、単語学習課題)の成績を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	--

科目名	旅行インドネシア・マレー語	科目名(英文)	Indonesian-Malay for Travel
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子

授業概要・目的	インドネシアやマレーシアへ実際に旅行に出かけることを想定し、さまざまな状況に応じた実践的なインドネシア語およびマレー語会話表現を学ぶことを目的とするが、今年度は旅先をスラバヤと設定した。 後半では、インドネシアから日本を訪れた観光客、もしくは知人との会話を取り上げる。
到達目標	1. 交通機関を利用する際、緊急時、買い物時などの会話表現がスムーズにできるようになること。 2. 訪問先の歴史や芸能などの予備知識をある程度得ておくと、旅がもっと豊かな体験となることを学ぶ。 3. 日本を訪れるインドネシアからの観光客や友人との会話内容が豊かになること。
授業方法と留意点	1. テキストはテーマに応じたプリントを配布する。 2. 毎回辞書を携帯すること。 3. 随時、小レポートを課す。 4. 随時、映像も使用する。 5. 主にインドネシア語での表現を学ぶことにするが、必要があればマレー語での表現についても補足したい。 6. 随時、参考書籍や参考文献を紹介する。
科目学習の効果(資格)	『インドネシア語技能検定』に役立つ

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	プロローグ	授業の進め方や留意点、評価基準について説明を行なう。	_____
2	基本的な表現	旅行にも使える基本的な日常表現について、1年次で学んだことの復習も兼ねつつ習得する。	学習項目の予習・復習
3	空港での表現(飛行機の搭乗など)	飛行機内をはじめイミグレーションや税関、両替所等での表現を習得する。	学習項目の予習・復習
4	交通機関を利用する	タクシーやバスをはじめ、さまざまな交通機関を利用する際の表現を習得する。	学習項目の予習・復習
5	スラバヤの地理・歴史	インドネシア語で記述された案内書を講読し、スラバヤおよびスラバヤ周辺の地理と歴史を予習する。	学習項目の予習・復習
6	スラバヤからの芸能 1	インドネシアのみならず世界的に伝説的存在として称賛されるガールズ・ロック・バンド Dara Puspita はスラバヤの出身である。Dara Puspita に関するインドネシア語文献を講読する。(映像も紹介する)	学習項目の予習・復習
7	スラバヤからの芸能 2	インドネシア各州と同様に、東ジャワ州の州都スラバヤにもアート・センターが存在する。スラバヤのアートセンターの名称となった Cak Durasim に関するインドネシア語文献を講読する。(芸能 Ludruk の映像も紹介する)	学習項目の予習・復習
8	1. 中間テスト 2. 関西弁の日常会話表現と、インドネシア語の会話表現の違い	1. これまでに学習したことの再確認を行う。 2. 陥りがちなミスを改める。	これまでに学んだことの整理と復習
9	宿泊施設を利用する	インドネシアにはホテルほかに、losmen という形態の宿泊施設がある。双方の宿泊施設でチェックインからチェックアウトまで過ごす際の会話表現を習得する。	学習項目の予習・復習
10	レストラン、飲食店、屋台にて	さまざまな形態の飲食店を利用する際の会話表現を習得する。	学習項目の予習・復習
11	観光をする。 買い物をする。	観光地を巡る際や訪れた時の会話表現とマナーを習得する。 買い物をする際の表現を習得する。	学習項目の予習・復習
12	病気に罹ったときやトラブルに巻き込まれたときの表現	どのようなトラブルに遭遇し、どのような病気に罹り、どのような怪我を負う可能性があるかを想像してみる。そのうえで必要とされる会話表現を習得する。	学習項目の予習・復習
13	大阪・京都・奈良の観光地 1	インドネシアから日本を訪れた同年代の観光客を、受講者が案内することと設定し、会話表現を考える。	学習項目の予習・復習
14	大阪・京都・奈良の観光地 2	インドネシアから日本を訪れた同年代の観光客を、受講者が案内することと設定し、会話表現を考える。	学習項目の予習・復習
15	1. 理解度確認テスト 2. 陥りがちなミスを改める	これまでに習得した表現を再確認する。 陥りがちなミスの原因について考え、改める。	今までに学習したことの整理と復習

関連科目: インドネシア語・マレー語関係科目、東南アジア関係の講義科目、文化人類学。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>ホームワークと授業での発表(25%)          小レポート(25%)          中間テストと理解度確認テスト(50%)          詳細は、第1回目の授業で伝える。</p>			
学生への メッセージ	<p>旅先では会話を交わす機会が増えますが、その時に自己紹介だけではなく、「スラバヤにはこんな芸能があるそうですね」「インドネシアには○○という美味しい食べ物があるそうですね」と一言添えるだけでも、インドネシアの人びとと交わす会話内容が豊かになります。それは旅の楽しみの1つとも言えるでしょう。          また、インドネシアから日本を訪れた人びとと交わす会話内容も豊かになります。          この授業では自分が観光客になった時の会話表現と、インドネシアから日本を訪れた観光客と交わす会話を想定し、インドネシア語の表現能力と理解力を高めます。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	<p>1. 事前に調べる等、予習をおこなうこと。          2. 授業時間外での質問や要望は、毎週木曜と金曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。</p>			

科目名	旅行インドネシア語	科目名(英文)	Indonesian for Travel
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子

授業概要・目的	インドネシアやマレーシアへ実際に旅行に出かけることを想定し、さまざまな状況に応じた実践的なインドネシア語およびマレー語会話表現を学ぶことを目的とするが、今年度は旅先をスラバヤと設定した。 後半では、インドネシアから日本を訪れた観光客、もしくは知人との会話を取り上げる。
到達目標	1. 交通機関を利用する際、緊急時、買い物時などの会話表現がスムーズにできるようになること。 2. 訪問先の歴史や芸能などの予備知識をある程度得ておくと、旅がもっと豊かな体験となることを学ぶ。 3. 日本を訪れるインドネシアからの観光客や友人との会話内容が豊かになること。
授業方法と留意点	1. テキストはテーマに応じたプリントを配布する。 2. 毎回辞書を携帯すること。 3. 随時、小レポートを課す。 4. 随時、映像も使用する。 5. 主にインドネシア語での表現を学ぶことにするが、必要があればマレー語での表現についても補足したい。 6. 随時、参考書籍や参考文献を紹介する。
科目学習の効果(資格)	『インドネシア語技能検定』に役立つ

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	プロローグ	授業の進め方や留意点、評価基準について説明を行なう。	_____
2	基本的な表現	旅行にも使える基本的な日常表現について、1年次で学んだことの復習も兼ねつつ習得する。	学習項目の予習・復習
3	空港での表現(飛行機の搭乗など)	飛行機内をはじめイミグレーションや税関、両替所等での表現を習得する。	学習項目の予習・復習
4	交通機関を利用する	タクシーやバスをはじめ、さまざまな交通機関を利用する際の表現を習得する。	学習項目の予習・復習
5	スラバヤの地理・歴史	インドネシア語で記述された案内書を講読し、スラバヤおよびスラバヤ周辺の地理と歴史を予習する。	学習項目の予習・復習
6	スラバヤからの芸能 1	インドネシアのみならず世界的に伝説的存在として称賛されるガールズ・ロック・バンド Dara Puspita はスラバヤの出身である。Dara Puspita に関するインドネシア語文献を講読する。(映像も紹介する)	学習項目の予習・復習
7	スラバヤからの芸能 2	インドネシア各州と同様に、東ジャワ州の州都スラバヤにもアート・センターが存在する。スラバヤのアートセンターの名称となった Cak Durasim に関するインドネシア語文献を講読する。(芸能 Ludruk の映像も紹介する)	学習項目の予習・復習
8	1. 中間テスト 2. 関西弁の日常会話表現と、インドネシア語の会話表現の違い	1. これまでに学習したことの再確認を行う。 2. 陥りがちなミスを改める。	これまでに学んだことの整理と復習
9	宿泊施設を利用する	インドネシアにはホテルほかに、losmen という形態の宿泊施設がある。双方の宿泊施設でチェックインからチェックアウトまで過ごす際の会話表現を習得する。	学習項目の予習・復習
10	レストラン、飲食店、屋台にて	さまざまな形態の飲食店を利用する際の会話表現を習得する。	学習項目の予習・復習
11	観光をする。 買い物をする。	観光地を巡る際や訪れた時の会話表現とマナーを習得する。 買い物をする際の表現を習得する。	学習項目の予習・復習
12	病気に罹ったときやトラブルに巻き込まれたときの表現	どのようなトラブルに遭遇し、どのような病気に罹り、どのような怪我を負う可能性があるかを想像してみる。そのうえで必要とされる会話表現を習得する。	学習項目の予習・復習
13	大阪・京都・奈良の観光地 1	インドネシアから日本を訪れた同年代の観光客を、受講者が案内することと設定し、会話表現を考える。	学習項目の予習・復習
14	大阪・京都・奈良の観光地 2	インドネシアから日本を訪れた同年代の観光客を、受講者が案内することと設定し、会話表現を考える。	学習項目の予習・復習
15	1. 理解度確認テスト 2. 陥りがちなミスを改める	これまでに習得した表現を再確認する。 陥りがちなミスの原因について考え、改める。	今までに学習したことの整理と復習

関連科目: インドネシア語・マレー語関係科目、東南アジア関係の講義科目、文化人類学。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			



参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>ホームワークと授業での発表(25%)          小レポート(25%)          中間テストと理解度確認テスト(50%)          詳細は、第1回目の授業で伝える。</p>			
学生への メッセージ	<p>旅先では会話を交わす機会が増えますが、その時に自己紹介だけではなく、「スラバヤにはこんな芸能があるそうですね」「インドネシアには○○という美味しい食べ物があるそうですね」と一言添えるだけでも、インドネシアの人びとと交わす会話内容が豊かになります。それは旅の楽しみの1つとも言えるでしょう。          また、インドネシアから日本を訪れた人びとと交わす会話内容も豊かになります。          この授業では自分が観光客になった時の会話表現と、インドネシアから日本を訪れた観光客と交わす会話を想定し、インドネシア語の表現能力と理解力を高めます。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	<p>1. 事前に調べる等、予習をおこなうこと。          2. 授業時間外での質問や要望は、毎週木曜と金曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。</p>			

科目名	ロマンス語研究 I	科目名 (英文)	Romance Languages I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柱本 元彦

授業概要・目的	イタリア語の入門。まったくのゼロからはじめる。イタリア語の全体像をイメージすることができるようになり、もっとも基本的な文法事項と表現を身につける。
到達目標	会話に必要なレベルのイタリア語文法を理解し、基本的な表現を身につける。
授業方法と留意点	スペイン語の知識も活用させながら教科書にしたがって進む。できれば AV 教材も利用したい。重要事項は授業中に理解するだけでなく記憶すること。
科目学習の効果 (資格)	イタリア語とスペイン語の類似点と相違点が分りはじめる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクションと発音	イタリアとイタリア語の紹介	イタリア語とスペイン語の違い。教科書第一章
	2	発音	注意すべきイタリア語の発音	教科書第二章
	3	さまざまな会話表現	よく用いられるフレーズ	教科書第三章
	4	名詞・形容詞・冠詞	動詞以前の文法	教科書第四章
	5	名詞・形容詞・冠詞	動詞以前の文法その2	教科書第四章
	6	are 動詞	一般動詞の基本形	教科書第五章
	7	are, ere, ire 動詞	一般動詞	教科書第五章
	8	are, ere, ire 動詞	一般動詞全般、その応用	教科書第五章
	9	essere と avere	基本の動詞	教科書第五章
	10	再帰動詞	再帰動詞の用法	教科書第五章
	11	近過去	過去の表現と過去分詞	教科書第六章
	12	半過去	イタリア語とスペイン語の過去表現の比較	教科書第六章
	13	ふたつの過去	近過去と半過去の用法	教科書第六章
	14	大過去と遠過去	過去時制のまとめ	教科書第六章
	15	まとめ	これまで学習した事柄ををまとめ、それをイタリア語文法全体のなかに位置づける	教科書第一章から第六章

関連科目	スペイン語
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめてのイタリア語	郡史郎	講談社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	最後の授業内で臨時試験・質疑応答をおこなう。また毎回の授業参加度も考慮する。
学生へのメッセージ	最低限記憶すべきことを授業中に練習して記憶しましょう。それができれば宿題はなし。できなければ次回までの宿題になります。
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	ロマンス語研究Ⅱ	科目名(英文)	Romance Languages II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柱本 元彦

授業概要・目的	ロマンス語研究Ⅰのつづき。辞書さえあれば自分の力で読むことができるまで、イタリア語の初級文法をひととおり学習する。ビデオ教材を多く利用する。
到達目標	言葉の運用、さまざまな表現を学ぶ。
授業方法と留意点	ロマンス語研究Ⅰの学習事項を習得していることが前提になる。AV教材を利用し、実際的な文章も読んでいきたい。
科目学習の効果(資格)	スペイン語の知識を活用してイタリア語がそれなりに理解できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習	とりわけ補語人称代名詞と補助動詞	プリント配布
	2	過去分詞	過去分詞の形と用法	プリント配布
	3	近過去	近過去の形と用法	プリント配布
	4	近過去と半過去	半過去の形と近過去・半過去の相違	プリント配布
	5	近過去と半過去	半過去と近過去の用法	プリント配布
	6	未来	単純未来の形と用法	プリント配布
	7	命令法	命令法の形と用法	プリント配布
	8	構文	関係詞と比較文	プリント配布
	9	構文	ジェルンディオなど	プリント配布
	10	時制	大過去、時制の一致	プリント配布
	11	仮定文	条件法の形と用法、接続法の説明	プリント配布
	12	接続法	接続法の形と用法	プリント配布
	13	構文	受動態・非人称構文	プリント配布
	14	遠過去	遠過去の形と用法	プリント配布
	15	総復習	イタリア語とスペイン語の比較	プリント配布

関連科目	スペイン語
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	最後の授業内で臨時試験・質疑応答をおこなう。また授業参加度も考慮する。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	スペイン語の力がずいぶん役に立ちます。
-----------	---------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前・事後学修の各1時間を要する。
----	-------------------

